月刊 裏モノジャパン 5月号別冊
2008年5月1日発行(毎月1回1日発行)
第11巻 第9号 1999年1月11日
第三種郵便物認可

TETSUJINSYA

# 実録 サイコ恐怖画像



幽霊よりも人が怖い……

お祓い済み

自殺した少女がその直前に撮影した自画像、平気で他人を殺す人々、非道な暴力を受けた被害者、怨念のこもった壁面の落書き、殺人鬼が残した絵画……世界では、人間が日々恐怖の瞬間を演じ、それらはときにビデオやカメラにより記録されている。本書は、そんな現実に起きた恐怖のシーンを「サイコ恐怖画像」と呼び、ネットの動画サイトや掲示板に流れた画像や、読者から投稿されたビデオなどを中心にまとめたものだ。目を覆いたくなる衝撃の瞬間から、ジワジワと肌にまとわりつくような恐怖まで、どの映像もすべて実録。幽霊やオカルトではない、真の恐怖をお届けしよう。

¥500





心を病んだ画家が病気が進行していく中で描いた絵、飛び降り自殺をした4人の少女が撮影したビデオ、人肉入りの肉まんを売った男、廃墟スポットに残された怨念の落書き、夫を殺しておきながら平然とインタビューに答える妻、本物の眼球を使った人形、5つの人格を持つ女、ニュースの生放送中に自殺した男、両目をえぐられ強姦された少女、殺人鬼の描いた絵、少年を殺した男が作った拷問専用器具、妻殺しを予告した夫のサイト、監視カメラに映ったドイツの刺殺魔、悪魔の妄想に取り憑かれた少女、夫を煮込んで子供に食べさせた妻、ストーカーからの脅迫メール、バービー人形の解体動画、人肉食いの殺人鬼が住んだ家、廃屋に呼び出した彼女の前で首を吊った男、いつも同じ時間に玄関前に現れる女、2日間ベッドの下に隠れ続けたストーカー、ラブホテルに住んでいた女、廃墟で殺人犯と遭遇してしまった女性、ドラッグを10年続けた女性の末路、焼け死んだ僧侶、

# 実録サイコ恐怖画像

自殺した少女がその直前に撮影した自画像、平気で他人を殺す人々、非道な暴力を受けた被害者、怨念のこもった壁面の落書き、殺人鬼が残した絵画……。

世界では、人間が日々恐怖の瞬間を演じ、それらはときにビデオやカメラにより記録されている。

本書は、そんな現実に起きた恐怖のシーンを「サイコ恐怖画像」と呼び、ネットの動画サイトや掲示板に流れた画像や、読者から投稿されたビデオなどを中心にまとめたものだ。

目を覆いたくなるような衝撃の瞬間から、ジワジワと肌にまとわりつくような恐怖まで、どの映像もすべて実録。幽霊やオカルトではない、真の恐怖をお届けしよう。

実録サイコ恐怖画像

# 第一章

# 心の闇

# 姉さんの壁




茨城県つくば市に建つ某マンションの壁に描かれた、巨大な落書きである。

その全長はおよそ6メートル。「姉さん」と大きくラッカーで描かれている以外は、誰が何の目的でやったものかはサッパリわかっていない。

あまりの不可解さに、近隣住人の間では、次のような都市伝説が生まれた。

かつて、このマンションの反対側に道路をはさんで、ファミリーレストランがあった。ある日、そのファミリーレストラン前に立っていた子供が、道路の反対側に立っていた姉の存在に気付き、路上へ飛び出してしまう。そこへ、一台の車が…。

その際、子供が最後に叫んだ『姉さん』という言葉が、壁に浮き上がったというわけだ。中には、この壁の文字は、何度ぬりつぶしても浮かび上がってくるとするものもある。

ちなみに、この落書き、現在はマンションの管理会社が壁面をぬりつぶしてしまったため、見ることは不可能になっている。

# 19才の女性が自殺前に撮ったポートレート



画像の女性は19才。普通の女の子だったが、ある日、彼氏に別れを告げられてしまう。すがる彼女に男は言った。

「いちばん綺麗な写真をくれ。おまえを忘れたくないんだ」

直後、彼女は自宅の屋上でこの写真を撮り、彼氏にメールで送った後で身を投げた。事件を知った彼氏も、写真を見た直後に気が触れ、同じ場所から飛び降りたという。

# 12年間のすべての犯罪




新宿のとある公衆女子便所の壁に描かれた落書きである。内容はおよそ次の通り。「12年間のすべての犯罪、えいが、警察、政治家、出あい、テレビ、病院 外ムショウ、すべてのつながり、本、厚生ショウ、市民、etc、世界、Byeカラ、インターネット、陰ぼう、犯罪、Bye、戦争、もうひとり、ケータイ、さわぎ、団たい、ワールド、うらぎり、うわさ、企業、金、人間関係、-完-」

**お詫びと訂正**

**2008年3月29日発売の本書・第1刷、当ページに掲載されていました画像は、ご本人の承諾を得ずに無断で、しかも事実無根の解説を付けて掲載したものです。**

**このことによりまして、掲載されたご本人の名誉を著しく傷つけ、また多大なるご迷惑をお掛けしましたことを、謹んで深くお詫び申し上げます。**

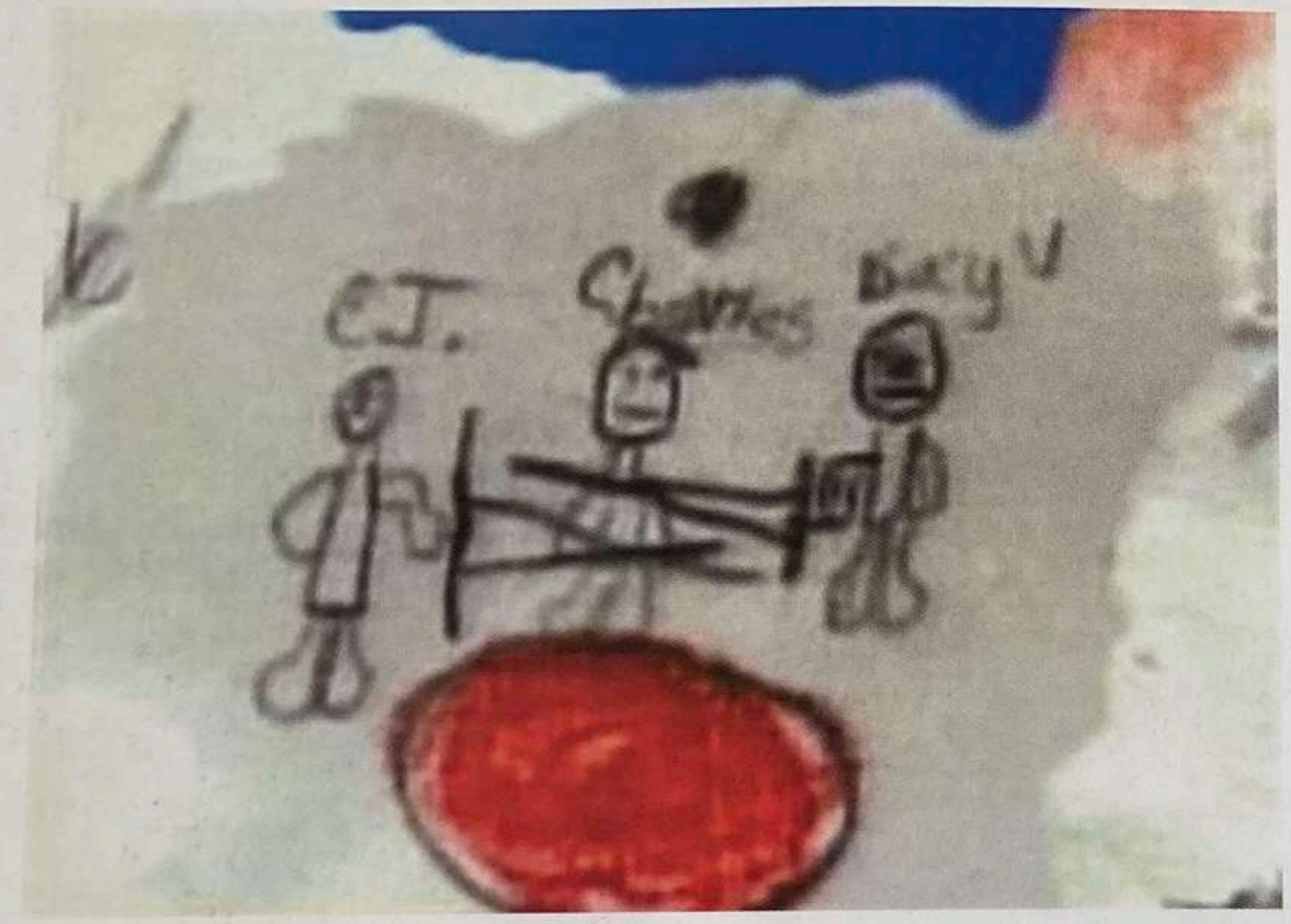
**また、この第2刷、当ページの記事は、まったく別の内容を掲載しております。**

**株式会社 鉄人社**





# 同級生の殺害を予告した少年の絵







◀事件は、全米のメディアで大きく報道された。

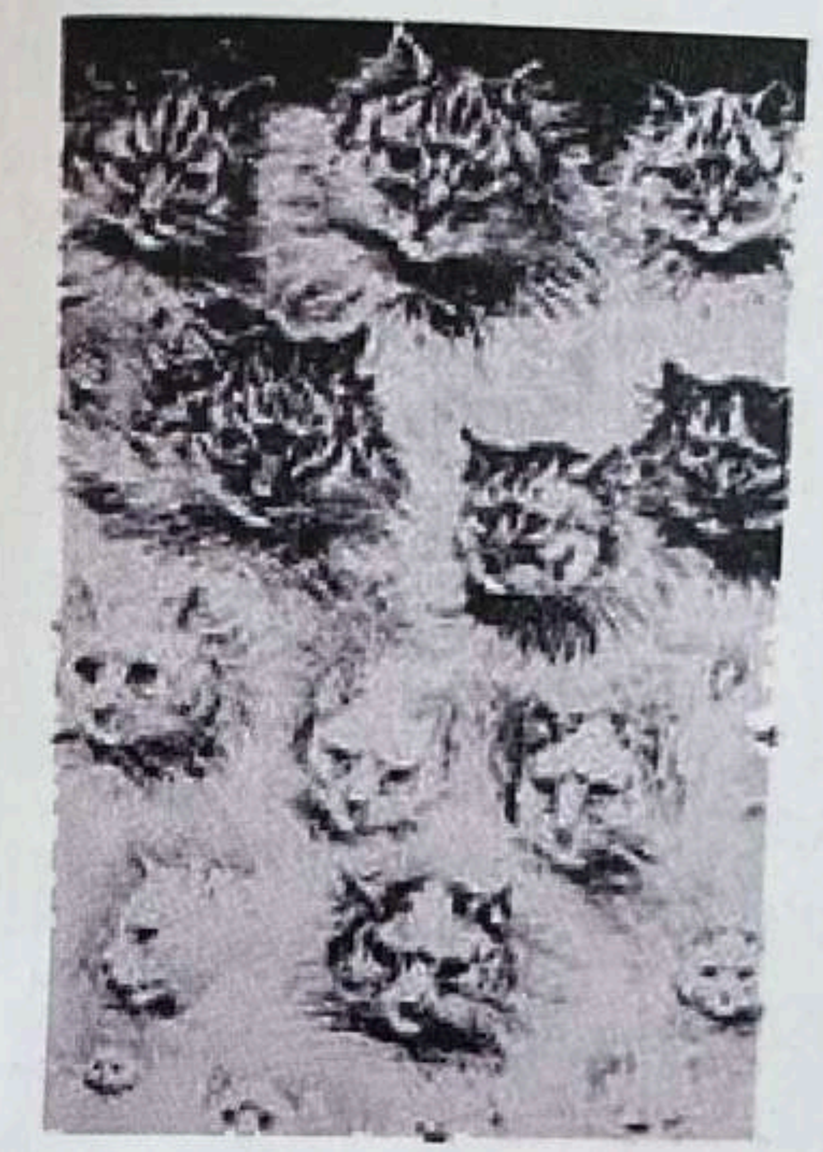
2005年、アメリカ・フロリダ州の小学校で、9歳と10歳の少年2人が、地元の警察に逮捕された。容疑は殺人。同じクラスに通っていた少年（10歳）を包丁でメッタ刺しにして殺したのだ。犯人の少年たちは、数週間前から被害者がナイフで突き刺された絵を描き、殺人を予告していた。事件現場のオカラ小学校の教室内は、イラスト通りの血の海だった。

# 統合失調にかかった画家が、病気が進行していく中で描いた猫の絵

1860年生まれのイギリス人画家、ルイス・ウェインが生涯にわたって書き続けた猫の絵である。ルイスは57歳の時に統合失調症を発症。晩年の15年間を精神病院ですごしながら、ひたすら猫の絵を描き続けた。こうしてウェインは、統合失調症の症状経過をはっきりと示す絵画を残した画家として、精神医学界では世界的に知られることになった。



▲発症前の画風



▲発病直後



▲発病から1年後



▲発病から2年後



▲発病から7年後



▲発病から9年後

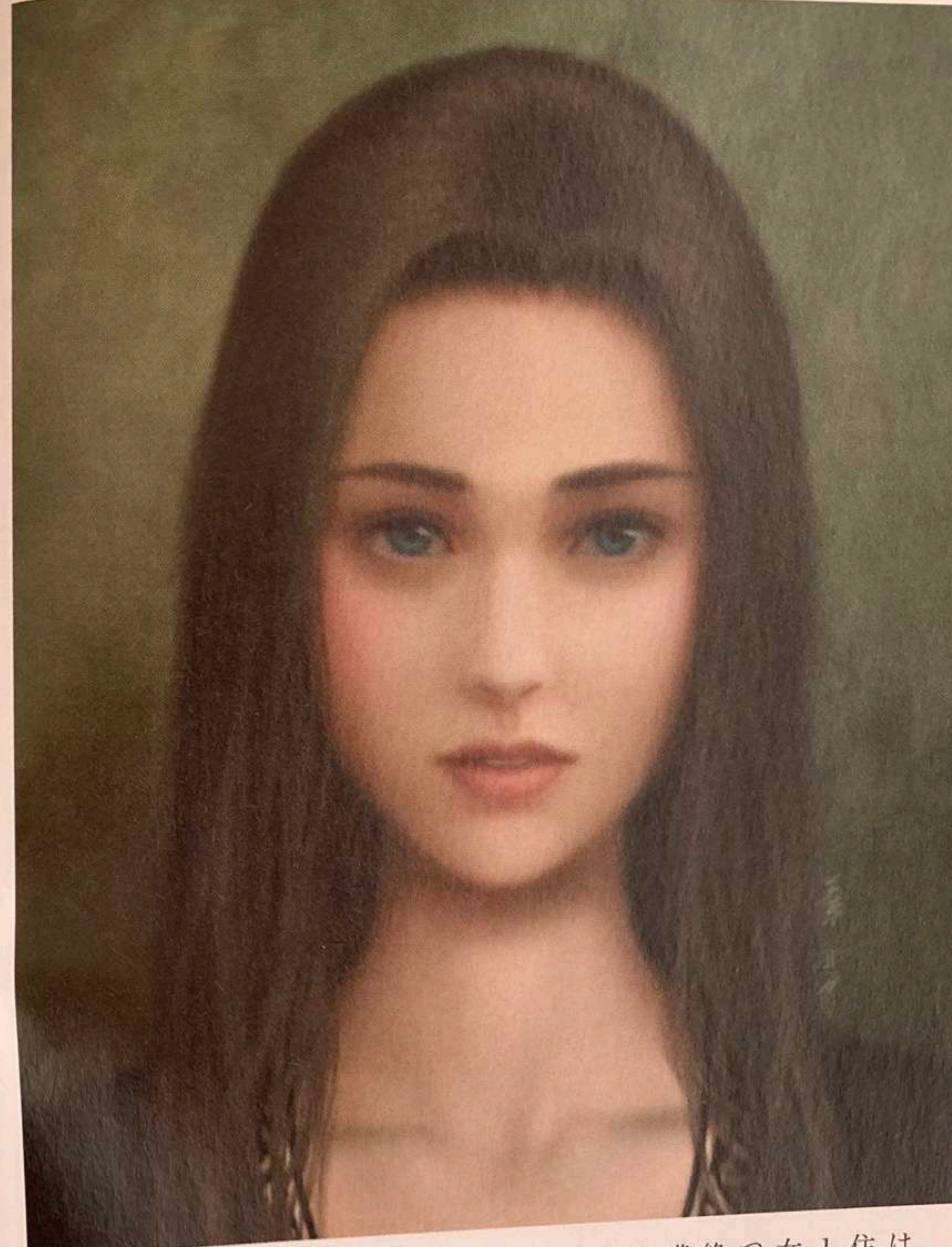


▲発病から11年後



▲最後の1枚

# 世界で最も恐ろしい絵



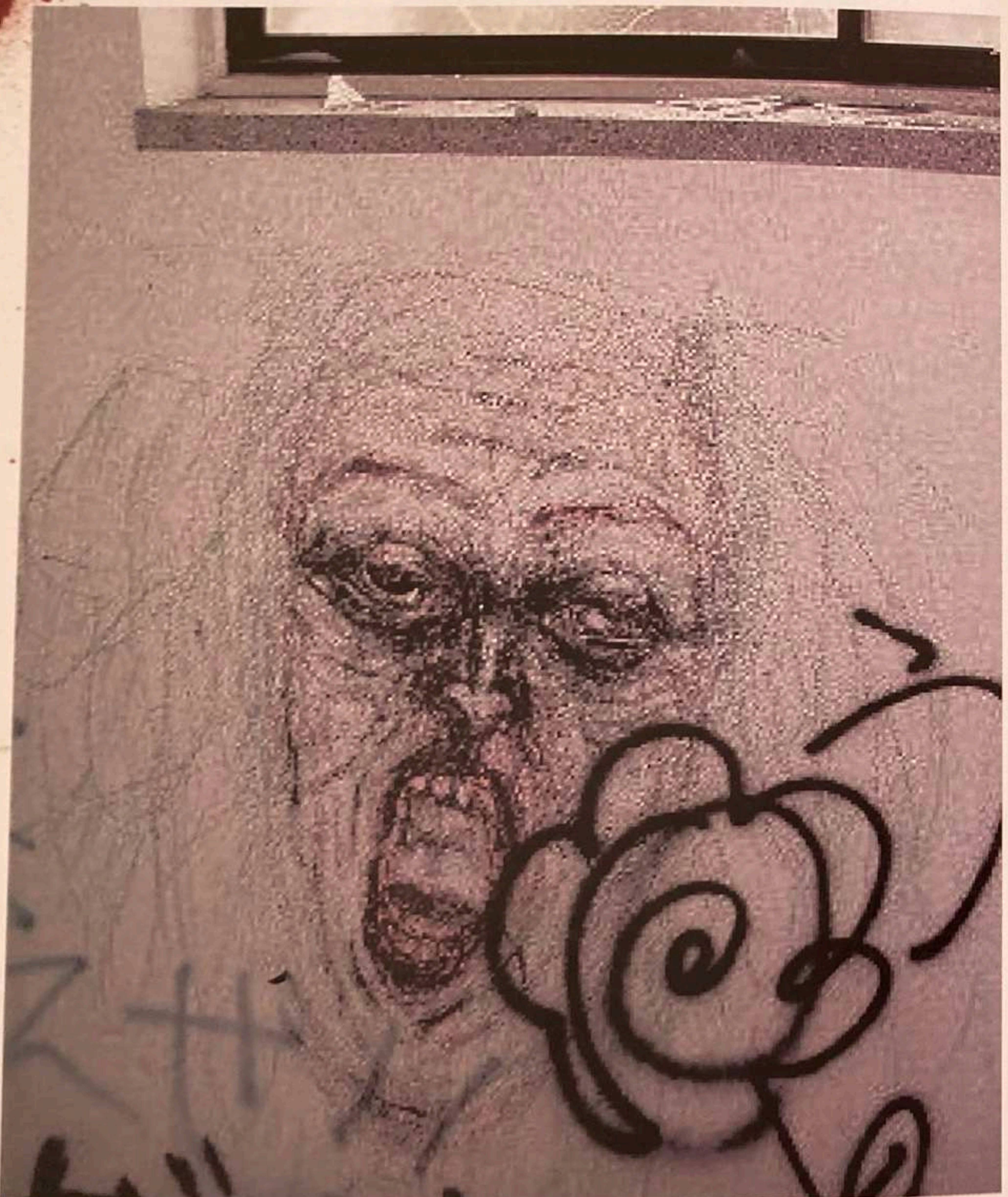
描かれている女性は、東南アジア某国に住んでいた人妻である。1956年ごろ、この女性の夫が外に愛人をつくったため、彼女は絶望して自殺。これを嘆いた夫が、妻の肖像を自ら描き上げたものだ。

夫は絵を描き上げると同時に飛び降り自殺。その後、この絵は様々な人間の手にわたっていくが、いずれの持ち主も発狂して死んだことから「世界で最も怖ろしい絵」との異名で呼ばれることとなった。これまでに死んだ所持者は7名。みなベッドの中で大小便をたれ流し、顔をかきむしって死んでいったという。



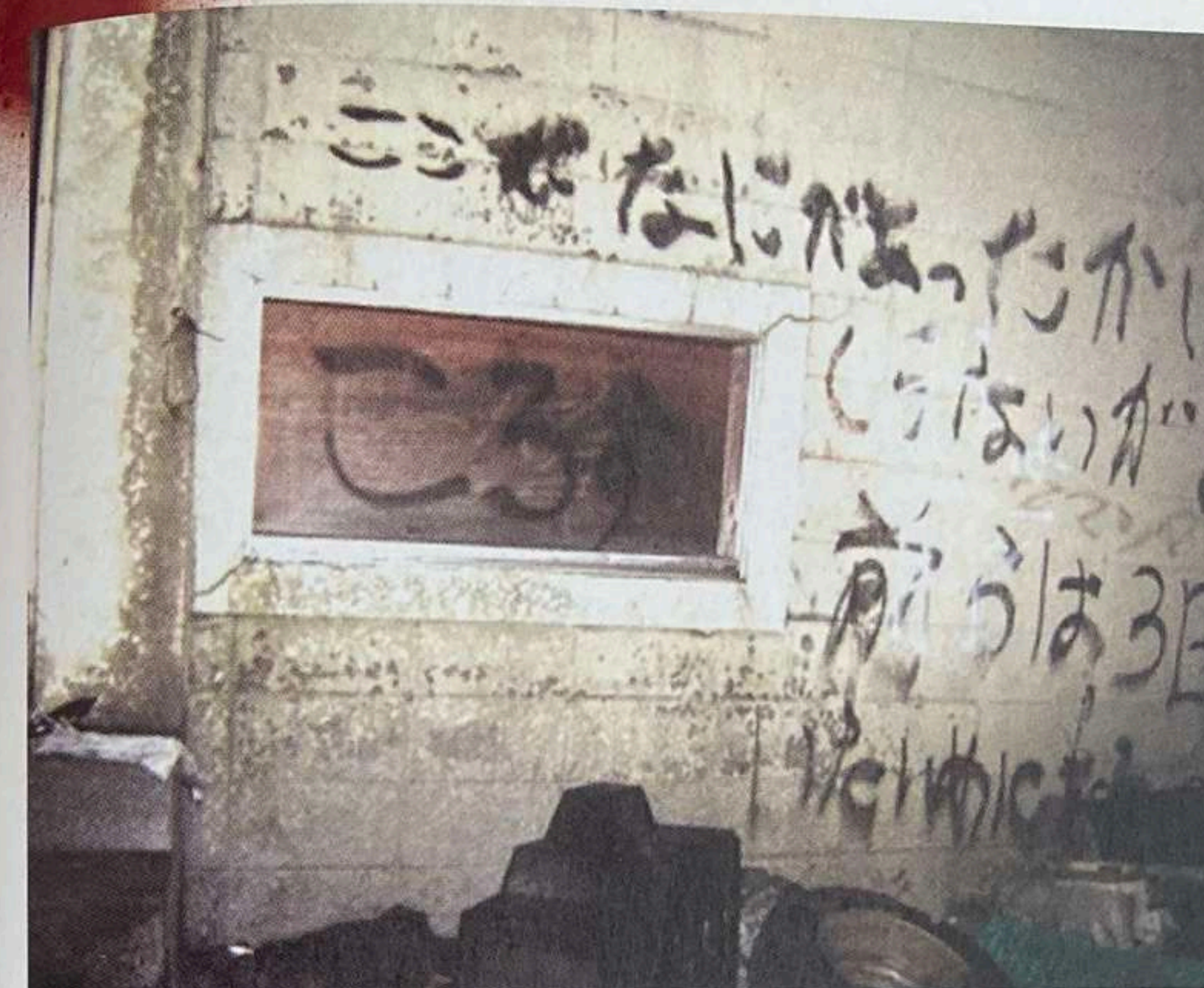


# 自殺者が直前に描いた壁画

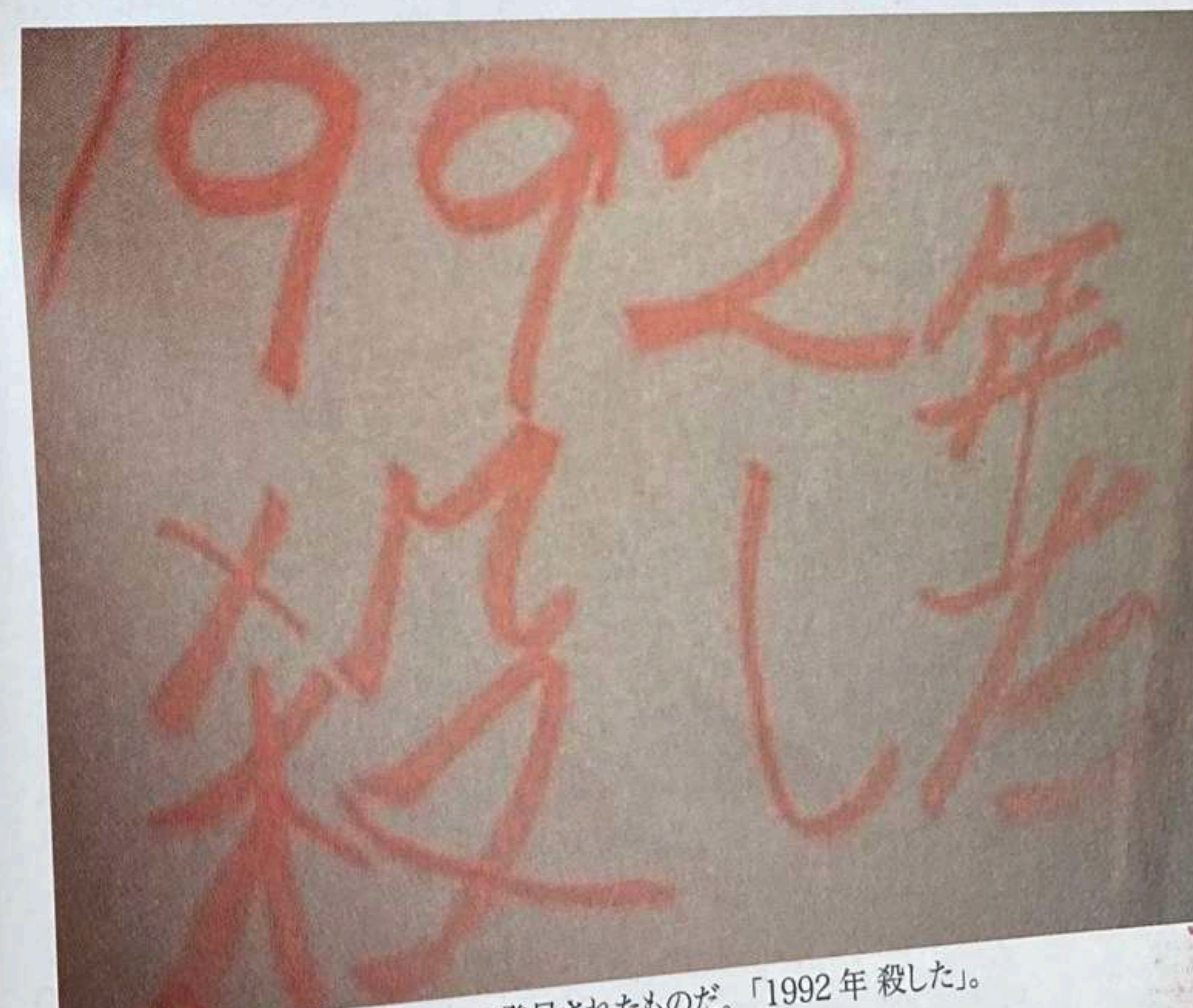


2005年7月、都内某所に建つ廃マンションの屋上から、1人の男性が飛び降りた。ご覧の画像は、その男性が、屋上へ向かう直前に、壁に描き殴った絵画である。この他にメッセージなどはなかったため、彼が何を思ってこの絵を描いたかはわかっていない。

# 廃墟スポットに残された落書き1



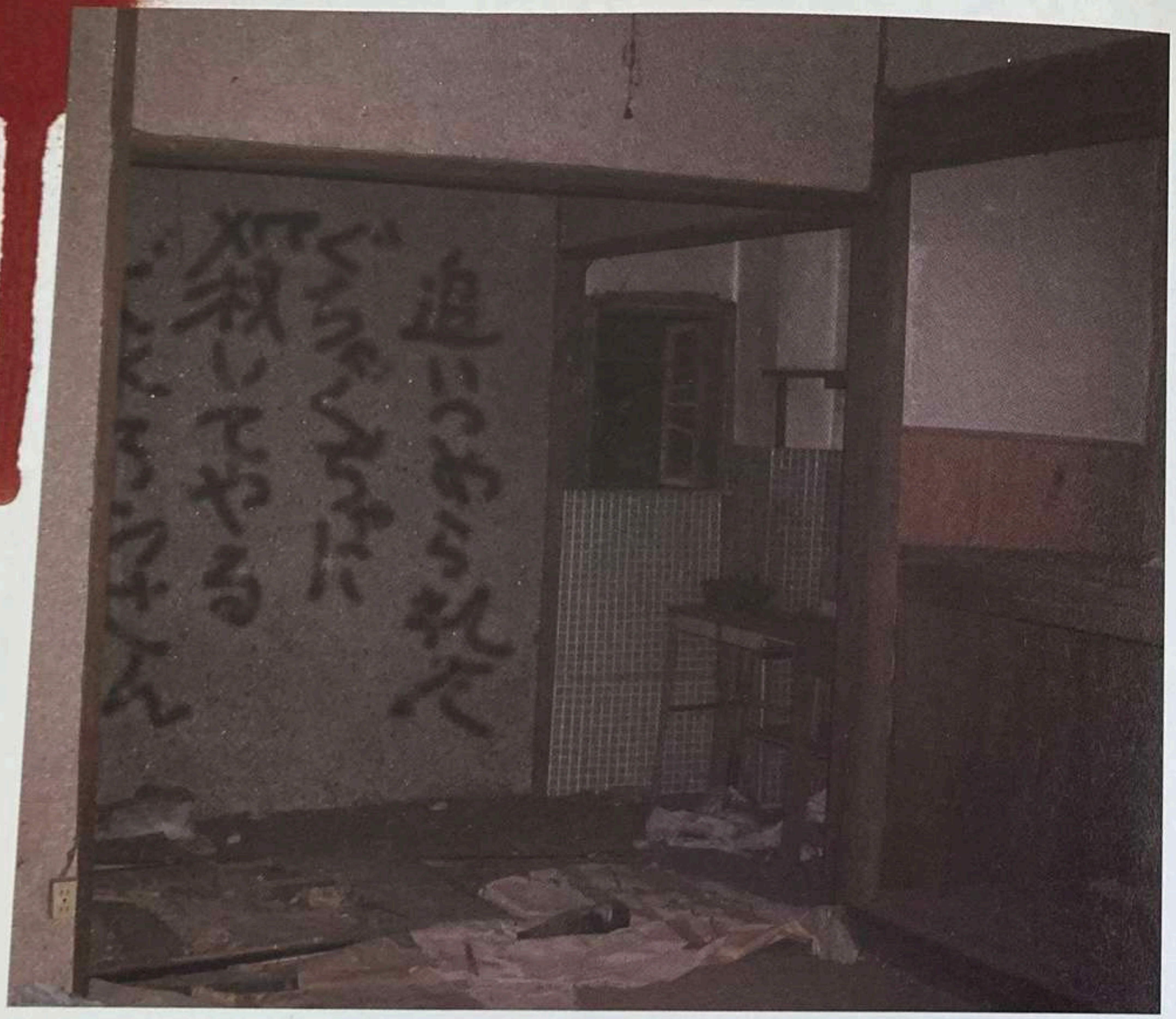

▲心霊スポットとして有名な、長野県の廃ホテルに書かれたラクガキの画像である。
「ここでなにがあったかしらないが お前らは３日後いたいめにあう ころす」。意味不明。




▲こちらも同じ長野の廃ホテルで発見されたものだ。「1992 年 殺した」。
何をどのように殺したのかはわからない。

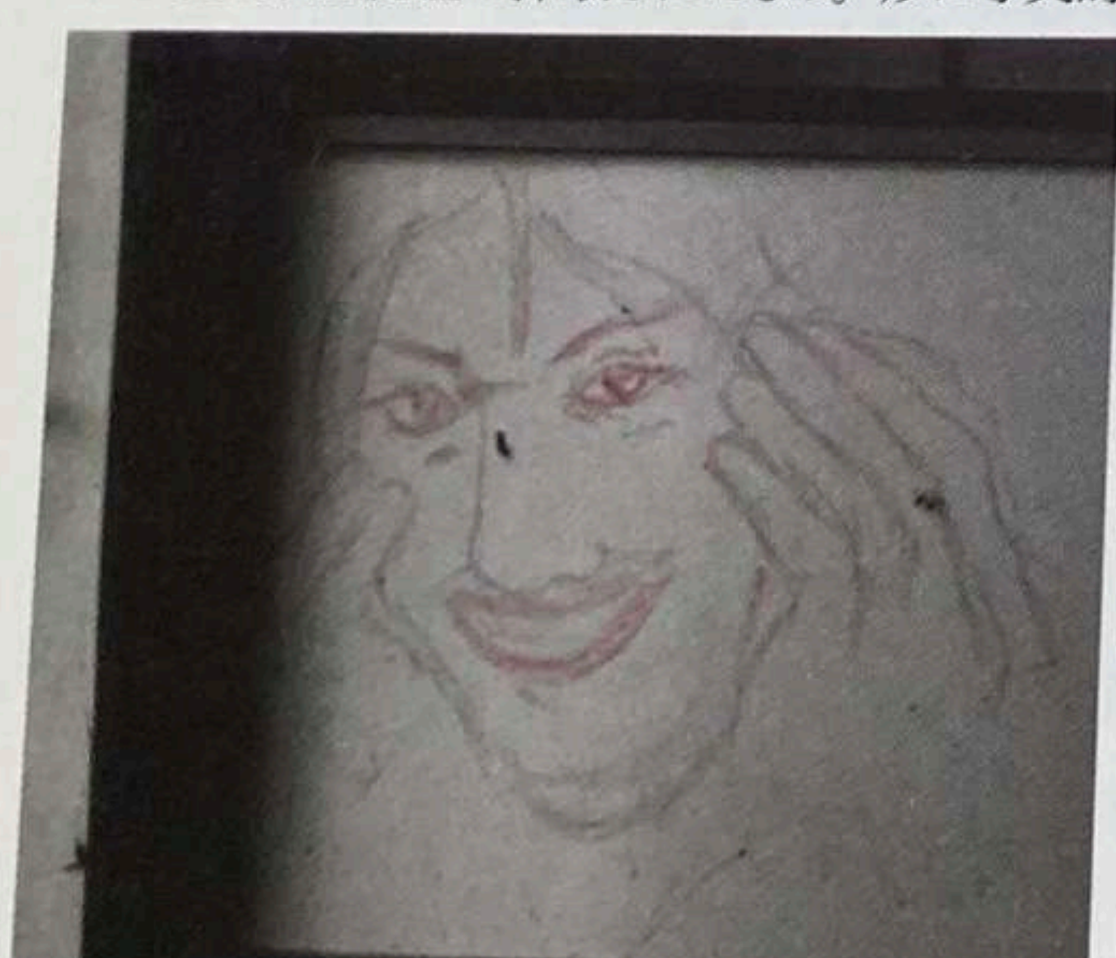


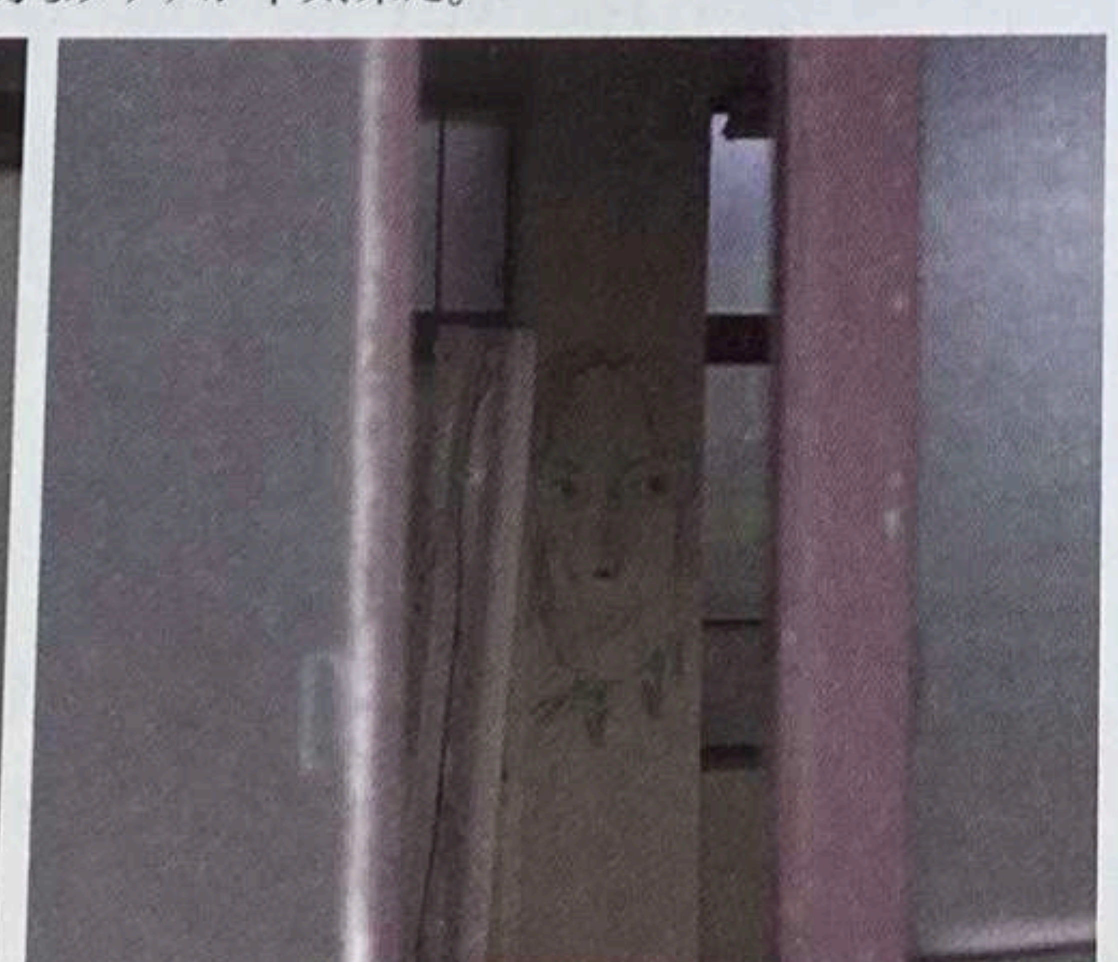




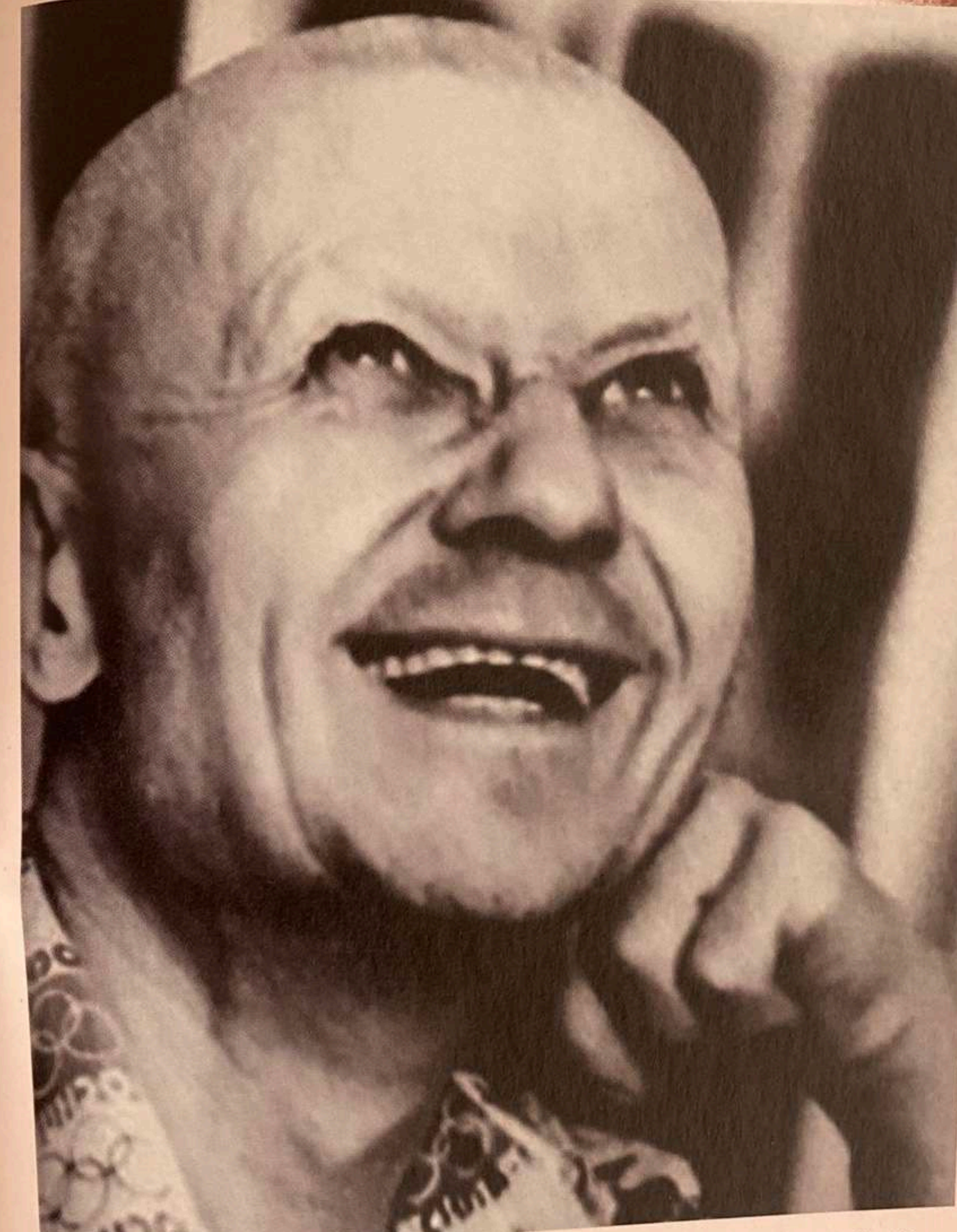

▲神奈川県にて採集。「追い詰められた。ぐちゃぐちゃに殺してやる。ごくろうさん」。
最後にねぎらいの言葉があるのが謎。

▼こちらも同じ廃墟で採取されたもの。妙に写実的なタッチが不気味だ。





## 笑う殺人鬼1
# アンドレイ・チカチーロ

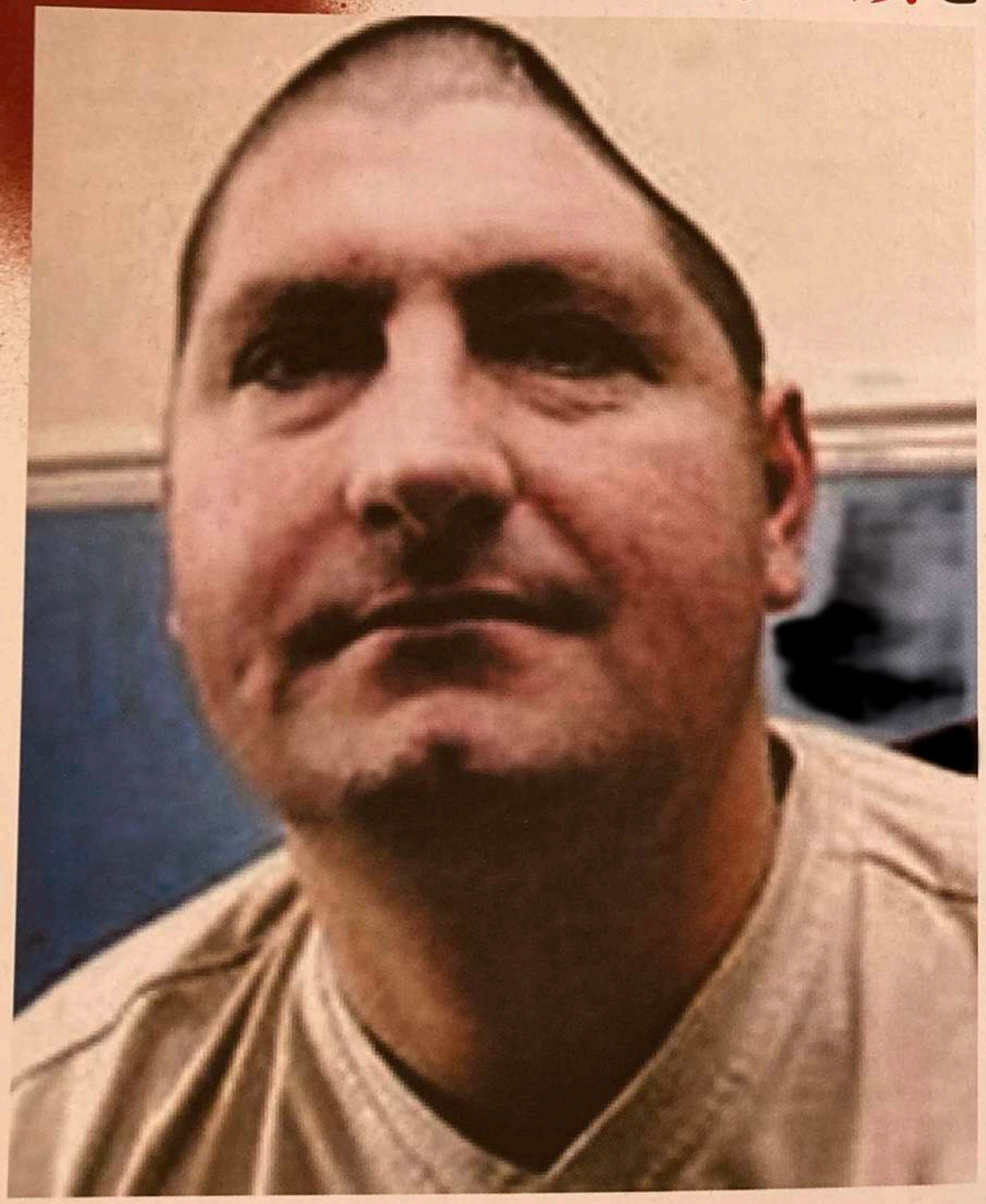


ソ連の超有名殺人犯である。少年や少女を中心に殺人を続け、KGBが逮捕するまでに実に52人を手にかけた。裁判では、モスクワオリンピックのロゴ入り開襟シャツを着て登場。ズボンを脱いで性器を出したり、ポルノ写真を取り出して高々と掲げるといった奇行を連発した。また、チカチーロに向かって「息子を返せ！」と叫ぶ遺族に対して、自分の口を指しながら「オマエの子供はここから入って」とつぶやいた後、続けて自分の尻を指して「ここからクソになって出て行ったよ」と笑顔で言い放った。





# 自分の頭を削り取った男



写真の男性は、アメリカに住むアンジェロ・ベルガー（45才）。長年、自分の頭の内側から「殺す…殺す…ぐちゃぐちゃに殺してやる」というつぶやきが聞こえるのに耐えかね、ついに自らノコギリで頭の一部を切断、脳みそごと削り取ってしまった。

異変に気づいた家族が素早く病院へ運んだため、命は助かったものの、頭の形はもどらないまま。1日前のことも思い出せないような記憶障害にまでかかってしまったが、当の本人は「声が消えた」と大喜びだとか。

# インタビューに答える夫殺しの妻

2007年7月、テレビのインタビューに、涙ながらに答えるこの女性。夫を殺された被害者を装っているが、何を隠そうその夫を殺した張本人である。

肝臓の病気で寝たきりだった夫へ保険金をかけ、殺害後に2千万を入手。その2週間後、堂々とニュースの取材に答えたという。ちなみに、この女性、警察の調べでは、以前に結婚していた2人の男性とも死別しているという。





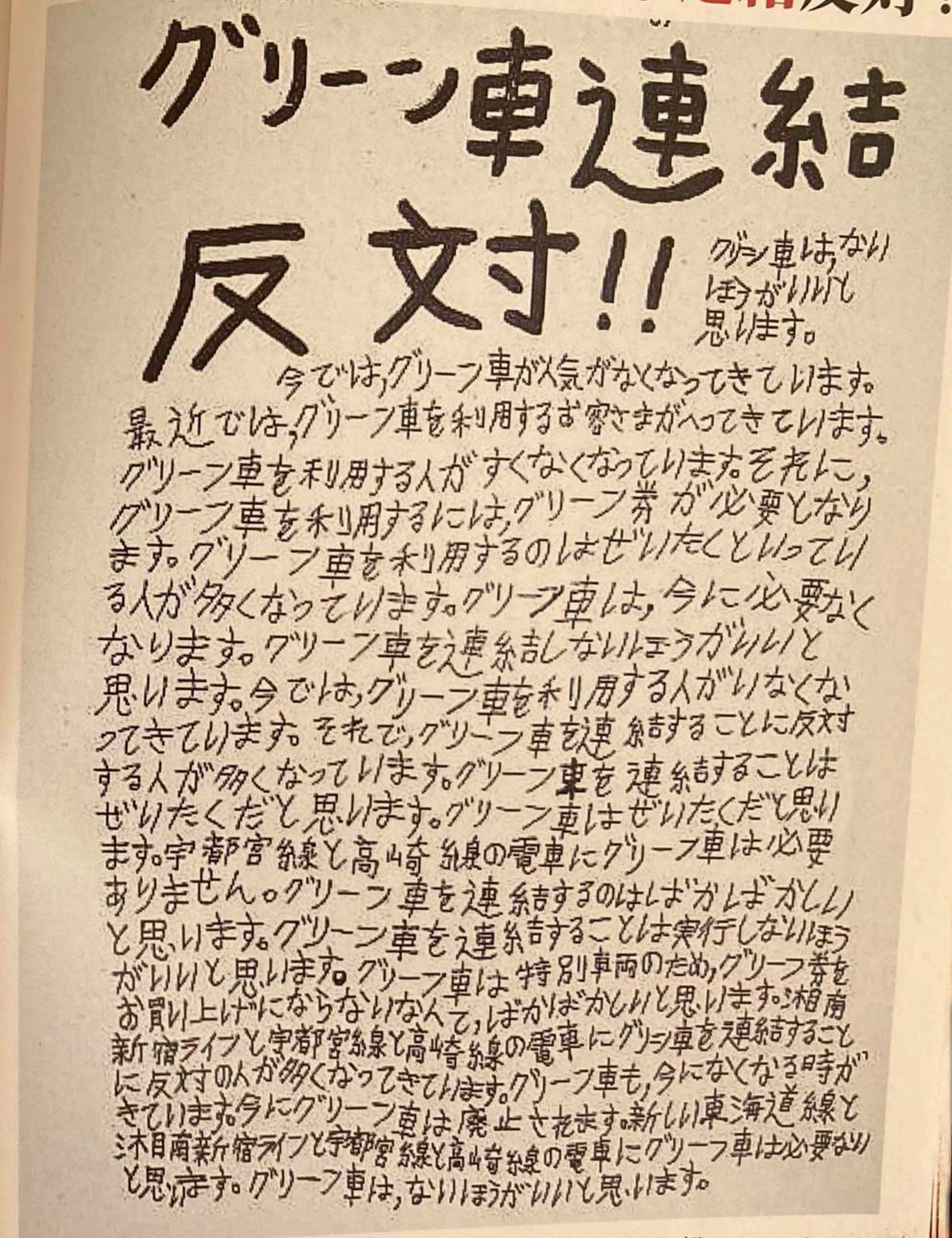



# 本物の眼球を使った人形



ぱっと見は普通の日本人形だが、目の部分だけが少し違う。この眼球部分、実は本物の人間の目玉で作られているのだ。昭和62年、埼玉に住む70才の老人が、2つ下の最愛の妻が死んだ際、老人が最も愛した妻の眼球部を摘出。防腐処理をした上で人形職人に手渡し、若き日の妻に似せた等身大の人形を作らせたという。この人形は、現在、都内某所の寺院に安置されている。

# グリーン車連結反対!!


グリーン車連結反対!!

グリーン車は、ないほうがいいと思います。

今では、グリーン車が人気がなくなってきています。最近では、グリーン車を利用するお客さまがへってきています。グリーン車を利用する人がすくなくなっています。それに、グリーン車を利用するには、グリーン券が必要となります。グリーン車を利用するのはぜいたくといっている人が多くなっています。グリーン車は、今に必要なくなります。グリーン車を連結しないほうがいいと思います。今では、グリーン車を利用する人がいなくなってきています。それで、グリーン車を連結することに反対する人が多くなっています。グリーン車を連結することはぜいたくだと思います。グリーン車はぜいたくだと思います。宇都宮線と高崎線の電車にグリーン車は必要ありません。グリーン車を連結するのはばかばかしいと思います。グリーン車を連結することは実行しないほうがいいと思います。グリーン車は特別車両のため、グリーン券をお買い上げにならないなんて、ばかばかしいと思います。湘南新宿ラインと宇都宮線と高崎線の電車にグリーン車を連結することに反対の人が多くなってきています。グリーン車も、今になくなる時がきています。今にグリーン車は廃止されます。新しい東海道線と湘南新宿ラインと宇都宮線と高崎線の電車にグリーン車は必要ないと思います。グリーン車は、ないほうがいいと思います。

なぜか「宇都宮線と高崎線にグリーン車をつけるな」と主張する謎のチラシ。茨城県水戸市で大量にバラまかれたものだ。びっしり埋め尽くされた文字不気味だが、実際は「グリーン車が最近人気がないので、必要ない」以上のことは言っていない。

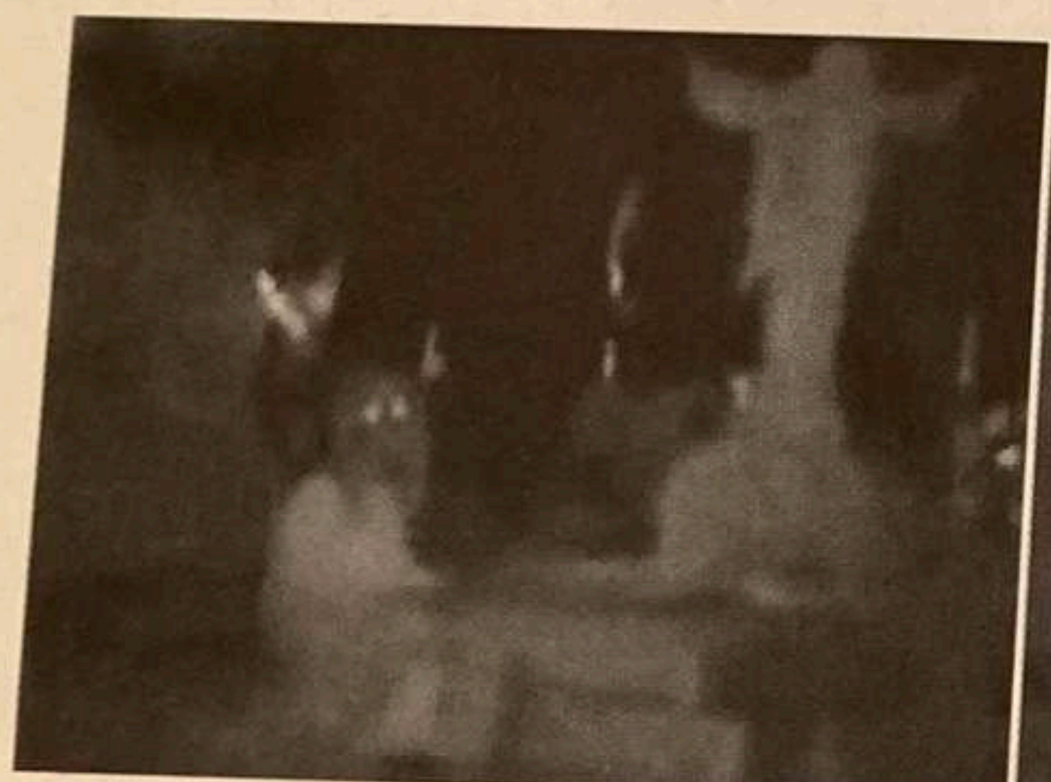


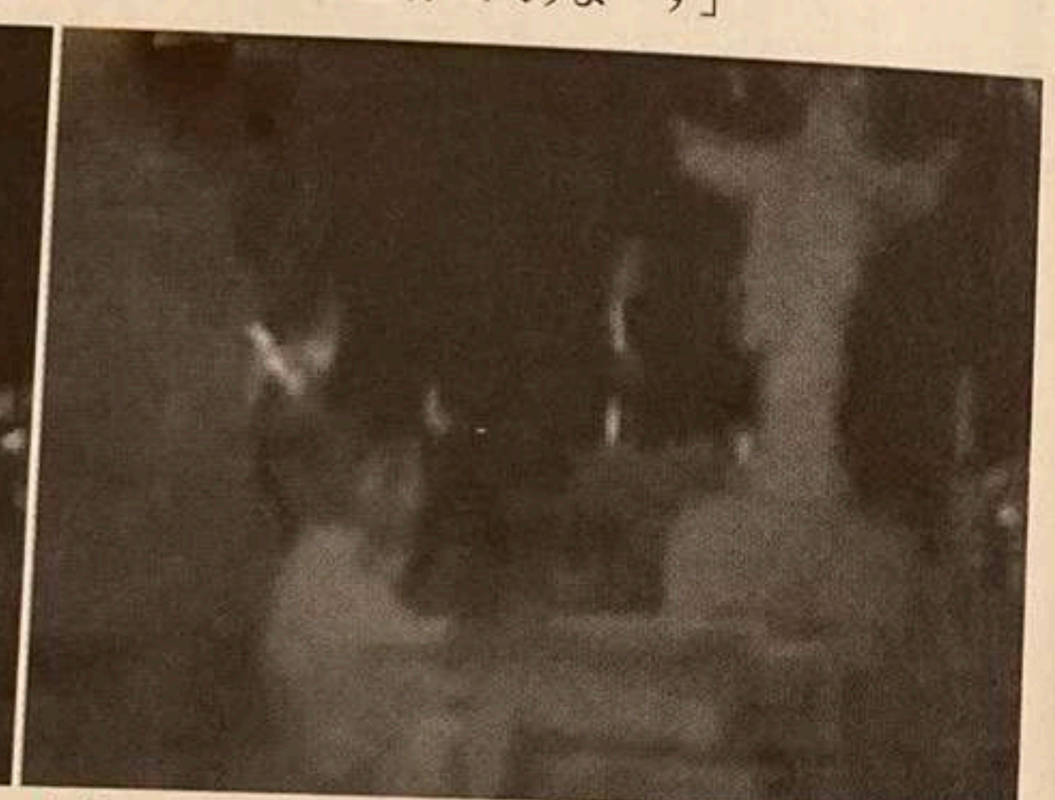


# 真夜中に墓場を掘り返す女


▲墓の奥へ進むと


▲「これから墓場に入りまーす」

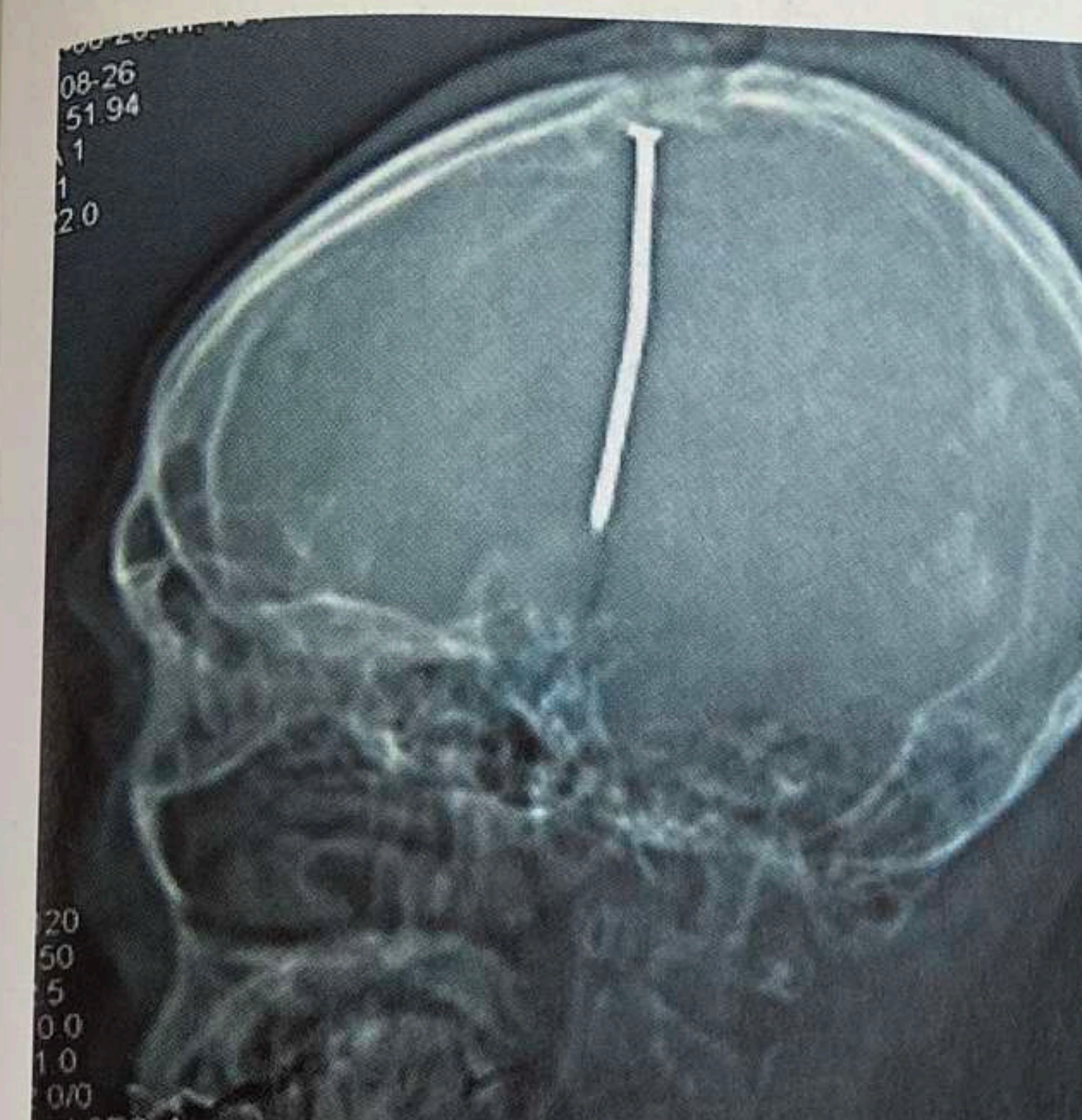

▲こちらに気づいた


▲墓の中に手を突っ込んでいる女…


◀捕まった容疑者

アメリカ・ミズーリ州の墓場で撮影された動画である。ある男性が、肝試しで墓場へビデオを持ち込んだところ、墓石の奥で1人の女が地面を掘り返しているのを発見してしまう、なんとも怖ろしいシロモノだ。翌日、男性がこのビデオを警察に届け、墓荒らしは捕まった。警察発表によれば、犯人は地元スーパーの店員で、定期的に墓地の土を掘り返していたという。墓地に金目のものはなく、動機は不明のままだそうだ。

# 頭に釘を打って死んだ男たち



2007年、中国・湖北省の男（40才）が、8センチのクギを自らの頭に打ち込んだ際のCTスキャン。




こちらは、2000年にアメリカの男性を撮影したもの。なんと、3本のクギを側頭部に打ち込んでいる。

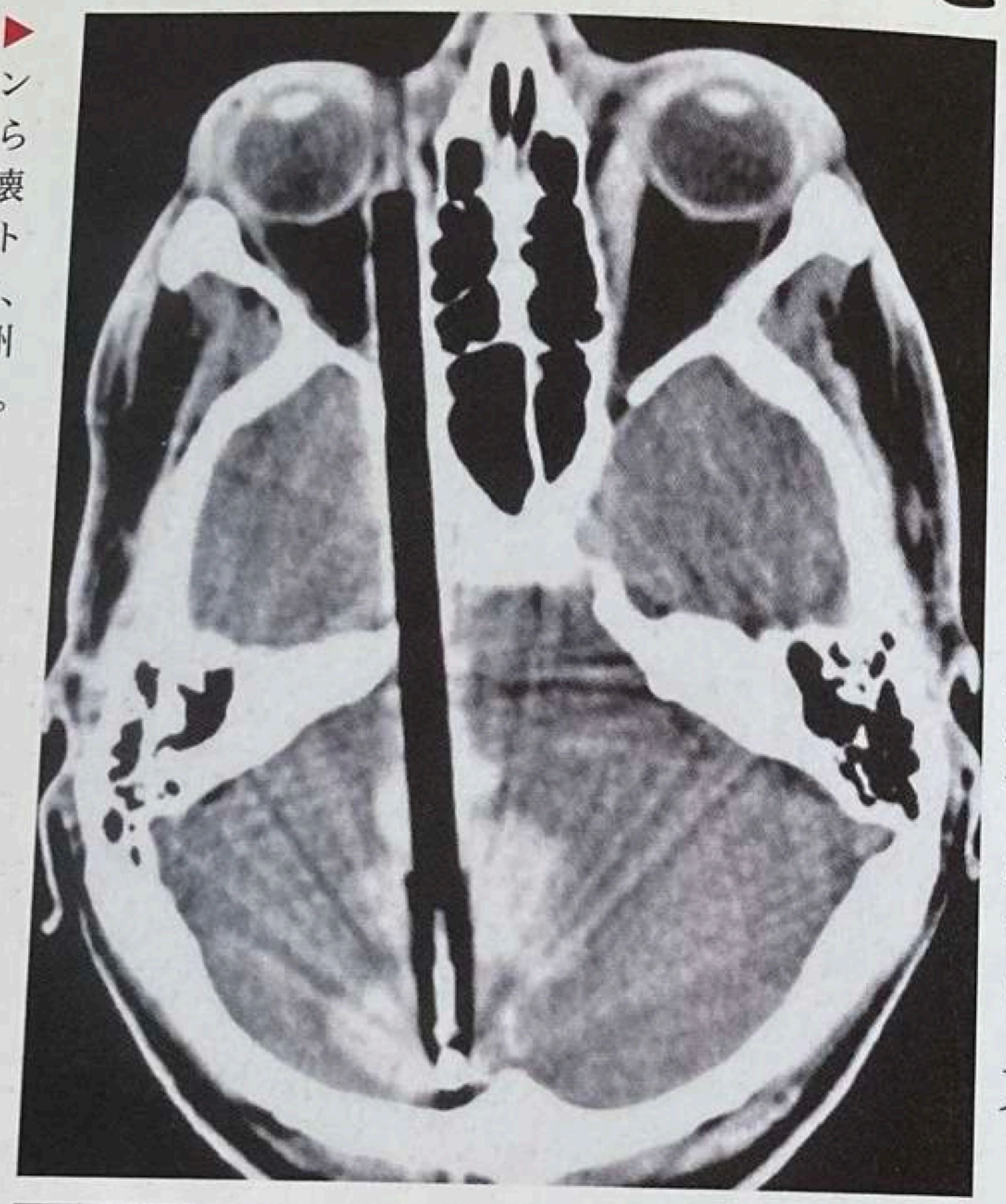
世に自殺の方法は数多いが、これほど過激な死に方はないだろう。ご覧のレントゲン写真は、自らの頭にクギを打ち込んで死んだ男たちを、搬送先に病院がCTスキャンで撮影したものだ。

いずれの写真も、大脳が大きく損傷しており、なぜ彼らが、このような方法で自殺しようと思ったかについては謎のままだ。





# ボールペンを脳に突き刺して死んだ男



こちらは、さらに約13センチのボールペンを左目から差し込み、脳の奥まで破壊して死んだツワモノのレントゲン写真だ。実行したのは、アメリカ・カリフォルニア州に住む43才の男性である。

# 釘を飲んで死んだ男



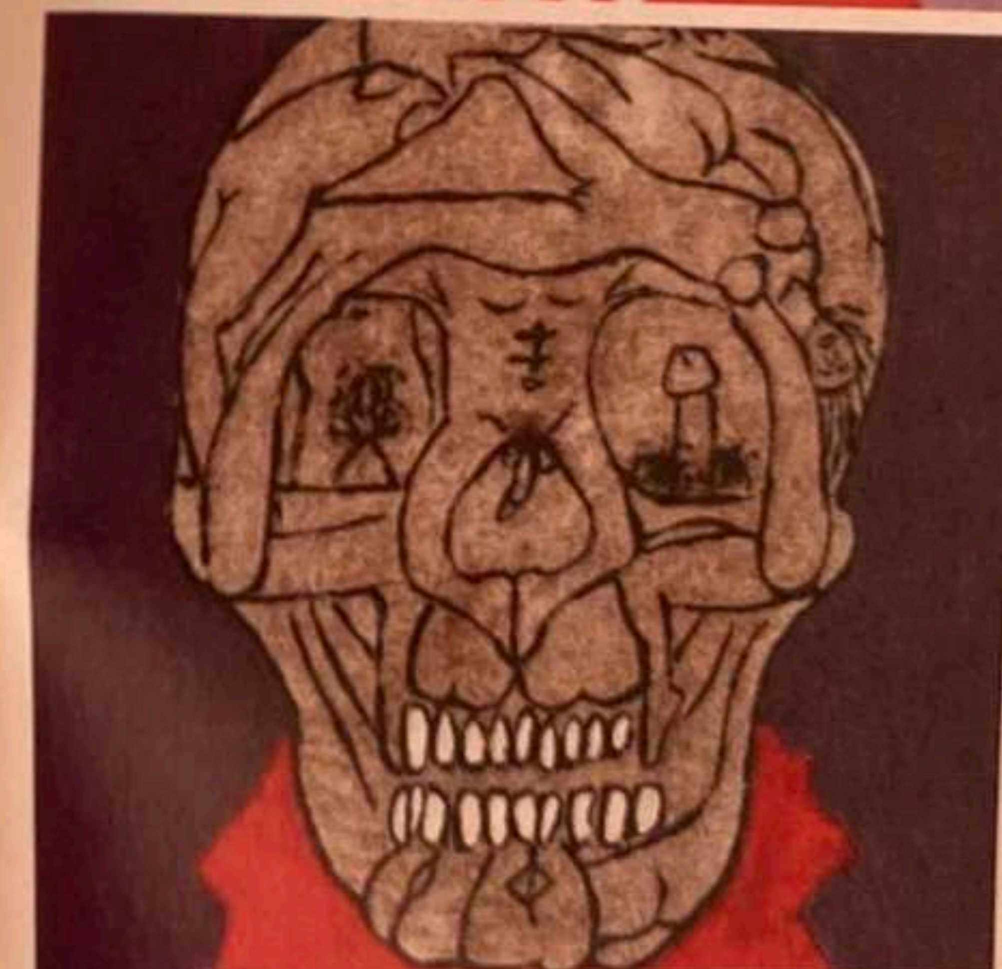
なぜか5センチほどのクギを大量に飲み込み自殺を図った、宮城県に住む30才男性のレントゲン画像である。病院に運ばれた時点ではすでに手遅れで、3本のクギが胃を突き抜けて肝臓や腎臓を貫き、4本が腸を破って肛門の間近まで達していたという。やはり動機はわからない。

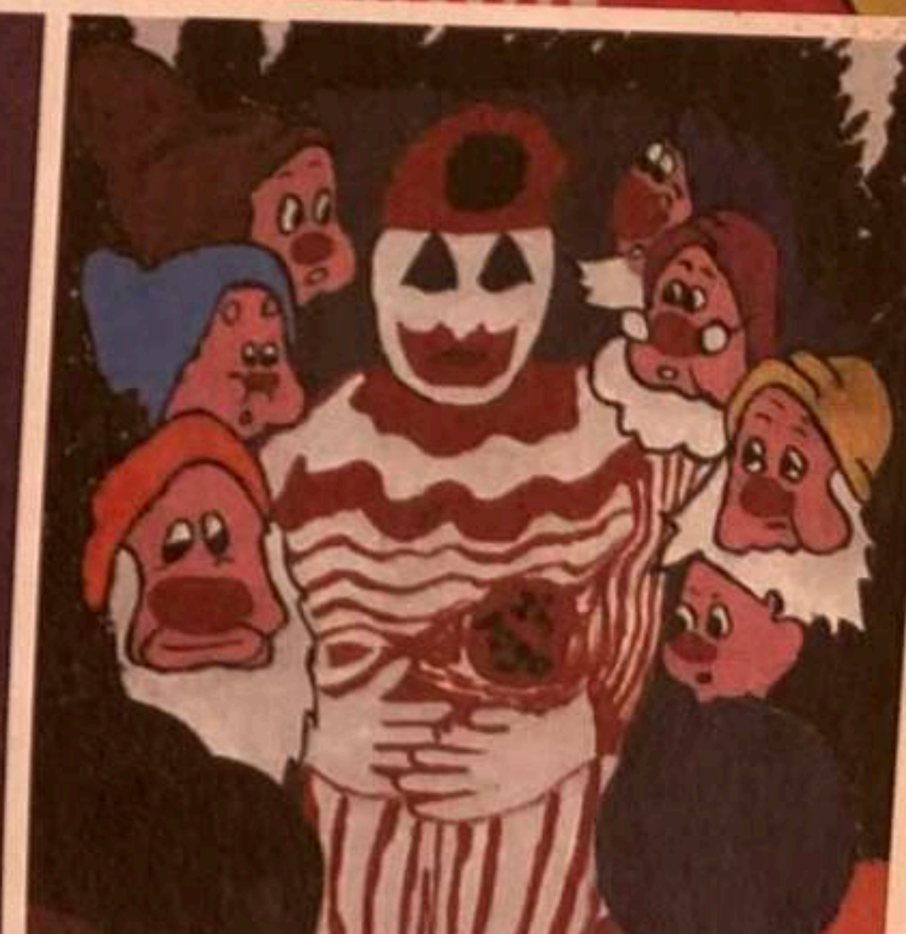
殺人鬼の描いた絵1

# ジョン・ウェイン・ゲーシー











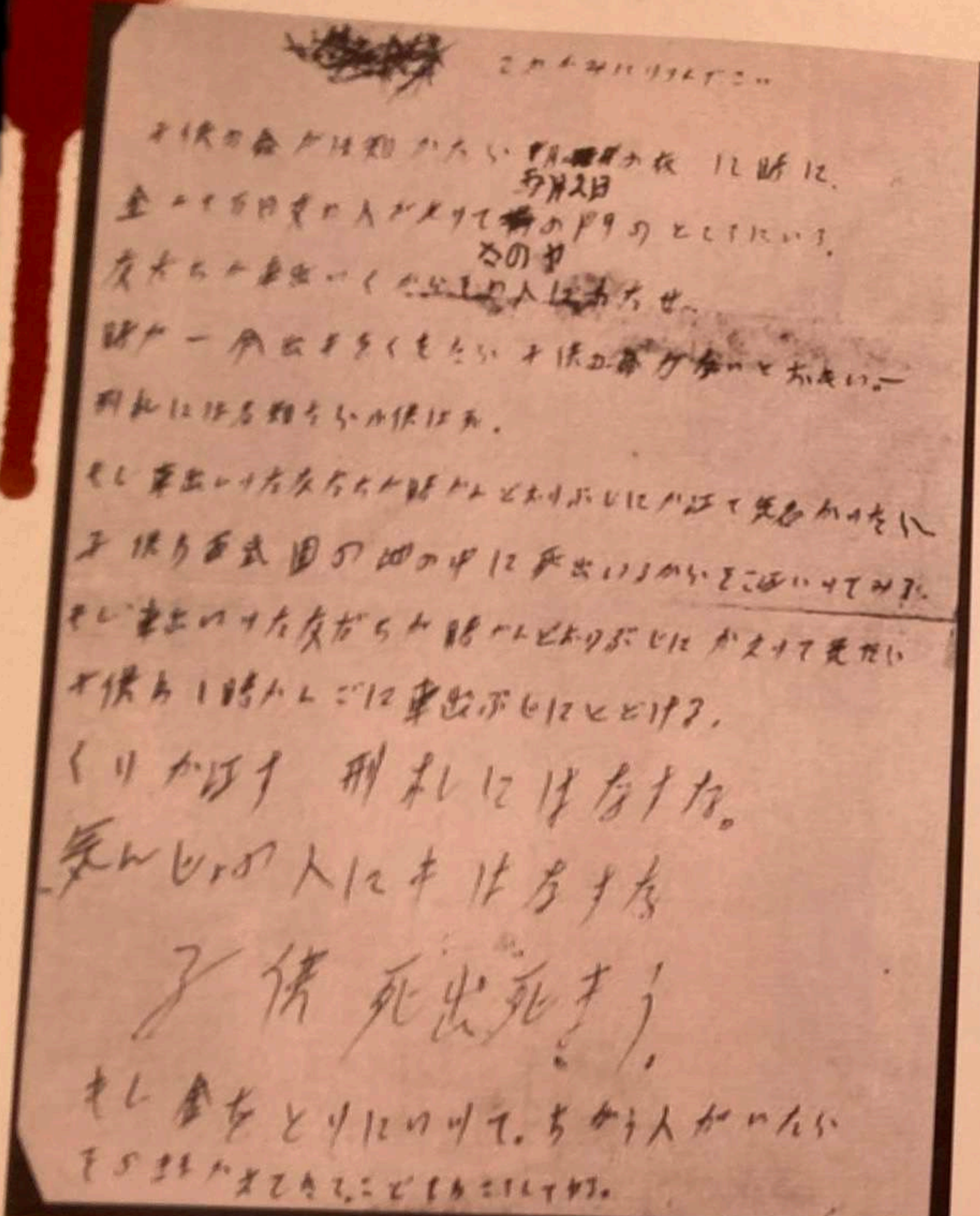
同性愛者だったゲーシーは、30才になってから7年の間に、33人もの少年をレイプして殺した殺人鬼である。しかし、地元では、ピエロに扮して孤児院などを慰問する「ピエロのポゴ」として子供たちの人気者だったという。

逮捕後、ゲーシーの自宅を調べた警察は、床下から28名の少年の腐乱死体を発見。取り調べには「ピエロになれば、人殺しなんて簡単なことだ」「絵の才能は神様が与えてくれた」などとうそぶいた。ゲーシーの絵は、現在、殺人マニアの間で高値で取引されている。





# 狭山事件の脅迫状


このかみにツツんでこい
子供の命がほしかったら五月2日の夜12時に、
金二十万円女の人がもってさのヤの門のところにいろ。
友だちが車出いくからその人にわたせ。
時が一分出もおくれたら子供の命がないとおもい。ー
刑札には名知たら小供は死。
もし車出いった友だちが時かんどおりぶじにかえって気なかったら
子供わ西武園の池の中に死出いるからそこえいってみろ。
もし車出いった友だちが時かんどおりぶじにかえって気たら
子供わ1時かんごに車出ぶじにとどける。
くりかえす 刑札にはなすな。
気んじょの人にもはなすな
子供死出死まう。
もし金をとりにいって、ちがう人がいたら
そのままかえってきて、こどもわころしてやる。

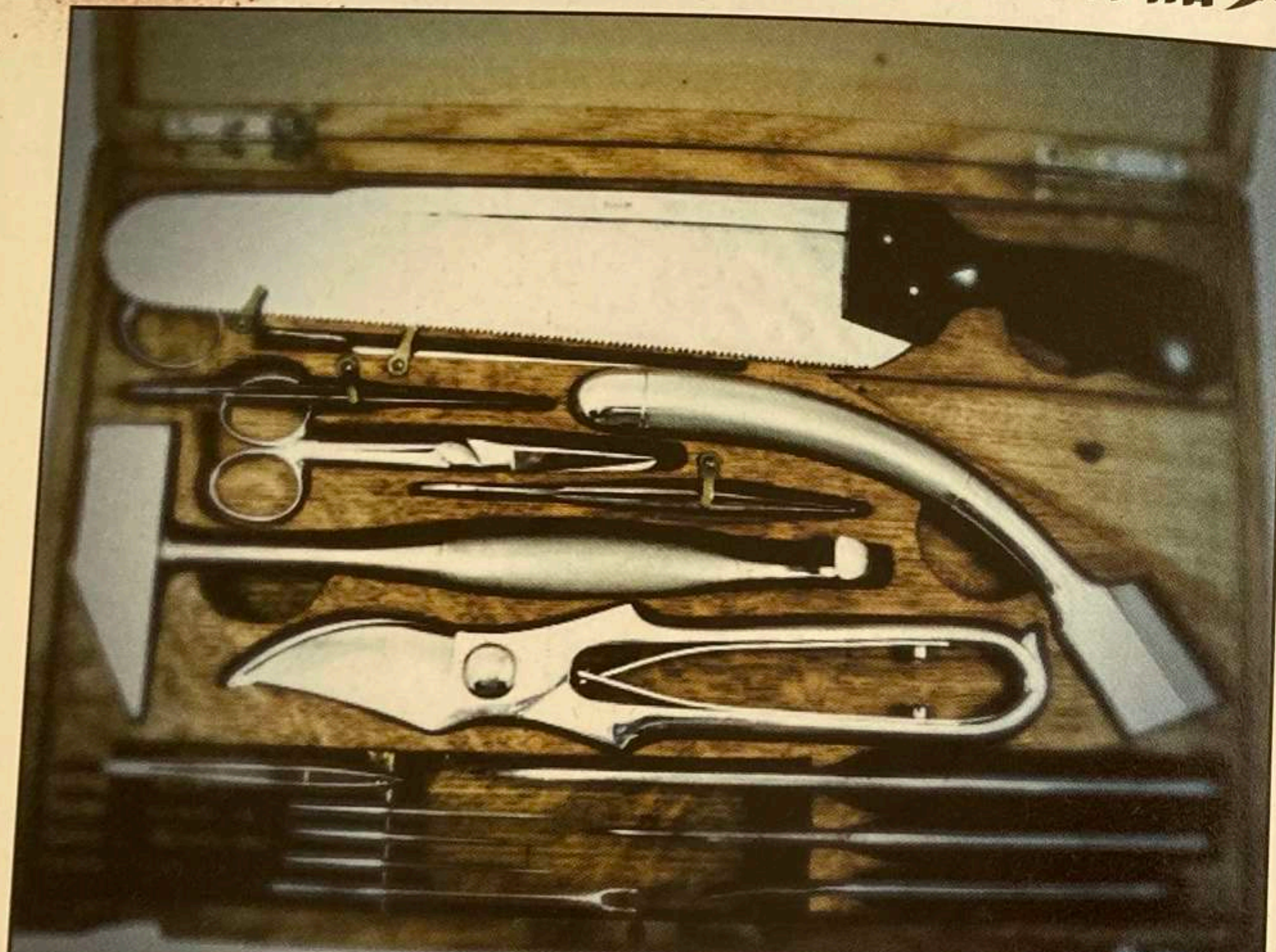
狭山事件は、1963年5月1日に埼玉県狭山市で起こった誘拐殺人事件である。被害者は高校1年の少女で、行方不明になった日の夕方、彼女の自宅にご覧の脅迫状が届けられた。犯人は同年5月に逮捕されたが、一部では冤罪の声も強く、事件の真相は闇の中だ。

脅迫状の内容は以下の通り。

「子どもの命が欲しかったら、五月2日の夜12時に、金二十万円女の人がもッてさのヤの門のところにいろ。…刑札には名知たら子供は死。くりか江す 刑札にはなすな。気んじょの人にもはなすな 子供死出死まう」

誤字だらけの文面が妙に怖い。

# 6人の少年を殺した男が作った拷問専用器具



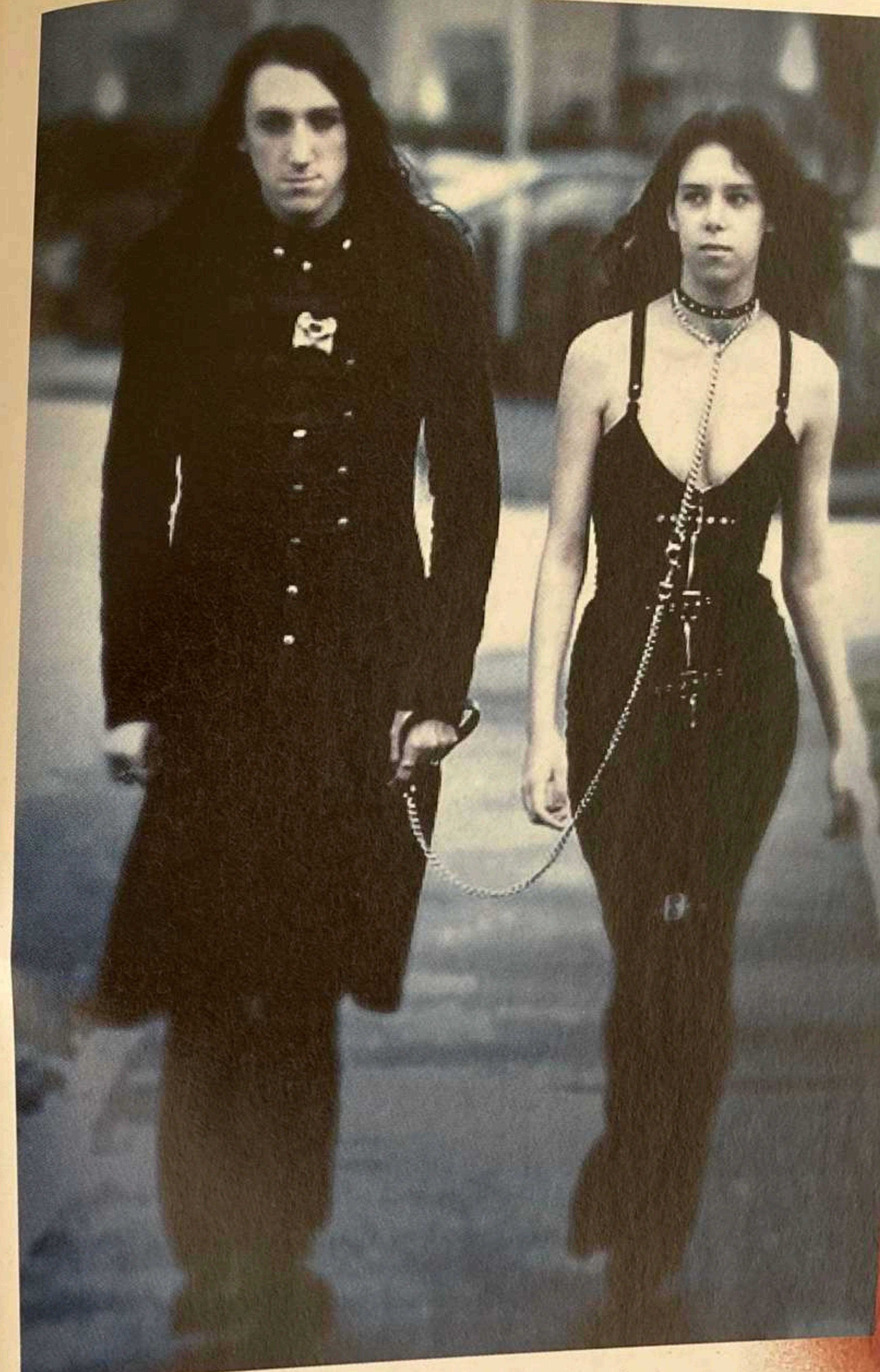
80年代、アメリカ・カンザス。風光明媚なこの土地で、1年の間に4〜6才の少年たちが次々と遺体で見つかる事件が起きた。

少年たちは、いずれも肛門を陵辱された形跡があり、数人は内臓と性器を切り取られていた。

犯人は、町の外れに住むロビン・エアーズという70才の農夫。警察が家宅捜査をすると、冷蔵庫の奥には、瓶詰めの性器2つが、納屋には犯人が少年を拷問するために製作したという、専用のツールが隠されていた。



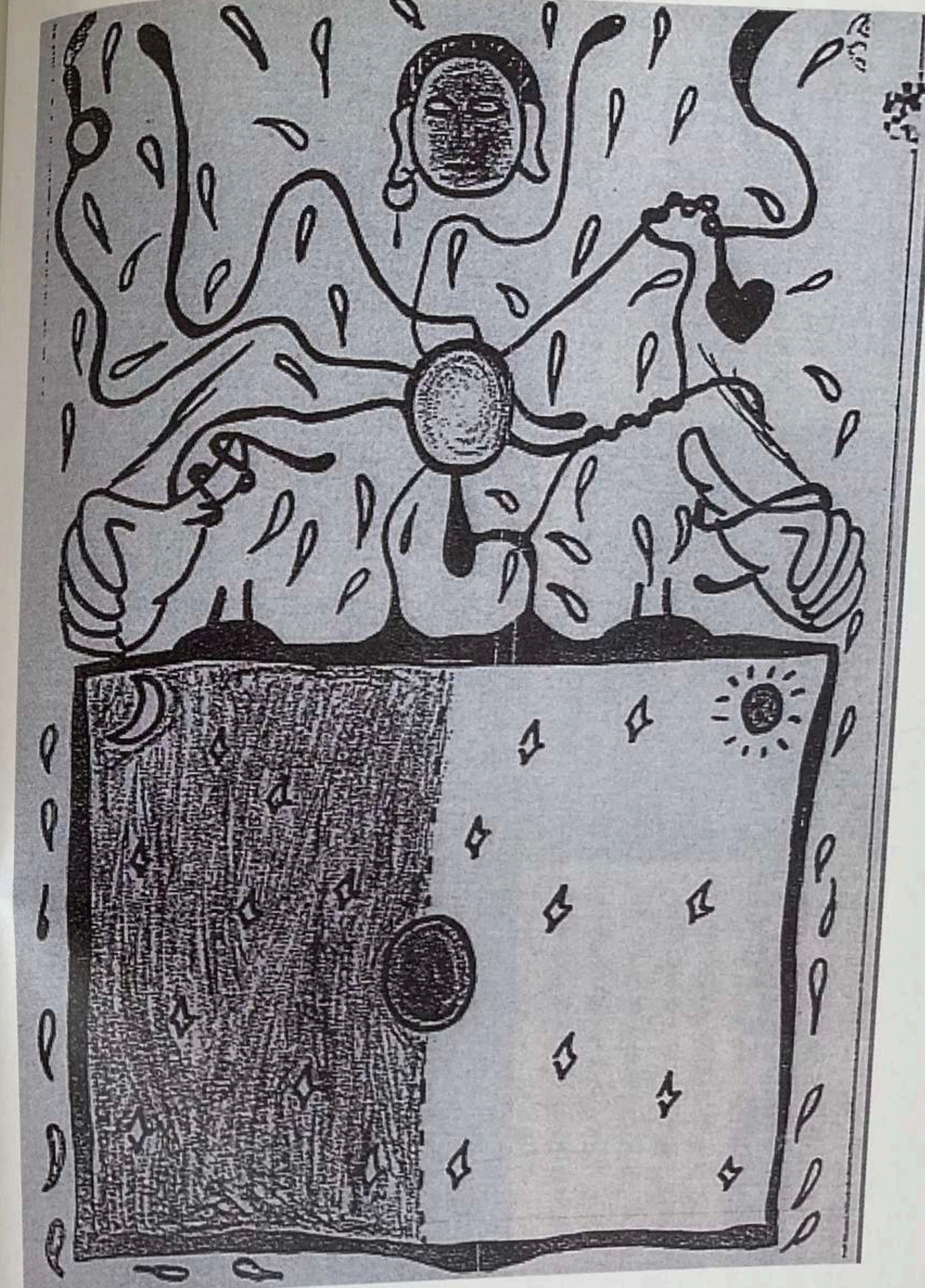
# つねに首輪をつけて暮らすカップル



イギリス・ウエストヨークシャー州に暮らすこのカップルは、男性がつねに女性に首輪を付けて暮らしている。

2人の付き合いはすでに4年以上におよんでおり、普段、男は女性を「ペット」と呼ぶ。

しかし、女性側は「あたしはペットなの。ふだんから自分のこと、動物だと思ってるし」と発言している。



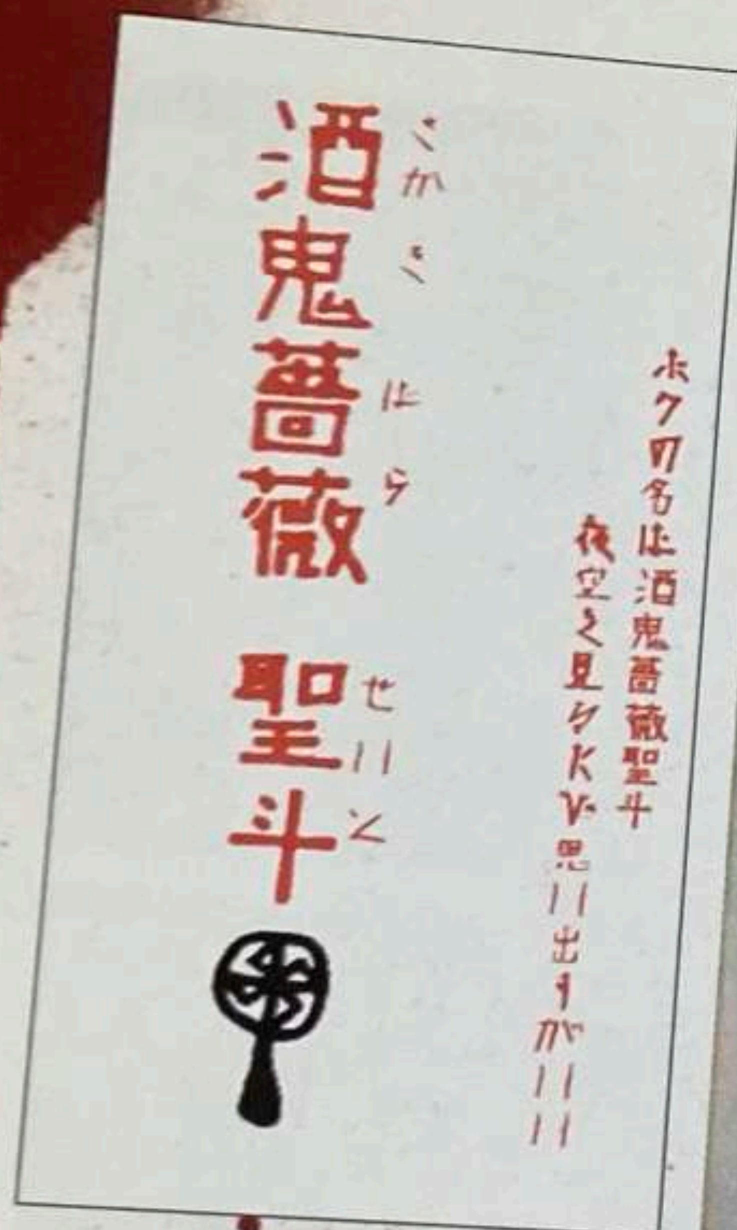
# 酒鬼薔薇聖斗

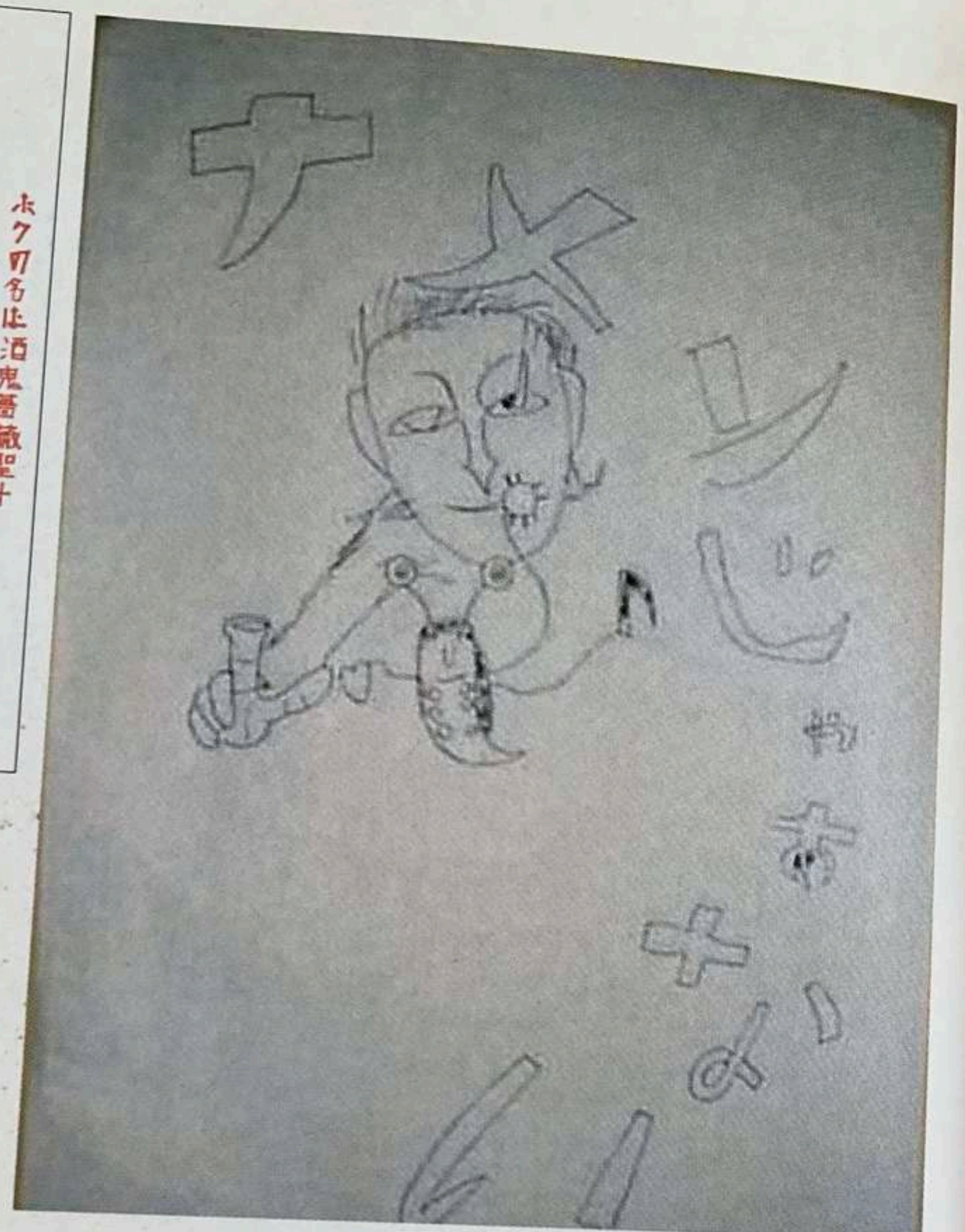
兵庫県神戸市で起きた、連続殺傷事件の犯人である。逮捕時、犯人の年齢が14歳と非常に若かったことから、日本中にショックを与えた。

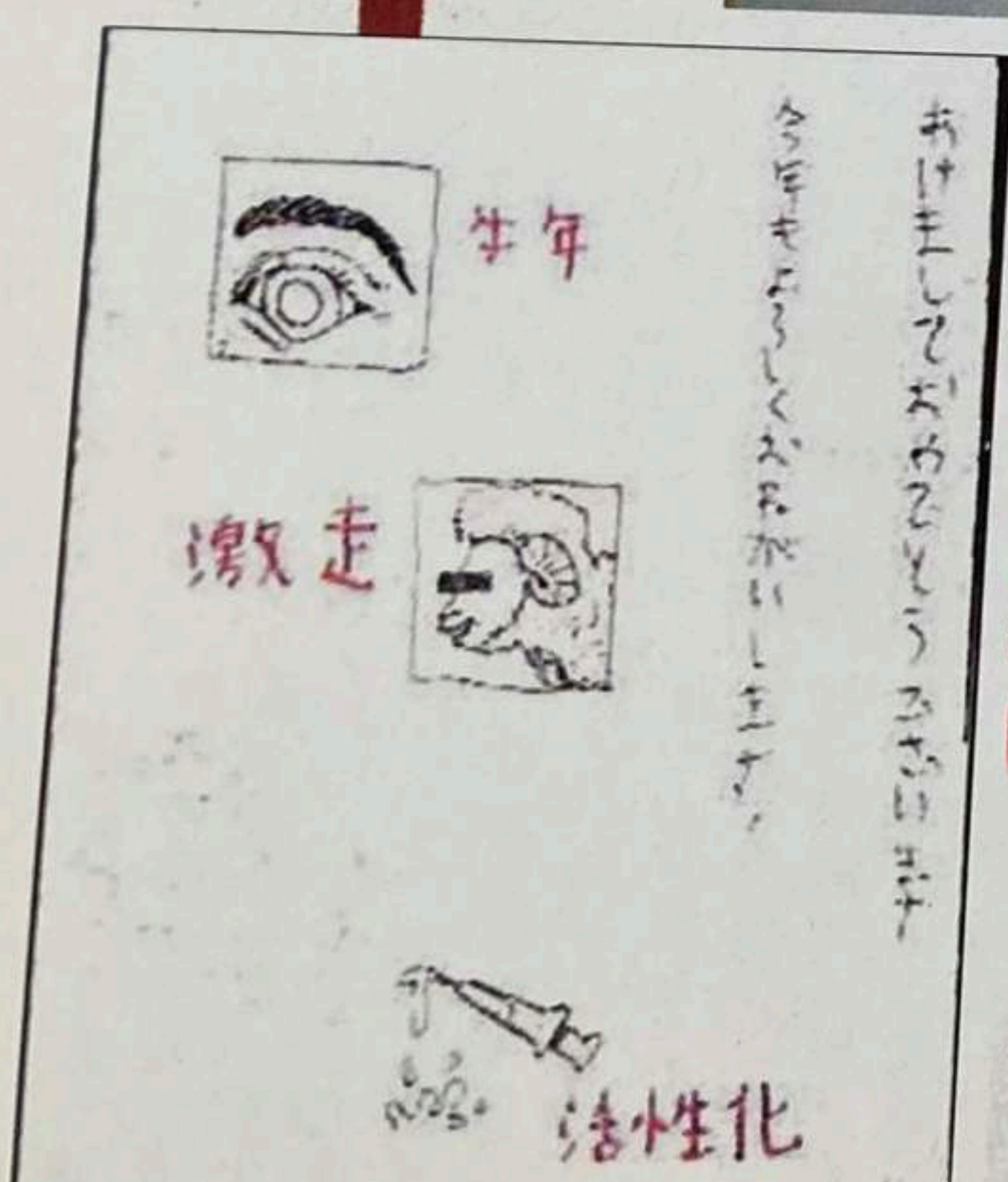
1997年、まず数ヶ月にわたって、数人の小学生がハンマーで殴られる事件が発生。さらに5月には小学生の少年が絞殺された上に首を切断、その頭部を市内の中学校の正門に置くという猟奇性が話題を呼んだ。

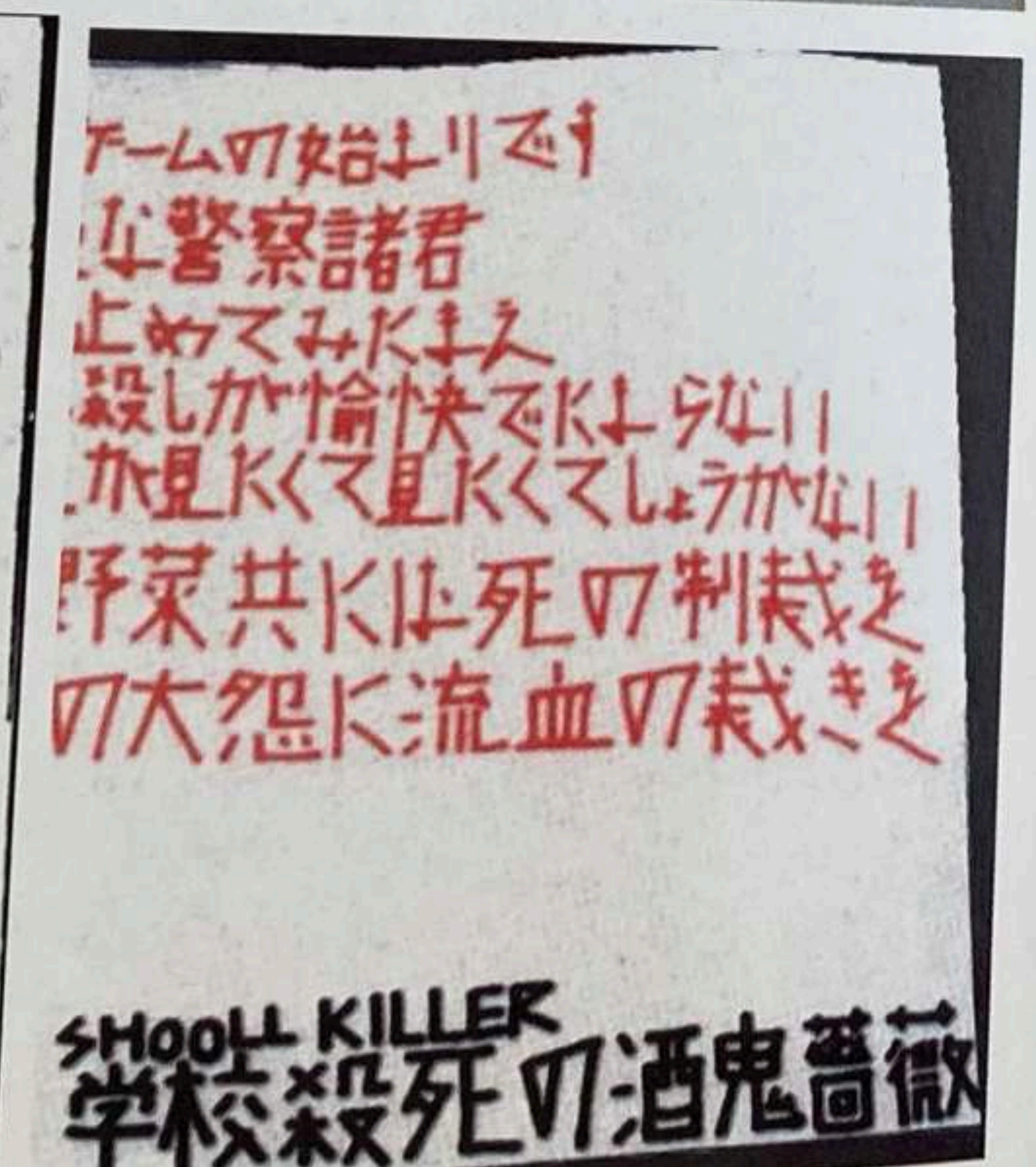








# のれん切り裂き女




夜更け、とある飲食店の前に1人の老婆があらわれ、手にしたハサミでのれんをザックリ。まこと意味不明の行動だが、この老婆、同じ行為を何度もくり返しているというからおだやかでない。映像は、被害を受けた店主が設置した監視カメラが記録したものである。

この映像が決め手となり、老婆は器物損壊で逮捕された。取り調べに対しては「飲食店が改装したら自分の家の道にヒビが入った」と述べた。





## 殺人鬼の描いた絵3
# チャールズ・イング



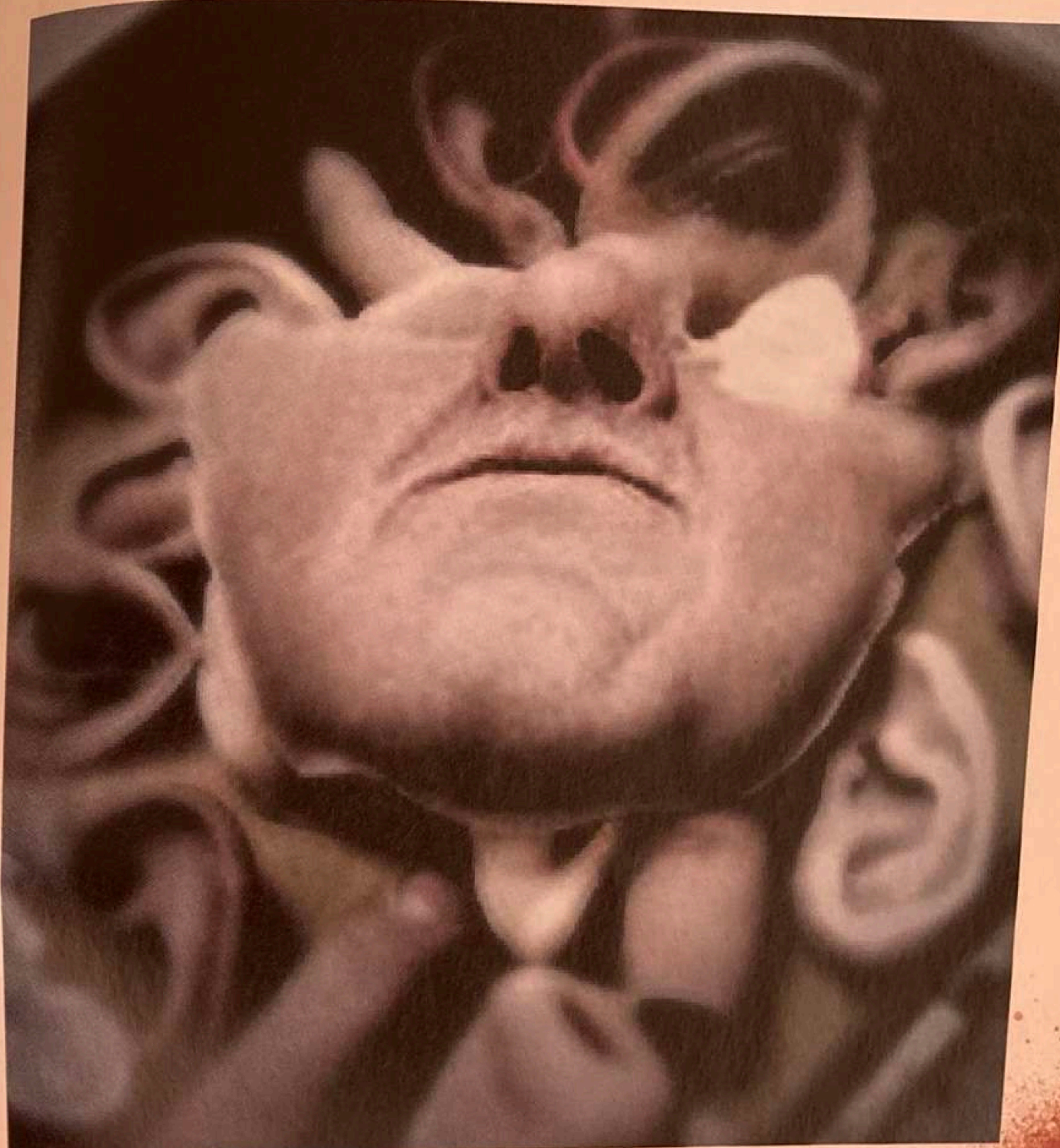





狼が叫び金魚がたわむれる、穏やかな自然の風景。しかし、この平和な絵の作者は、1985年にサンフランシスコを震え上がらせた連続強姦殺人犯、チャールズ・イングである。

香港の裕福な家庭に生まれた彼は、18才で渡米すると、生来のサディズムを爆発させ、当時住んでいた農場に拷問用の部屋を作成。近くで誘拐してきた女性をそこで拷問し、チェーンソーでバラバラに。男に対しては、地雷や杭などを仕掛けた農場に逃がし、その後で人間狩りをして楽しんだ。泣き叫ぶ母親の前で、赤ん坊を殺したこともあった。

# 殺人犯が変装に使ったゴムパーツ

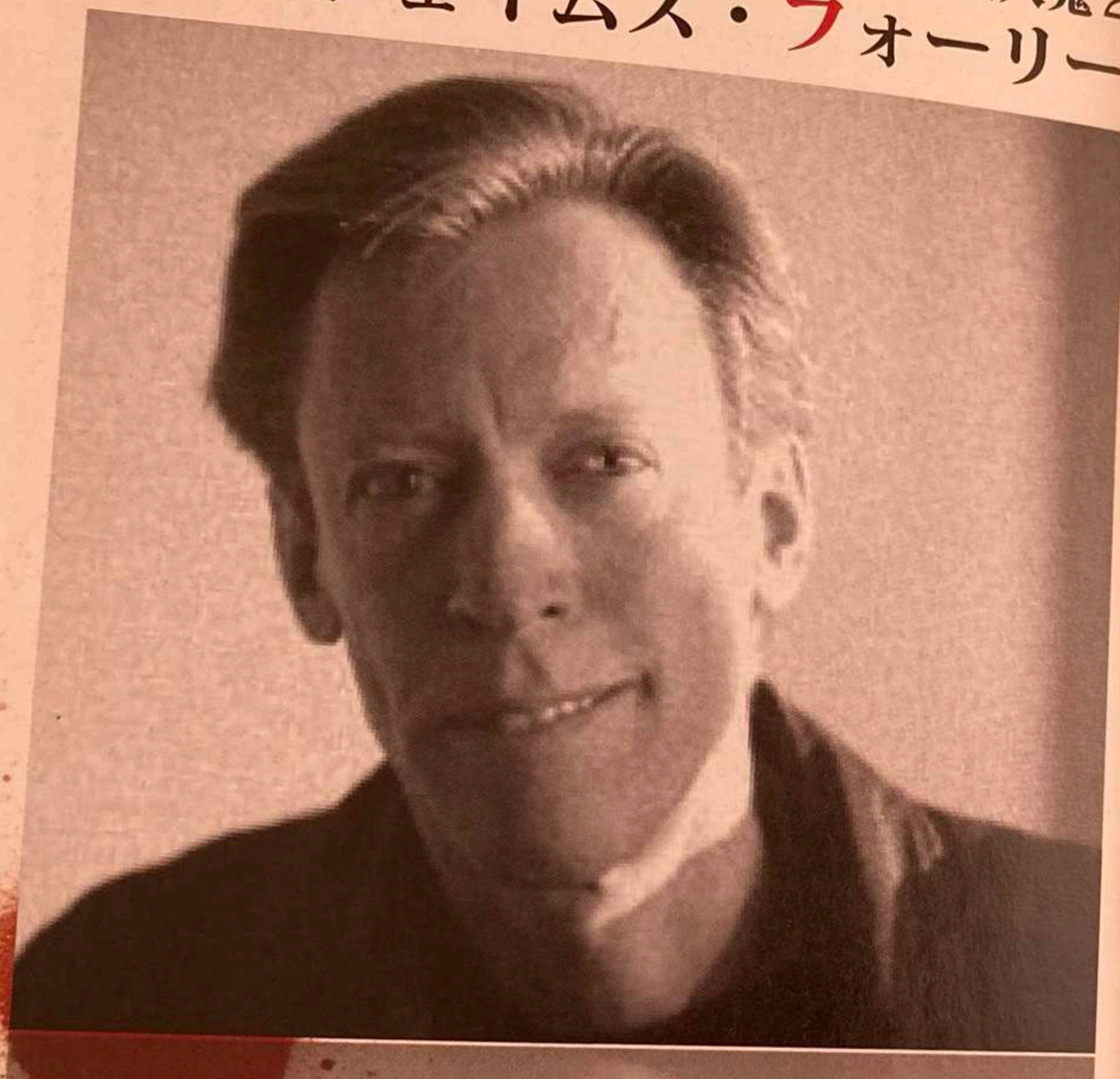


1996年、ジョセフ・ワトソン（33歳）は、2年間勤めた郵便局で銃を乱射。駆けつけた警察官1名と諸君8人を射殺。数千ドルを持って逃走した。事件後、彼の部屋を捜索すると、写真のような人体パーツをかたどったゴムが大量に発見された。この男、実は元々映画のメイクアップアーティストだったが、そのうち「自作したフェイスマスクで顔を隠せば、どんな犯罪をしてもバレないはずだ」と思い立ち、大量のパーツを隠し持っていたという。ちなみに、郵便局の乱射事件後も、ワトソンは変装して逃げまくったが、ゴムの質感を怪しまれてすぐに逮捕されている。





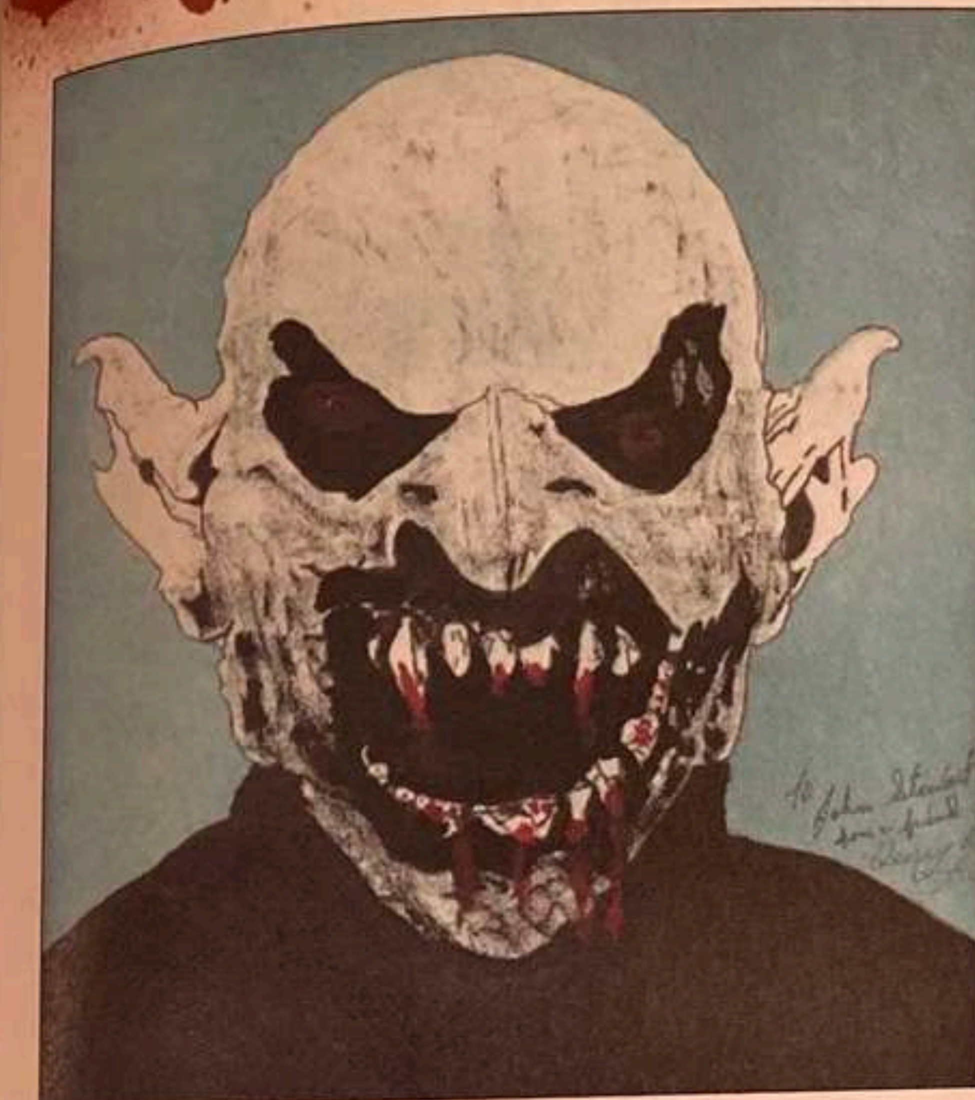
## 笑う殺人鬼2
# ジェイムズ・フォーリー

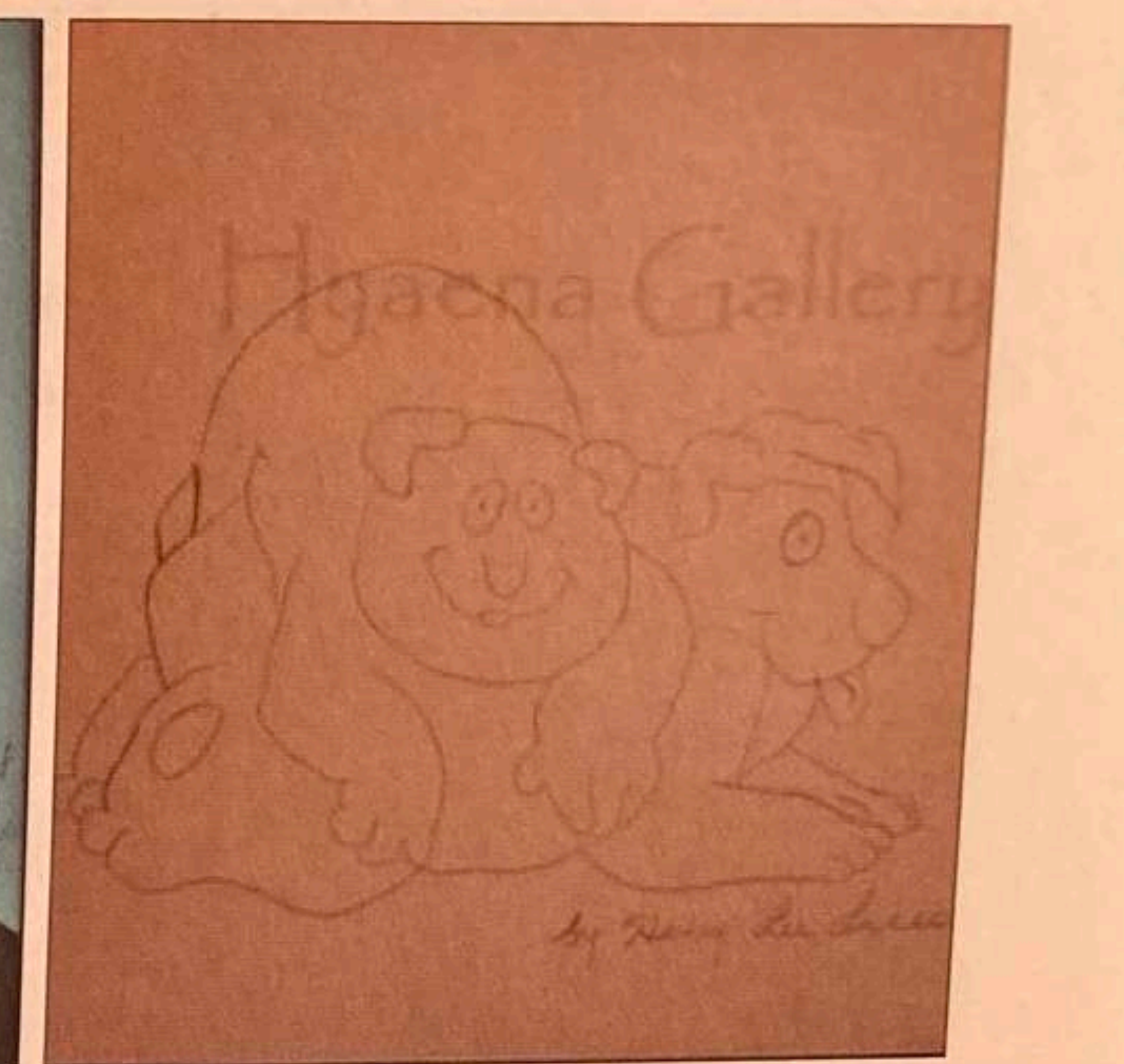


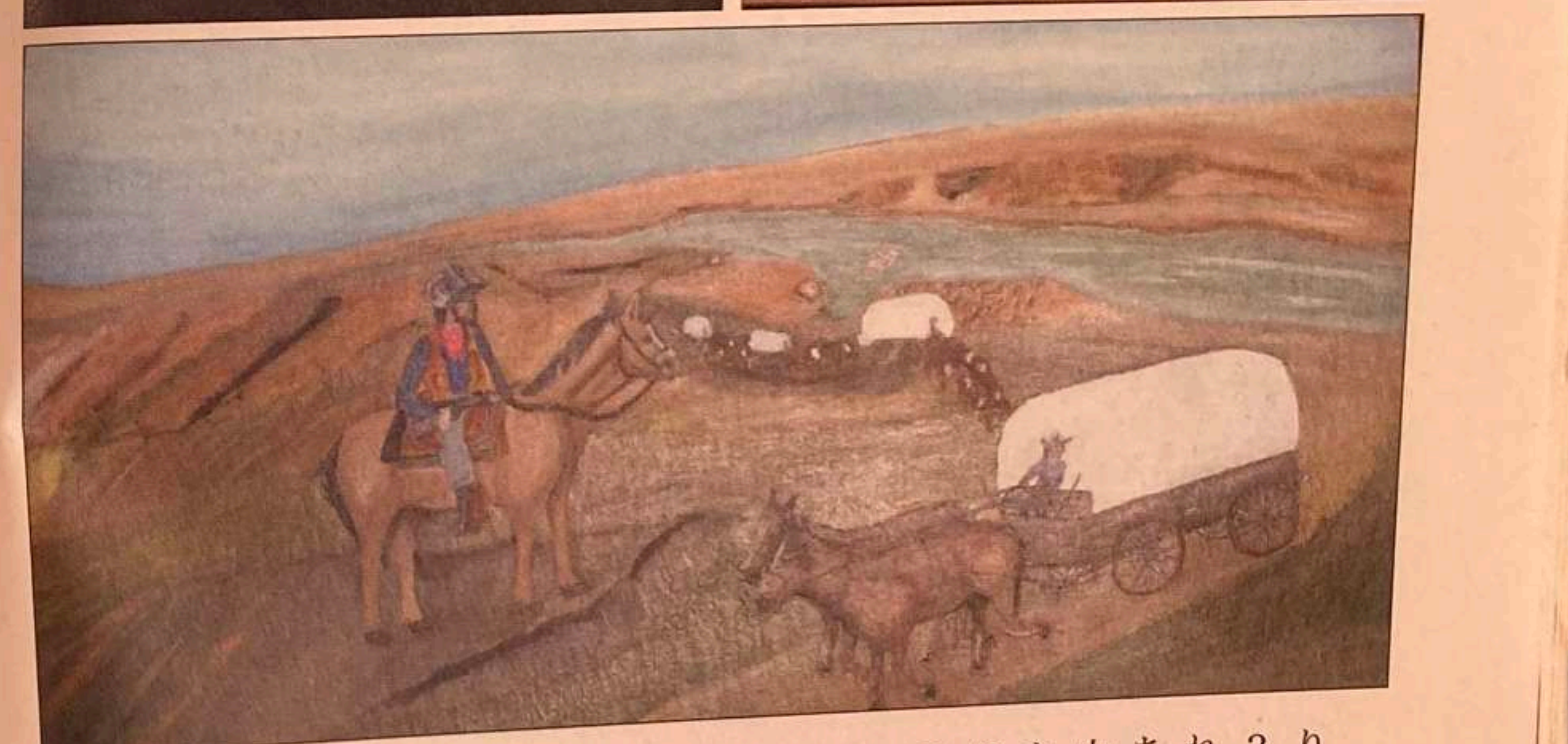
警官でありながら、13人の女性を殺した連続殺人鬼である。手口は、売春婦を検挙するフリをして自宅まで連行。ナイフでメッタ刺しにした後で、死体を犯して楽しんだ。

逮捕後、ジェイムズの部屋からは、死体とまぐわうシーンを撮影したビデオが大量に押収された。公判では「死体でないと興奮できないから仕方ない」と主張し、終始ニヤニヤと笑い続けた。

# ヘンリー・ルーカス





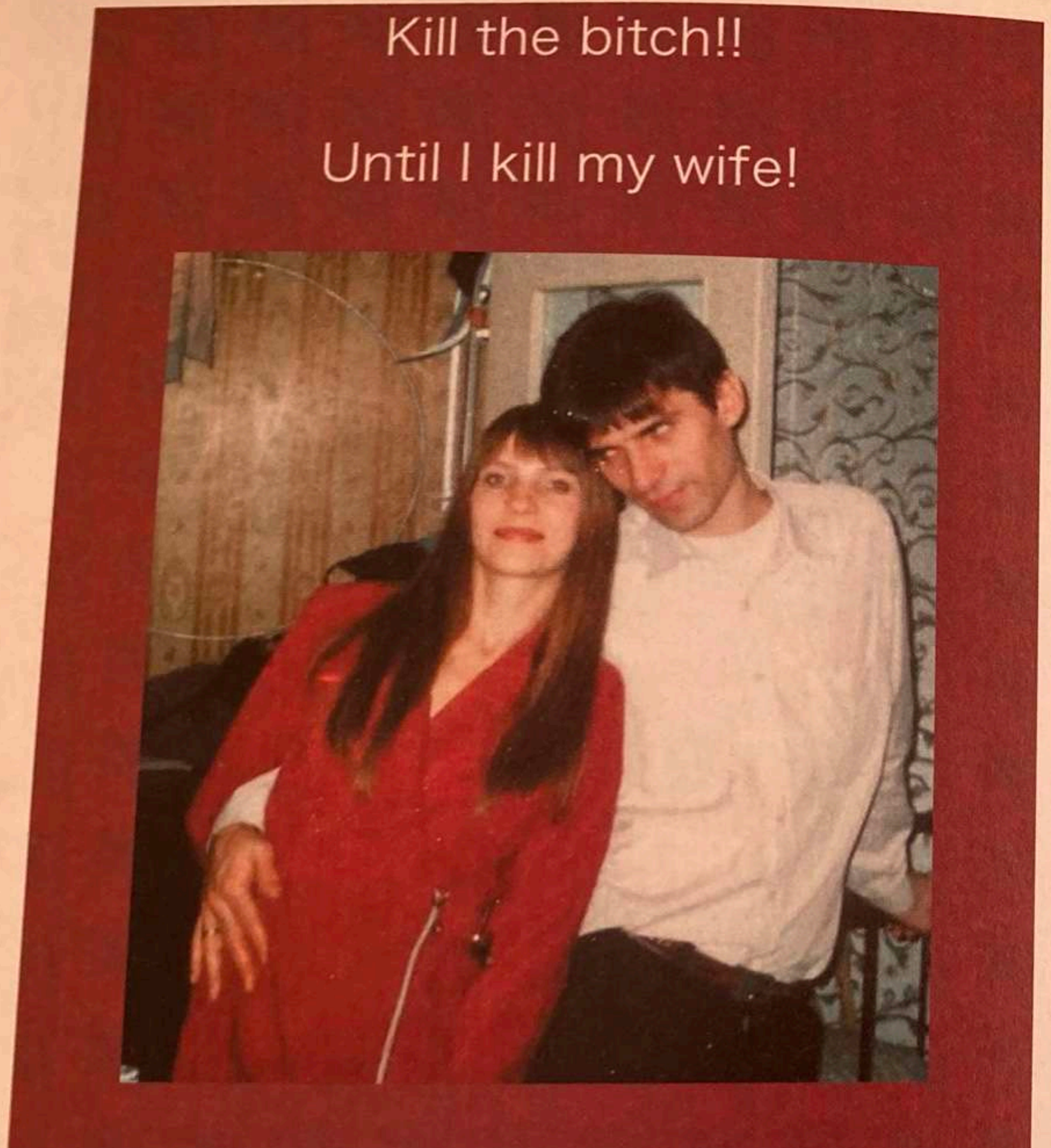


全米17州を旅しながら手当たり次第に人を殺して回り、実に300人以上を手にかけた言われる史上最悪の殺人鬼の1人。あまりに人を殺したために、獄中のヘンリーにFBIが犯罪心理を尋ねにきたほど。このエピソードは、トマス・ハリスの作品に登場する連続殺人者、ハンニバル・レクターのモデルに採用されている。インタビューに対しては、「殺人は息をするのと同じだった」や「人間？　それは俺にとってなんでもなかった、ただの白紙だった」などと発言。2001年に心臓発作で死ぬまで、謝罪の言葉はなにもなかった。





# 妻殺しを予告した夫のサイト




ご覧の画像は、93年ごろインターネット上に現れた「私が妻を殺すまで」と題されたページである。サイトにはトップページしかなく、下の方には「妻を殺すまでの残り時間↓20日」との記述があった。

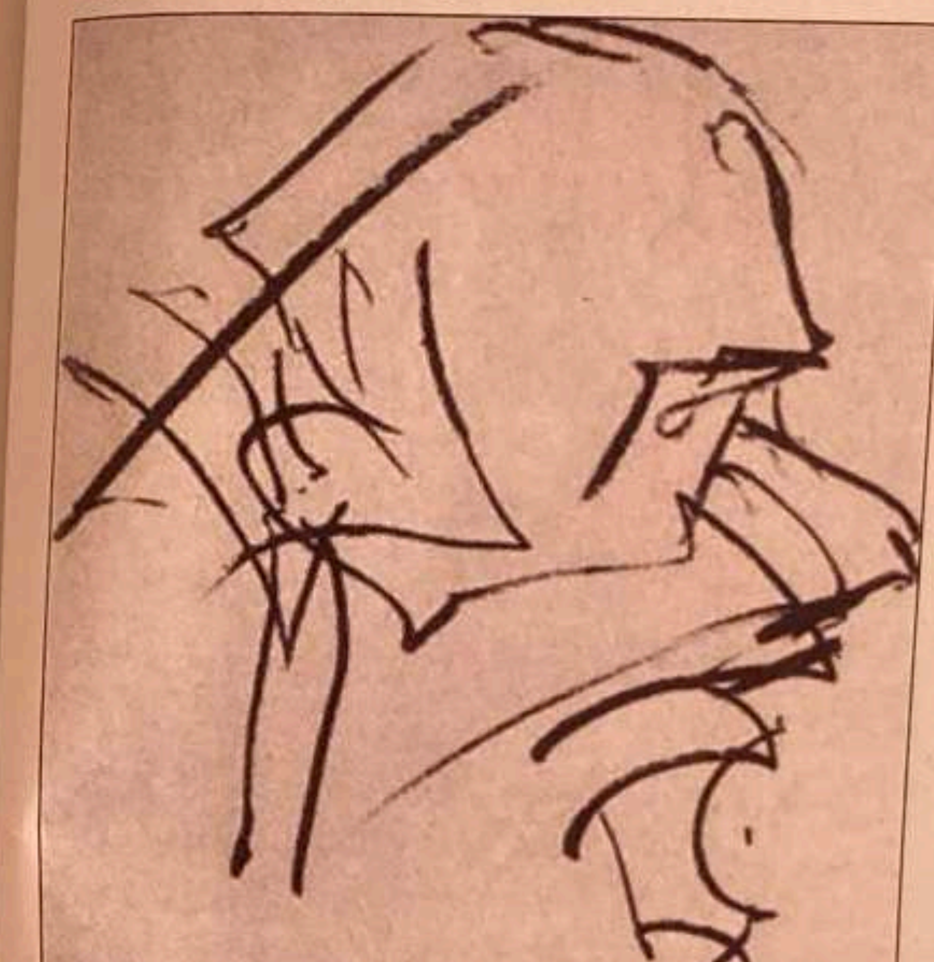
誰もがイタズラかと思ったが、サイトが開設された1カ月後、事件は起きる。トップ画像と同一人物と思われる女性が、イギリスの海岸で遺体となって発見されたのだ。女性は25才の看護婦で、首にはヒモで絞められた跡が残っていた。ただし、この女性は結婚などしておらず、サイトとの因果関係は不明のまま。画像内で彼女の腰に手を回している男についても、親しい人間の中には該当する男は見つかっていない。

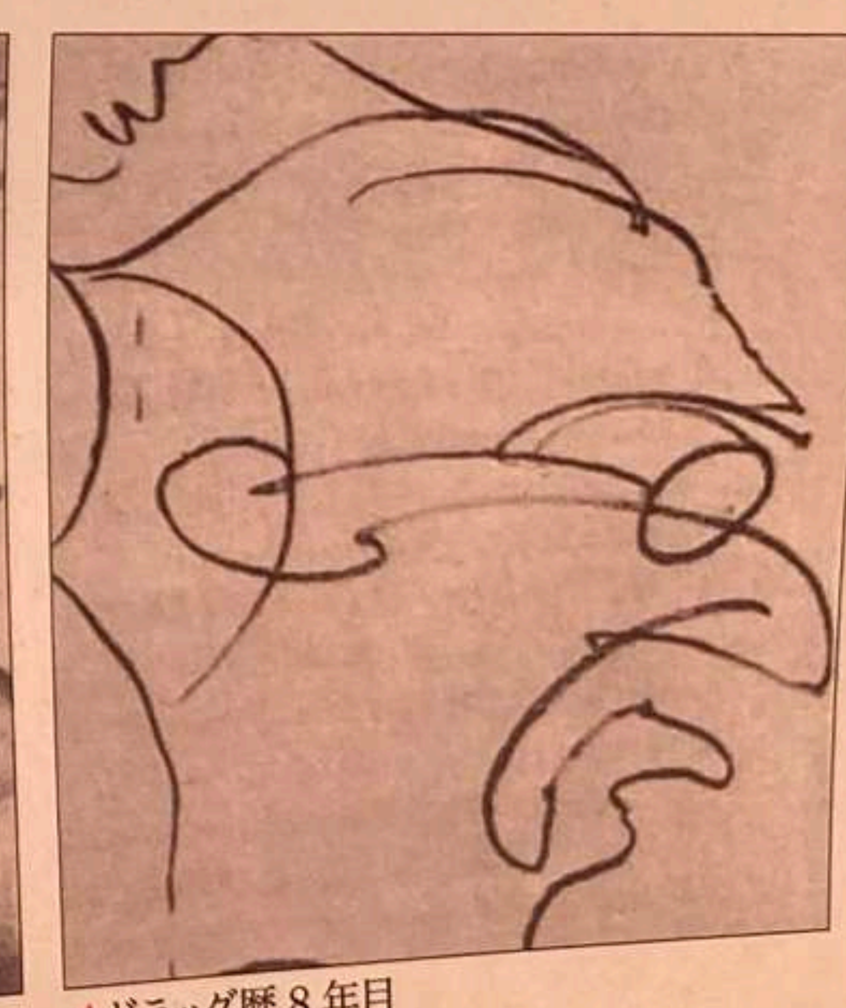
# LSD中毒の画家、その作風の変化


▲ドラッグ中毒になる前の作風


▲ドラッグを始めた頃

アメリカ人画家コーリャ・ニールセンは、人物画の大家として知られていたが、一方で有名なLSD（幻覚剤）の常習者でもあった。画像は、その彼が脳みそをドラッグにむしばまれ、徐々に絵柄が崩壊していく過程である。晩年、ニールセンは、絵が売れなくなったのを悲観し、自殺している。


▲ドラッグ歴5年目

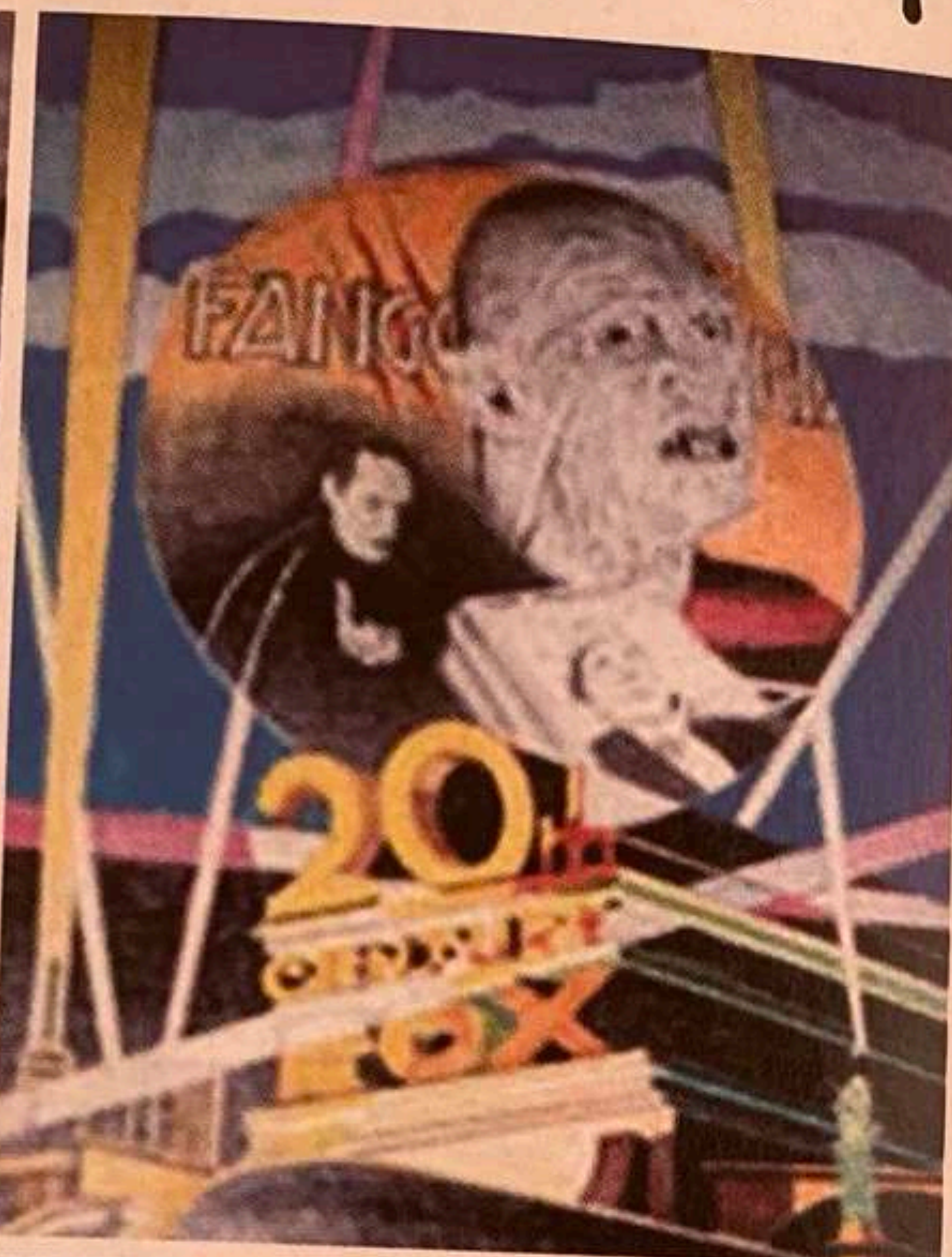

▲ドラッグ歴８年目

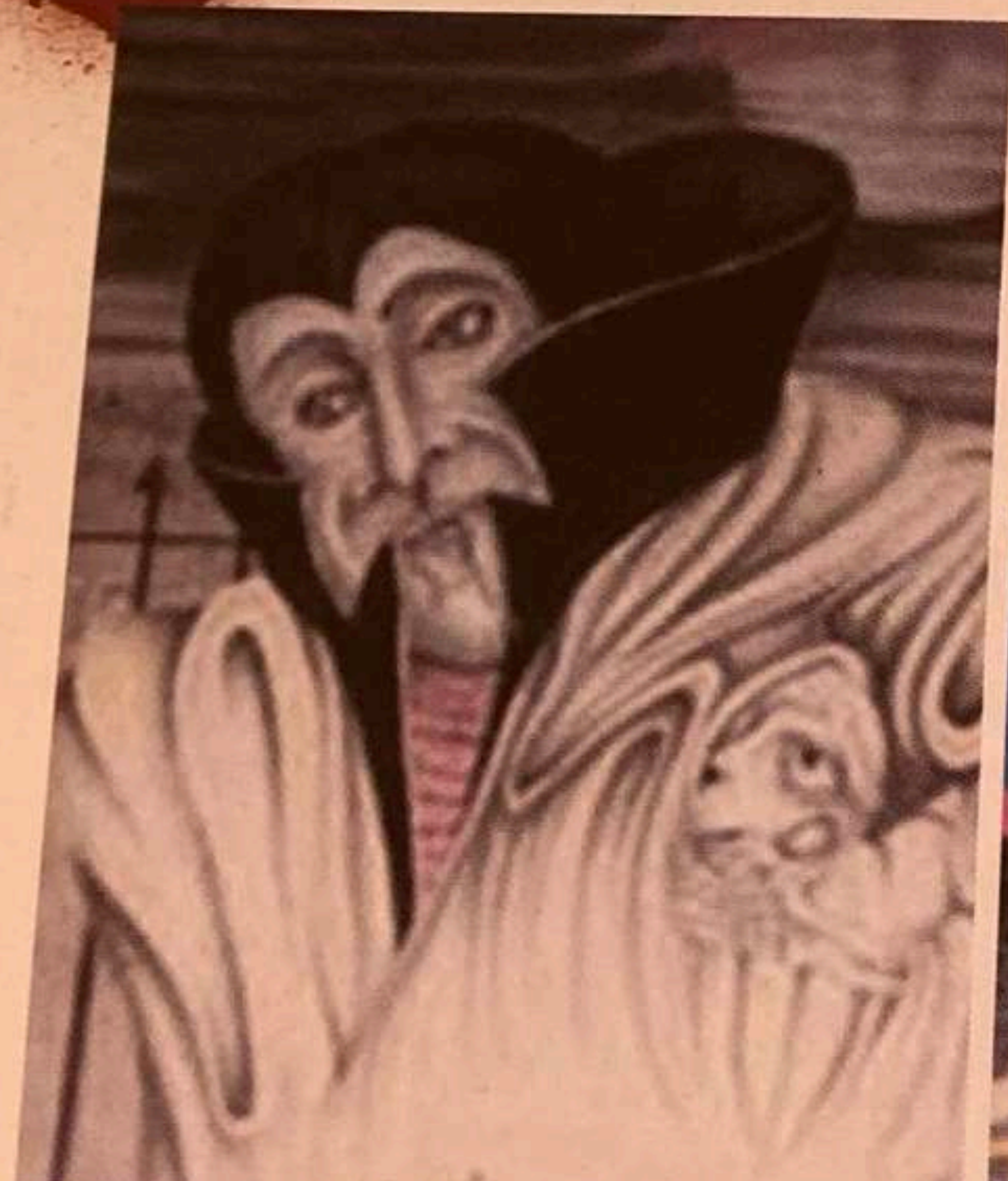

▲ドラッグ歴９年目



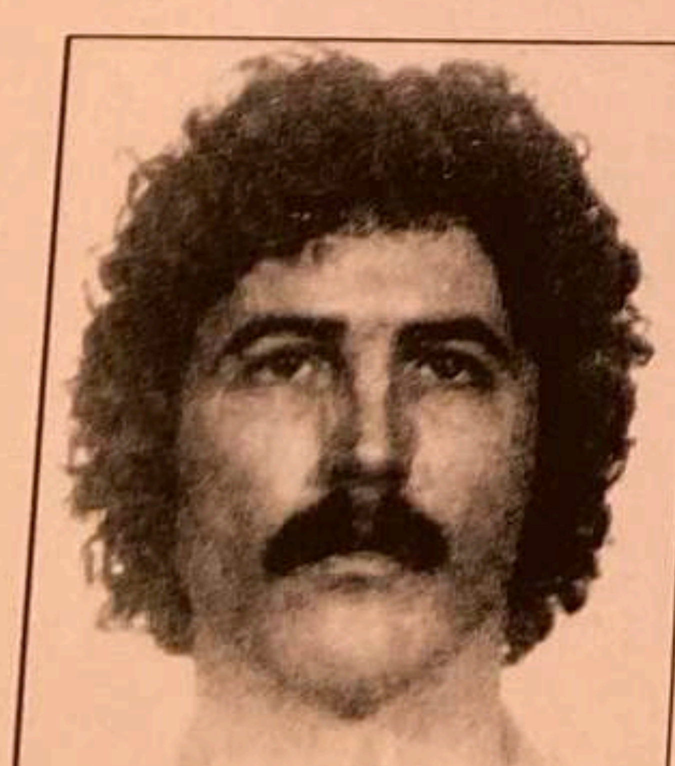


## 殺人鬼の描いた絵５
# ケネス・ビアンキ



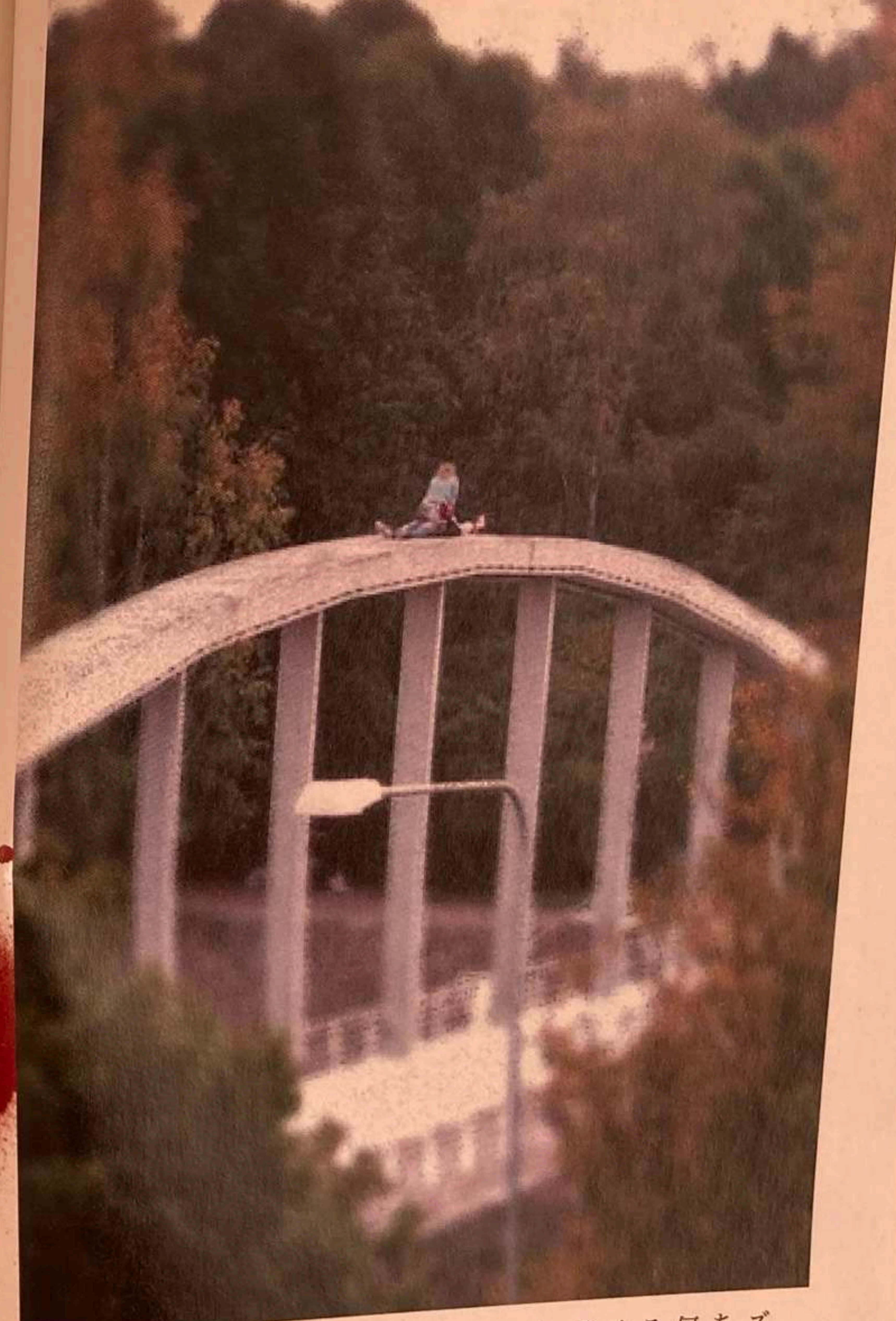







1979年、ワシントン州で2人の女子大生を強姦、絞殺して逮捕された。逮捕後、警察の調べで、わずか4ケ月の間に12人もの女性を同じ手口で殺した殺人鬼であることが判明したが、本人はふてぶてしくも「記憶喪失」を主張。検察が出した証拠でウソがバレると、今度は「多重人格」だと言い始めた。写真の絵は、ビアンキが「別の人格が描いたもの」として提示したものだ。ちなみに、この男、いまだ存命中である。

# 橋の上の殺人

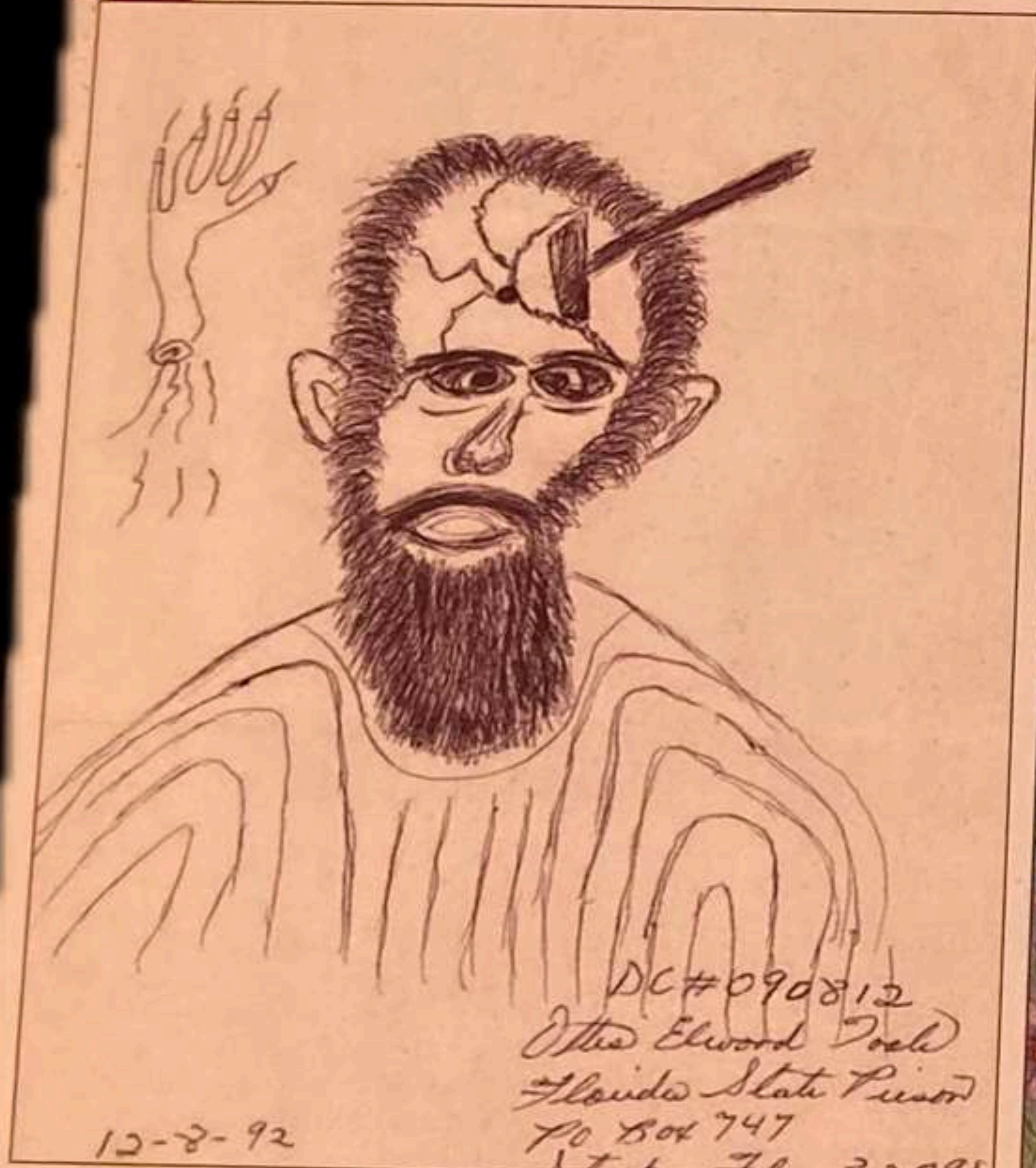


アメリカ・ミズーリ州のとある橋の上。何気なくカメラを向けた地元民は、思わず腰を抜かした。アーチの上に横たわる男に女がまたがり、首を絞めていたからだ。写真が決めてとなり女はすぐに逮捕されたが、なぜ橋の上で殺人に至ったかについては、かたくなに口を閉ざしたままである。

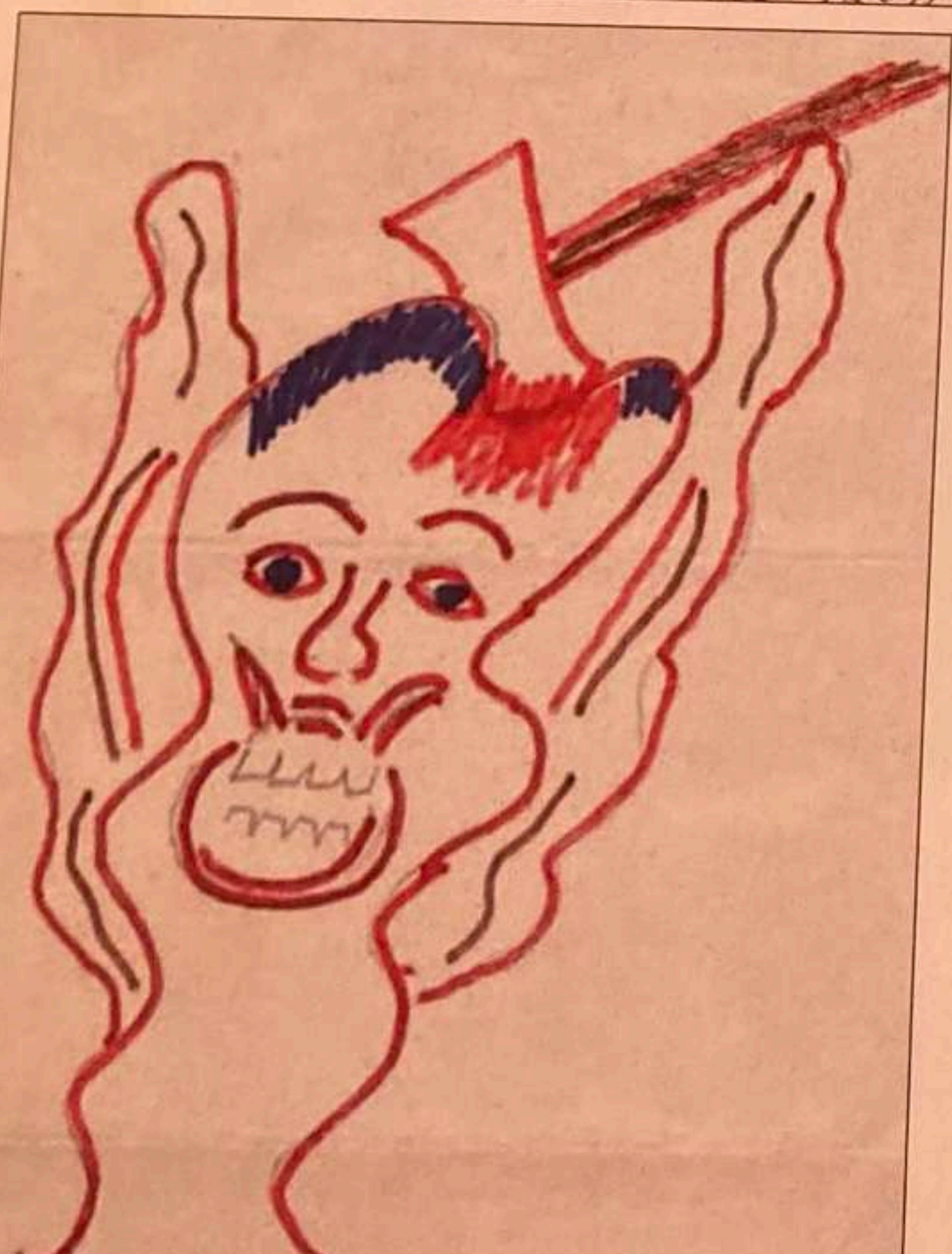


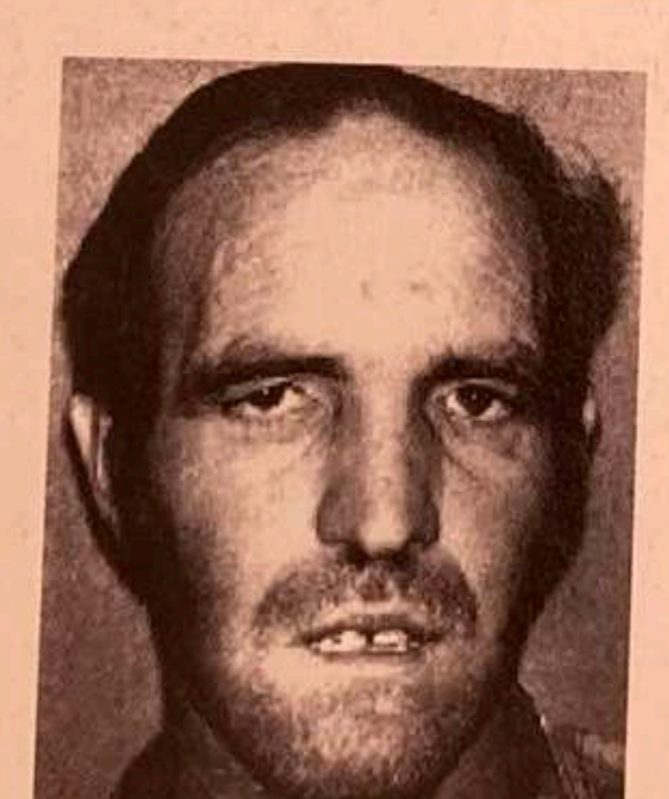


## 殺人鬼の描いた絵6
# オティス・トゥール



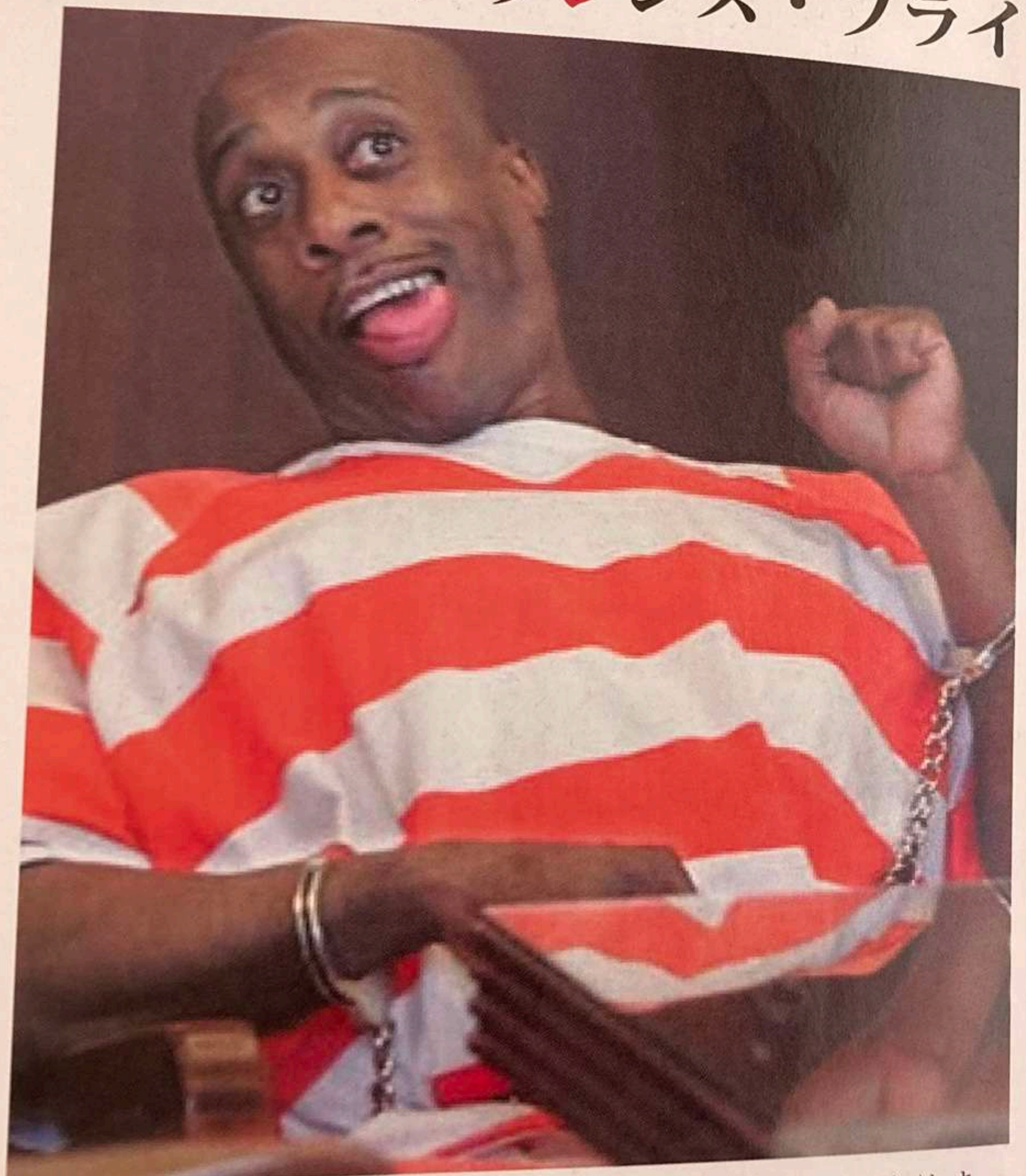




アメリカ全土を旅しながら、男女を手当たり次第に殺していった超凶悪殺人犯である。死体や幼児とのセックスに興味を持ち、女装趣味があり、一部の死体はディナーとして自らの胃袋で処分していた。１９９６年、裁判の途中で肝硬変により獄死。

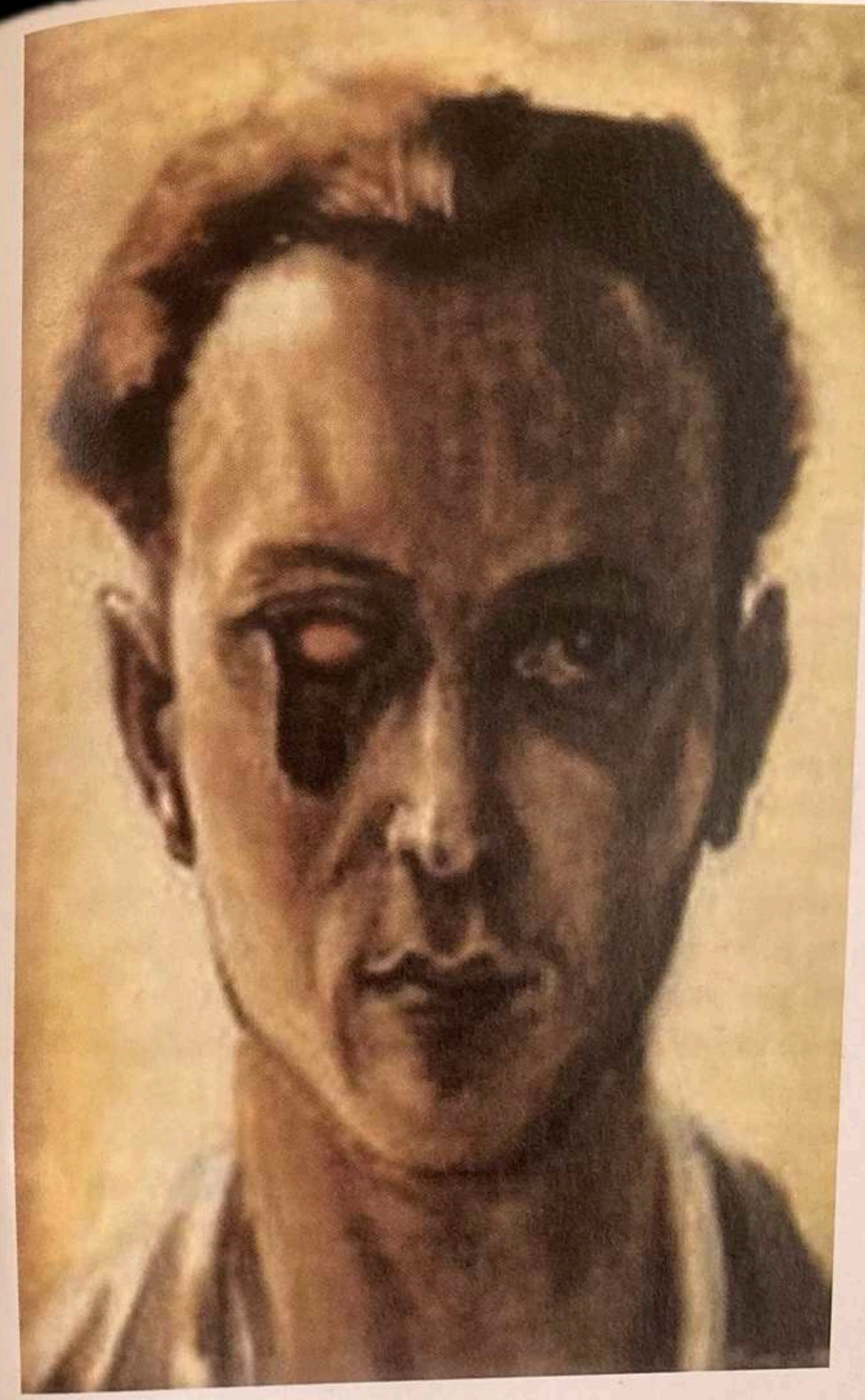
## 笑う殺人鬼3
# クラレンス・フライ



手錠をかけられたままおどけるこの男は、クラレンス・フライ(46才)。2005年にかつて彼女だった女性を孫の目の前で殺害し、逮捕された。

ご覧の写真は、その公判中にいきなり笑い出したフライを撮影したもの。裁判官に注意されても動じず、さらにポケットからキャンディを取り出し、なめ始めたという。

もちろん判決は死刑。その際、裁判官はフライに対して「お前は純粋なサイコパスだ。良心を持ち合わせていない」と言った。



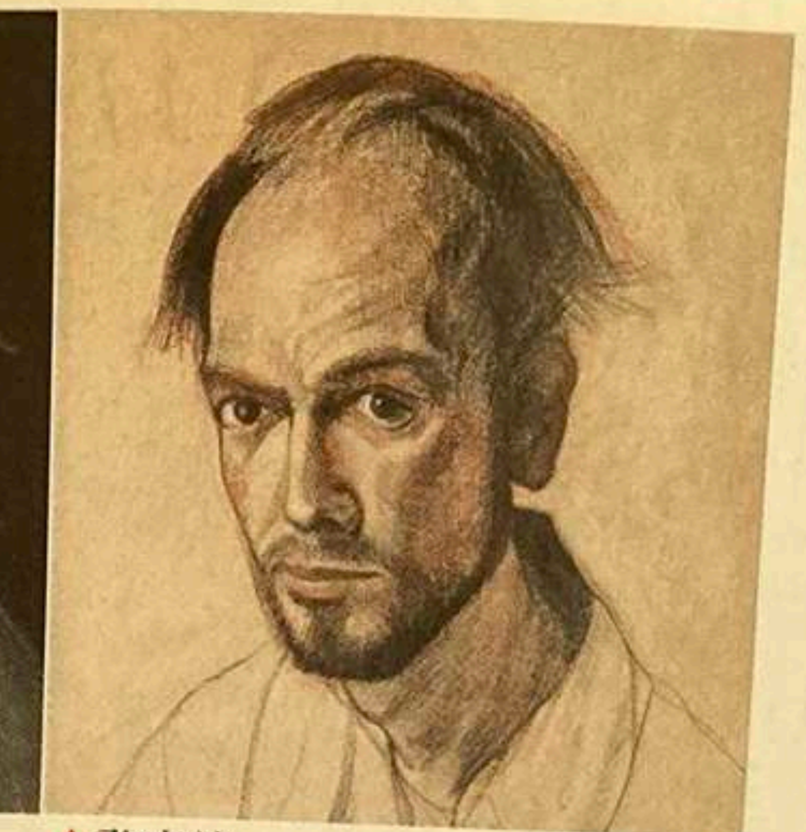
# 自画像の通りに自分の目をくりぬいた画家

1950年代に活躍したルーマニアの画家ヴィクトル・ブローネルは、50才のときに何故か右目がくりぬかれた状態の自画像を描いた。絵の真意を問われたブローネルは、「これに意味なんてない。ただのお遊びだ」とだけ答えたという。

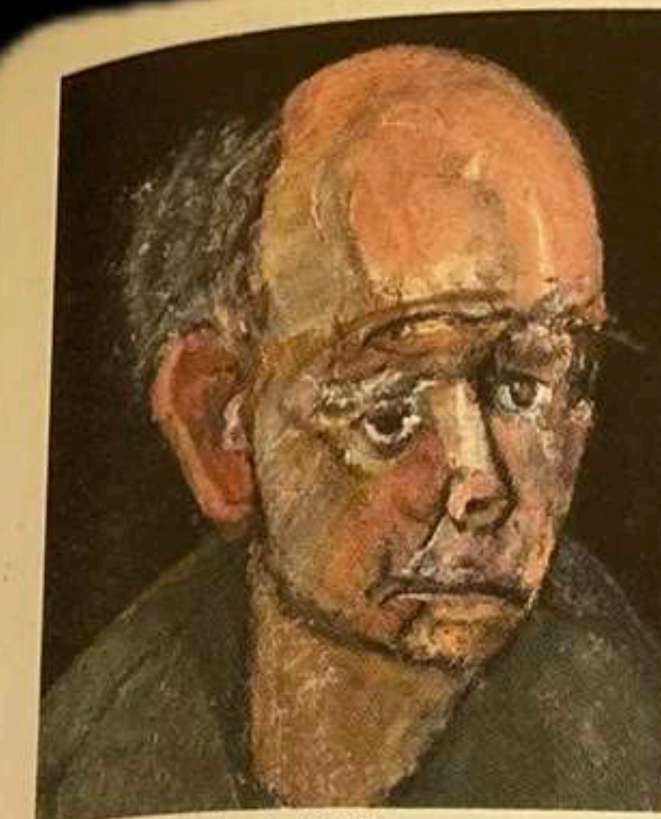
が、その7年後、事件は起きる。自画像に描いた通り、自宅で己の右目をドライバーで貫き、眼球をえぐり出したのだ。ブローネルは、そのまま精神病院に運ばれたため、なぜ過去の自画像に添って行動したのかは不明のままだ。



# 認知症を患った画家の絵



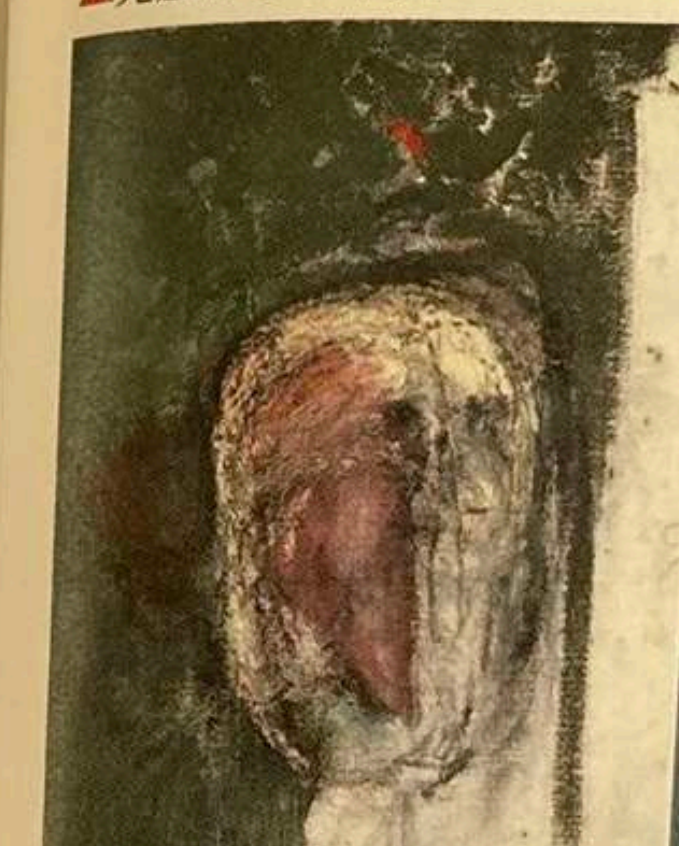
▲発症前



▲発症から３年後



▲発症から４年後



▲発症から５年後

アメリカ人画家のウィリアム・ウテーメーレンは、１９９５年に認知症に罹患。そこで、彼は自分を見失わないように、ひたすら自画像を描き続けた。この画像は、その変遷である。



◀最後の作品



# 悪魔の妄想に取り憑かれた少女




▲エミリーに異変が起きた直後



▲暴れるエミリー

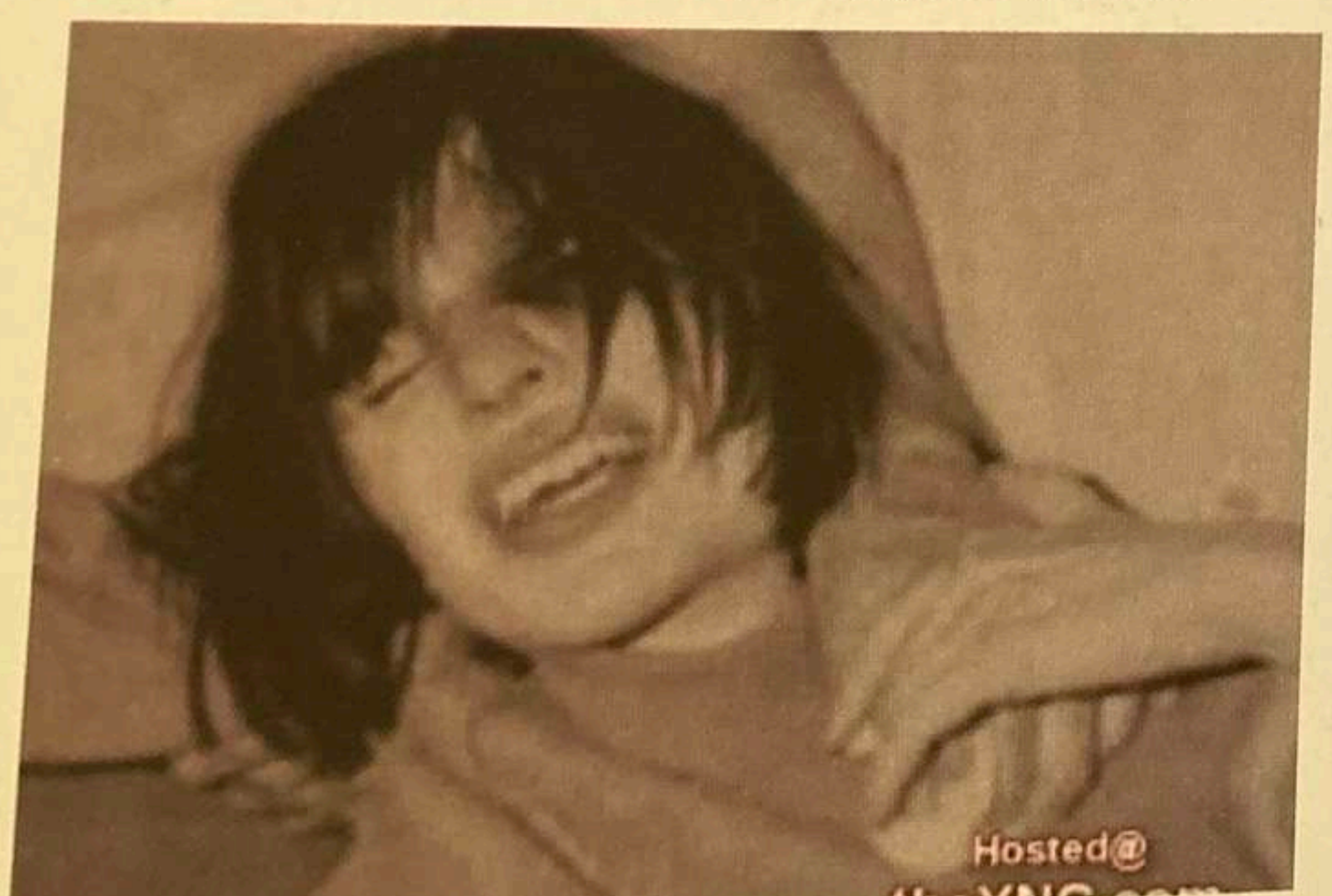


▲やがて満足に歩けなくなる



▲悪魔祓いを受けるエミリー

19才の女子大生が、ある夜、悪魔が憑いたとの幻覚に襲われる姿を描いた２００５年の映画「エミリー・ローズ」。この映画の元となったのが、ご覧の画像である。少しずつエミリーの表情が野獣のようになっていくのがよくわかる。この妄想にとらわれてから1年でエミリーは死亡した。



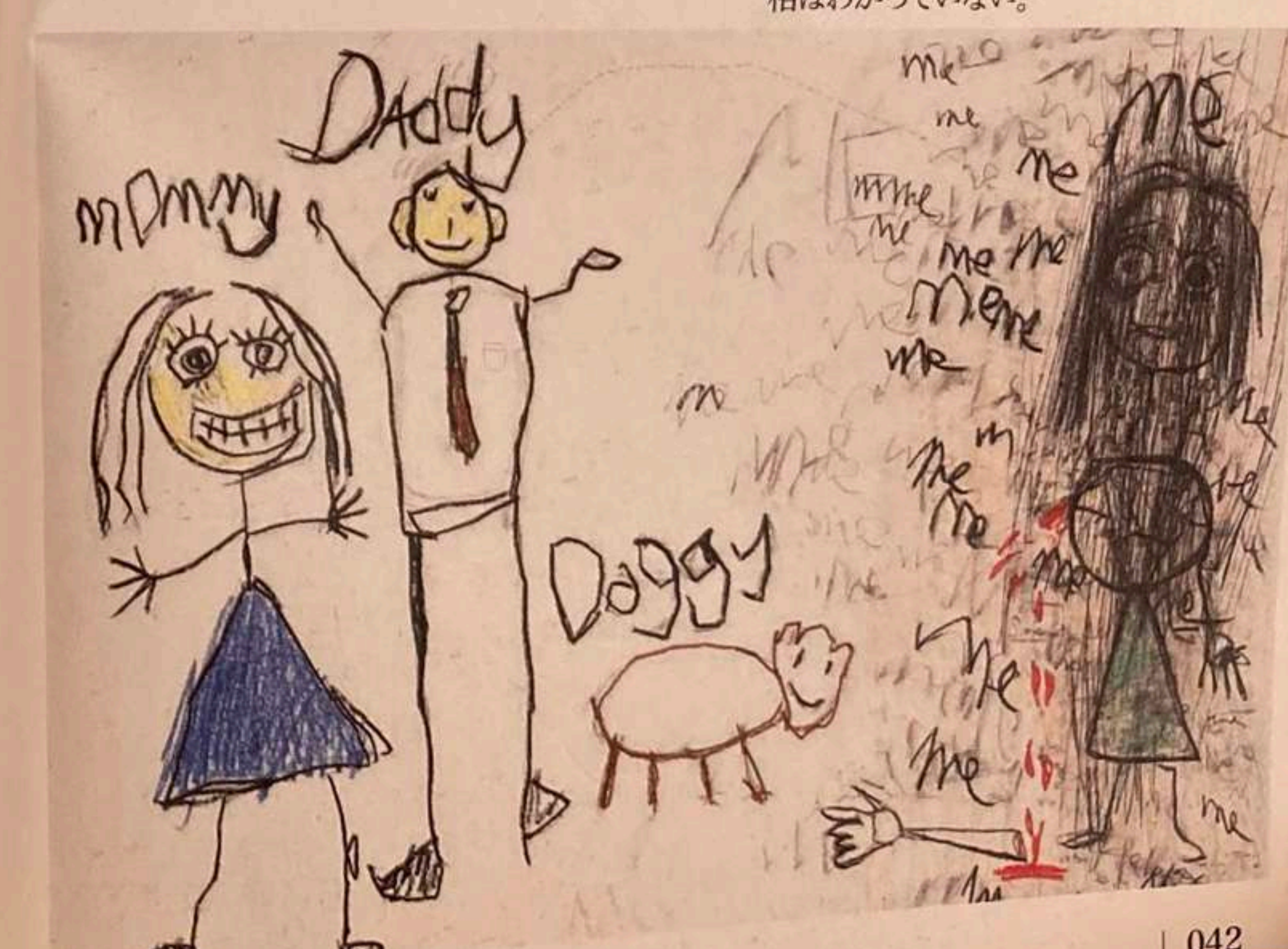

▲異変が最高潮に達した頃。この数ヶ月後にエミリーは死ぬ

# 自殺志願者の叫び




▲93年ごろ、某自殺系サイト（自殺を望む人間たちが集まるサイト）のトップに貼られていた画像である。サイトは95年に更新が途絶え、やがてサイトも消失した。

▼アメリカで自殺した4才の少女が、首をつる前に描き残したイラストである。この絵により、少女の両親には虐待疑惑がわき起こったが、2人は近所でも有名な善人として知られ、真相はわかっていない。





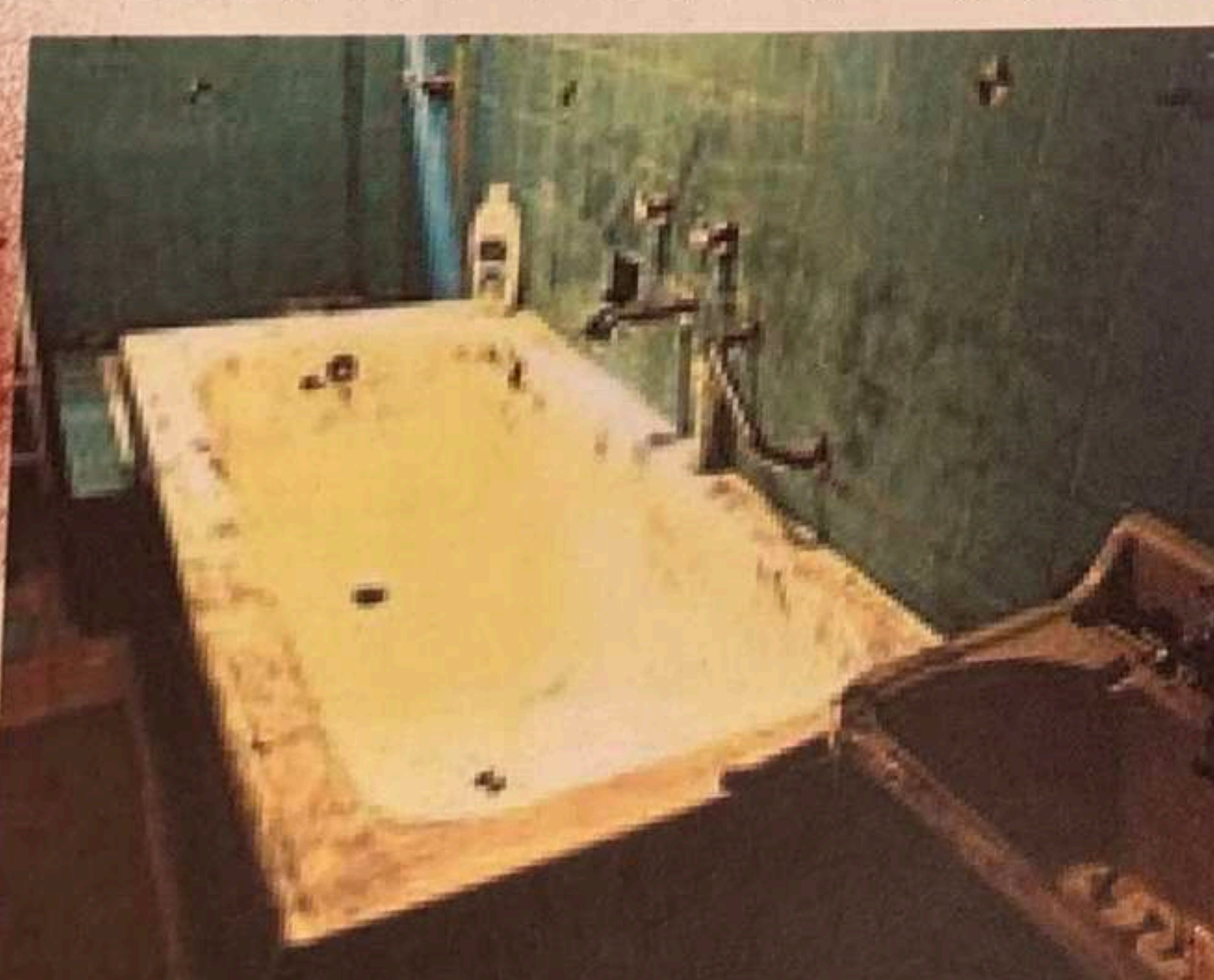



# アーミン・マイウェスの人間解体場



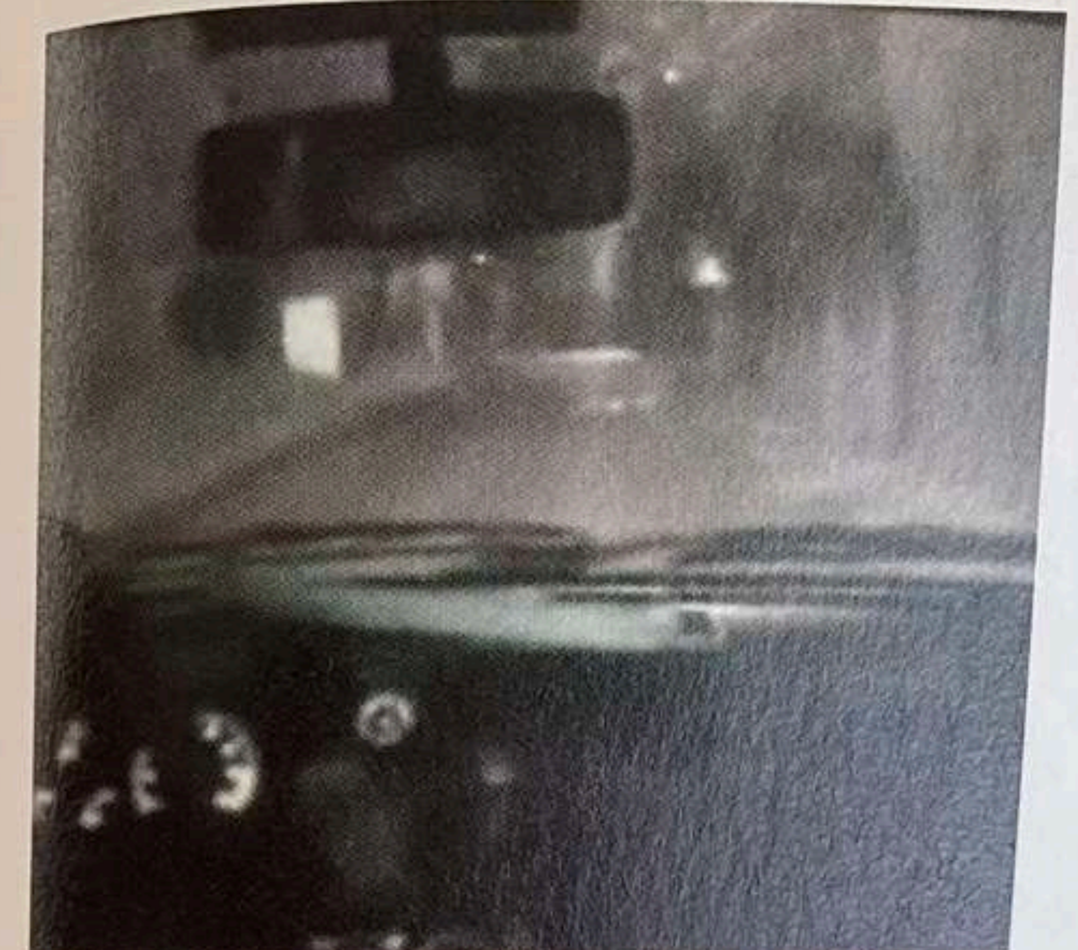
不敵にほほ笑むこの人物は、アーミン・マイウェス（43才）。2000年2月、インターネットで知り合ったバーンド・ユルゲンなるコンピュータ技術者を殺した罪で、8年半の懲役刑に問われた男である。

この事件が他と違うのは、殺人があくまで「同意」の元に行われた点だ。被害者のユルゲンは生粋のマゾヒストで、幼少のころから誰かに食べられて死にたいと望んでいた。一方、マイウェスの性癖はその逆で、一度でいいから人間を食べたいと願うような人間だったのだ。警察は「殺人は被害者の希望だった」として、殺人罪に問うことができず、現在も裁判所に判決の見直しを訴え続けている。



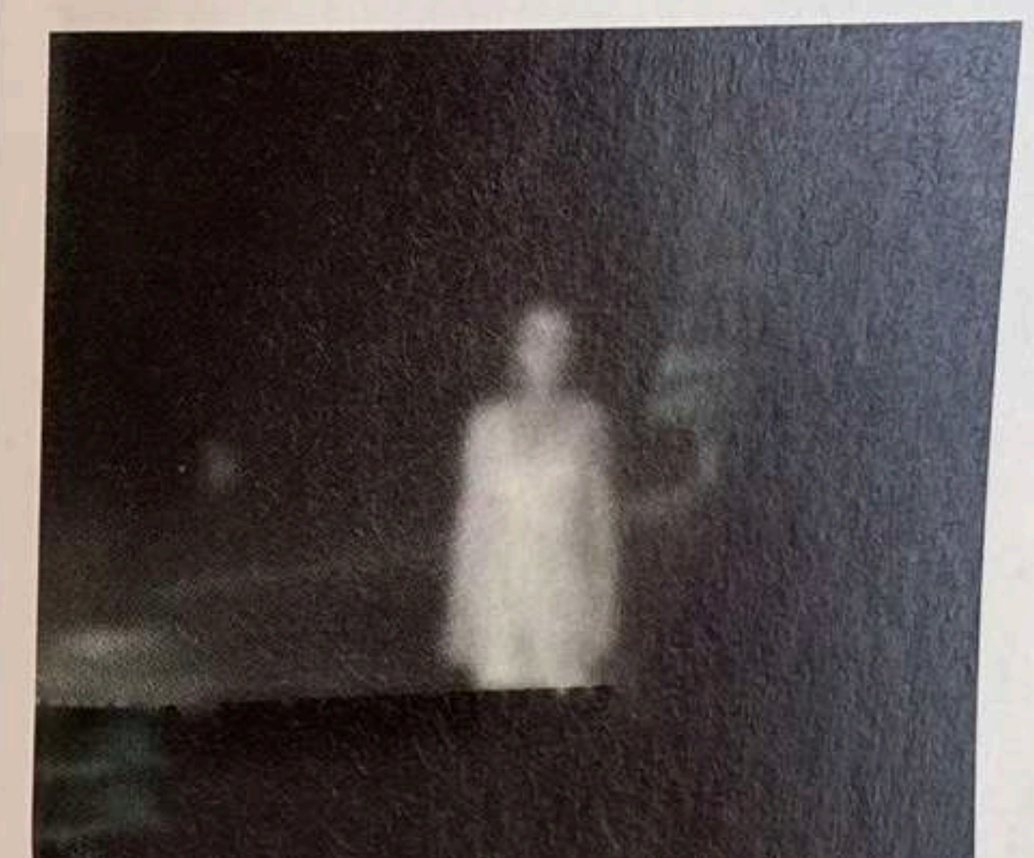
◀被害者の男性が解体された風呂場

# 恐怖のヒッチハイカー



▲深夜のドライブを後部座席から撮影

２００５年、ドイツ・ミュンヘンの田舎道で、1台の事故車が見つかった。車はボンネットが大破し、中からは3人の青年の遺体と、ビデオカメラが回収された。この動画は、そのビデオカメラに記録された、恐るべき事故の一部始終である。ビデオには、旅の途中で拾った女ヒッチハイカーの表情が急変し、いきなり3人に襲いかかる姿が映し出されていた。この女は、いまだ捕まっていない。



▲道ばたに1人の女が



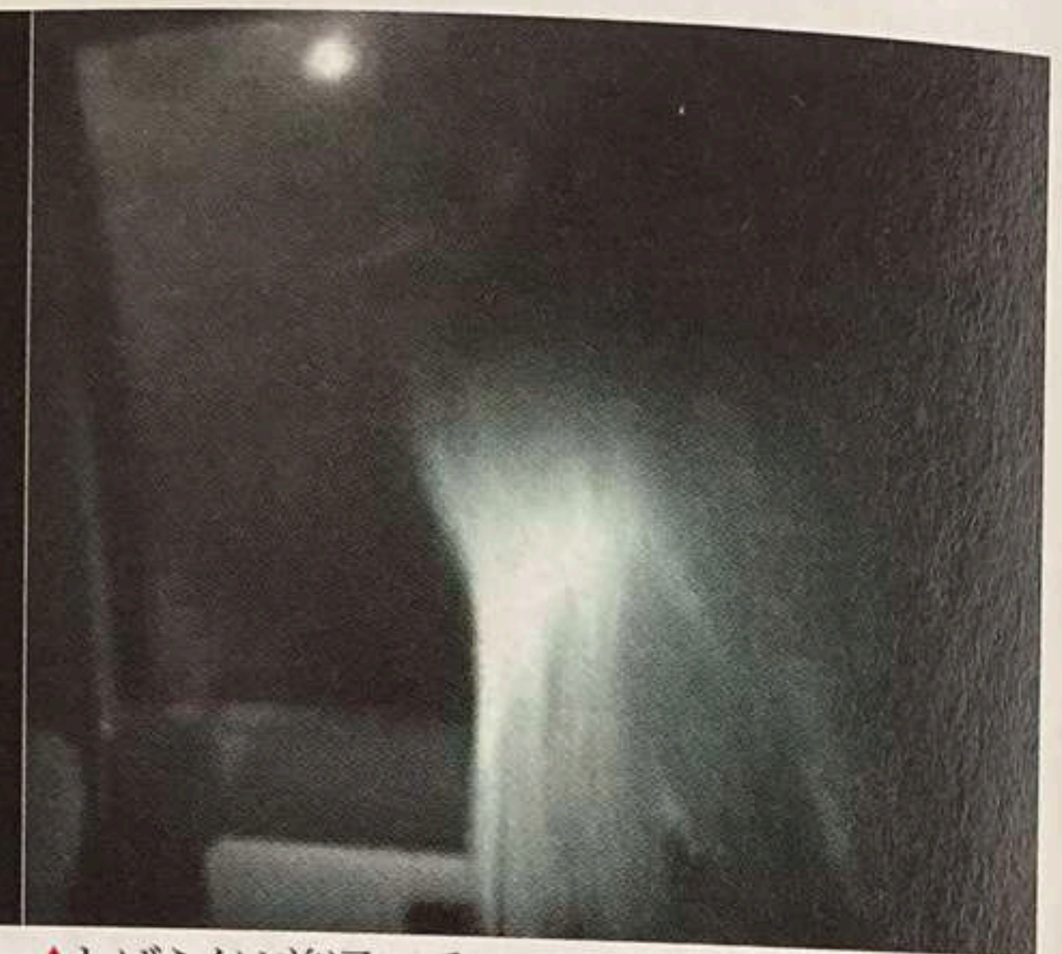
▲「近くまで乗せてくれませんか?」



▲女を乗せる3人







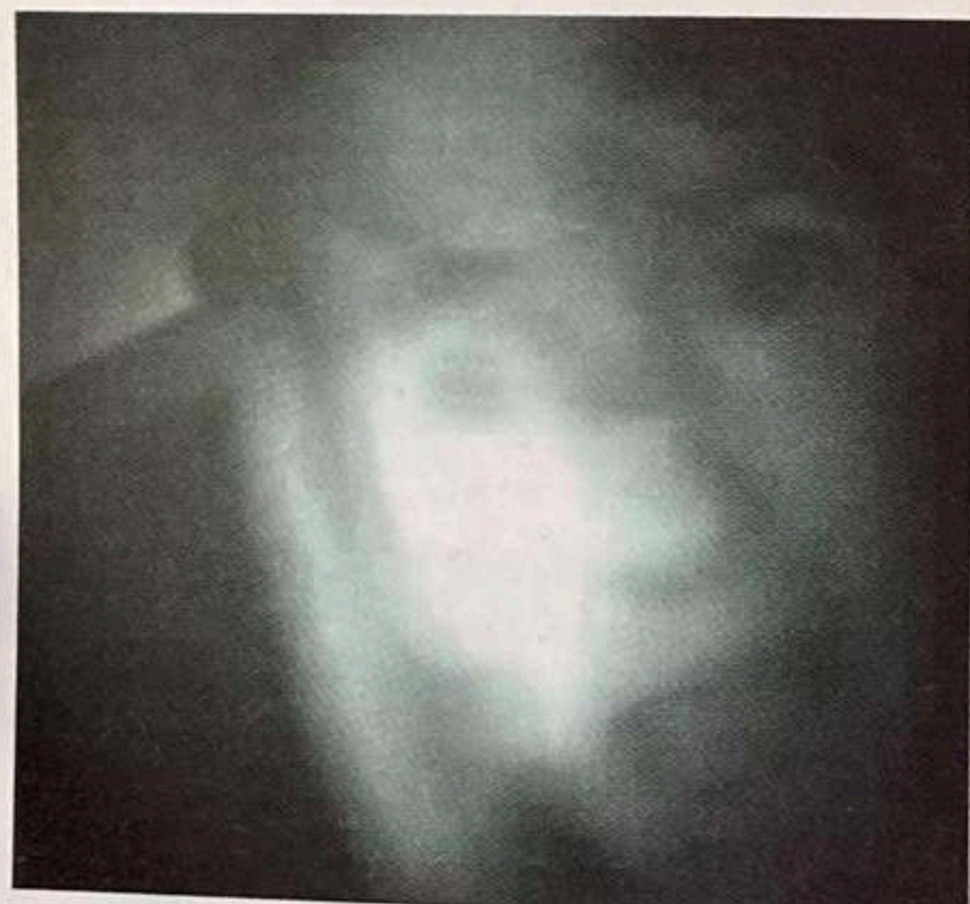
▲しばらくは普通に乗っていたが



▲女が急に苦しみ出す



▲急に女の表情が変わり…



▲カメラマンの男に襲いかかる



▲ビデオは車が転倒したシーンで終わっていた

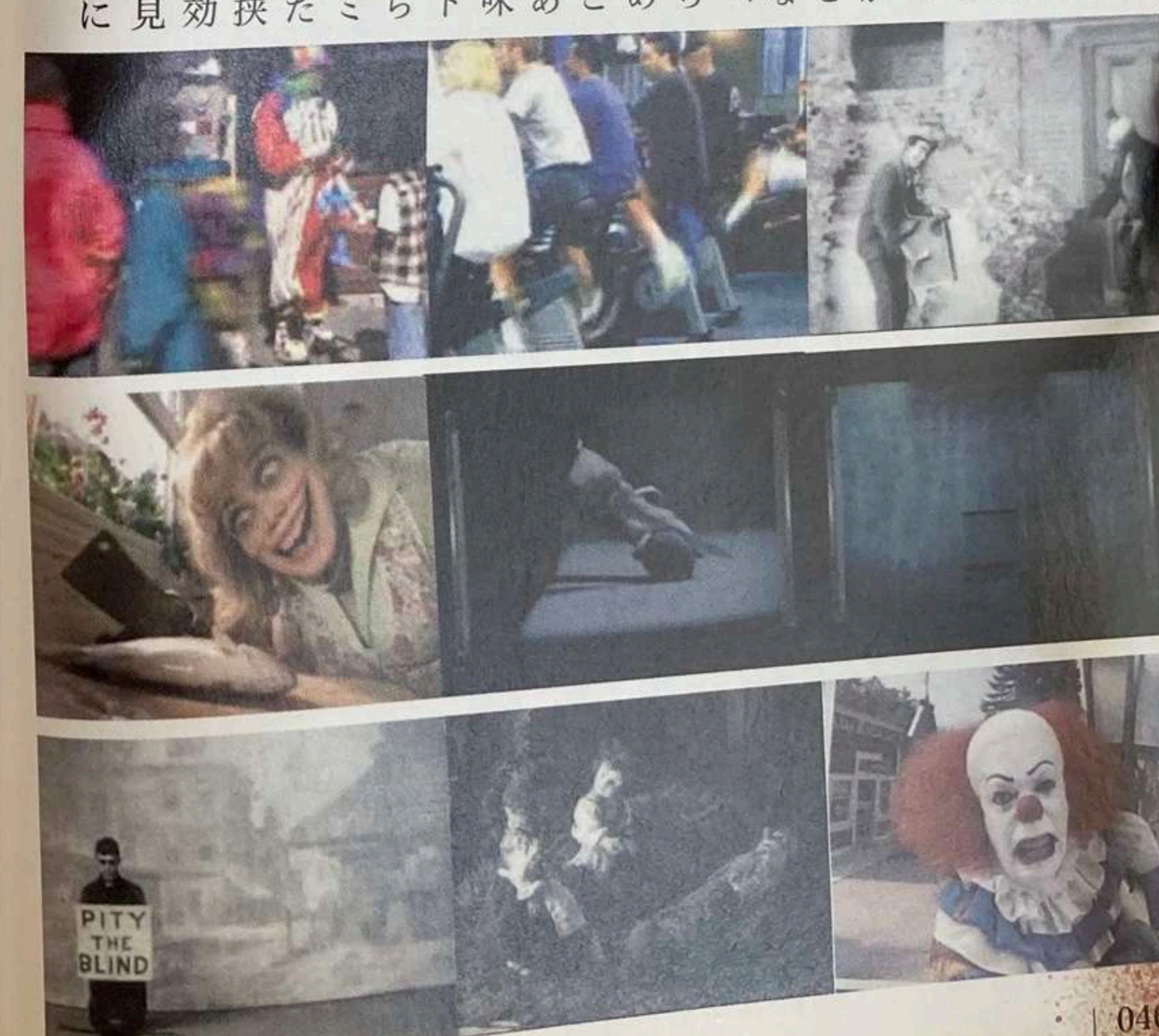


▲3人の遺体と共に発見された事故車



# 発狂した心理学者が人の精神を壊すために作ったサブリミナル動画

アメリカの心理学者、ルイス・ロウェスは、2003年に重い離人症（自分が自分でないように感じられる病気）を発症。常に誰かが自分を殺そうとしているかのような妄想に取り憑かれ、世の中の人間たちの精神を壊すために製作したのが、この9分の動画である。動画は、意味のわからないカットの積み重ねで作られ、所々にサブリミナル効果を狙った不気味な映像が挟み込まれている。効果は不明だが、見た者が嫌な気分になるのは確かだ








# 私生活が、テレビで放映されてるんです




2004年に起きた民事裁判で、訴えた側がまいた謎のビラである。

被告人は、北海道放送の社長である。訴えた側の主張によれば、テレビ局の社長が自分の家に入り込み、テレビで私生活を放映したとして3500万円の損害賠償を請求した。

チラシ内の「黒3」の意味はよくわからない。

# カメラに映ったストーカー



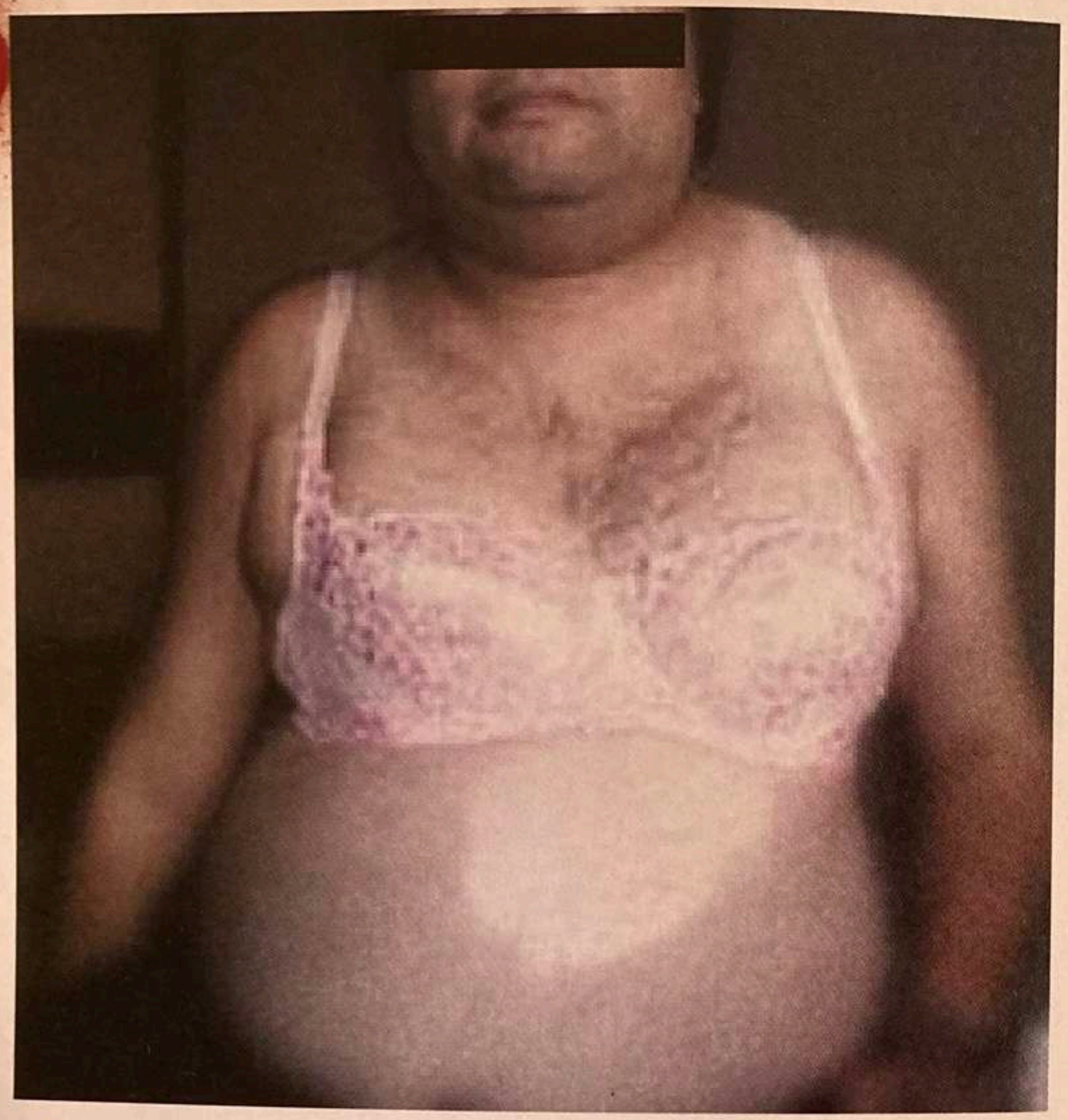

関東某県に住むKさんは、ここ数ヶ月、下着の盗難に悩まされていた。そこで自宅に監視カメラを取り付けたところ、撮影されたのがご覧の画像である。中年男がベランダに忍び込み、室内をうかがう様子がハッキリとわかる。








# ストーカーからの手紙



この写真は、東京都中野区に住む女性Dさんのもとへ、ある日、突然送られてきた手紙に、同封されていた写真である。

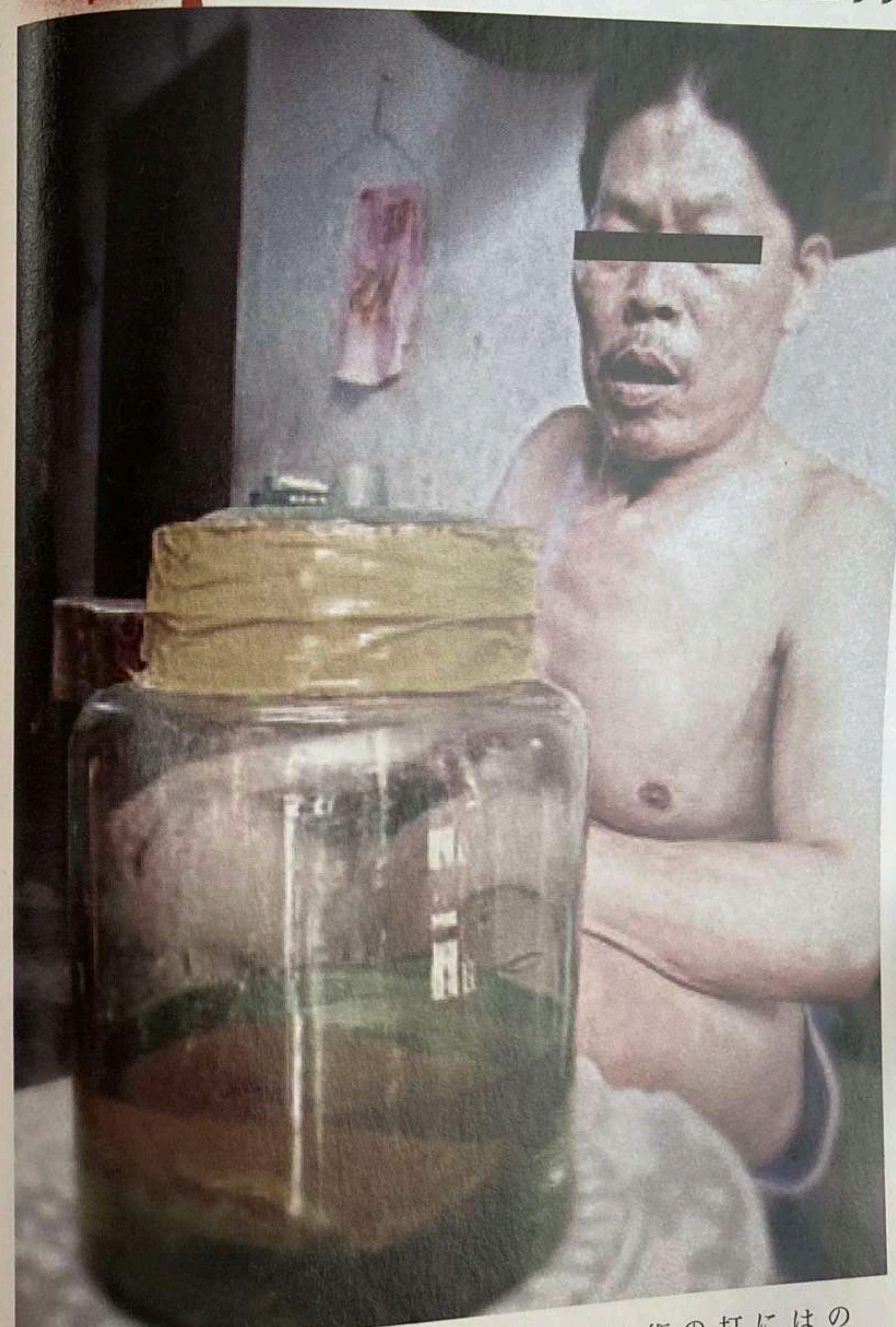
写真の男が女性用の下着を着けている理由は不明。手紙には、およそ以下の内容が書かれていた。

「こんにちは。初めての手紙で失礼します。突然で、あなたは驚かれてしまうかもしれませんが、しゃべるのがヘタなので言います。

僕と結婚していただけないでしょうか？　あなたは僕を知らないでしょう。でも、僕はあなたをよく知っています。ずっと前から近くで見てきました」

この文章の後は、Dさんの一日の行動を詳細に記した文章が続いていた。送り主はわかっておらず、Dさんは、眠れぬ夜を過ごしている。

# 自分の頭蓋骨をアルコール漬けにした男

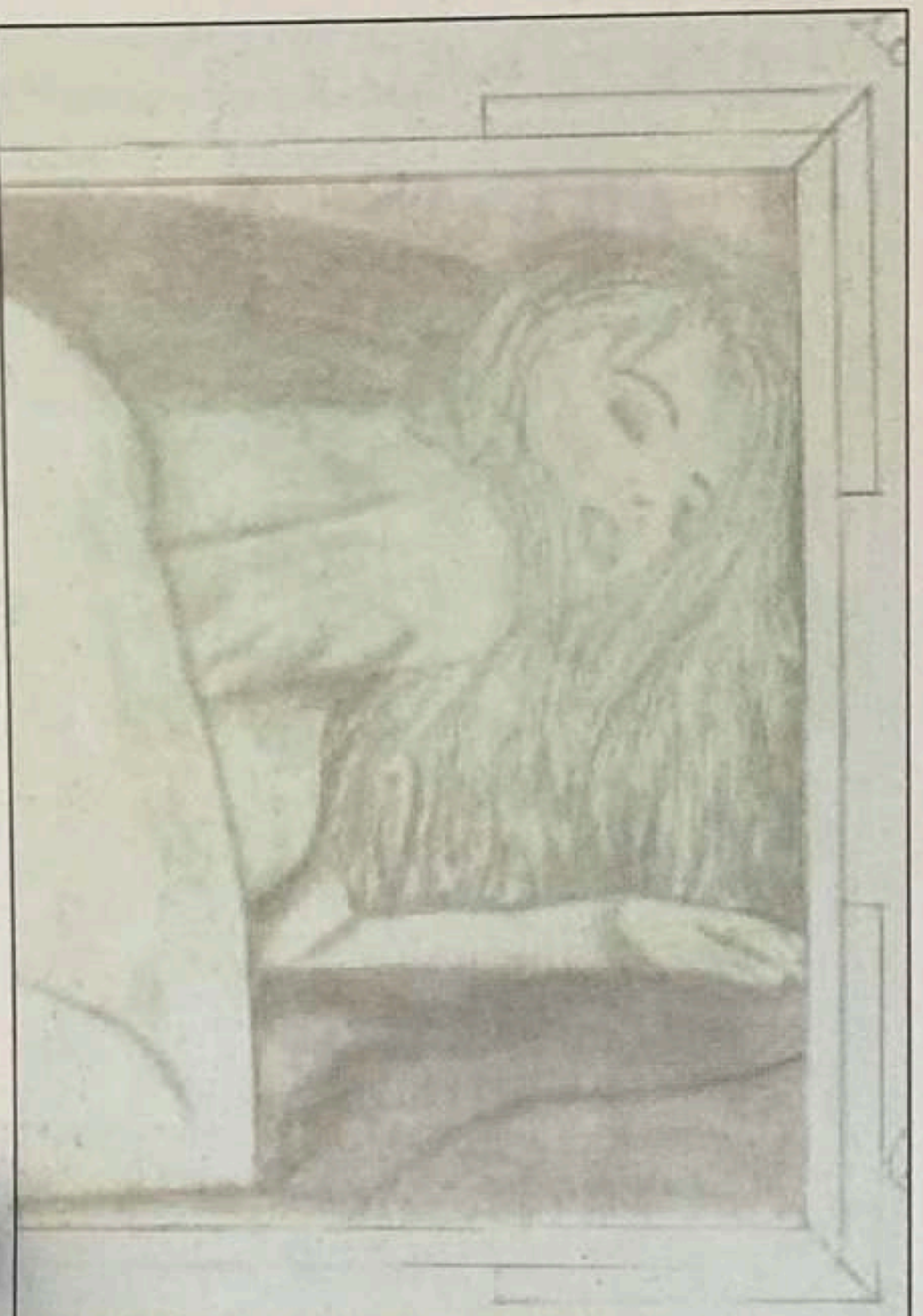


中国・広東省の王睦泗（52歳）は、04年に暴漢に襲われて頭を打ち、頭蓋骨の一部を削る手術をした。一命を取り止めた王だっがた、いったん削った頭蓋を元に戻す金がない。そこで彼は、骨を自宅へ持ち帰り、アルコールに漬けて保存することにした。現在は、仕事終わりにアルコール漬けの自分の頭蓋骨を見ながら、一杯やるのが王さんの日課になっている。





## 殺人鬼の描いた絵7
# ジャック・トラウィック







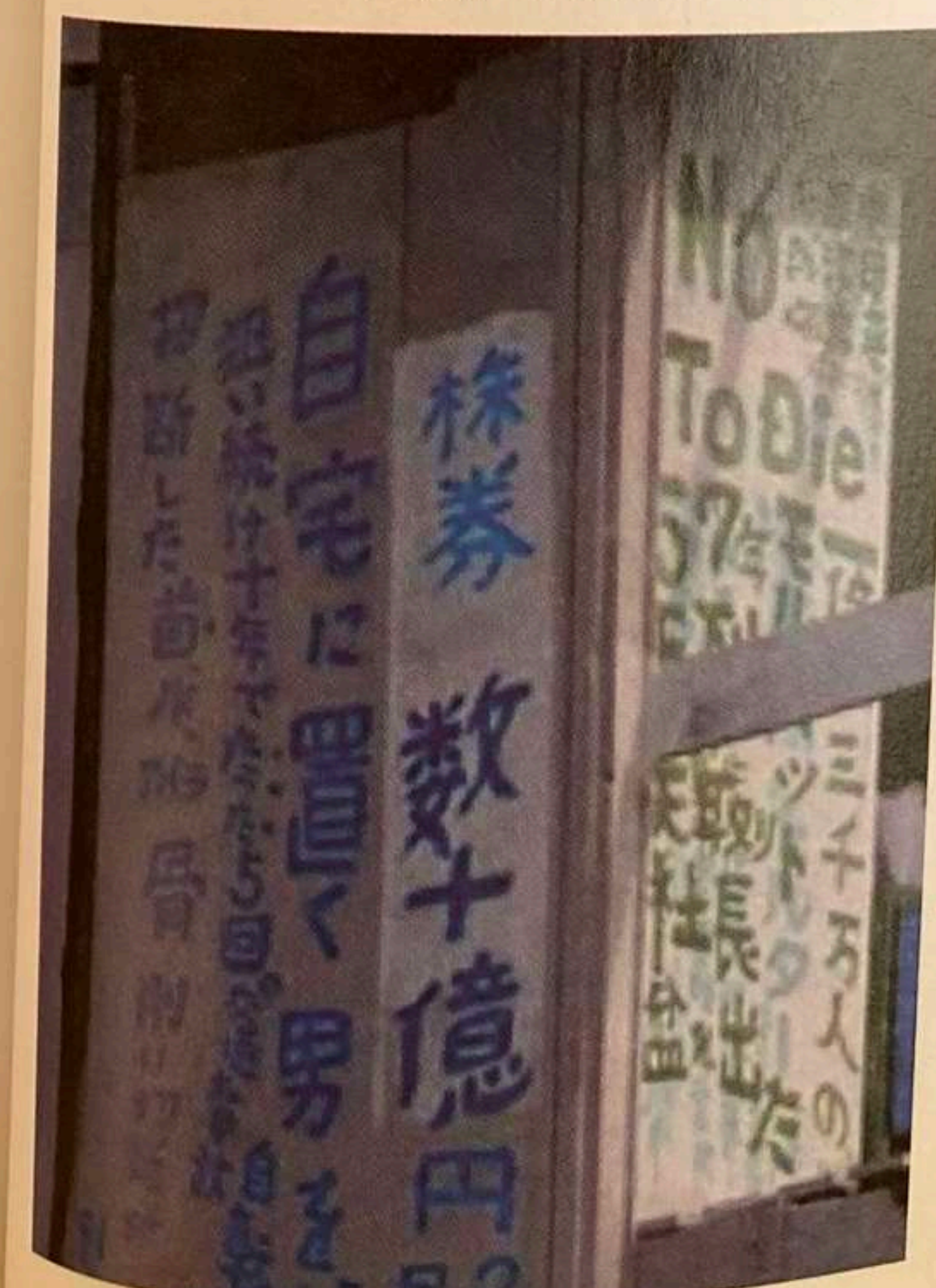


10才のころから近隣の動物を殺して回る偏執狂で、30を過ぎてからは女性を手にかけ始めた。手口は、ハンマーで頭を殴ってから首を絞め、陵辱しながら殺すというもの。この方法で5人の女性を殺して死刑判決が下ったが、精神喪失を訴え控訴中である。

# 廃墟スポットに残された落書き2



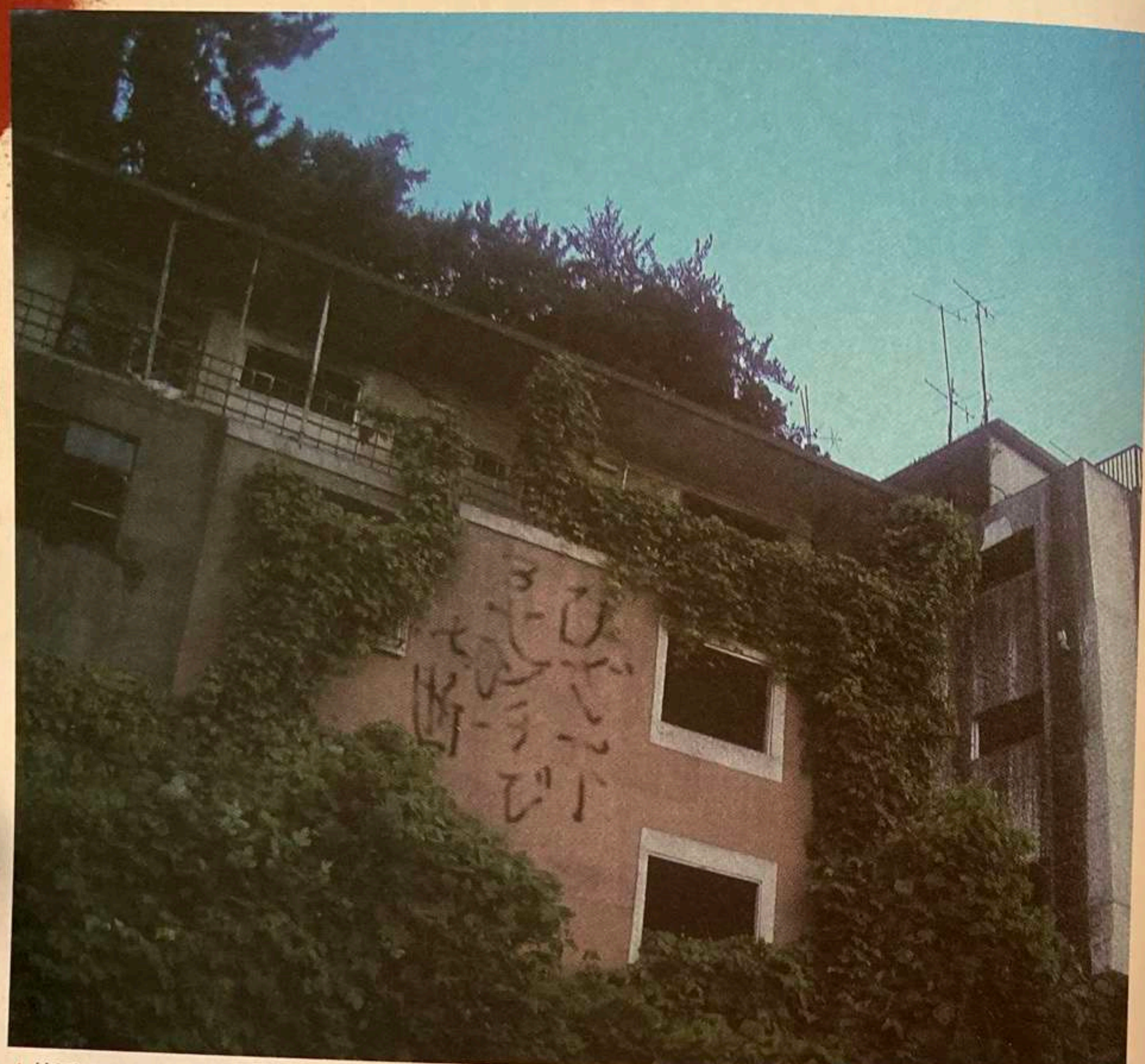

▲心霊スポットとして有名な、富山県の某神社にて採集。「頭に肉無し。顔胸、胸、腰がつぶされて、超えた体の頭」など、意味はわからないが妙に不吉な文句が並ぶ




◀上の落書きから2キロほど離れた家屋に描かれたもの。描き手も同じ人物だと思われる。
「株券数十億　自宅に置く男を自転車」「切断した首、ノド、アバラ」「骨、削り切断、折」などなど、やはり不吉な文言が並んでいる

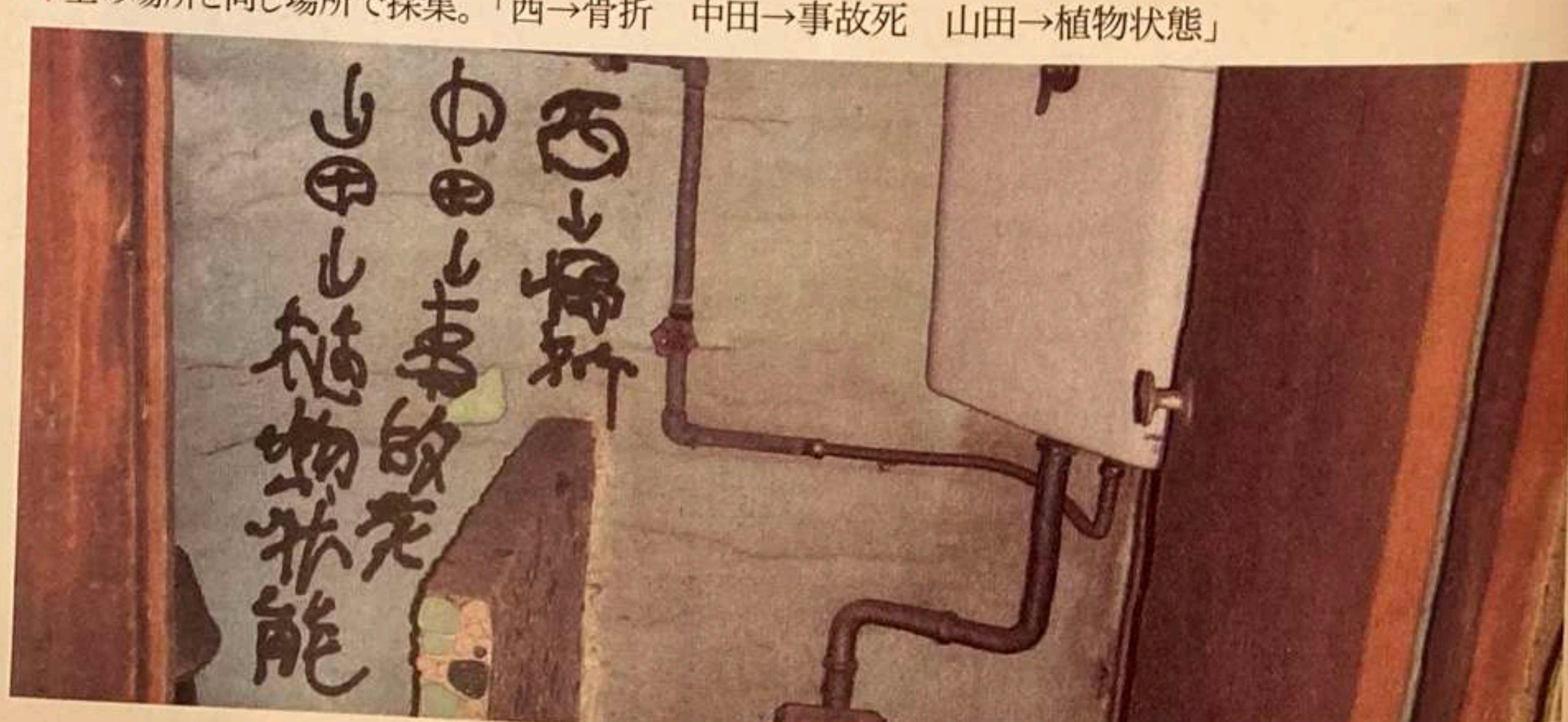







▲静岡県のとある廃墟に描かれた落書き。「ひざ下3センチで切断」。言葉の意味も不明なら、この位置にどうやって描いたのかもわからない。

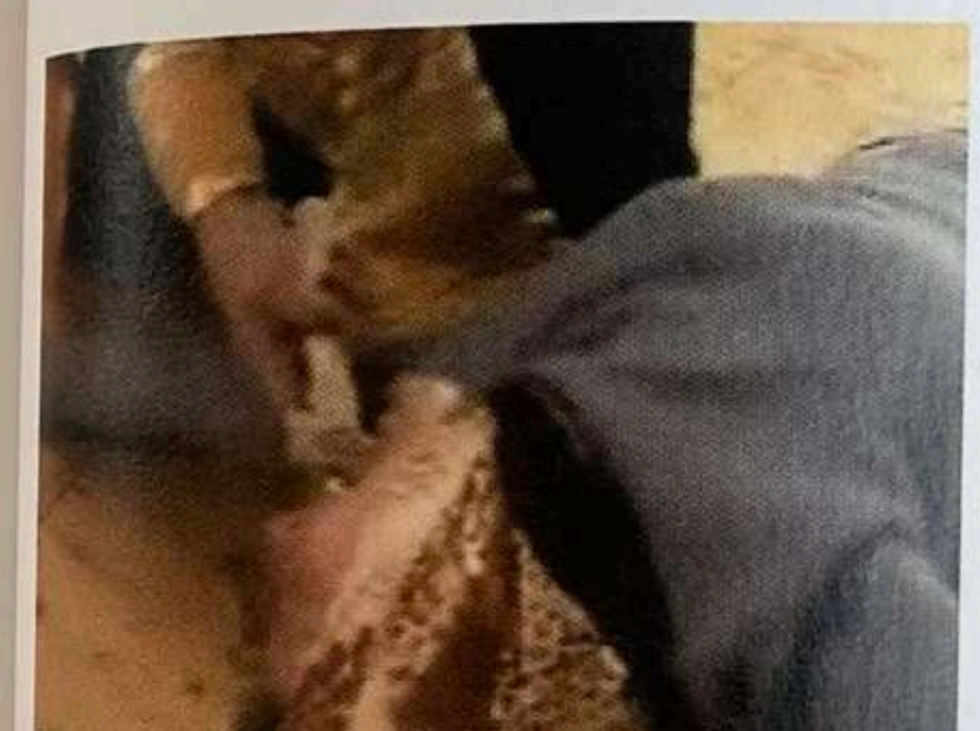
▼上の場所と同じ場所で採集。「西→骨折　中田→事故死　山田→植物状態」



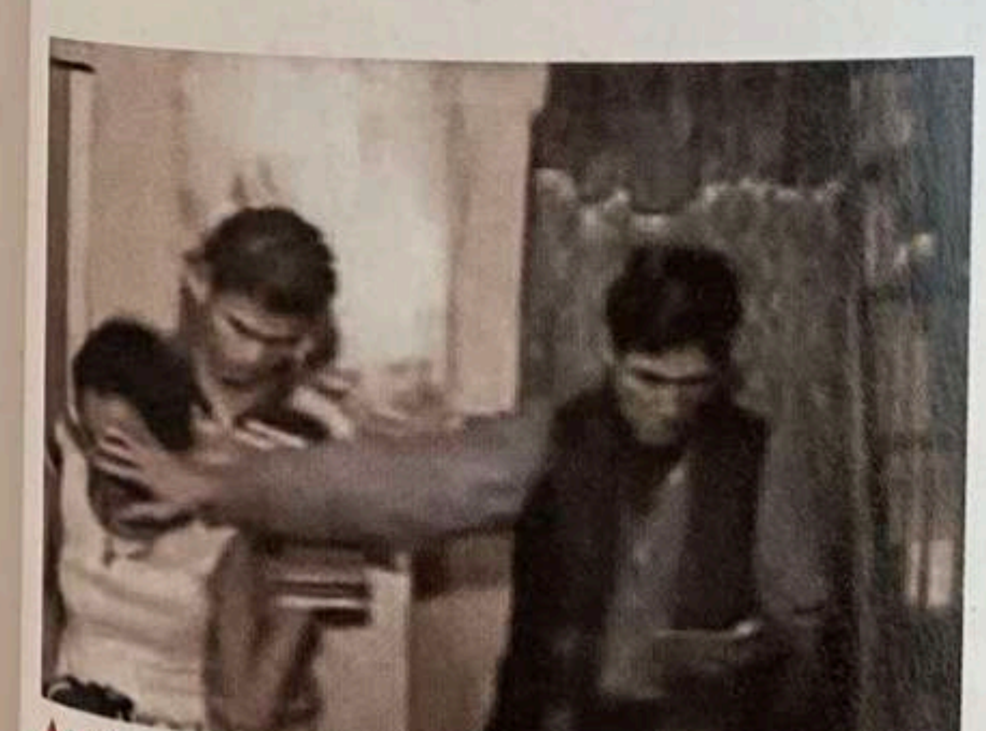
# 現代のエクソシズム

ロシアやイタリアでは、現在もエクソシスト（悪魔祓い）が立派な職業として存在する。下の動画は、07年にロシア政府が正式に認めた、国営エクソシストが悪魔を祓うシーンである。

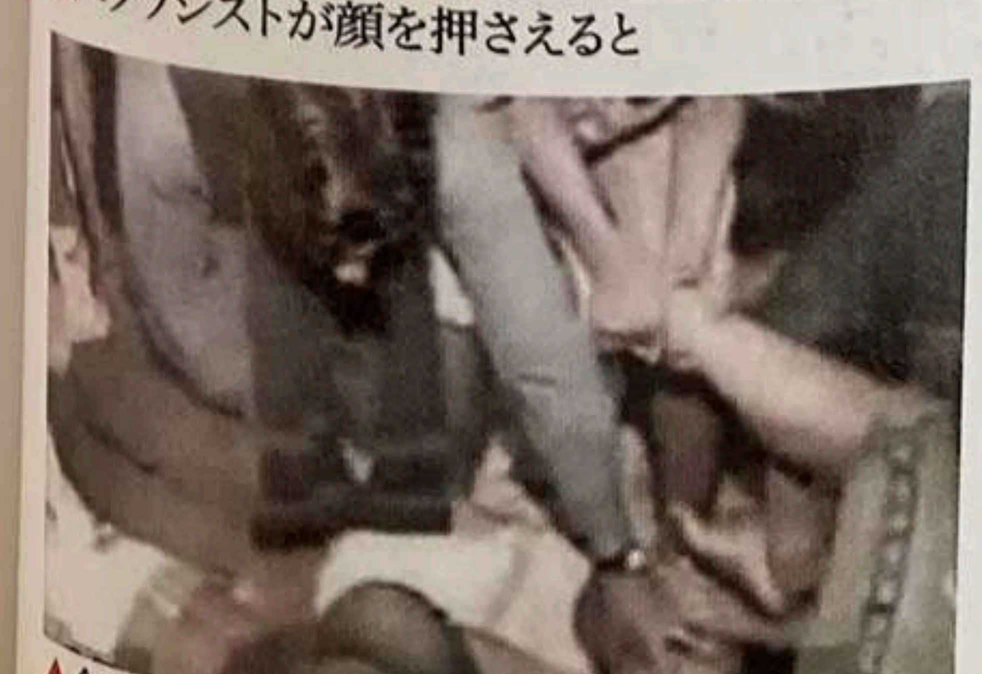

▲悪魔に取り憑かれ、「糞！」と連呼する女性


▲口に十字架を突っ込むと、野獣の雄叫びが


▲十字架が近づくと苦しみ始める


▲エクソシストが顔を押さえると


▲異様なほど青白い悪魔憑きの少女

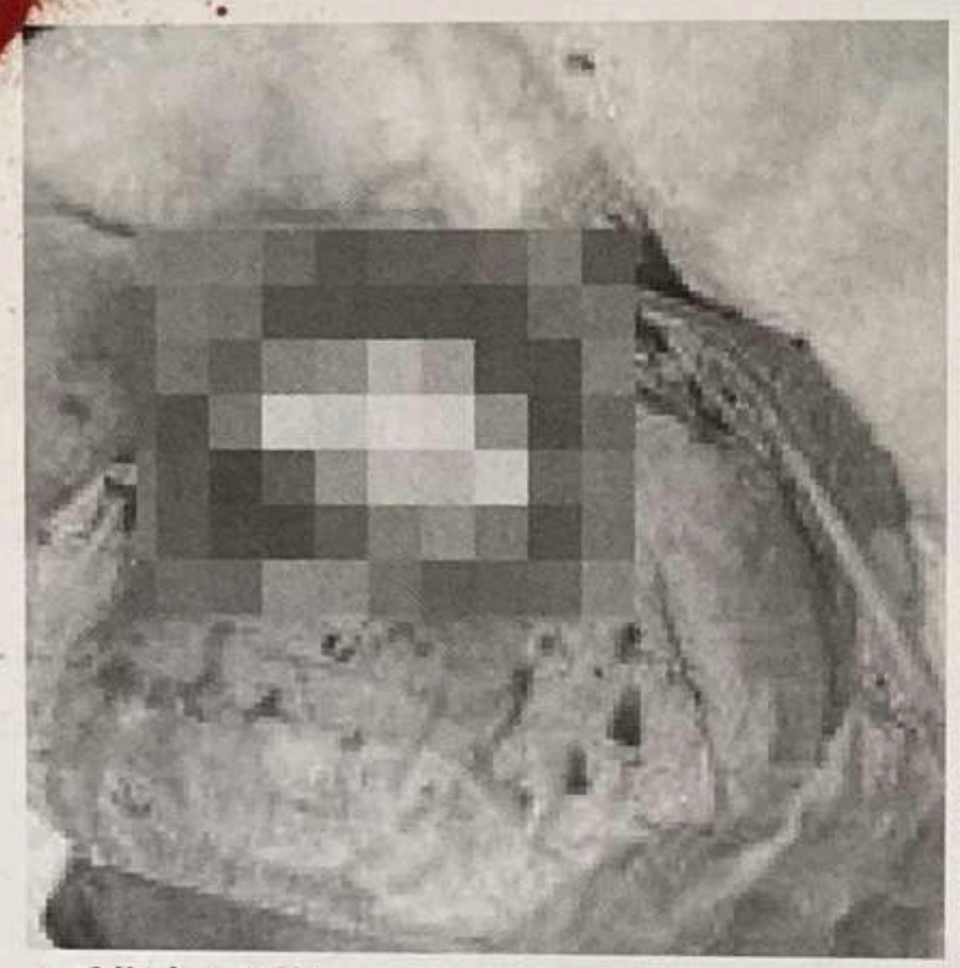

▲全身で抵抗する

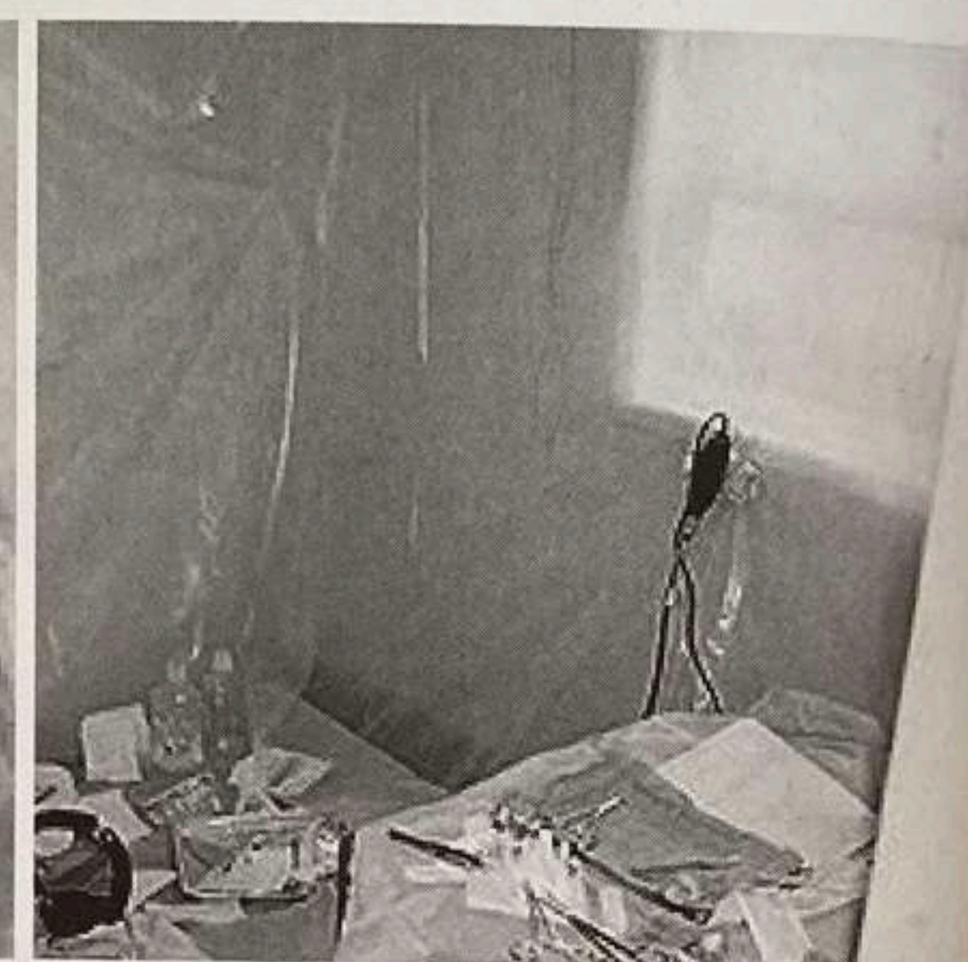
こちらはブラジルで撮影されたエクソシストの儀式だ。南米でも、いまだ悪魔信仰は根強く、民間の業者が狭い家に患者たちを押し込めて悪魔祓いの儀式を行っている。



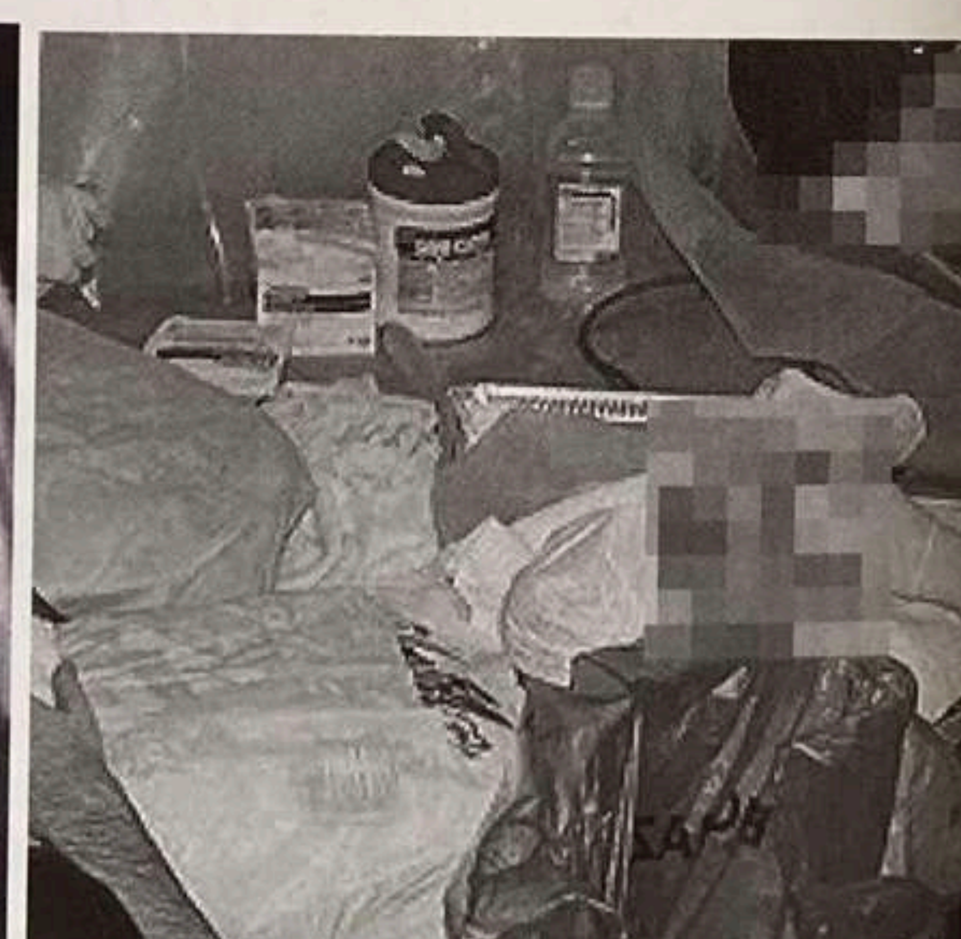


# 自宅で自分の頭蓋骨に穴を開けた男


▲手術中の１枚


▲自宅にビニールを貼って手術室に


▲現在の状況。傷は完全にふさがった

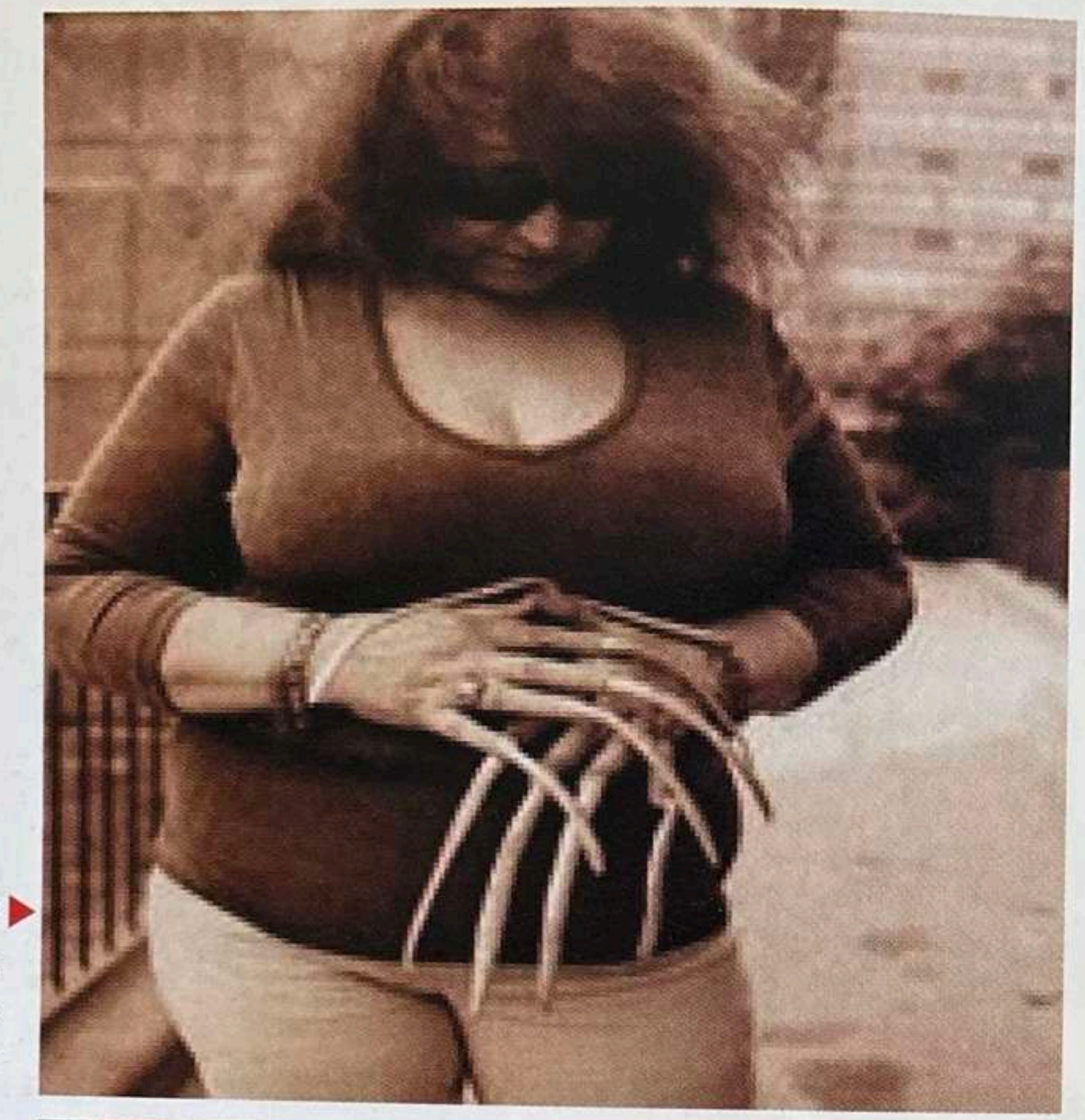

▲麻酔も自分で行う。もちろん違法

山本英夫の漫画「ホムンクルス」には、頭蓋骨に穴を開けることで、特殊な能力を覚醒しようとする手術が登場する。

いかにも絵空事のようだが、日本でも自分で手術を行うマニアは少なくない。写真は、実際に自宅で頭に穴を開けた男の手術風景だ。

もっとも、実際に頭に穴を開けた人間が、漫画のような特殊能力を得たという話はない。

# 恐怖のフレディ女



イギリスの▶大手新聞に載ったフレディ女の写真



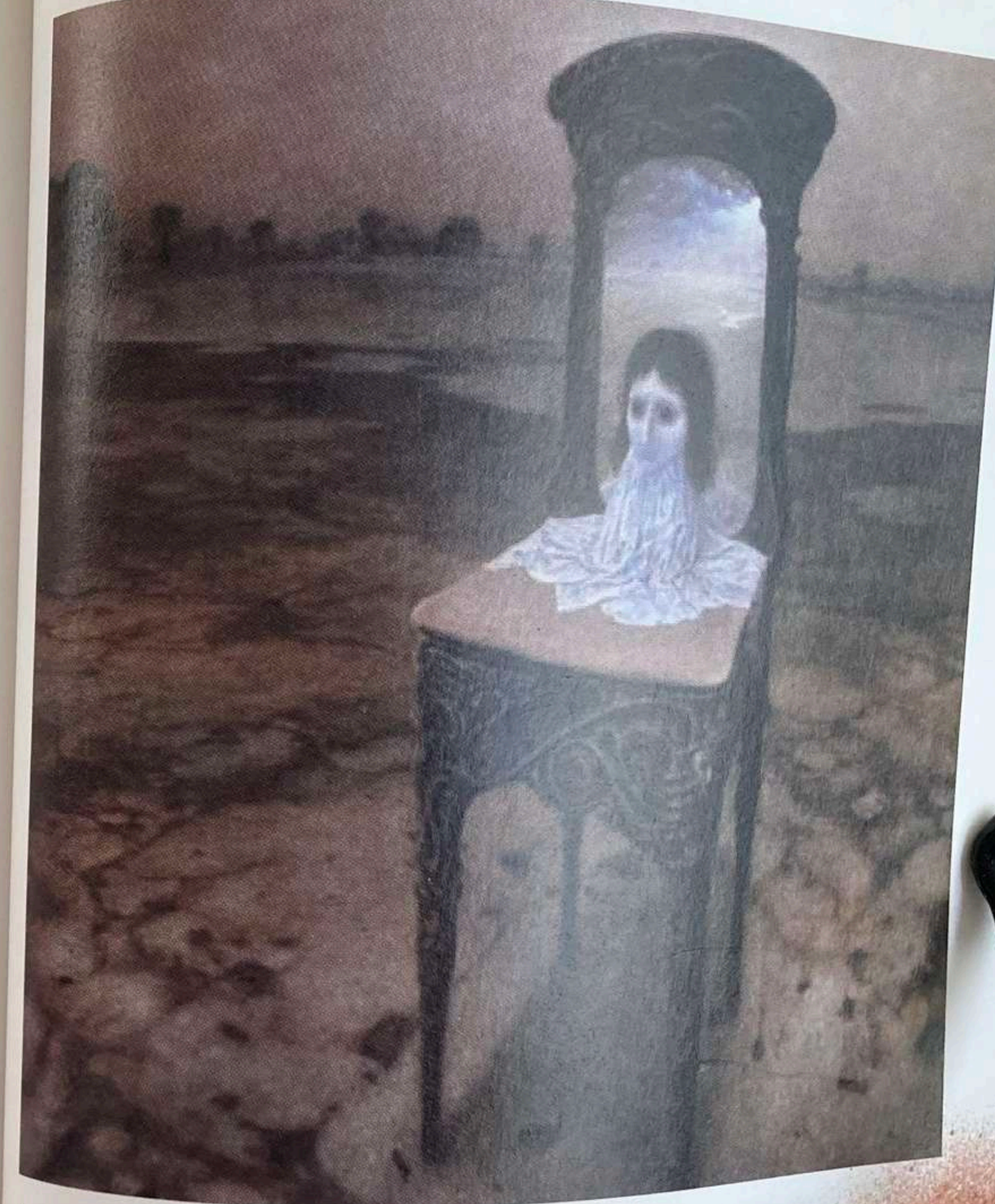
被害者の男性▶

01年、イギリスで奇妙な事件が連続した。深夜、路上を歩く男性が、いきなり何者かに顔や首筋を鋭利な刃物でザクリ。被害者の数はひと月で数十名におよび、そのうちの1人は、数十針を縫う大けがを負って死亡している。

数ヶ月後、ロンドン市警が犯人を挙げた。リブ・ビグロー、54才。一見平凡な中年女性だったが、使用した凶器は実に異常なものだった。なんと、数年にわたって伸ばし続けた自分の爪を使い、男たちを切り刻んだのだ。

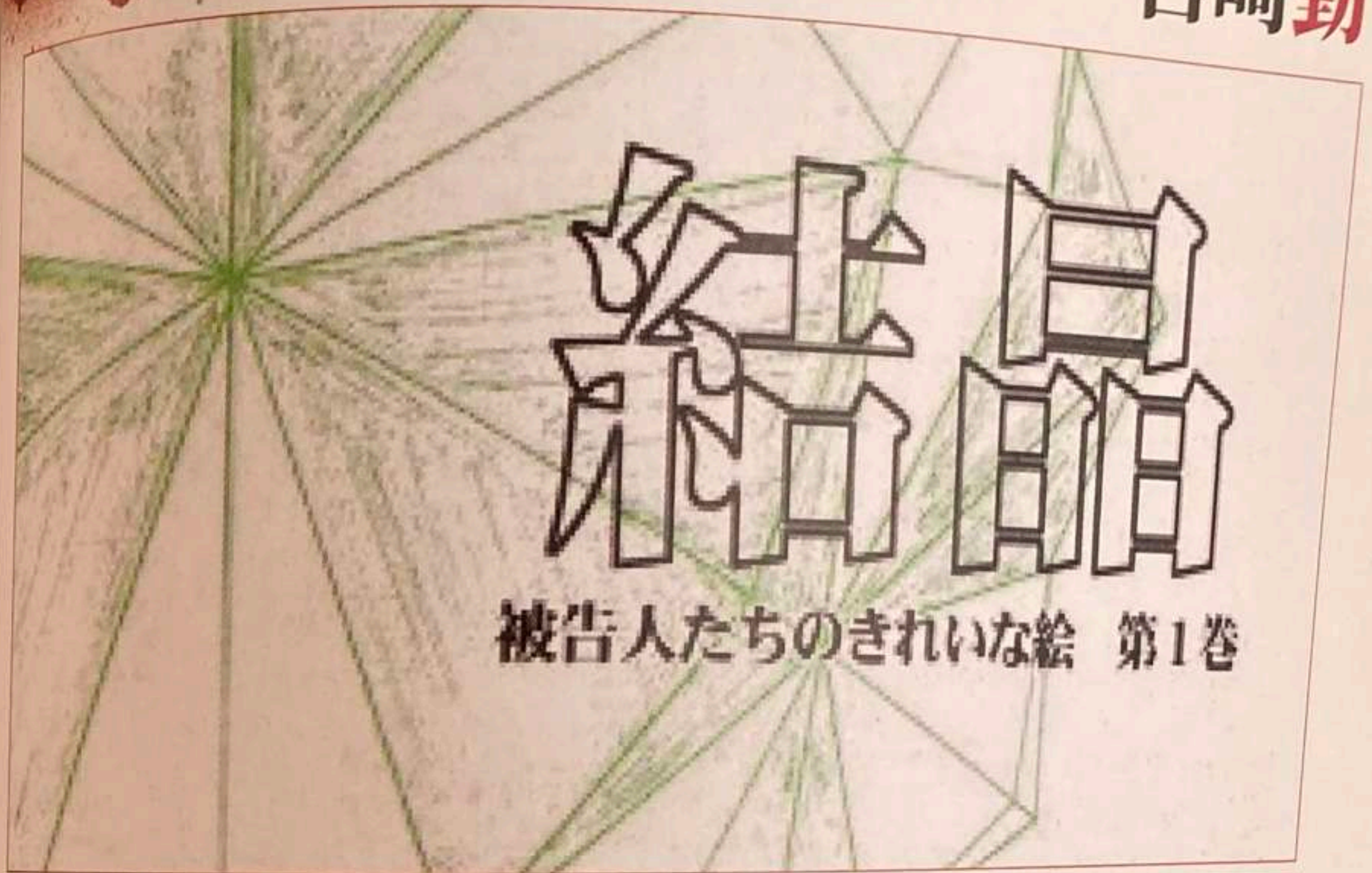
女は取り調べに対し「みんな殺そうと思った。イライラしていた」とコメントし、終身刑の判決を受けた。

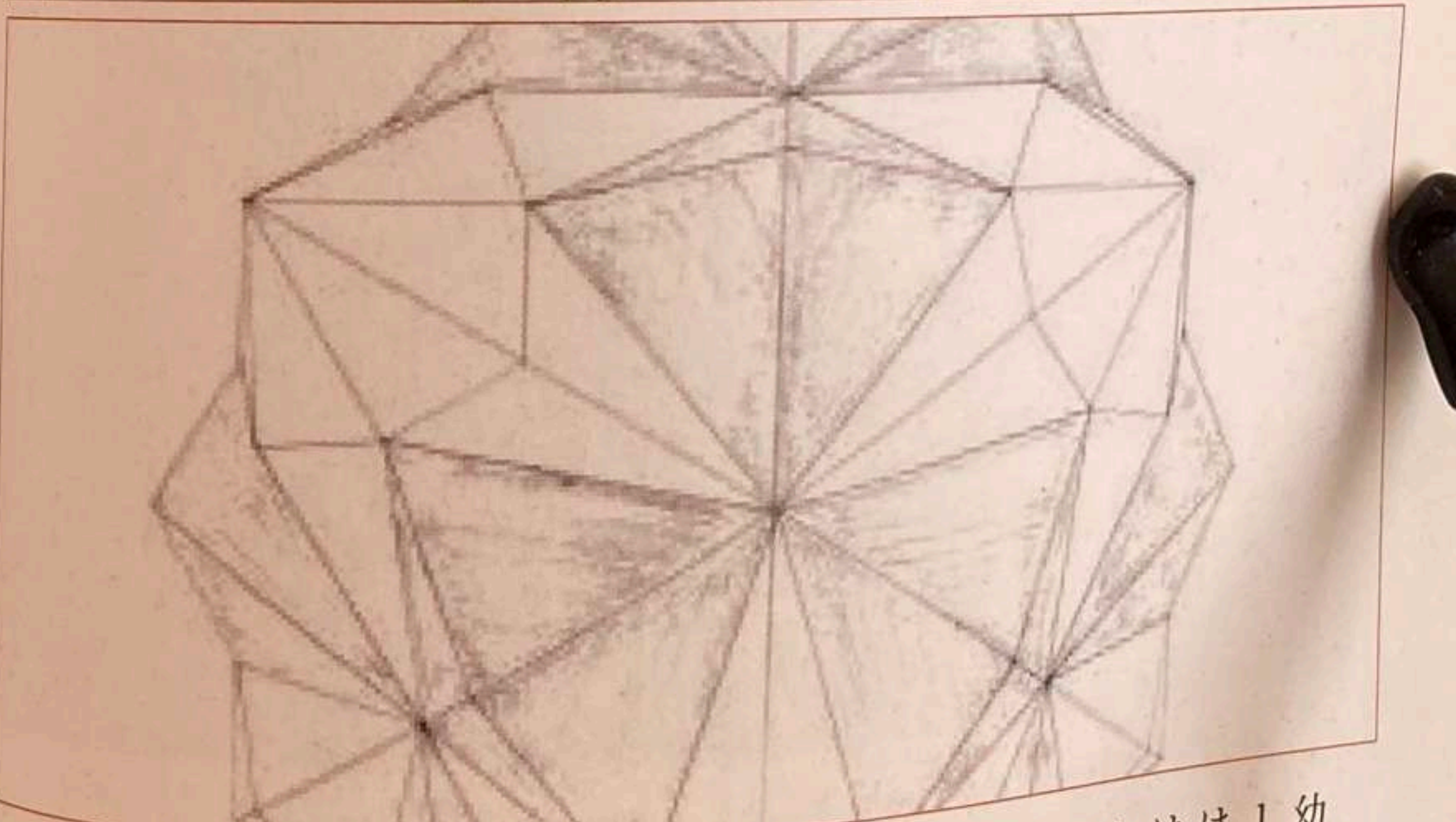
# 3回見たら死ぬ絵

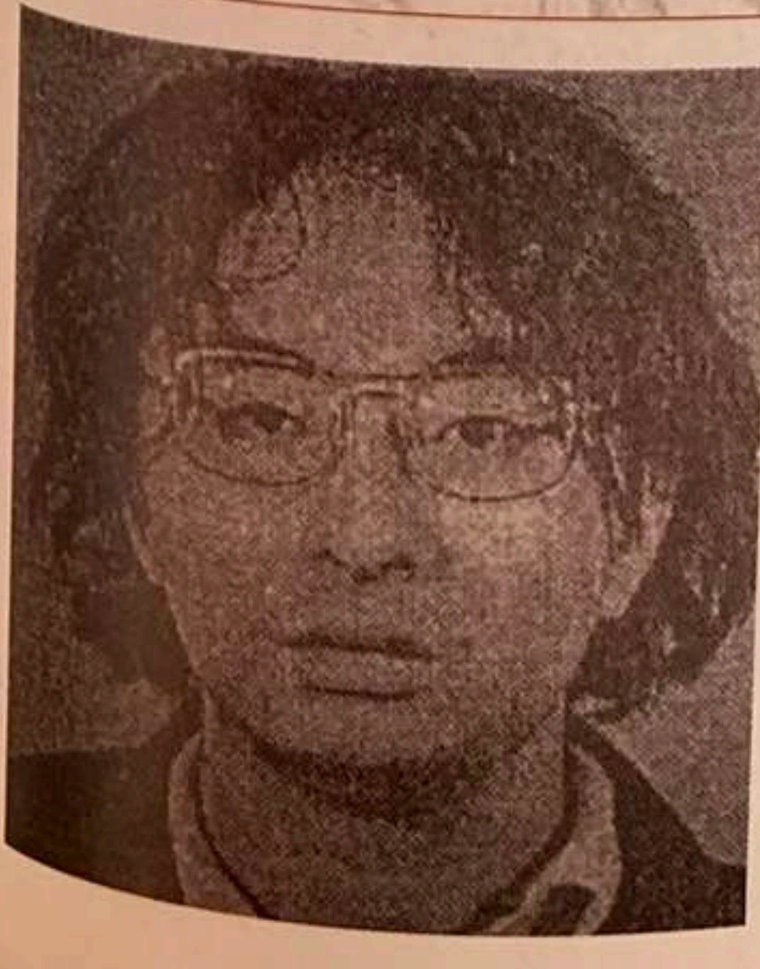


1980年に、ポーランドの画家ズジスワフ・ベクシンスキーが描いた作品。ネットなどで「3回見たら死ぬ絵」と呼ばれているが、実はこの伝説、ただのオカルト話ではない。ベクシンスキーは、画家であると同時に有名な心理学者でもあった。その知識を駆使し、「見ただけで人を狂気に落とし込む」ことを目的に描いたのが、この作品なのだ。ベクシンスキー自身は多くを語っていないが、当時の最新のサブリミナル技術が仕込まれている可能性が高い。ちなみに、ベクシンスキーは、2005年に自宅へ侵入した強盗に刺殺された。

# 宮崎勤





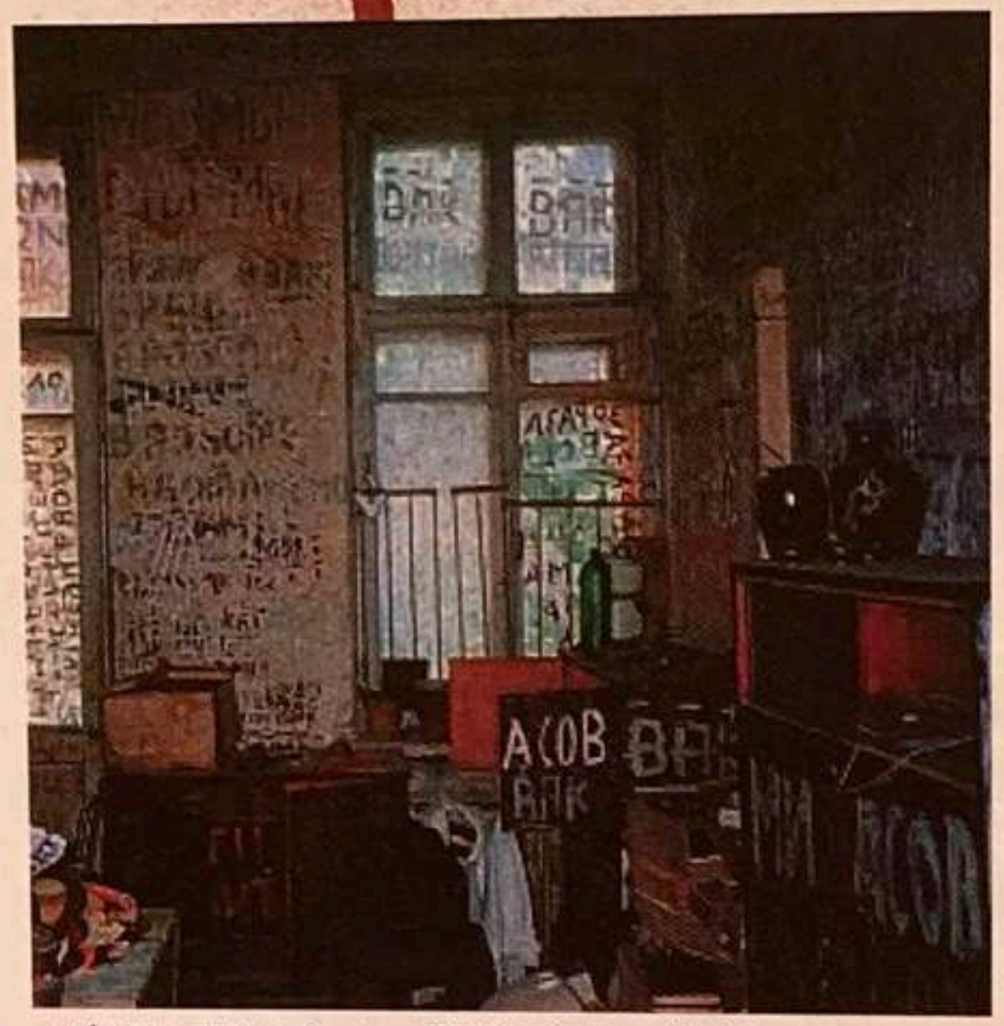
言わずとしれた埼玉連続幼女誘拐殺人の犯人である。1988年から1989年にかけ、3〜7歳の女児ばかりを続けて拉致した上に殺害。挑戦状を新聞社に叩きつけ、被害者の遺骨を遺族に送るといった猟奇性で注目を集めた。

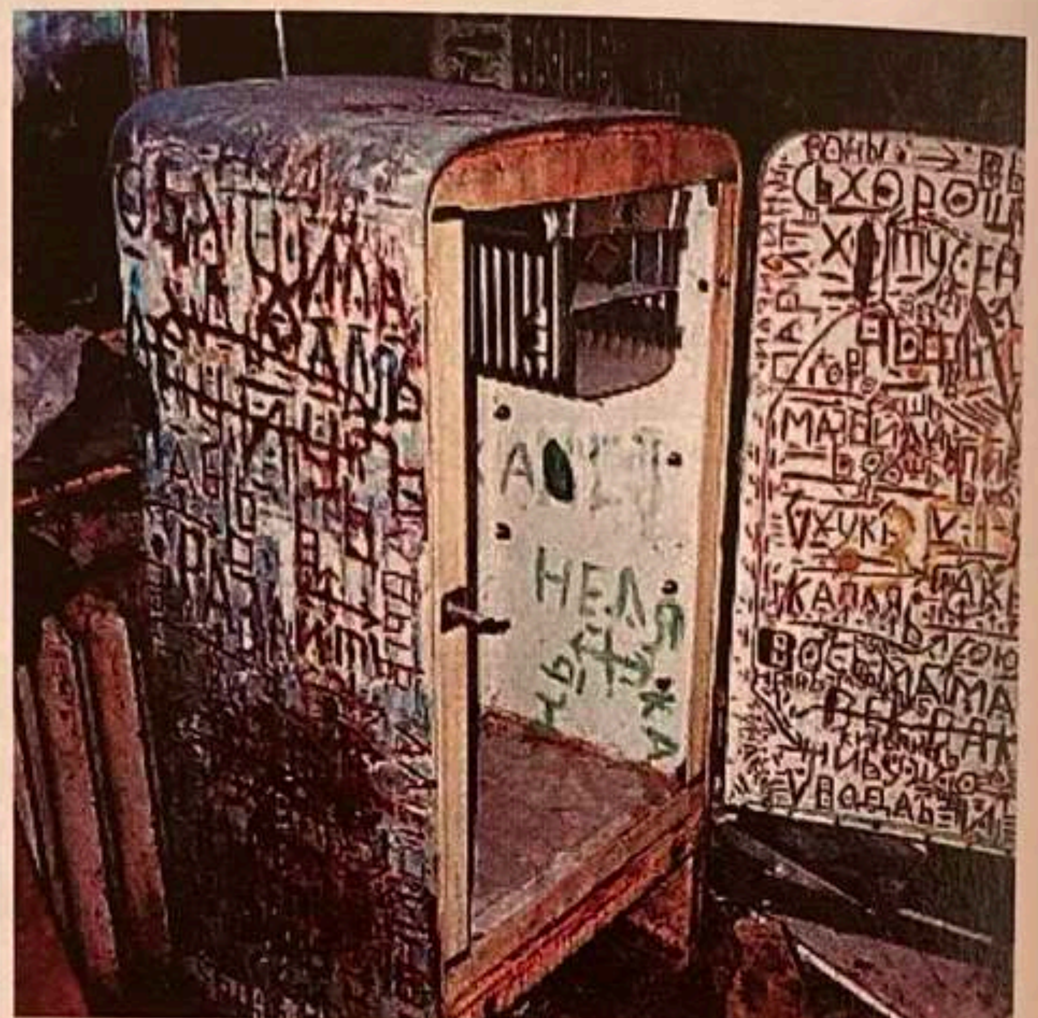
ご覧の画像は、宮崎が獄中で描いたもので、大半がシンプルな線だけで構成されている。この絵は、『結晶』被告人たちのきれいな絵」なるタイトルで電子本として販売されており、ネット書店などで入手可能だ。

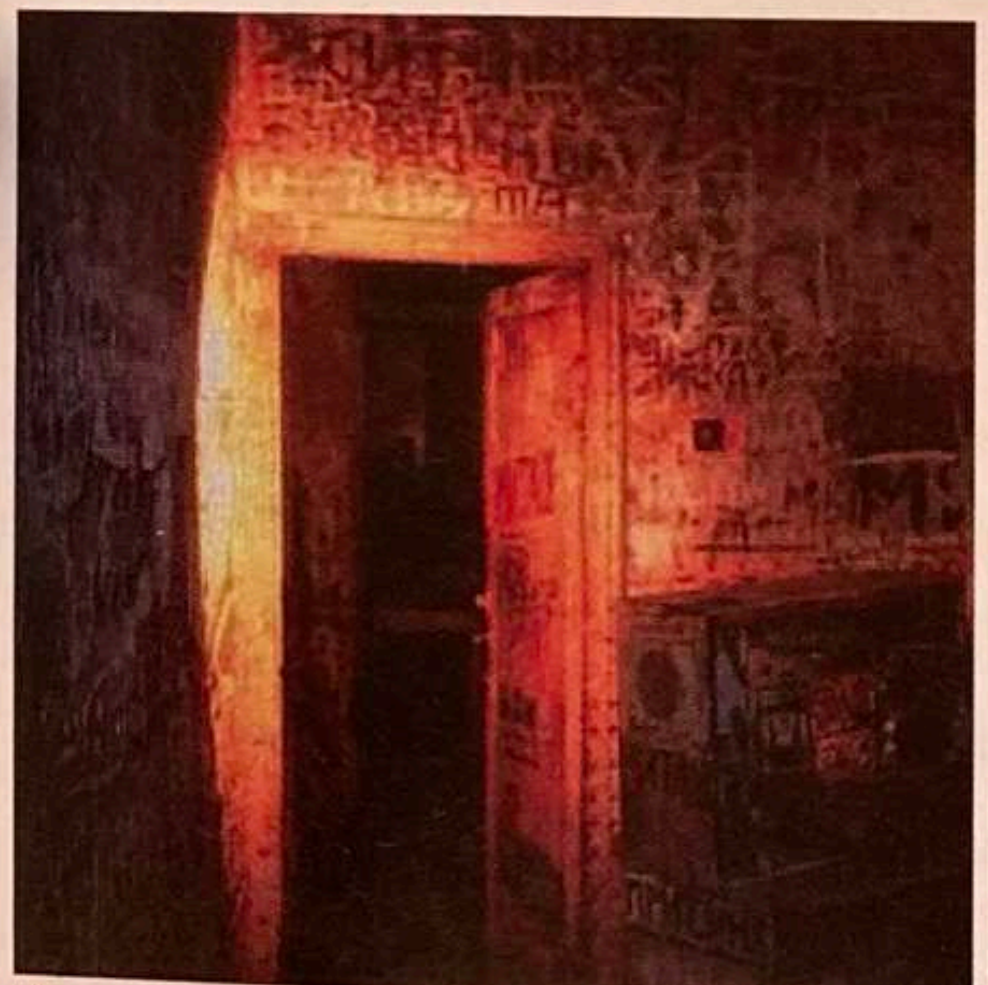




# 人肉食いの殺人鬼が住んだ家


▲家具の隅々まで、意味不明の落書きが


▲人肉が保存されていた冷蔵庫

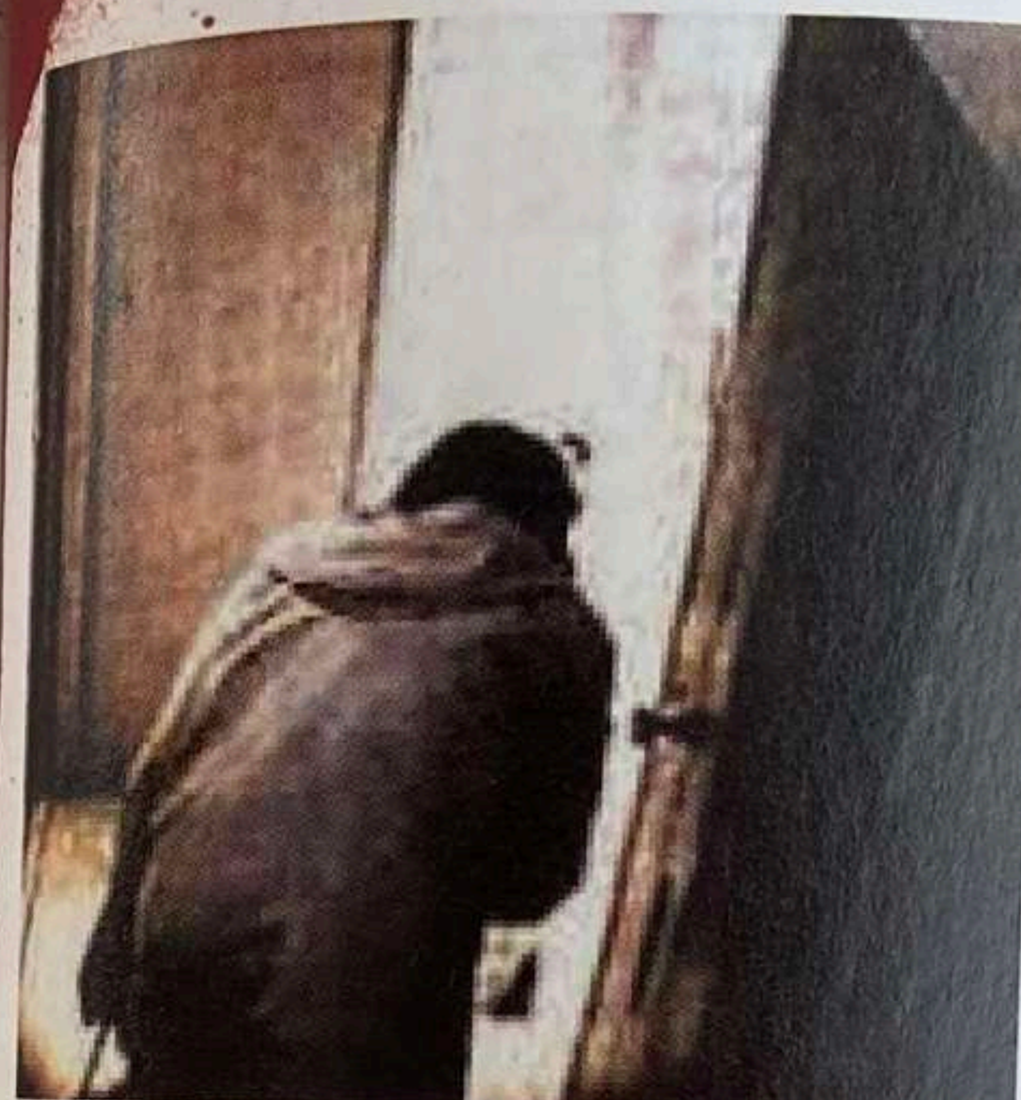

▲ベッドルームに続くドア


▲こちらも落書きだらけ

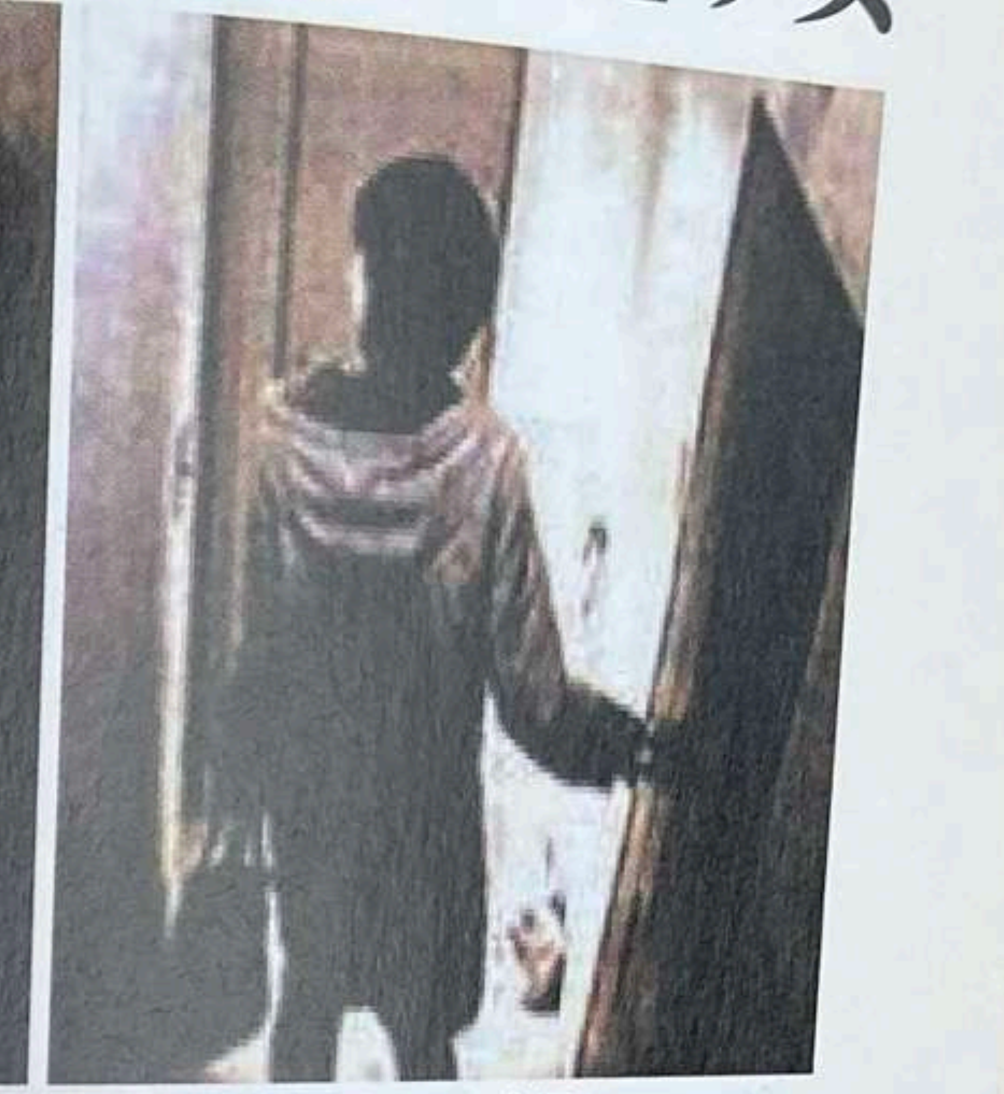
ロシアで数十名の少年少女を殺した「食人鬼」、ヨルド・ゴレービチが暮らした家である。ヨルドが殺人を始めたのは、兵役を終えた25才のこと。家出少年を自宅へ招いて酒を飲ませ絞殺。バラバラにしてその肉を食べた後、残りは硫酸で溶かしていた。

逮捕後、警察が自宅を調べると、冷蔵庫からは1つの生首と溶けかけの死体が3体、風呂場からは解体途中の死体が2体見つかったという。

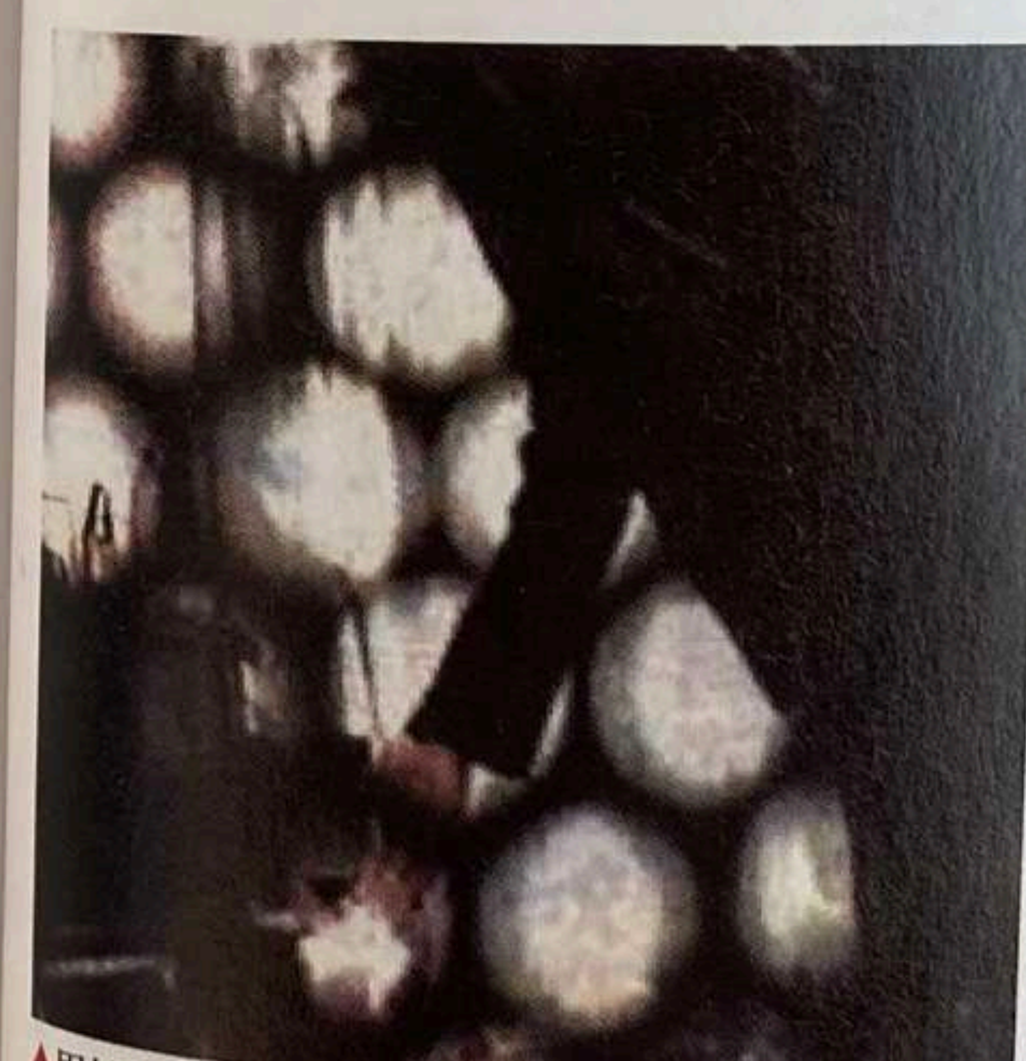
# 元カレの自宅に侵入して嫌がらせを繰り返す女



▲合い鍵でドアを開けて



▲周囲をうかがいつつ男の部屋へ



▲男性の電気製品へ水をかけ始めた



▲室内で嫌がらせの方法をしばらく考え

都内に住む男性が、ある日、自分の部屋の配置が変わっていることに気づき、室内に監視カメラを設置したところ、ご覧の画像が撮影された。

この女性、以前に被害者と付き合っていたが、フラれたために逆上。こっそり部屋に忍び込んでは、家電に水を注ぐなどの嫌がらせを繰り返していたらしい。

この映像が決めてとなり、女はストーカー規制法で逮捕された。





# ビールだけを飲み続けて死んだ男





03年、アメリカ・ニュージャージー州のある病院に、100キロを超す巨漢が運ばれた。男は意識不明の重体で、緊急処置もむなしく搬送から1時間後に死んだ。

死因は栄養失調。丸々と太った男がなぜ？ 誰もが思った疑問は、警察が男の部屋を捜査して明らかとなった。床一面を埋め尽くす山のようなビール缶の山。なんでも、男は極度の偏食で、死に至るまでの2年間はビールしか摂取していなかったのだという。ちなみに、男には身寄りがなかったため、このビール部屋は大家が数十万をかけて処理したとのこと。



# 2007年 ベスト優良サイト グランプリ受賞

グランプリ受賞のブランド力はハンパじゃない！

## 利用者の声

- ユーザーの質がイイ 女性(23)
- マニアが多くて良い 男性(37)
- 私とこのサイトは相性がとっても良い 女性(31)
- 無料なので、財布を気にしなくて済む 男性(25)
- 近所の人がスグ見つかるのでカンタンに会える 女性(24)
- 素人投稿掲示板は見ていて楽しい (33)
- セキュリティがしっかりしているので安心して使える 女性(27)
- みんな利用目的がハッキリしているので、話が早い！ 男性(30)

おかげさまで皆様に満足して頂いております

若妻たちの**圧倒的**支持！

美女の利用率も**圧倒的**！

即逢い度は**超圧倒的**！

このサイトで注目するのが、「素人投稿掲示板」!!
見せたがりの人たちが毎日投稿してくる画像は一見の価値アリ！

あなたに**圧倒的**な出会いをお届けします♥

**完全無料　登録不要**

優良安心

本当にあった！奥様達の浮気現場
http://ptw.am/?2186

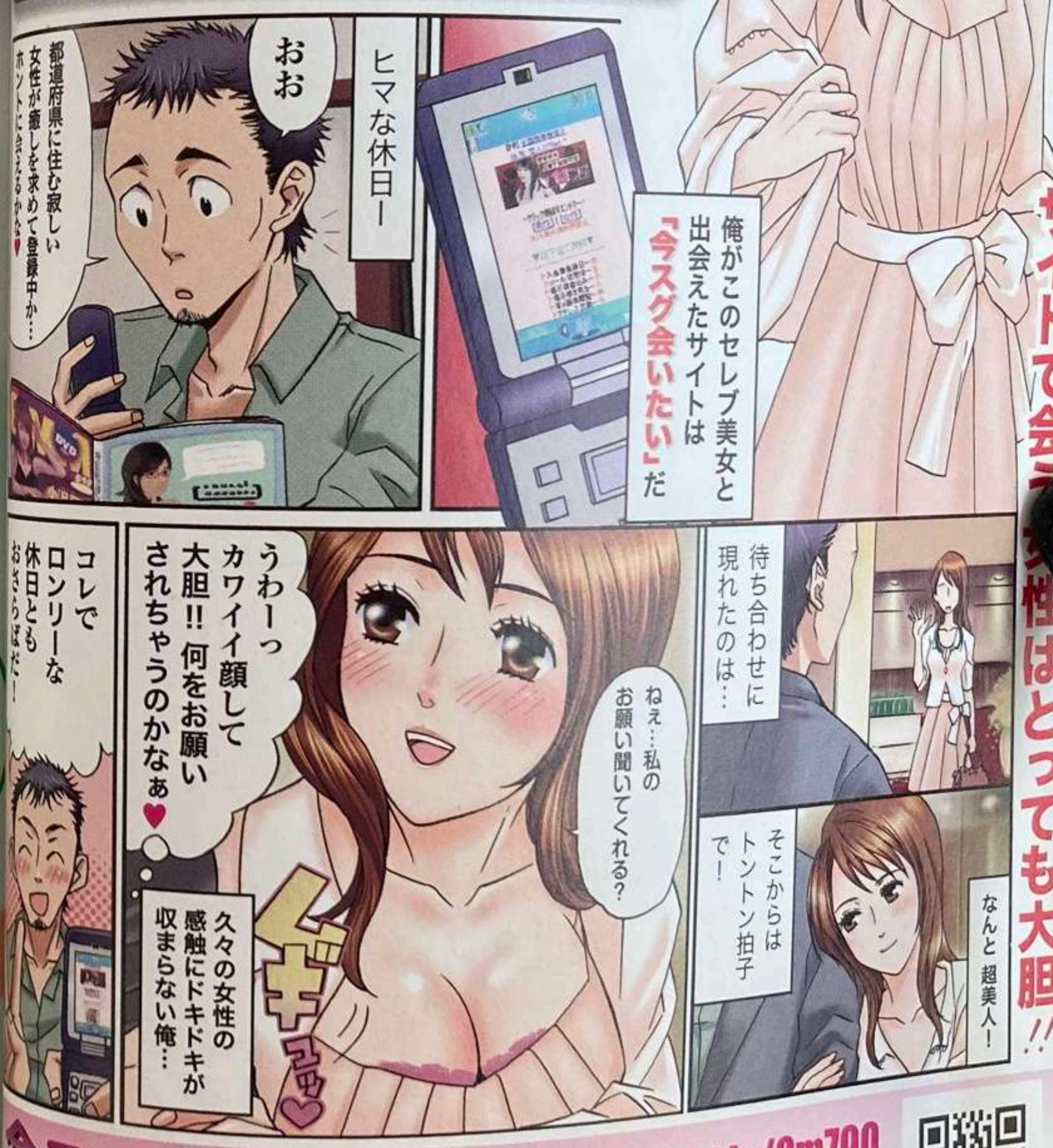


美人セレブ、魅惑の衝撃体験レポート！

# 完全無料で味わう セレブの欲望!!

女性会員数が7割で、日本全国47都道府県対応 …それが「今スグ会いたい」だ!! 細かい検索機能で好みの女性が見つかるから即アポ率も高いし、PCからのエントリーもOK。当然セキュリティだって万全！ではその実力を完全紹介しよう！



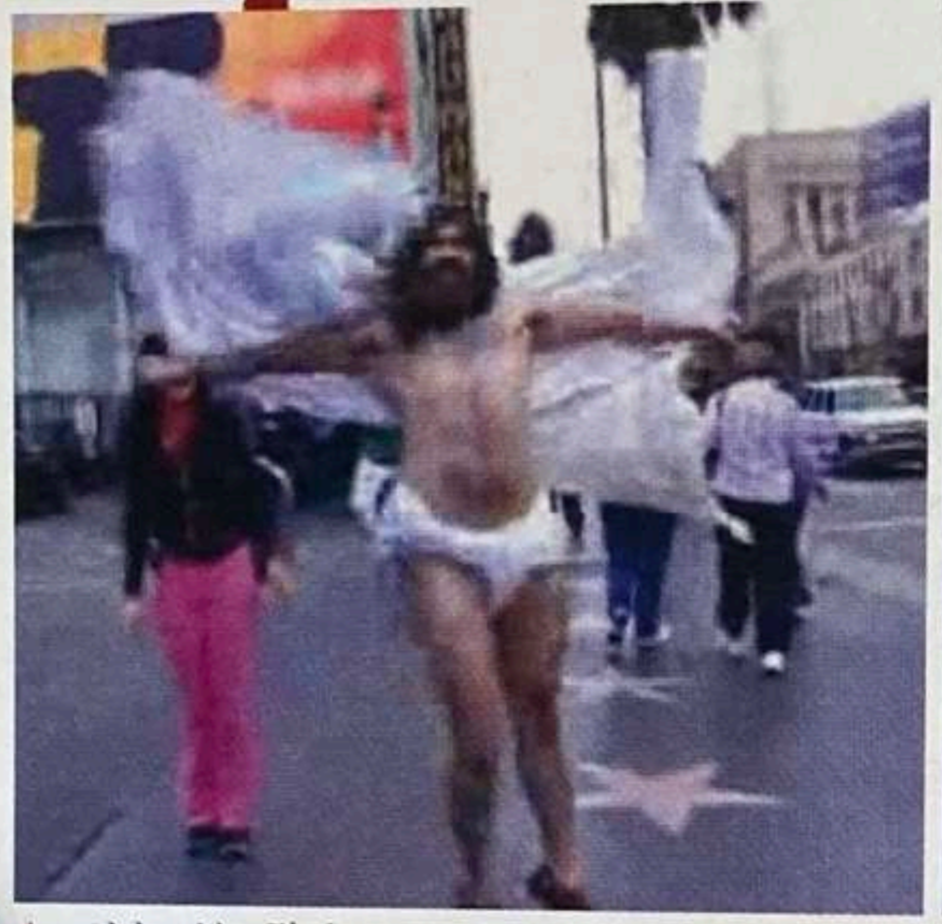

## 今スグ会いたい http://22051.jp/?m790

女性会員が多い事で知られる出会い系サイト!♥♥な恋&出会いを求めるなら間違いナシ!! お金持ちのセレブ妻など普通では出会う事の出来ない女性も多く登録してます!完全無料だからやるしかないでしょう!!架空請求や情報流出などの心配は一切ないから安心!他の出会い系では出会えなかった男性からも初めて会えたと感謝の声を多く頂いております。

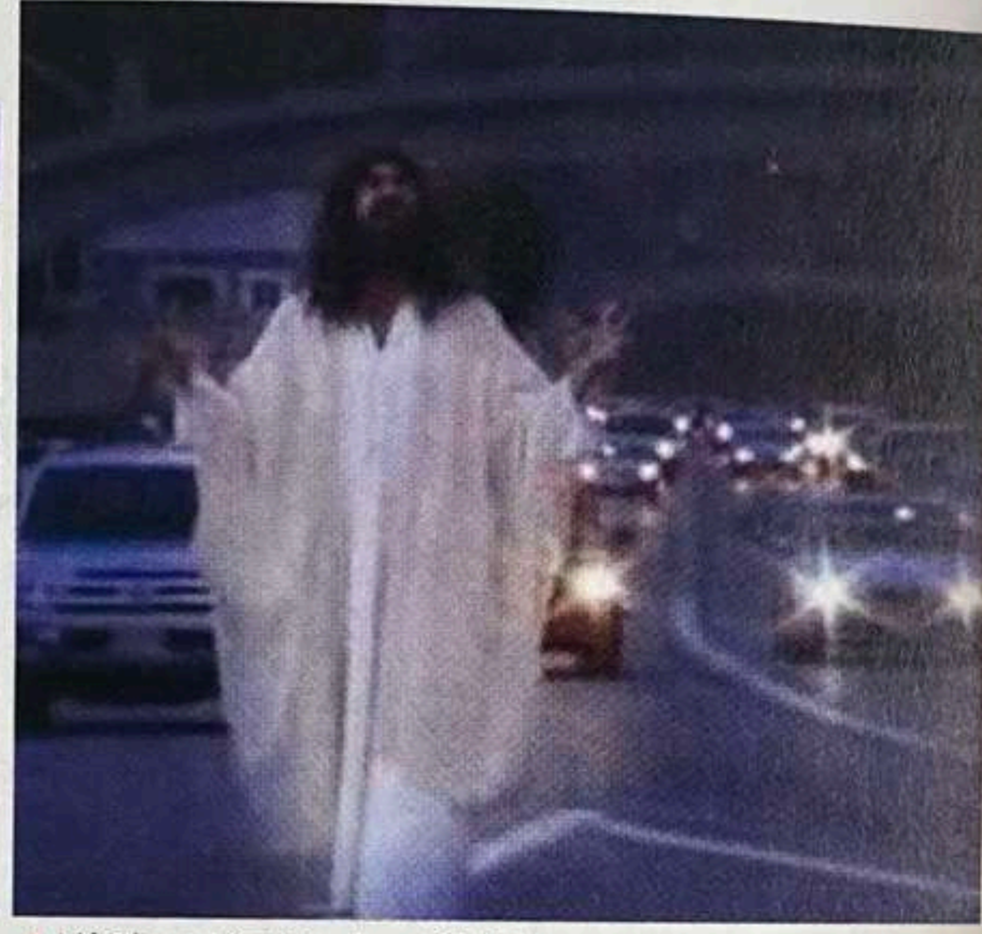
**動画見放題!!**
毎日更新の動画・画像が完全無料！
旦那の知らない人妻達の写メ投稿
http://amam.cc

毎日更新！ **日刊実話デイリー**
無料動画、全国の出会いルポ毎日更新
サイトランキングで出会い丸分かり!!
http://0791.jp/?m3

# 自分をキリストだと信じ込んでいる男の路上ミュージカル



▲ハリウッドの路上でいきなり半裸に



▲道路のど真ん中で熱唱



▲デパート内でも熱唱



▲やはり熱唱

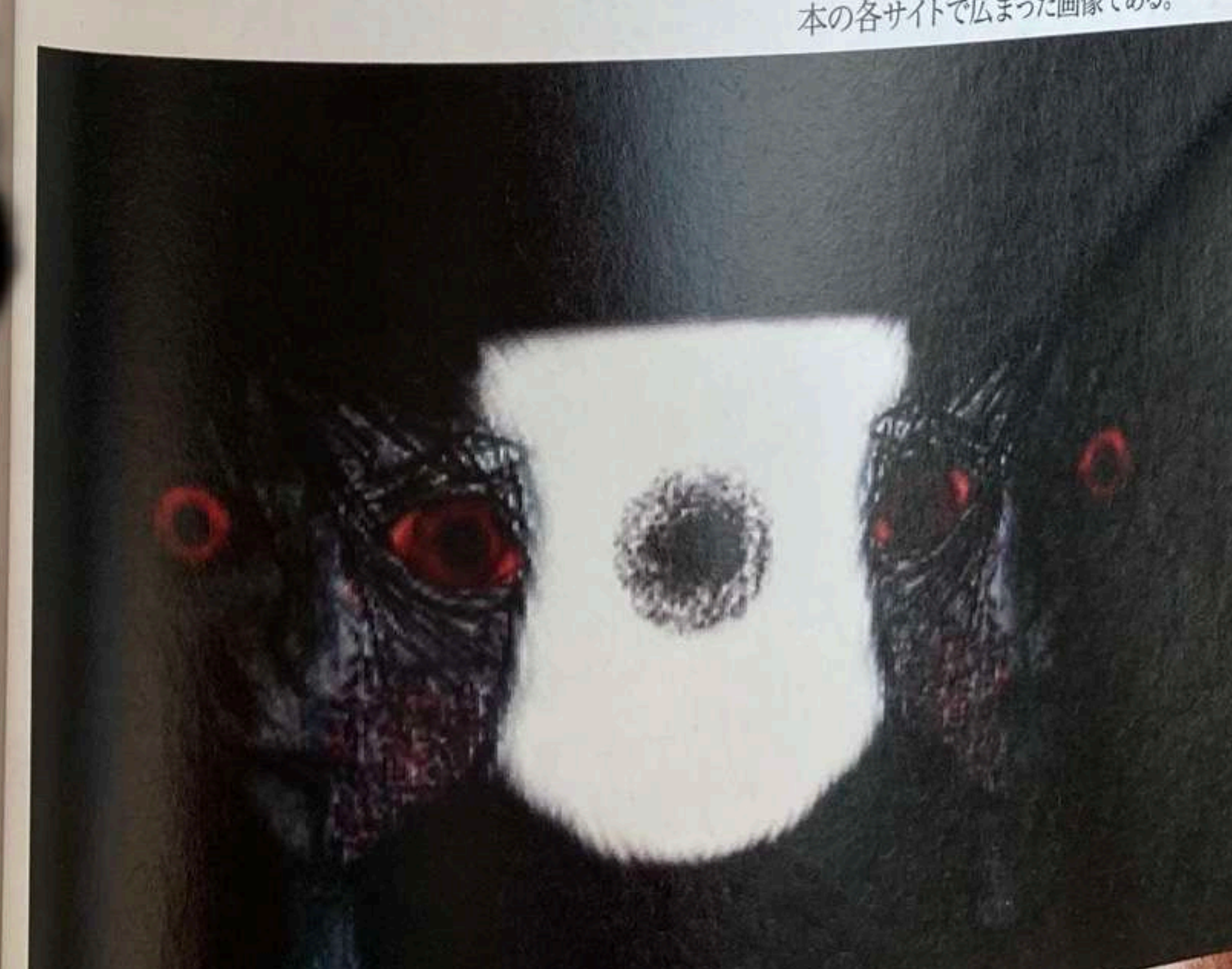
パッと見は楽しげだが、この男、自分をキリストの生まれ変わりと信じ込んでおり、定期的にアメリカ・ロサンゼルスの路上に現れては勝手にミュージカルを行う名物人間である。通行人へ、無差別に教えを説こうとするので、住民は大変な迷惑をこうむっている。この動画を撮影したのは、唯一この男を本物のキリストだと信じ込んでいる手下の人間（自称「使徒」）とのこと。

# 自殺志願者の叫び2



▲03年ごろ、イギリスに住む21才の青年が、自分のサイトに「遺書」として掲載した画像である。意図はまったく不明だ。

▼出所は不明だが、05年ごろに「有名自殺サイトの管理人が描いたイラスト」として、日本の各サイトで広まった画像である。







# 這う女



▲無人の室内と思いきや



▲キッチンに人影が



▲ひたすら室内を這い回る

都内某所に住むMさんは、ある日、自分が住むアパートに、異変が起きていることに気づいた。ボールペンや歯ブラシなどの位置が、微妙に違っていたのだ。そこで、試しに書斎のパソコンのWEBカメラを設置。室内の様子を録画したところ、恐怖の映像が撮影された。Mさんが家を空けたスキを狙って、見知らぬ女が部屋を這い回っていたのだ。この映像を警察に持ち込むと、同じアパートに住む35才の女が逮捕された。キッチンに備え付けの小窓からマジックハンドを差し入れ、玄関の鍵を開けて入り込んでいたらしい。ちなみに、侵入の動機はわかっていないそうだ。

# 100キロの髪の毛を集めた切り裂き魔



1993年、埼玉県秩父で、道行く女性が刃物を持った男に襲われ、髪の毛だけを切り取られるという事件が頻発した。事件は連日のように続き、ついに被害者が20名を超えた頃、警察が1人の男を捕まえた。

犯人は、50才の配管工。幼いころから極度の毛髪フェチで、女性のロングヘアーを触らないと興奮できない性癖の持ち主だったという。警察が犯人の自宅を調べると、押し入れから大量の毛髪が実に100キロも見つかった。

その大半は、床屋などに金を払って集めたものだったが、そのうちガマンできなくなり、ついに他人を襲うに至ったという。



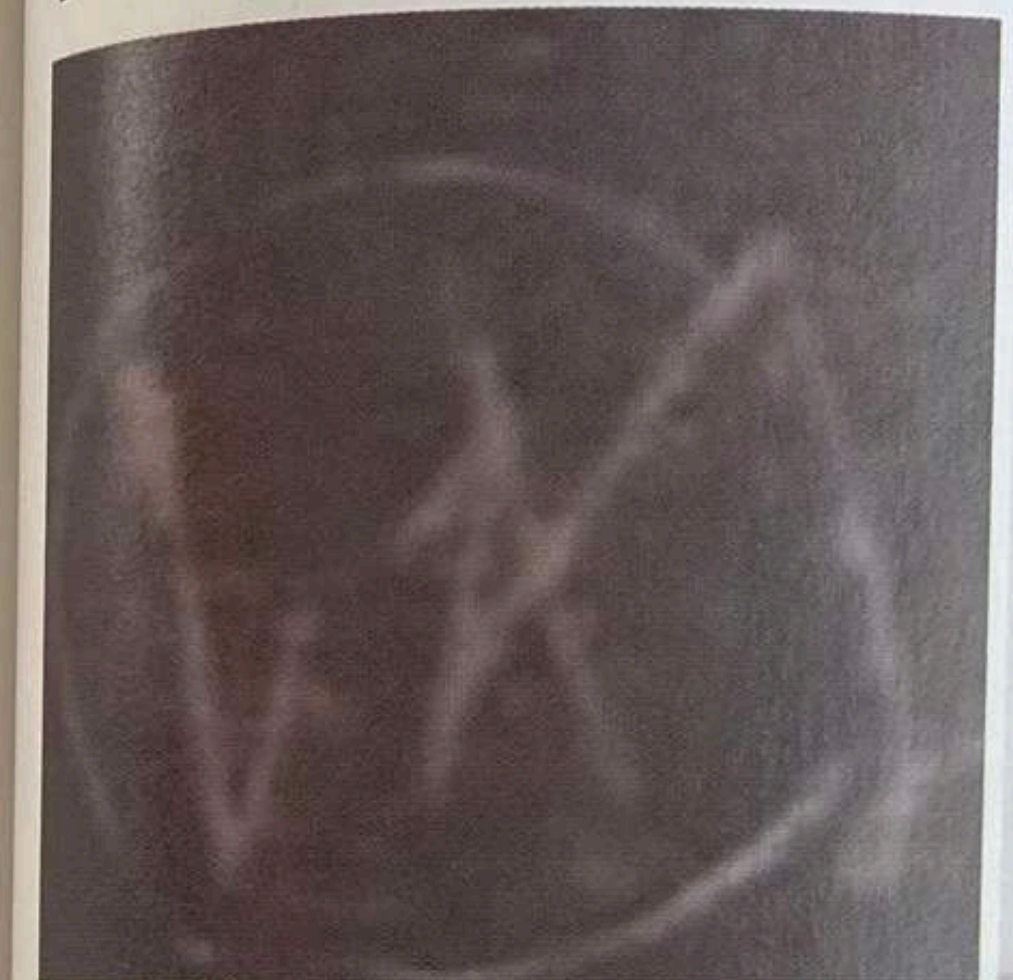


# 悪魔の巣、害虫の巣、麻薬の巣

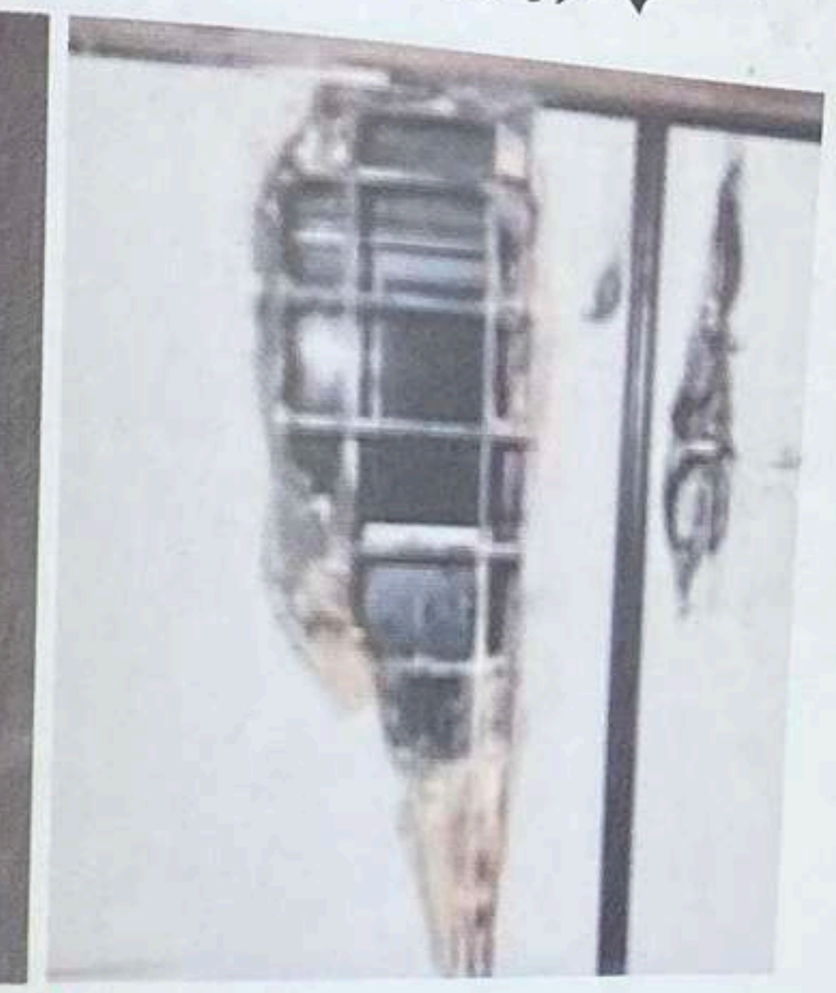



1992年ごろ、関西方面でよく見られた謎チラシである。「IN，GOSYO 1995・7・2」「・悪魔の巣・害虫の巣・麻薬の巣」「回転する特殊電波【殺人電波】・個人標的【大量殺人】」など、いかにもな文章から、「福建省ウーロン」「テニスコート横、レストラン、喫茶室、スパゲティナポリタン、コーヒ」「小女約145cm」「若い力民衆の力。日本国。」のような全く関連性がわからない文言まで書かれてあり、この手のチラシとしては典型的なものだといえる。

# フスマを燃やし、仏像の首を切る狂気の隣人



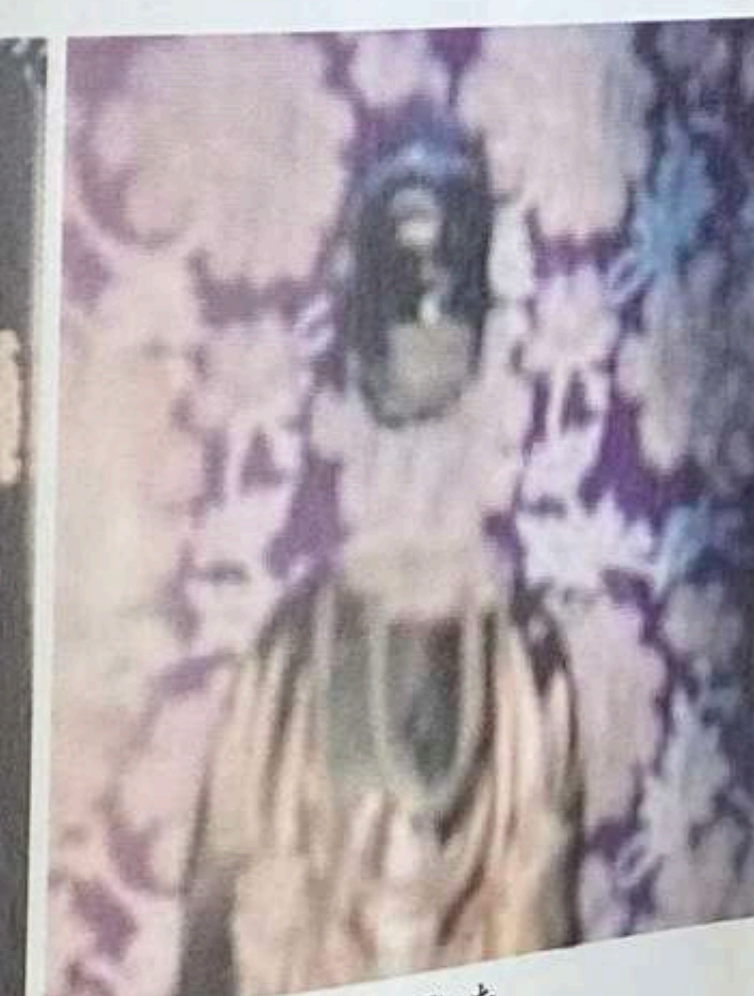
▲壁には「しね」のひっかき傷



▲燃やされたフスマ



▲仏壇には、なぜか御札が差し込まれていた



▲仏像の首も切断されていた

1984年、京都府に住むWさん（当時65才）は、連日のように続く謎の侵入者に悩まされていた。Wさんの留守を狙って勝手口のドアを壊して忍び込み、時に室内のフスマを燃やし、仏像の首を切るなどして去っていくのだ。

金品に損害はなかったが、あまりの酷さに怯えたWさんは、警察に頼んで見張りを頼む。その結果、逮捕された犯人は、Wさんの家の隣に住む老人だった。

取調べに対し老人は、「（Wさんの）家にある仏像が呪われていて、自分が不幸になっている」と主張。そのまま精神病院へ収容された。





# 数十体のリアドールと暮らす



▲お気に入りの一体



▲室内の様子

都内に住むある男性は、自宅で数十体のリアルドールたちと暮らしている。人間の彼女は特に必要なく、ドールとテレビなどを見ているときが一番の幸せだそうだ。



▲棚には修理用のスペアが並ぶ



▲別室には交換用の頭部がズラリ

# 性交求ム




都内某所に住むYさんは、ある日、彼氏が住むアパートの郵便受けに、ご覧のチラシが入っているのを見つけた。あっけに取られつつチラシを眺めていると、彼女の背後から声がした。

「いかがでしょう。性交、よろしいでしょうか」

振り返ると、メガネをかけたスーツ姿の男が笑顔を浮かべて立っていた。

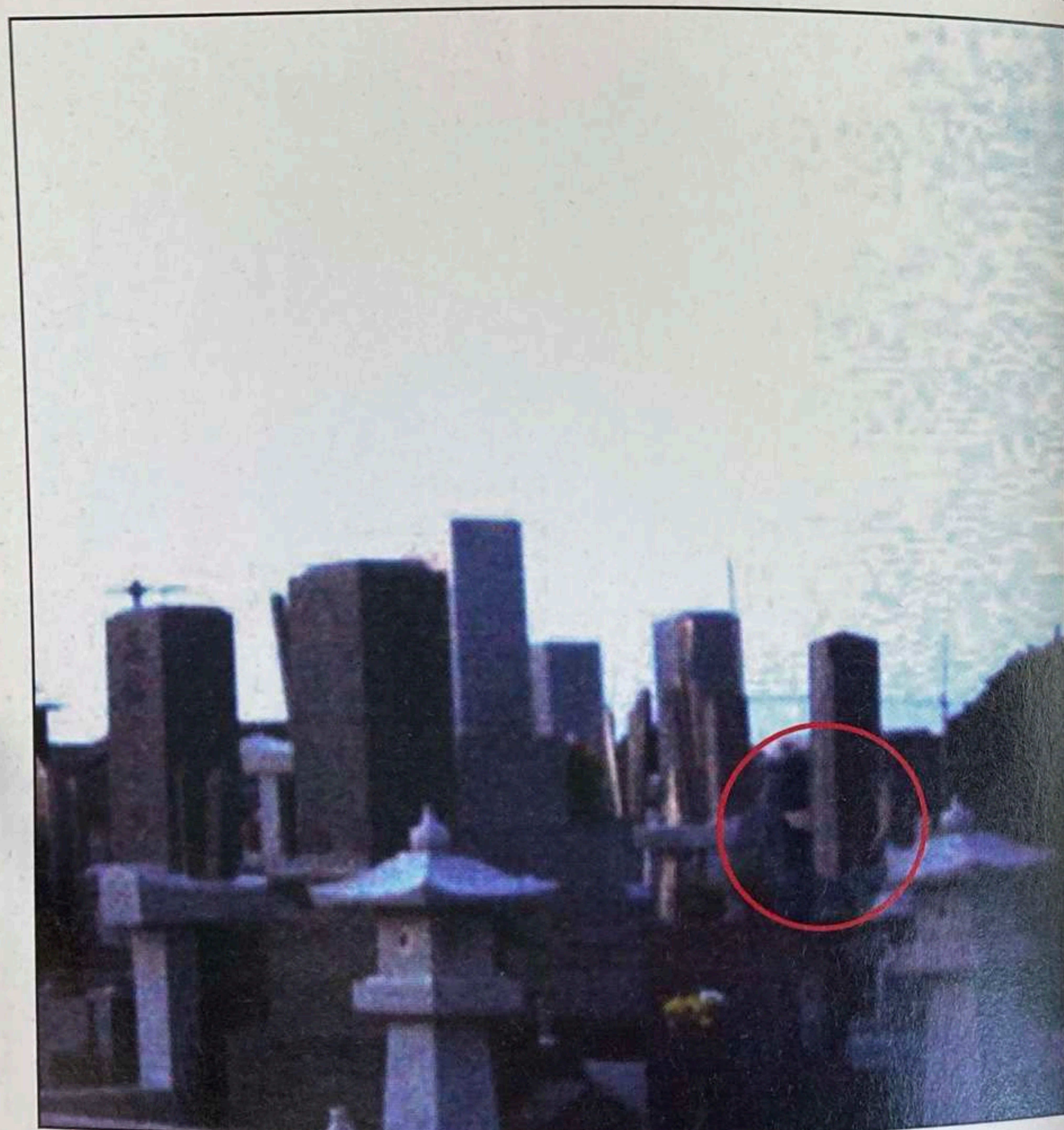
とっさに声を出せないでいたYさんに、男はいきなり右手を上げ、思い切り彼女の下唇を引っ張ったという。

「わかりました」

そう言って、何事もなかったように立ち去る男。Yさんは、その後、アパートを引き払うことに決めた。



# 墓を抱く女

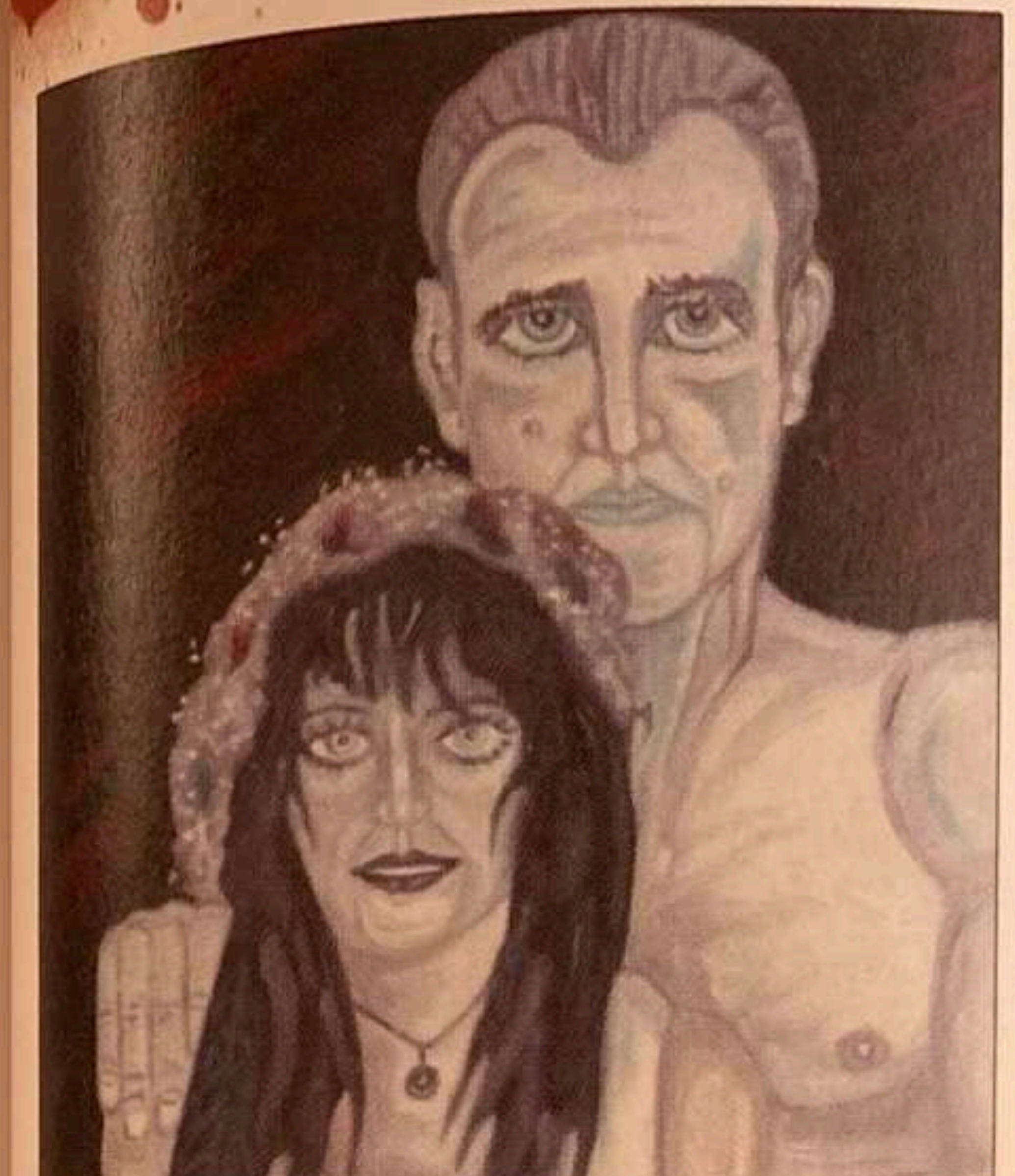


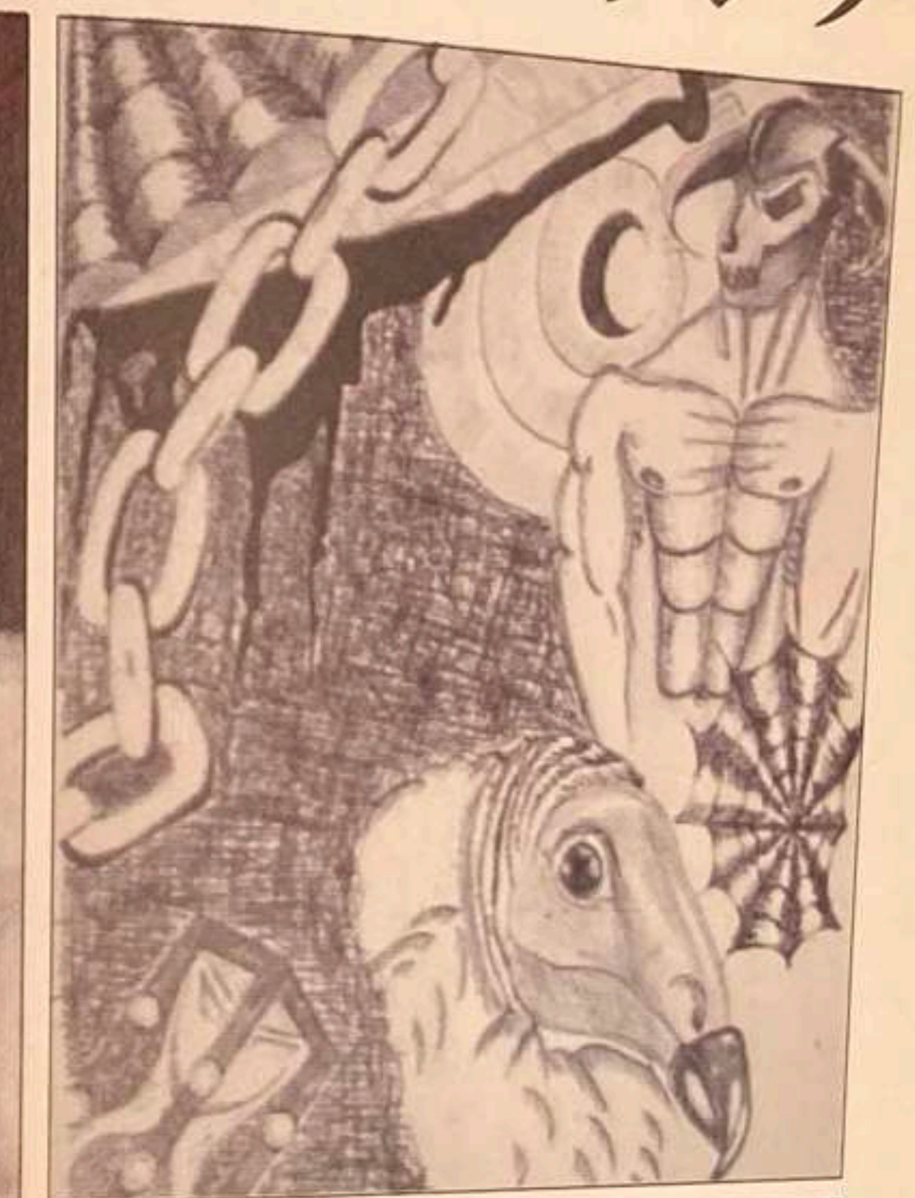
都内に建つ某寺院には、不思議な女性が出没する。その女性、裏手の墓地に、昼夜を問わず墓に抱きつくのだという。

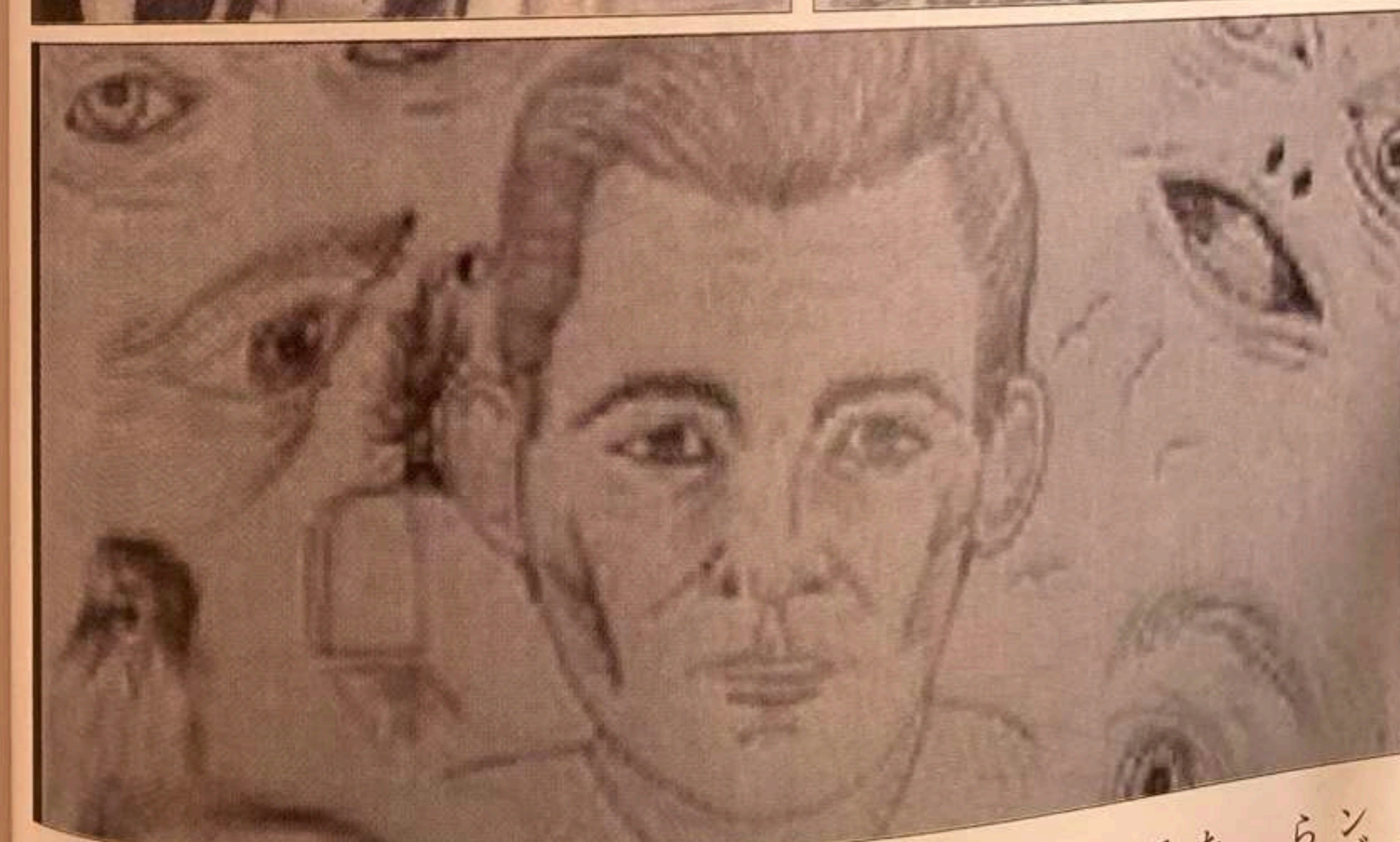
近隣に住む学生のKさんは、この噂を聞いてカメラを片手に墓地へ向かった。そして撮影されたのがこの画像である。

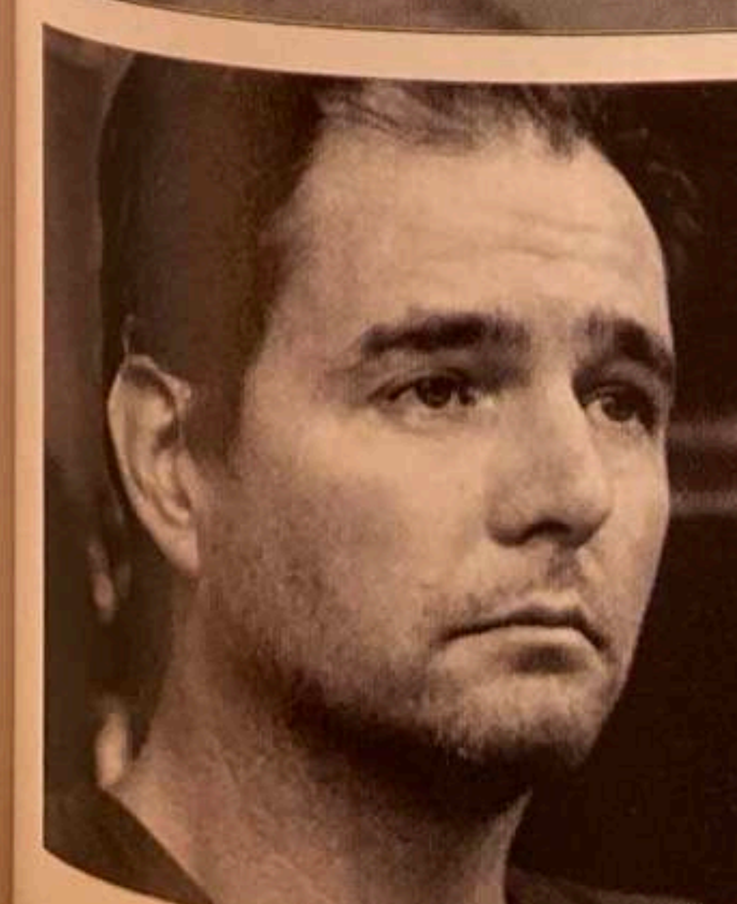
Kさんによれば、女性は敷地内の墓に手当たりしだいに抱きついており、特定の墓へお参りをしているような様子はなかったそうだ。

# ダニー・ローリング







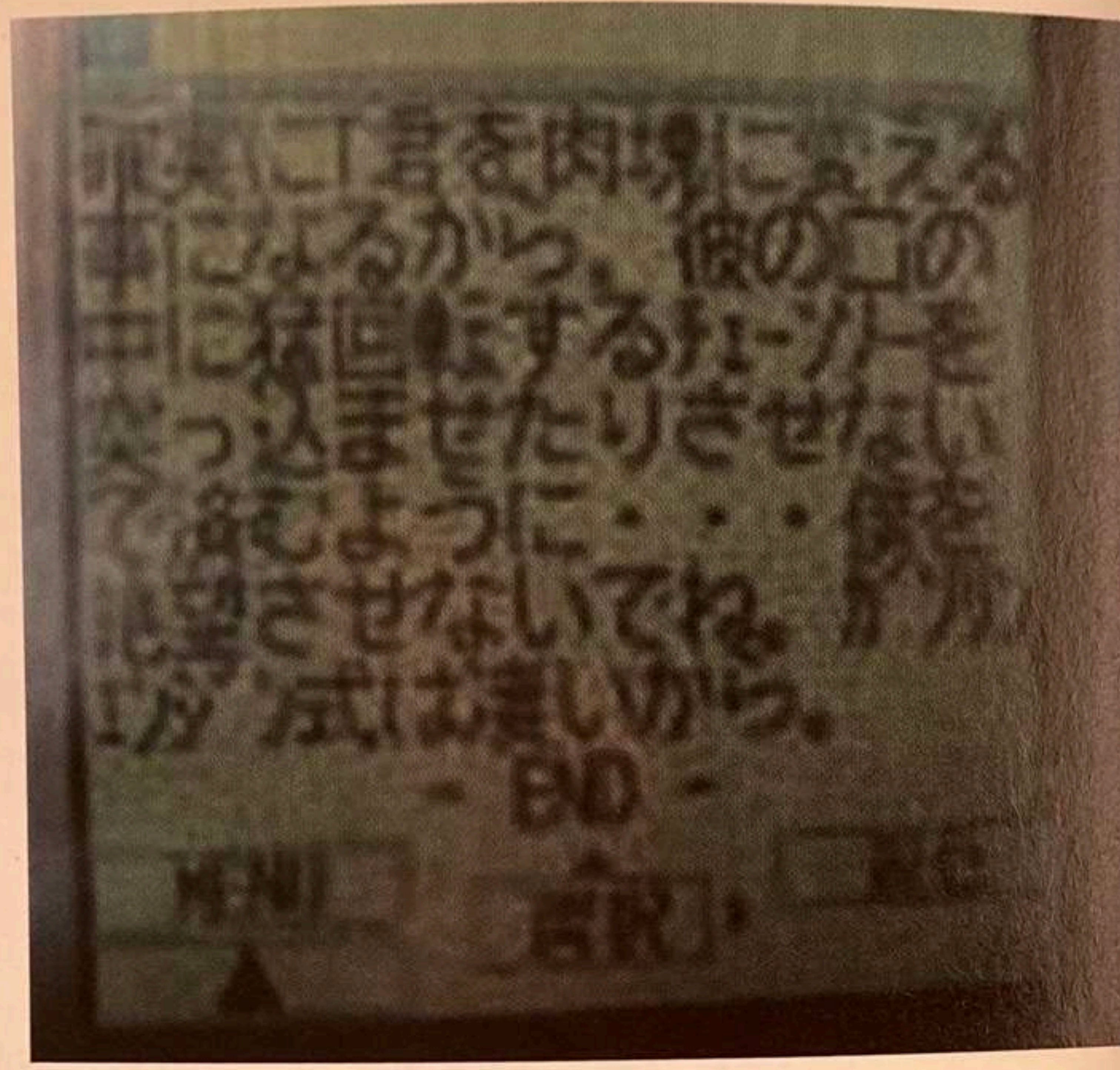


ダニー・ローリングは、「ゲインズビルの切り裂き魔」として知られる連続殺人犯である。警官の父に虐待を受けて育ったローリングは、いつか父親を殺そうと願いながら育った。しかし、10代半ばで父親が死んでしまったため、そのストレスを見も知らぬ他人にぶつけようと思い立ち、1990年にゲインズビル市内の学生街で、学生5人をナイフで殺害。さらに女性3人をレイプした上で死体をバラバラに切り刻んだ。ローリングには、2006年に死刑判決が下された。

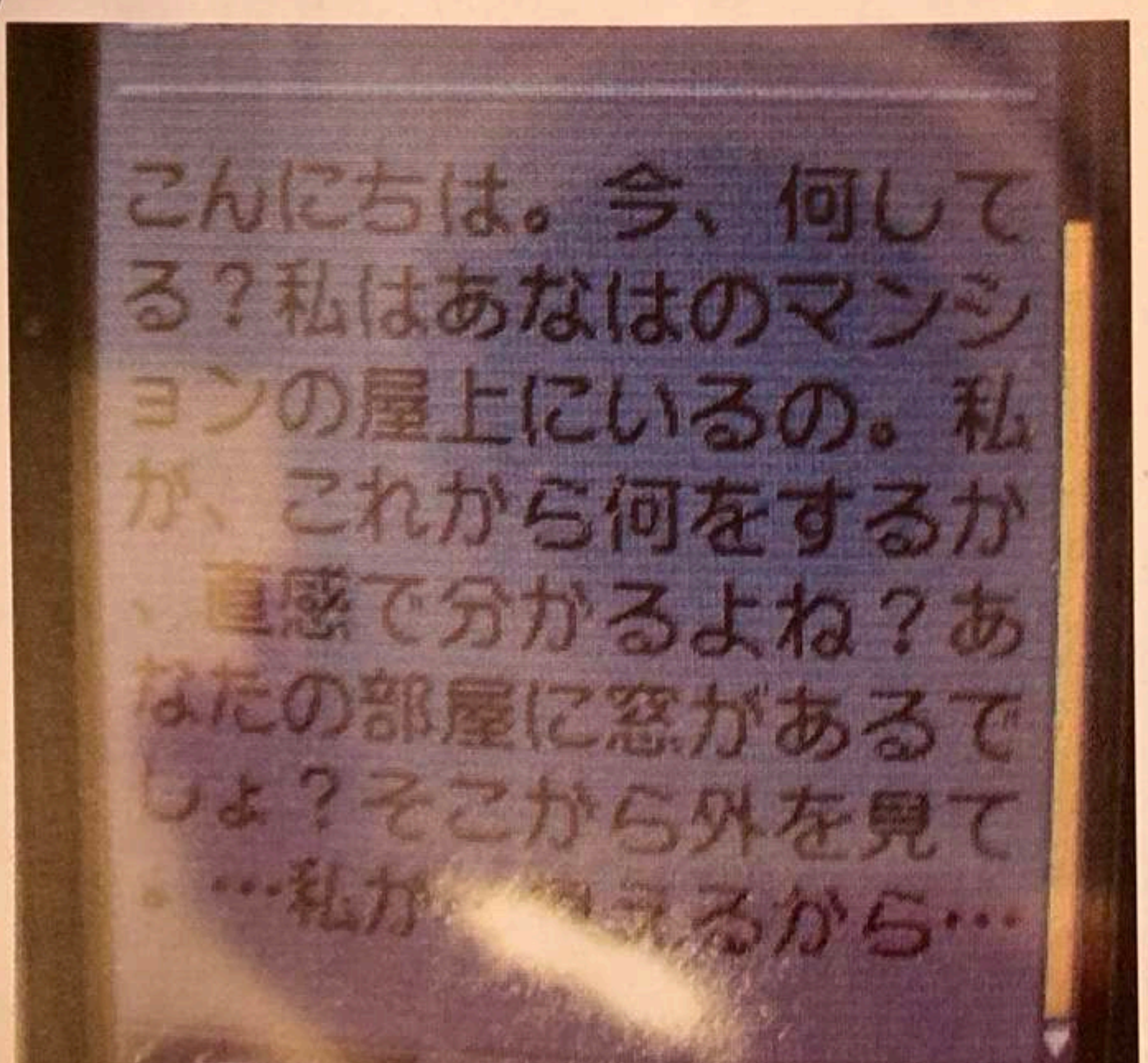




# ストーカーからの携帯メール1

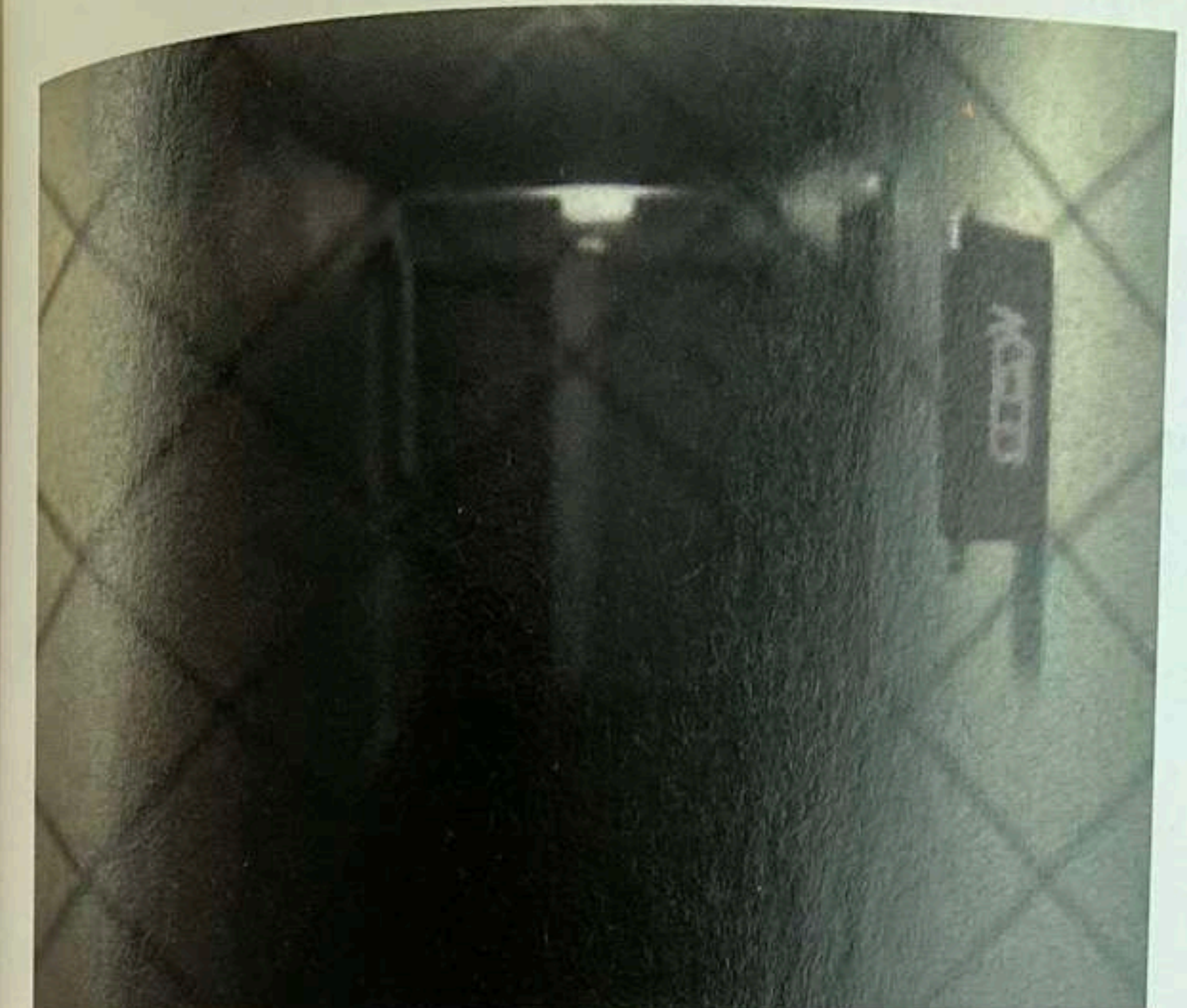


都内に住む某女性の元へ、かつて付き合った男が送ってきた脅迫メール。「確実にT君を肉塊に変えることになるから。彼の口の中に猛回転するチェーンソーを突っ込ませたりさせないで済むように…僕を絶望させないでね。ガソリンエンジン式は凄いから」。メールの送り主は、脅迫罪で逮捕されたとのこと。

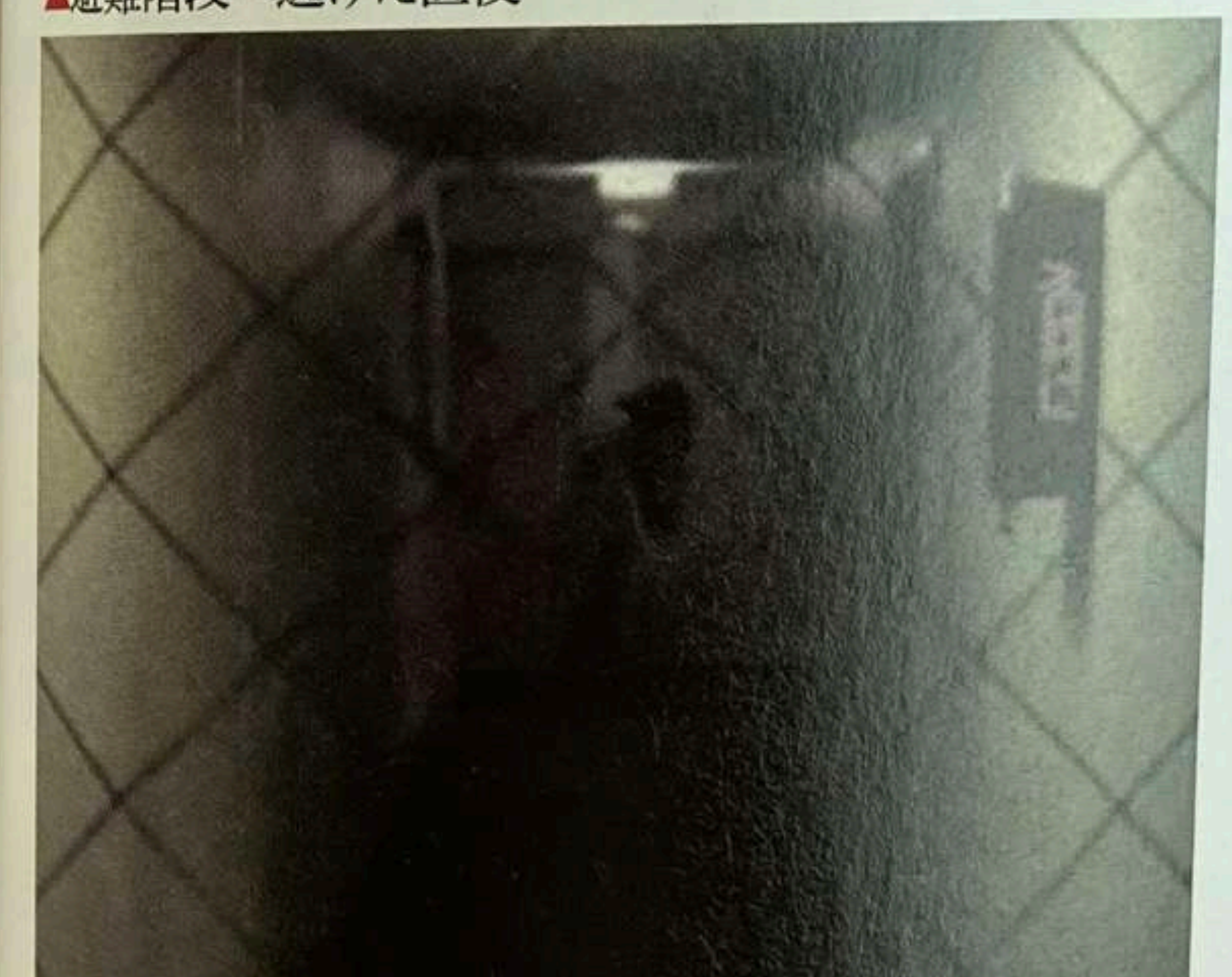



04年夏、都内に住む男性の元へ、別れた女性が送ってきたもの。「こんにちは。今、何してる？私はあなはのマンションの屋上にいるの。私が、これから何をするか、直感で分かるよね？あなたの部屋に窓があるでしょ？そこから外を見て。…私が…見えるから…」。幸い、この女性が飛び降りる前に、男性が身柄の確保に成功した。

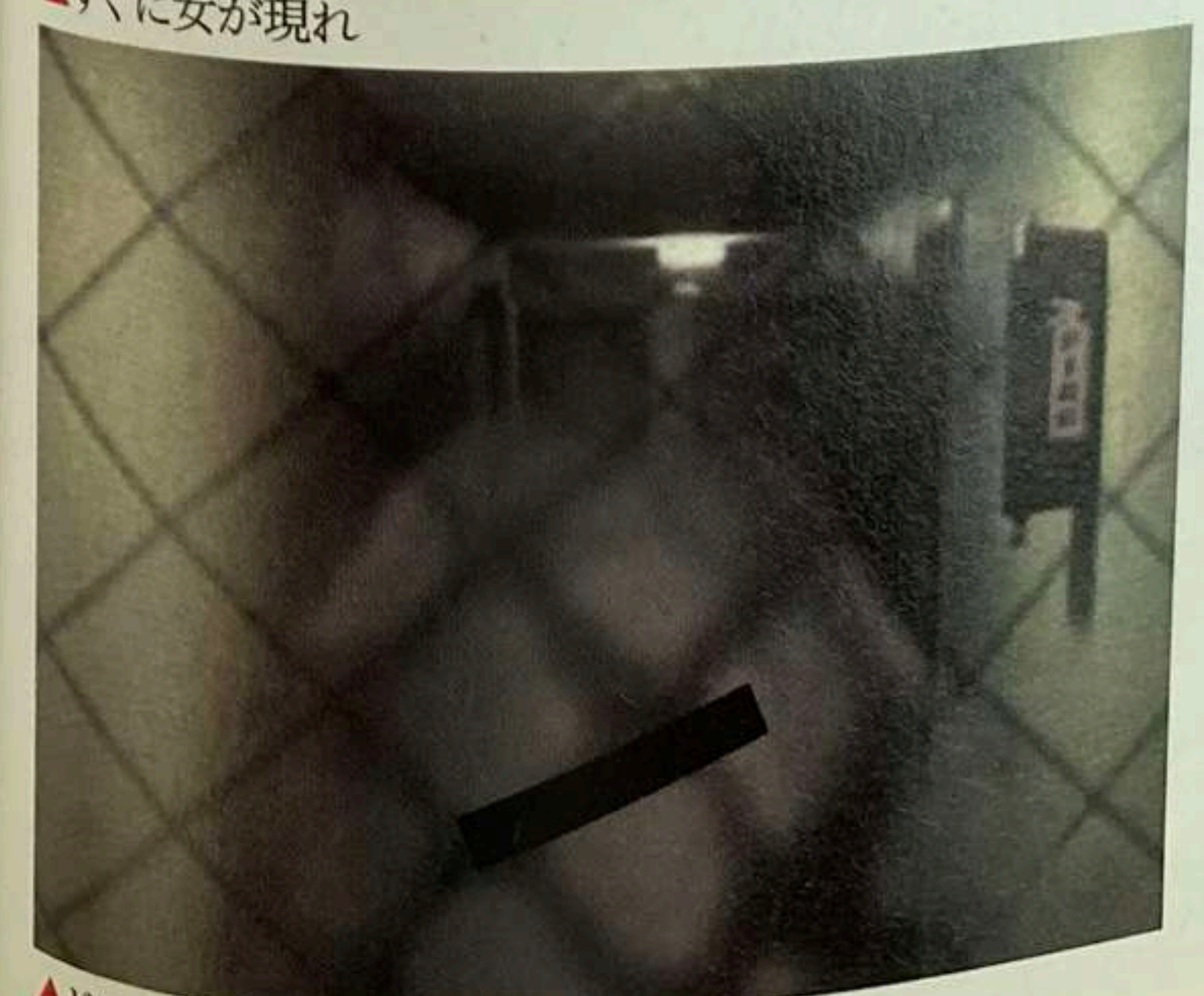
# 襲いかかる女ストーカー その恐怖の一部始終



▲避難階段へ逃げた直後



▲すぐに女が現れ

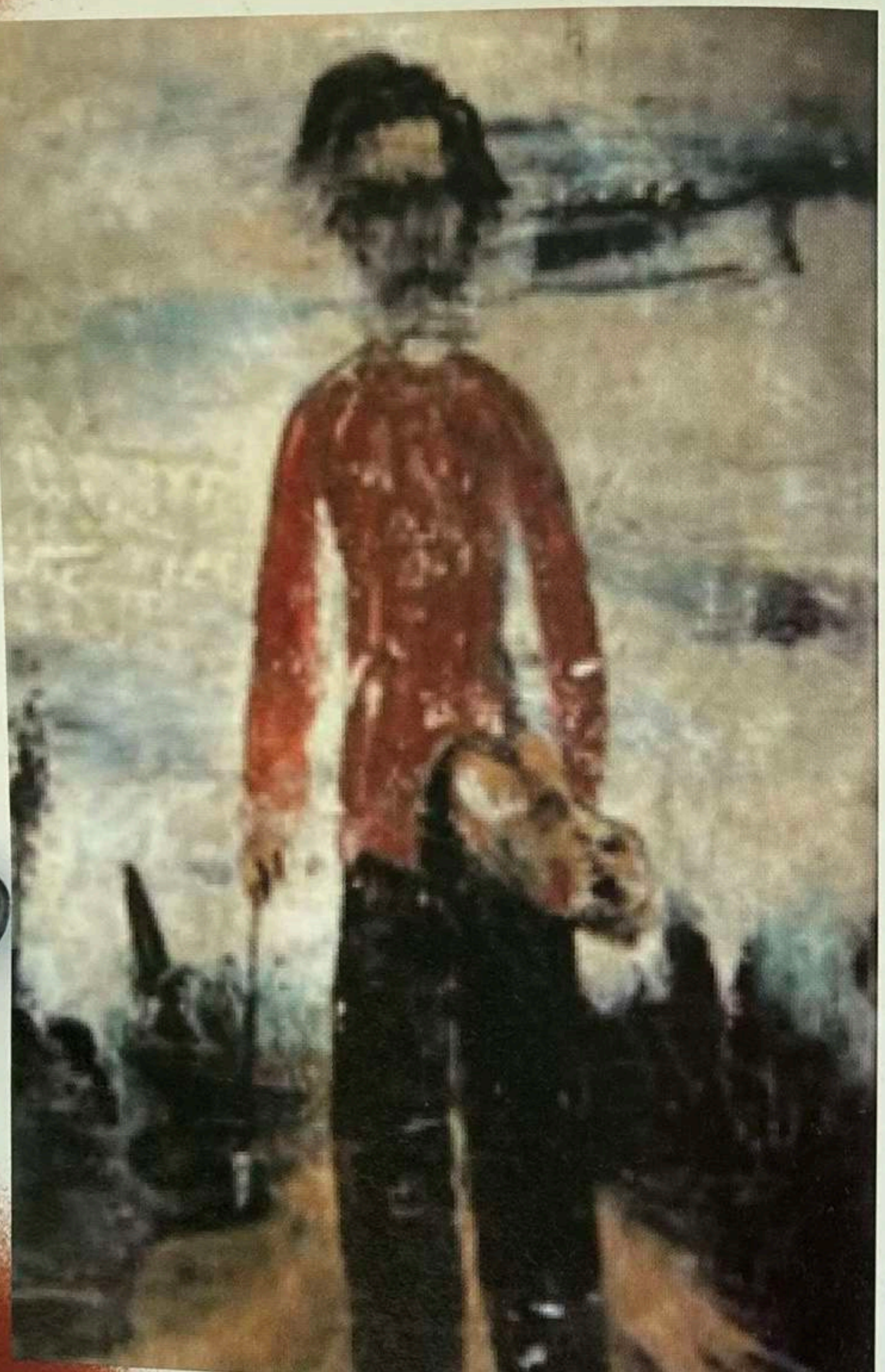


▲ドアへ猛ダッシュしてくる

とあるアメリカ人男性が、携帯で撮影した画像である。ある日アパートに帰宅した彼は、かつて付き合っていた女性が部屋の前でナイフを片手に待ち受けていることに気づいた。慌ててきびすを返し、追ってくる元彼女をダッシュでかわしながら、アパート内の避難階段へ。ドアを閉め切り、無事に難を逃れた。







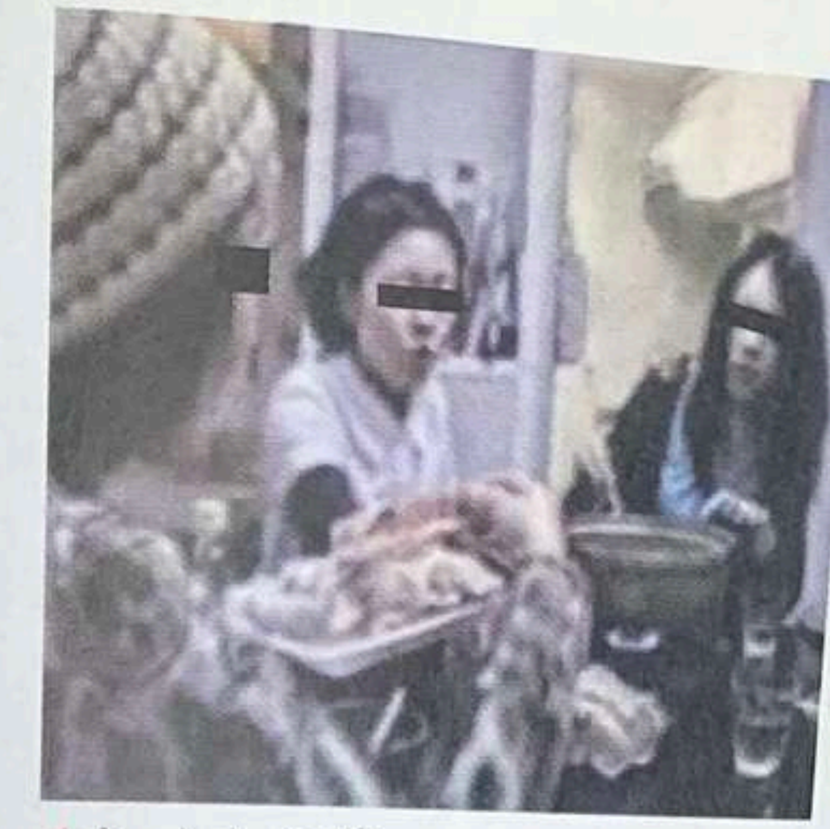
# 妻を殺された老人が、すべての若者を呪って描いた絵

ご覧の絵画は、イギリスに住む、ある素人の老人が描いたものだ。

老人には、数十年連れ添った最愛の妻がいた。しかし、2004年のある日、その妻を通り魔に殺されてしまう。犯人は13才の少年で、金目当ての単純な犯行だった。

涙に暮れた老人は、「世の中のすべての若い人間を呪い殺す」と宣言し、上の絵を描いた後、妻の後を追うように自然死した。

# ホームパーティに現れた見知らぬ女



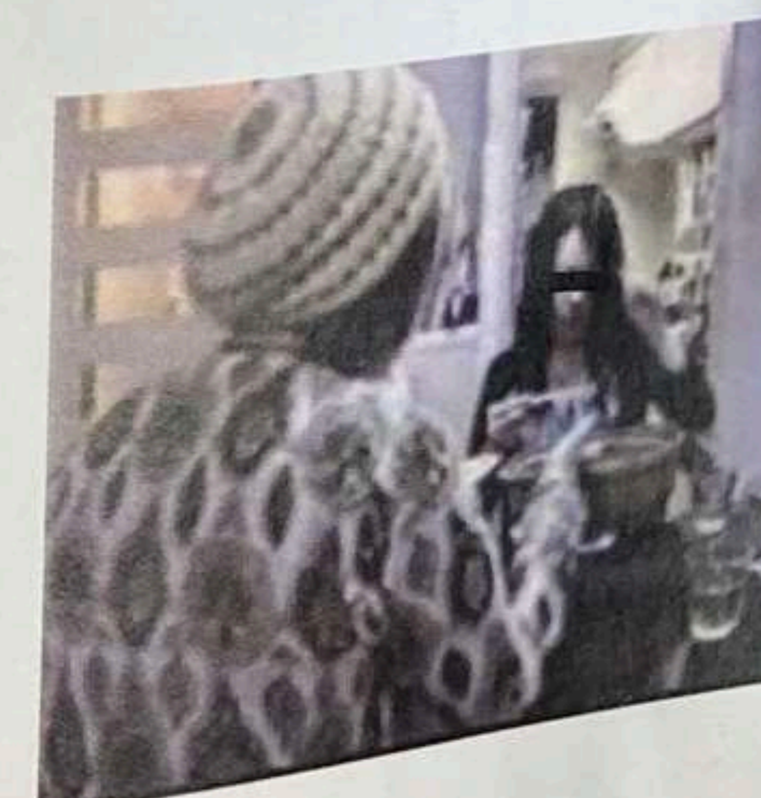
▲ホームパーティ中



▲背後の扉が微妙に開き



▲完全に開いた



▲女が現れ



▲しばらく見ている

２００４年、都内に住む学生のSさんが撮影したホームパーティの模様である。女性たちが鍋をつつくなか、ふいに背後の扉が開き、女性がこちらを眺める姿が映り込んでいる。

Sさんによれば、ホームパーティの参加者でこの女性を知る者はいなかった。また、特に取られた物もなかった。玄関の鍵もしっかり閉めてあり、女性がどこから忍び込んできたのか、いまだにわからないそうだ。



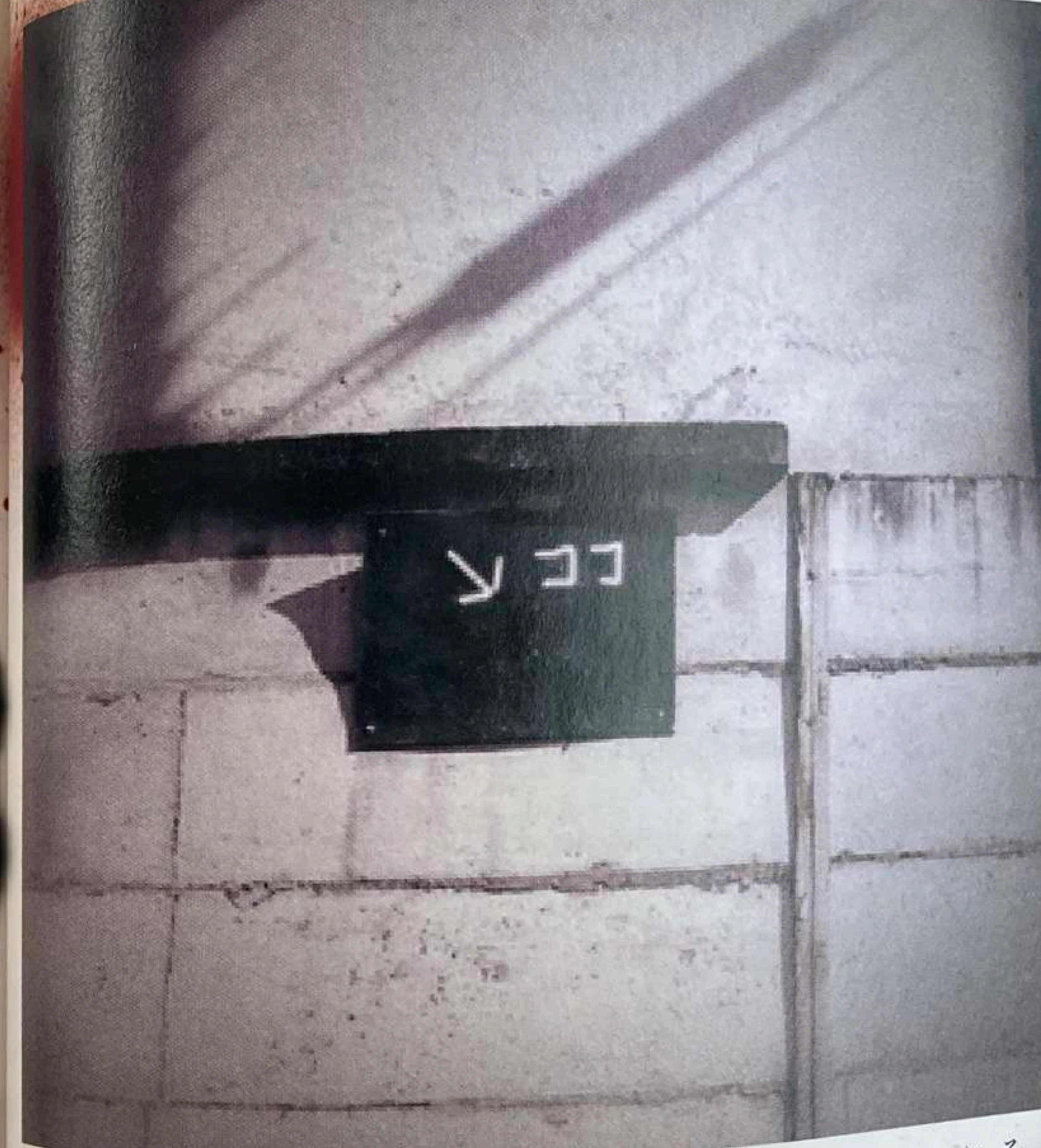


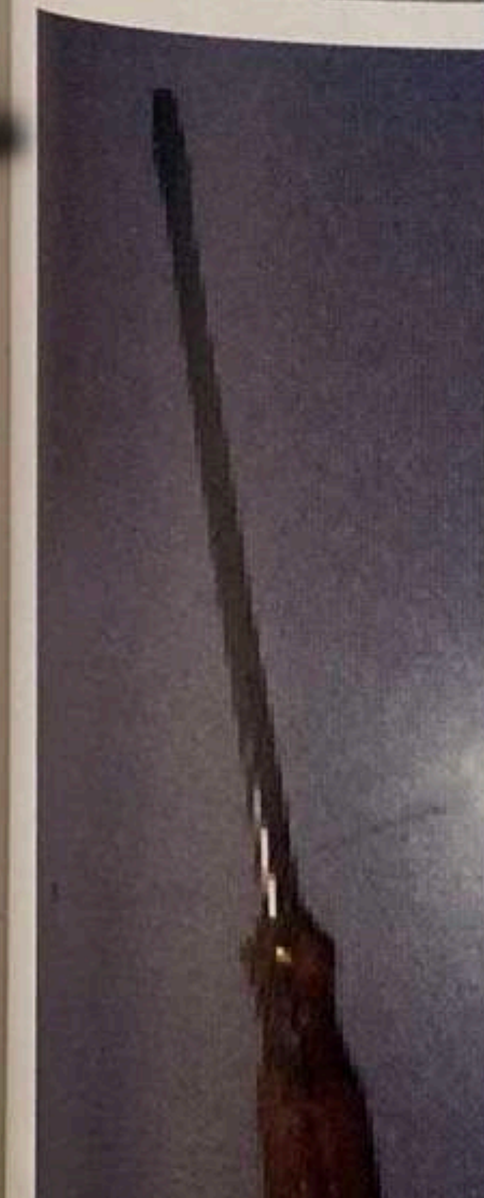
# 留守中、壁に経を書かれた部屋



静岡県の某格安アパートに住むKさんは、昨年夏、一週間ほど東北の実家へ帰省して帰ってきたところ、自宅に入って腰を抜かした。居間の壁に、ワケのわからぬ経のようなものが描かれていたからだ。犯人は、裏手から侵入したようだが、経を書かれた以外、部屋からなくなったものは、何もないという。

# ドライバーが飛び出す穴



平凡なアスファルト壁に付けられた緑の看板。その中央には穴が開けられ、矢印とともに「ココ」という白い文字が……。

これは、1980年ごろ、北海道某所に存在した壁だ。パッと見はユーモラスな印象を受けるが、実は、この壁にまつわり、恐ろしい事件が起きている。「ココ」という指示に誘われ、試しに穴の中をのぞき込んでみたが最後、なんと壁の裏側に隠れていた男が、空洞の奥からマイナスドライバーを突き出してくるのだ。

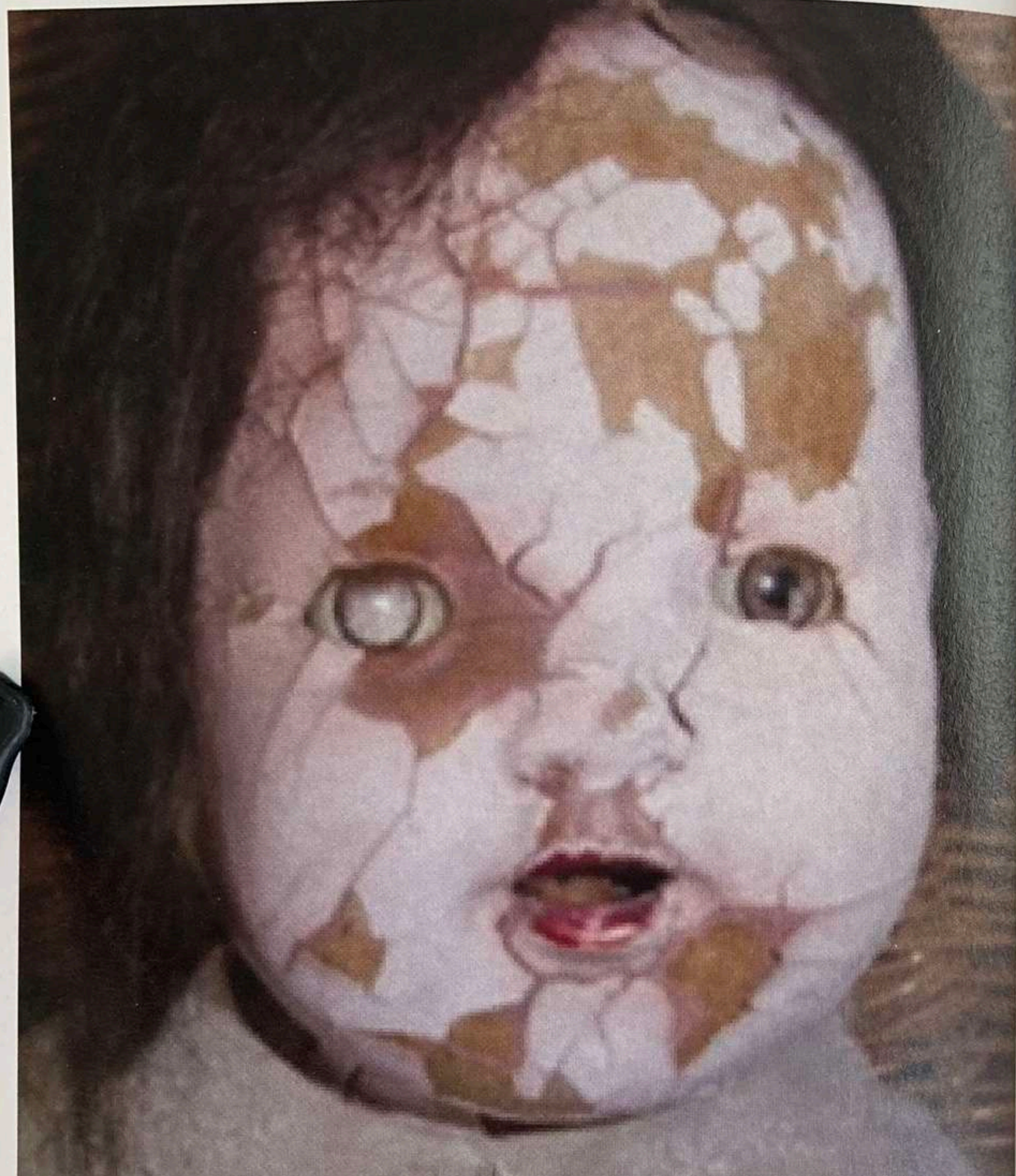
幸い、最初の被害者は素早く身を引いたため、けが人はゼロのまま犯人は逮捕された。犯人は純粋な愉快犯で、単に「人の目をつぶしてみたかった」とだけ供述したという。

インパクトの強い事件であるため、ネットの一部では「自分が体験した怖い話」として語り継がれ、半ば都市伝説化している。





# 重度の神経症女性が愛した人形

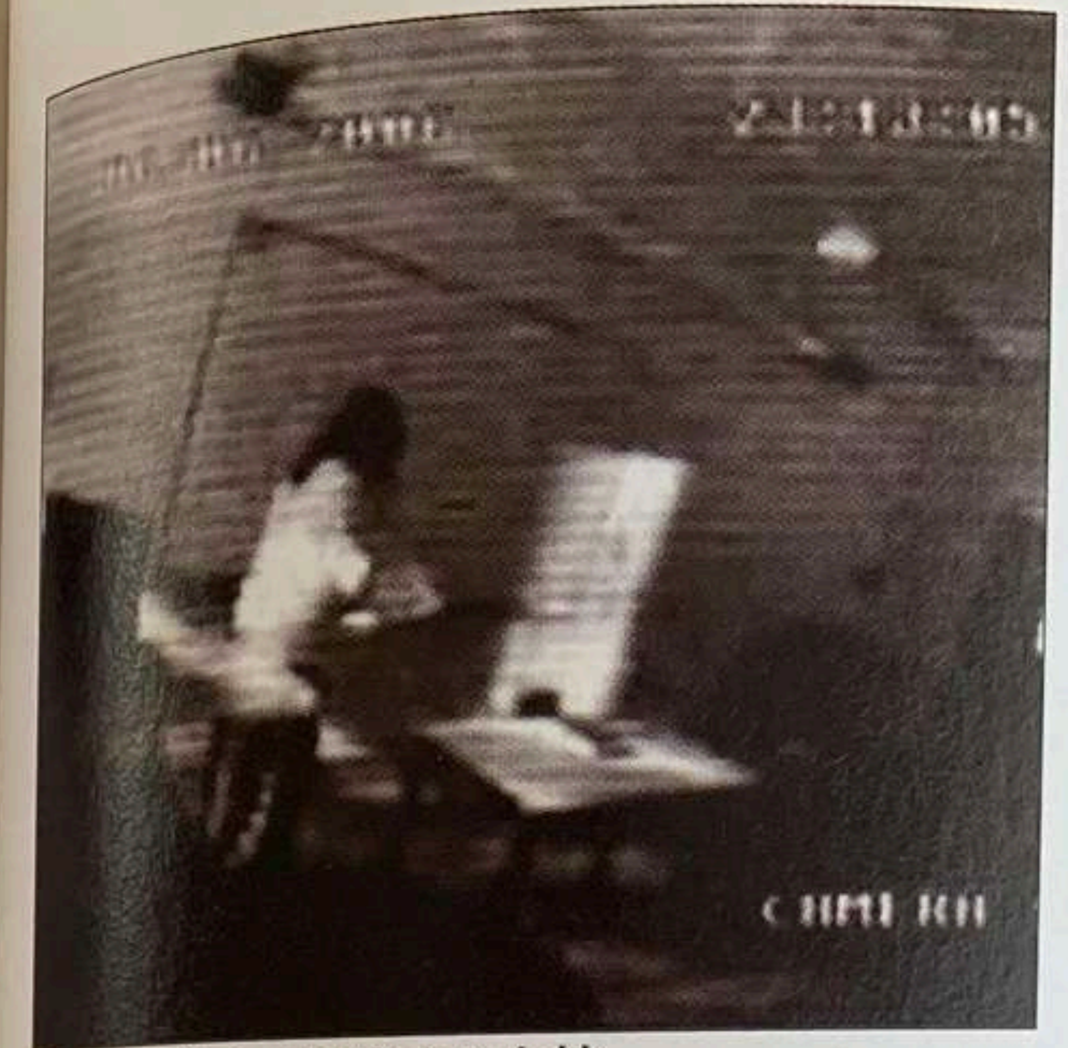


2004年の夏頃、アメリカ・ニューヨークに、「私の赤ちゃんを預かってください」と通行人に話しかける女性が現れた。申し出を受け入れた者は、女が胸元に抱く子供を手渡されて息をのんだ。それは、表面の塗装がヒビ割れた、何とも不気味な人形だったからだ。

思わずひるんでいると、女はにわかに目をむき、「お前が子供を殺した!」と叫び、人形を抱く通行人に飛びかかって行くのだという。

その後、女性は精神病院へ収容され、重度の神経症と診断された。奇行に走った理由は明かされていない。

# 深夜に女性を襲う者の正体は…



▲仕事を終えて帰宅する女性



▲部屋を出て行く



▲廊下の監視カメラが捉えた別カット

2006年、アメリカ・カリフォルニア州の某IT企業に勤めるリンダさん（24才）は、ある日、血まみれで会社の床に倒れているのを発見された。リンダさんによれば、深夜に会社を出ようとしたところ、ナイフを持った男に襲われたという。

警察の捜査は難航すると思われた。その夜、会社に侵入者の形跡はなく、物的証拠もまったく見あたらなかったからだ。が、翌日、監視カメラの記録を調べた警察は、不可解なシーンを目撃する。テープには、リンダさんが1人で逃げ回り、1人で床の上でのたうち回る光景が記録されていたのだ。

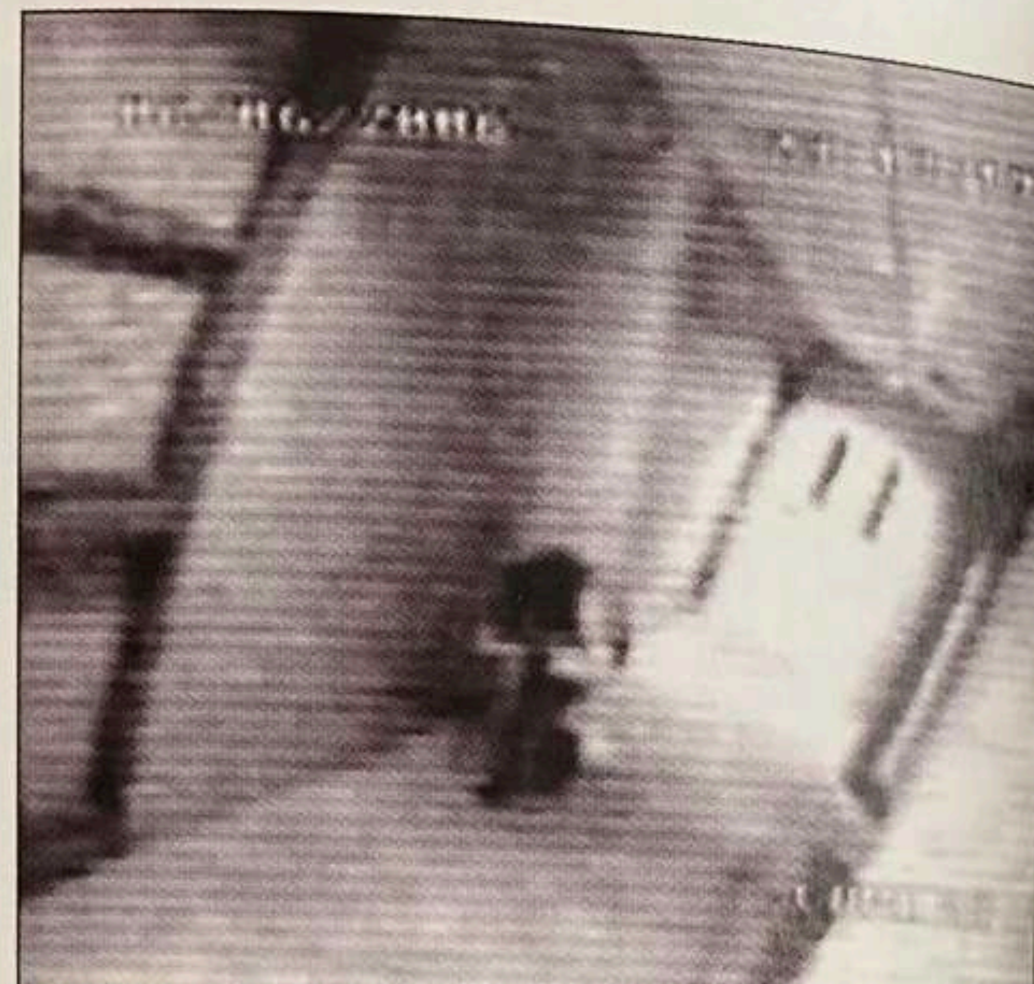
結局、事件は「加害者ナシ」で処理され、リンダさんは精神病院へ。医師の鑑定はまだ出ていない。



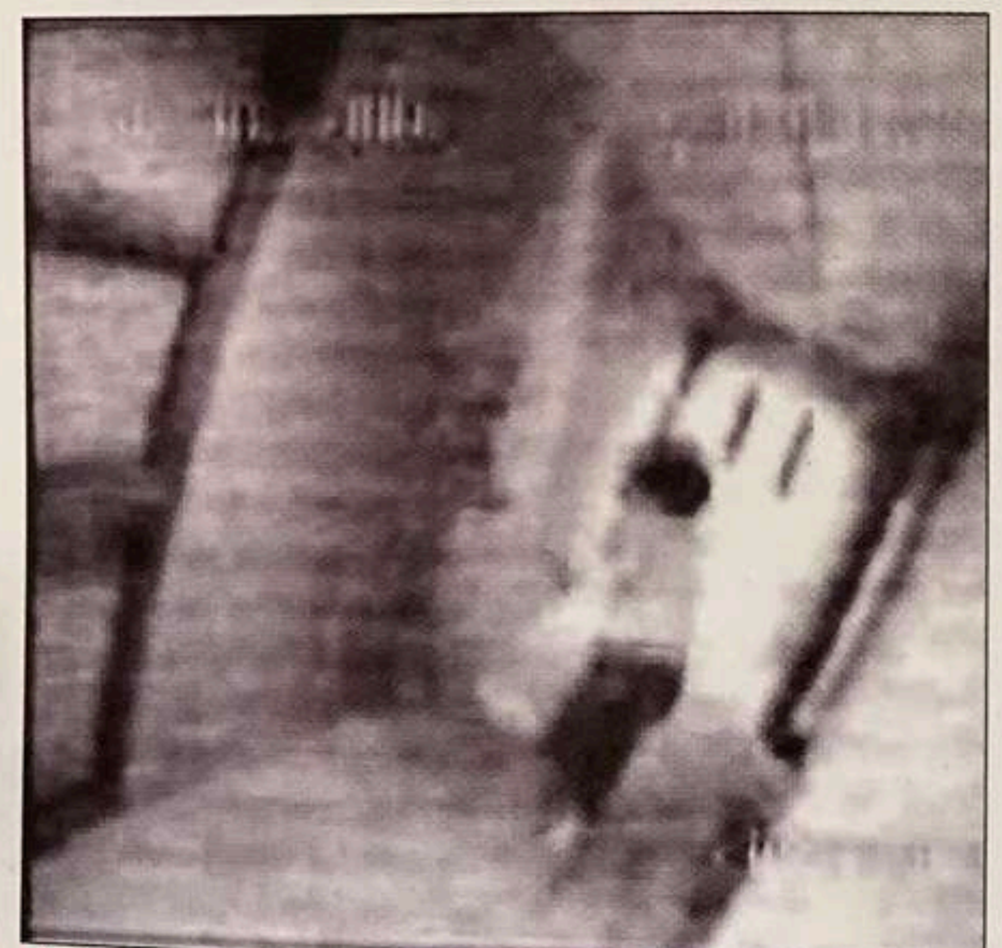




▲苦しみ出して



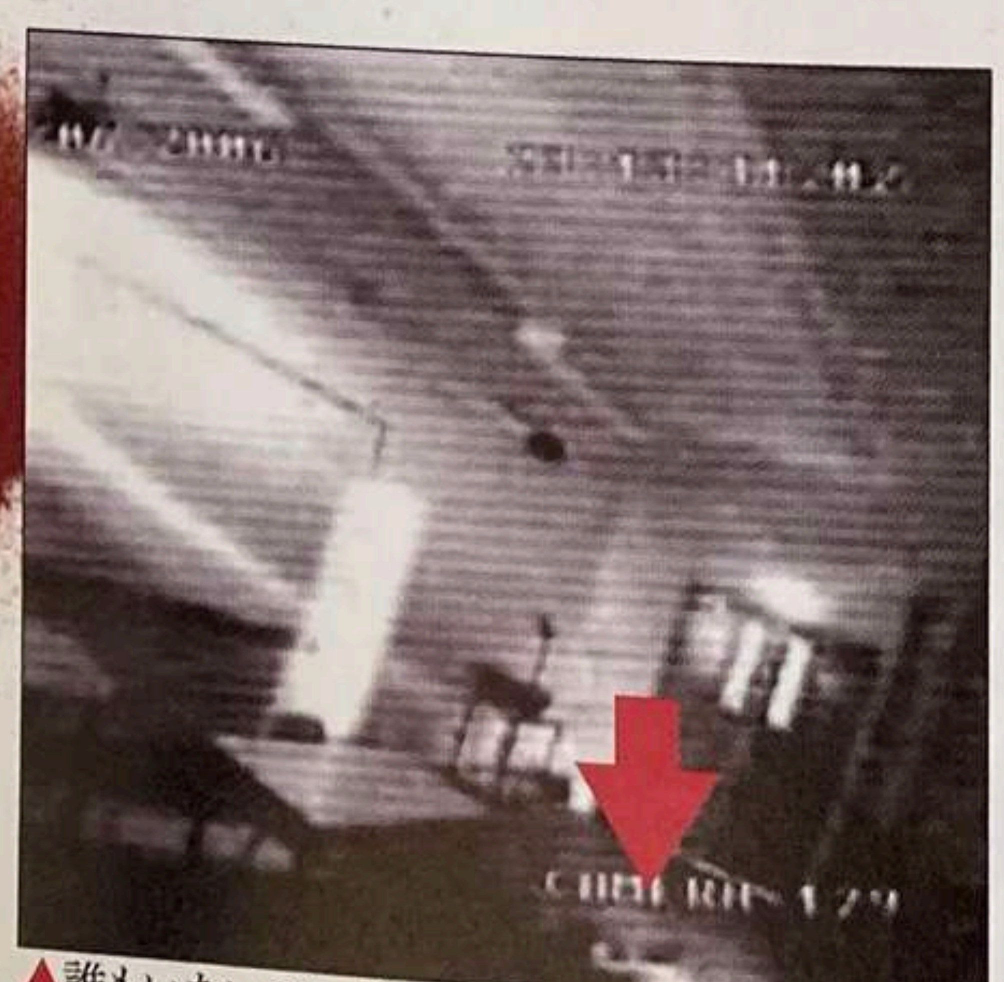
▲急にうずくまる女性



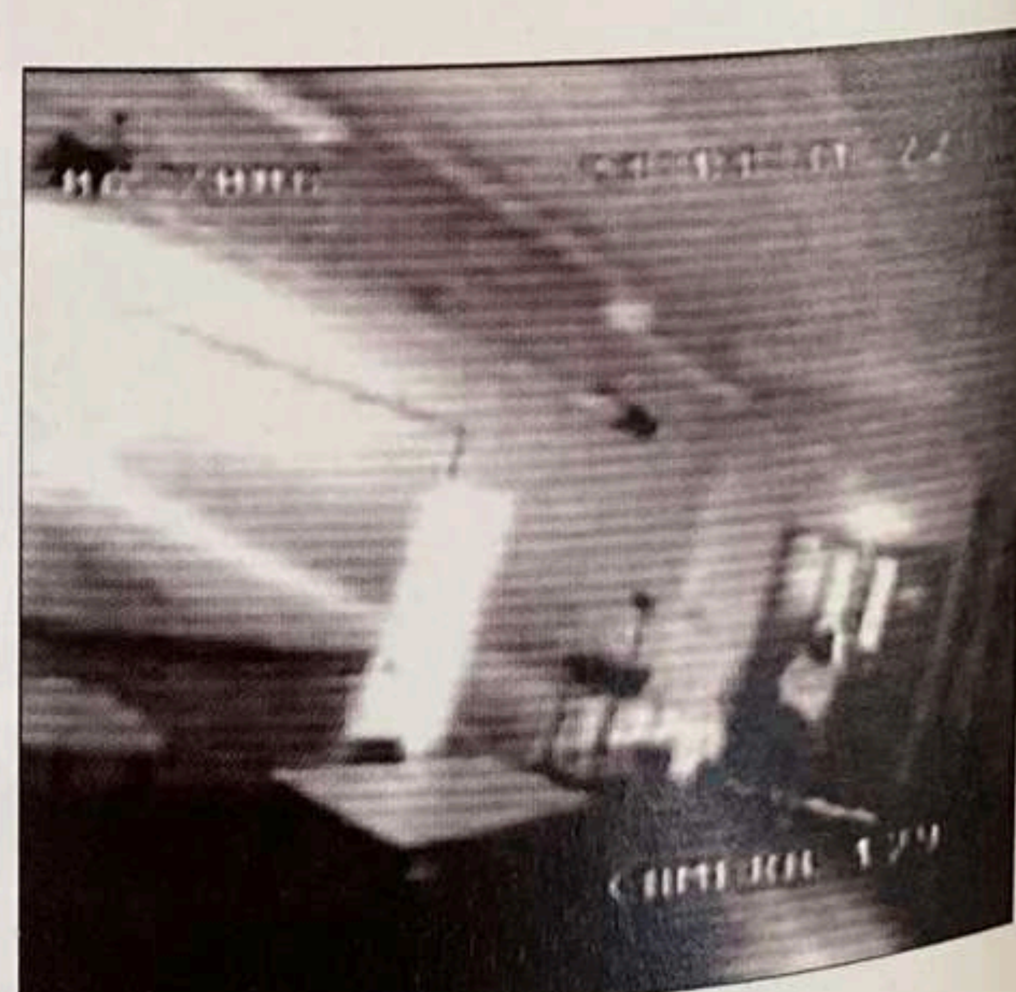
▲クルリと逃げ出して



▲絶叫



▲誰もいないのに床で苦しむ女性



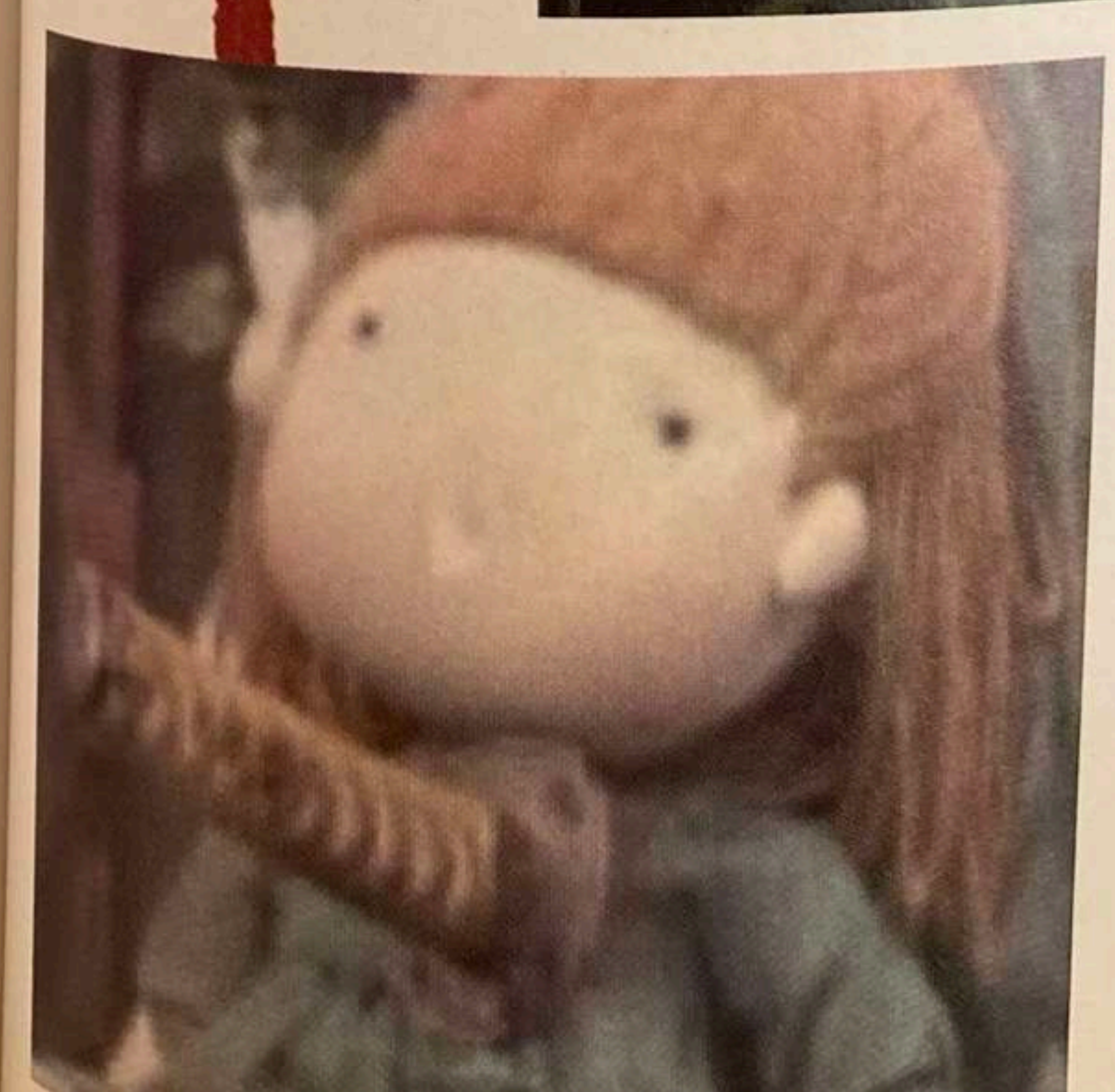
▲さっきの部屋に戻ってきた

# 卵子をください




都内に住むOLのYさんが勤める会社には、彼女宛てに、定期的に大根と「卵子をください」とだけ書かれた手紙が届く。送り人が書かれていないため、どうすればいいか全くわからないそうだ。

# 刀の刺さった人形



都内に住むOLのMさんの自宅へは、誕生日に日本刀のオモチャが刺さった人形が送られてきた。こちらも送り人は不明。捨てたくても捨てづらくて困っているそうだ。





# すべての鏡が割れる町

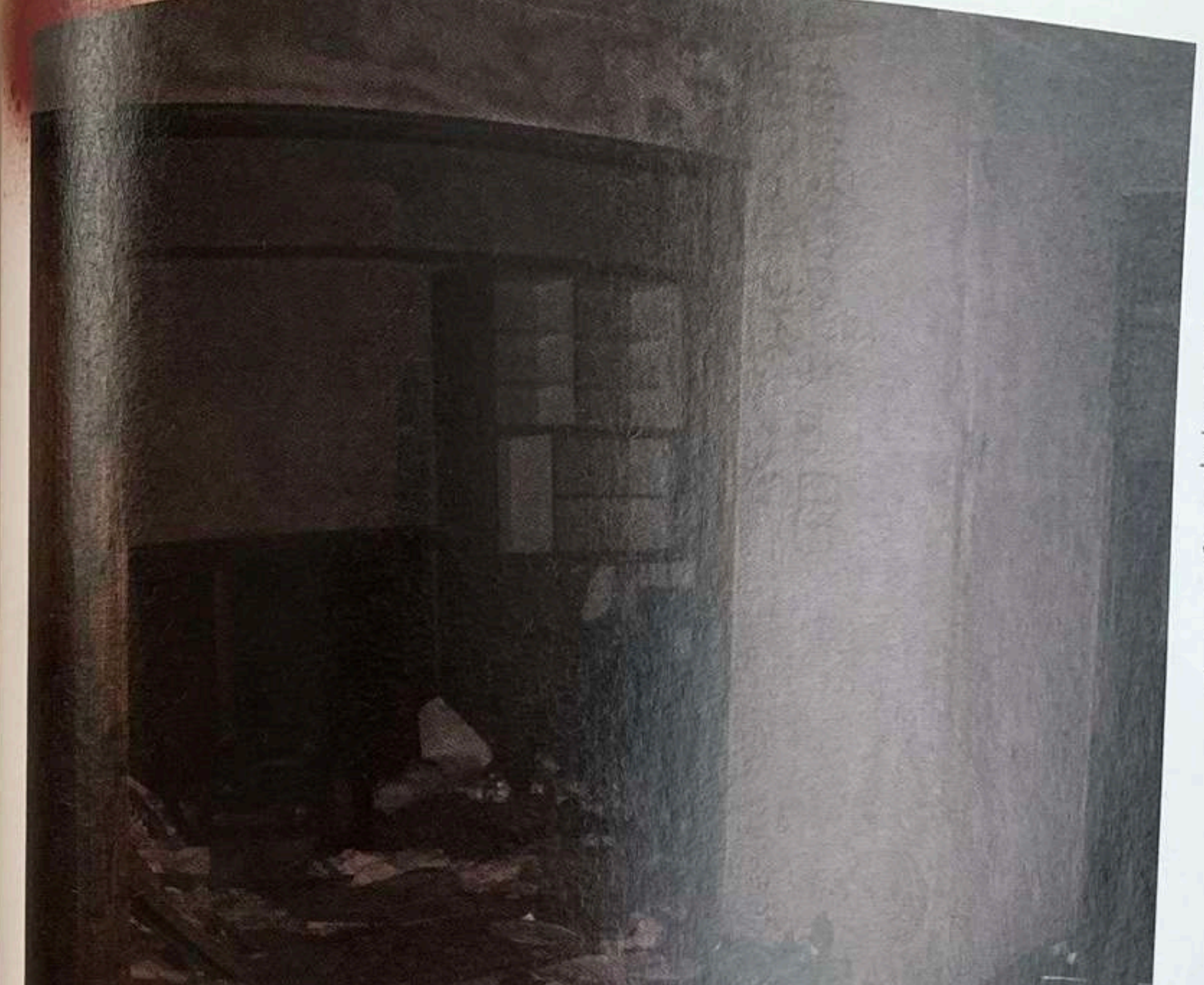




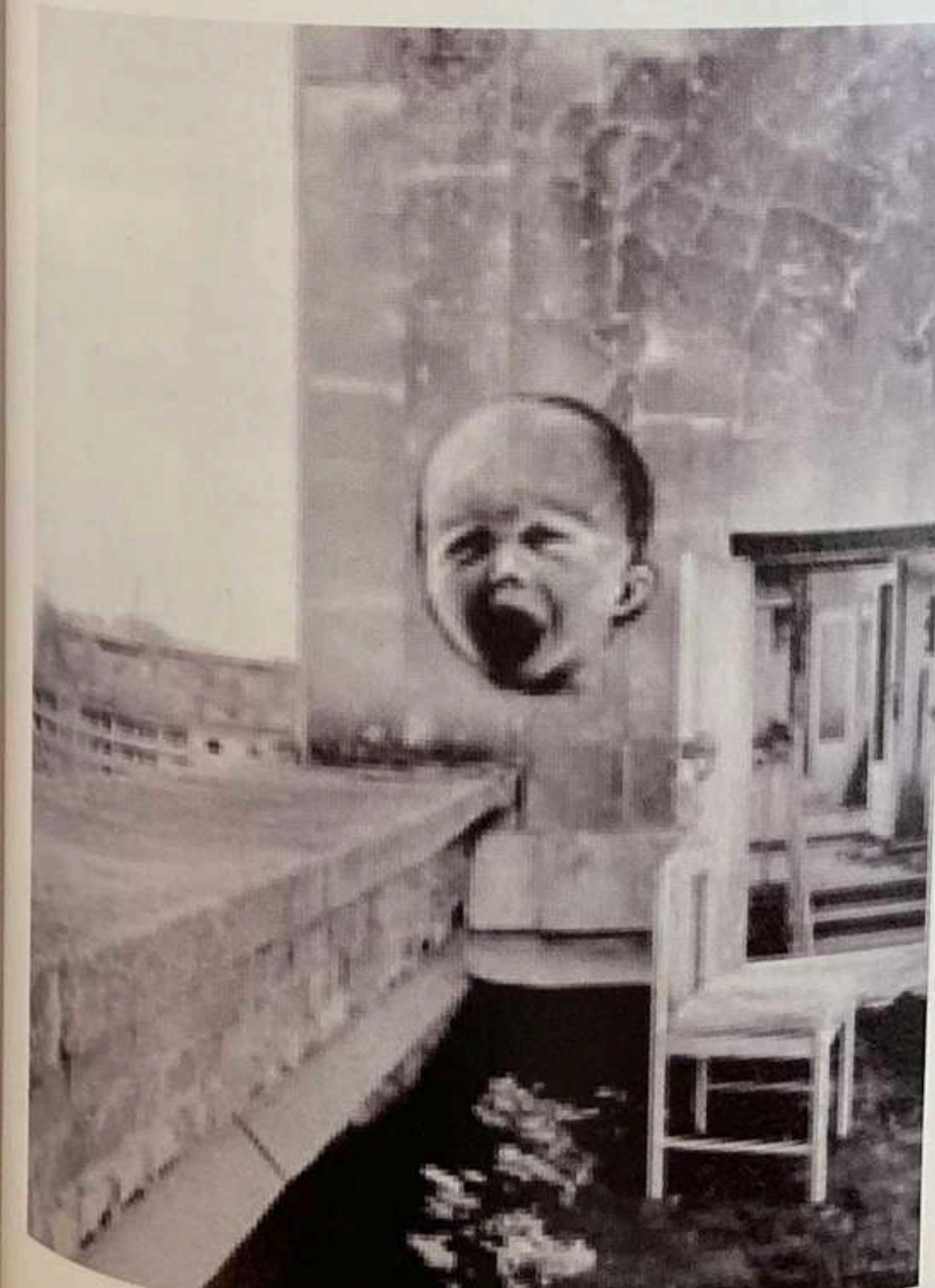


千葉県のとある町では、街角に立てられた鏡が割られる事件が続いている。いったい誰が何のためにやっているのかは不明。何度直してもすぐに叩き割られてしまうため、町内会も頭を抱えているそうだ。

# 廃墟スポットに残された落書き3



▲心霊スポットとして有名な神奈川県の廃アパートで採集した「母はワタシの目をつぶしました」。内容も怖いが、書いてある位置も怖い。



◀放射能が漏れ出し、いまや無人の廃墟と化したチェルノブイリの病院に描かれたもの。リアルタッチで、被害を受けた少年の姿を表現している。

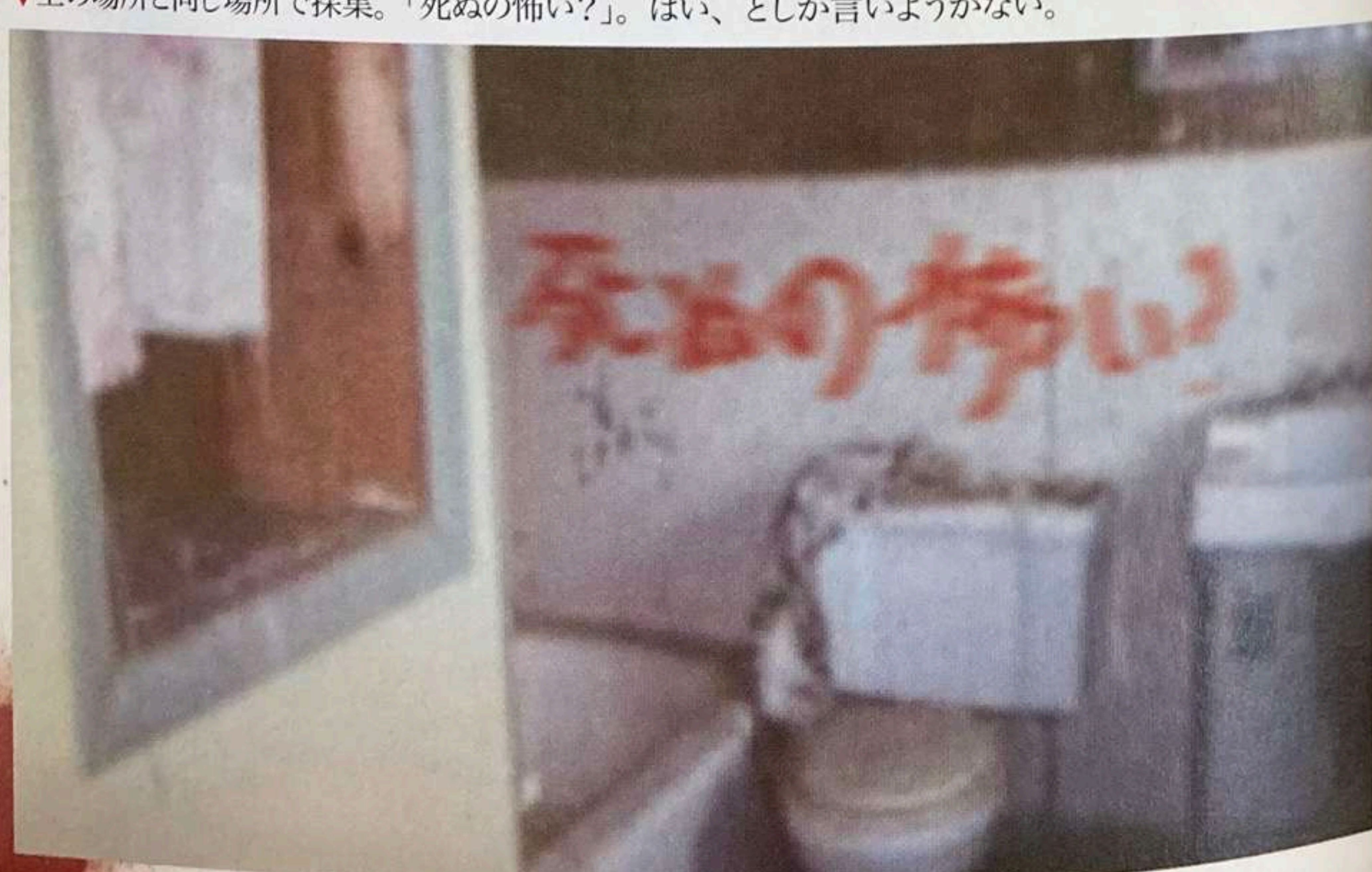






▲東京のとある廃墟に描かれた落書き。「彼女は昨日死んでしまいました。医りょうミスです」。…………合掌。

▼上の場所と同じ場所で採集。「死ぬの怖い？」。はい、としか言いようがない。



# 車の荷台に潜んでいた男

06年夏、アメリカ・テキサス。ガソリンスタンドで車を停め、後ろの荷台を開いたリズ・セントさん（35才・女性）は、思わぬ事態に遭遇した。なんと、荷台に見知らぬ男が潜んでいたのだ。セントさんは、荷台に引き込まれた後、スタンドの店員に救出された。警察の調べでは、荷台の男は手配中の強盗犯で、逃亡中、とっさに手近の車に隠れたところ、そのまま車が発進してしまったのだそうだ。



▲ガソリンスタンド



▲女性が降りて




▲車の荷台を開くと



▲中にいた男に手を引き込まれ

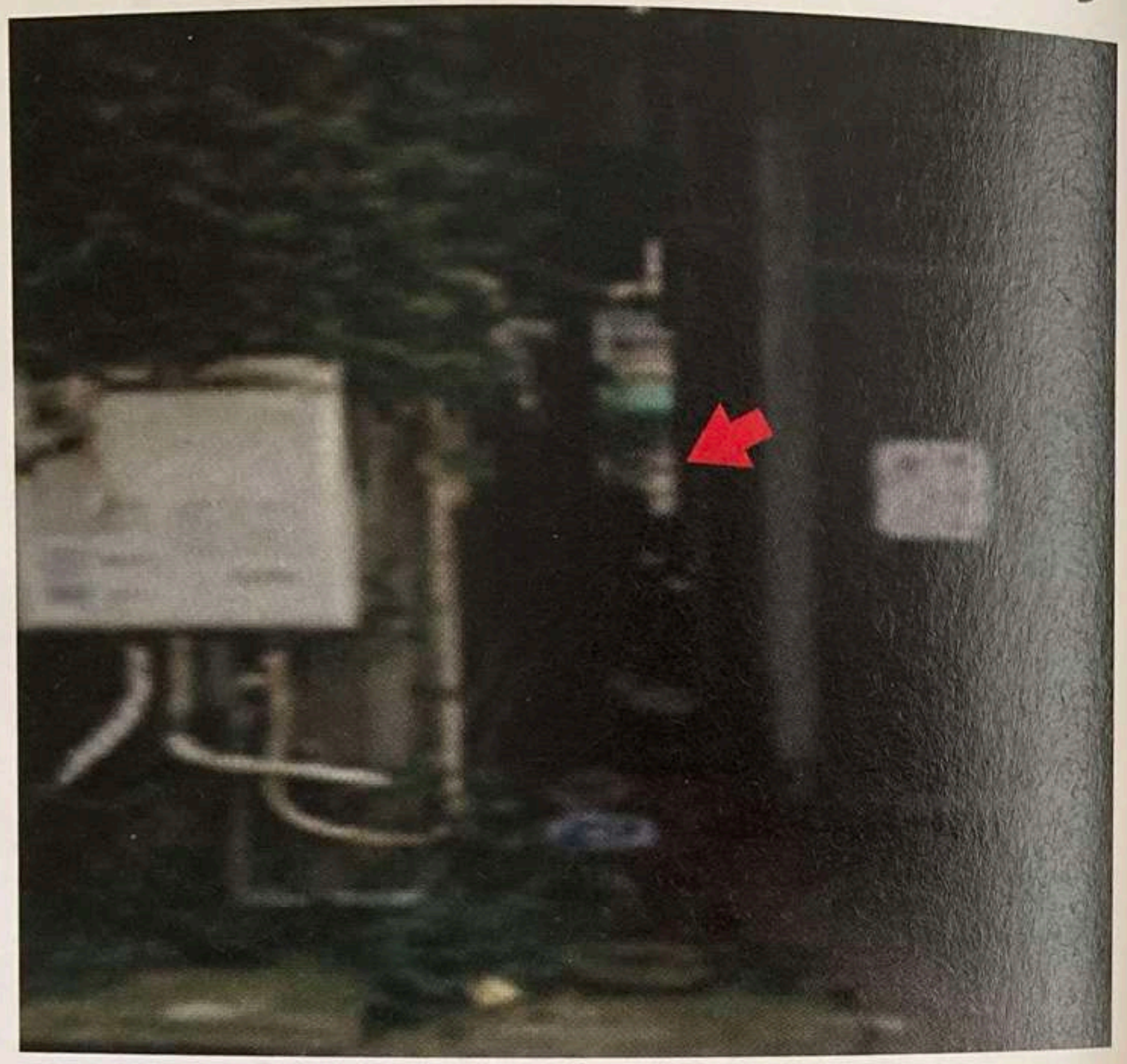



▲中へ引き込まれてしまう



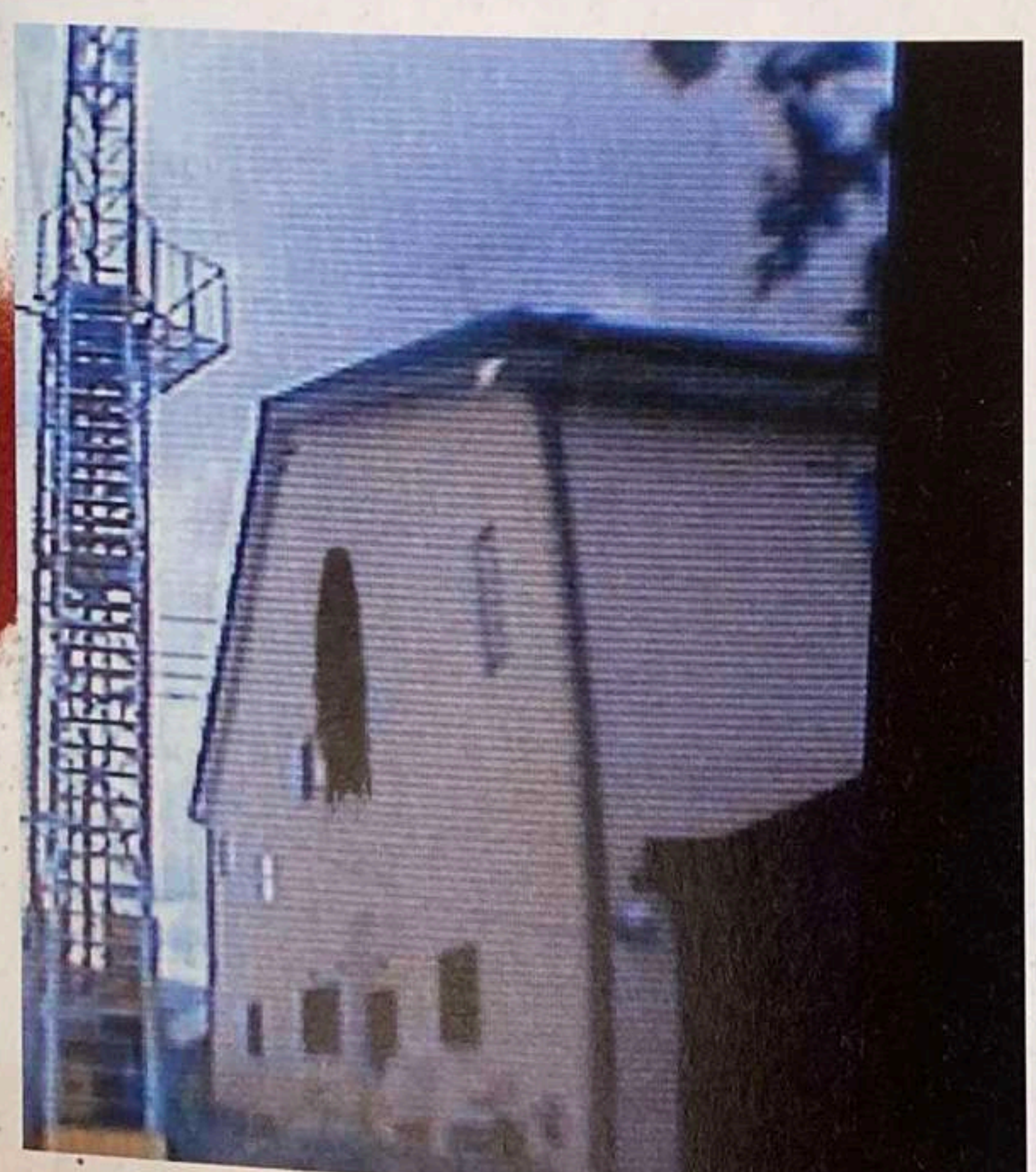


# スキ間男



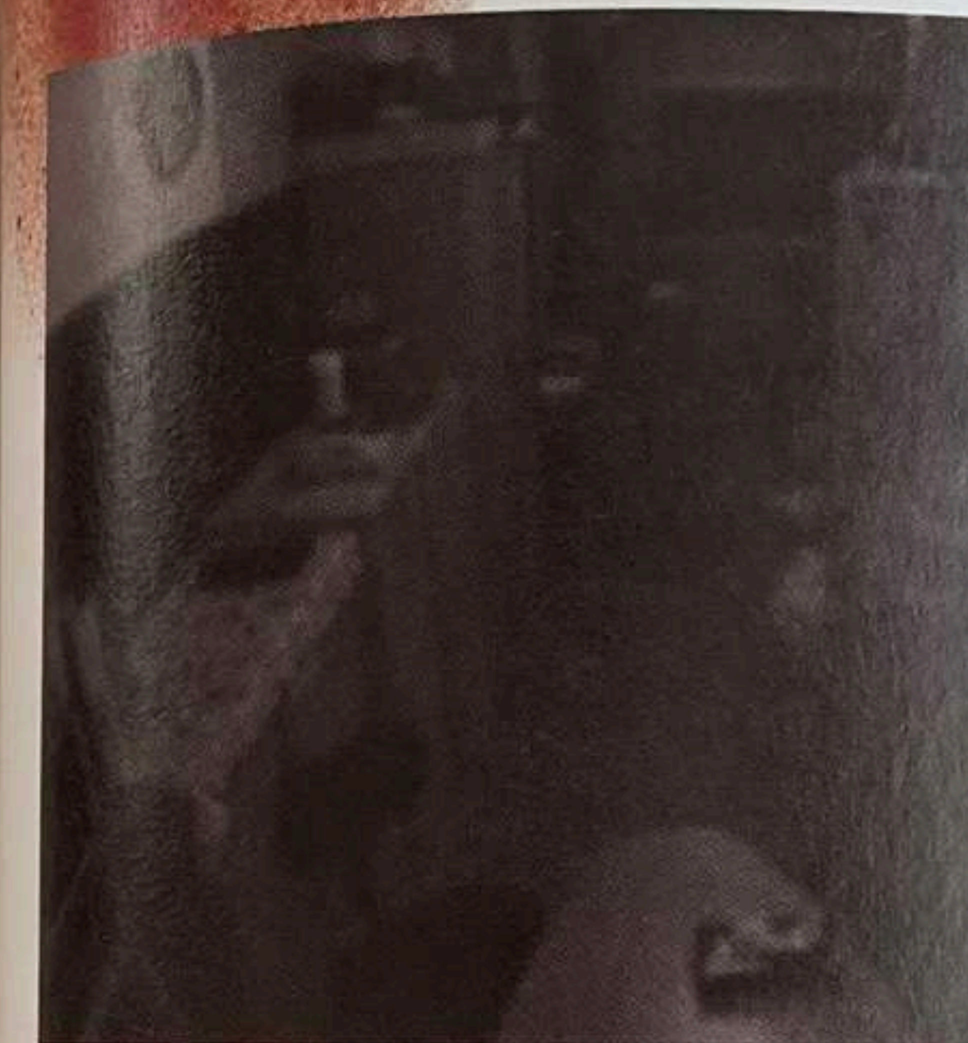
建物と建物の間に隠れるこの男性は、日中は普通に会社に通勤するサラリーマンだが、会社帰りや休日になると、どこかしら細いスキ間に入り込み、数時間にわたってそこで過ごす。彼の姿は、都内に存在する、あらゆるスキ間スポットで目撃することが可能だ。

# 長髪ハウス



静岡県某所に建つ民家の壁面には、数メートルはあろうかという毛髪が飾られている。周辺住民が家主に理由を尋ねると「そんなもんない」との答えが返ってきたため、それ以上は追求できなくなったそうだ。

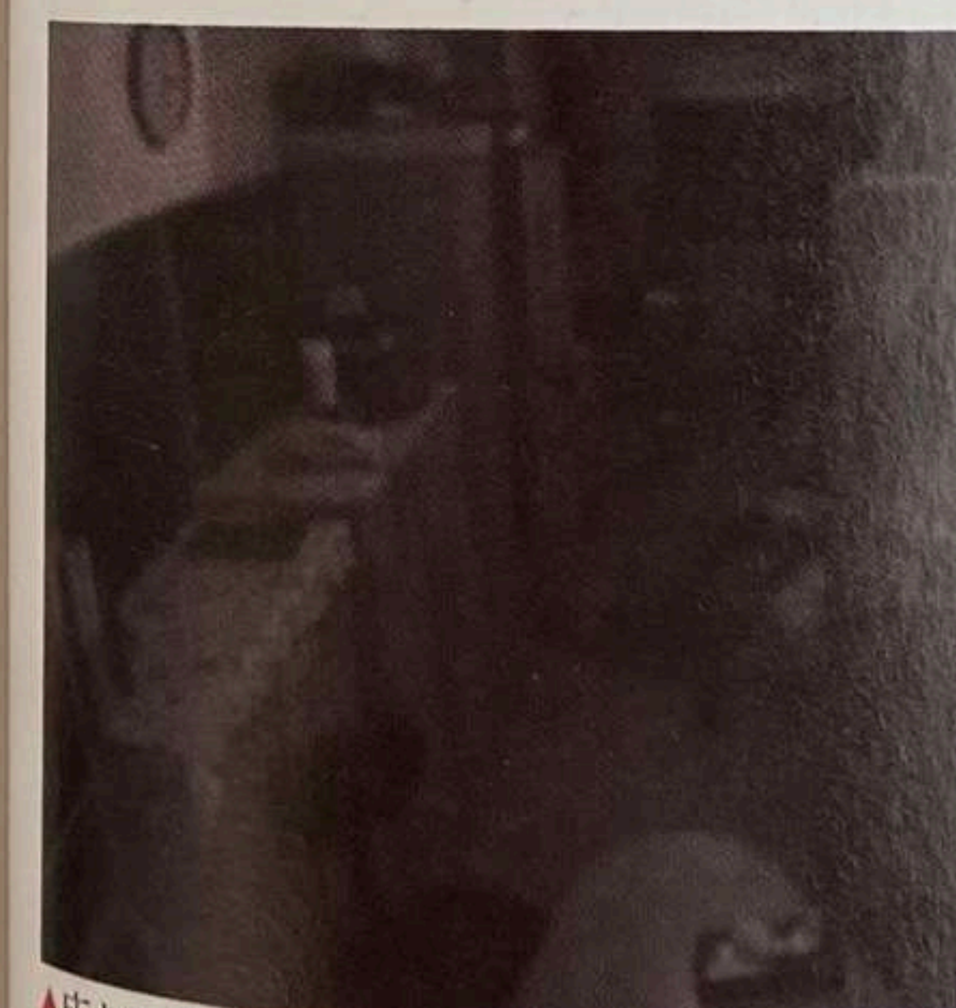
# ロッカーの中から男が



▲夜になると



▲オフィス内



▲床を人影が這い回る



▲ロッカーが開き

都内のとあるオフィス内。室内にしかけられていた監視カメラに、ある日、妙なものが映り込んだ。

誰もいなくなった深夜、室内のロッカーが開き、中から人が出現。何かを探すように、しばらく床を這い回ったのだ。

しかし、室内から消えたものは特になし。また、日中はロッカーに人がいなかったことは確実なため、いつから人間が中に入り込んでいたのかはサッパリわからないそうだ。



# 口をくり抜かれた写真



2004年、都内に住む1人の男が逮捕された。容疑は窃盗。この男、女性の家ばかりに侵入しては、金目の物には目もくれず、なぜか写真ばかりを盗んでいたという。

不可解なのは、男が、盗んだ写真にうつる人間の口をすべて切り抜いて保存していたことだ。これに対し、男は「人間は口があると醜いから」とだけ答えたそうだ。

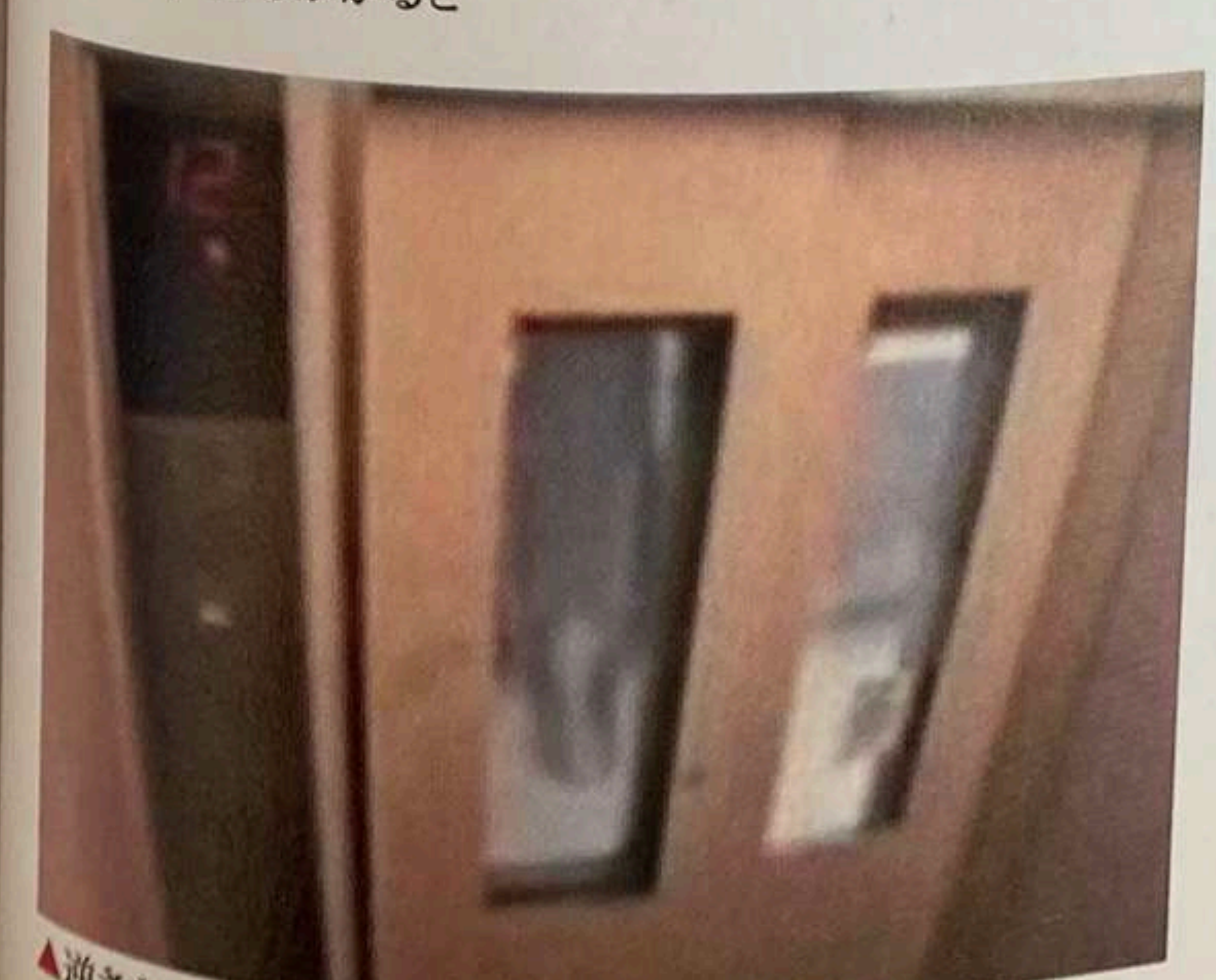
# エレベーターの逆さ女



▲エレベーターが動き出し



▲次の階にさしかかると



▲逆さまの女が

都内に住むOさんが、携帯で撮影した動画である。ムービーを起動させつつ自宅アパートのエレベーターに乗り込み、すぐ上の階にさしかかると、廊下の天井から逆さまになっている人間の影が、一瞬だけ窓ごしに映り込んだ。Oさんが慌ててその階に戻ると、すでに逆さ女の姿は消えていたそうだ。

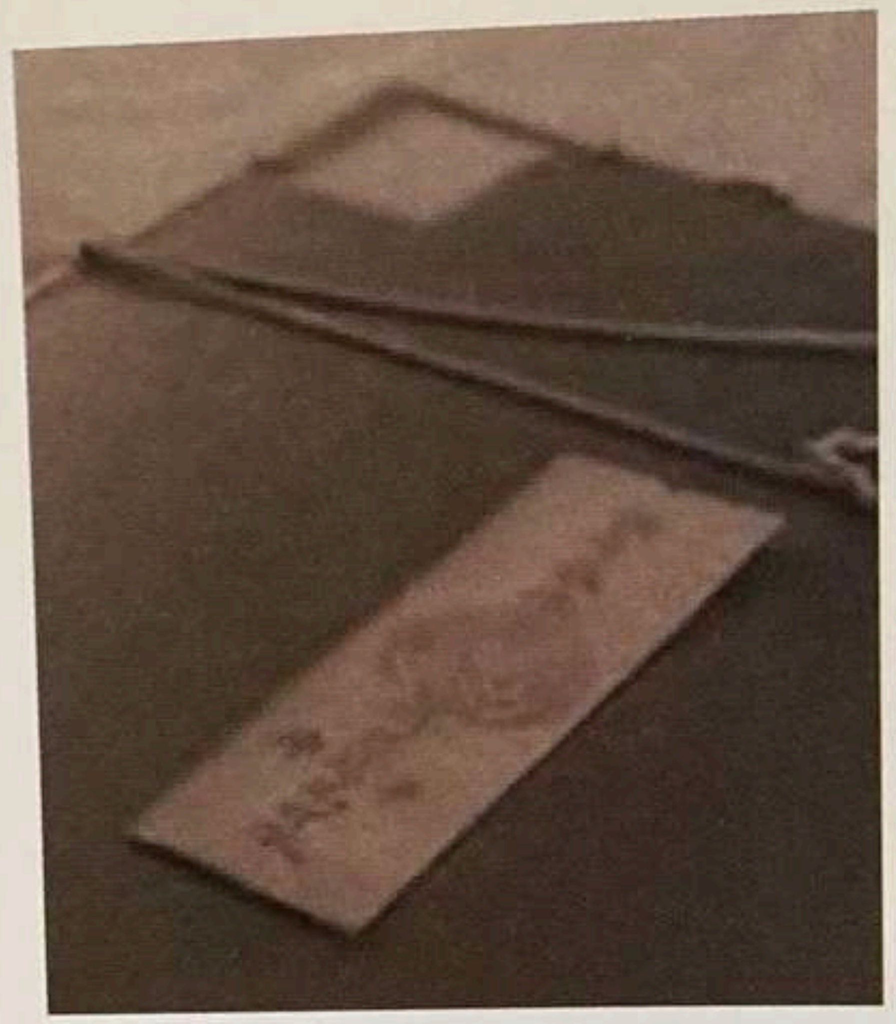




# 御札ホテル



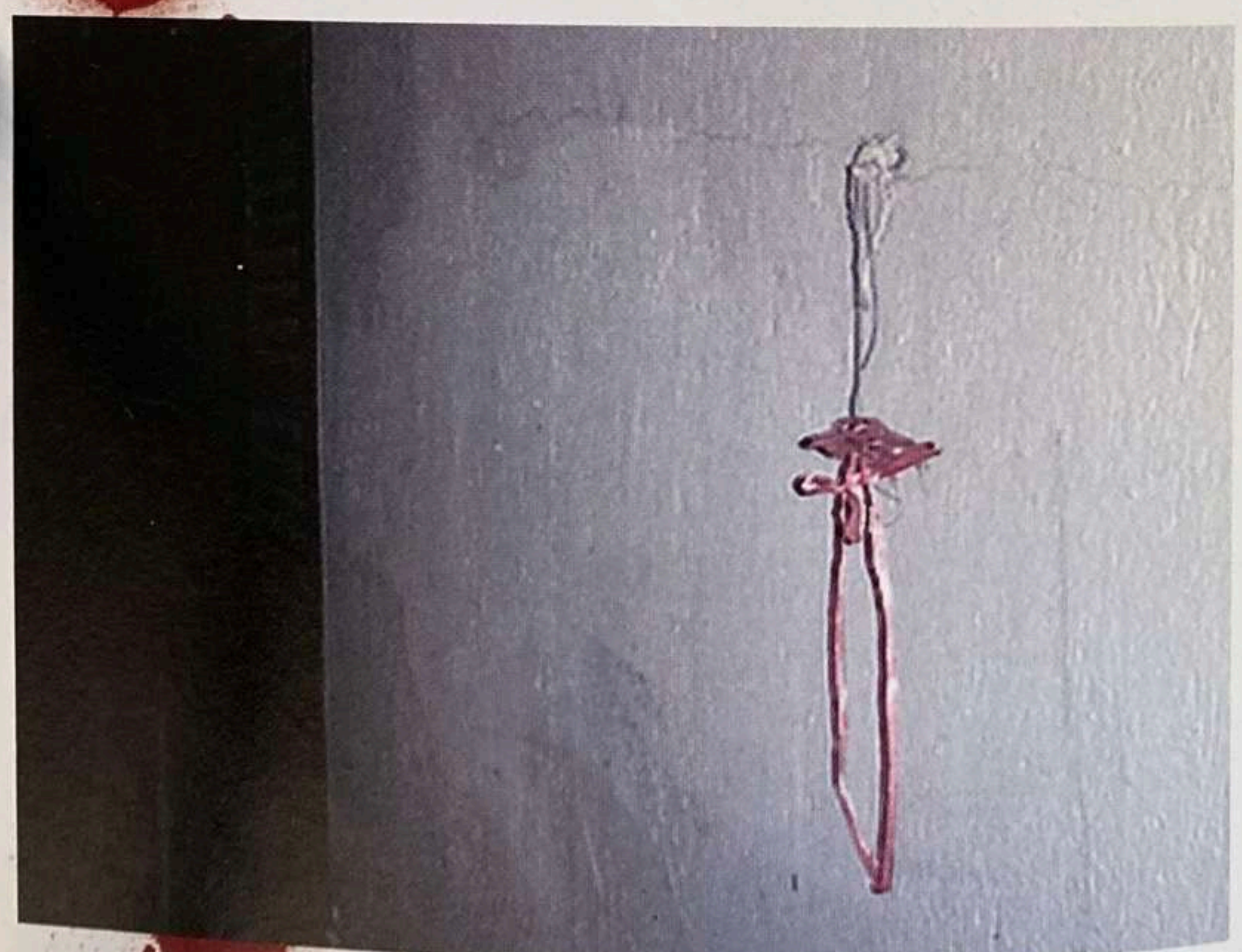
▲部屋にかかった絵を



▲ひっくり返すと

伊豆にある某ホテルは、すべての部屋のどこかに、こっそりと魔除けの御札が貼られている。絵の裏側やベッドの下など、隠し場所は様々だそうだ。

# 血が染み着いた謎のヒモ



都内某所に住むJさんの自宅の壁には、血が染みついた魔除けのようなヒモが、いつの間にかくくりつけられる。誰の仕業かはわかっていない。

# 5つの人格を持つ女、その各人格が描いた絵

写真の女性は、神奈川に住む22才のMさん。彼女は、幼少時から不可思議な現象に悩まされてきた。知らぬ間に、自分の部屋の家具の配置が変わり、友人たちから、身に覚えのないことで批難を浴びることが多かったのだ。

理由がわからぬままストレスを溜め込んできた10代半ば、ふと彼女は意識を失ってしまう。次に目が覚めたとき、運ばれた先の病院で彼女が聞いたのは驚くべき事実だった。解離性多重人格。彼女の中には、主な性格の他に、最低でも4つもの人格が存在しており、彼女の意識がない間に、自由に出入りしているというのだ。次の写真は、彼女の人格が変わった時と、その各人格が描いた自画像をとらえた写真である。

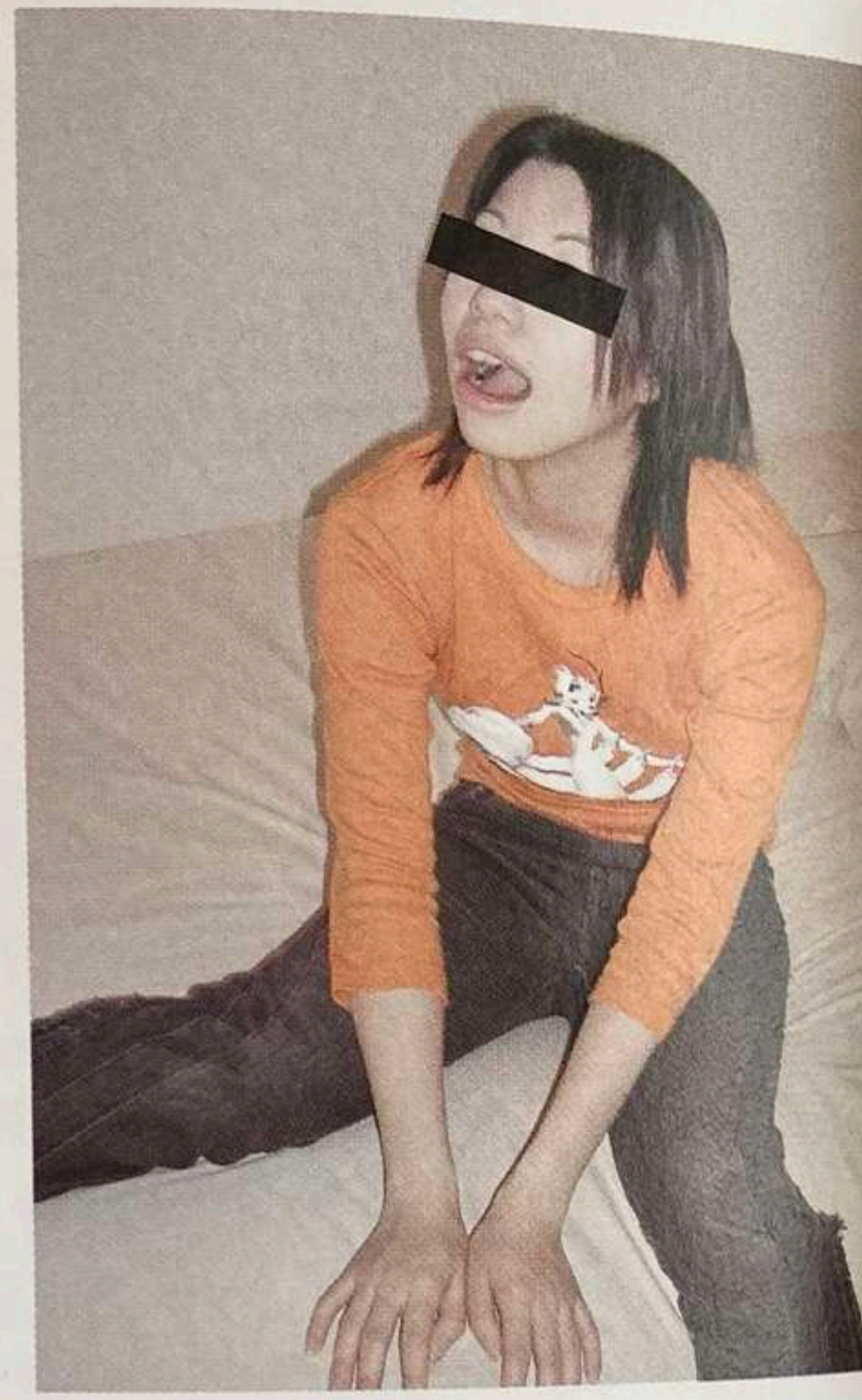




▲主人格の時（上）と、
主人格が描いた自画像（下）







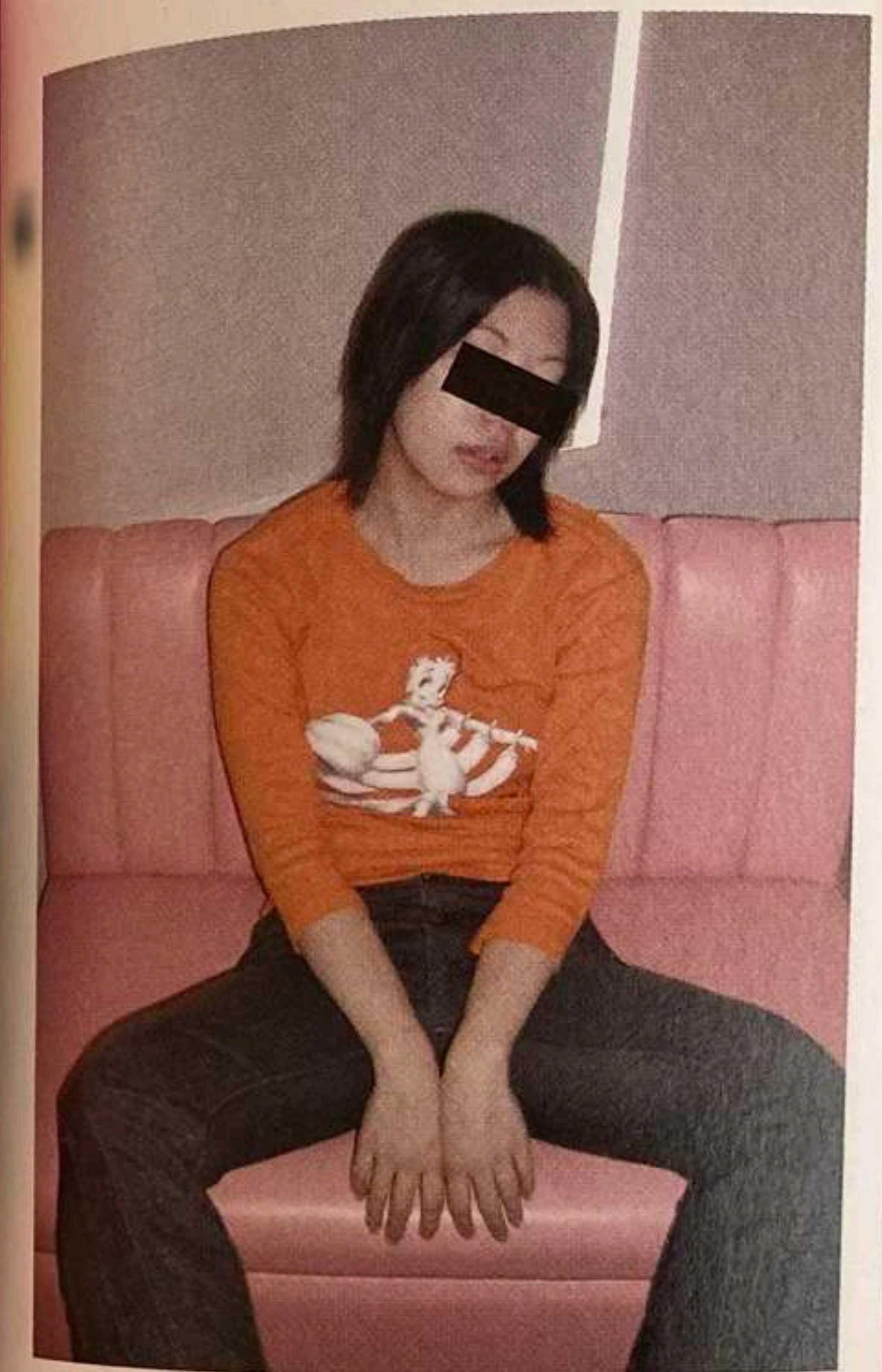


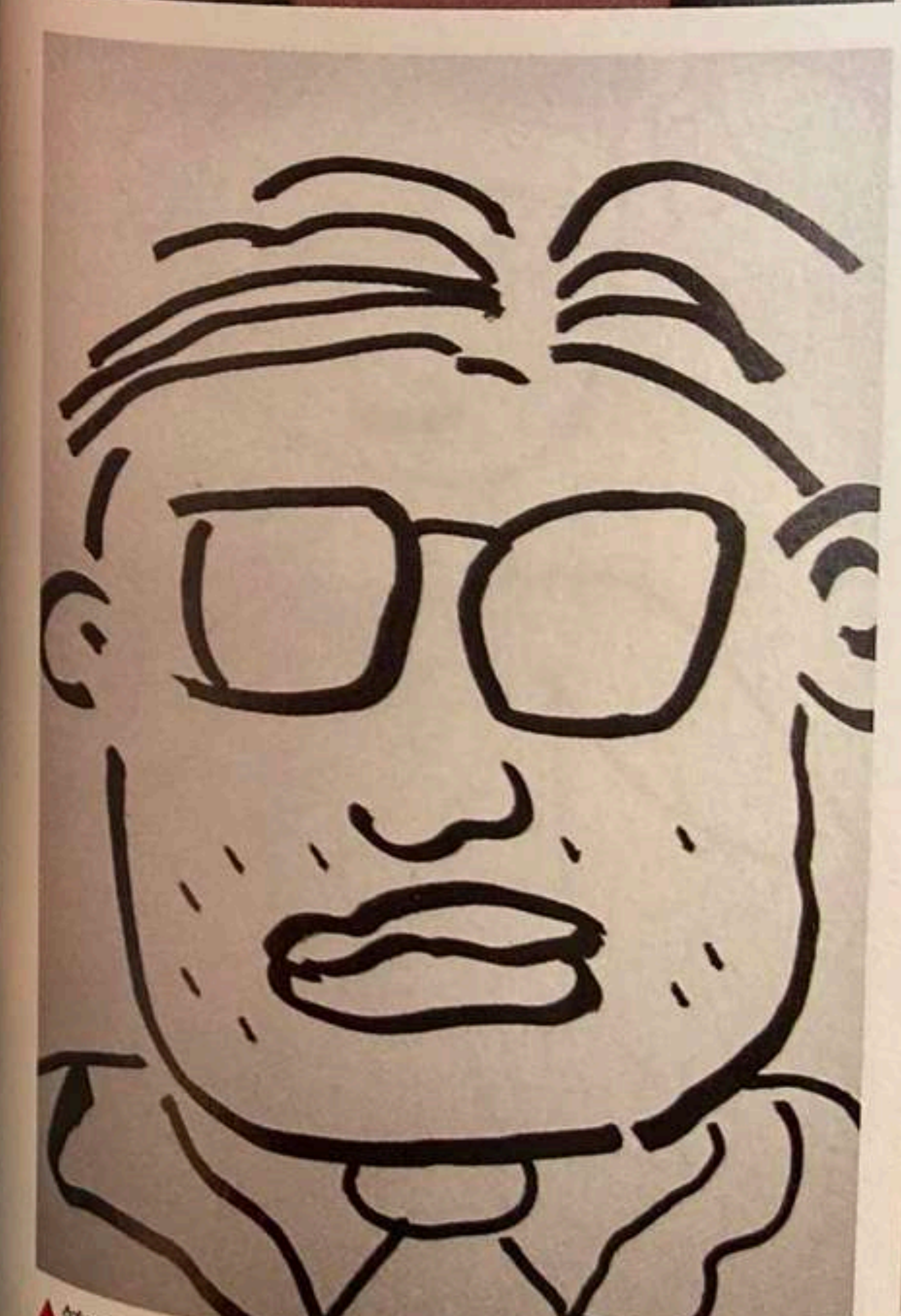
▲第二人格のマリ（上）と、
そのキャラが描いた自画像（下）





▲第三人格の涼子（上）と、
そのキャラが描いた自画像（下）





▲第五人格の広志(上・この人格のみ男性)と、
そのキャラが描いた自画像(下)



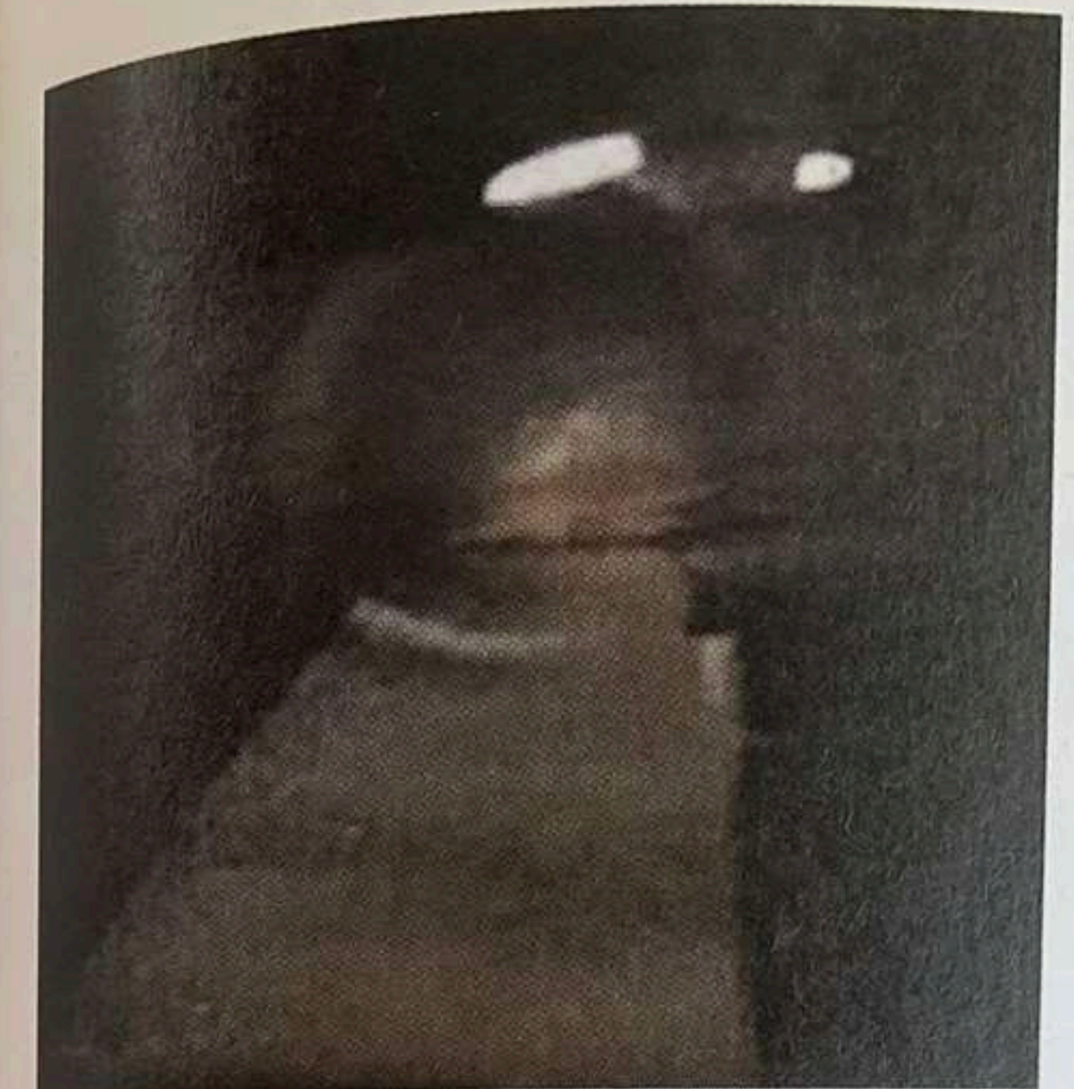
▲第四人格の美砂恵(上)と、
そのキャラが描いた自画像(下)

実録サイコ恐怖画像

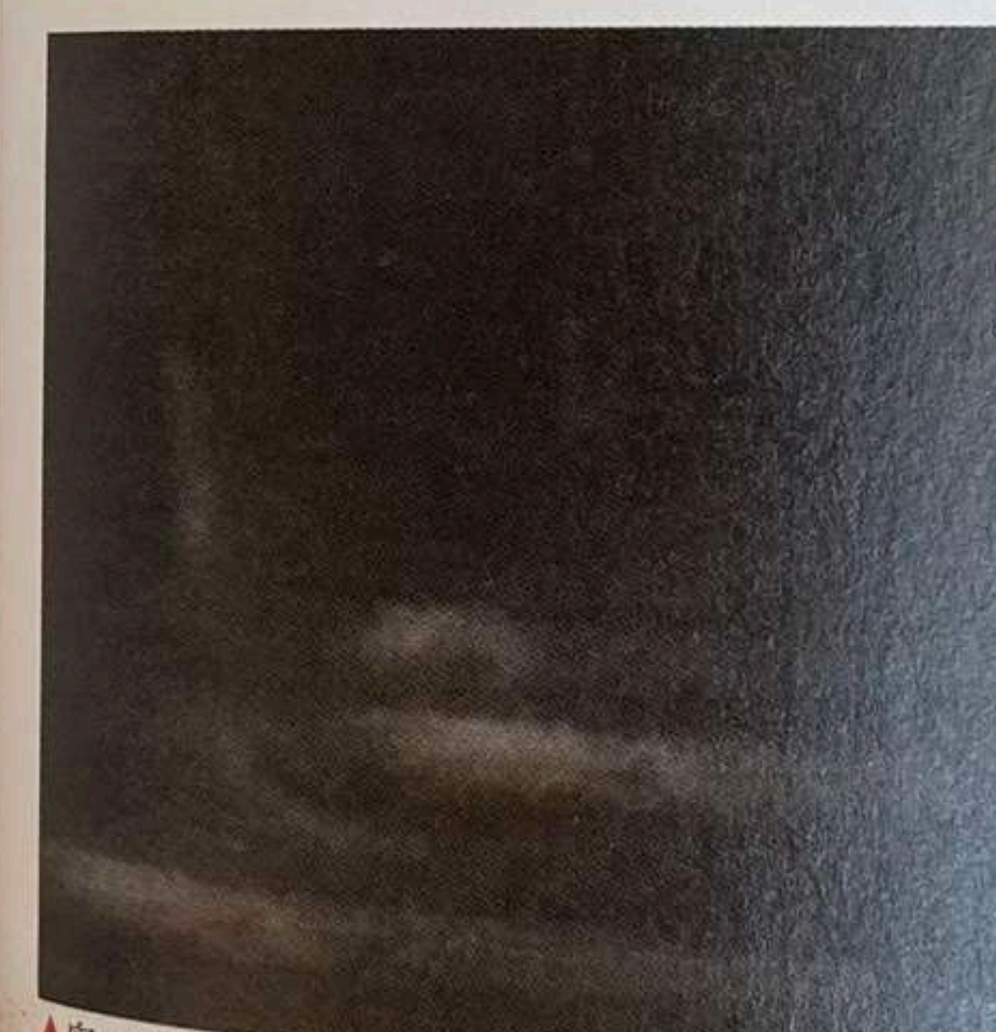
# 第二章

# 日常の死角

# 屋根裏に住んでいた少年



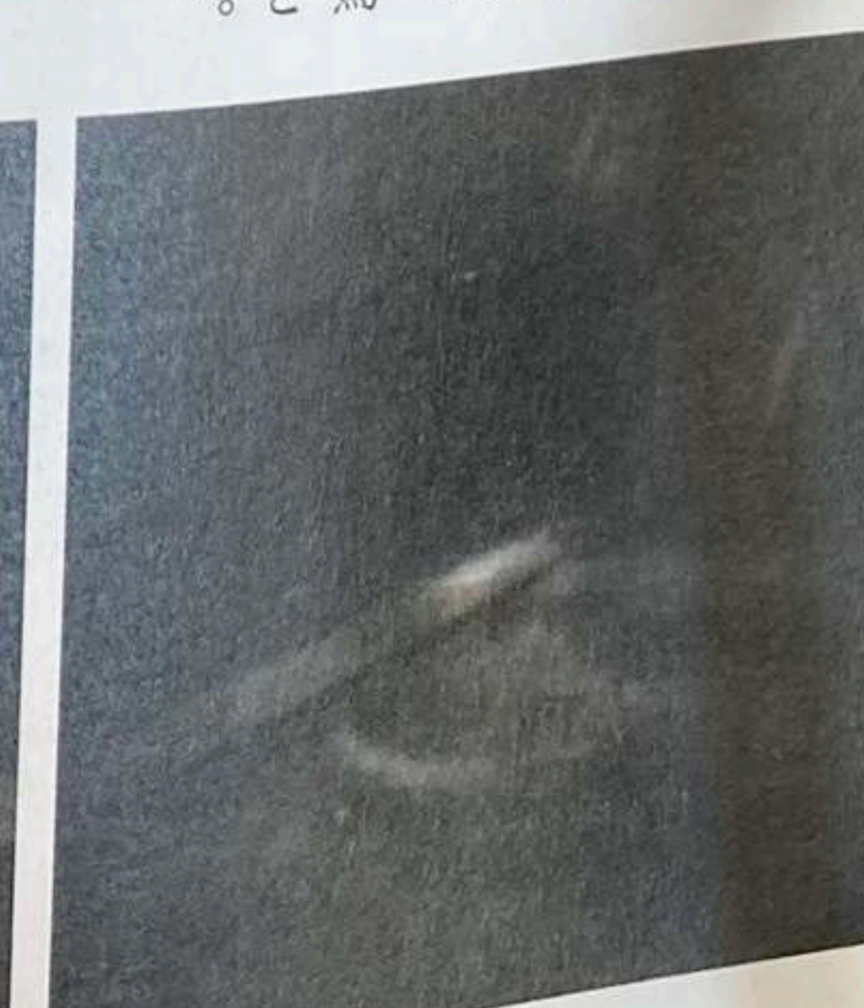
▲屋根裏に上がり



▲奥へ進むと



▲子供がたたずんでいる



▲右端に人の気配が

都内に住むある男性が、屋根裏を撮影したビデオである。カメラが奥へ進み、大きな横木へさしかかった瞬間、すみに肌の白い少年の姿が浮かび上がった。

男性によれば、ここ数ヶ月、屋根裏で妙な音がしていたという。少年が、いつからどのように屋根裏にいたのかはわからない。また、この映像が撮影された時、男性が驚いて逃げてしまい、再び屋根裏に戻ったときは、少年の姿はすでに消えていたそうだ。



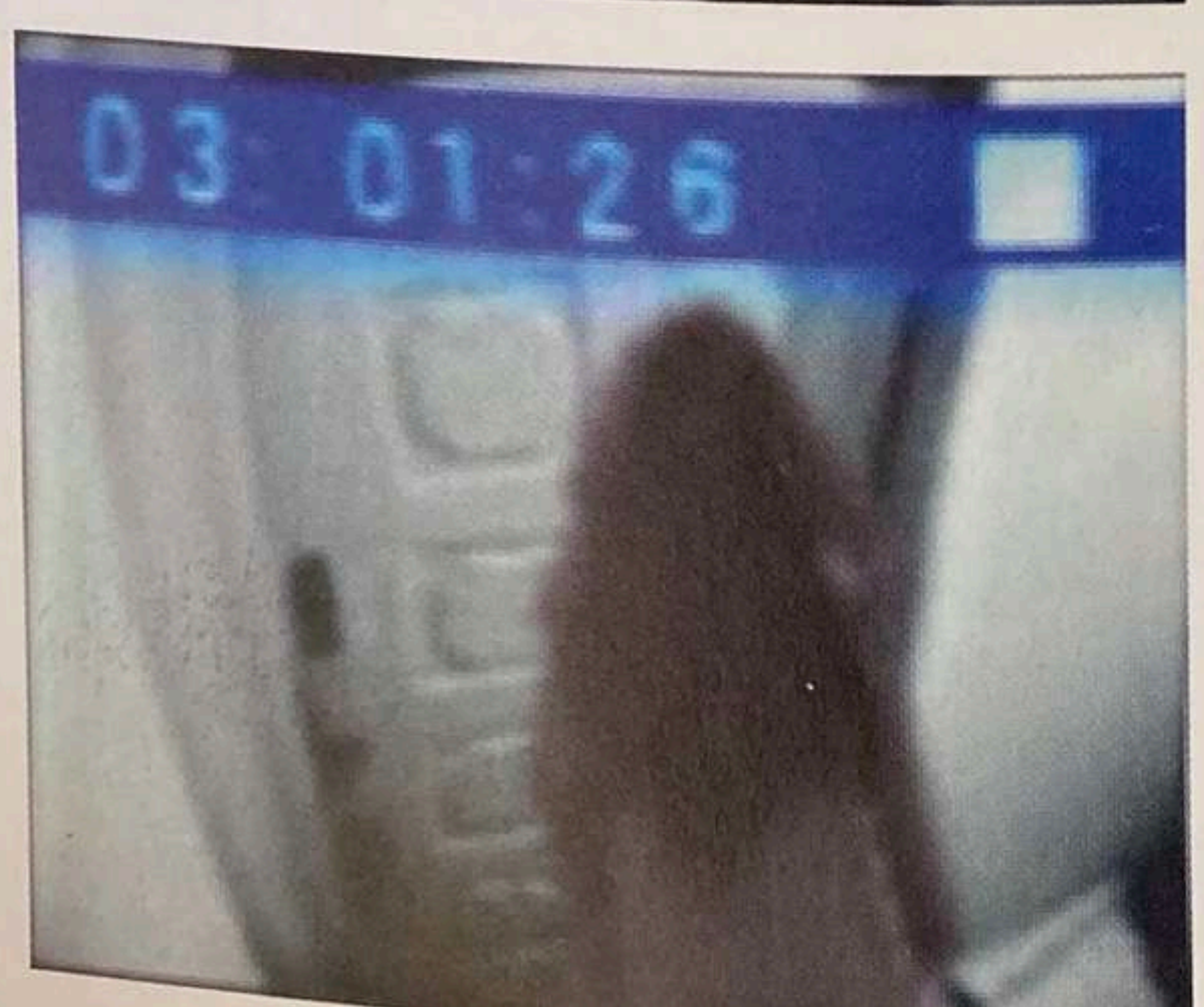


# いつもの女







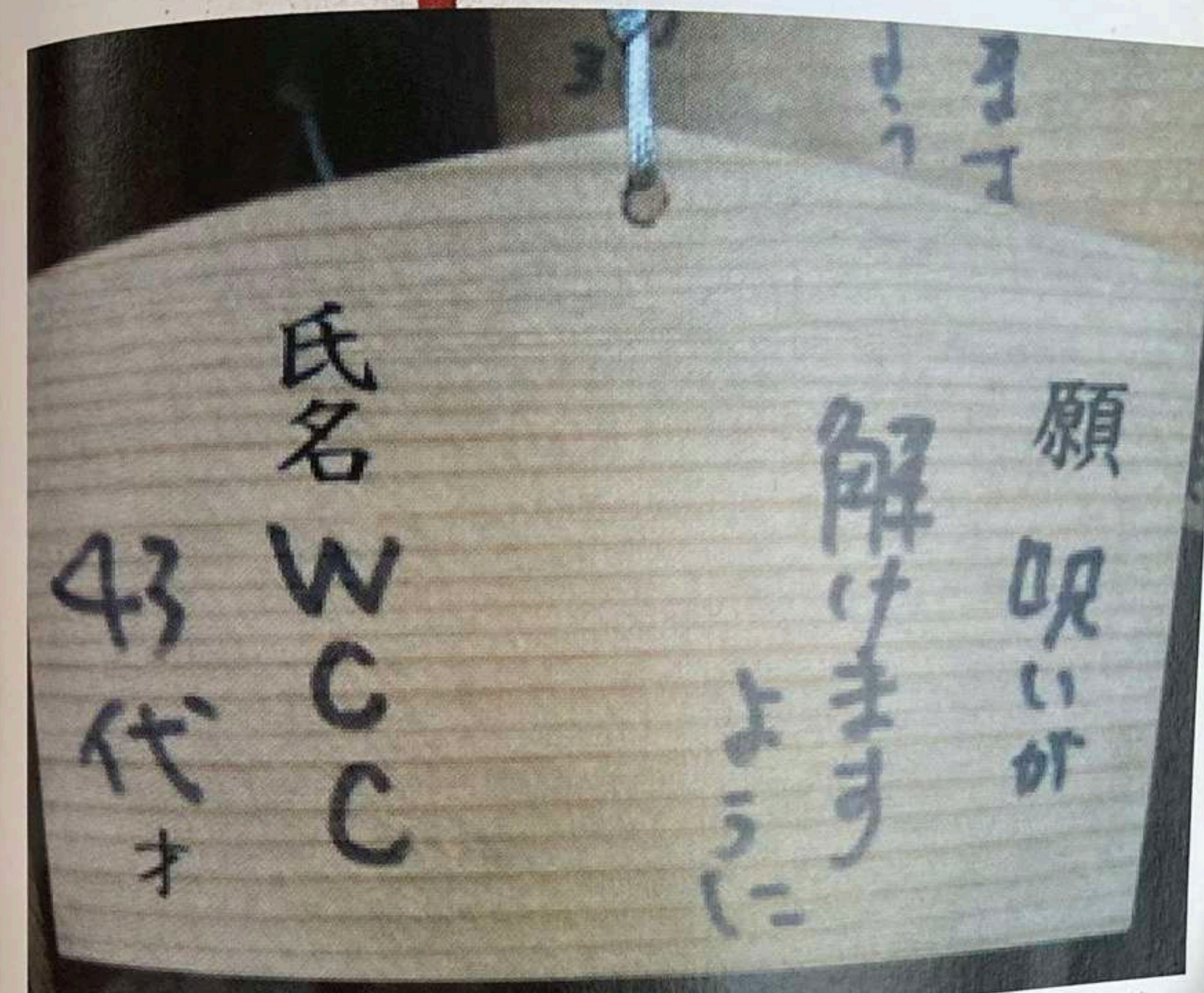



S県に住むKさん（男性・26才）は、夜勤のためほとんど夜間は家にいない。しかし、近隣の住人から「よくKさんの部屋の前で女性を見かける」と言ってきたため、試しにドアの前にウェブカメラを置いてみたところ、ご覧の画像が撮影された。

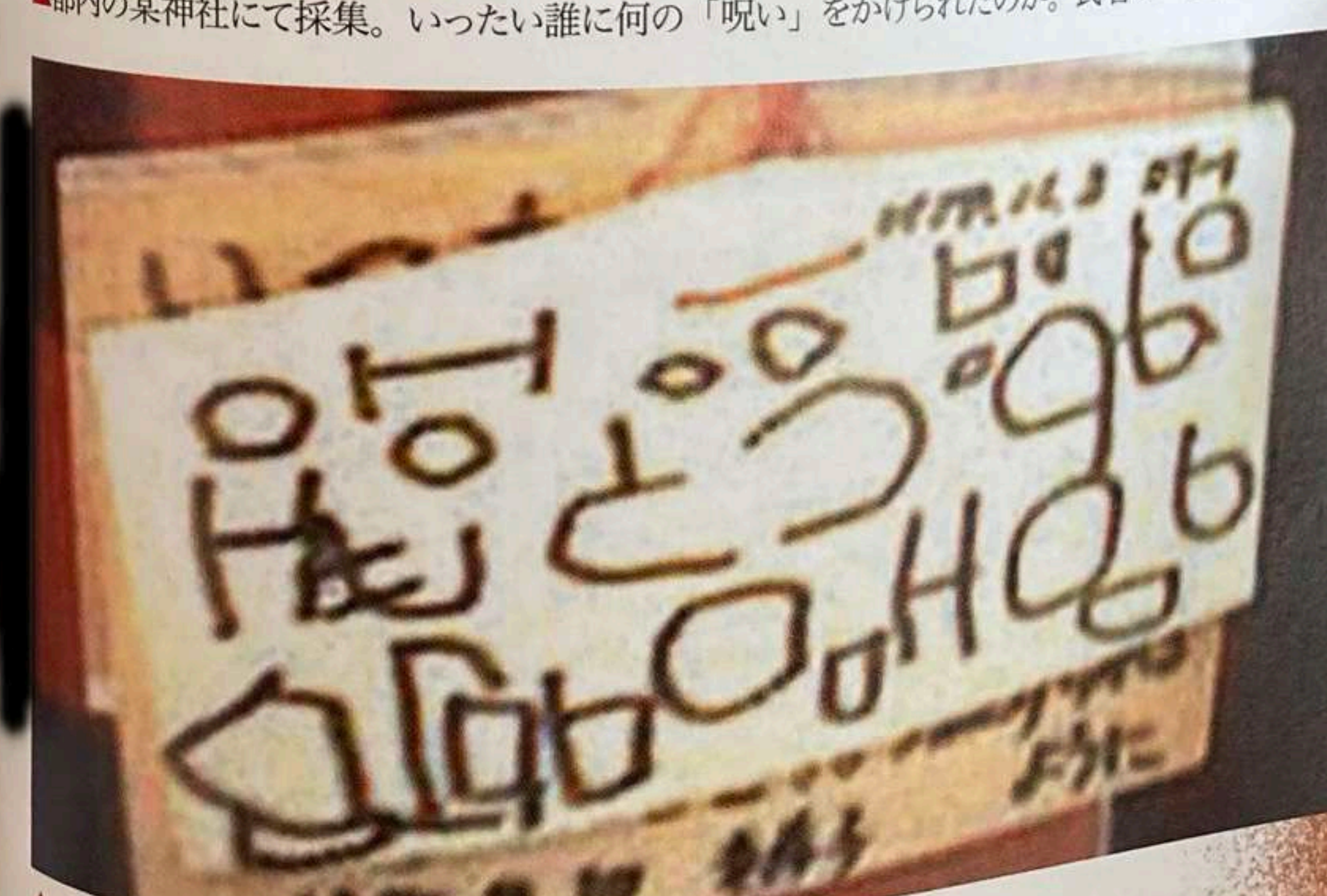
女は必ず夜8時に現れ、約7時間ほど何もせずドアの前でたたずみ姿を消す。出現するのは平日だけで、時間はいつもきっかり同じだった。

Kさんは、この女性にまったく心当たりがなく、近々引っ越しをする予定だという。

# 鬱な絵馬1



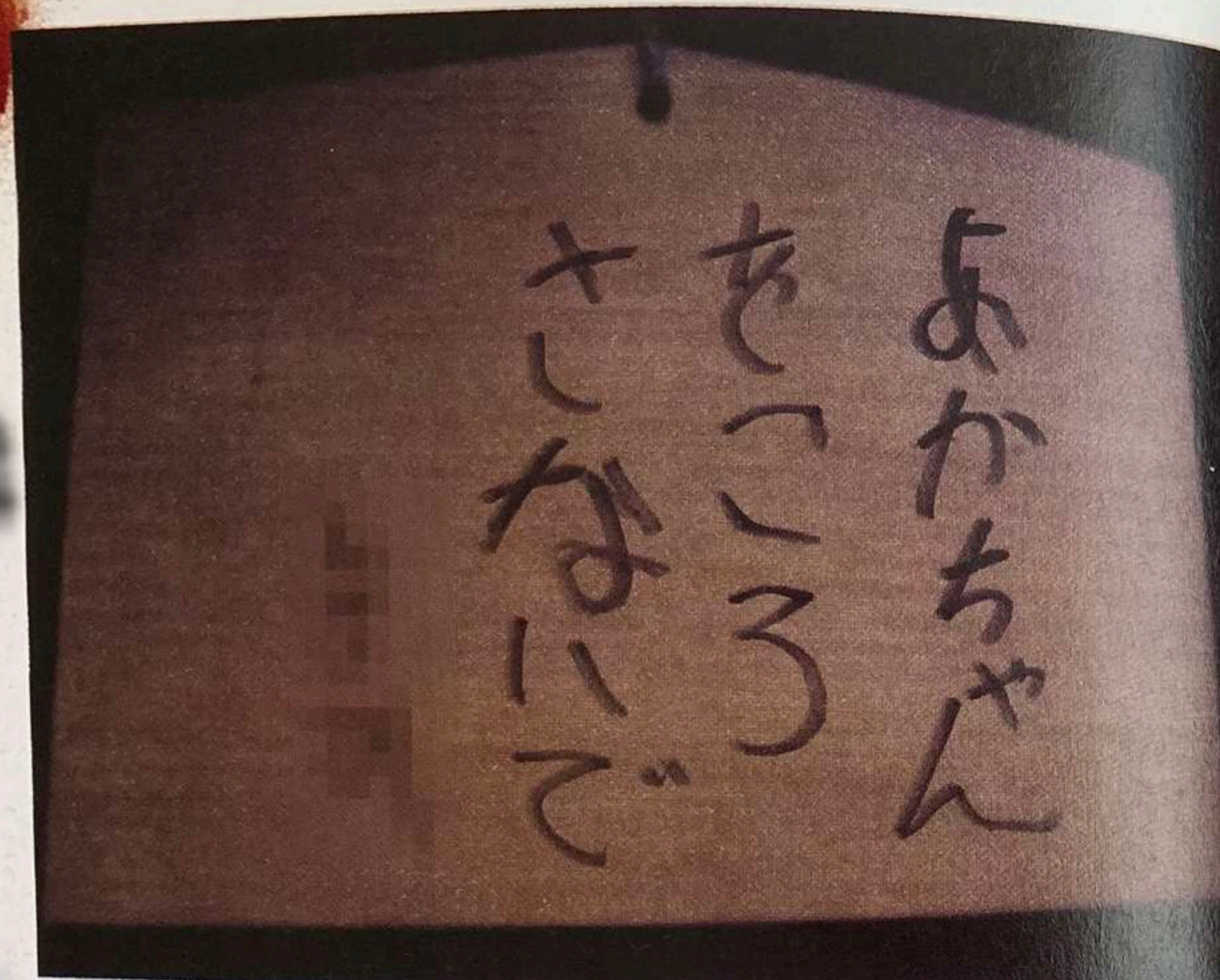

▲都内の某神社にて採集。いったい誰に何の「呪い」をかけられたのか。氏名の「43代」も謎



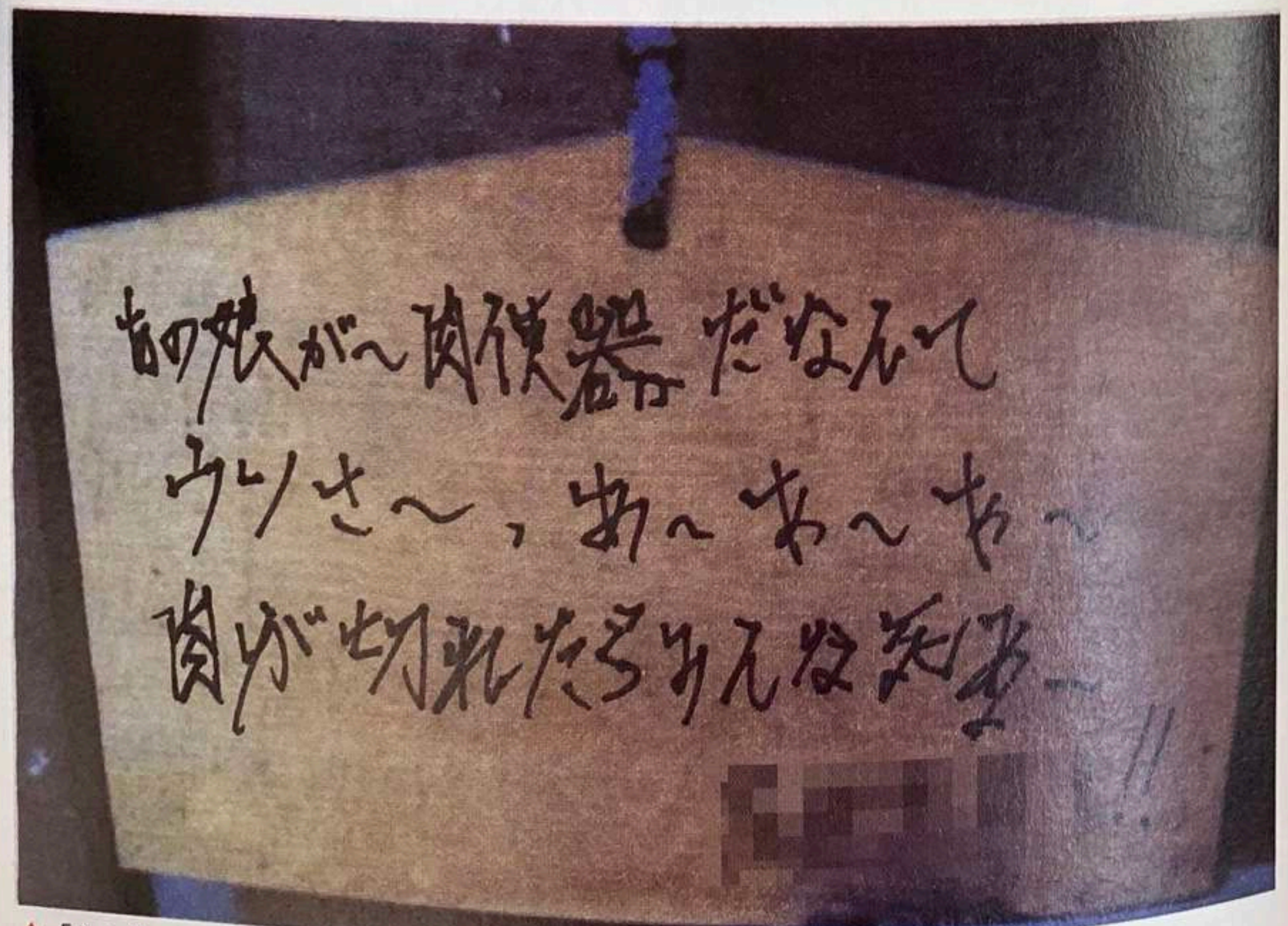
▲こちらも都内の某神社にて。そもそも何語なのかがわからない





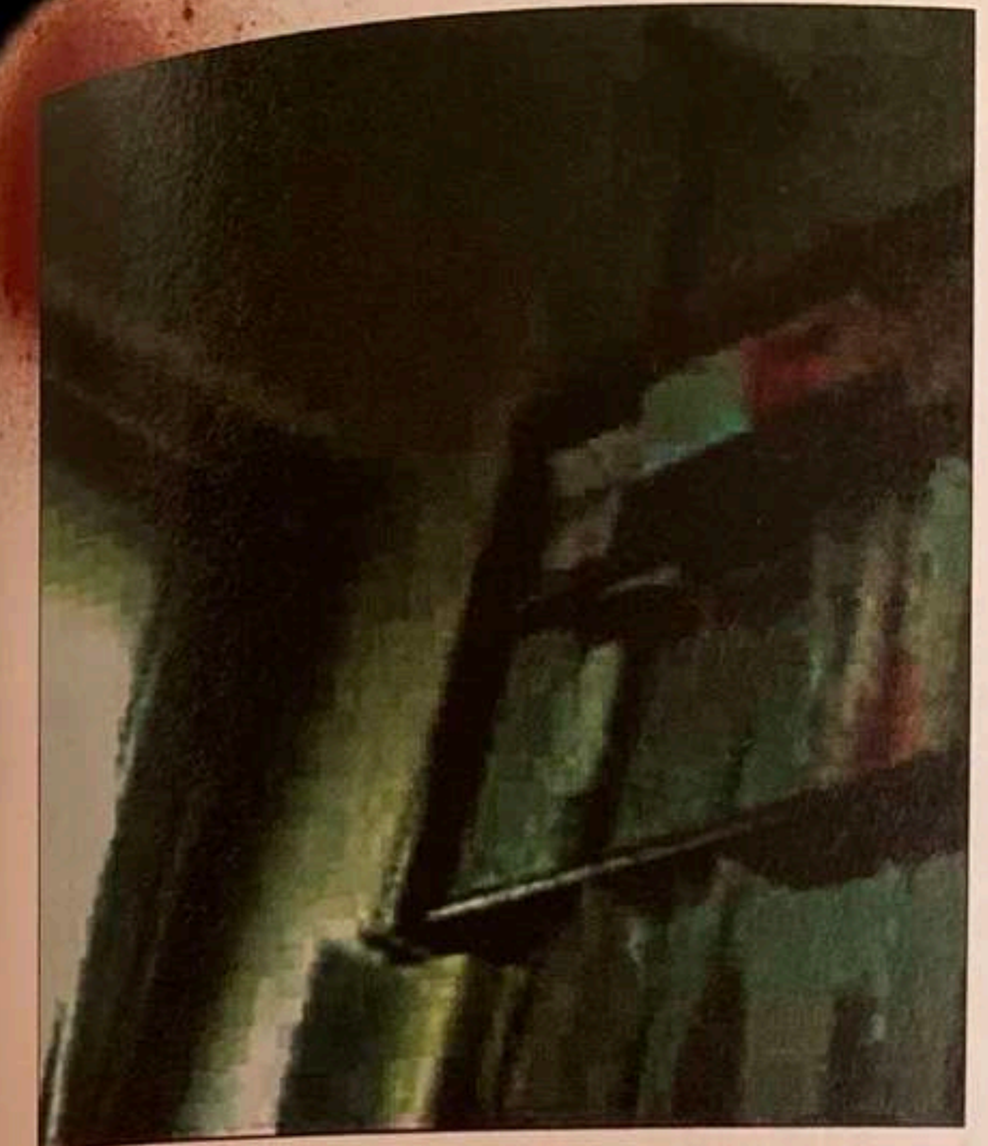



▲「あかちゃんをころさないで」………合掌。




▲「あの娘が〜肉便器だなんてウソさ〜、あ〜あ〜あ〜肉が切れたらみんな死ぬ〜」どんなショックが書き手を襲ったのか。妙にはしゃいだ感じが怖い

# ベランダの女



▲ふとカメラがズレると

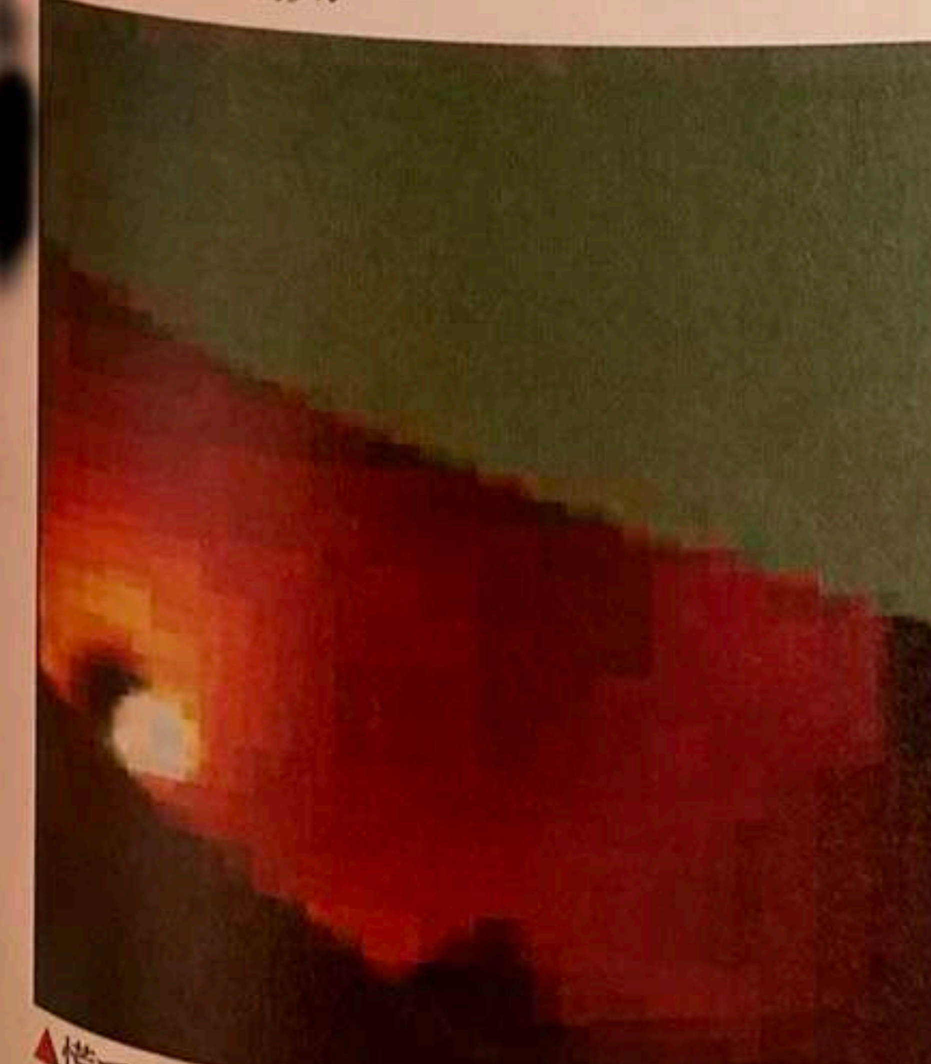


▲ビデオで遊ぶカップル

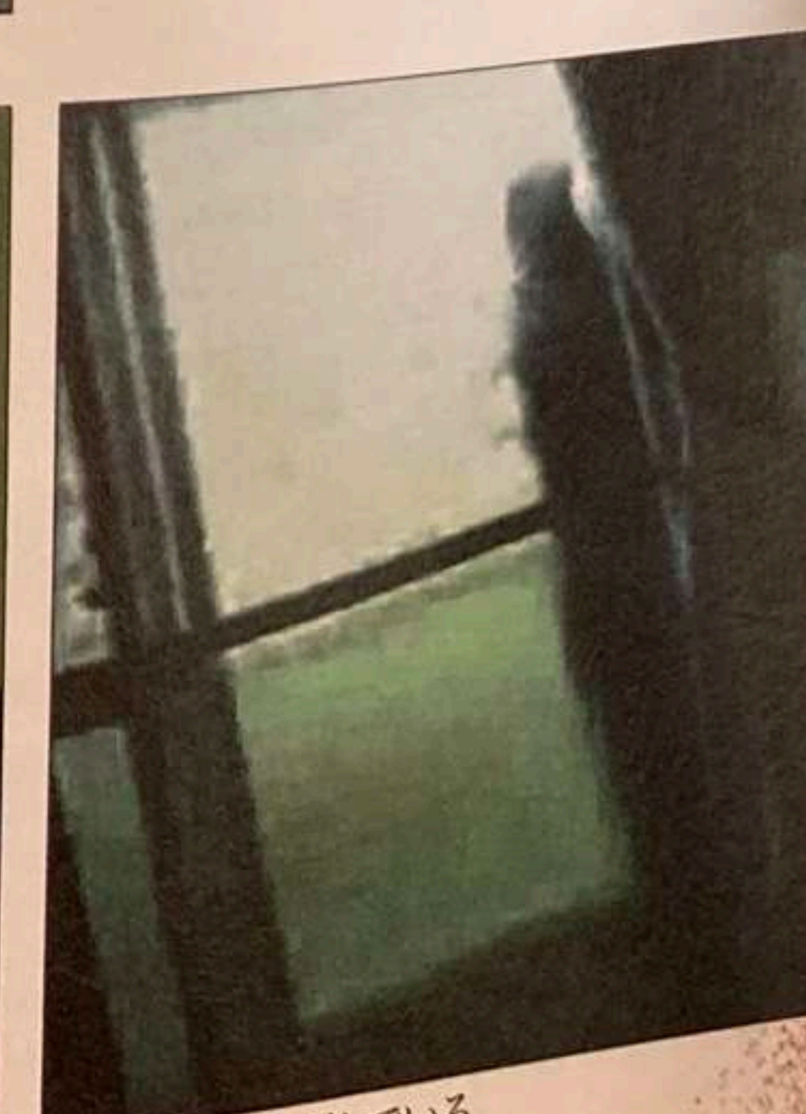


▲窓の外に人影が

都内に住むあるカップルが撮影したホームビデオである。室内の様子を映していたカメラが、ふとベランダへ向かうと、窓の外側に立つ女性がジッとこちらをニラむ姿が映り込んでいた。このカップルが住む部屋は5階にあるため、どうやってベランダへ忍び込んだのかはわからない。



▲慌てて逃げ出すカップル



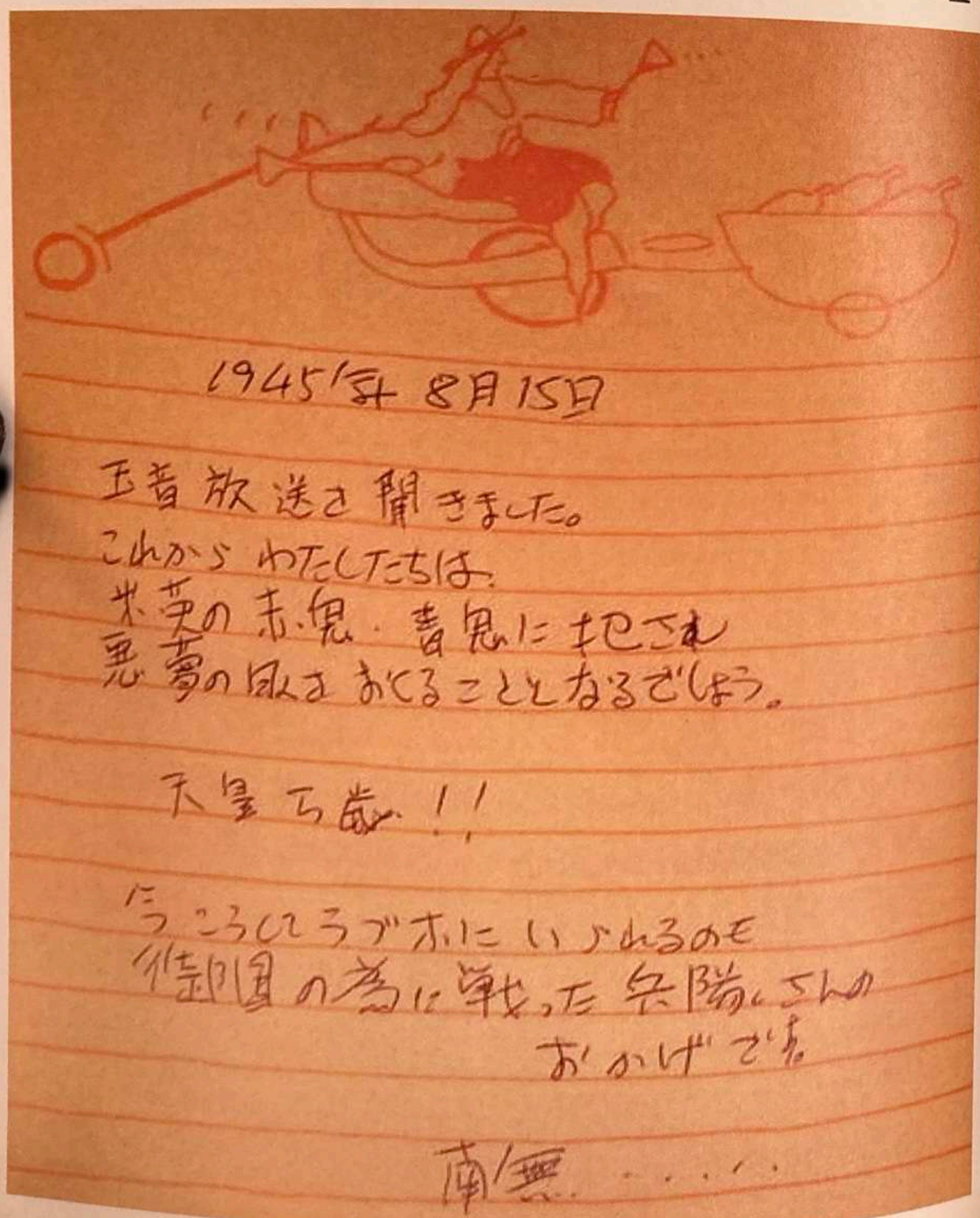
▲女性がたたずんでいる





# ラブホテルの謎のノート1

▼ 神奈川県のラブホテルで見つかった謎ノート。「玉音放送を聞きました。これから わたしたちは、米英の赤鬼、青鬼に犯され悪夢の日々を送ることになるでしょう。天皇万歳！今こうしてラブホにいられるのも御国の為に戦った兵隊さんのおかげです南無 ......」とのこと。とても平成の世に書かれたとは思えない。



1945年 8月15日

玉音放送を聞きました。
これから わたしたちは
米英の赤鬼・青鬼に犯され
悪夢の日々をおくることとなるでしょう。

天皇万歳!!

今こうしてラブホにいられるのも
御国の為に戦った兵隊さんの
おかげです

南無……

# 三原山の**噴**火に身を投げて自殺した男

昭和61年に起きた、大島三原山の大噴火。歴史に残る有名な事件だが、噴火の真っ最中、溶岩が噴き上がる中で火口付近まで近づき、マグマに身を投げて死んだ男がいることは、あまり知られていない。

この男性、火山の活動が盛んになった頃から1人で観測所にこもり、避難警報が出た後も山頂に残ったらしい。彼が山頂を動く姿は、観測所のカメラが捉えていた。



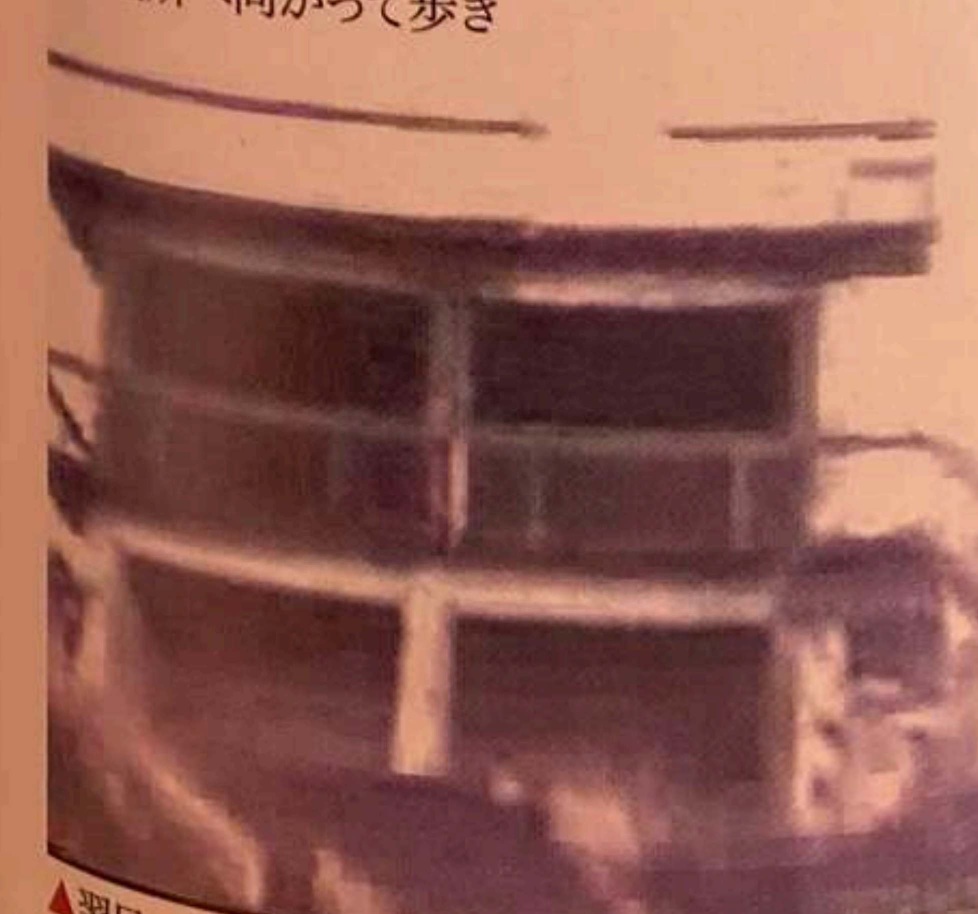
▲マグマを噴き上げる三原山



▲観測所へ向かって歩き



▲山頂に男の姿が



▲翌日、観測所に遺体は見つからなかった



▲中へ



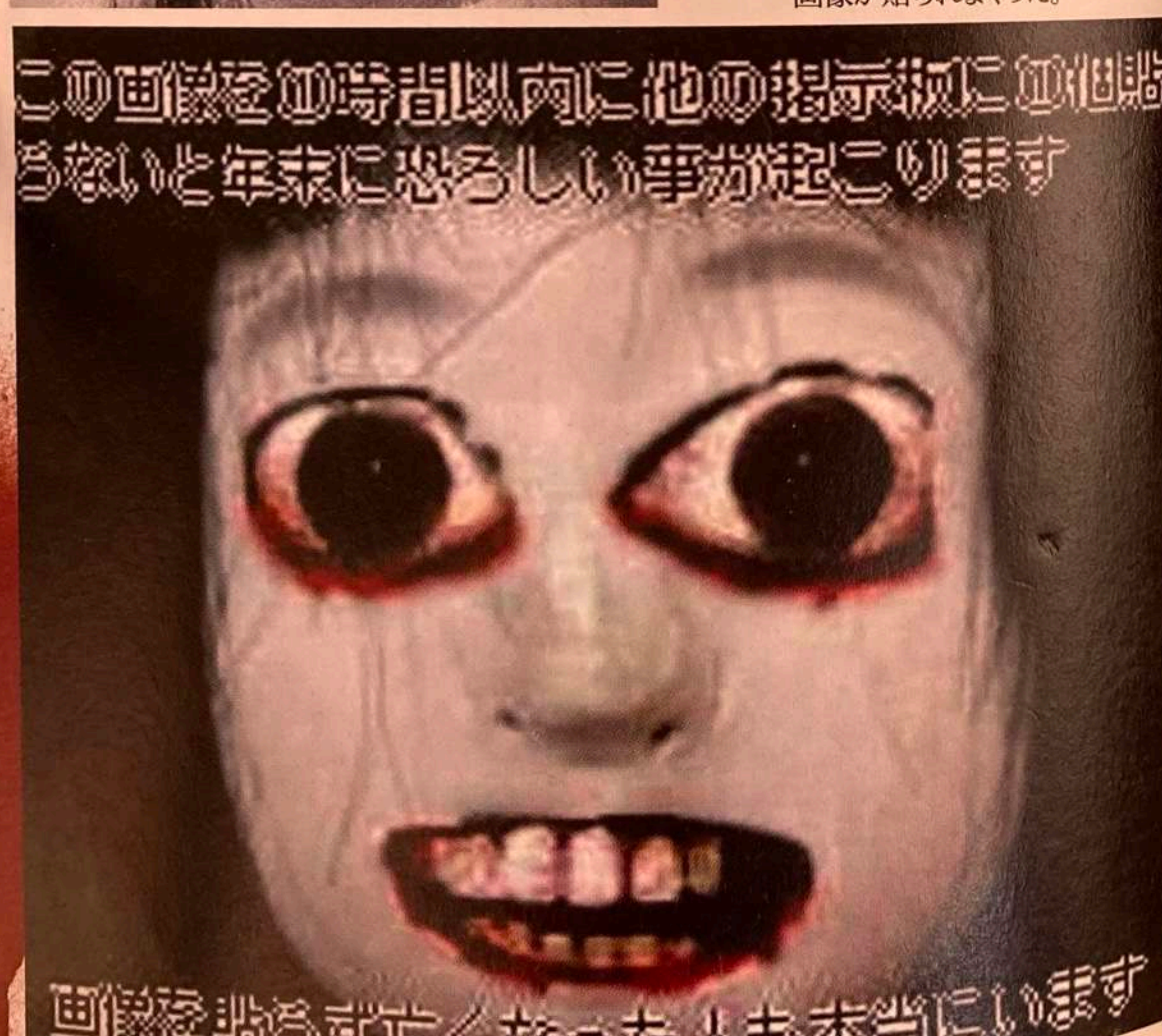


## **鬱**なチェーンメール画像1

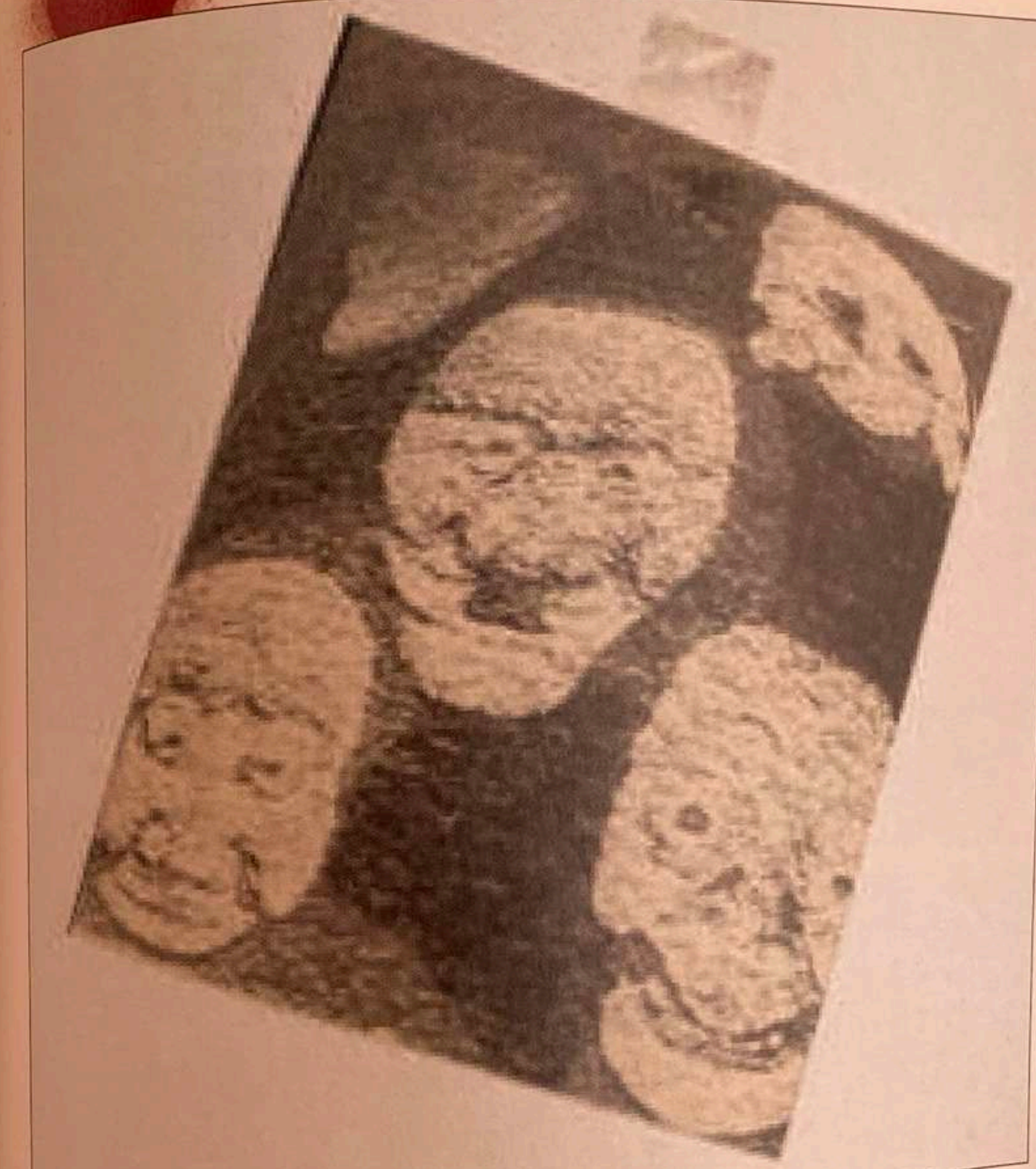


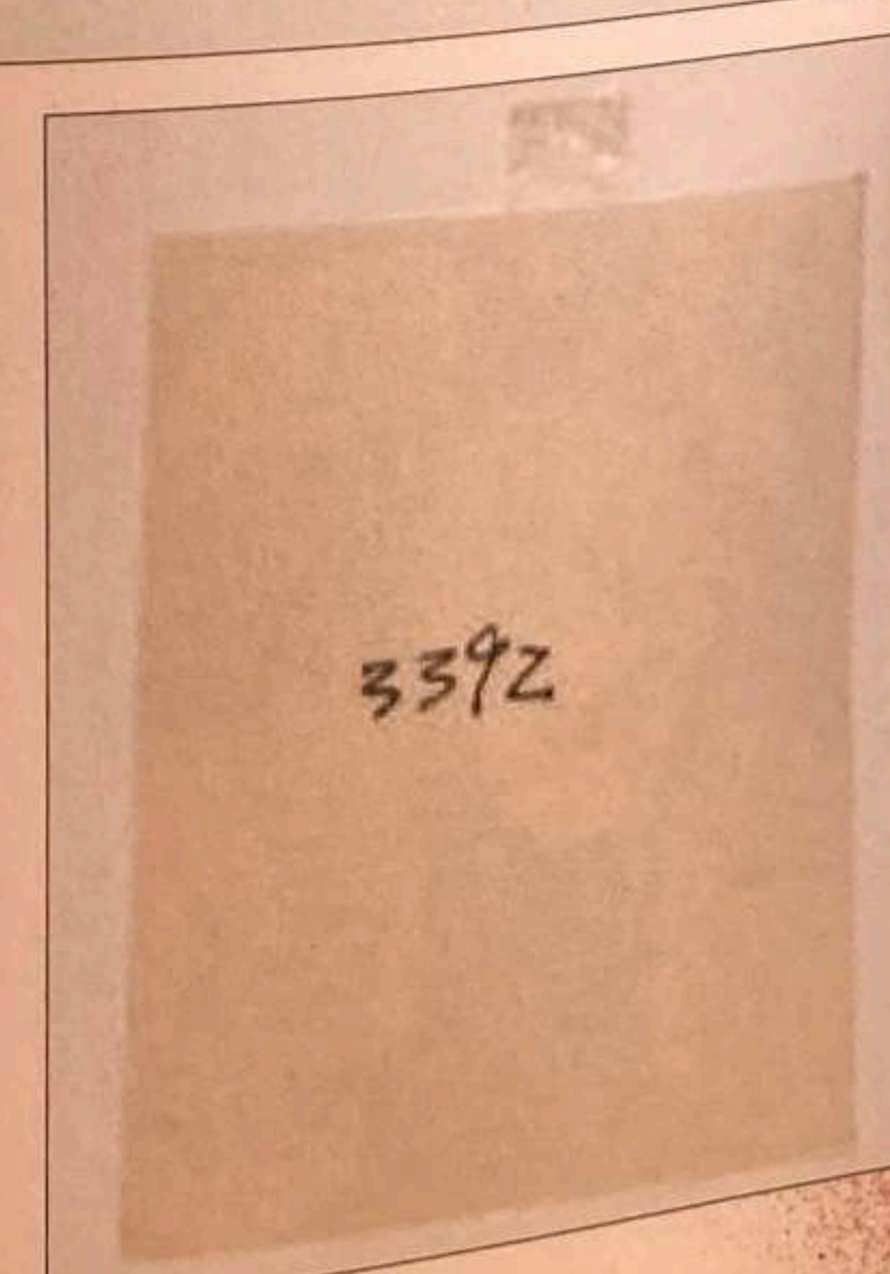
◀03年ごろに出回ったチェーンメールに添付された画像。「精神が狂った人が描いた絵です」とのメッセージと一緒に送られてくるのがパターンだった。

▼不幸の手紙ならぬ、不幸のチェーンメールに添付された画像。一時期、あらゆる掲示板に、この画像が貼られまくった。



# 新宿・歌舞伎町の謎の張り紙





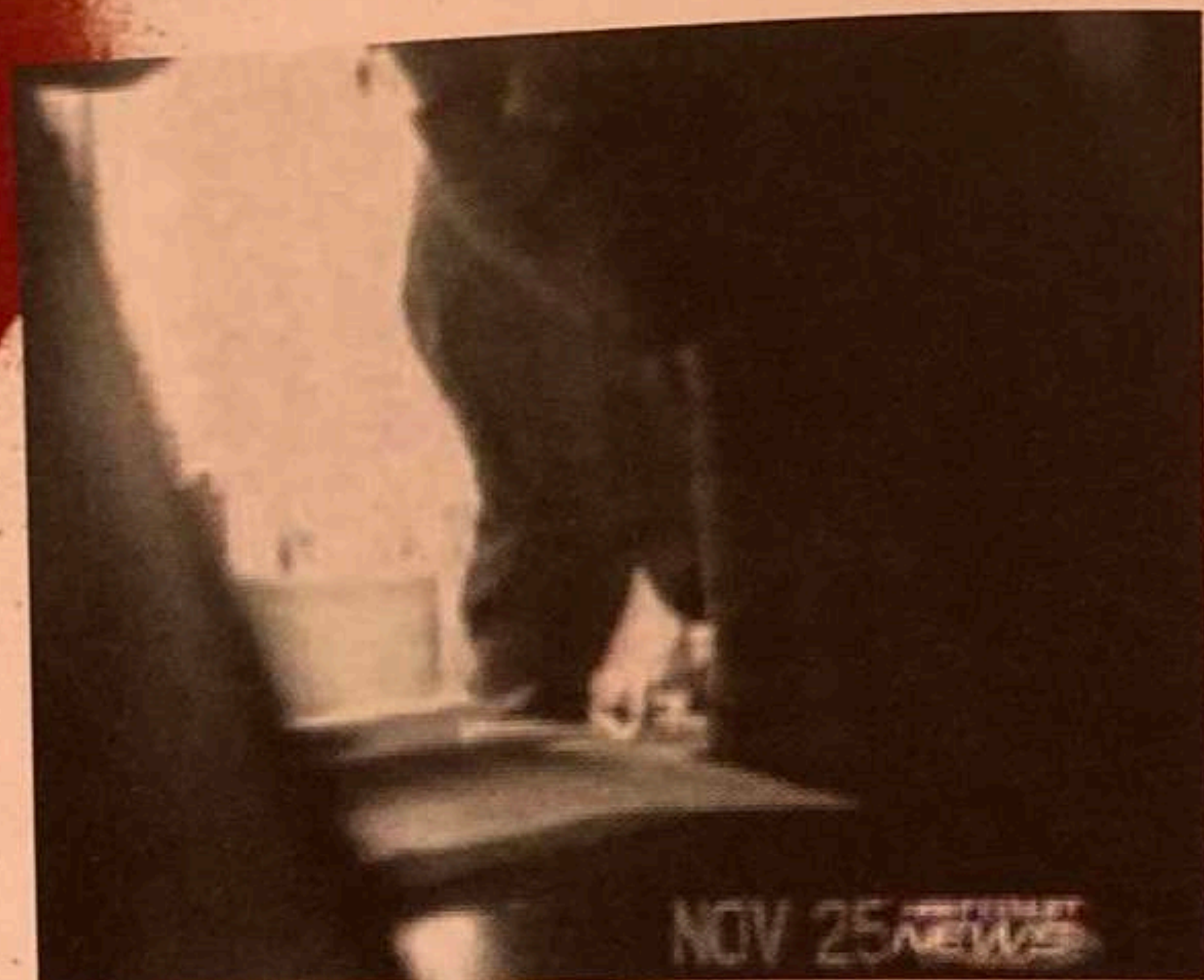

新宿・歌舞伎町で、一時期、大量に電柱やビルの壁面に貼られた謎のチラシである。

表面には、謎の仮面をつけた集団のイラスト、裏面には「3392」なる数字だけが記されていた。新手の広告戦略か、それともなにかの宗教の儀式なのか。真相は不明のままだ。

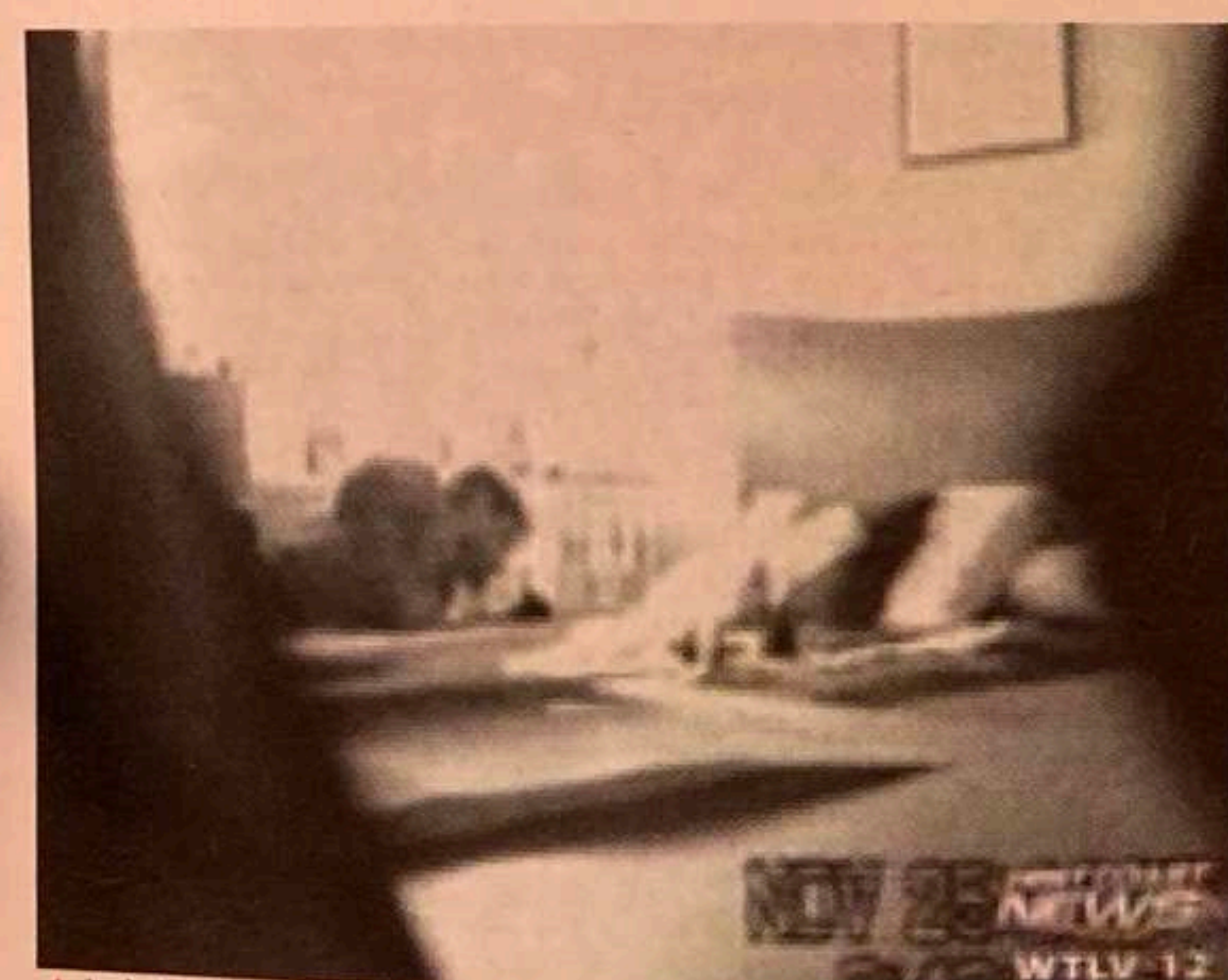




# 2日間ベッドの下に隠れ続けたストーカー




▲クローゼットにカメラを置いて




▲おもむろにベッドの下へ



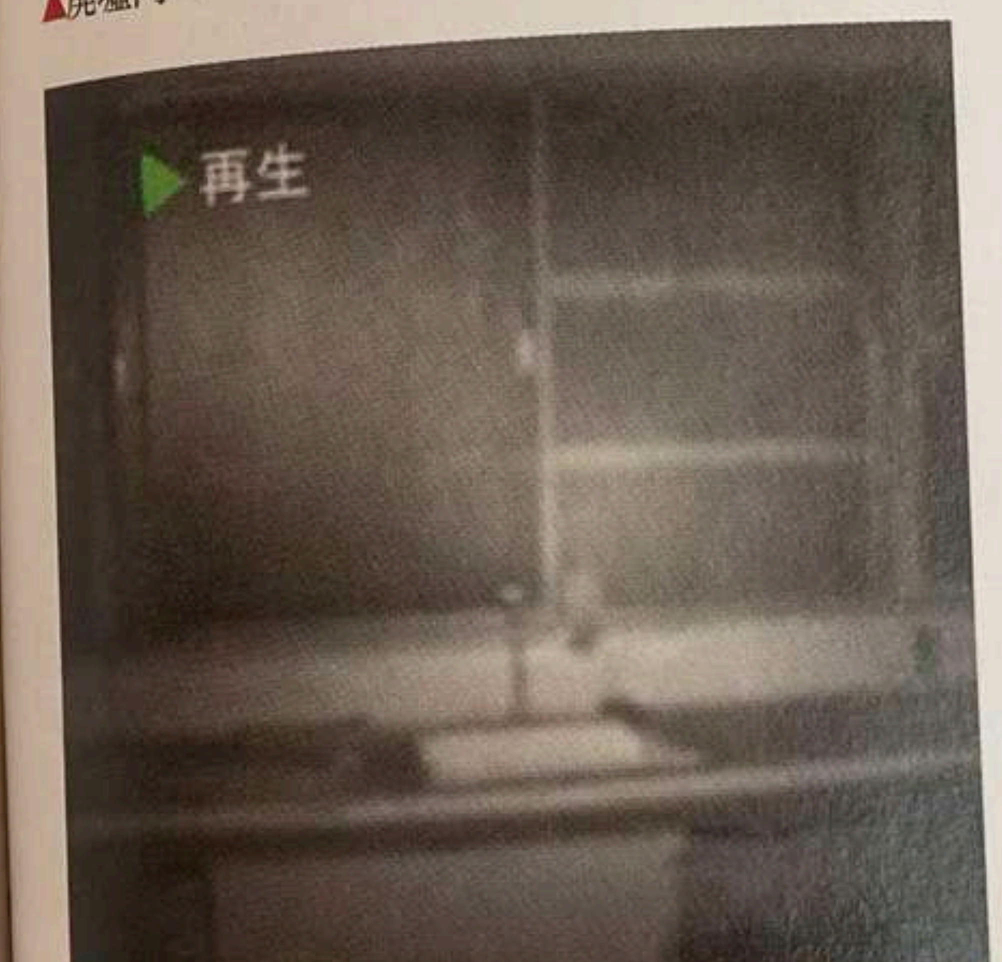

▲犯人のカルロ。事件時の地元のニュースより

女性のベッドの下に男が…といえば、ありがちな都市伝説だが、これを地でいく事件がアメリカ・ワシントンで起きた。男の名はカルロ・カステラノス。病気で入院した際、その病院の看護婦に惚れ込み、こっそり合い鍵を作って彼女の家に侵入。クローゼットの奥にビデオを設置し、2日間にわたってベッドの下に隠れ続けた。幸い、異変に気づいた家主がすぐに警察に連絡したため、女性に被害はなかった。

# 深夜、廃墟に子供が




▲廃墟内へ




▲カメラが左にブレると




▲中に入ってくる



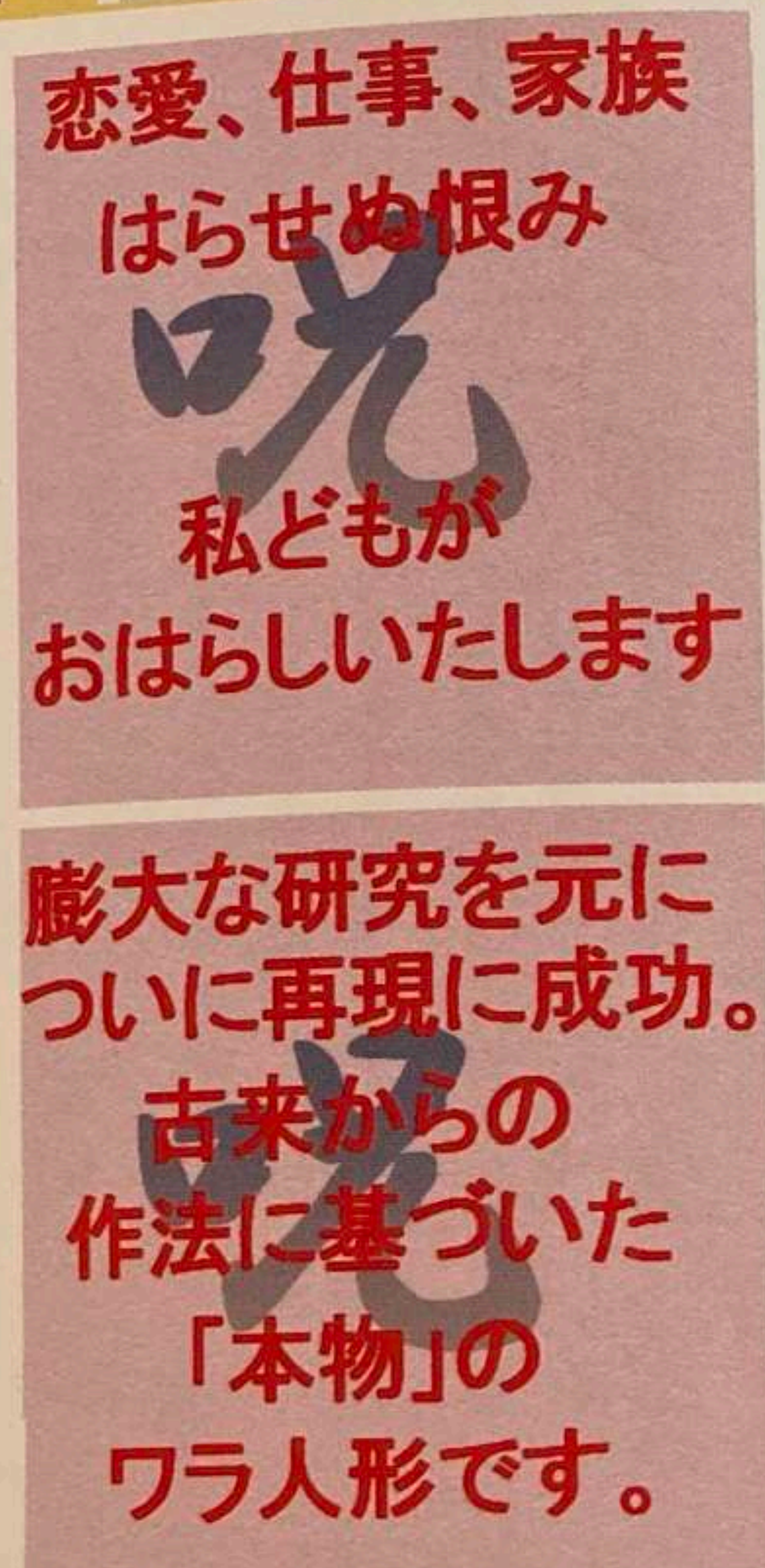

▲窓に子供が

ある男性が、いまは廃墟となった山奥の化学プラント施設へ肝試しで忍び込んだところ、深夜にも関わらず、施設内に子供が入り込んでくる様が映り込んでいた。この後、撮影者は逃げ出してしまったため、子供がそんな場所で何をしていたのかはわからない。





# 血液入りのワラ人形売ります






セット内容

| | | |
|---|---|---|
| 藁人形 | 30センチ程度 | 御払い済、心臓部を縛る縄に私の血をすり込んであります。 |
| 5寸釘 | 7本 | 当方で特別のお祓いをいたしました。 |
| 木槌 | 1本 | 御払い済 |

Yahoo!オークションに実際に出品されていた商品である。何を持って「本物」とするのかはわからないが、わざわざ血液を擦り込んでいると書くあたりに本気ぶりがうかがえる。

# 「皆様」へ。私の家へ不法侵入する者がおります

2006年ごろ、首都圏を中心に数千枚のビラがまかれた。書き手の自宅へ、何者かが不法侵入を繰り返し、細かな嫌がらせをしているとの内容で、すでに60回以上も警察へ相談に行っているとの内容だった。

書き手が主張する「嫌がらせ」とは、以下の通り。

皆様へ（裏面住居侵入に関する主な出来事、御覧下さい）
これは、（昨年）六月十日に桑名警察署長、三重県警本部長さん宛に提出したものです。
愛知、岐阜の方で「盗撮・盗聴を事実確認できる、最善の方法が
ありましたら　四月三十日までにご一報下さい。
平成十五年四月から桑名警察署に自宅の庭及び各部屋が
盗撮・盗聴・住居侵入され大変困っているので助けて下さいと、
六十回以上、訴えてきました。
もし、私の訴えてきたことが事実確認できたならば、この件に
かかわった者及び、その管理監督の地位にある方は、全員
直ちに警察官をやめて頂きます。





・鍋と薬缶に接着剤のようなものが付着していた。
・軒先の大工道具箱へビが入っていた。
・雨戸とガラス戸の間に虫が一匹入っていた。
・雨戸とガラス戸との間に、トカゲが一匹入っていた。
・裏のコンクリート壁の上にトカゲの屍骸が一匹置いてあった。

対応した警察官の方には、まことに同情を禁じ得ない。

直ちに警察官をやめて頂きます

平成十六年五月から十八年二月まで、皆様にお願いした主な事柄です。
○チラシ街頭配布（四九〇〇枚）H17 5/4〜5/4　H17 5/25〜（　）内の数字はおおよそです。
桑名駅、播磨駅、益生駅、馬道駅、西別所駅、在良駅、名古屋駅、四日市駅の各駅とその周辺、大山田の一部、その他市内の一部地域、
○チラシ戸別配布（二〇七〇〇枚）H16 10/首〜9/首、H17 5/15〜
市役所（一五〇枚）、公民館（八カ所）、市内の小学校の一部、市内の中学校の一部、
商工会議所、市の出先機関（三カ所）、県の出先機関（一カ所）、企業（一三社）、神社（五社）、
各商店、一般住宅など、桑名市内、長島、四日市、山城、蘇富、蟹江、名古屋、海津、大垣の各一部地域
桑名警察署　二枚、交番（馬道・内堀・駅前）の各一枚、
○口頭によるもの（二〇〇名以上）H16 5〜
市役所（六〇名）、商工会議所（一二名）、市の出先機関（六名）、商店街（八〇名）
顔みしりの方（五〇名以上）、
○電話によるもの　八カ所、
大阪府警、京都府警、奈良県警、愛知県警、岐阜県警、三重県警、
新聞社、テレビ局、
○文書によるもの　四通、
桑名警察署長さまへ　平成十六年五月十八日　一通、五月二十四日　一通、
平成十七年三月三十日　一通、六月十日　一通、

# 隣人からの引っ越し祝いは、トイレットペーパーの芯232本



都内に住むKさんは、ある日、自分が住むアパート隣の部屋に引っ越してきたという中年男性から、引っ越し祝いとして1個の段ボール箱を受け取った。中には、ご覧の通り、大量のトイレットペーパーの芯が入っていた。

いまKさんは、隣人に引っ越し祝いの真意を問いにいくべきかきめかねているそうだ。





# 街角の謎物件1



◀某県の街道にて発見。ちなみに、矢印の方向には何もない

▼某県の住宅前の謎オブジェ。マネキンの無表情さが怖い



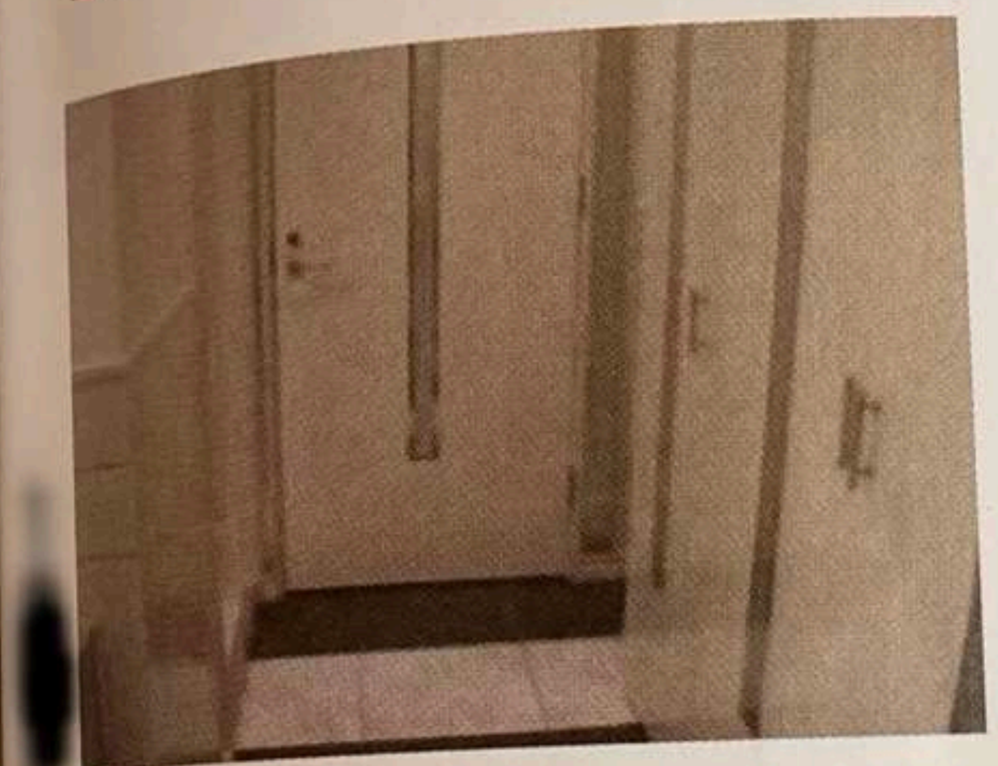
# ラブホテルの女



▲ラブホの一室を



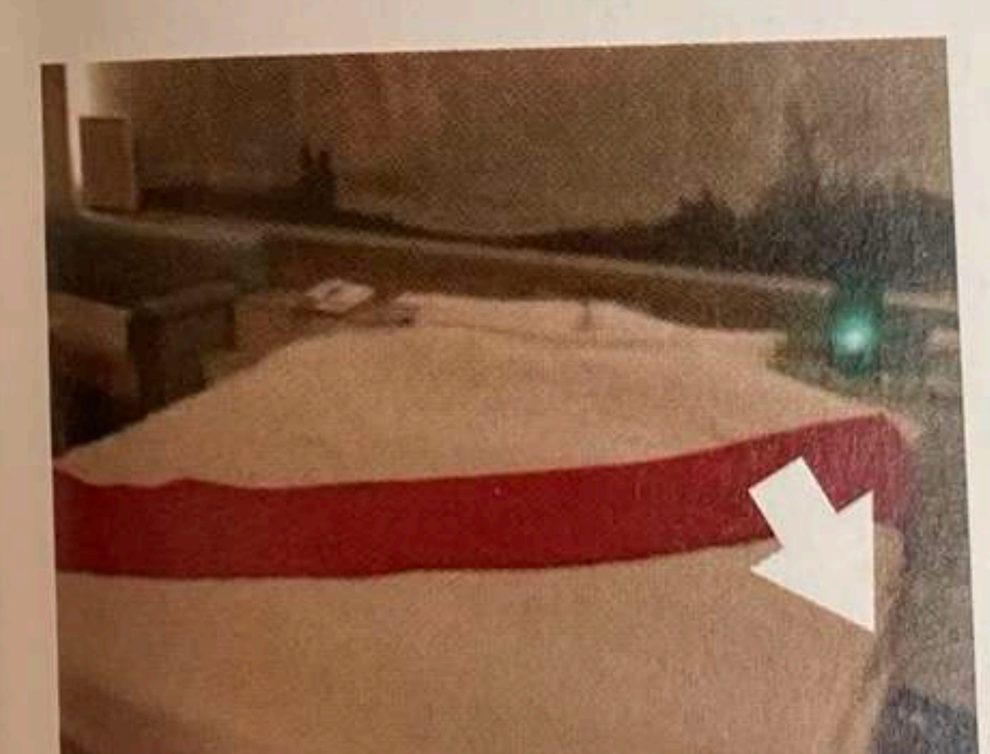
▲カメラをぐるりと回していって



▲さらに回して



▲ベッドにさしかかると



▲女の顔が！

あるカップルが、都内の某ラブホテルで撮影したホームビデオである。

帰り際、ラブホの室内をカメラでグルリと映していくと、フレームがベッドの下側を捉えた瞬間、明らかに女性とおぼしき人間が潜んでいるのが写り込んだ。

ちなみに、このカップル、ホテルに滞在中は、まったくベッド下の女には気づかなかったそうだ。





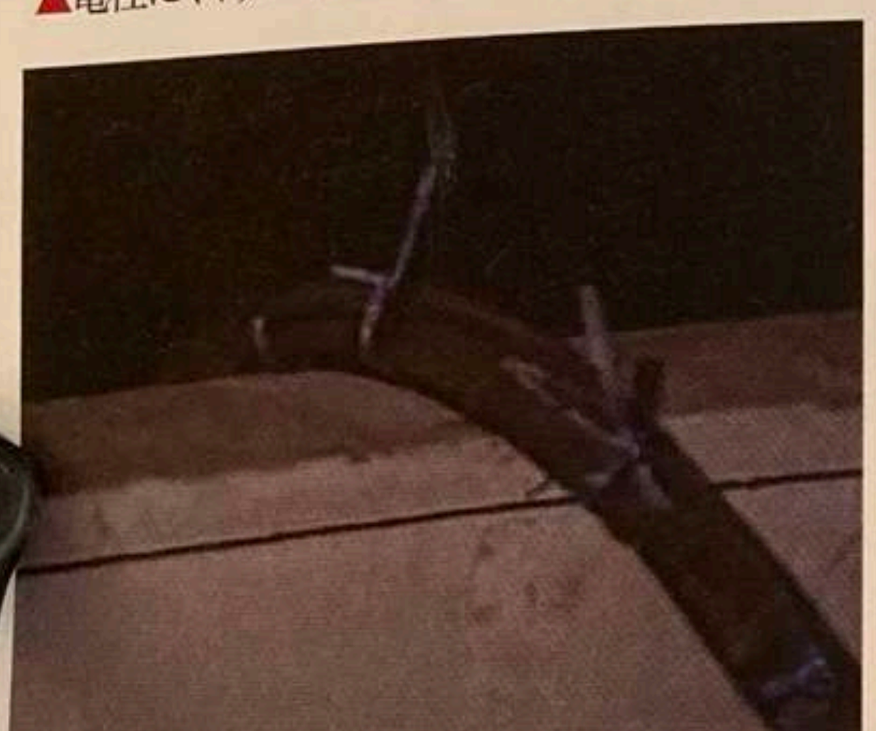
# 大阪、謎のビニールひも



▲電柱にくくりつけられたヒモ



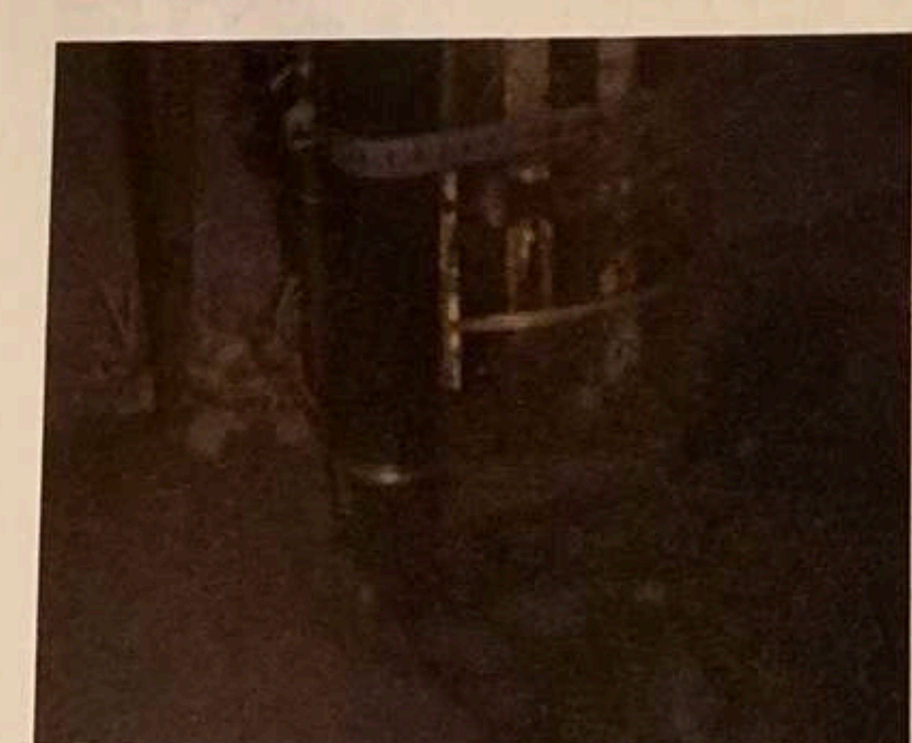
▲給水ケーブルにくくりつけられたヒモ



▲どこまでもヒモが



▲電柱上部にもヒモが



▲中には黄色のヒモも



▲ヒモが

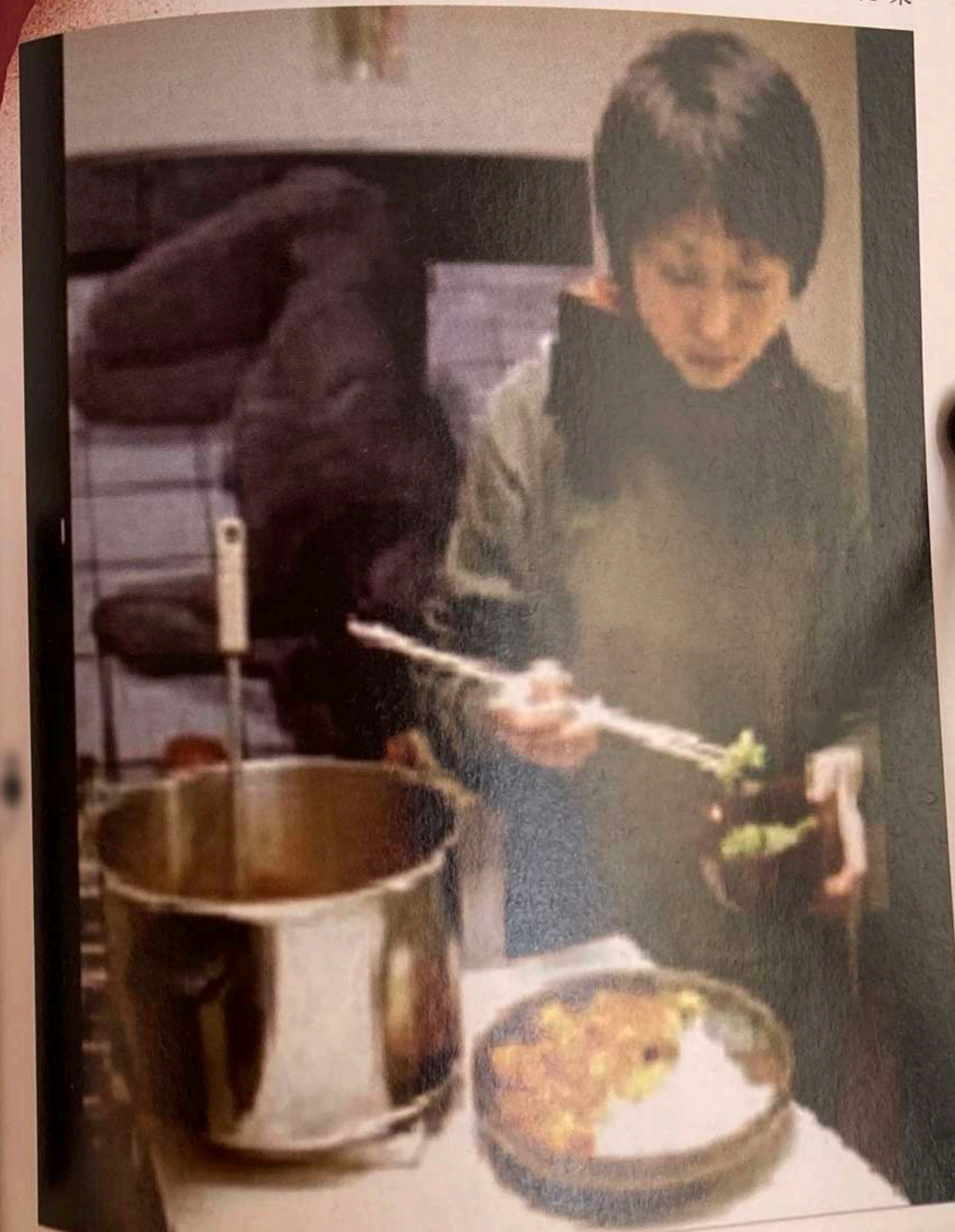
1992年3月、大阪の鴻池新田界隈にて、ガードレールや電柱などに、梱包用の硬いビニールひもが、大量に結びつけられるという、意味不明の事件が起きた。

一時期は、テレビ番組などでも取り上げられるほどの話題を呼んだが、結局、いまだに真相はわかっていない。

# 夕刊紙の怪

2001年、某大手新聞の夕刊に掲載された写真である。紙面は、普通に夕飯のオススメレシピを紹介するごく当たり前のもの。しかし、その背景に、よくわからないものが映り込んでいたため、話題を呼んだ。

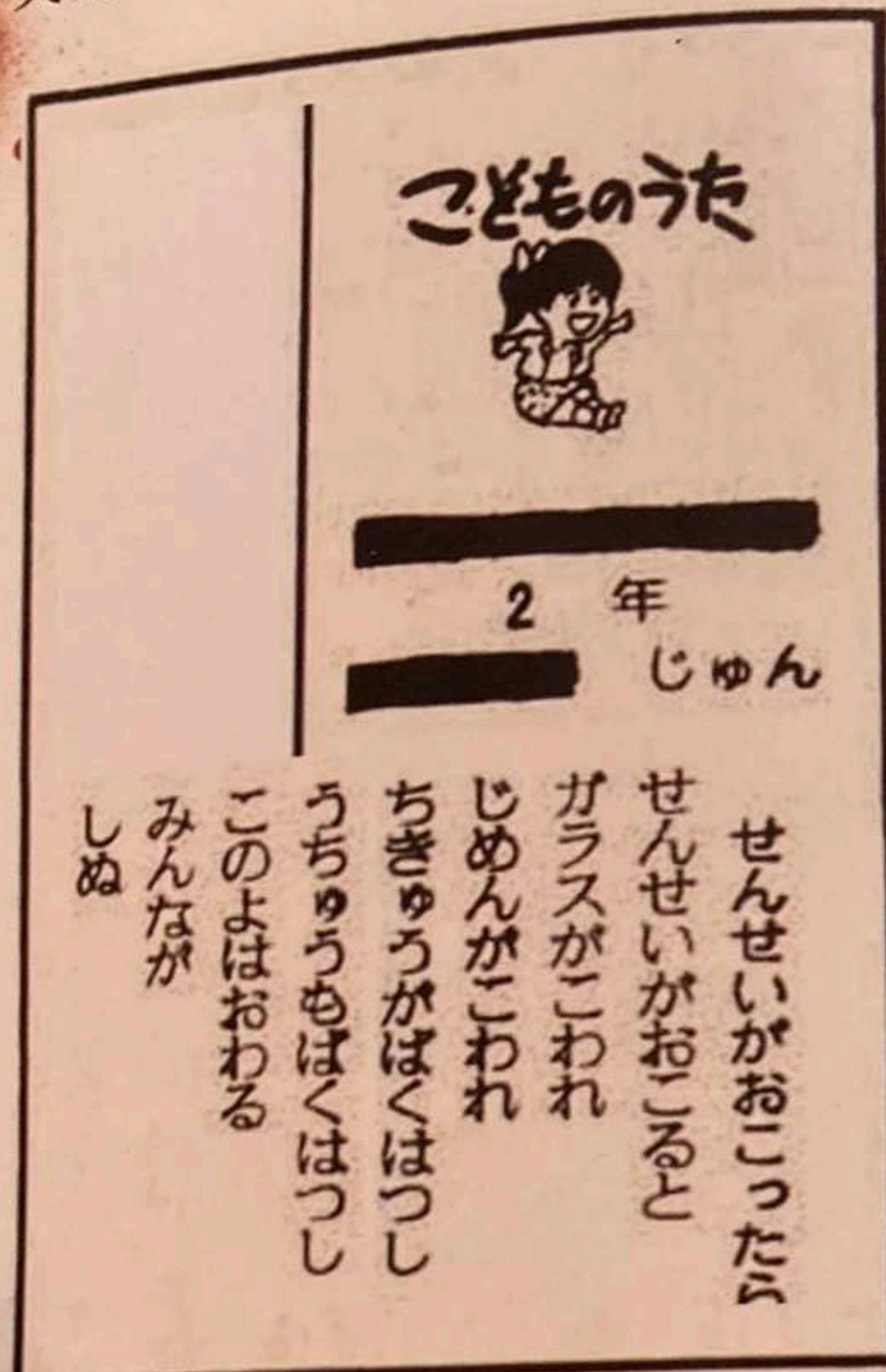
床に転がる、灰色の焼死体のような物体の正体とは？ すべては謎のままだ。







# 新聞で見つけたプチ恐怖


こどものうた

[redacted]

2年

[redacted] じゅん

せんせいがおこったら
せんせいがおこると
ガラスがこわれ
じめんがこわれ
ちきゅうがばくはつし
うちゅうもばくはつし
このよはおわる
みんなが
しぬ

◀大手新聞の文化欄より。小2にしてこのアナーキーさ。




▼大手新聞の片隅に掲載された街角の風景写真。脅かしすぎ

# 品川の通り魔少年





2008年1月、東京品川の戸越銀座商店街で、16才の少年が包丁を振り回し、通行中の女性会社員2人が胸や背中を刺されて病院に運ばれた。その通り魔事件を、監視カメラが捉えた映像である。

警察の調べでは、少年は両手に包丁を持ち、戸越銀座駅近くから商店街の中を「殺してやる」と叫びながら、次々と5人に切りつけた。取り調べに対し、少年は「誰でもいいから、皆殺しにしたかった」と供述した。





# 鬱なチェーンメール画像2



◀02年ごろに出回ったチェーンメールに添付された画像。「この画像を1週間以内に8人に回さないと不幸になります」とのメッセージと一緒に送られてきた。



▼不幸のチェーンメールに添付された画像。こちらも、1週間以内に数人に転送を要求するものだった。

# 仮面をかぶった獣たち







▲「夫婦でドンピシャ」（テレビ朝日）　▲逮捕時の勝田

## 勝田清孝

写真の男は勝田清孝。70年代に、女性19人と男性3人を現金目当てで殺し、「戦後最大のシリアルキラー」とまで呼ばれた極悪人である。

この男、殺人を犯したわずか6日後にバラエティ番組「夫婦でドンピシャ」に出演。「僕は、やせ形のスタイルが好みですわ」などとのんきに語り、クイズでは8万円の賞金を手に入れていた。







▲インタビューでは自分の仕事を冗舌に語った　▲「僕はやせ形が好みなんですわ。へへへ」

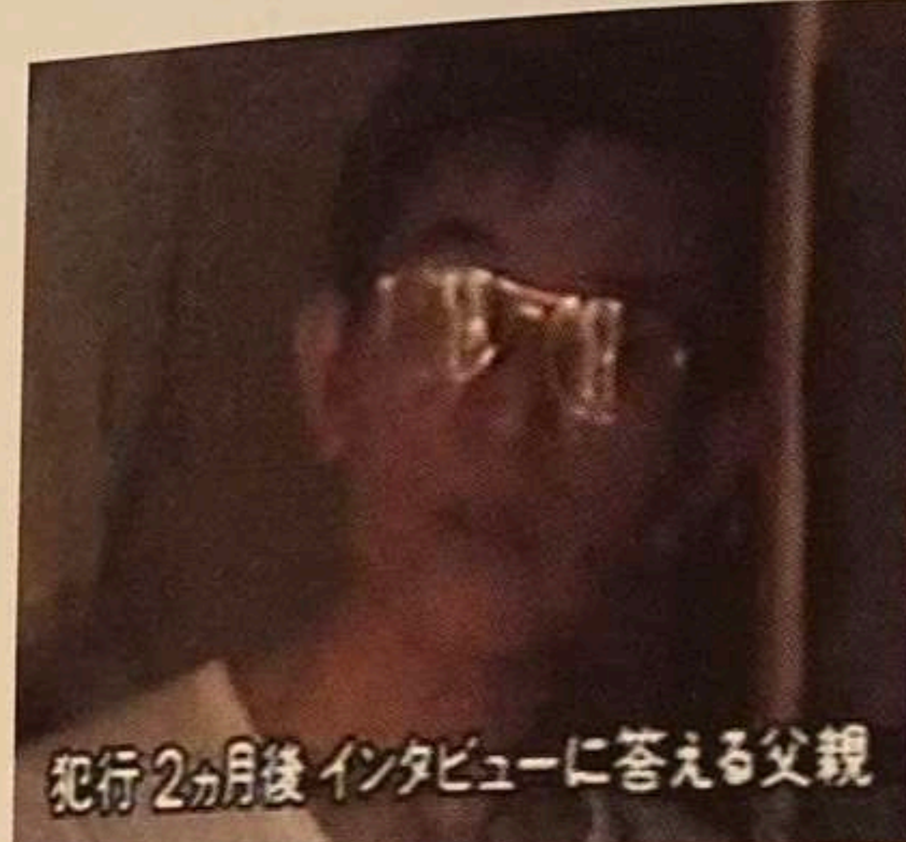


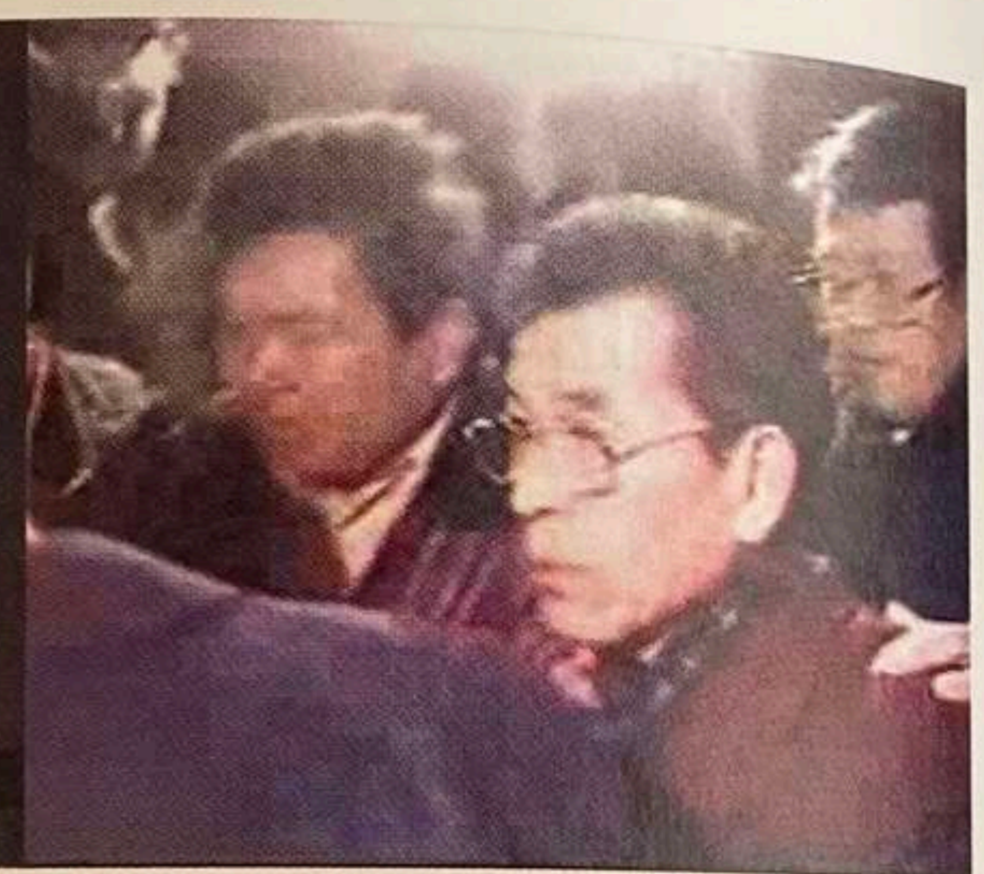


## 実娘保険金殺人犯

昭和61年に、名古屋で起きた保険金殺人である。被害者は、アル中の父親を献身的に介護していた20才の女子高生。犯人は、なんとその父親だった。

この父親は、事件が起きた2カ月後に、無垢の被害者を装いインタビューに回答。「何も知ったことやあるかい。いま身動きが取れへんねん」などとコメントした。

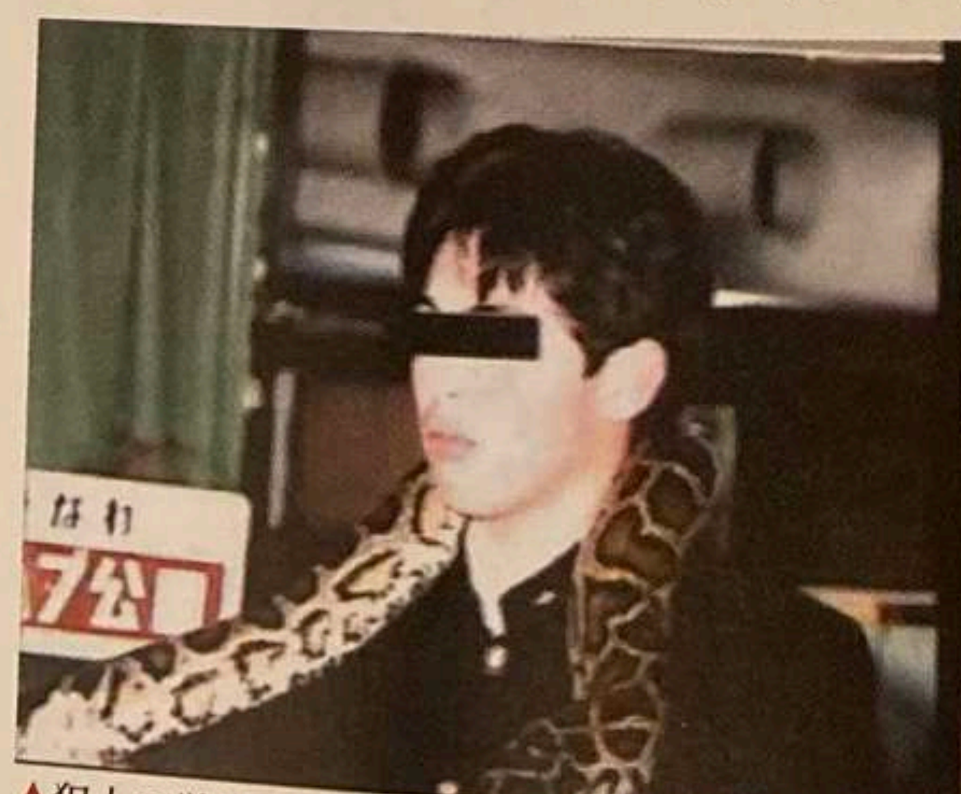


▲「何も知ったことやあるかい」　▲逮捕時の父親

## 宮崎勤の友人

写真は、かの連続幼女殺害事件の犯人・宮崎勤と同じビデオサークルに所属していた男。宮崎の事件後、インタビューに答えて「ああいうことはいけませんよ。余計偏見が強くなって、（ビデオマニアの）イベントが中止になるかもしれない」などと答えていたが、その直後、2歳児への強制わいせつ罪で逮捕された。





▲犯人の学生時代　▲「ああいうことはいけません」

# 廃墟にて、殺人犯と遭遇す



写真の女性たちがいるのは、02年に女性が刺し殺される事件が起き、その被害者の霊が出るとして有名だった心霊スポットである。

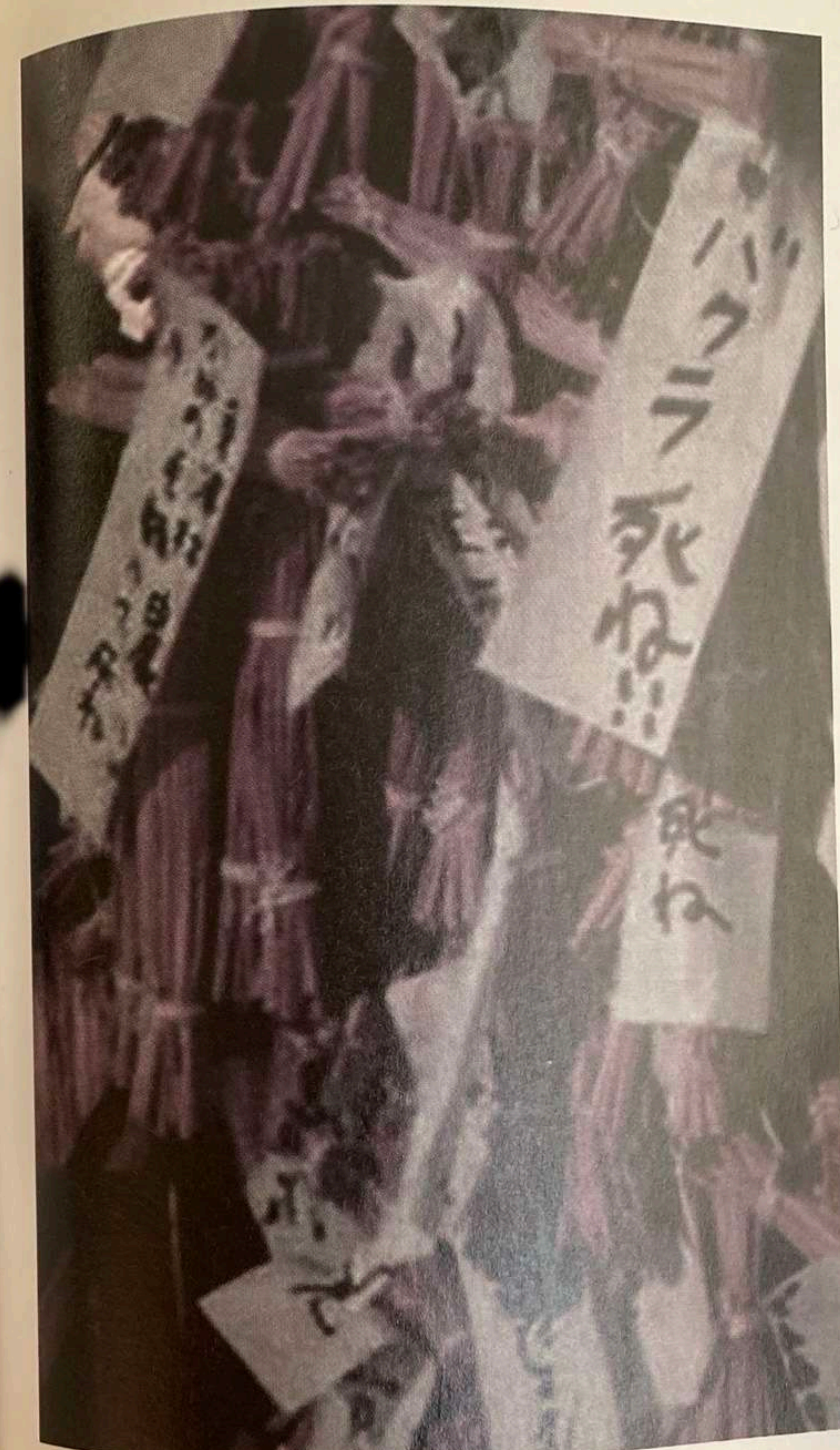
この女性たち、話題の恐怖スポットへ出かけたはいいが、調子に乗って記念写真を撮ってみたところ、思わぬ悲劇に襲われてしまう。なんと、たまたま同じ時間に、その殺人事件の犯人が、現場に潜伏していたのだ。

偶然にも、彼女たちが撮った写真に、その犯人がうつり込んでいた。ご覧の写真は、その1枚である。背景に、女性たちをニラむ長髪の男が、ボンヤリと浮かび上がっている。

この写真が撮影された後、女性たちは男に襲われ、全治1ヶ月の傷を負った。幸い、犯人はその直後に捕まったそうだ。

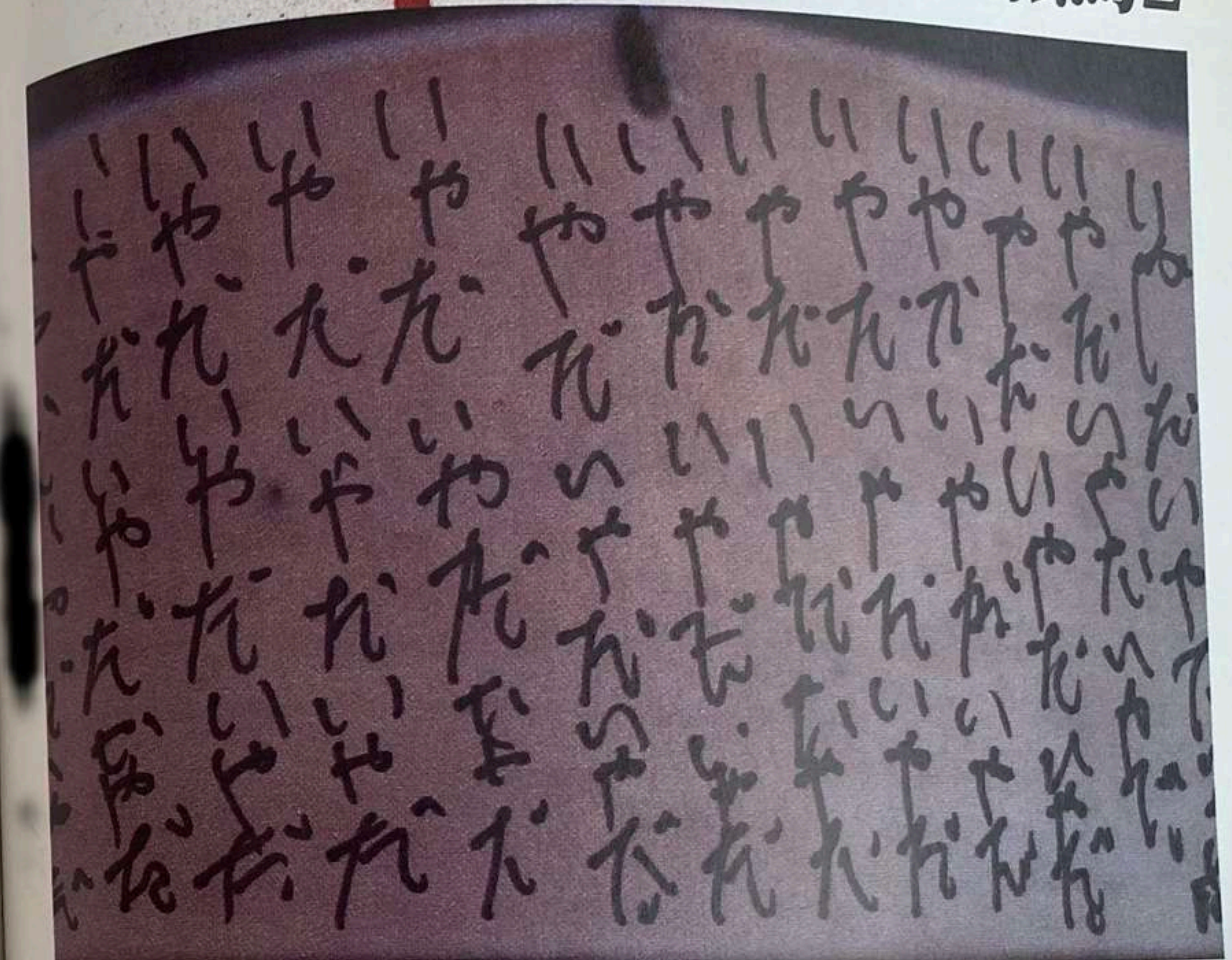


# 京都の藁人形神社

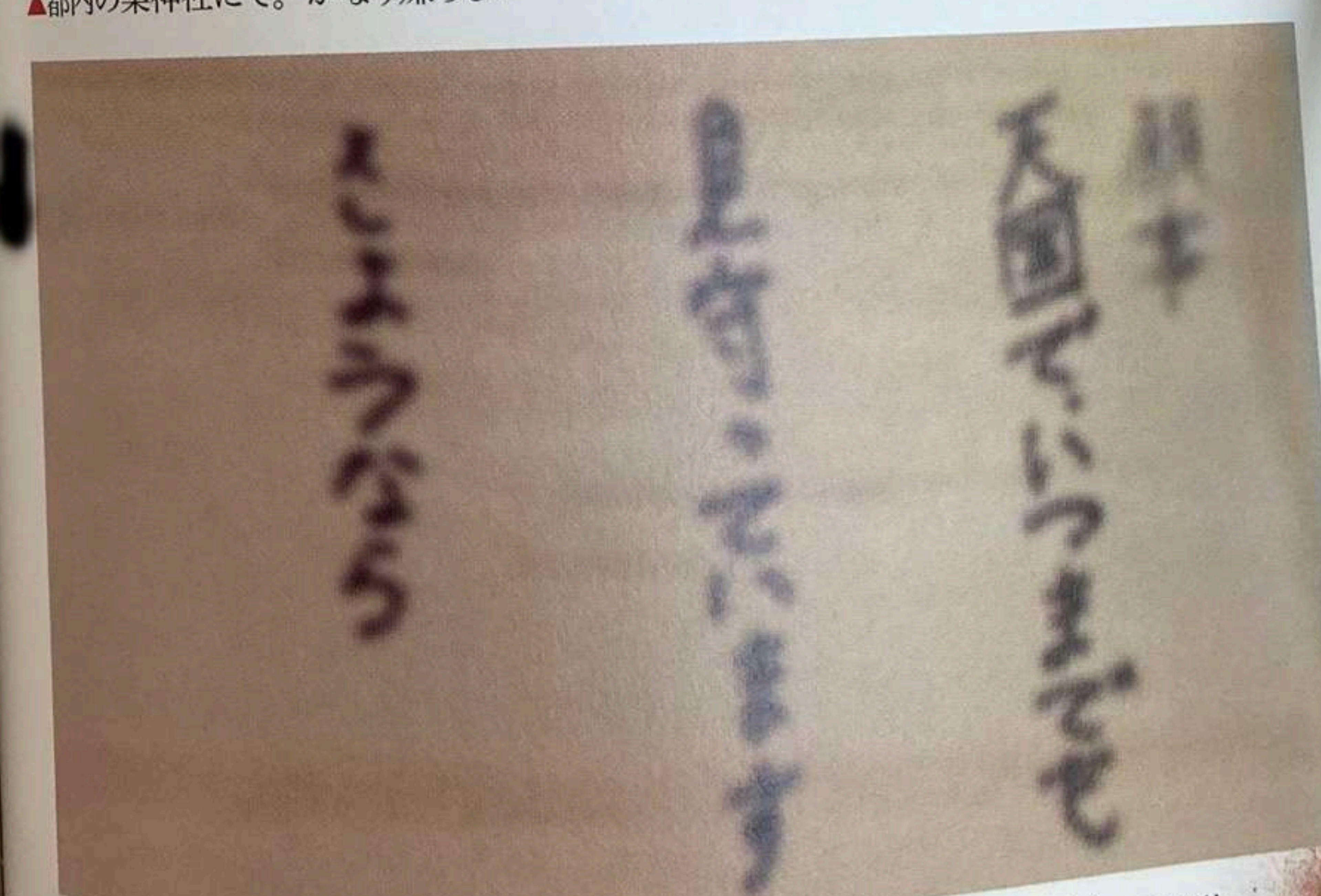



現代人にとっては迷信でしかない「呪いの藁人形」は、京都の某神社においては、いまだ現役の信仰だ。境内のご神木には、夜になるとどこからともなく藁人形を持った男女が現れ、こっそりと釘を打ち込んで去っていく。

## 鬱な絵馬2



▲都内の某神社にて。かなり嫌らしい




▲こちらも都内の某神社にて。「天国で、いつまでも見守っています。さようなら」………。





## 寺に置き去りにされる謎の彫像



▲静岡にある某寺院には、2〜3ヵ月の割合で、境内に謎の木彫り人形が勝手に置き去りにされる。犯人も動機も不明。大きいので簡単に捨てられず、住職も困り果てているそうだ、

## 自殺、立ち会います

92年ごろに開設された、自殺サイトの先駆けである。「らせん屋」なるタイトルで、自殺したい人間のそばにずっといることを目的としていた。実際に10名以上の自殺に立ち会ったらしいが、真偽はわからない。▶

らせん屋

自殺

立ち会います

一人で死ぬのが心細い方。

誰かに看取られて自殺したい方。

自殺でお悩みの方、生き辛さを感じている方。

その他悩んでいる方、相談だけでも受け付けます。

※自殺幇助は行いません。あくまで立ち会うだけです。

# リチャード・クレアリー









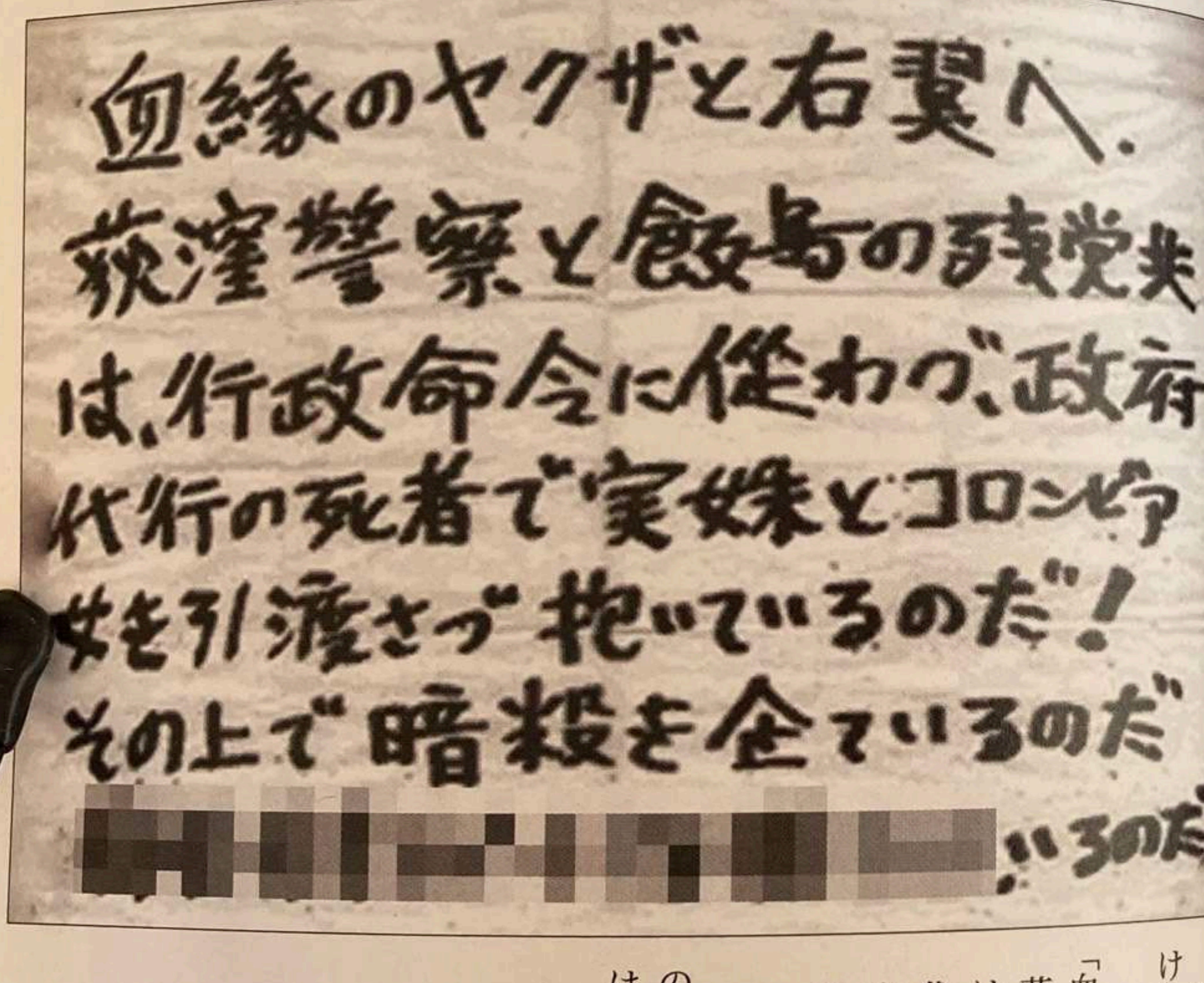
リチャード・クレアリーは、1980年代に名を轟かせた殺人鬼だ。15才のころから無差別に人を殺し始め、30才で捕まったときは、すでに自分が何人を殺してきたのかわからないほどだった。

取り調べに対しては「多分、殺したのは100～150人ぐらいじゃないか？」と得意げに吹聴。最後まで不敵な態度を崩さぬまま、85年に死刑に処された。





# 血縁のヤクザと右翼へ



血縁のヤクザと右翼へ。
荻窪警察と飯島の残党共
は、行政命令に従わず、政府
代行の死者で実妹とコロンビア
女を引渡さず抱いているのだ！
その上で暗殺を企ているのだ
[redacted]いるのだ

93年ごろ、都内の様々な場所に貼り付けられていた謎のチラシ。

「血縁のヤクザと右翼へ。荻窪警察と飯島の残党共は、行政命令に従わず、政府代行の死者で実妹とコロンビア女を引き渡さず、抱いているのだ！その上で暗殺を企ているのだ」

よくわからないが、荻窪警察と「飯島の残党共」に怒っているらしい。「死者」は「使者」の書き間違いだと思われる。

# 赤い目玉



白目が赤く濁ったこの写真は、2003年、都内に住むある女性が、死の直前に携帯で自分を撮影した画像である。

目が赤いのは、かつて睡眠薬で自殺を試みた際、クスリの量を間違えて一時的に呼吸が止まり、血液が眼球に沈殿したからだ。

女性は、この写真を撮って数時間後に、自宅で首をつって命を絶った。

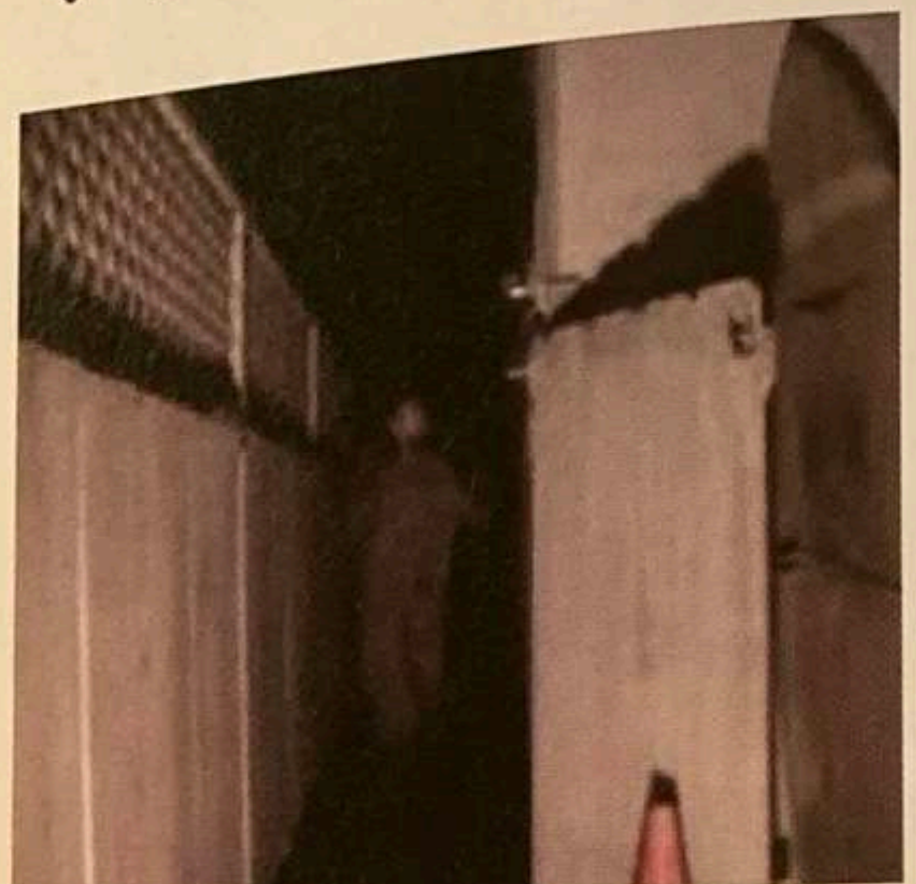




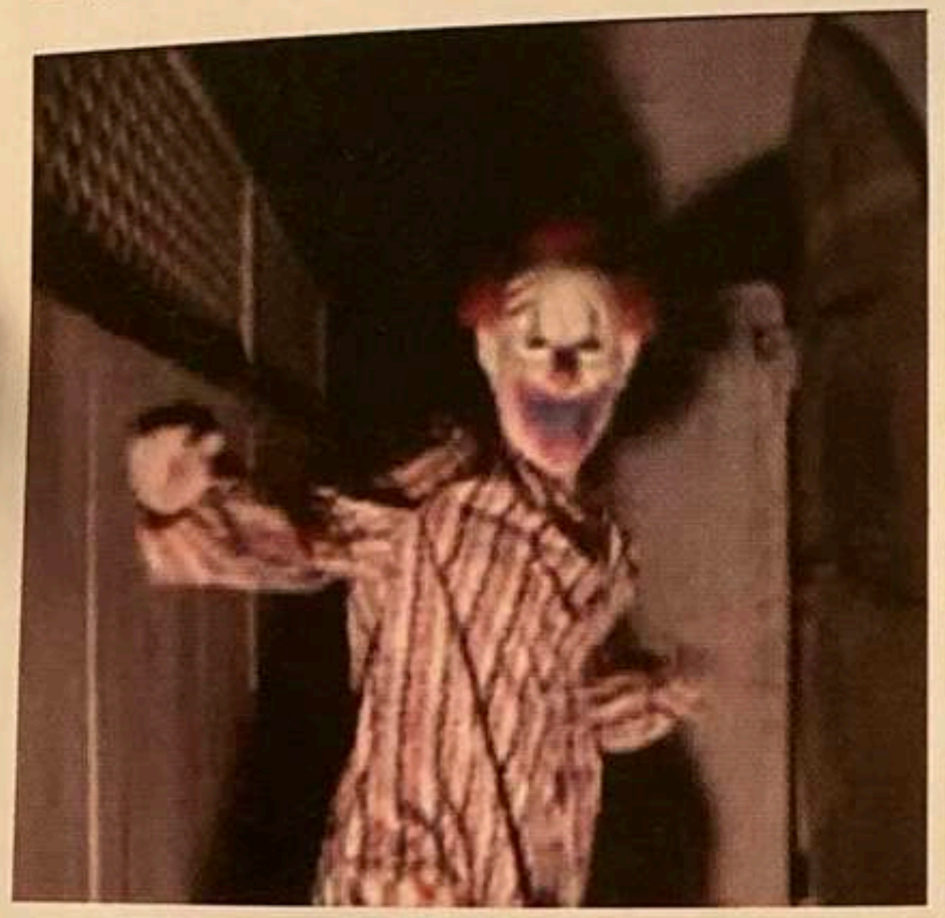
# キラーピエロの殺人予告ビデオ

暗闇からピエロが現れ、カメラに向かって「お前を殺す」とささやく。

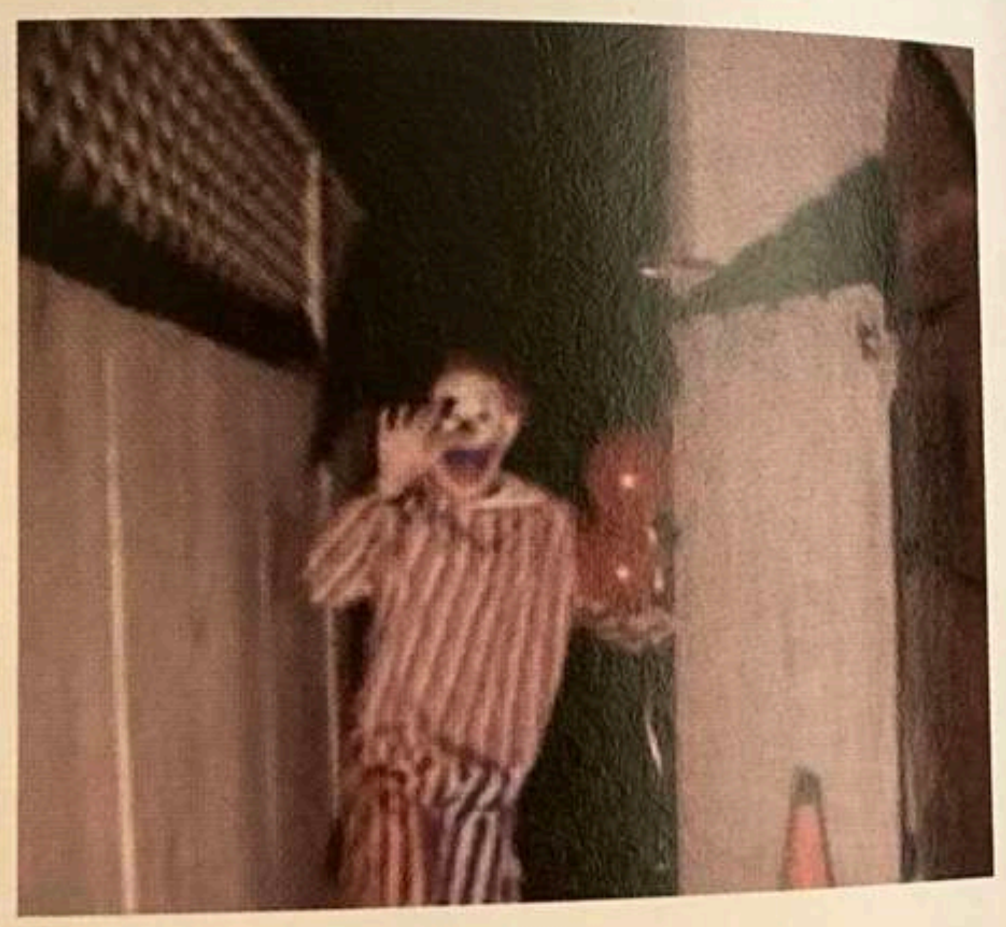
これは、06年夏、アメリカ・シアトルに住む女性の元へ届けられたビデオである。送り主は、近隣に住む32才の男。地元で遊園地のピエロとして働いていた男は、女性が自分を殺そうとしているとの妄想に取り憑かれ、彼女の殺害を決めたらしい。その後、男は銃を片手に被害者女性の自宅前をうろついているところを逮捕された。



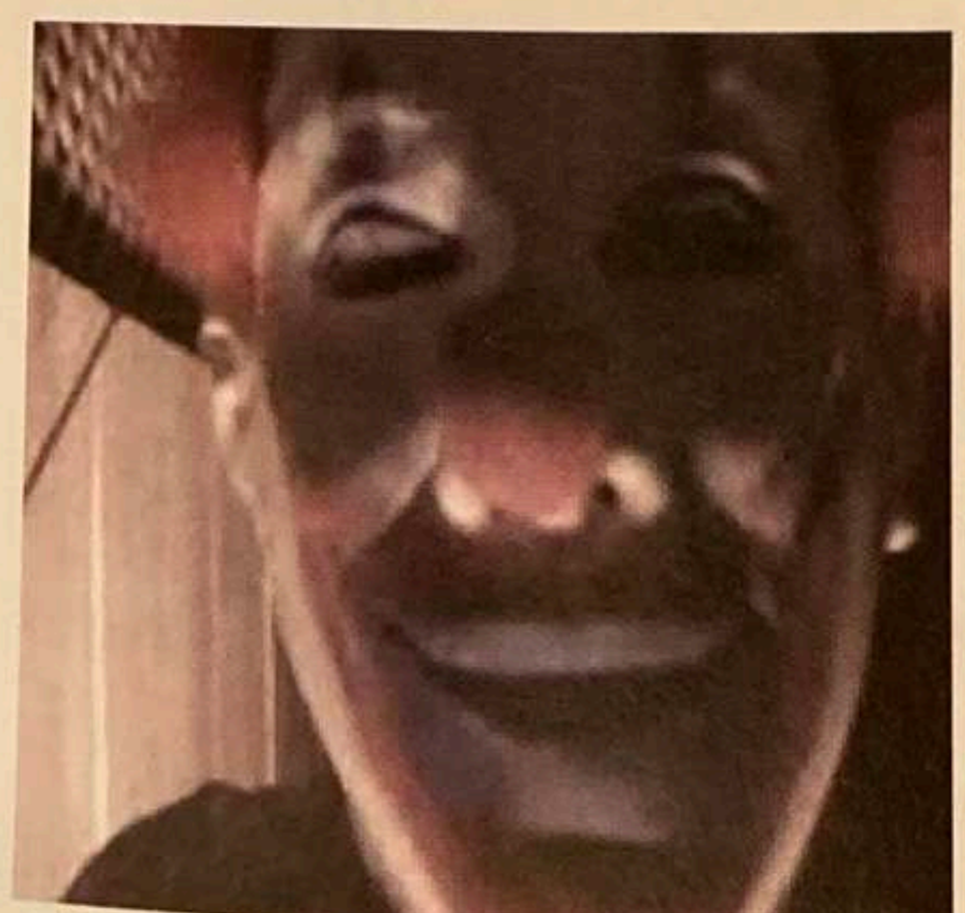
▲暗闇からピエロが



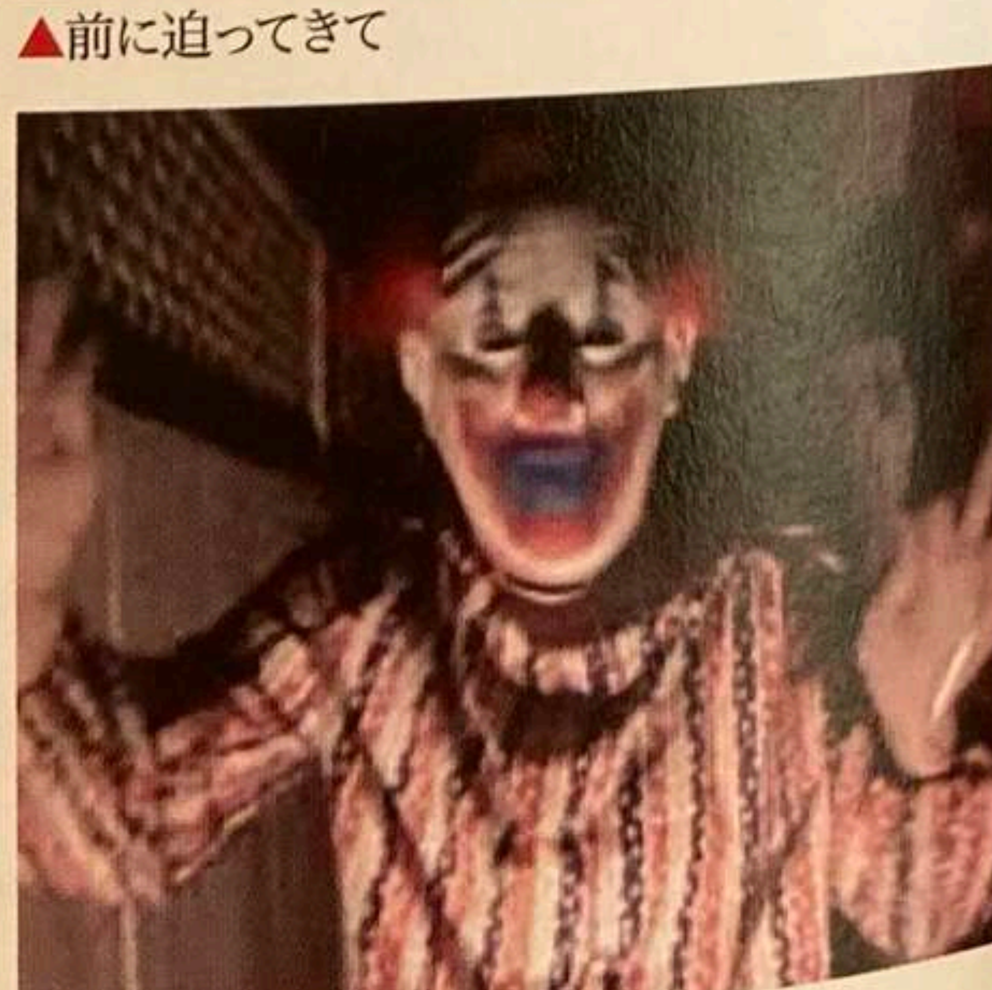
▲踊り始める



▲前に迫ってきて

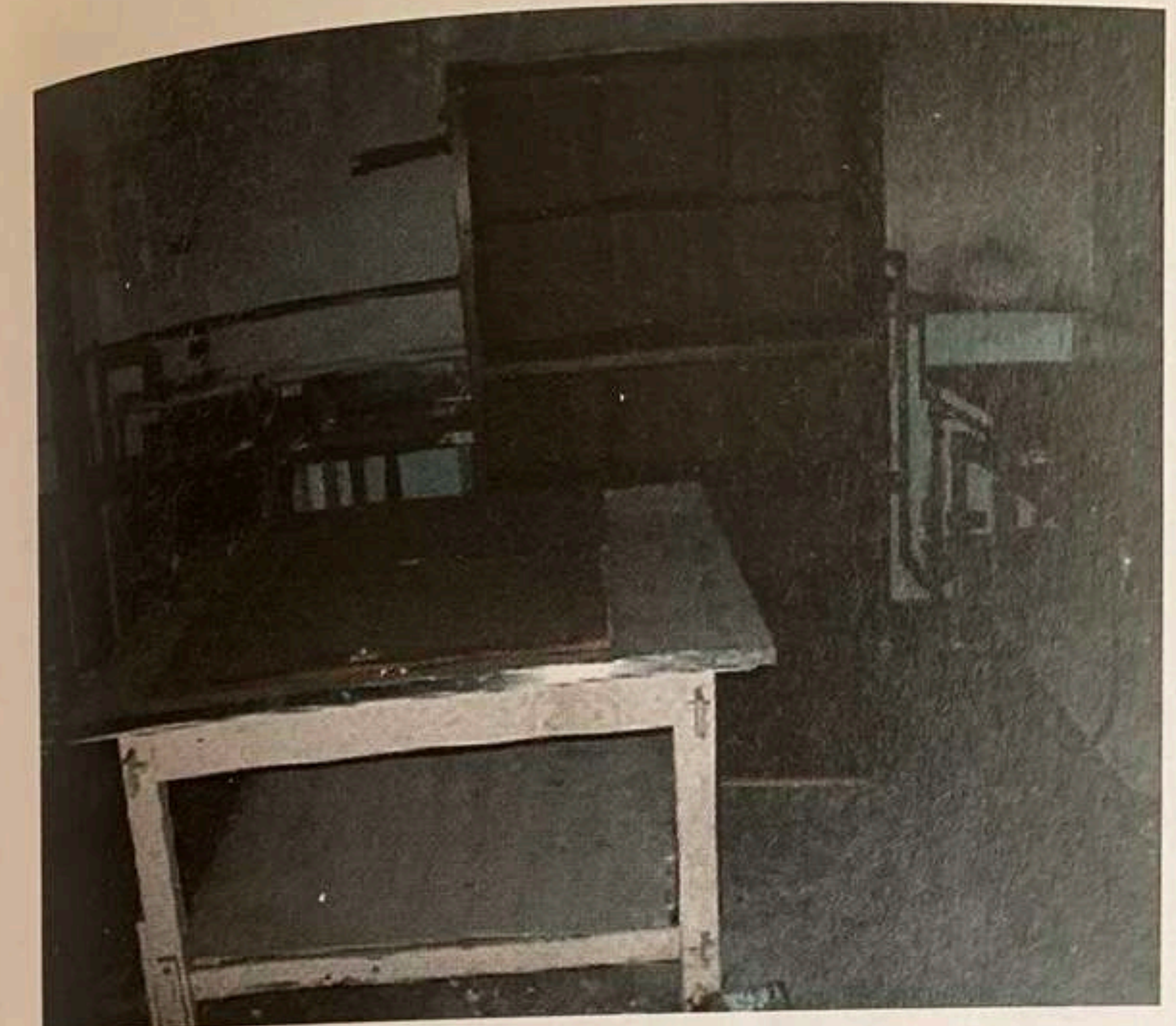


▲最後はアップで「次は殺す」と宣言



▲さらに踊る

# 地下病院の跡地







「地下病院」は、都内某所に実在した違法の病院のこと。医師免許を持たない闇医者が、繁華街などに開設したもので、パスポートを持たない不法入国者や、正規の治療を受けられない裏社会の人間などを対象に施術を行う。この写真は、2002年ごろ、都内某所に実在していた地下病院の跡地をとらえたものだ。

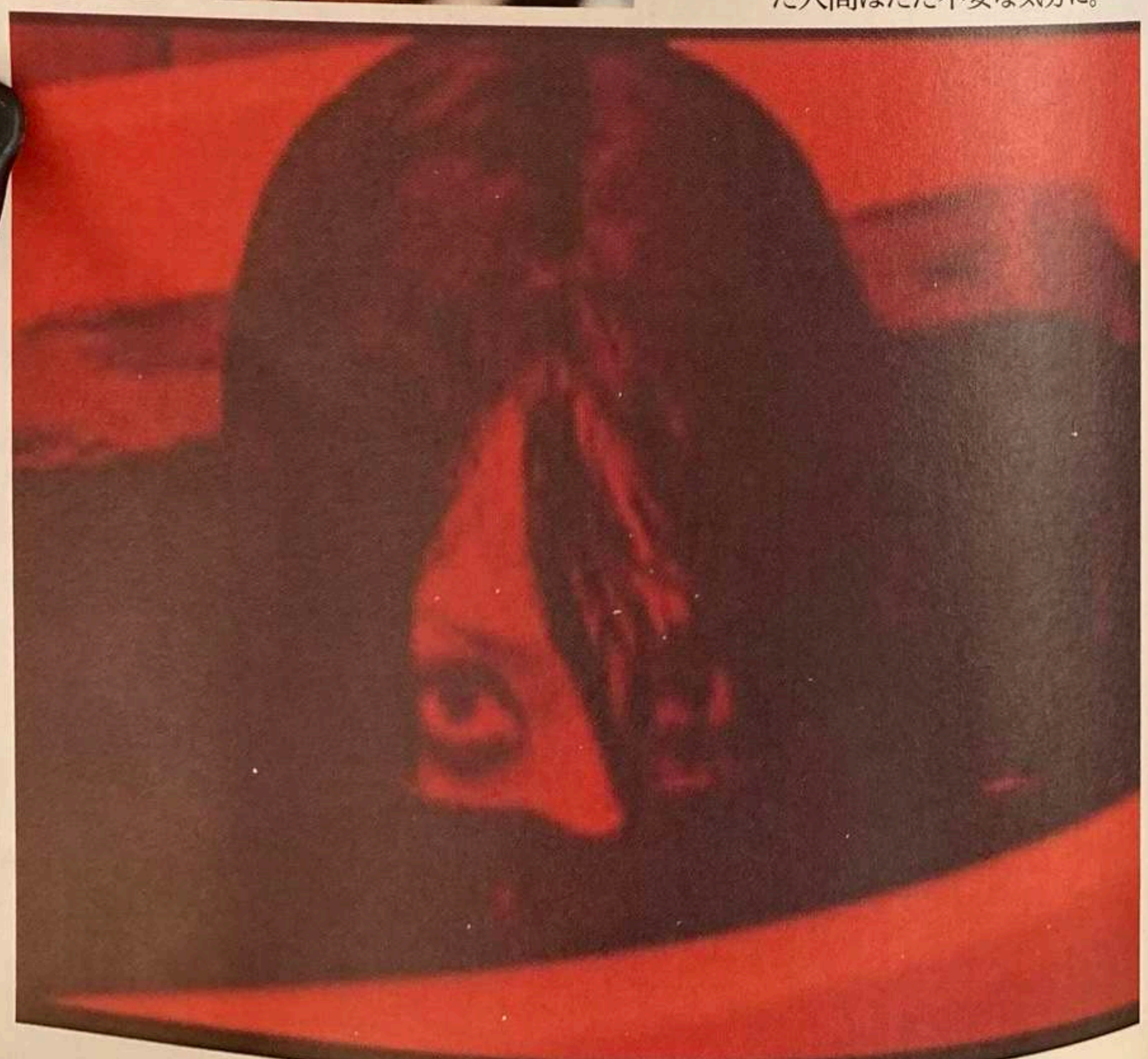


# 鬱なチェーンメール画像3

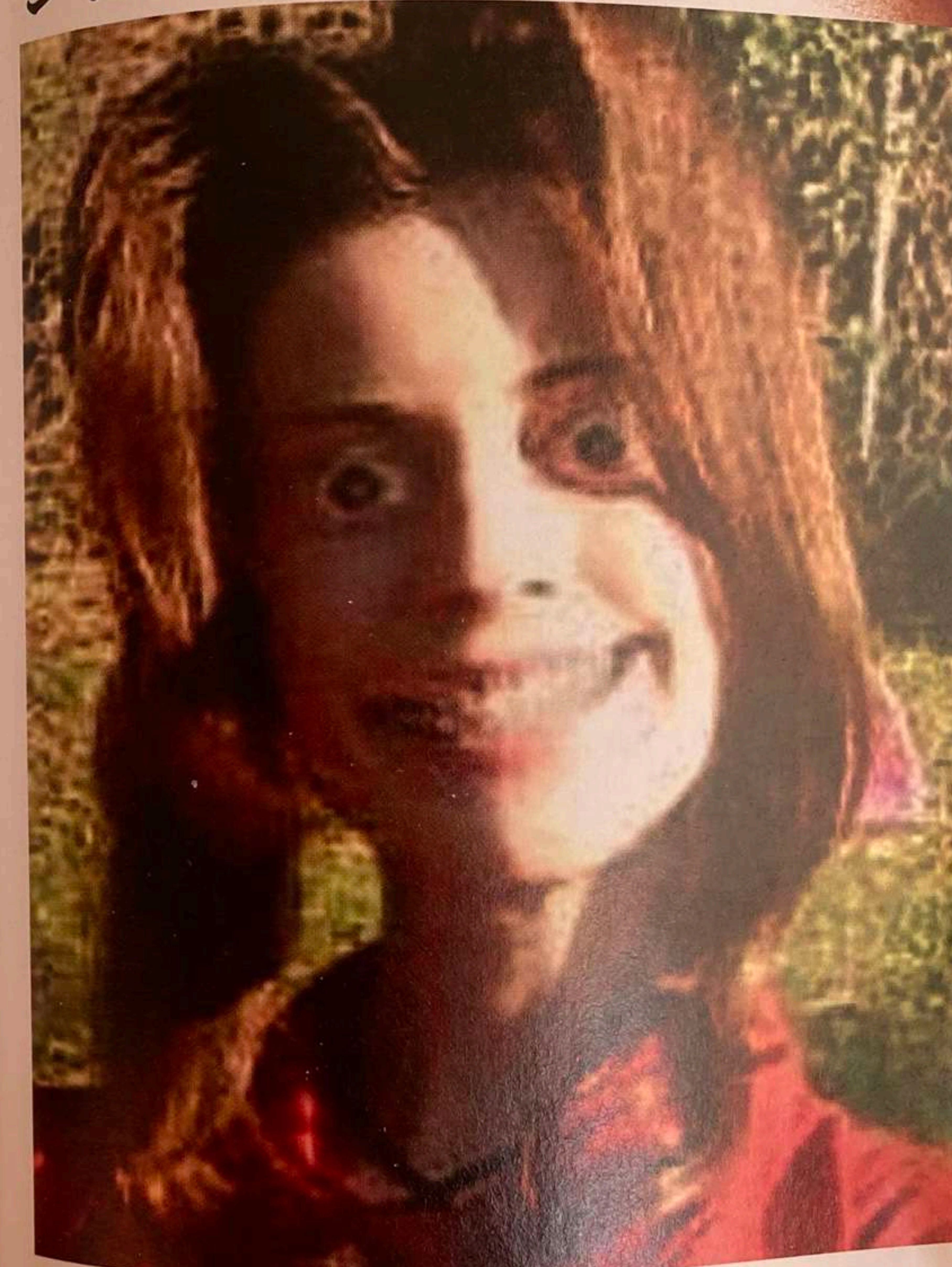


◀02年ごろに出回ったチェーンメールに添付された画像。特にメッセージはなく、単純に嫌な気分になるだけのものだった。

▼04年ごろに出回ったチェーンメールに添付された画像。こちらも特にメッセージはなく、もらった人間はただ不安な気分に。



## 笑う殺人鬼4
# ジュディス・メロース



1987年、カリフォルニア大学の法学生だった彼女は、同じクラスで知り合った男性と結婚。しかし、男が浮気を始めたため嫉妬に狂い、多額の保険金をかけたうえで青酸カリで殺害してしまう。

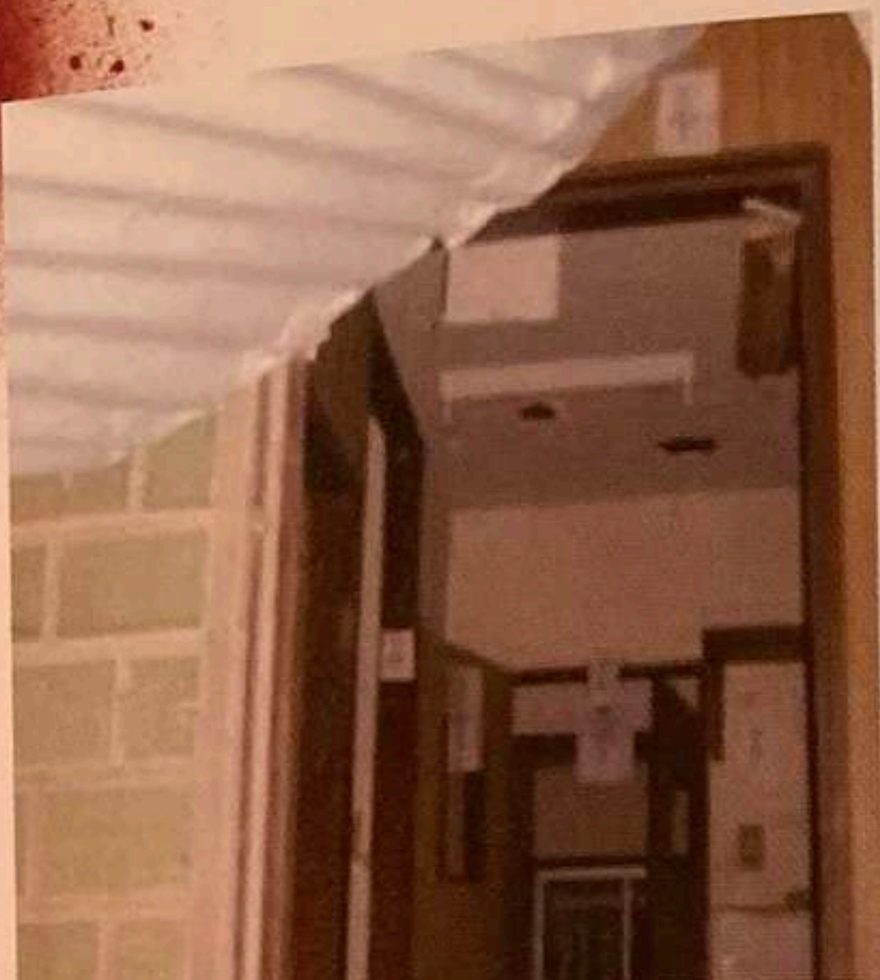
これに味を占めたジュディスは、数カ月後にやはり同じクラスの男と再婚。再び、同じ手口で保険金をせしめることに成功する。

その後も毒殺を繰り返し、実に5回の保険金殺人を決行。さすがに不審を抱いた警察に逮捕されたが、死刑宣告が下されるまで「何が悪いのかわからない」と主張し続けた。





# 留守中に、宗教団体から御札を貼られた家



▲居間への通路



▲部屋の入り口ごとに御札が

奈良県に住むYさんは、かねてより地元の新興宗教団体のしつこい勧誘に悩まされていた。そんなある日、仕事から帰ったYさんは、我が家の惨状を見て腰を抜かす、部屋のそこらじゅうに、御札らしき紙が貼り付けられていたからだ。ただし、これが宗教団体のしわざだとの証拠はないため、現在も捜査は続行中だそうだ。



▲なぜか遺影が一カ所に集められていた



▲キッチンにも

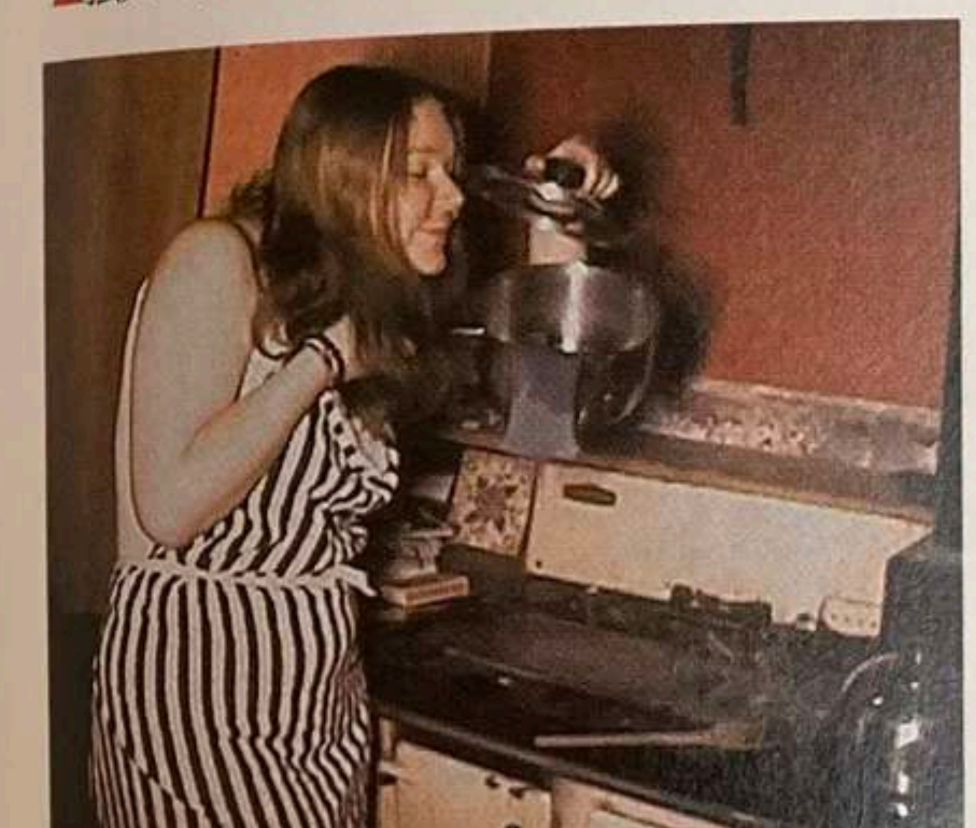
# 靴下を主食にする女



▲靴下を鍋の中へ



▲強火で煮込んで



▲うーん、いい香り



▲味見をしたら



▲いただきます

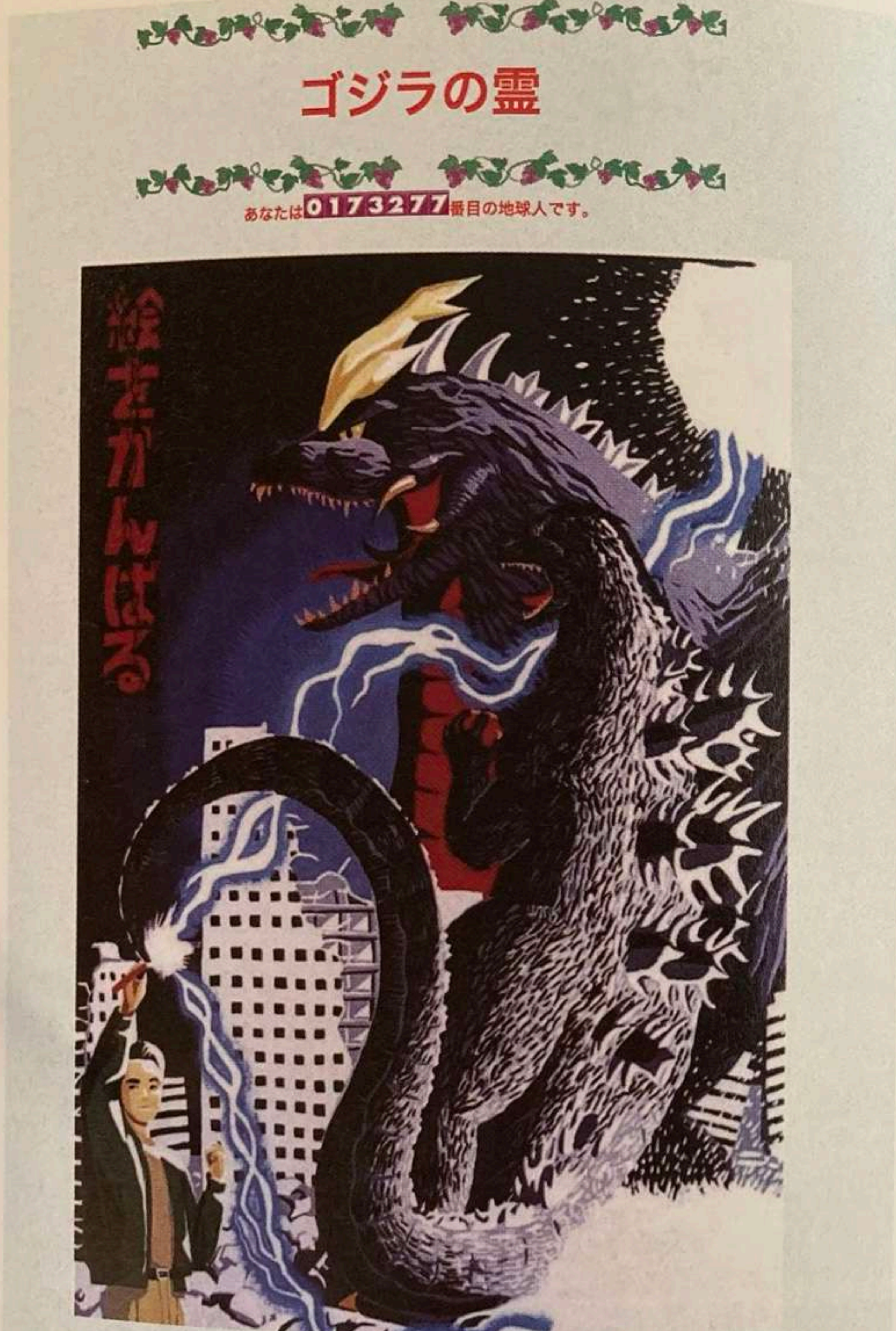
イギリスに住むリンダ・ディレイニーさんは、靴下を主食におかずを食べる、近所でも有名な趣味を持った女性だ。

理由は自分でもわかっていないが、とにかく男性が履き古した靴下を食べないと、食事をした気がしないのだという。味付けは塩とコショウのみ。いまのところ一日三食は絶対に靴下だそうだ。





# ゴジラの霊

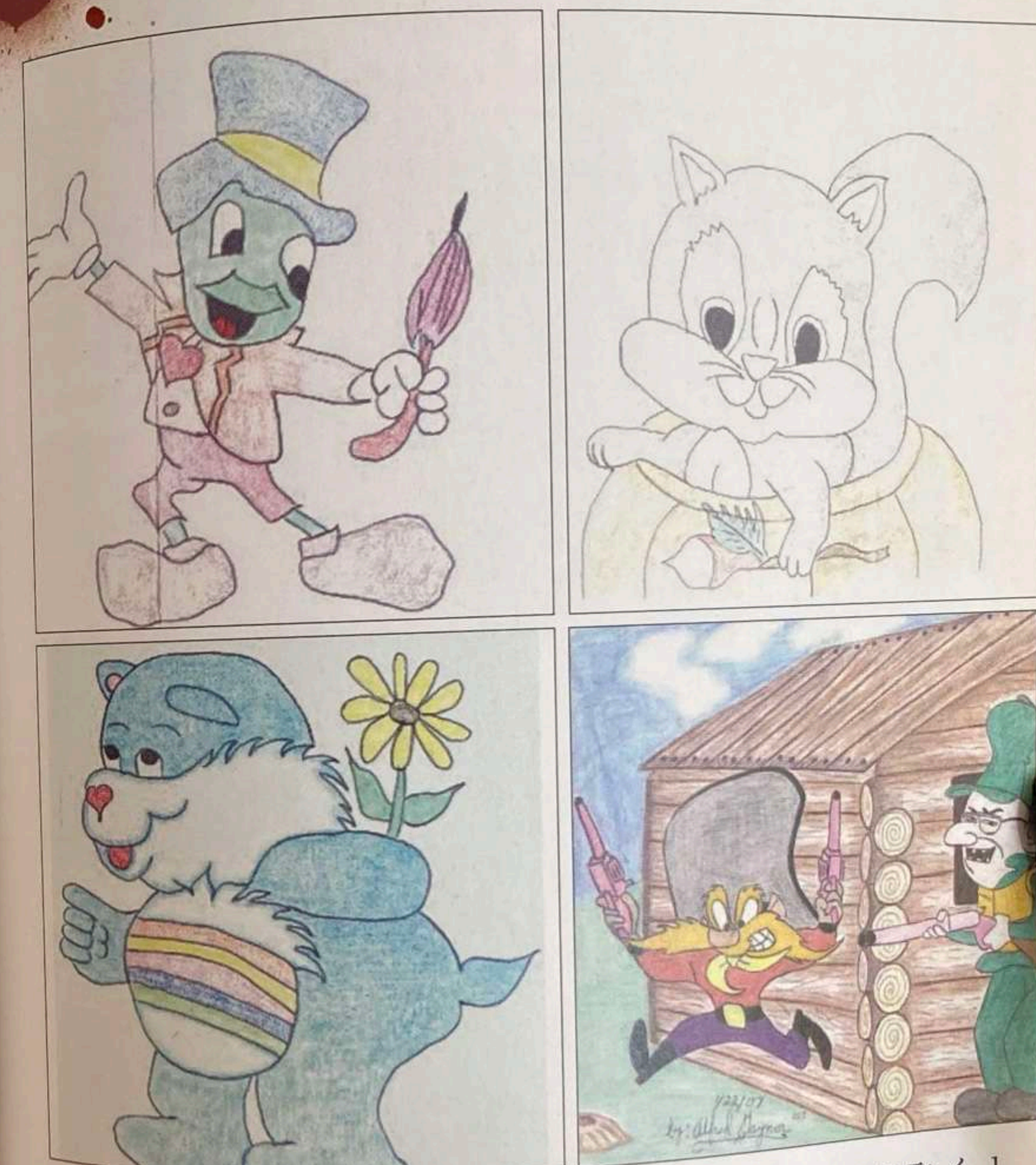


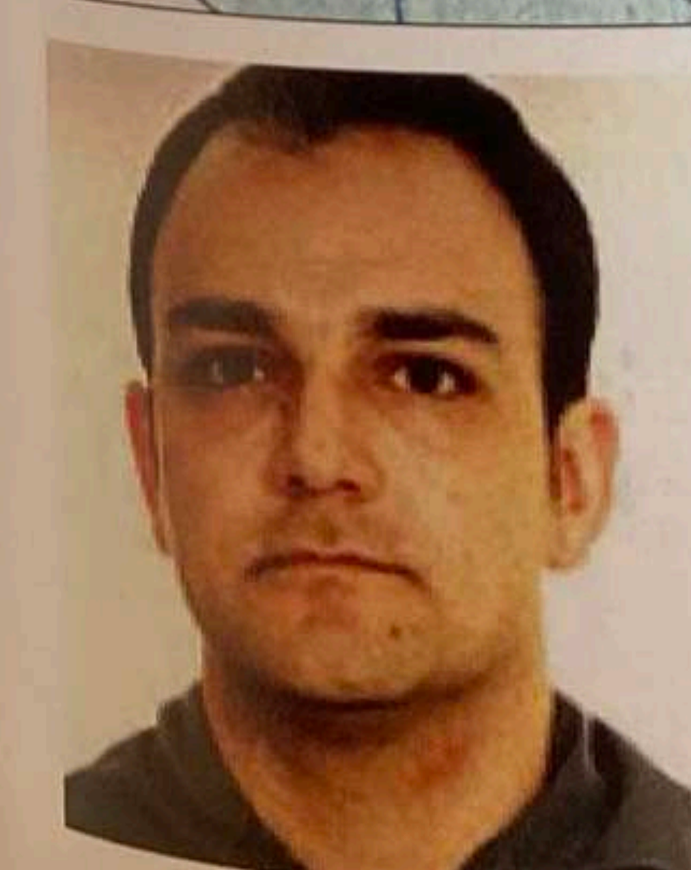

18才の息子の残したもの

愛する息子を18才で失った母親が、ある日、霊界から息子が送るメッセージを受信。その詳細をネットで公開しているのが、このサイトである。タイトルの「ゴジラの霊」は、その息子が熱狂的なゴジラファンだったことによる。

「1999年の7月の異常気象というのは地球規模で起こり異常気象とは通常の状態を度を越している」など、霊界からのメッセージは、地球の未来を憂えたものがほとんど。読んでいると、ちょっともの悲しい気分になってくるサイトだ。

# ジェラルド・スターノ





ジェラルド・スターノは、1980年に34人もの女性をレイプして殺した連続殺人犯だ。取り調べに対し、スターノは徹底的にウソをついたが、すぐにバレてしまう。この男、ウソをつくときは必ず身を引いて足を組み、本当のことを言うときは身を乗り出すクセがあったのだ。

担当した刑事は、スターノに対して「ヤツは単純なアホだ」と言い切り、「オーディオと車と女を殺すことしか考えていなかった」と説明した。





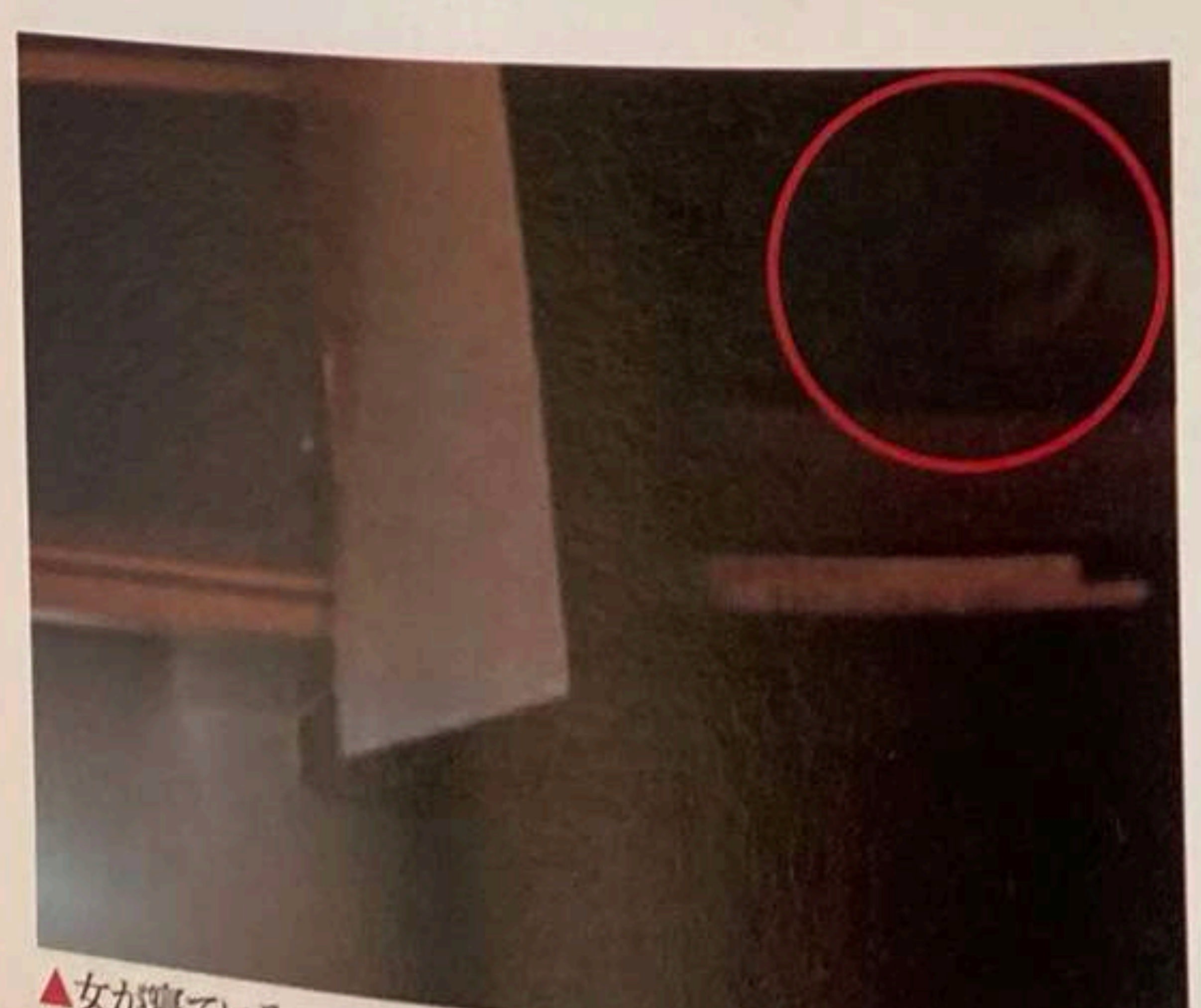
# モデルルームの女



▲通路を進んで



▲リビングへ入って押し入れをチェックすると

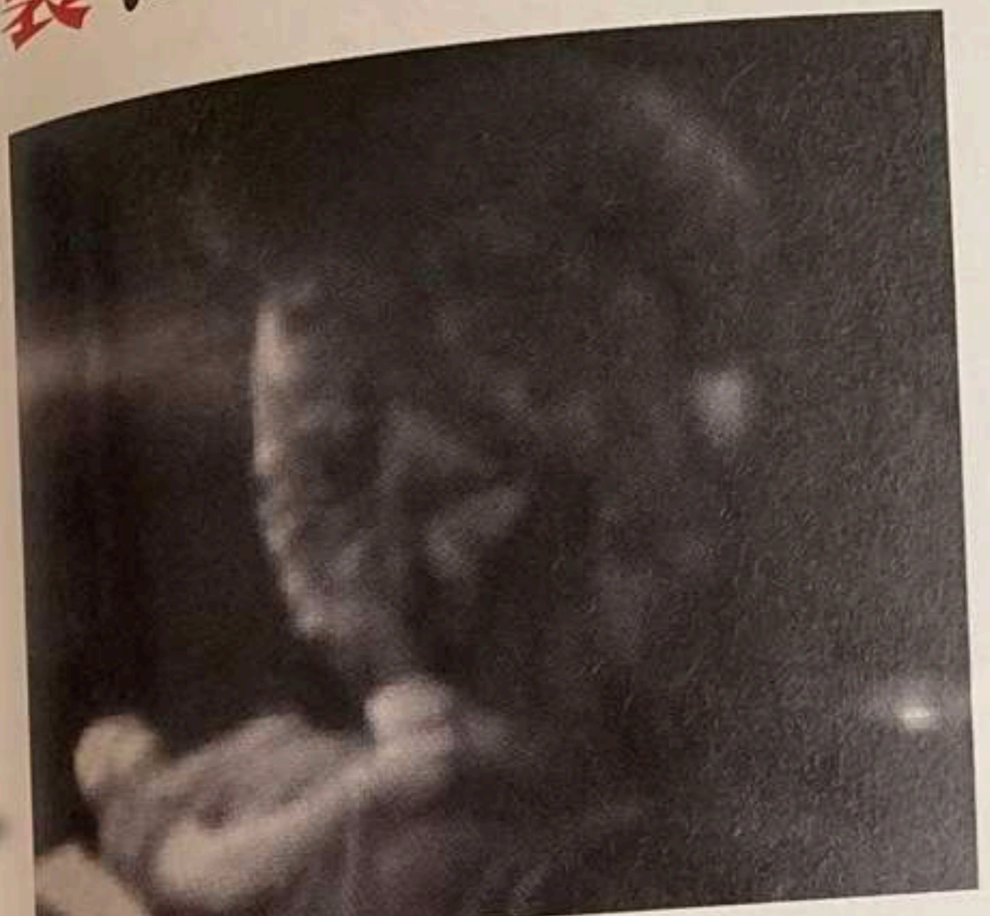


▲女が寝ている

とあるモデルルームへ出かけた男性が撮影した、ホームビデオの1シーンである。

室内の様子をビデオで撮影中、押し入れをチェックすると奥の方で女性が寝ていた。むろん、モデルルームはつねに施錠されており、女がいつから中へ入り込んだかは不明だ。

# 人体パッキング魔に襲われた男



▲被害者を長いすに固定し



▲サランラップを取り出して



▲なぜか上から水をかける



▲呼吸用のチューブを挿入。このまま放置する



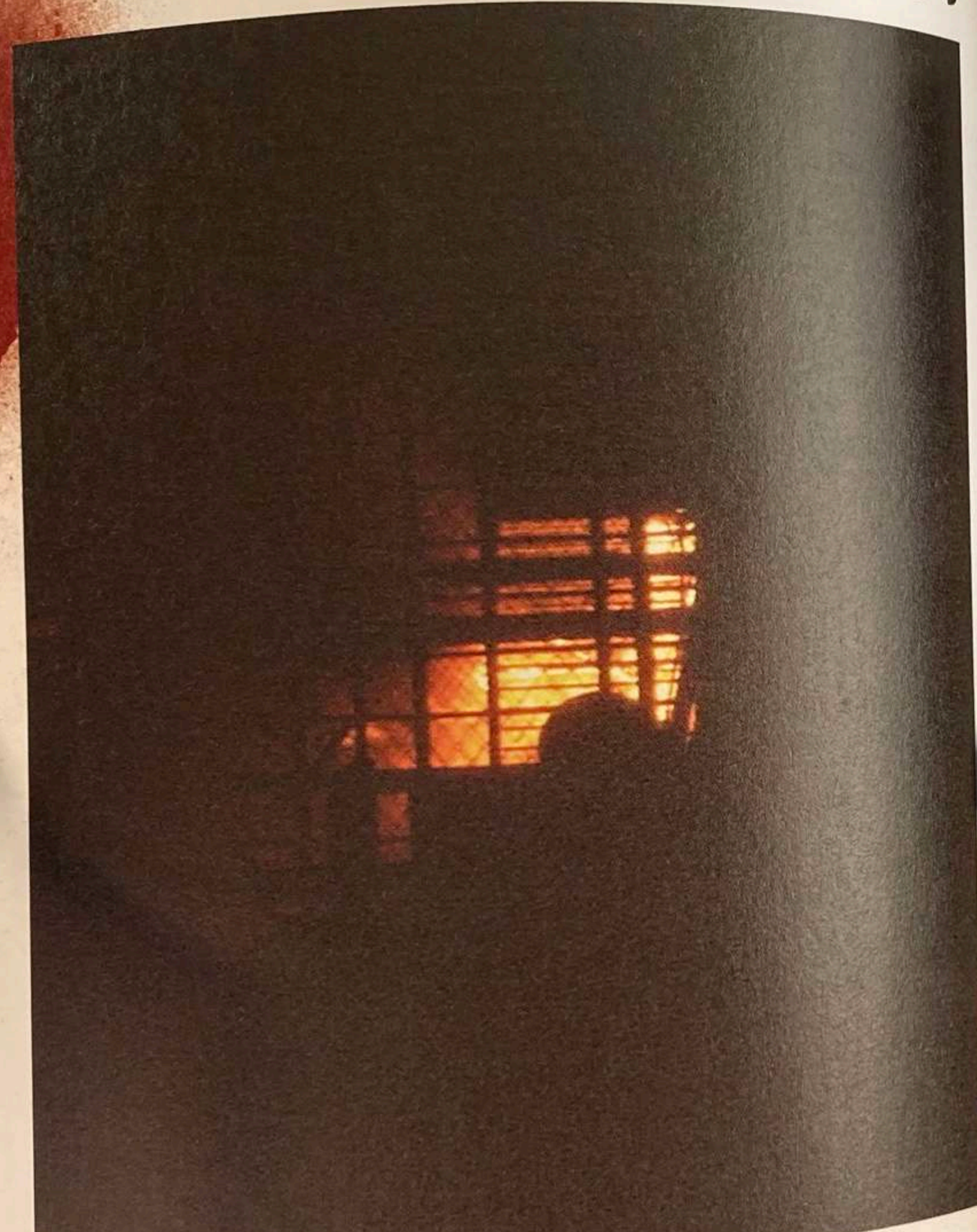
▲グルグル巻きに

２００４年の夏、アメリカに奇妙な犯罪者が現れた。路上で通行人を拉致し、自宅地下のカウチに被害者を拘束。全身をサランラップでグルグル巻きにし、しばらく放置した後で、無傷で解放するのだという。ご覧の映像は、この人体パッキング魔が逮捕された後、自宅から押収されたビデオに記録されていた犯行の一部始終である。





# 自宅に火を着けて笑う男



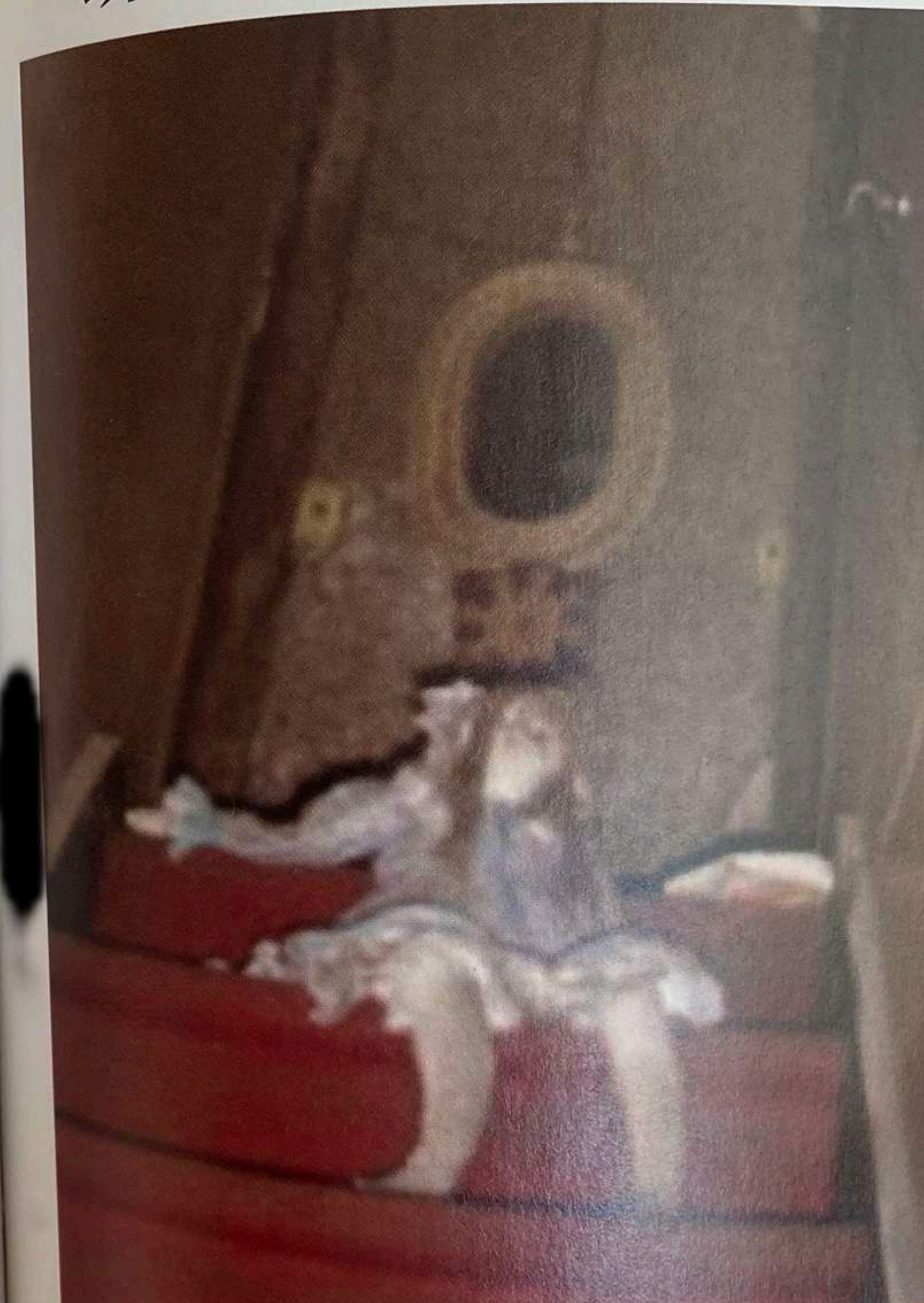
２００2年、熊本県に住むTさんは、偶然に火事現場に通りかかった。その際、家の前に立っていた1人の中年男へ「もう消防車は呼んだんですか?」と話しかけてみたところ、Tさんは思いもかけぬ返答を聞く。

「いいんだよ。俺が火を着けたんだから。よく燃えてら」

男の顔はいたって穏やかで、微笑みさえ浮かべていた。

結局、Tさんが消防車を呼び、男は逮捕された。男が自宅に火を放った理由は聞かされていない。

# 幼くして死んだ最愛の娘の魂を呼び戻すために作られた人形



この人形は、フィンランドのヘルシンキに住む、ある平凡な男性が作ったものだ。

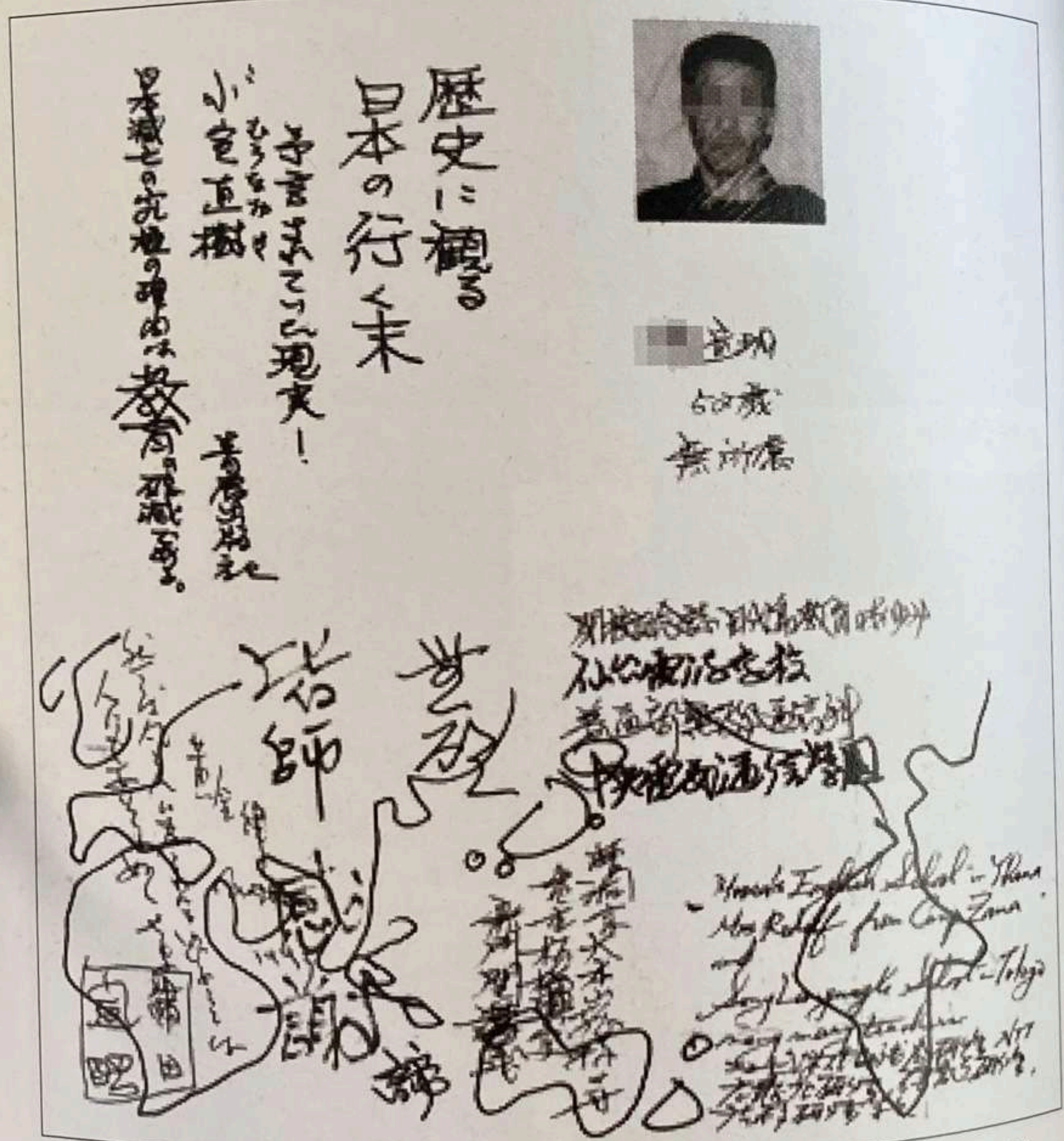
この男性、38才の夏に、まだ3才だった最愛の娘を、交通事故で失ってしまう。悲嘆に暮れた彼は、死者を呼び戻すことができると言われる「ブードゥー教」の儀式を行うことに決め、娘に似た人形を制作。娘の部屋の前に置いた。

が、いくら待っても娘は生き返らず、男は悲しみのあまり死亡。その後、男の家は廃墟と化したが、人形は今でも娘の魂を待ち続けている。





# 歴史に観る日本の行く末




1999年の都知事選より。候補者の1人が配布していた選挙ビラである。

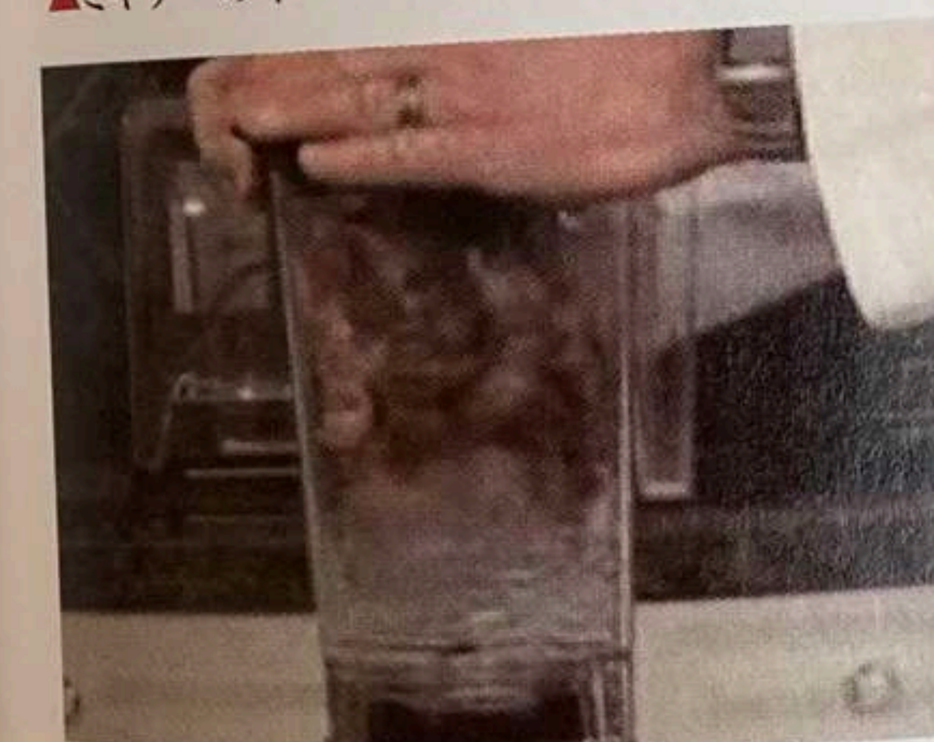
「予言されていた現実！
小室直樹　青春出版社
日本滅亡の究極の理由は教育の破滅である」

とのことで、彼の目的が教育改革にあるところまではなんとなくわかるが、それ以外の主張を判別するのは難しい。下にある地図らしき図形に至っては、どう判断すべきなのか、サッパリわからない。

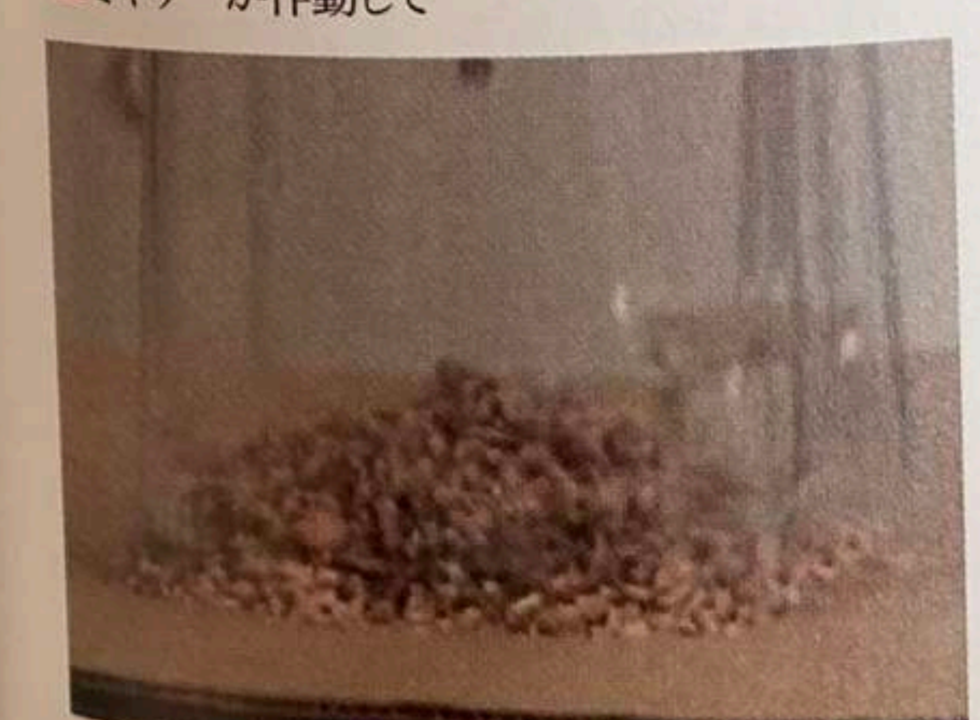
# 元彼が送ってきた人形ミキサービデオ


▲ミキサーの中へ


▲人形を


▲ミキサーが作動して


▲スイッチオン


▲残骸をテーブルに並べる


▲こなごなに

ご覧の映像は、アメリカ・バークレイに住むある女性の元へ、かつて手ひどく振った男が送りつけてきたビデオである。
中身は、ただ人形がミキサーにかけられるシーンが続くもので、これといったメッセージはなし。しかし、その後、女性が住むアパートの周りにはビデオの物と同じ人形を持った男の姿が、ひんぱんに見られるようになったそうだ。

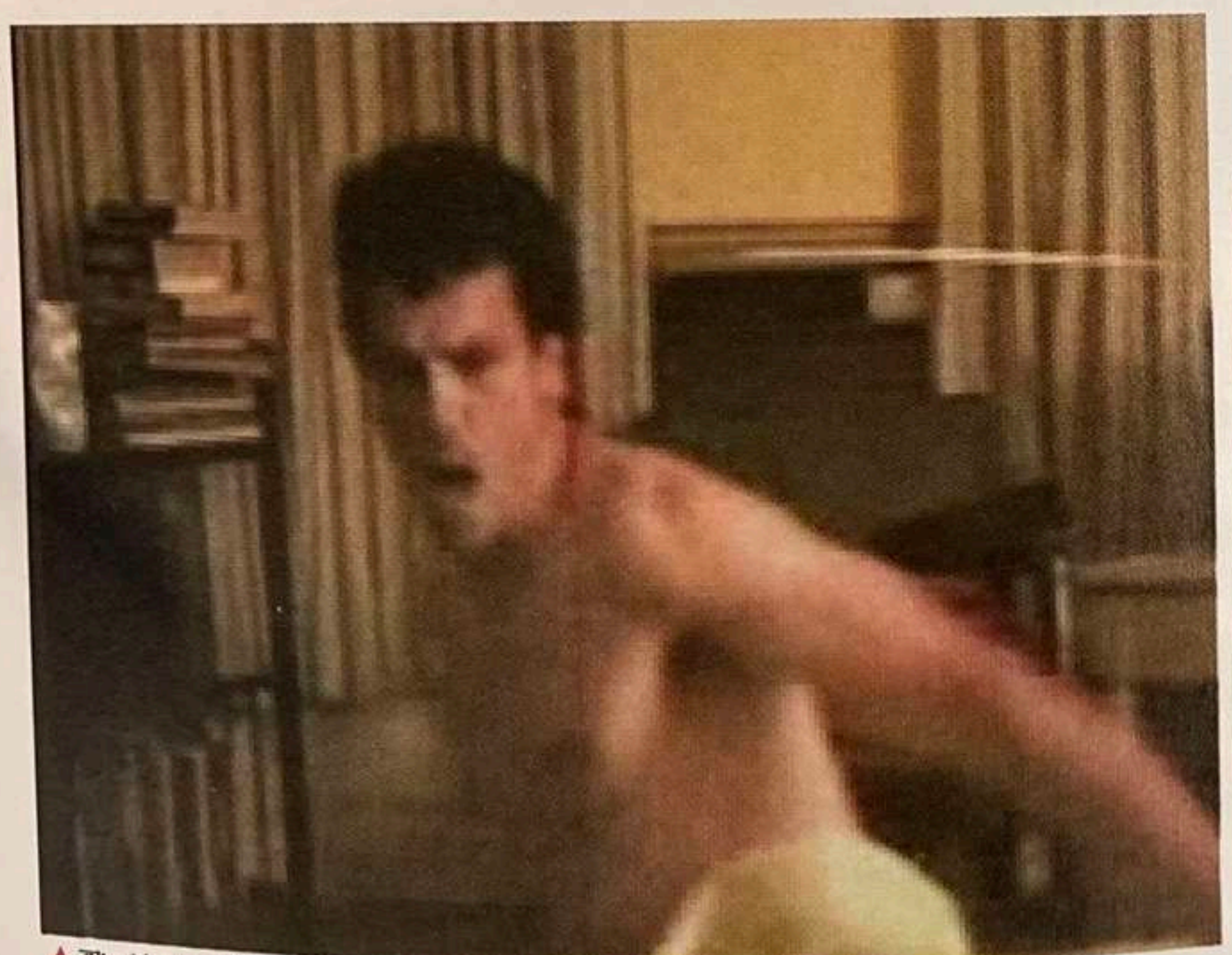




# 夢遊暴力病の男



▲普段はロープでベッドにくくりつけられている


▲飛び起きる男。これでも本人は眠っているつもり


▲被害を受けた奥さん

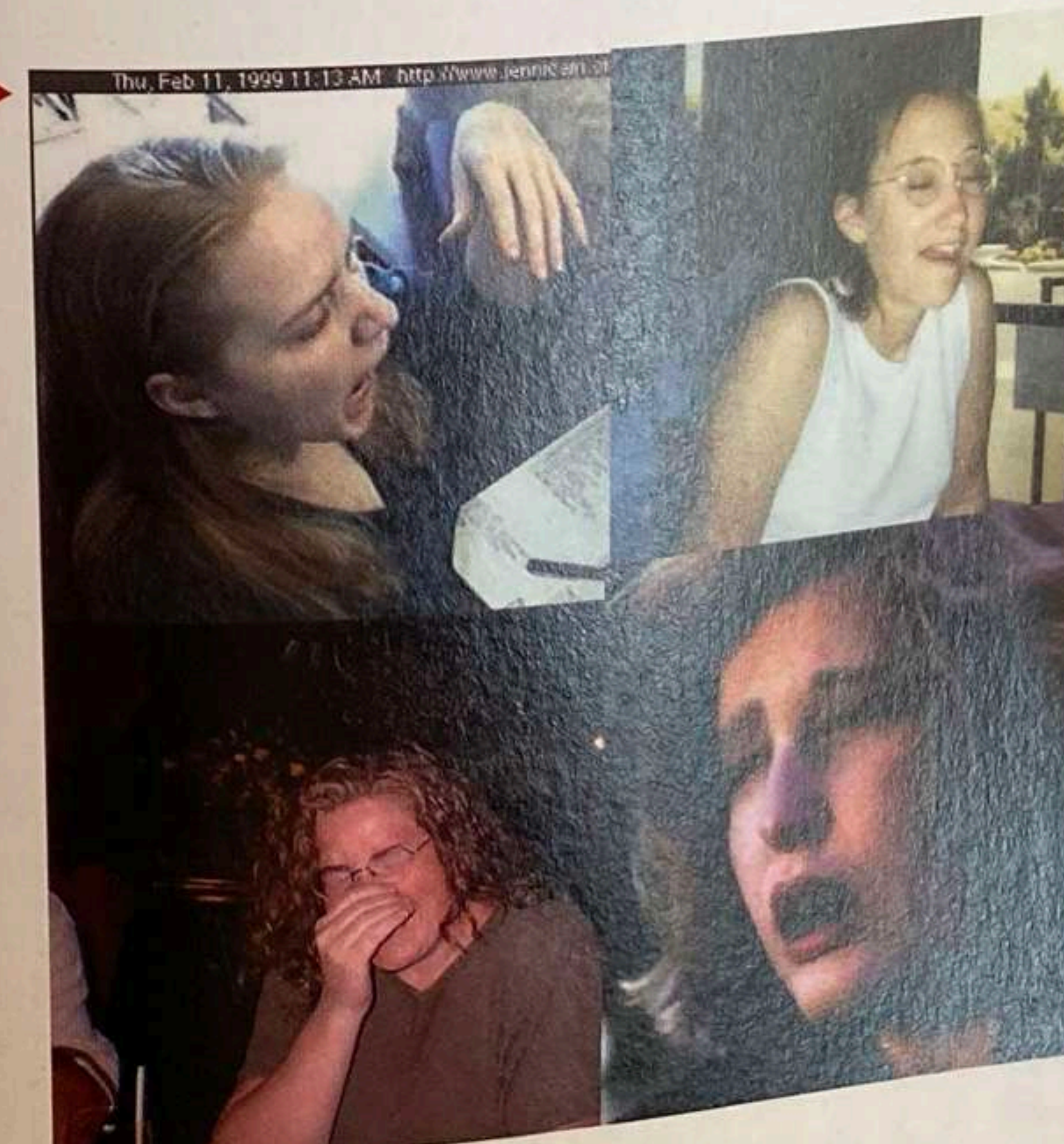
「夢遊暴力病」とは、その名の通り、眠っている最中に暴力を振るう病気のこと。もちろん、当の本人には、自分が起きているという自覚はない。
　写真の男性も、ある日、妻から身に覚えのない家庭内暴力で批難されるまで、自分が夢遊暴力病であることに気づいていなかった。なんでも、男が深夜にいきなり飛び起き、隣で寝ていた妻の頭をつかんで、キッチンの角へ思い切り打ち付けたという。
　以後、男が寝る際はロープで手足を縛り付けられ、室内には治療記録をつけるための監視カメラが備え付けられた。
　ちなみに、夫婦はいま離婚協議中だそうだ。

# 着ぐるみ殺人鬼



◀パッと見は微笑ましさすら感じる1枚だが、このブタの着ぐるみを身につけた男、実は背景に映っているトラックで暴走し、8人の男女をはね飛ばしたブラジルの殺人犯だ。着ぐるみについては「この格好なら、人が警戒しない」と証言。しかし、車での暴走に、なぜ扮装する必要があったのかはわからない。

# くしゃみさせ魔

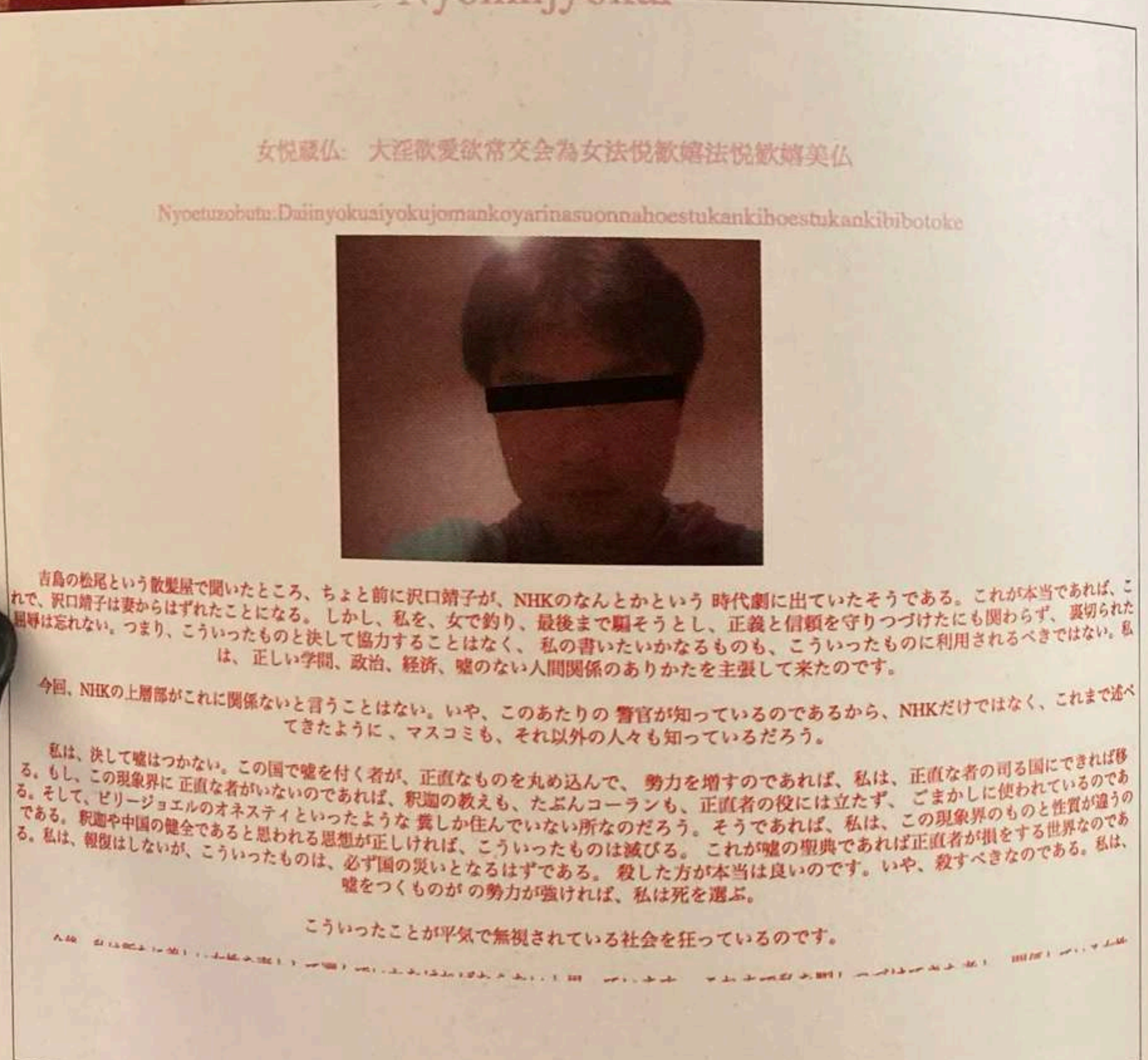



写真は、アメリカで逮捕されたある男が収集していたものだ。この男、女性がくしゃみをする姿にしか興奮できない性癖の持ち主で、毎日カメラとコショウを持って町へ繰り出しては、好みの女性にコショウを振りかけ、くしゃみの瞬間を押さえていた。ちなみに、男の容疑は傷害罪とのこと。▶





# 監禁された沢口靖子を早く解放しなさい



女悦蔵仏: 大淫歓愛欲常交会為女法悦歓嬉法悦歓嬉美仏

Nyoetuzobutu:Daiinyokuaiyokujomankoyarinasuonnahoestukankihoestukankibibotoke

吉島の松尾という散髪屋で聞いたところ、ちょと前に沢口靖子が、NHKのなんとかという 時代劇に出ていたそうである。これが本当であれば、これで、沢口靖子は妻からはずれたことになる。しかし、私を、女で釣り、最後まで騙そうとし、正義と信頼を守りつづけたにも関わらず、裏切られた屈辱は忘れない。つまり、こういったものと決して協力することはなく、私の書いたいかなるものも、こういったものに利用されるべきではない。私は、正しい学問、政治、経済、嘘のない人間関係のありかたを主張して来たのです。

今回、NHKの上層部がこれに関係ないと言うことはない。いや、このあたりの 警官が知っているのであるから、NHKだけではなく、これまで述べてきたように 、マスコミも、それ以外の人々も知っているだろう。

私は、決して嘘はつかない。この国で嘘を付く者が、正直なものを丸め込んで、 勢力を増すのであれば、私は、正直な者の司る国にできれば移る。もし、この現象界に 正直な者がいないのであれば、釈迦の教えも、たぶんコーランも、正直者の役には立たず、 ごまかしに使われているのである。そして、ビリージョエルのオネスティといったような 糞しか住んでいない所なのだろう。そうであれば、私は、この現象界のものと性質が違うのである。釈迦や中国の健全であると思われる思想が正しければ、こういったものは滅びる。 これが嘘の聖典であれば正直者が損をする世界なのである。私は、報復はしないが、こういったものは、必ず国の災いとなるはずである。 殺した方が本当は良いのです。いや、殺すべきなのである。私は、嘘をつくものが の勢力が強ければ、私は死を選ぶ。

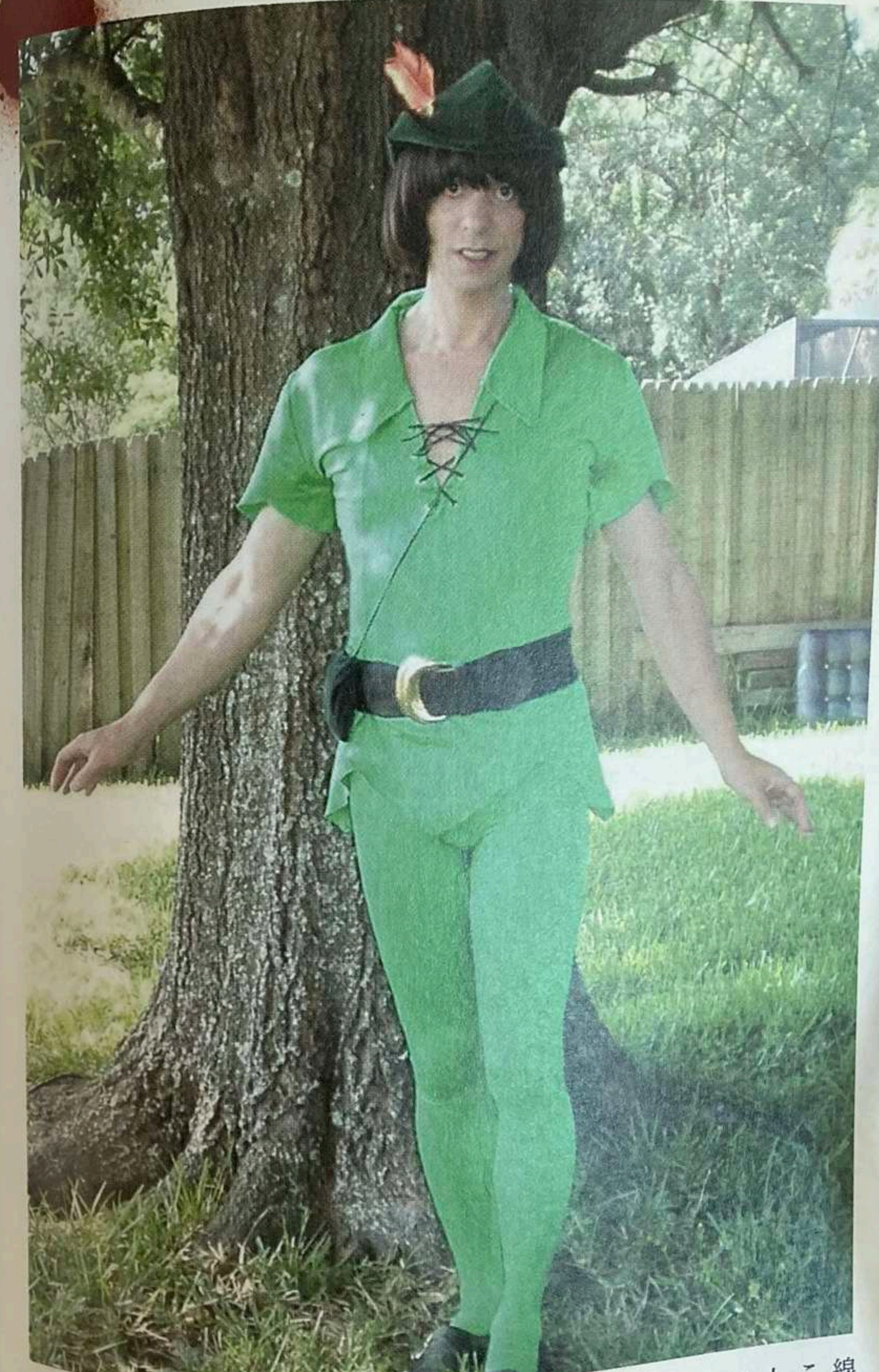
こういったことが平気で無視されている社会を狂っているのです。

2003年ごろ、ネット上で「すごいヤツがいる」と話題を呼んだ伝説のサイトである。最初は沢口靖子を勝手に「自分の妻として選んだ」と称していたが、やがて「NHKが沢口靖子を監禁している」と主張。解放を訴えるようになった。

しかし、そのうち沢口靖子がNHKの大河ドラマに出演すると「裏切られた」と言い始め、「この現象界に 正直な者がいないのであれば、釈迦の教えも、たぶんコーランも、 正直者の役には立たず、ごまかしに使われているのである。 そして、ビリージョエルのオネスティといったような 糞しか住んでいない所なのだろう」などと、よくわからない怒り方をしていた。

サイトはその後自然消滅。ちなみに、トップに掲載されていた本人の顔写真は、石黒賢に似た男前だった。

# 自分をピーターパンだと信じ込んでいる男

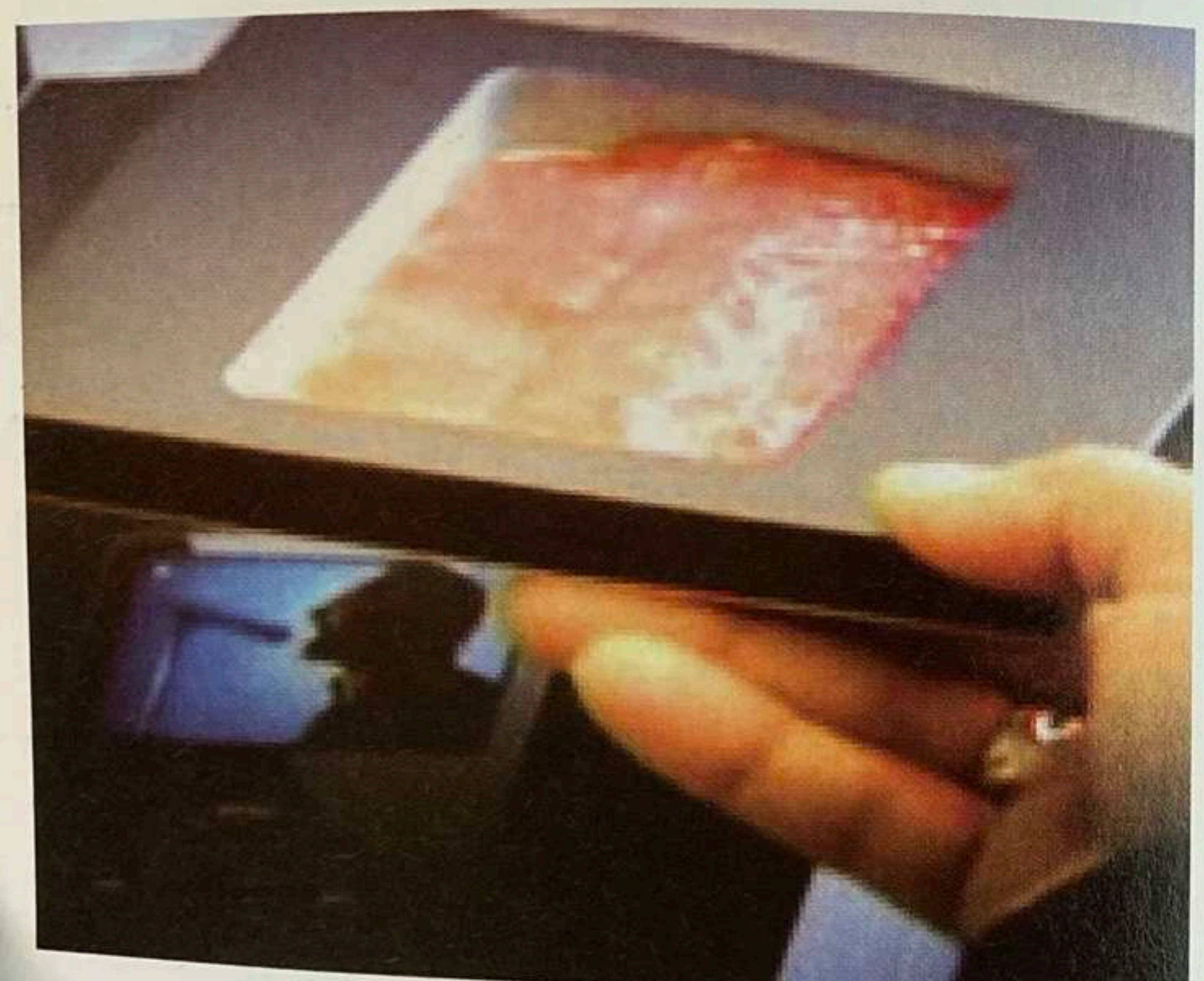


微妙に目線がおかしいこのアメリカ人男性は、心の底から自分をピーターパンだと信じ込み、ネバーランドを探すためのサイトを開いている。トップページには、「ボクはウェンディを探しているんだ。誰か知らない?」との呼びかけも。まさに、文字通りのピーターパンシンドロームである。





# iPod を購入。入っていたのは生肉



◀2007年。アメリカの主婦が、普通に家電屋でiPodを買ったところ、中から生肉が出てくるという事件が起きた。包装が破られた形跡はなく、誰が、いかなる目的で行ったことなのかはわかっていない。

## チョコ風呂女



イギリスに住む▶21才のこの女性は、日々の入浴をつねにチョコで済ましている。入浴後、決してチョコは洗い流さないのが彼女の流儀で、固まったチョコが自然とはがれ落ちるのを待つ間が、最高に幸せなのだそうだ。

# 四十八人殺されている。防空壕跡に入れてある。




96年ごろ、都内の壁などに貼られていたもの。「四十八人殺されている。町田市高ガ坂団地恩田川の渡る防空壕跡に入れてある。ここで恐ろしい幻を出している人達がいる。学校も行けない。口もろくに利けない。閉じこめた人達を餓病気、不具にして、ひどい幻を出し、尻が全っく駄目になる」とのことで、何やら死者の幻のせいでダメージを受けながらも、日本を良くするためのアイデアを教えてくれている内容らしい。「全くダメになった尻」とは、いったいどのような尻を意味しているのか。





## 笑う殺人鬼5
# テッド・バンディ



IQ180を誇る、犯罪史上でも屈指の天才殺人鬼。容姿も端麗な上に弁舌も巧みで、ユタ大学では最優等生の1人だった。が、バンディは、その才能を殺人に活かした。74年に立て続けに18人の若い女性を殺して捕まると、国が選んだ弁護士を解雇し、自分で自分の弁護を始めたのだ。

その法廷戦術は実に巧みで、死刑判決をくだした裁判官すら「君がこの法廷に弁護士として立っているんだったら、どんなによかったかと思う」と述べたほどだった。

# ロシアの殺人鬼が使った人間解体器具

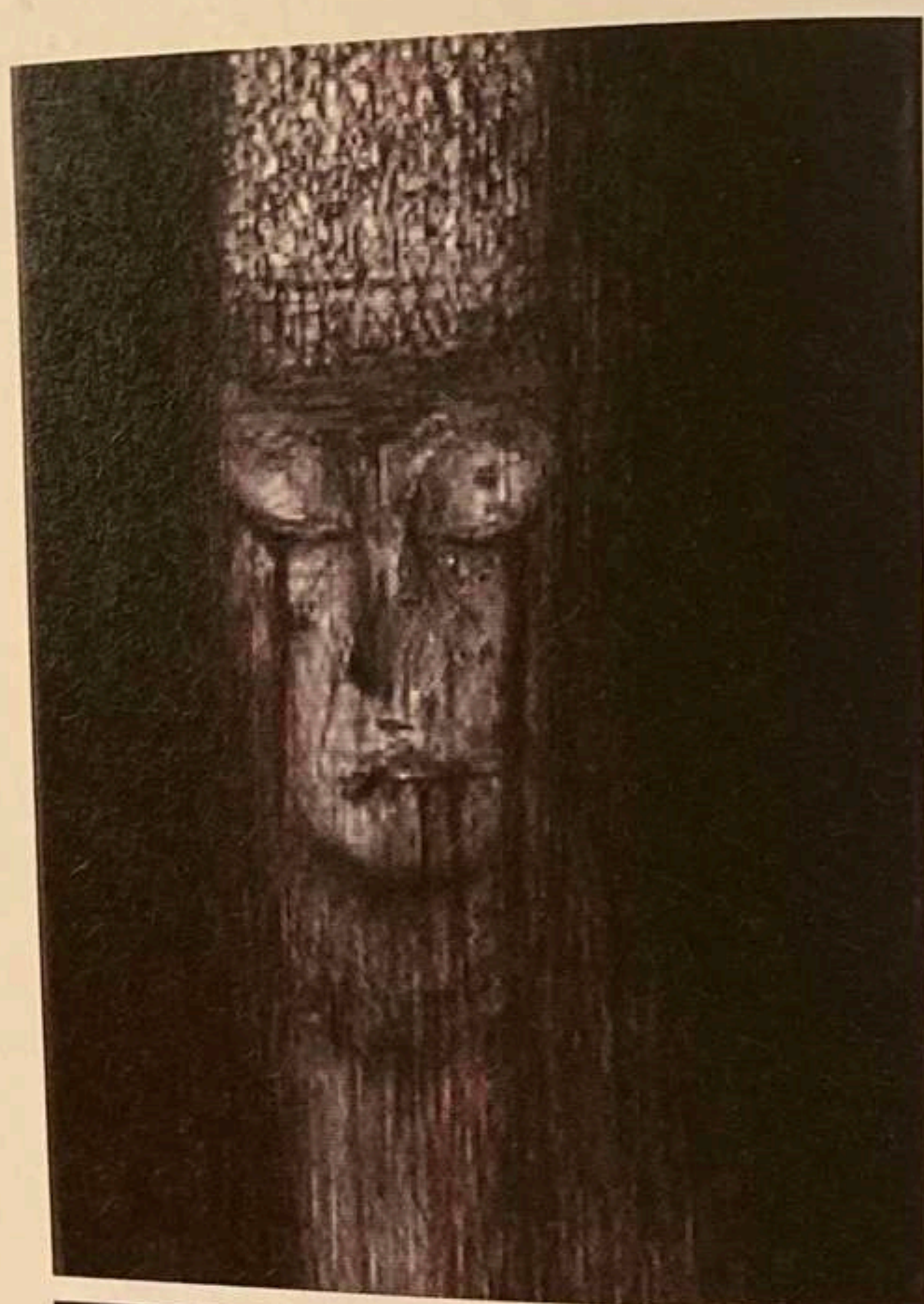


1980年代に、ロシア全土を震撼させた連続殺人鬼ミハイル・Gが、自分で作り上げたオリジナルのマシンだ。生粋のサディストだったミハイルは、通行人を無差別にさらっては自宅に監禁。写真の器具で、獲物が死ぬまで拷問をし続けた。被害者の数は20人を超えるという。

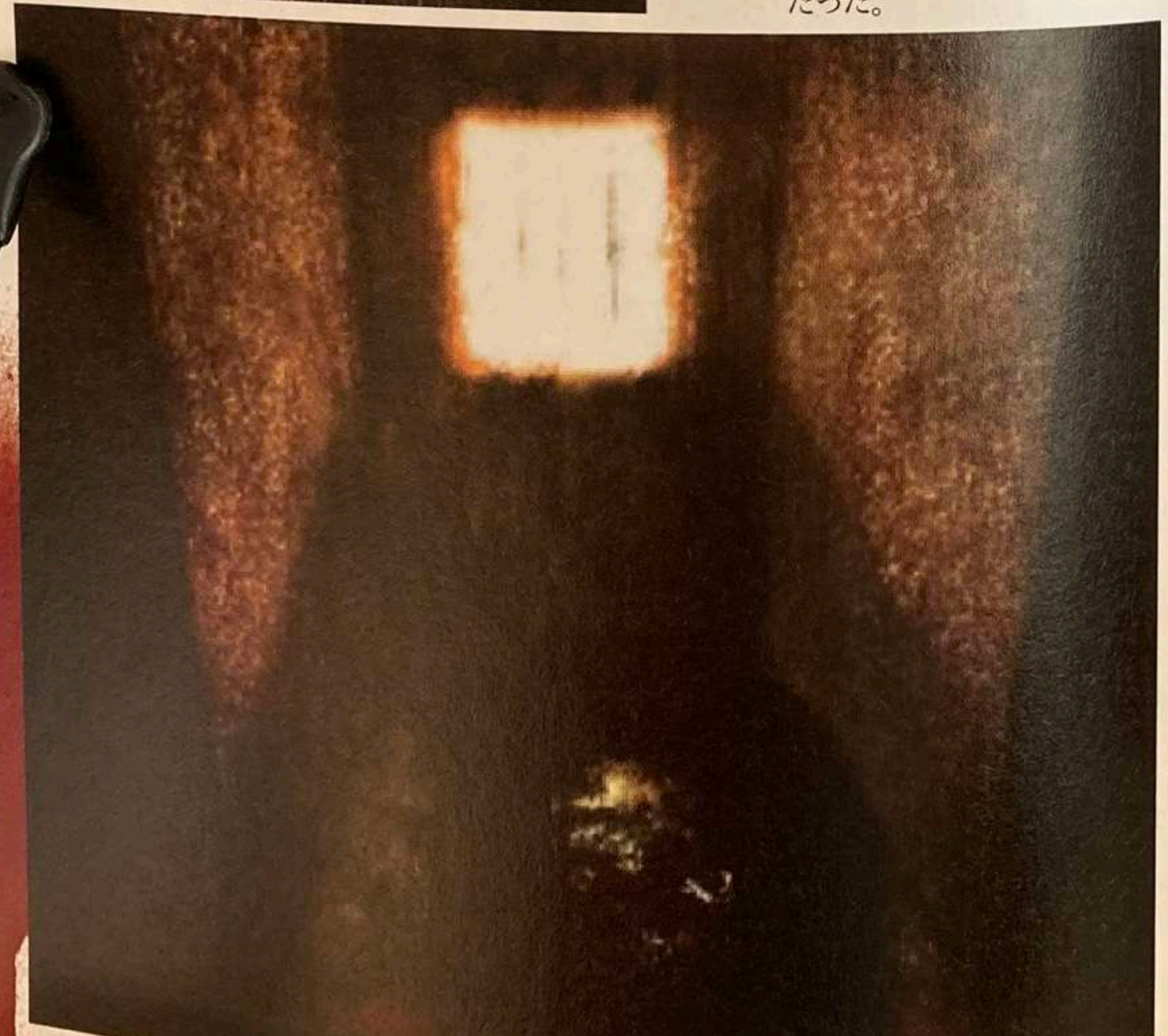




# 鬱なチェーンメール画像4



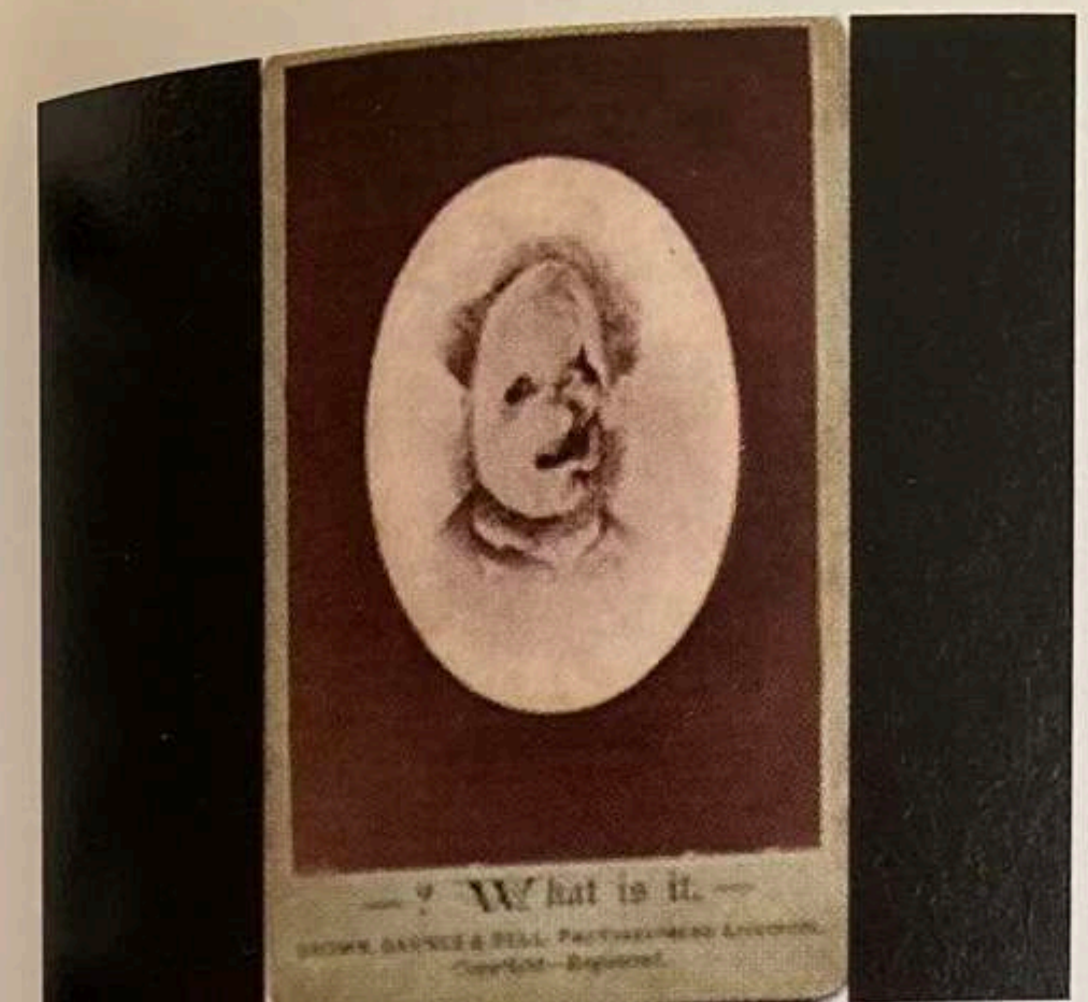
◀06年ごろに出回ったチェーンメールに添付された画像。「コノメールハマサニ地上最悪ノ不幸メールデス」とのメッセージと一緒に送られてきた。



▼こちらも、不幸のチェーンメールに添付された画像。1週間以内に数人に転送を要求するものだった。

# 有名画像に仕込まれたサブリミナル

「サブリミナル」とは、パッと見では何を表現しているのかわからないが、無意識のうちに人間を操るテクニックのこと。サブリミナル先進国のアメリカでは、これまで様々なメディアで、人の心を自由に操るための実験が行われてきた。ここでは、その例をいくつか取り上げてみよう。




▲有名な酒の宣伝広告だが



▲横にすると犬の顔が



▲カナダドルの……



▲一部を拡大すると悪魔の顔が



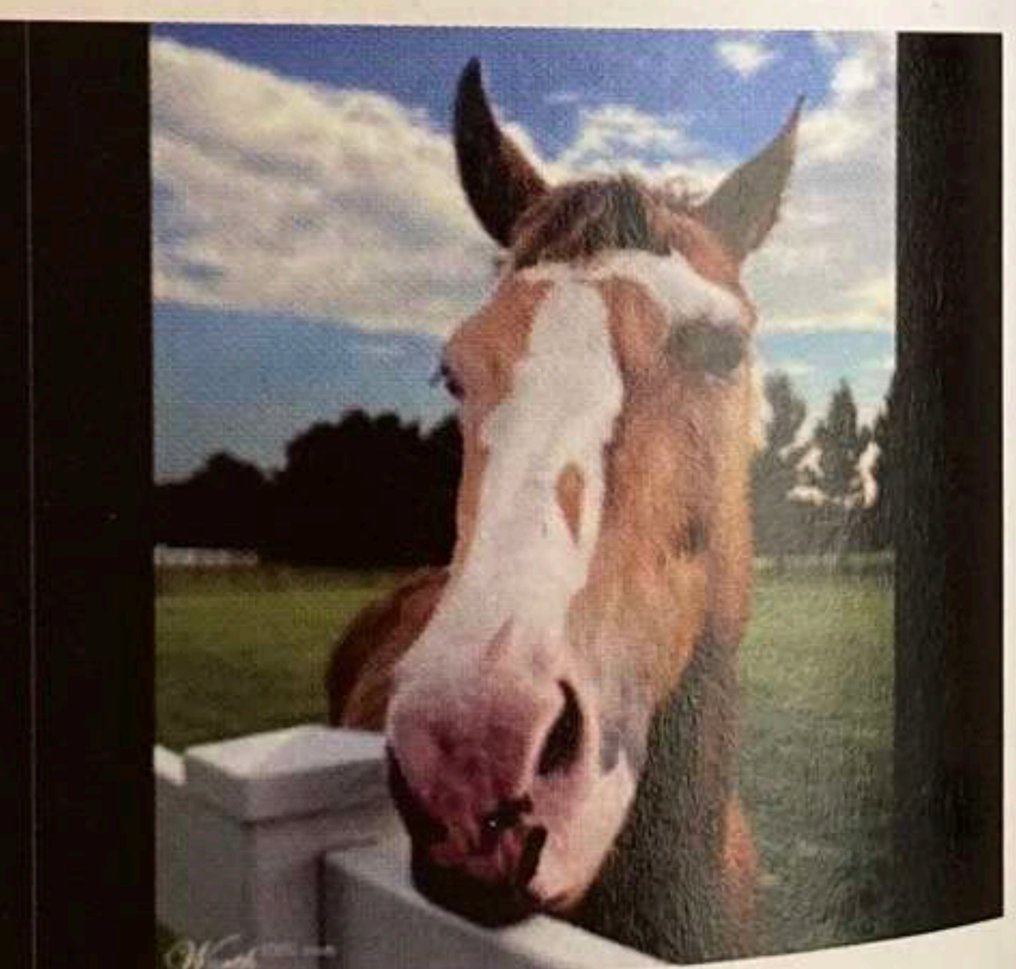




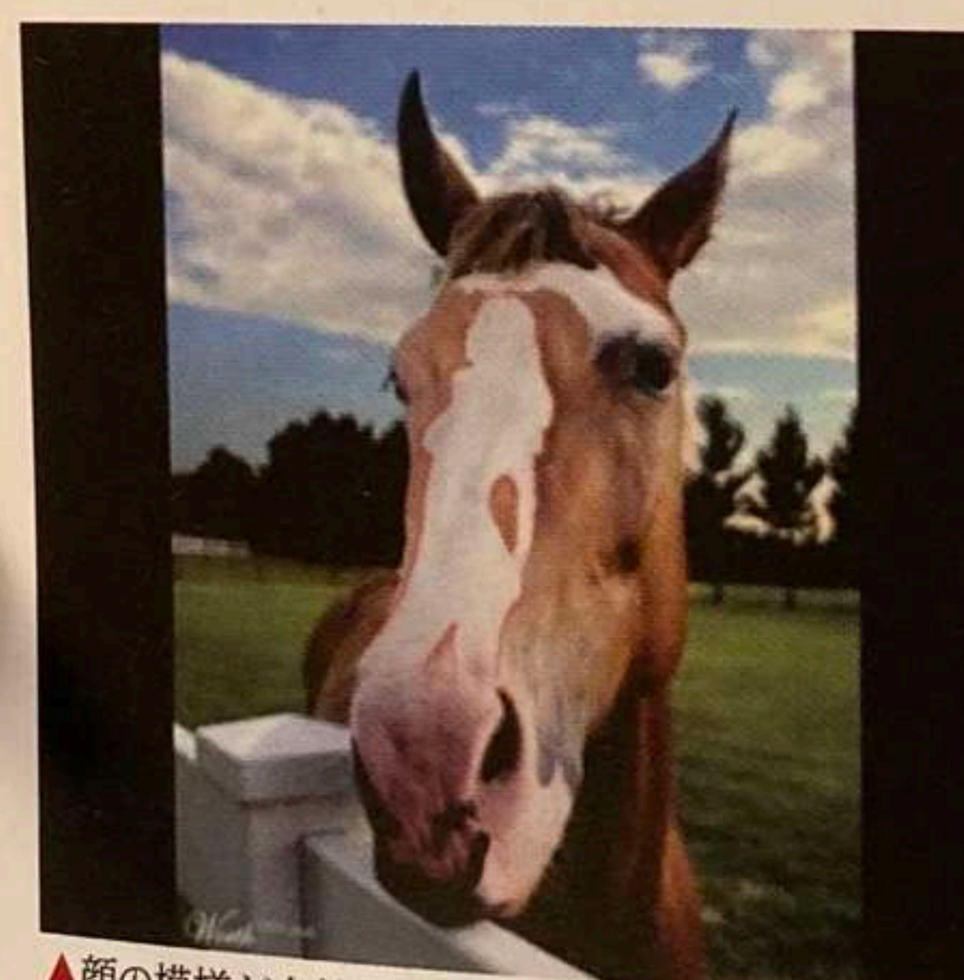

▲こちらもカナダドルの……




▲一部に SEX の文字が



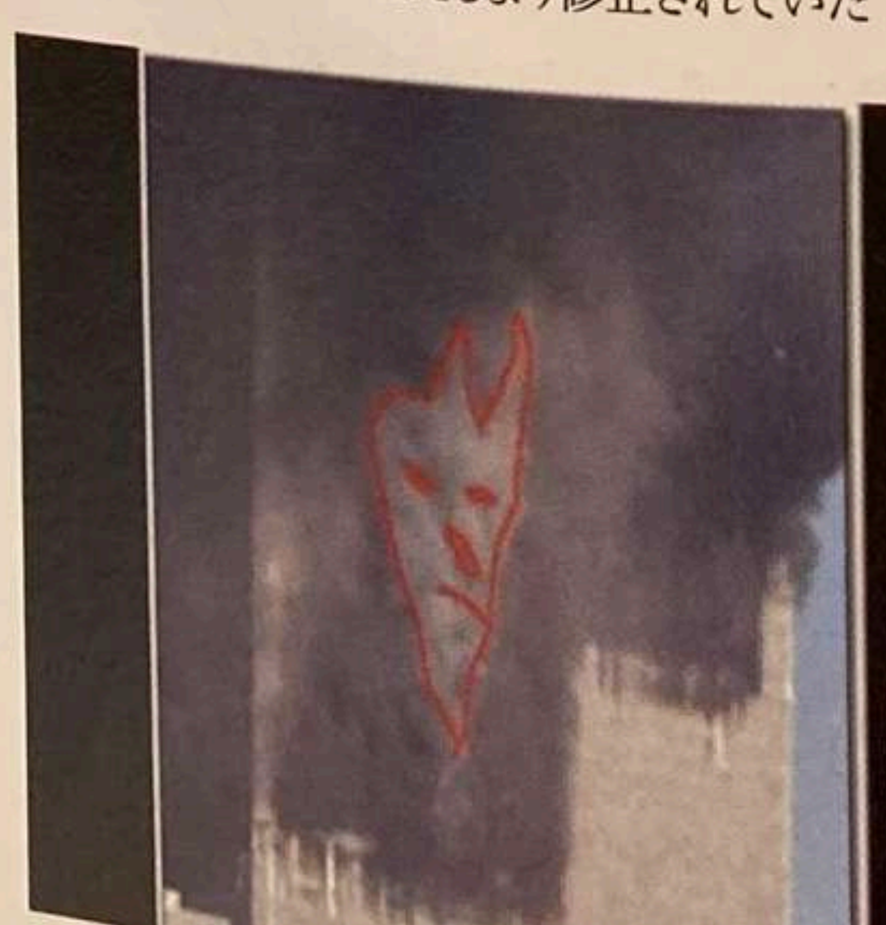
▲有名な競走馬の写真だが



▲顔の模様が女性に見えるよう修正されていた



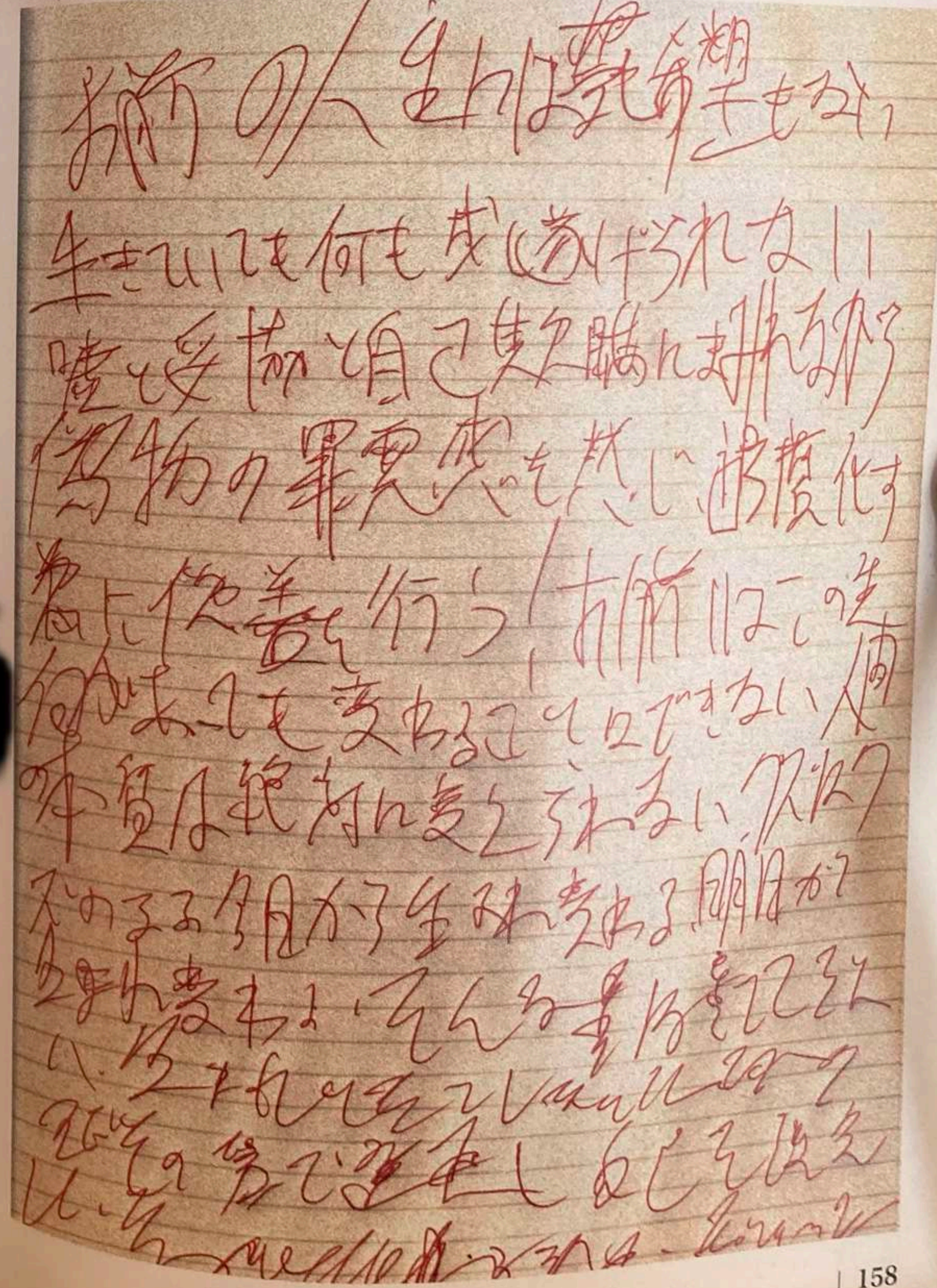
▲911 テロで燃えさかるビルの写真は…



▲悪魔の顔が浮かぶよう、加工されていた

# ラブホテルの謎のノート2

▼神奈川県のラブホテルで見つかった謎ノート。かなりの悪筆だが、「お前の人生には夢も希望も無い 生きていても何も成し遂げられない 嘘と妥協と自己欺瞞にまみれながら 偽物の罪悪感を感じ、誤魔化す為に偽善を行う お前はこの先、何があっても変わる事が出来ない 人間の本質は絶対に変えられない クズはクズのまま、どれだけ誤魔化しても結局はクズのまま 今日から生まれ変わる、明日から変わる、そんな事は起こらない」と書いてあるらしい。それ以降は、あまりに殴り書きのため判読は不可能だった。


お前の人生には夢も希望もない
生きていても何も成し遂げられない
嘘と妥協と自己欺瞞にまみれながら
偽物の罪悪感を感じ誤魔化す
為に偽善を行う お前はこの先
何があっても変わることはできない 人間
の本質は絶対に変えられない クズはク
ズのまま 今日から生まれ変わる 明日から
生まれ変わる そんな事は起こらな
い





# 街角の謎物件2

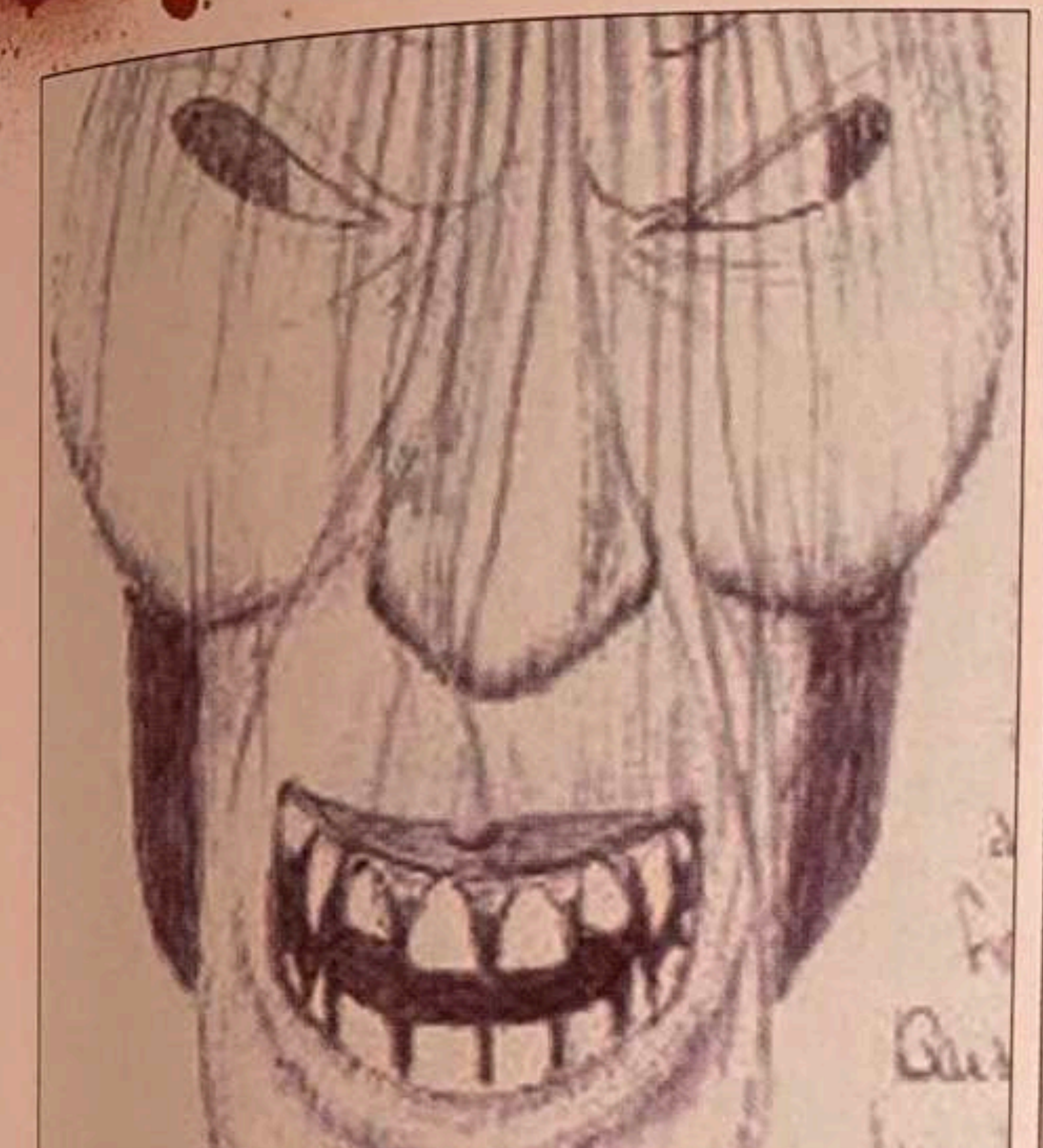


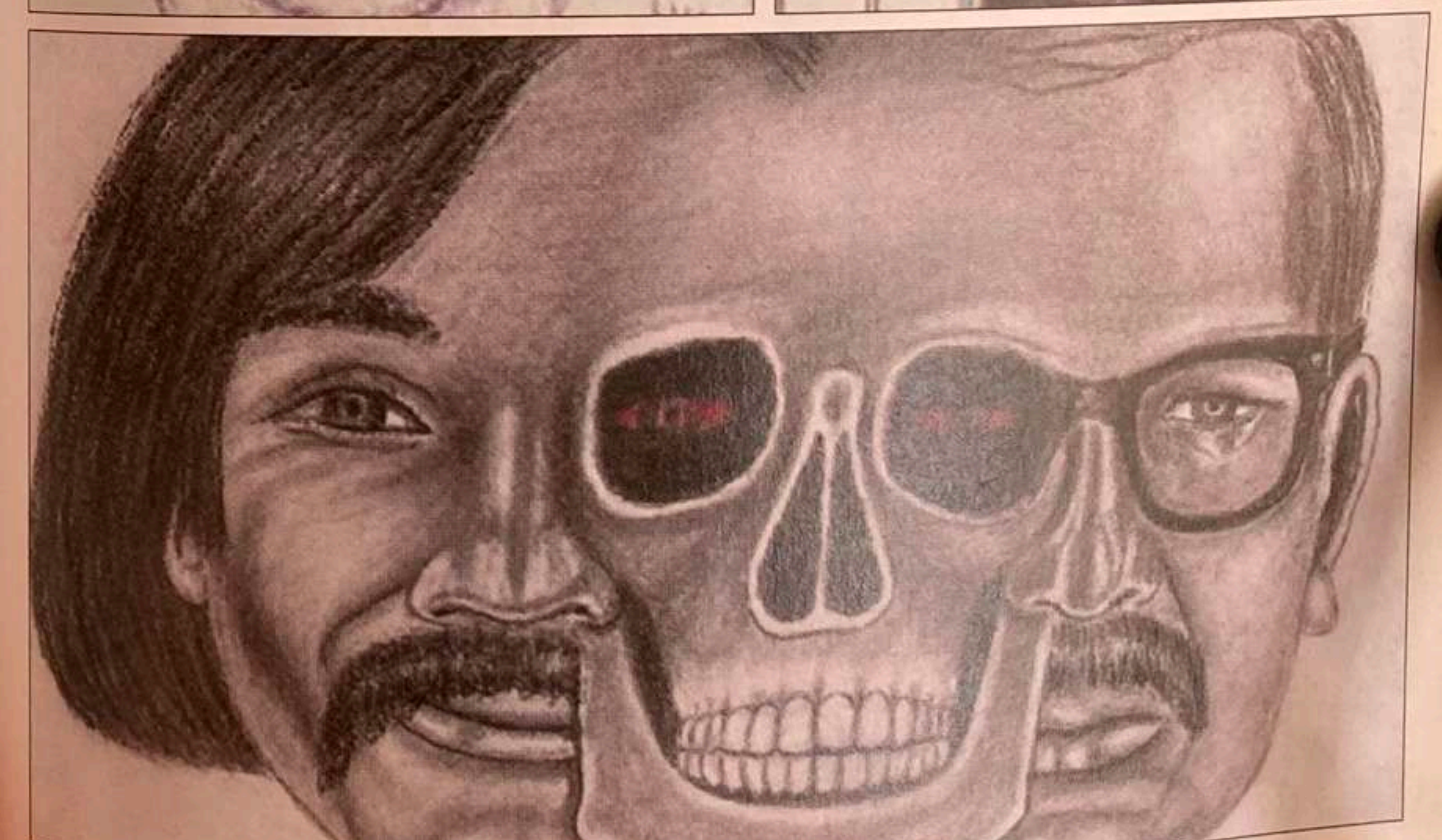
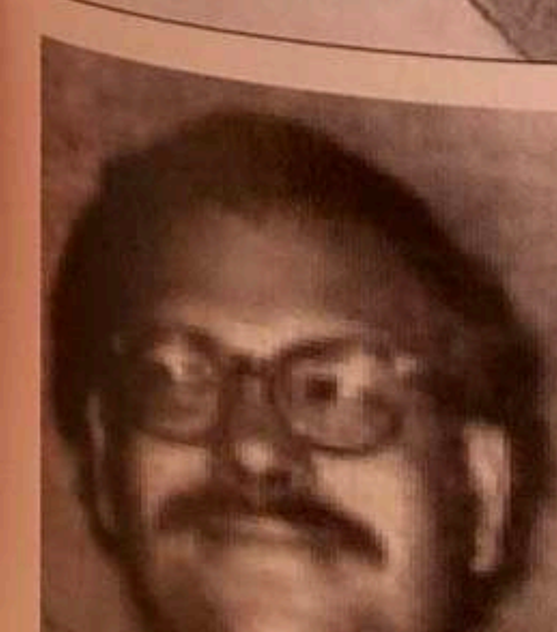

◀都内の壁に貼られていたチラシ。確かに不思議だが、それで何を主張したいのか。




▼某県の道ばたに立つオブジェ。キティの流血がなかなか新鮮。

# ロイ・ノリス



「ヒマだから」という理由だけで、10代の女性を誘拐して陵辱。その後、ナイフで切り刻む様をビデオに撮影し、繰り返しテープを見ながらマスターベーションにふける変態男である。

手口は、ワゴン車でアメリカを縦断し、ヒッチハイクで乗ってきた女性をさらうというもの。80年代には、ローレンス・ビタッカーという名の、やはりド変態と知り合い、互いを「ソウルメイト」と呼び合いながら、殺人ツアーを続けた。99年に死刑判決。





# 竜宮城ハウス





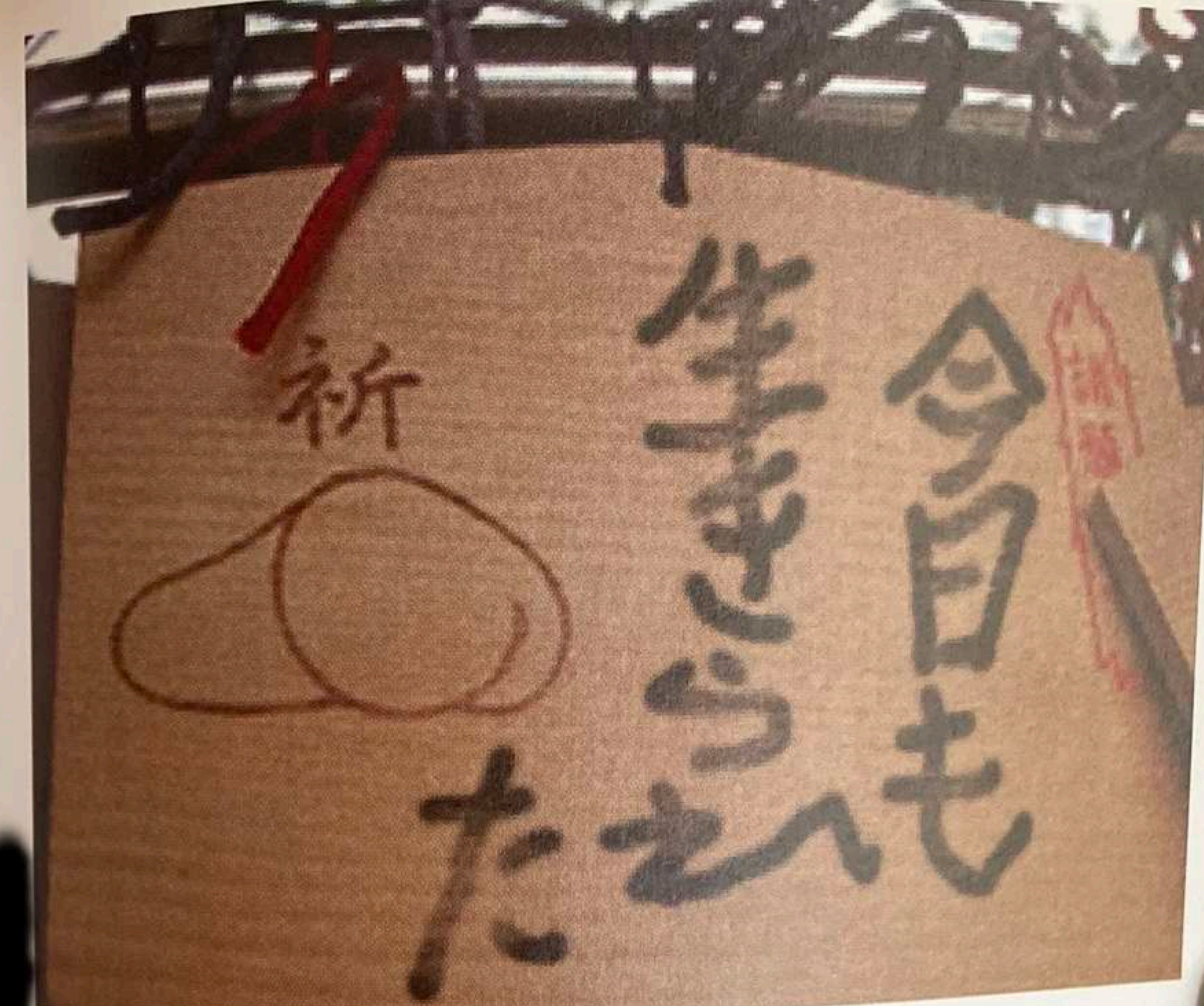




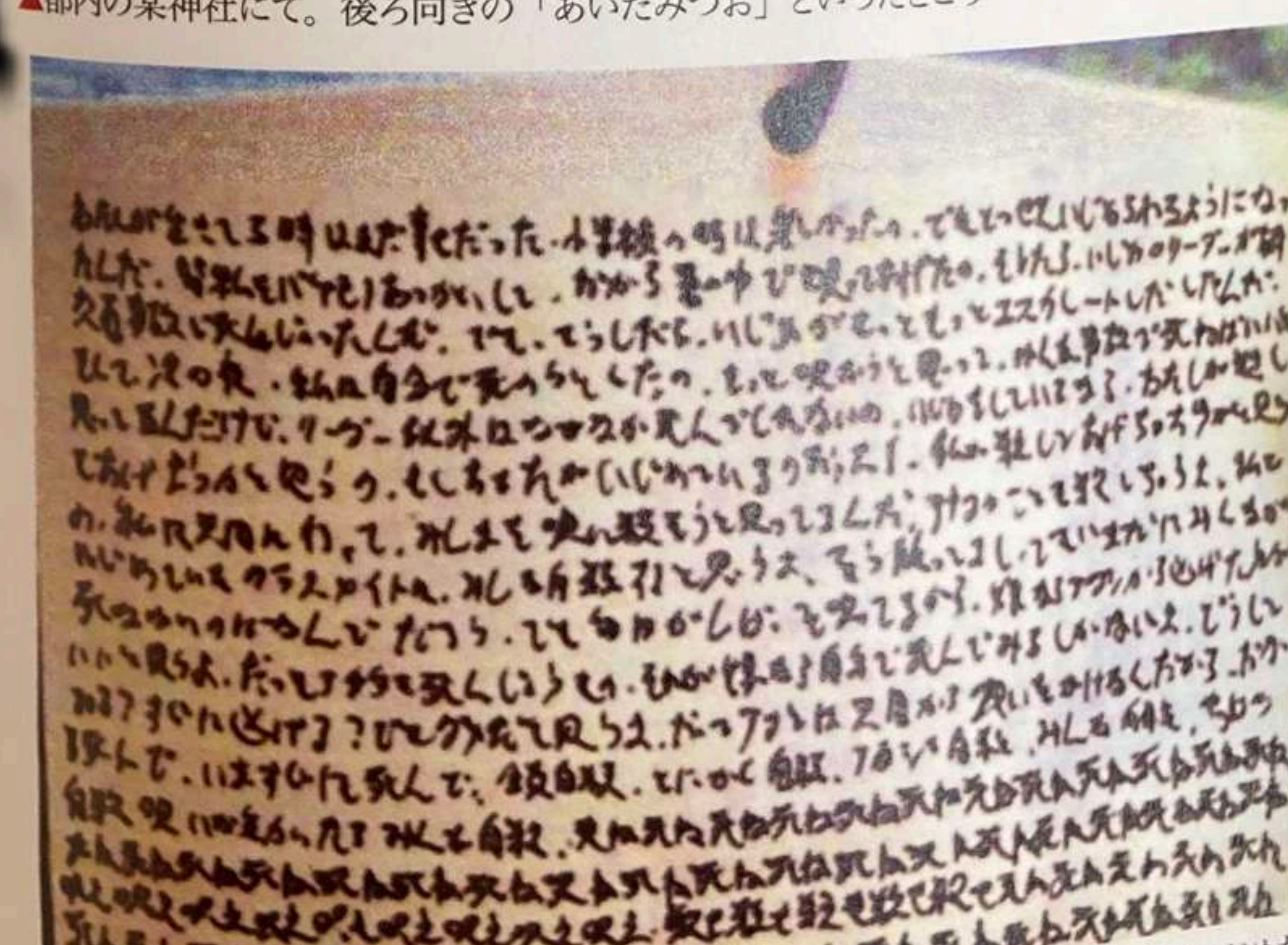

ご覧の建物は、茨城に住むMという老人が、自分の家を改造して作り上げた珍スポット、通称「竜宮城ハウス」である。壁には亀に乗った浦島太郎が描かれ、庭には中華風の塔などが建てられ、マニアの間で人気を呼んだ。

が、老人が死んだ2001年に事件は起きた。県の業者が取り壊しを進めたところ、なんと物置の壁の中から、十年前に死んだ老人の妻が遺体で発見されたのだ。老婆の頭には鈍器で殴られた跡が残っており、他殺であることは間違いない。どうやら、この老人、老婆を殺して壁の中に遺体を隠蔽。この事実を隠すために、狂ったフリをしていたらしい。

老人が亡くなった今、その動機などは闇の中だ。




▲都内の某神社にて。後ろ向きの「あいだみつお」といったところ

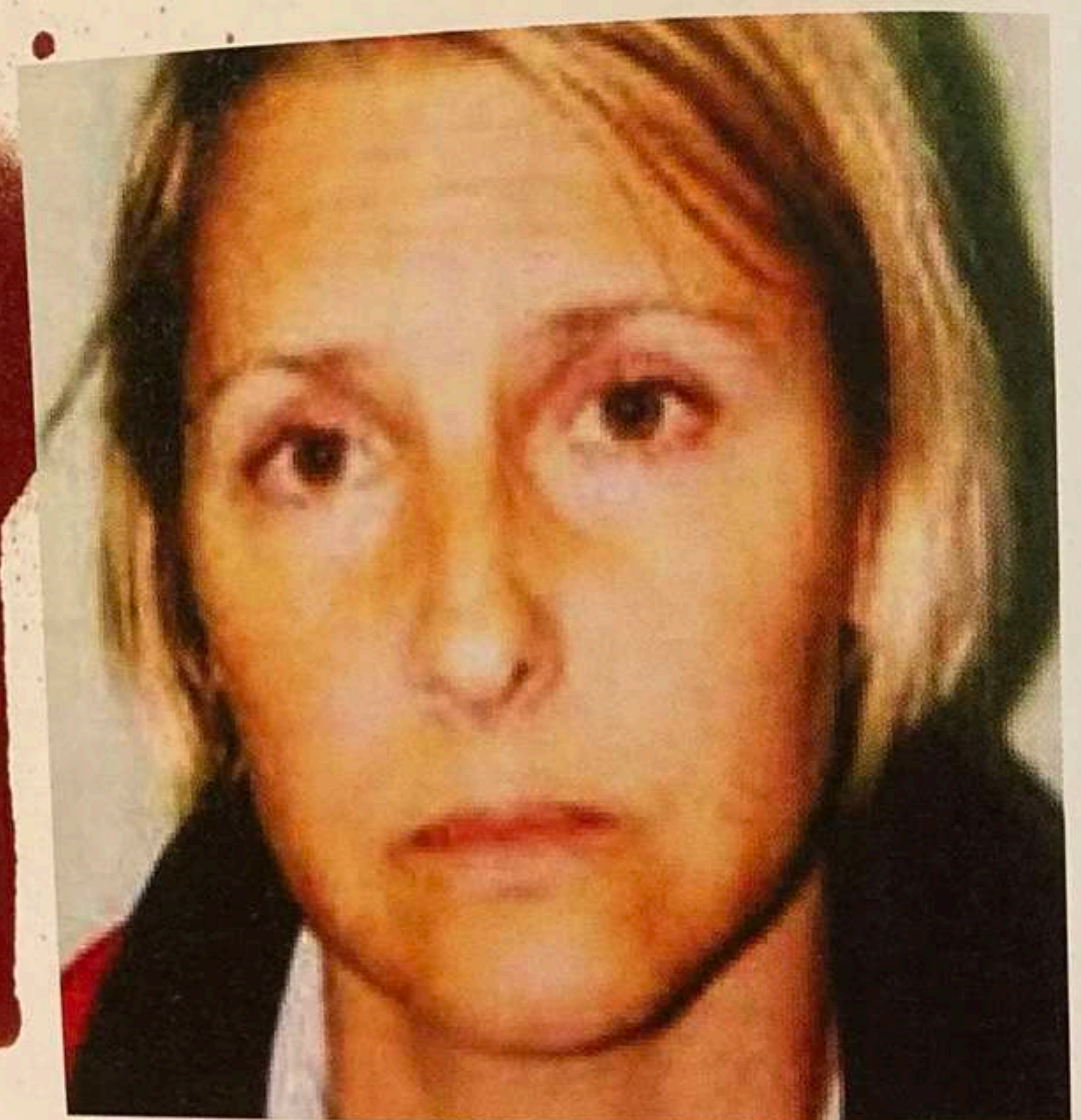


▲都内の某神社にて。判読が難しいが、どうやらイジメられっ子が、ひたすら自分をいじめた相手に対して呪いの言葉を書き散らしたもののようだ。最後の「死ね」の連打が嫌な感じ





# この女性とセックスした男性はいませんか？



▲シャリー・セリグソン(35歳)、イギリス在住。ロンドンの売春街で男をあさりまくり、300名以上と関係を持った。事件当時は、大手新聞紙の社会面が、心当たりのある男たちに検査を呼びかけた。



▲ロビン・リー・セントクレール(26歳)、カナダ在住。関係を持った男の数は数百名以上で、警察が名前を公表した上で「この女性とセックスした男性はいませんか？」と呼びかける異例の騒ぎとなった

一夜を共にした女性が、朝になるとベッドから消え、室内の壁に「エイズの世界へようこそ！」の文字が…。

もはや定番の都市伝説だが、実は現実の世界でもほぼ同じ事件が起きている。写真のお女性2人は、どちらも自分がＨＩＶのキャリアであると知りながら、大量の男たちを誘って夜を共にした女性たちだ。

いずれの女性も、現在は性的暴行容疑で拘留中で、「世界中の男を感染させるつもりだった」と供述している。

# 私、タッキーにストーキングされてます

写真は、S県に住む女性S氏が、タレントの滝沢秀明にストーカー行為をされているとして、ジャニーズ事務所に送った抗議文である。

2007年 2月13日



[redacted]

東京都港区赤坂八丁目
11番20号
株式会社ジャニーズ事務所
代表取締役社長
ジャニー喜多川殿
(喜多川擴)

この郵便物は 平成19年2月18日第06590号
書留内容証明郵便物として差出したことを証明します。
熊谷郵便局長

19.2.13
12-18





この女性、かねてよりジャニーズ事務所へ直談判に出向いて追い返されたり、滝沢のコンサート会場へ現れては本人に意味不明な言葉を投げるなどの行動を繰り返し、ファンの間でも有名な存在だった。

また、この女性は、以前に自分のブログも開設しており、そこで自らの抗議活動を逐一レポート。ジャニーズ事務所へ電話をかけ、担当者との会話を音声ファイルで公開までしていた。

拝啓
私は、平成19年2月7日に
帝国劇場にてジャニーズファミリー
クラブ責任者の方と弁護士の方
にお話した通り、ジャニーズ事務所
所属タレントの滝沢秀明に
ストーカーされているのではないか
との疑いを抱いております。
7日の帝国劇場での話し合いの
時には、ジャニーズファミリークラブ
の方も弁護士の方も私の疑いに
ついて否定していらっしゃいましたが、
では書面にしてほしいと
私がお願いしたところ拒絶
されてしまいました。そこで、
ジャニーズ事務所社長の
ジャニー喜多川(喜多川擴)氏
に、以下の点について
書面にて返送いただきたく
思います。

書面で確認したい事は
1. ジャニーズ事務所所属
タレント滝沢秀明は、
過去も現在も、つきまとい
その他ストーカーに類する
行為を、私、[redacted]に
対し一切していない。

2. 将来にわたっても、
ジャニーズ事務所所属タレント
滝沢秀明は、[redacted]に
対して一切コンタクトを
とることはない。

以上、2点です。
恐縮ですが内容証明郵便にて
返事を返送願います。

もし本状到達後1週間以内に
内容証明郵便にて返事を返送
いただけない場合、
ジャニーズ事務所所属タレント
滝沢秀明による、[redacted]への
何らかのストーカーに類する
行為があるものとみなします
ので、宜しくお願いします。

敬具

# 樹海より

青木ヶ原樹海。知らぬ者のない自殺の名所だが、ここには死に行く者たちが現世へ送ったメッセージが多く残されている。その一部を紹介しよう。


▲看板裏の謎の顔

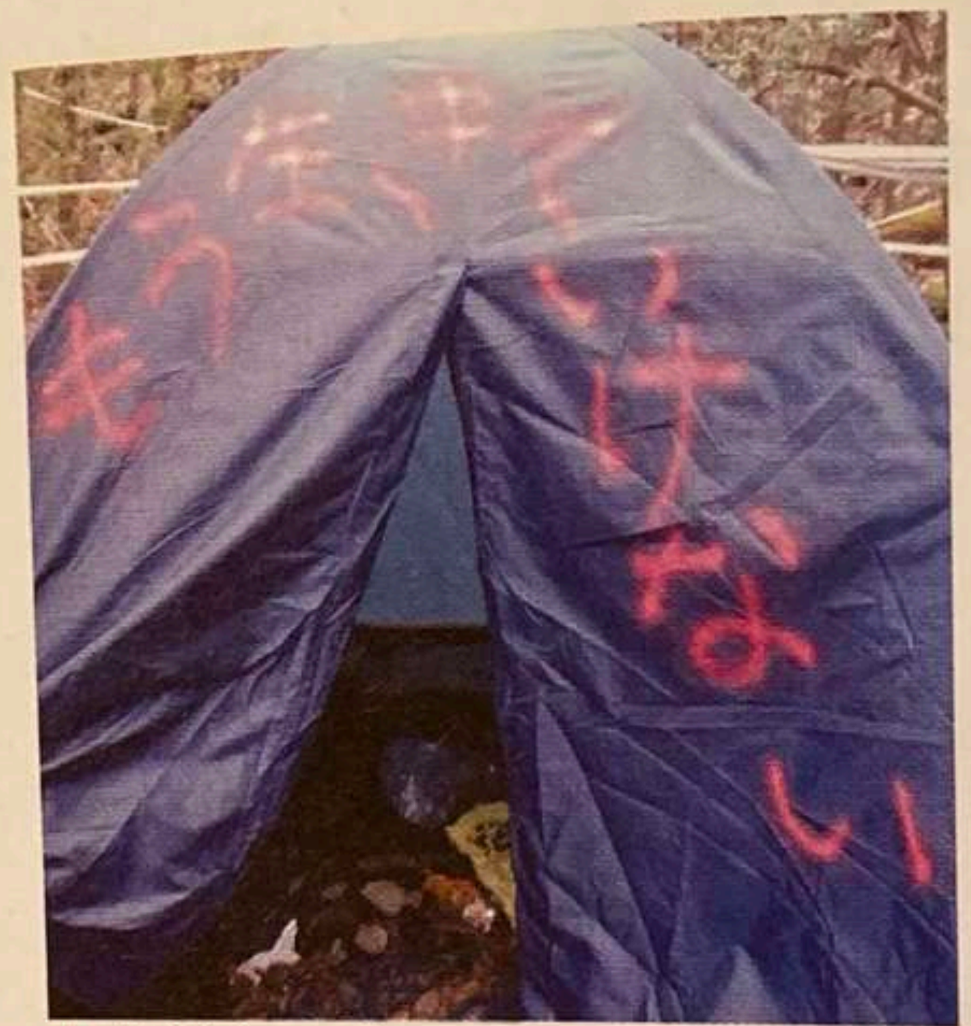


▲「ハッピーボール」と書かれた謎の杭

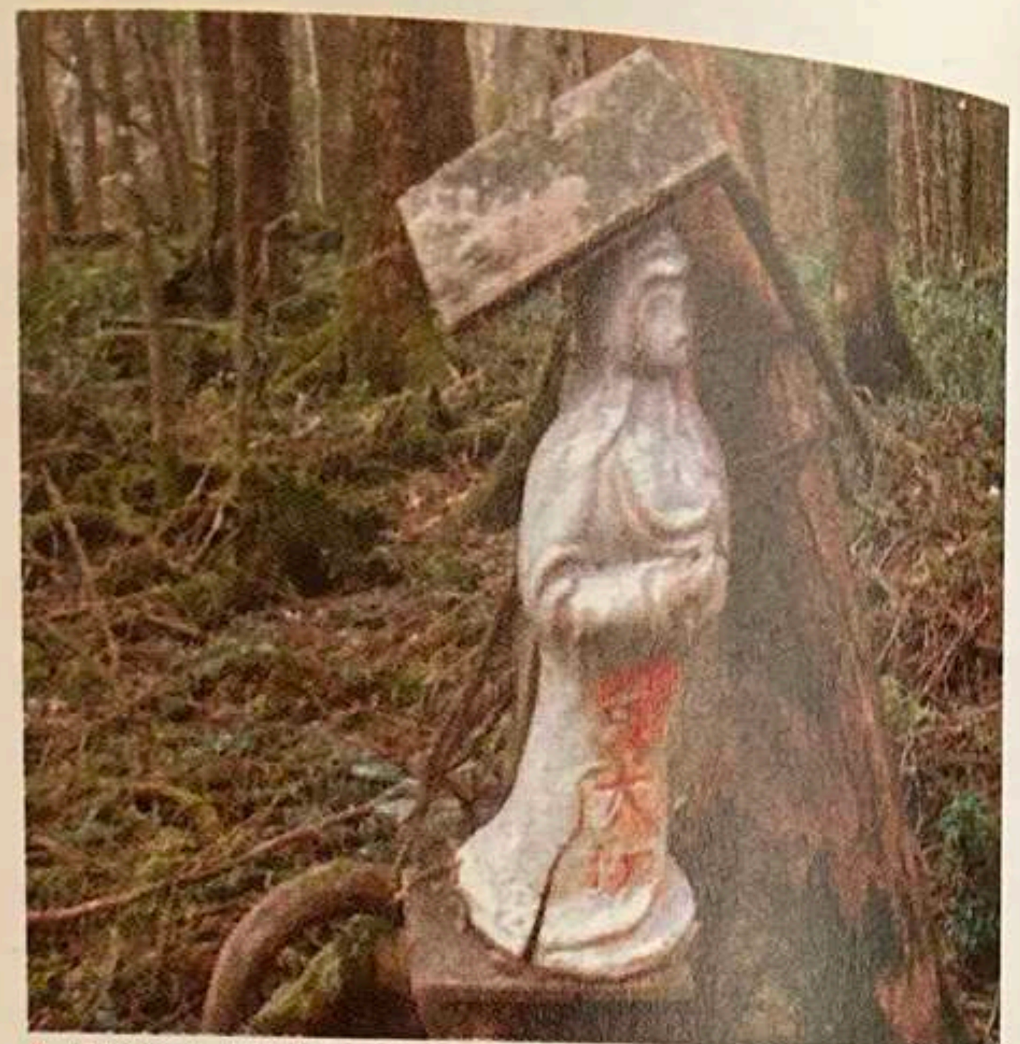


▲「世界平和」を祈る杭



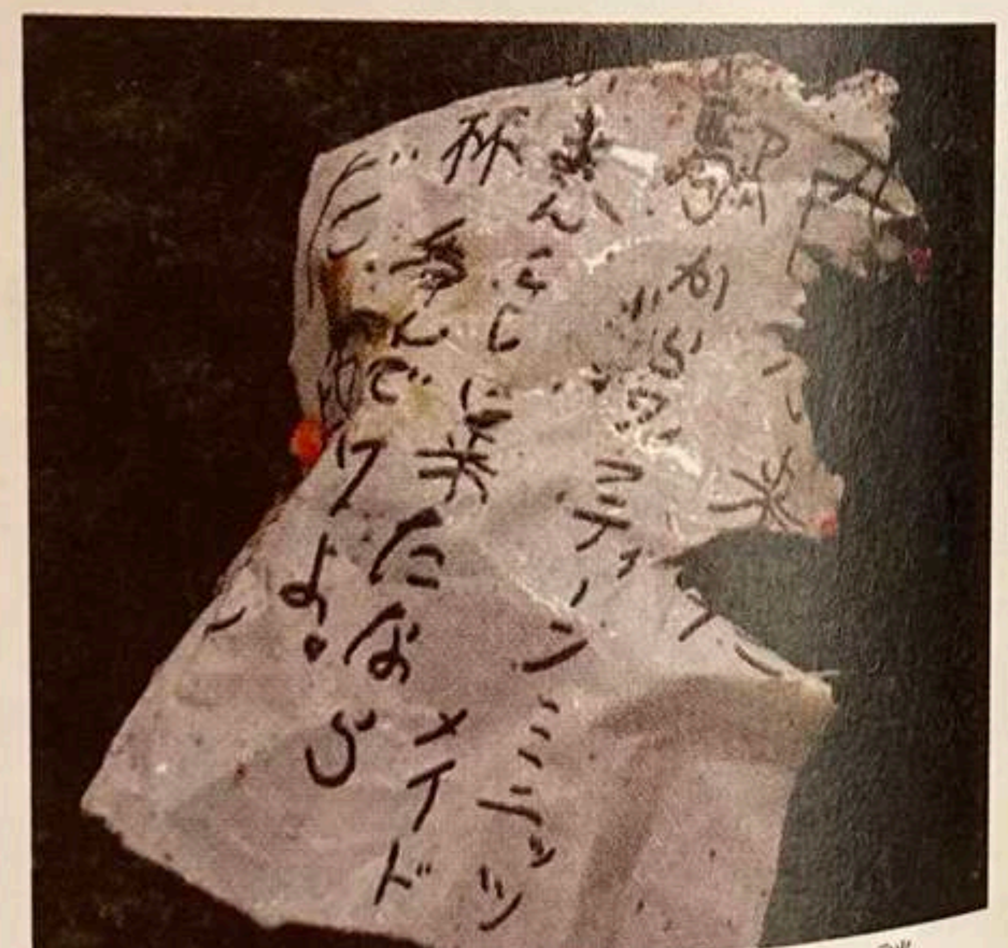


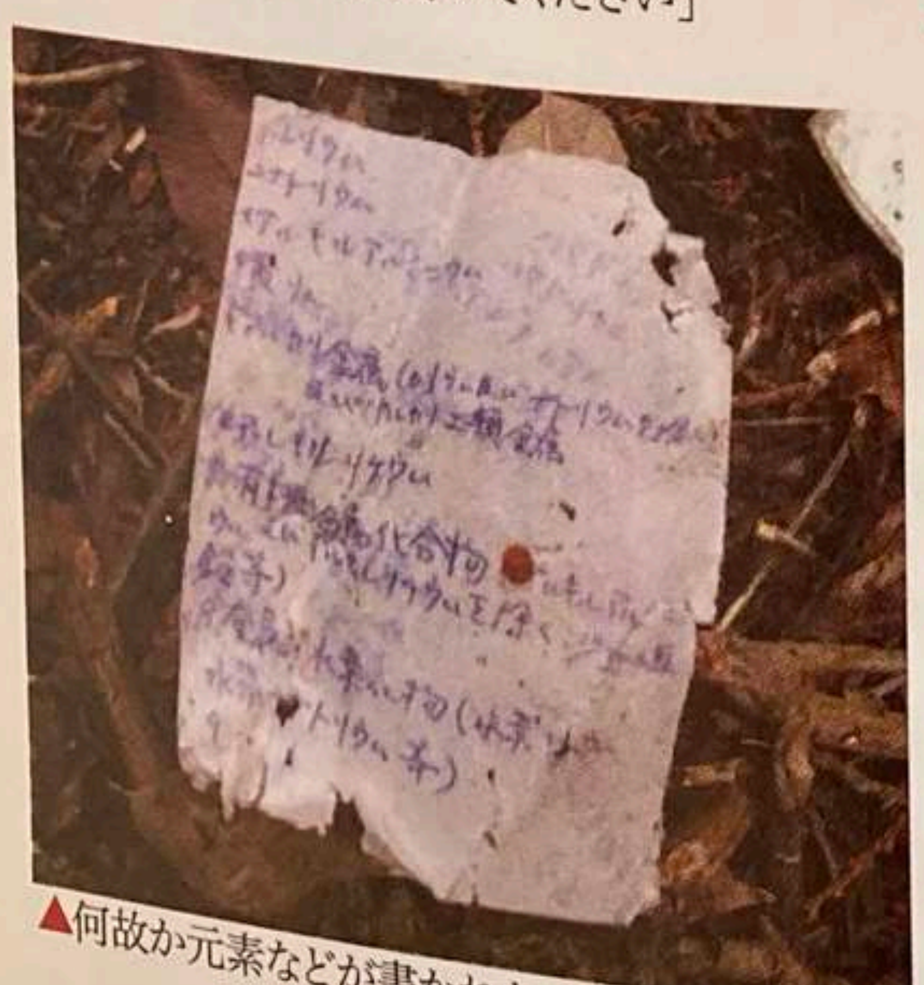
▲「もう生きていけない」

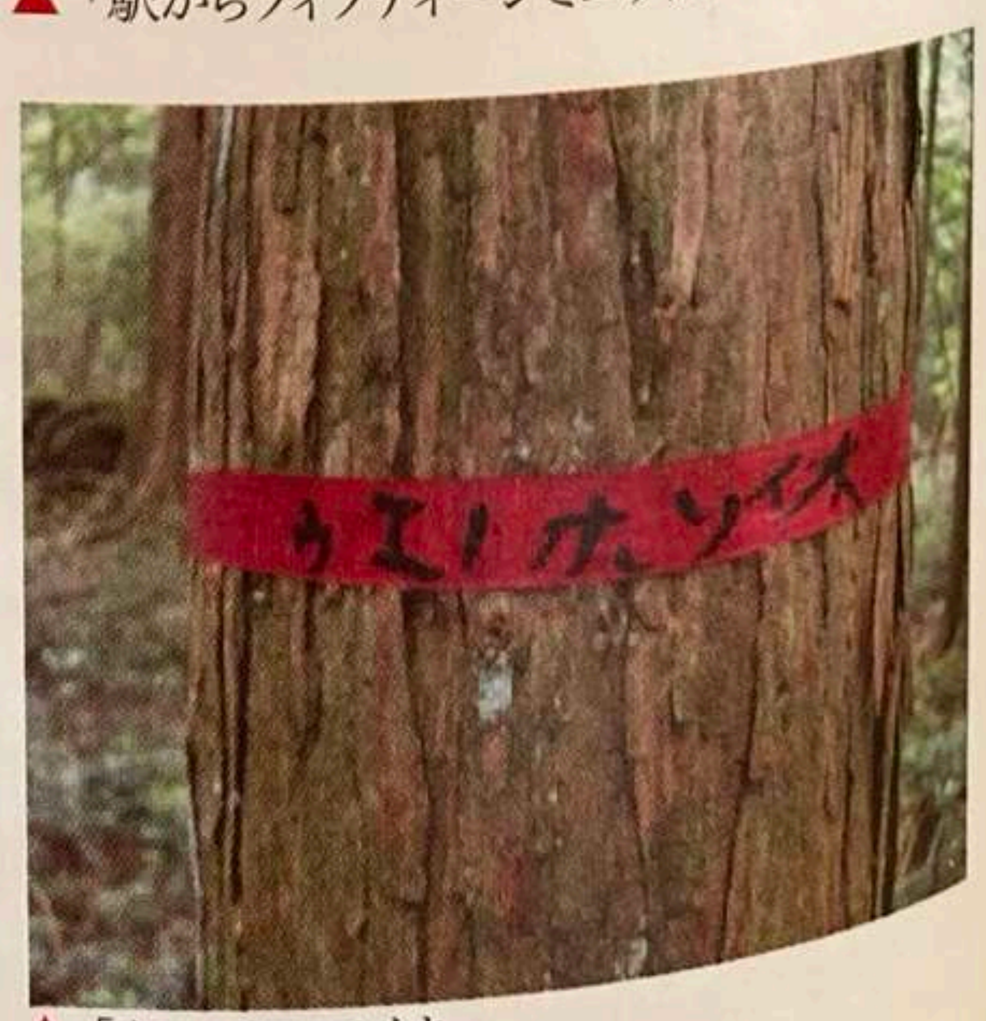

▲樹海を見守る仏像。腹には「命」の文字



▲「ミカエルさま、私を導いてください」


▲「駅からフィフティーンミニッツメイド」。謎


▲何故か元素などが書かれたメモ



▲「ウエノケ、ソイホ」

# 異食症の人々

「異食症」とは、土や紙といった栄養のないものを食べたくなる病気のこと。世界中で見られる症状で、特に妊婦や自閉症の人間によく見られる。世界のニュースが報じた異食症患者たちを紹介しよう。

## 5キロの毛髪を食べた女






▲上の物体は、5キロの毛髪が絡みあった「毛玉」である。イギリスにて、18歳の女性が腹痛で医者に駆け込んだところ、腹部からおよそ5キロもの毛髪の固まりが摘出された。彼女は、数年のあいだ髪の毛を食べたいという衝動にかられ、ひたすら異食をくり返していた。

## 6キロの毛髪を食べた女



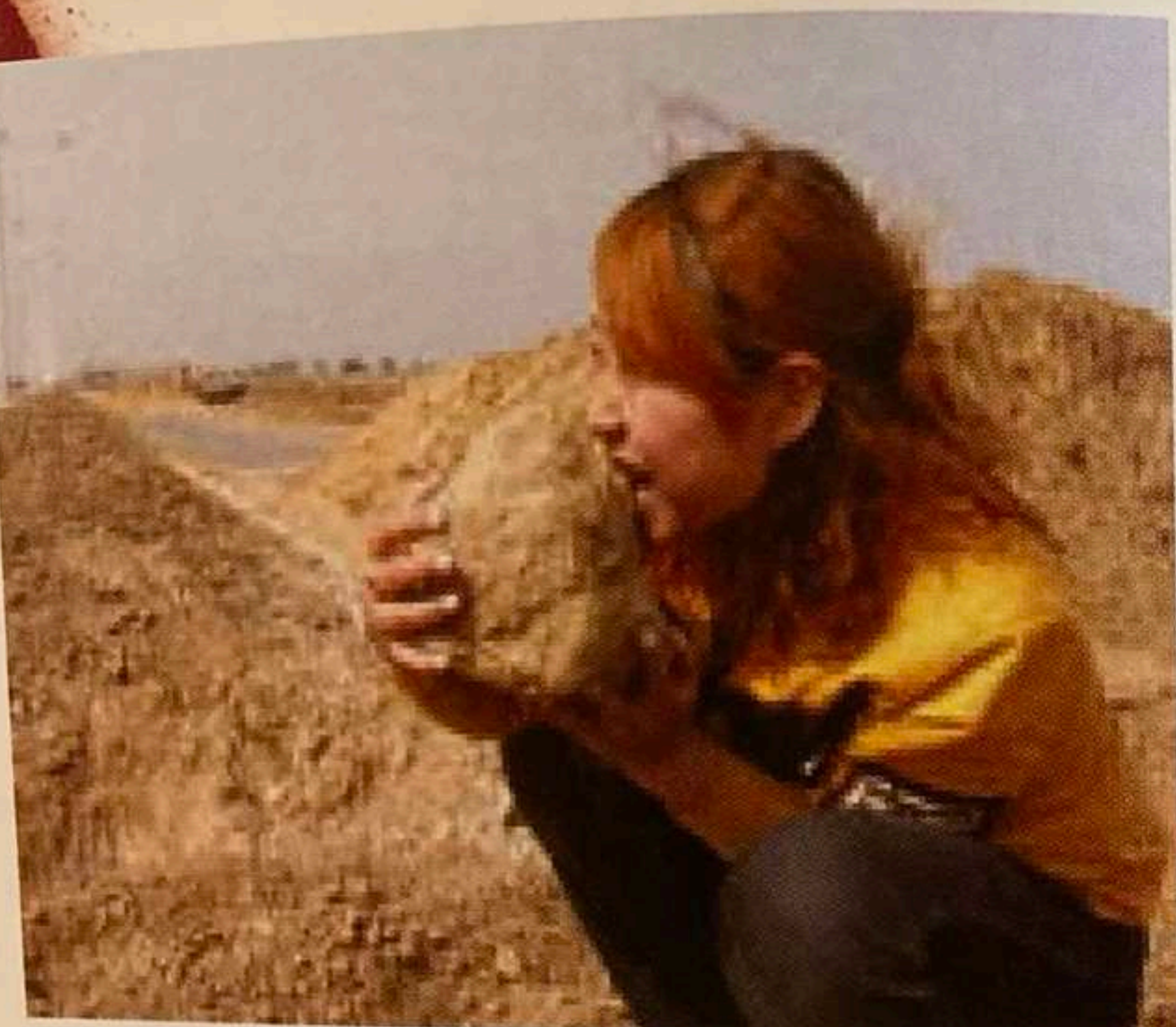


▲こちらはインドの事例。上の物体も「毛玉」である。やはり腹痛で医者にかかったところ、6キロの毛髪の塊が摘出された。髪の毛を食べるようになったのは、5才ごろからとのこと。



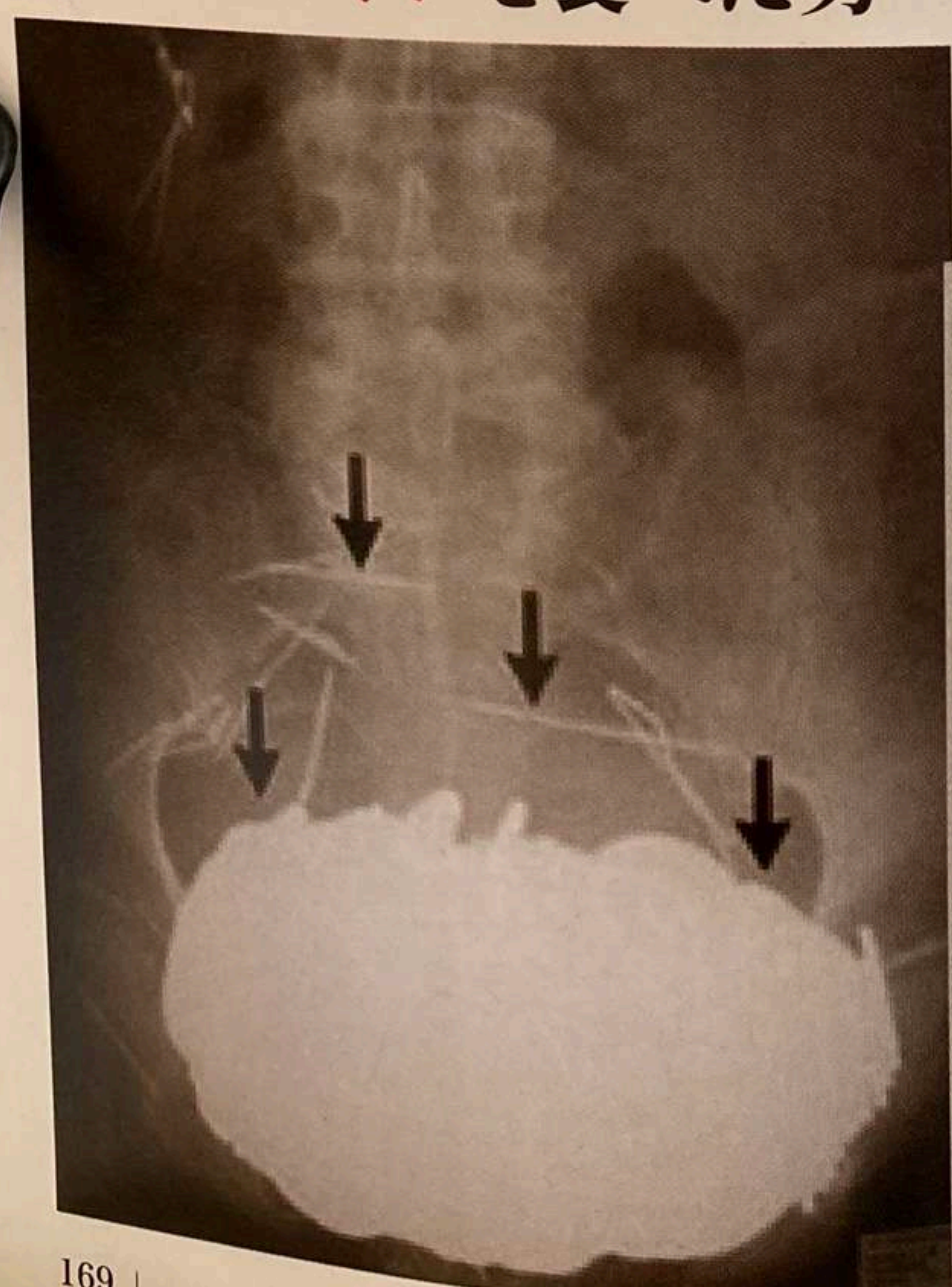


## 土を食べて暮らす女



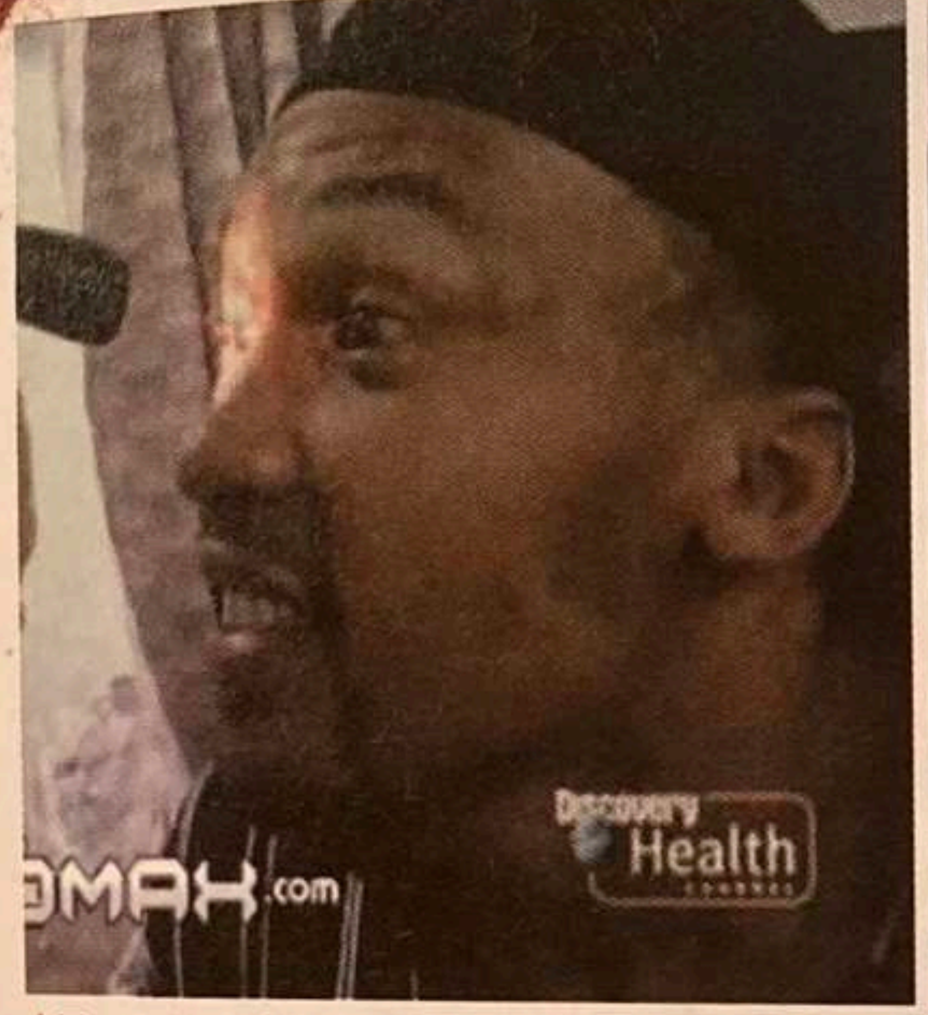
◀モンゴルに住むこの女性は現在19才。7才ごろから土を食べ始め、いまでは毎日500グラムの土を食べる。いまのところ体調に異変はなく、逆に土を食べないと眠れないそうだ。

## 4キロのコインを食べた男

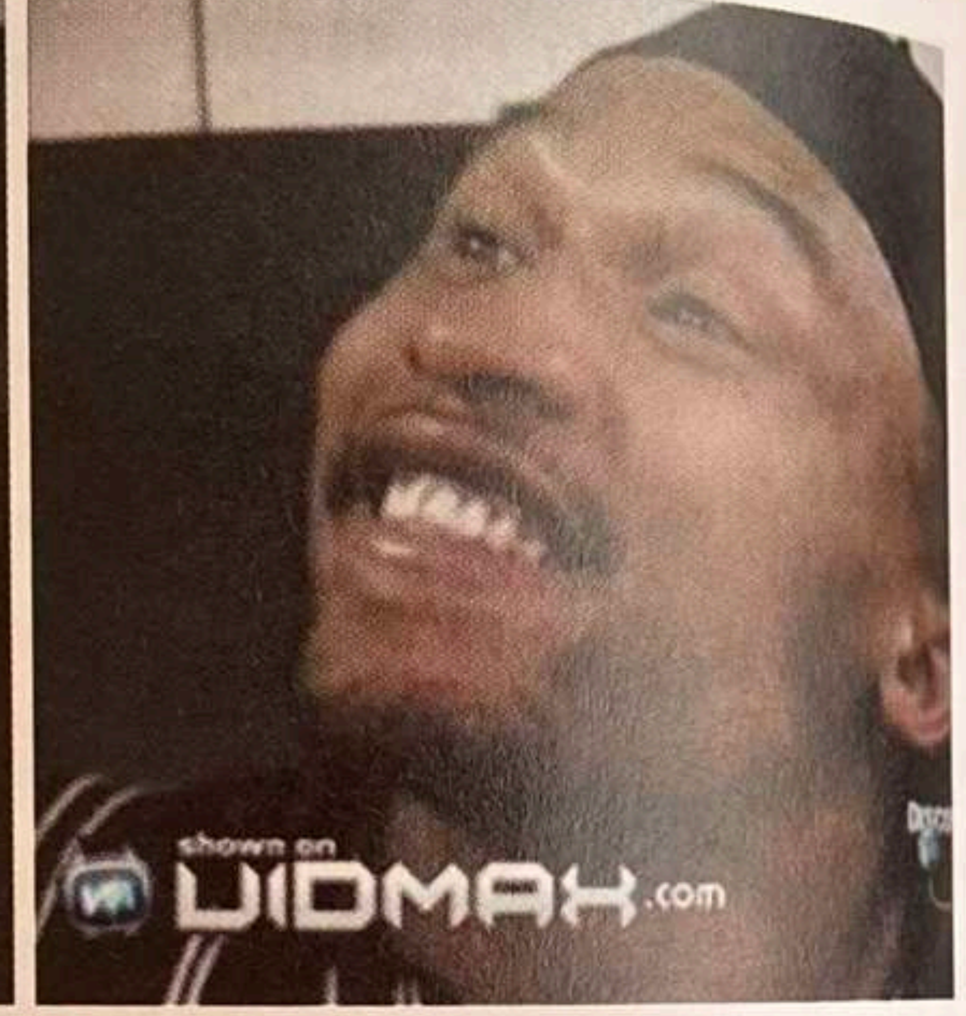


◀アメリカにて、4キロのコインを食べた男のレントゲン写真だ。この男性、コインのサビが胃腸をやられ、胃の半分を切り取る大手術を行った。

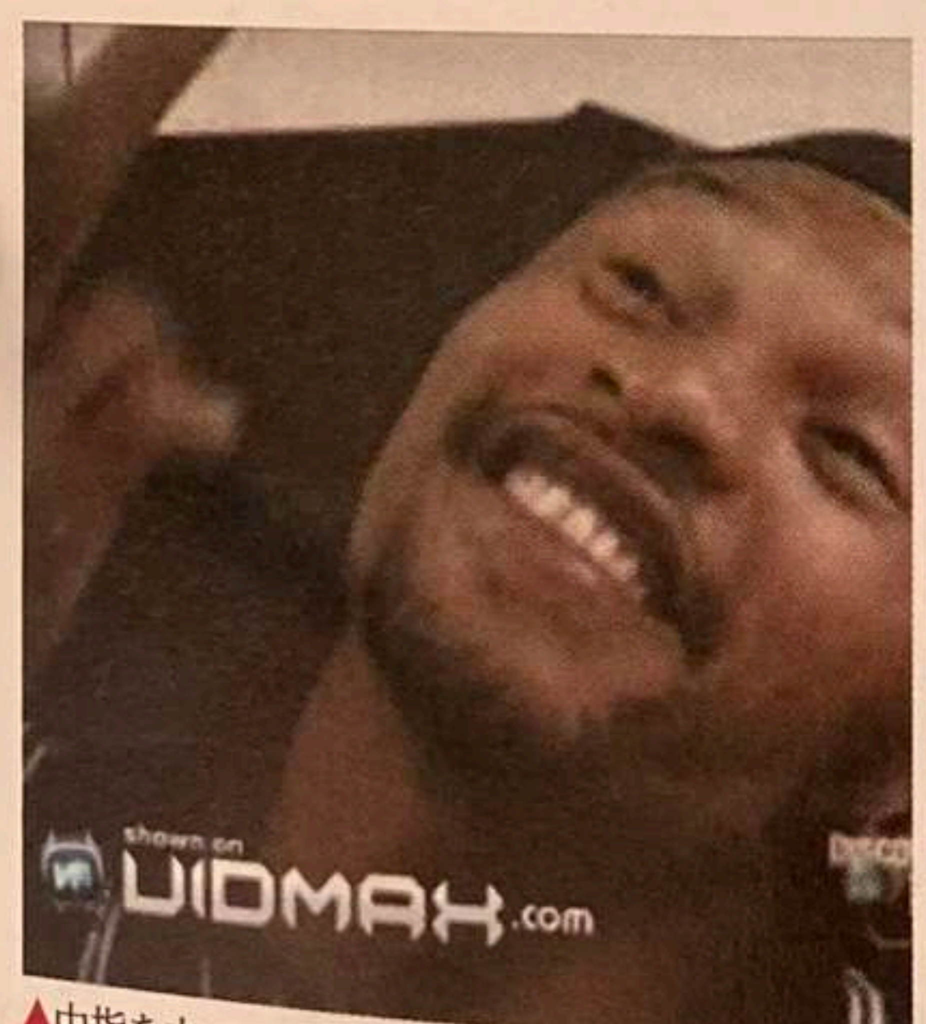
# ドラッグで笑顔が固まった男



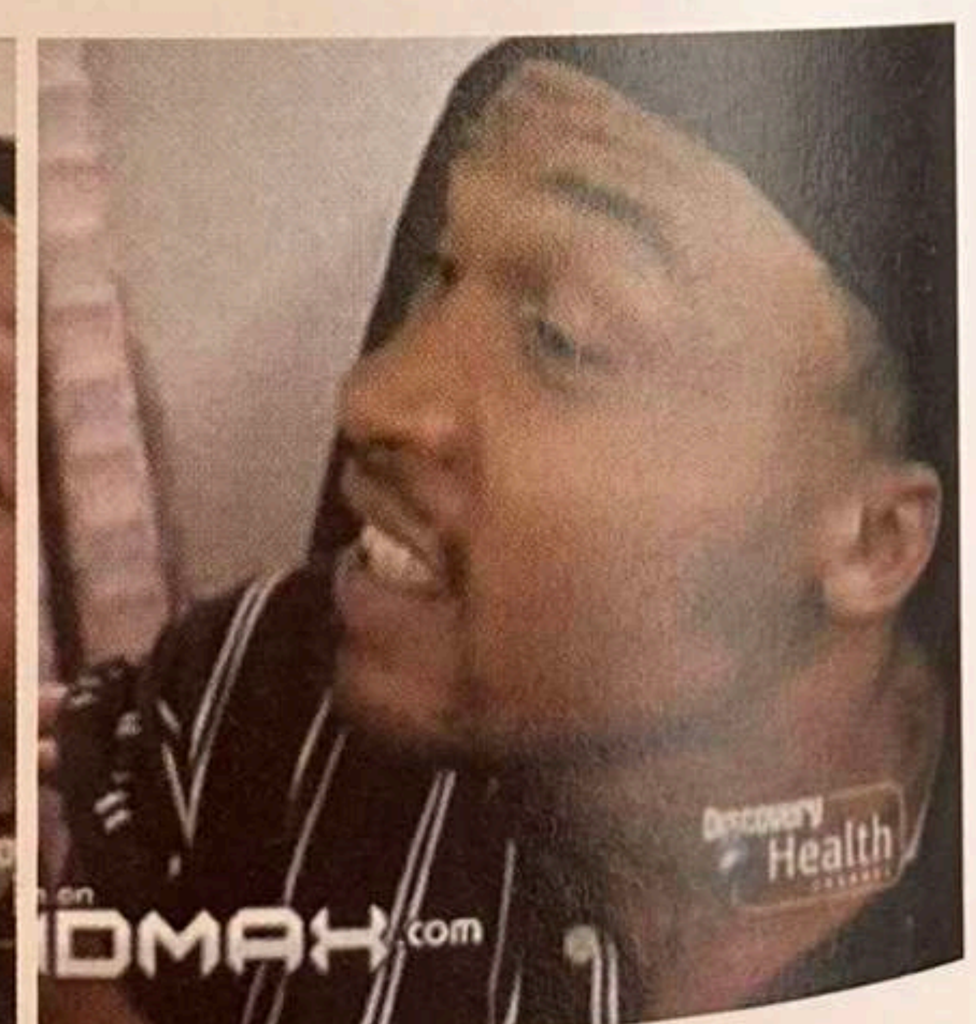
▲目にライトが当たっても満面の笑み



▲つねに満面の笑み



▲中指を立てるときも満面の笑み



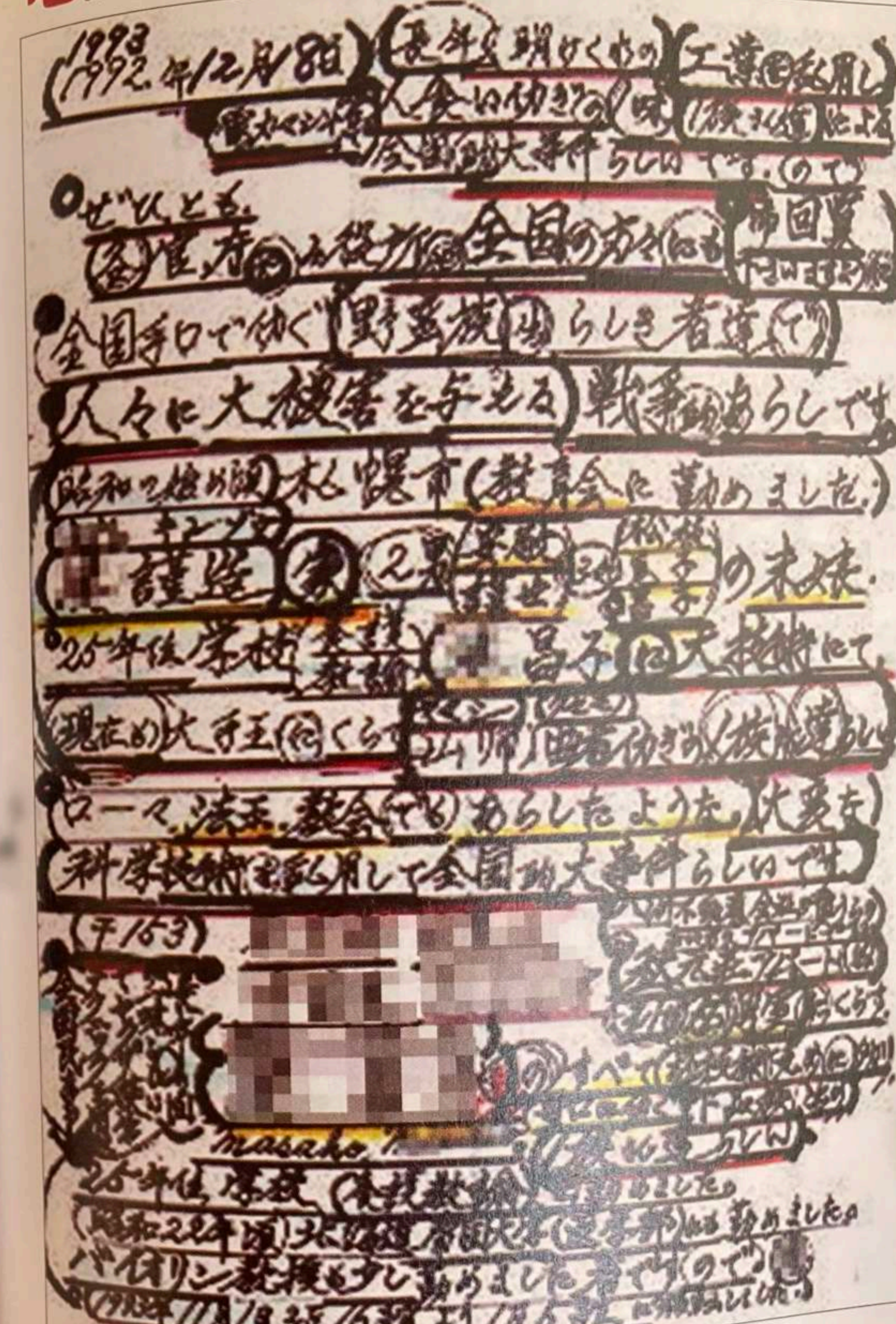
▲注射を打たれても満面の笑み

アメリカ・サンフランシスコ在住のケビン・レイノルズは、いついかなるときも笑顔を崩さない。むろん、何が楽しいわけでもない。実はこれ、ドラッグの副作用なのだ。

ケビンがコカインにはまったのは3年前。以後、彼は平均的なドラッグユーザーが摂取する量の3倍を使ってきた。

ほどなく副作用で顔面の筋肉は凍り付き、彼はもはや一生この表情しか浮かべることができない。

# 電波マシンで大事件です




1993年ごろに都内である老女がバラまいた有名な電波チラシだ。その内容は、あまりにも浮き世の論理から離れているため判別できないが、「人々に大被害を与える戦争的あらしです」や「全国民あやしテクニックを用いてヤクザ族出の一味らしい（長年の間）」、「ヤクザ族（出の）一族さん達明けくれ電波マシンで大事件です」など、ところどころに読み取れる奇っ怪なフレーズがすばらしい。

# ニュース番組に使われたサブリミナル



▲インタビュー場面で

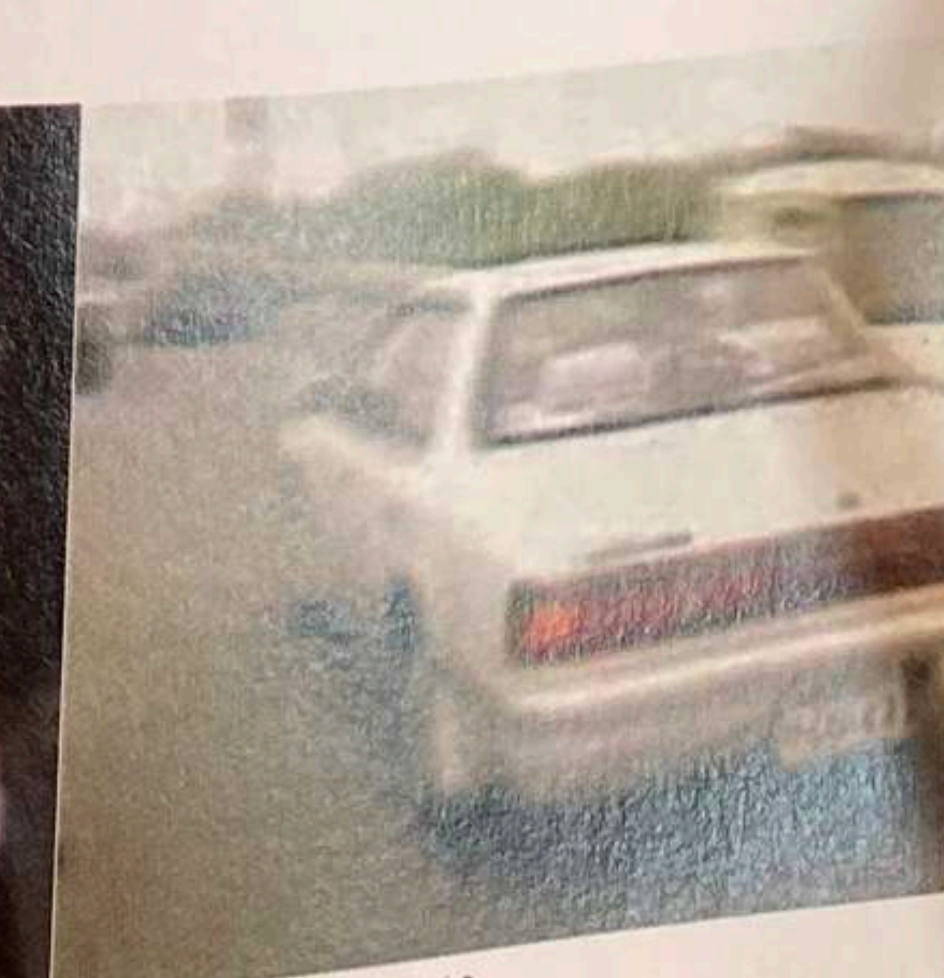
1995年5月、TBSのオウム真理教についてのドキュメンタリーで、30分の1秒という知覚できない速度のサブリミナルカットが放映された。カットは麻原彰晃の顔や、キリスト教のユダ（裏切り者の象徴）など、いずれも場面とは無関係なものだった。TBSは「映像表現」と説明したが、非難が集中したため、日本民間放送連盟が、サブリミナル禁止を明文化した。




▲急に麻原の顔が



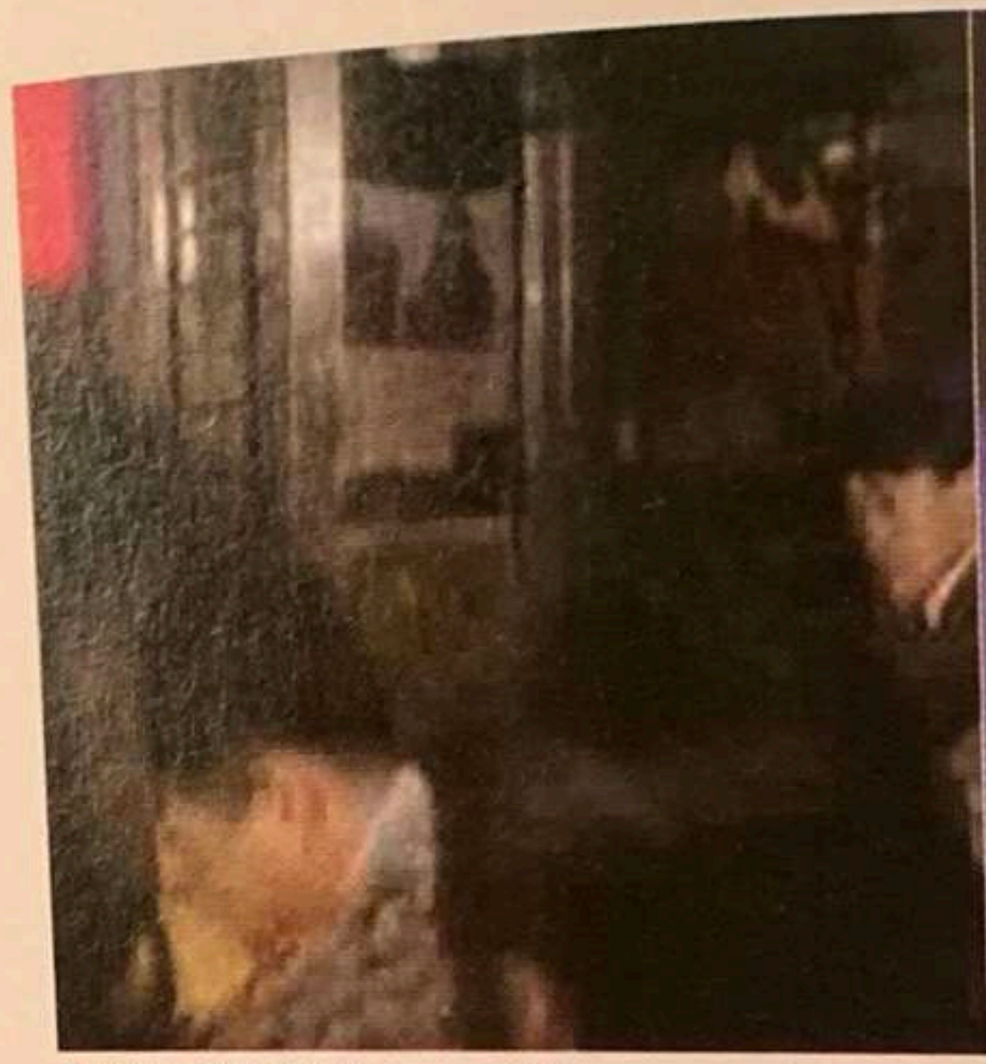
▲別のインタビュー場面でも



▲そのまま次のシーンへ







▲村井秀夫の刺殺シーンでは




▲再び麻原の顔が



▲続けてナイフが転がるシーンへ




▲なぜか上祐史浩の顔がインポーズ

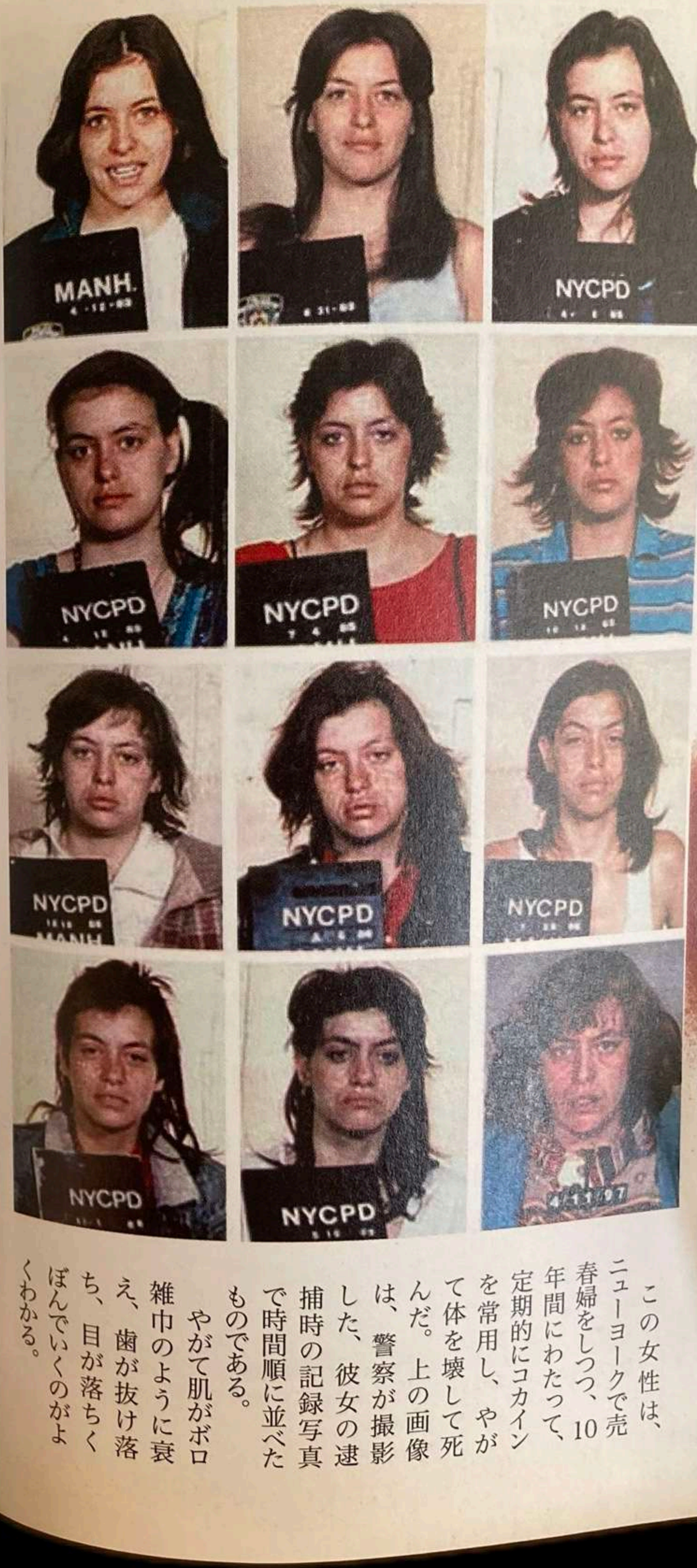


▲上祐史浩の広報場面では




▲裏切り者を表すユダのカットが挿入された

# ドラッグを10年続けた女性の末路




この女性は、ニューヨークで売春婦をしつつ、10年間にわたって、定期的にコカインを常用し、やがて体を壊して死んだ。上の画像は、警察が撮影した、彼女の逮捕時の記録写真で時間順に並べたものである。

やがて肌がボロ雑巾のように衰え、歯が抜け落ち、目が落ちくぼんでいくのがよくわかる。

実録サイコ恐怖画像

# 第三章

# 奇妙な、愛情

# 全裸で踊る男

07年夏、東京に住む女子大生のMさんは、出会い系で彼氏を探していた。何人かとメールのやり取りをし、中でも熱烈なレスを返してきた男に「あなたの写メでアピールしてみて」と頼んだところ、送り返されてきたのが、この携帯ムービーである。動画を見た直後、Mさんは出会い系サイトを退会し、メールアドレスも変更したという。



▲誰もいない画面に



▲全裸の男が登場



▲顔を隠しながら踊り始める



▲ノリノリに



▲さらにノリノリに

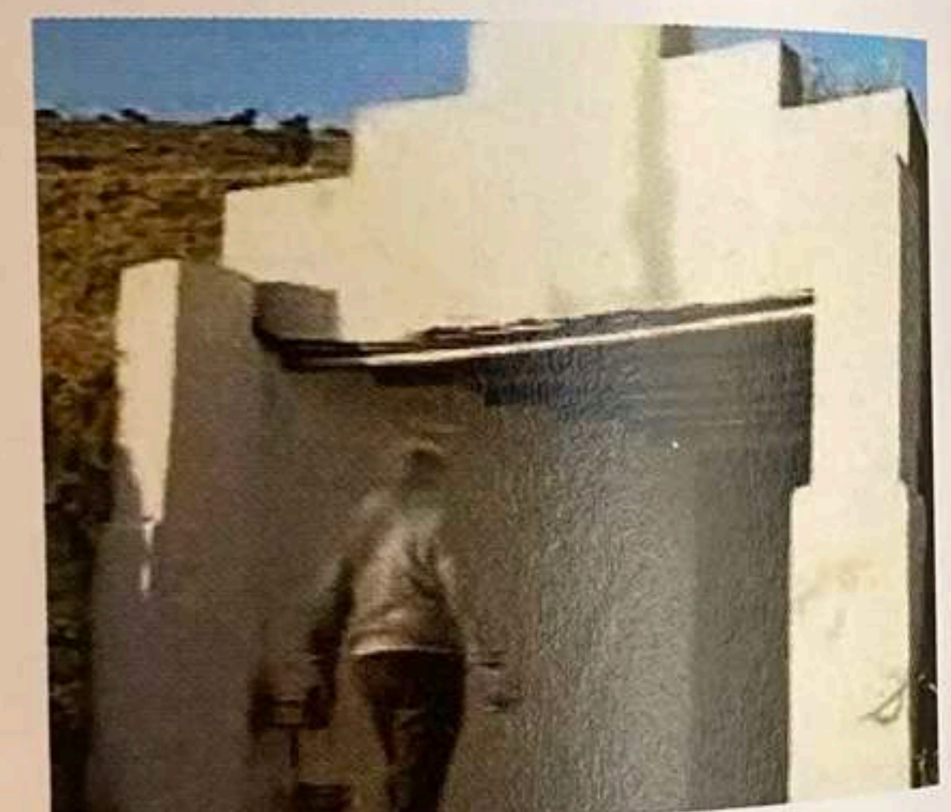




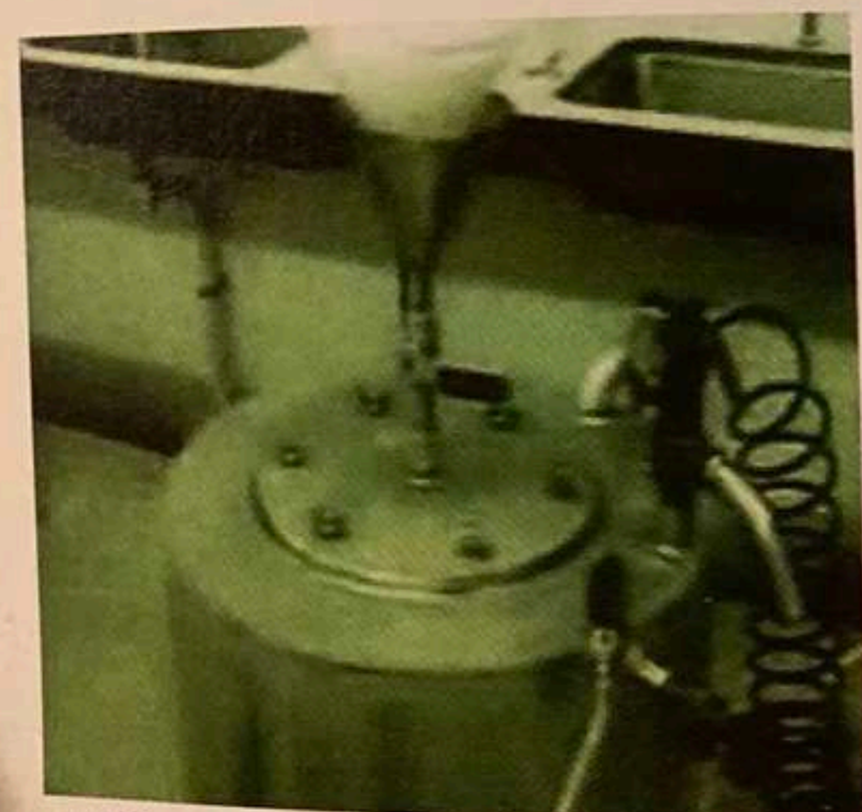
# 妻の死体と11年間暮らす男




▲ケビン・クロス本人



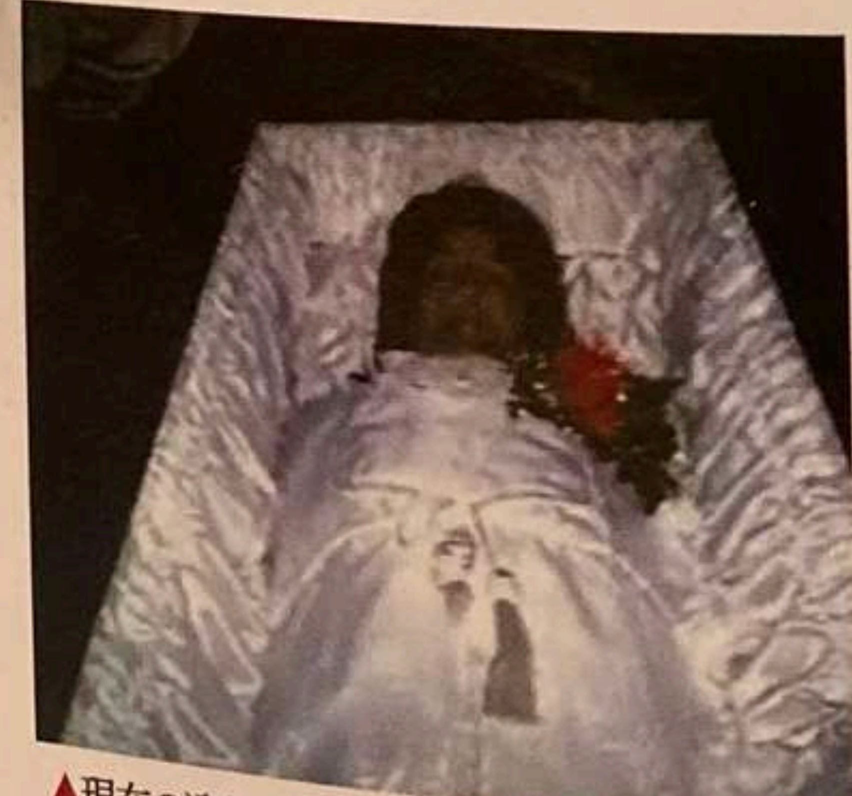
▲妻の遺体用にこしらえた部屋



▲内部の防腐処理装置



▲毎晩、妻の元で暮らしている



▲現在の遺体の状況

イギリスに住むケビン・クロスは、13年前、最愛の妻クリスティーナを病気で失った。あきらめきれない夫は、葬式から3日後に妻の遺体を墓から掘り返し、裏庭に死体用の部屋を建築。内部に300万円をかけて防腐設備を作り、毎日のように亡き妻に話しかける毎日を送っている。「ようやく彼女のことが理解できるようになったんだ」が、近ごろのケビンの口癖だという。

# カミソリ石けん



とあるマイナーな劇団員であるHさん（男性・26才・都内在住）の元には、毎週、同じ人物からファンレターとともに、カミソリを混ぜ込んだ石けんが送られてくる。意図は全く不明だそうだ。

# マネキンの首のプレゼント



S県に住むOLのTさんの自宅へは、毎月、送り人不明でマネキンの首が届く。すでに手元には6個の首があるが、怖くて捨てられないそうだ。



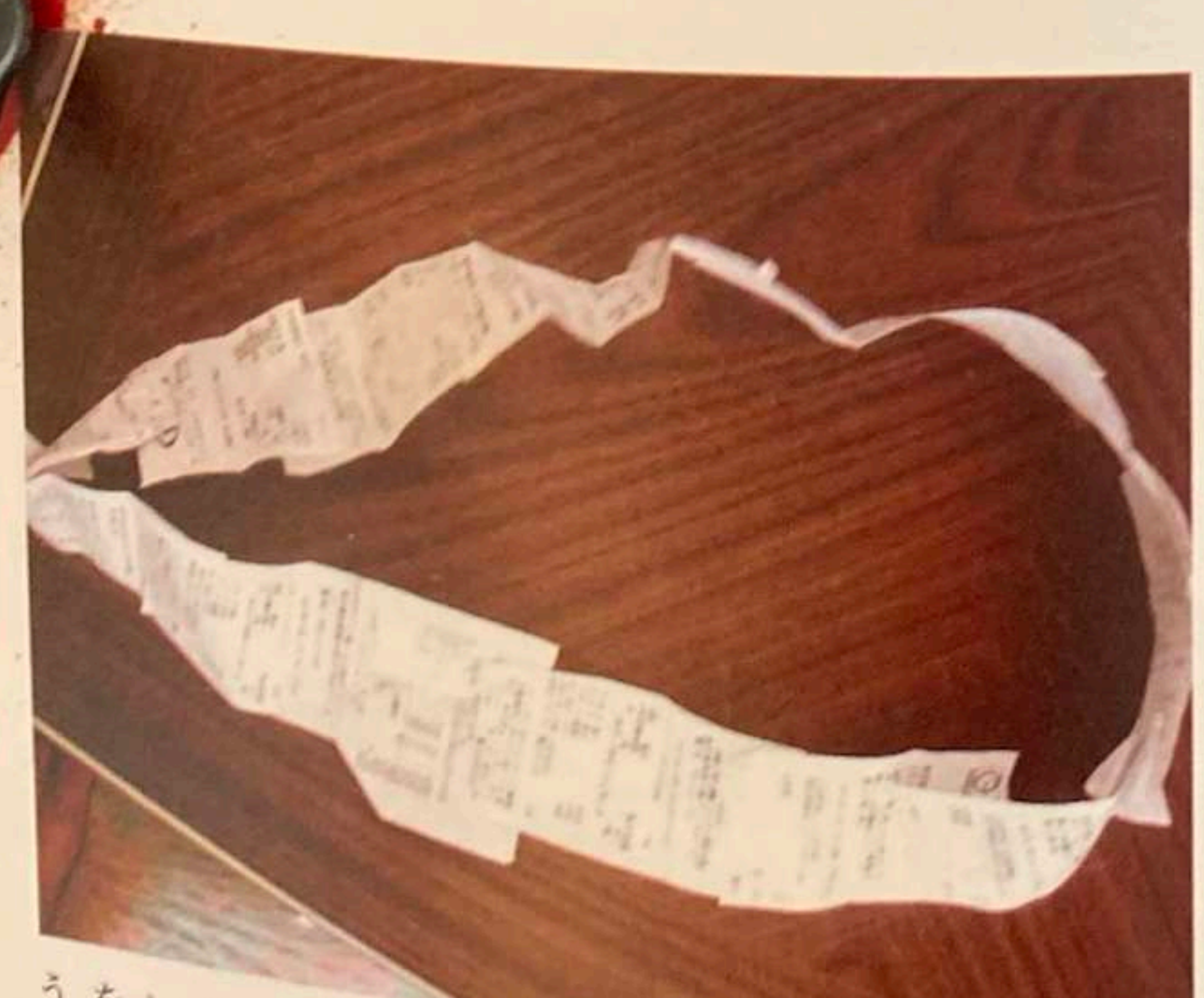


# 人の骨でできたサイコロ



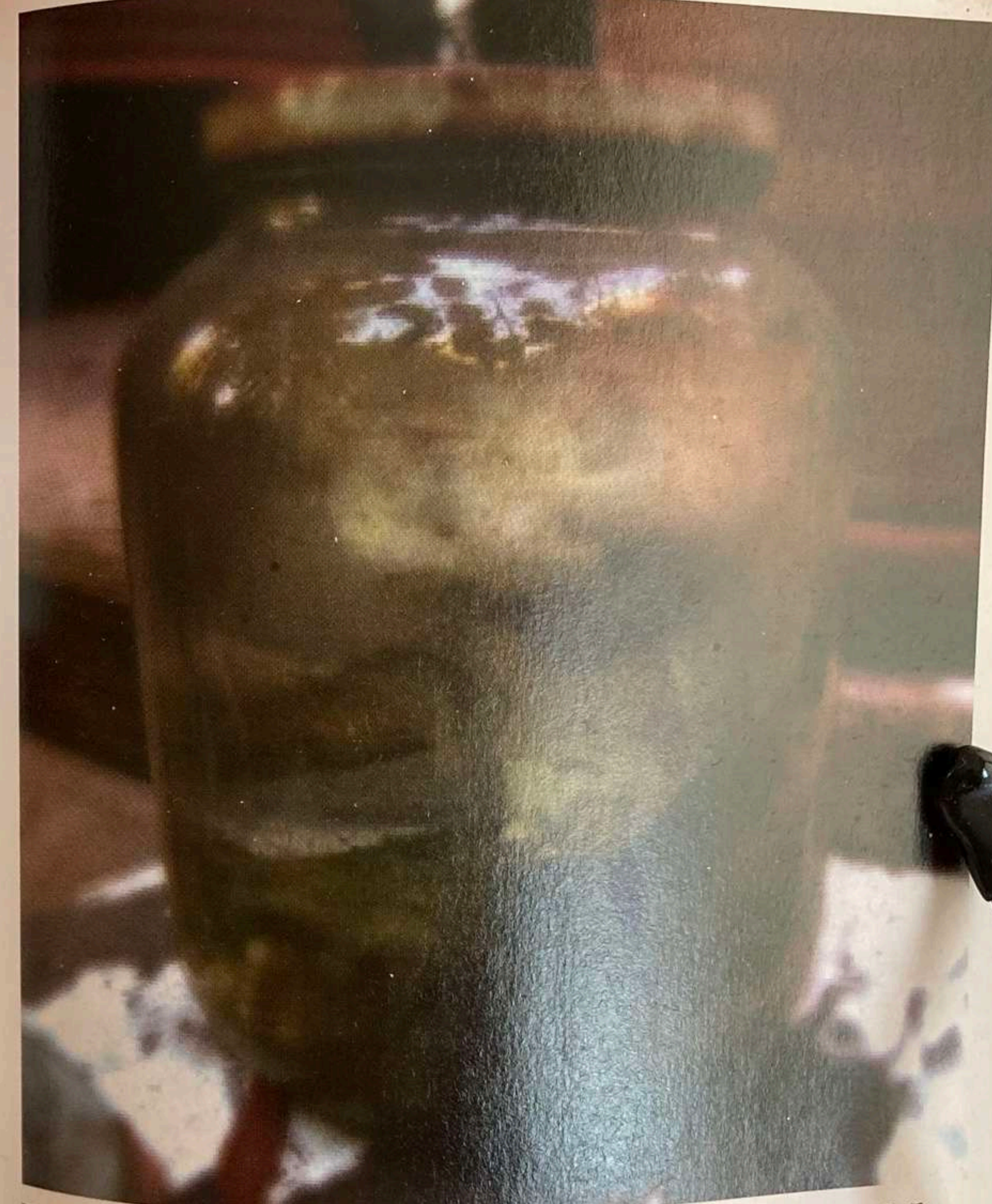
アメリカ・フロリダ州に住む女性ノニー・ラッセルさんの元へ、ある日、見知らぬ男が送りつけてきた謎のアイテムである。警察に届けたところ、間違いなく人の骨を彫って作ったもので、カルシウムの減り具合から見て数十年前に死んだ人間のものだという。その後、送り主の男からのコンタクトはないそうだ。

# レシート製のネックレス

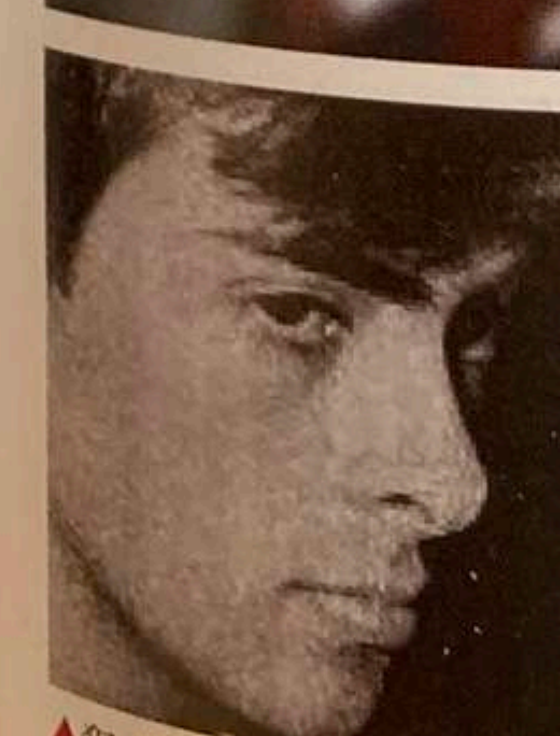


静岡県に住む女子大生のMさんは、出会い系で知り合ったばかりの彼氏に誕生日プレゼントをねだったところ、コンビニの買い物レシートで作ったネックレスを渡された。最初は何かのギャグかと思ったが、デートのたびに「なんで、あのネックレスはつけてきてくれないの？」と真顔で聞かれるので、いま真剣に別れを考えているそうだ。

# 殺人鬼が愛した謎のビン詰め



1960年代、アメリカ・テキサス州のスーパーをナイフで襲撃、7人の女性を殺害したのが、写真の男、ロバート・アギルである。20才ごろから人殺しの妄想に取り付かれ、警察には「家に宝を置き忘れた」と語った。そして、アギルの家を調べた警察が見つけたのが、写真のビンである。公式発表によれば、中の生物は「腐敗が激しくてわからない」とのこと。当時の科学捜査ではそれ以上の結論は出ず、ビン詰めの正体は不明のまま、アギルは死刑に処された。



▲犯人のアギル





# 人形として暮らす人々

写真は、全身にアニメ調の着ぐるみをかぶり、人形として暮らす、俗に「ドーラー」と呼ばれる人々である。大半は、日常では普通の会社員だが、休日には手製の着ぐるみで町に繰り出し、あくまで少女として公園で本を読み、カフェで雑談にふけるのがお決まりだ。







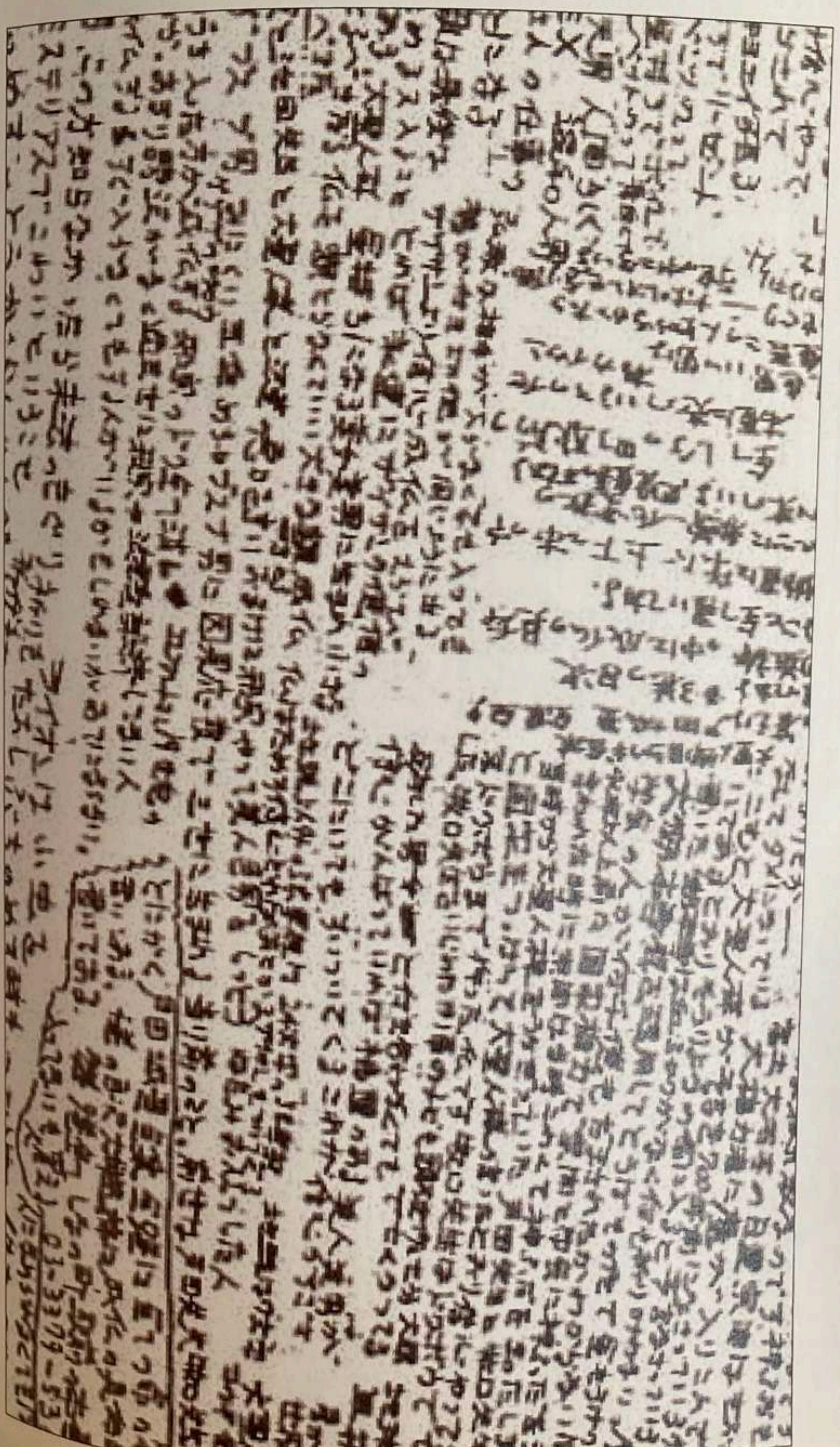




# 美男美女とは、すべて因果応報であります

03年ごろ、都内の様々な家に投げ込まれた謎チラシである。あまりの文字の密度に、内容を判読するのは不可能に近い。

かろうじて中身を読んでみると、美男美女が生まれる理由について、すべては「因果応報が原因だ」と主張するのが目的のようだ。

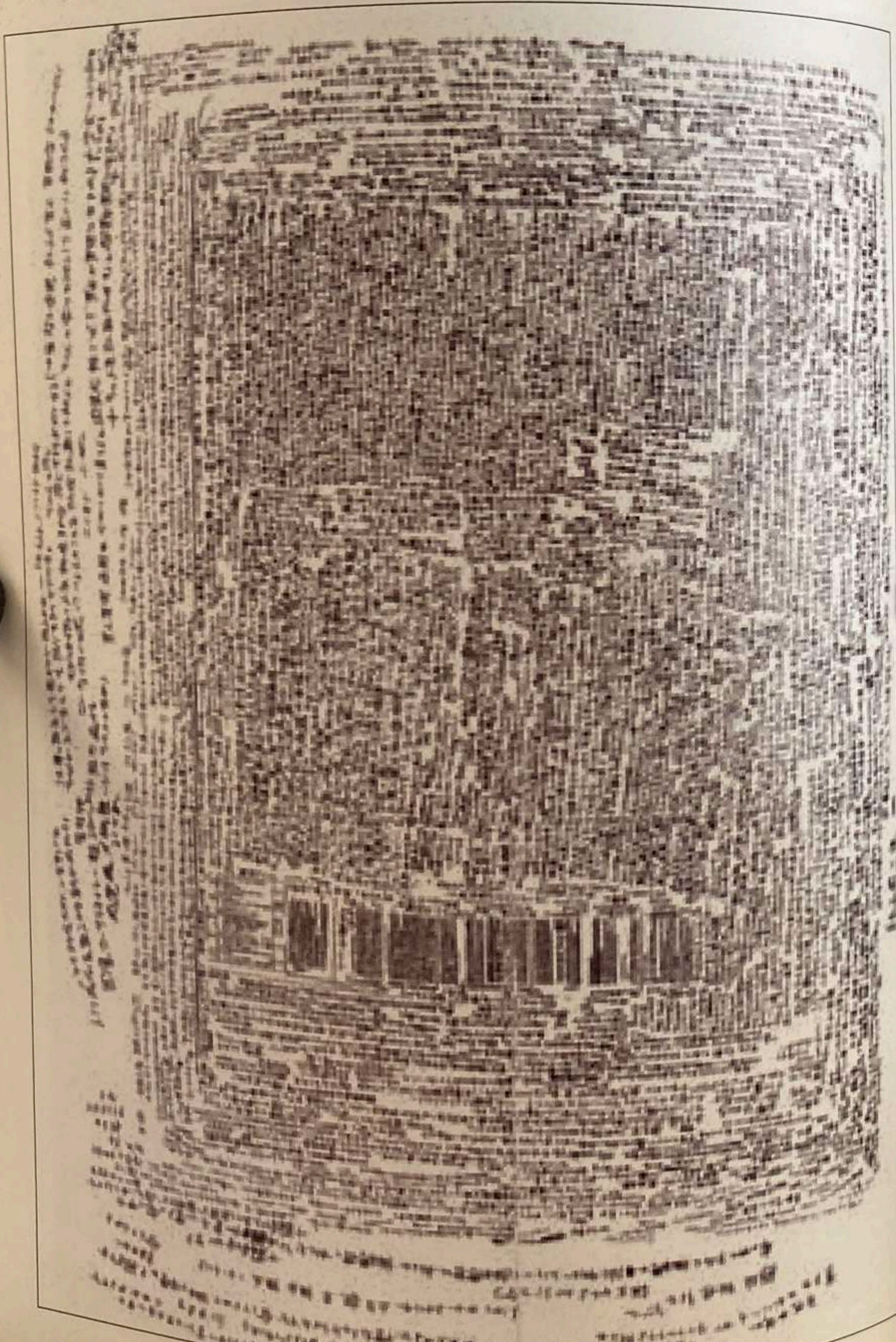




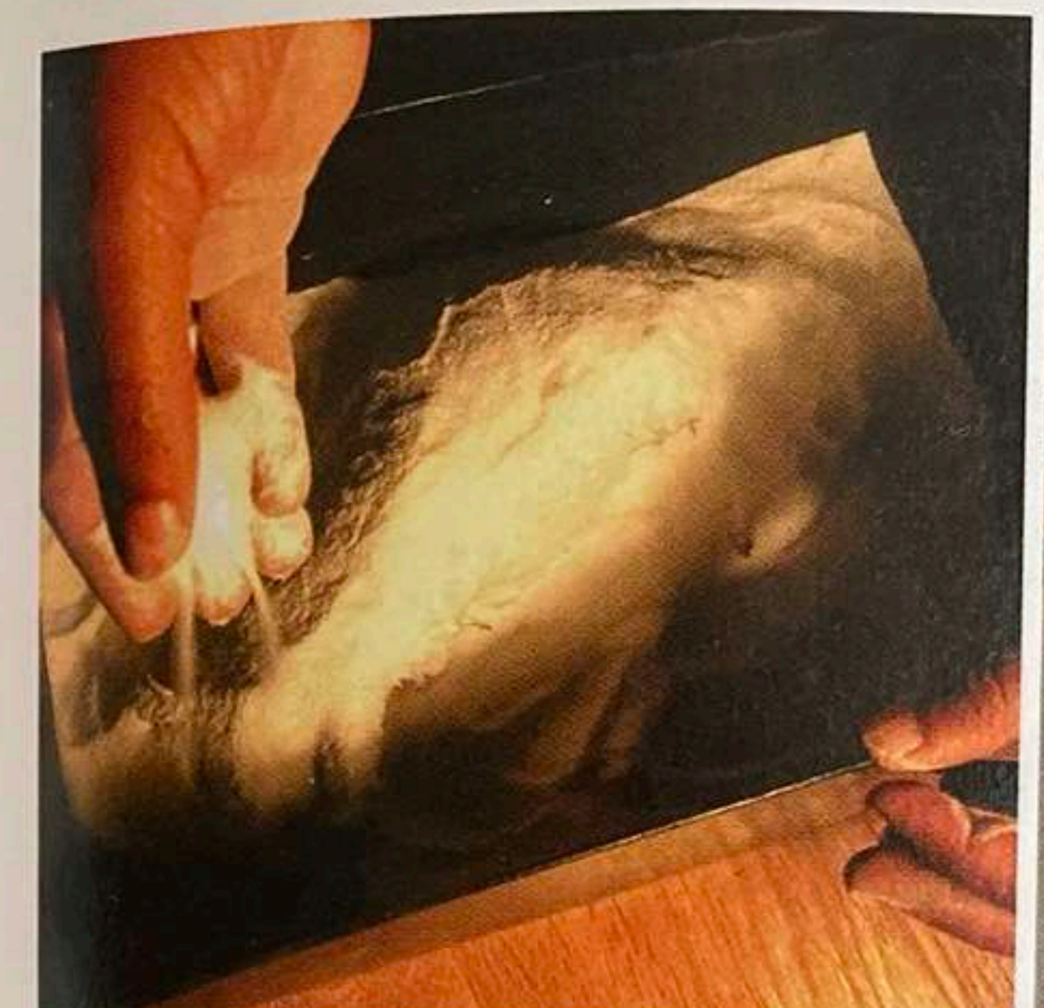


一方でハンサムでない人間にはやたらと厳しく、「みにくい顔に生まれたのは自分のせいであります」などと妙に辛辣なことが書いてある。

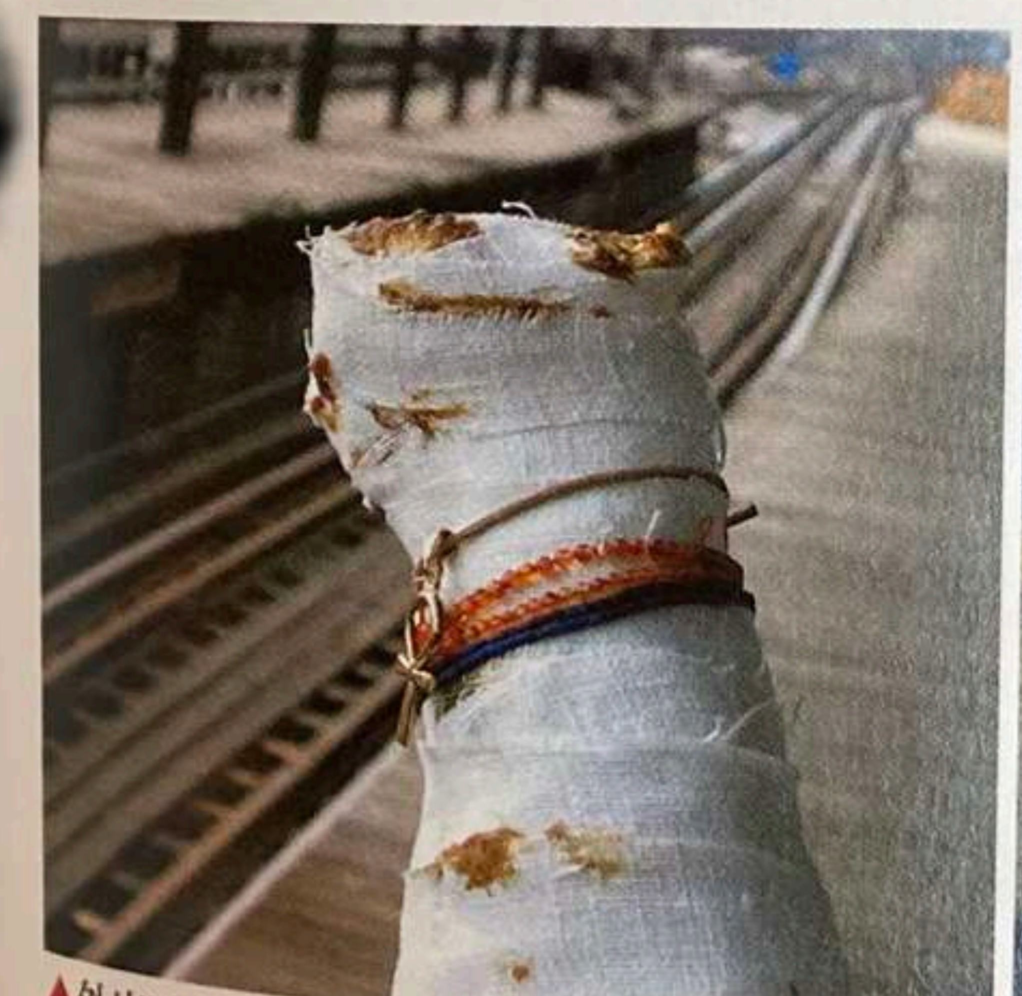
ちなみに、このチラシの書き手が考える美男美女とは、オードリー・ヘップバーン、アランドロン、郷ひろみ、本木雅弘、谷隼人など。



# 最愛のネズミをミイラにして暮らす男

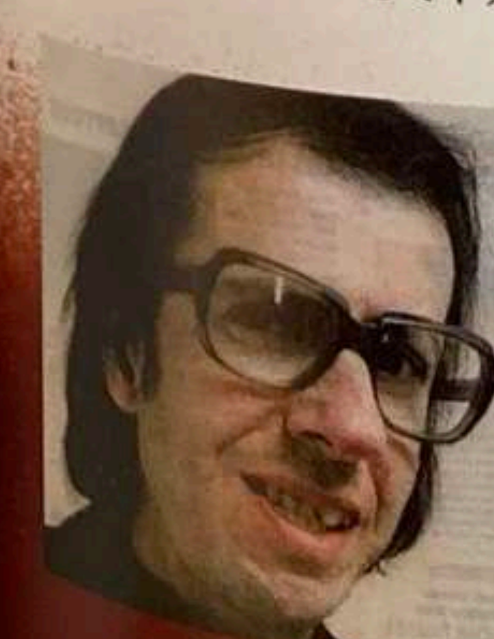

▲防腐剤をまぶして…


▲死んだネズミに


▲外出時は、いつもミイラを持ち歩く


▲包帯でグルグル巻きに

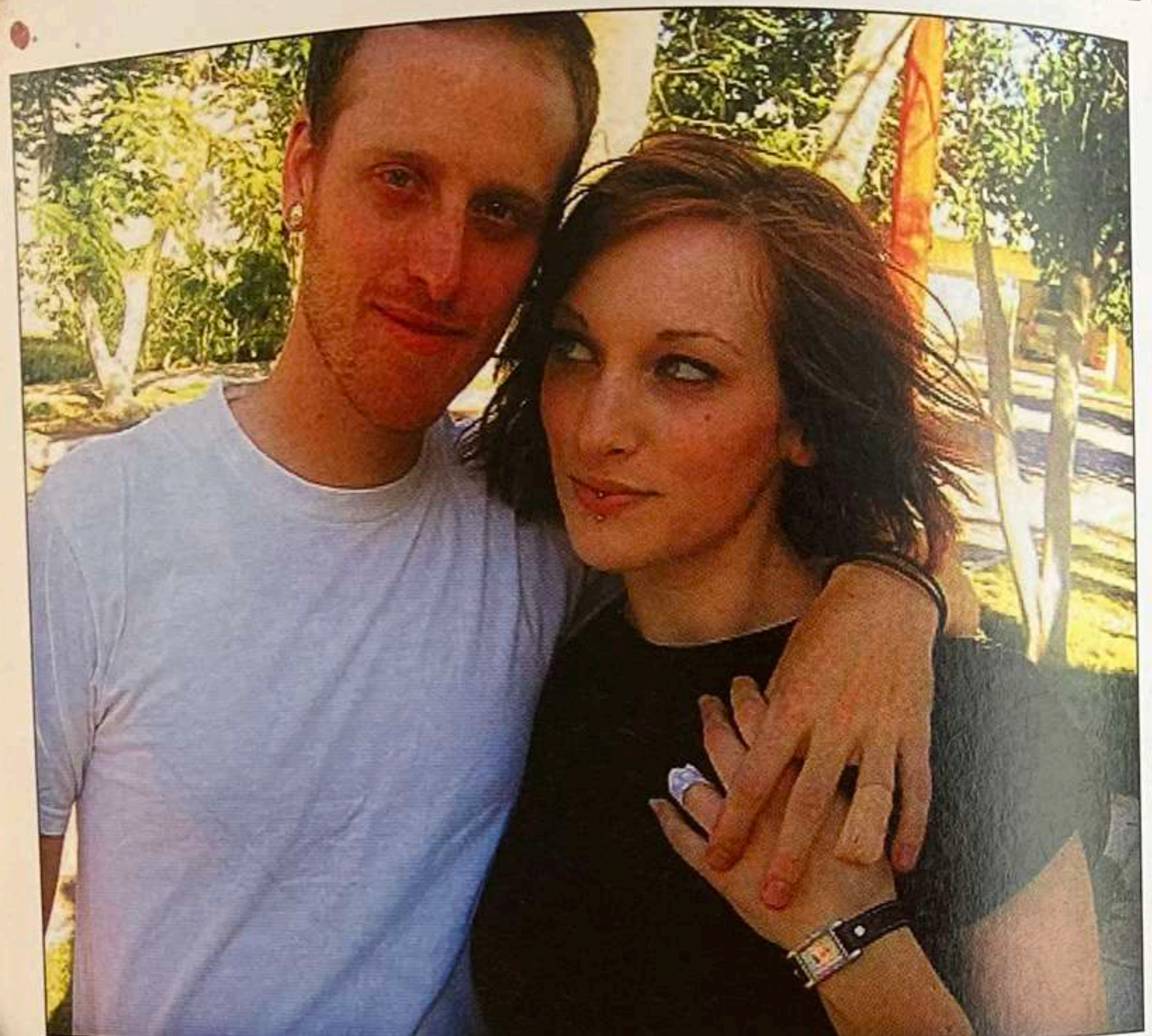
一連の画像は、あるホームページに掲載された、ネズミのミイラの製作画像である。管理人の男性が、自分が飼っていた最愛のペットが死んだため、永久に保存することを考えたらしい。管理人氏によれば、「ミイラ化したことでどこにでも一緒に行けるようになって逆に良かった」とのこと。

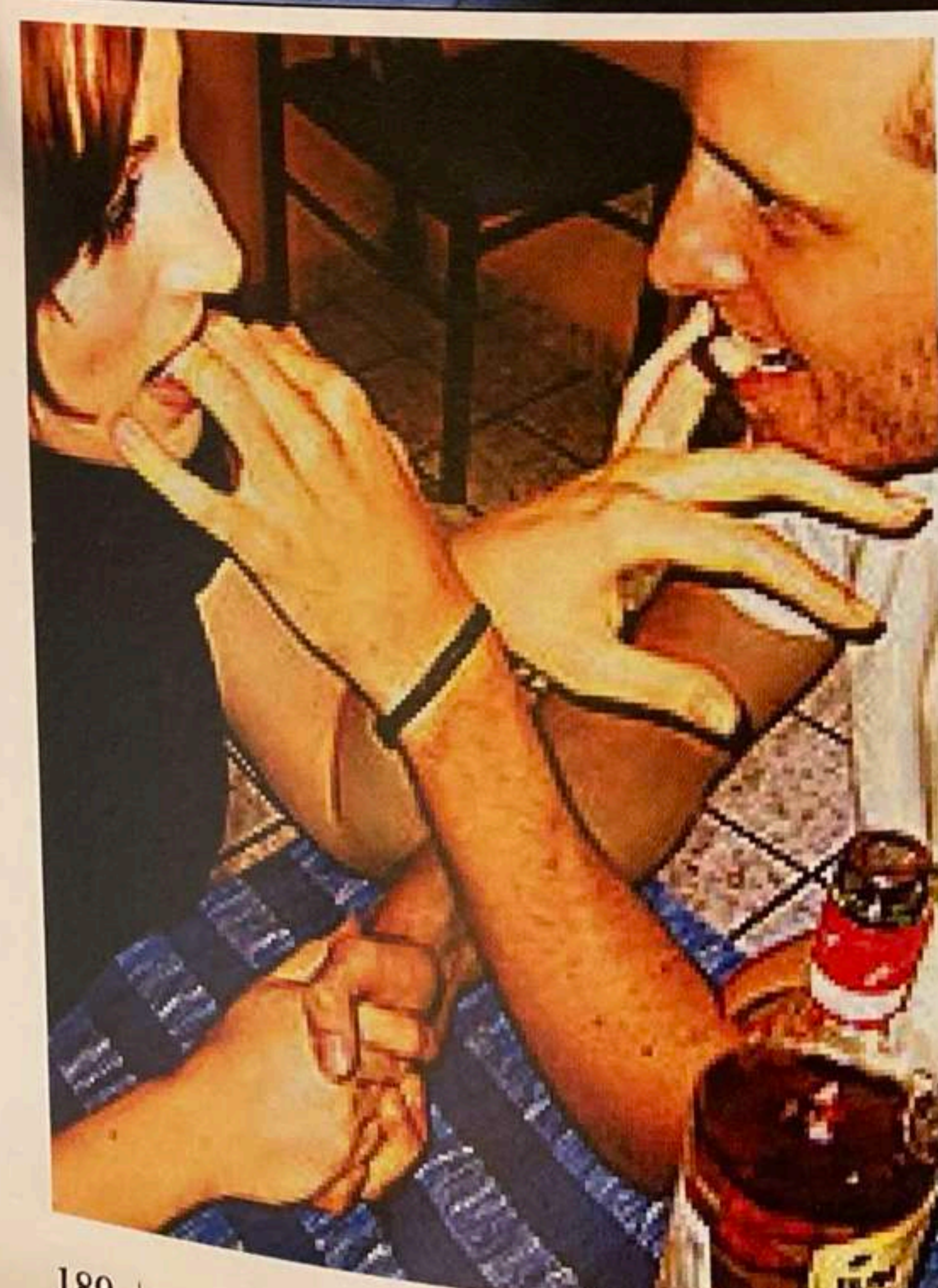

◀ミイラを作成したサイト管理人の近影





# 互いの指を噛み切ったカップル





アメリカに住むジョンとスージーのカップルは、つきあい始めて2年目に、相手の指を噛みきりあった。互いの愛を永遠のものにするのが目的だったというが、事実とは残酷なものだ。人差し指を失ってから1年後に、ジョンの浮気が発覚。怒り狂ったスージーが別れを申し渡し、いま2人は取り返しのつかない行為を激しく後悔しているそうだ。

# タイの人体パン屋



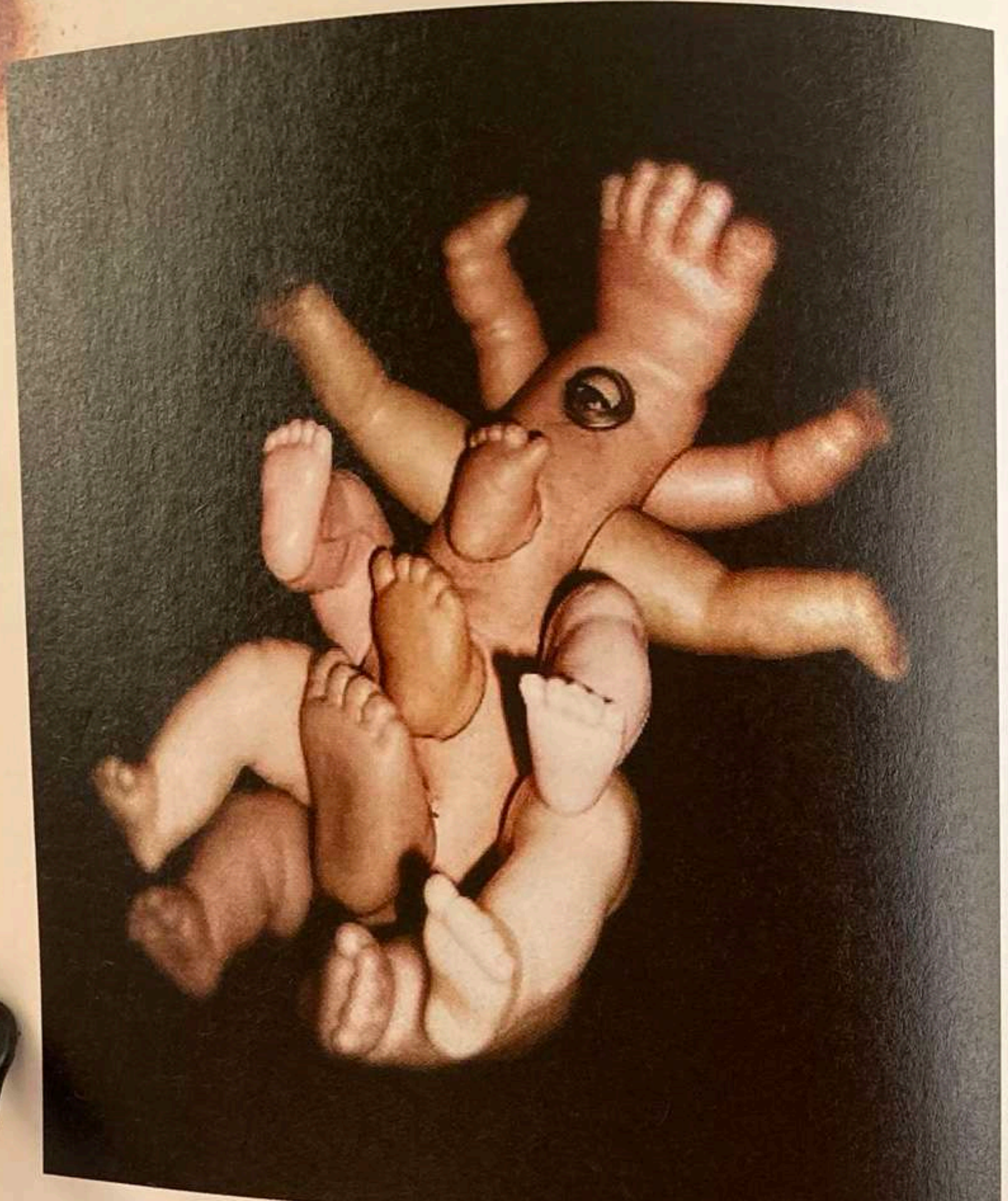


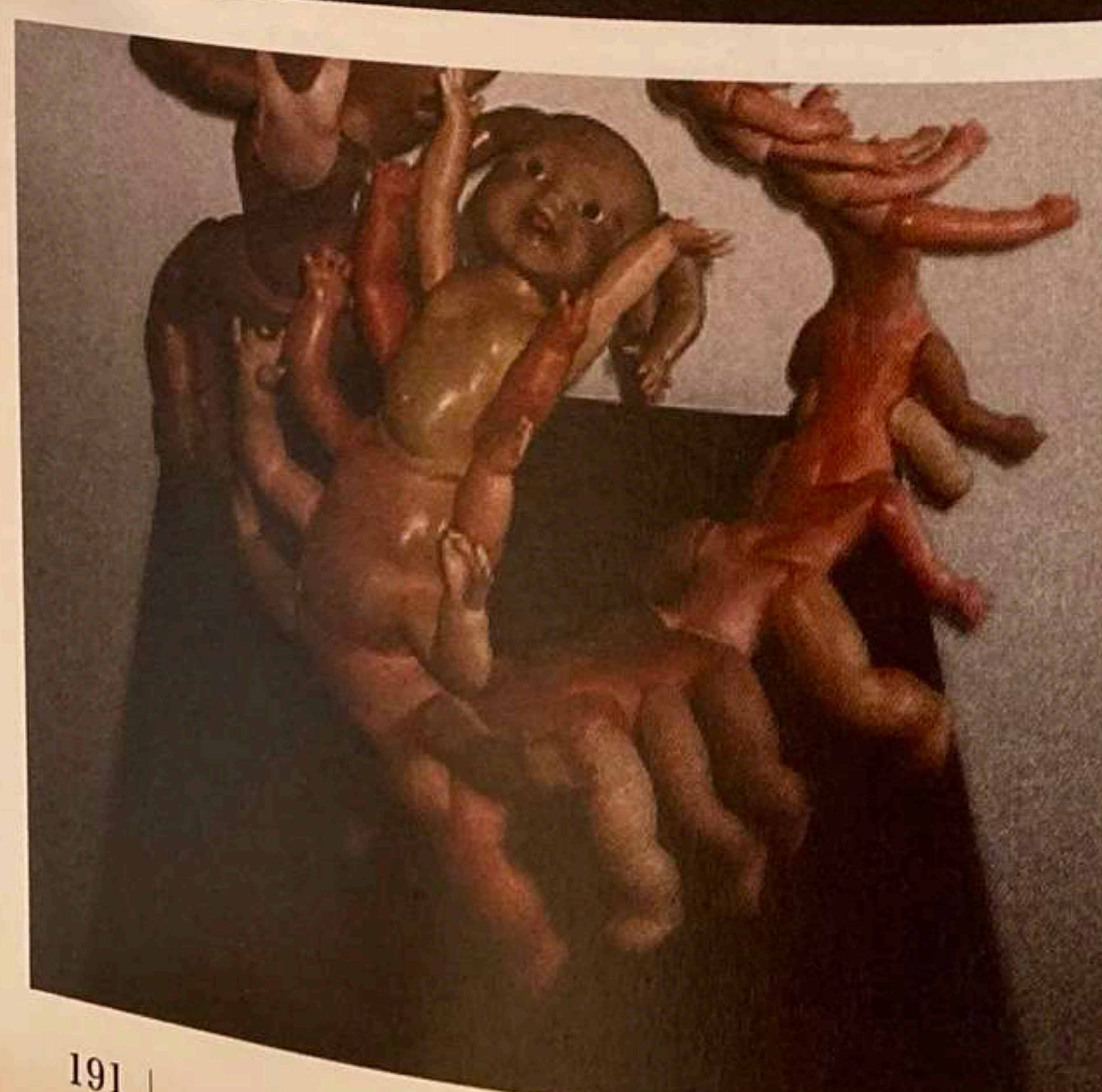
一瞬ギョッとするが、本物の人体ではない。これは全て「パン」、あの食べられるパンで作られたシロモノである。タイ・バンコクの中央部にあるパン屋の主人は、ある日要突に「世界を変えうる天啓を得た！」と叫び、写真の人体パンを思いついたとのこと。が、残念ながら売れ行きはよろしくないそうだ。





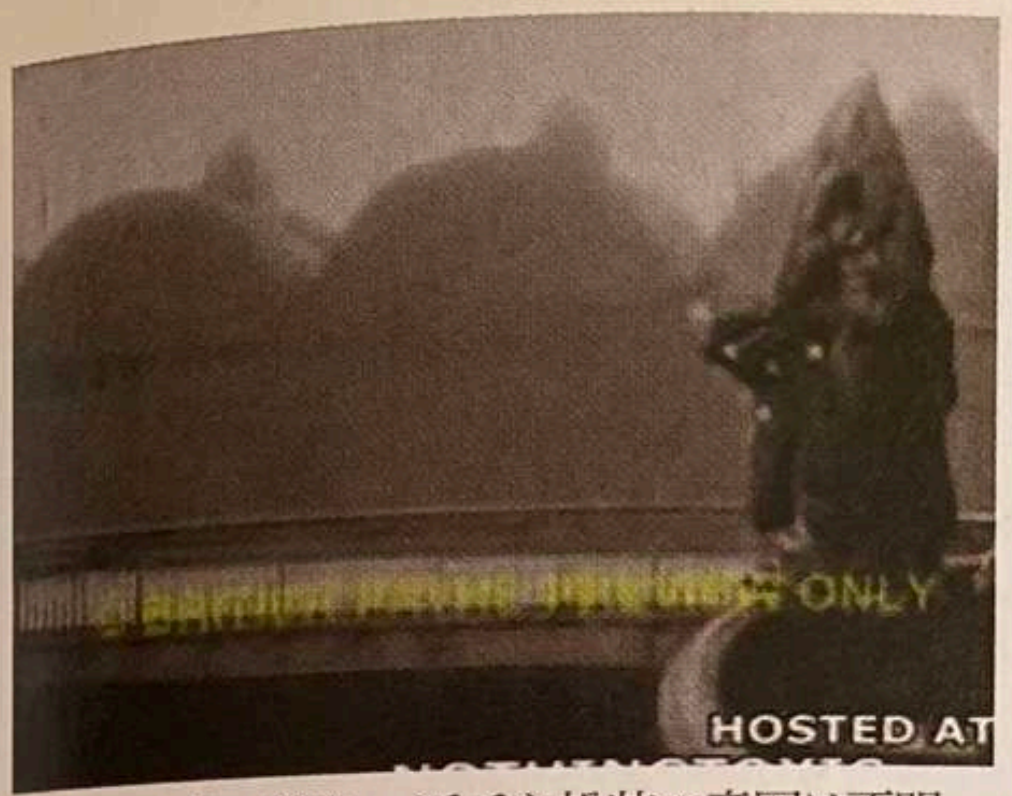
# 幼児殺人鬼が愛したアート



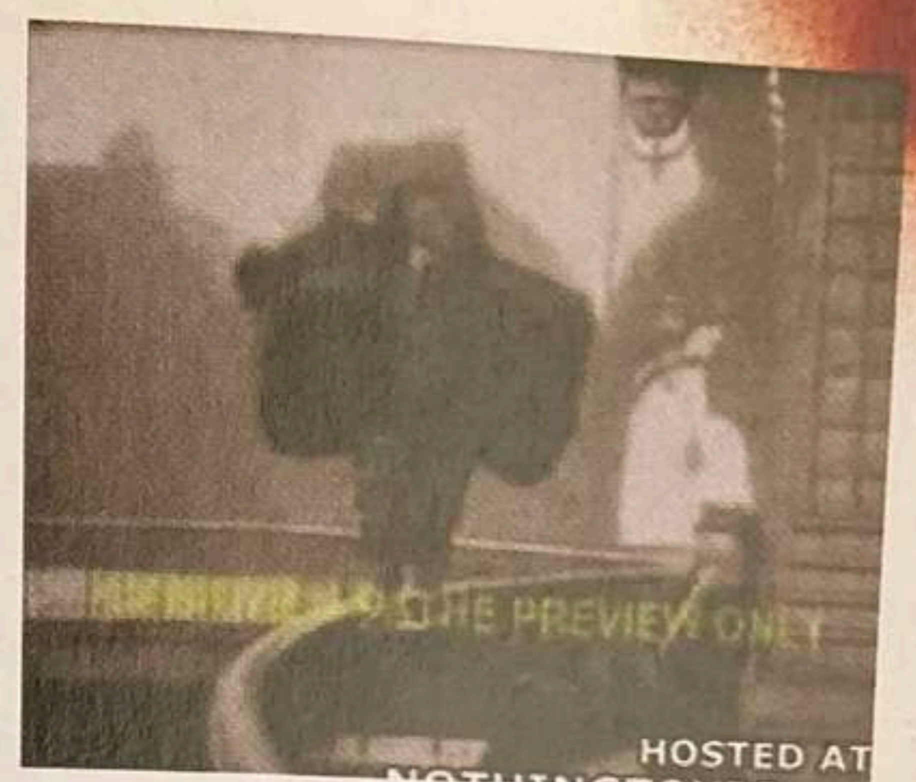


ご覧のオブジェは、ベインというアメリカのアーティストが作ったものだが、２００６年に7人の幼児をレイプし、さらに腕や足を切断して殺した殺人鬼スティグ・ローゼンが、自宅の棚に何体も飾っていたため話題となった。警察が押収した時点では、精液とおぼしき液体がこびりついていたという。

# 世界最古の自殺映像



▲へりの先に進む。派手な扮装の意図は不明



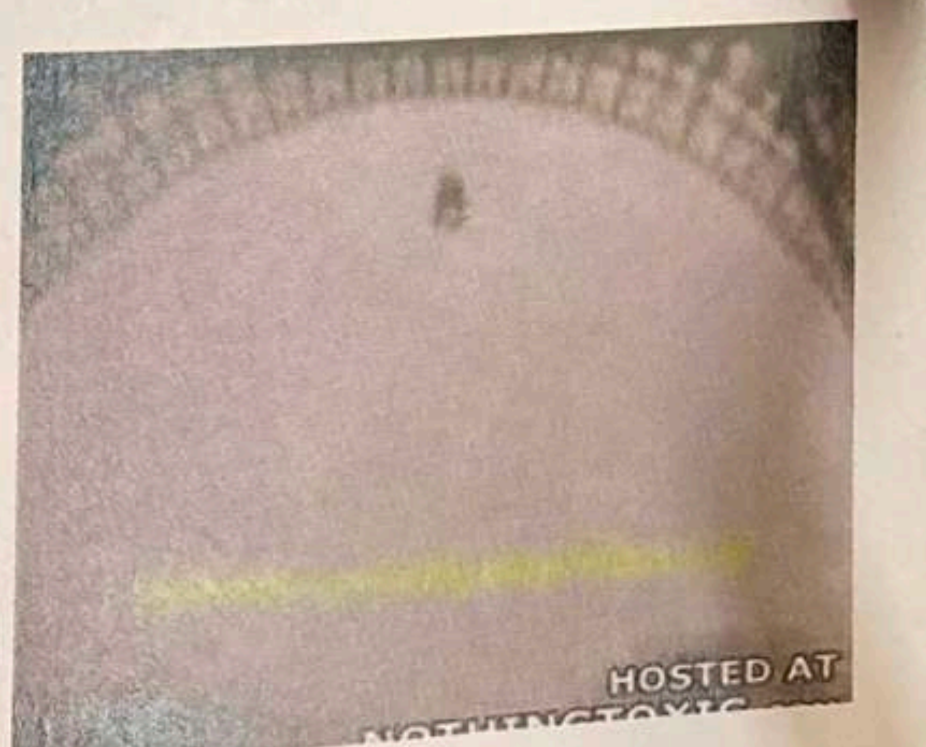
▲エッフェル塔の上に立つ



▲ズルッと足が滑り



▲地面に激突した



▲落下

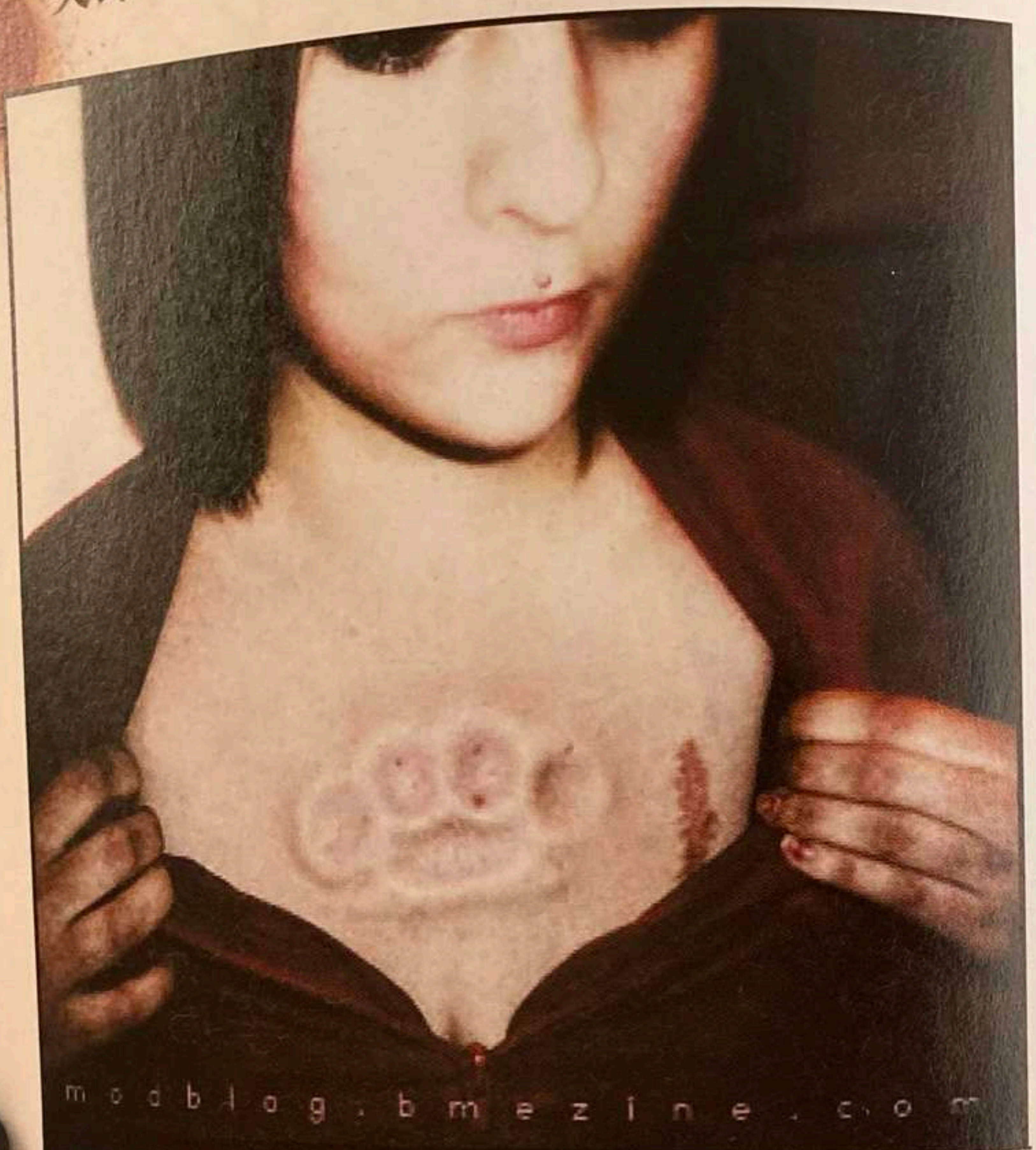
フランスのエッフェル塔は、自殺の名所としてもよく知られたスポットだ。そして、実は世界で初めて人間が自殺する瞬間がカメラに収録されたのも、ここエッフェル塔である。

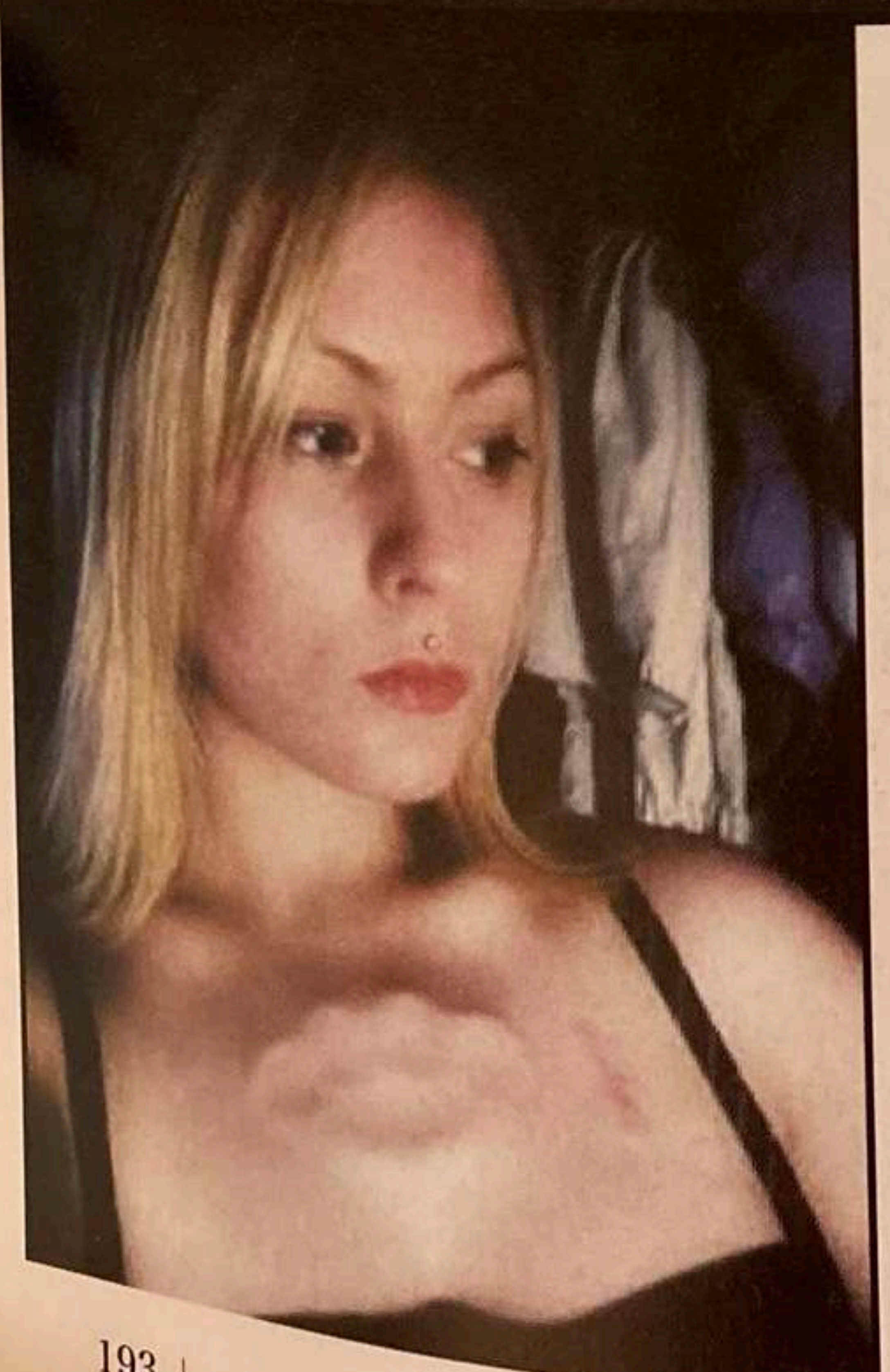
動画が収録されたのは1911年。飛び降りた男は、自分の自殺を撮影させる代わりに、借金をチャラにしてくれるように貸し手に頼んだのだという。





# 胸元にナックルを埋め込む女たち

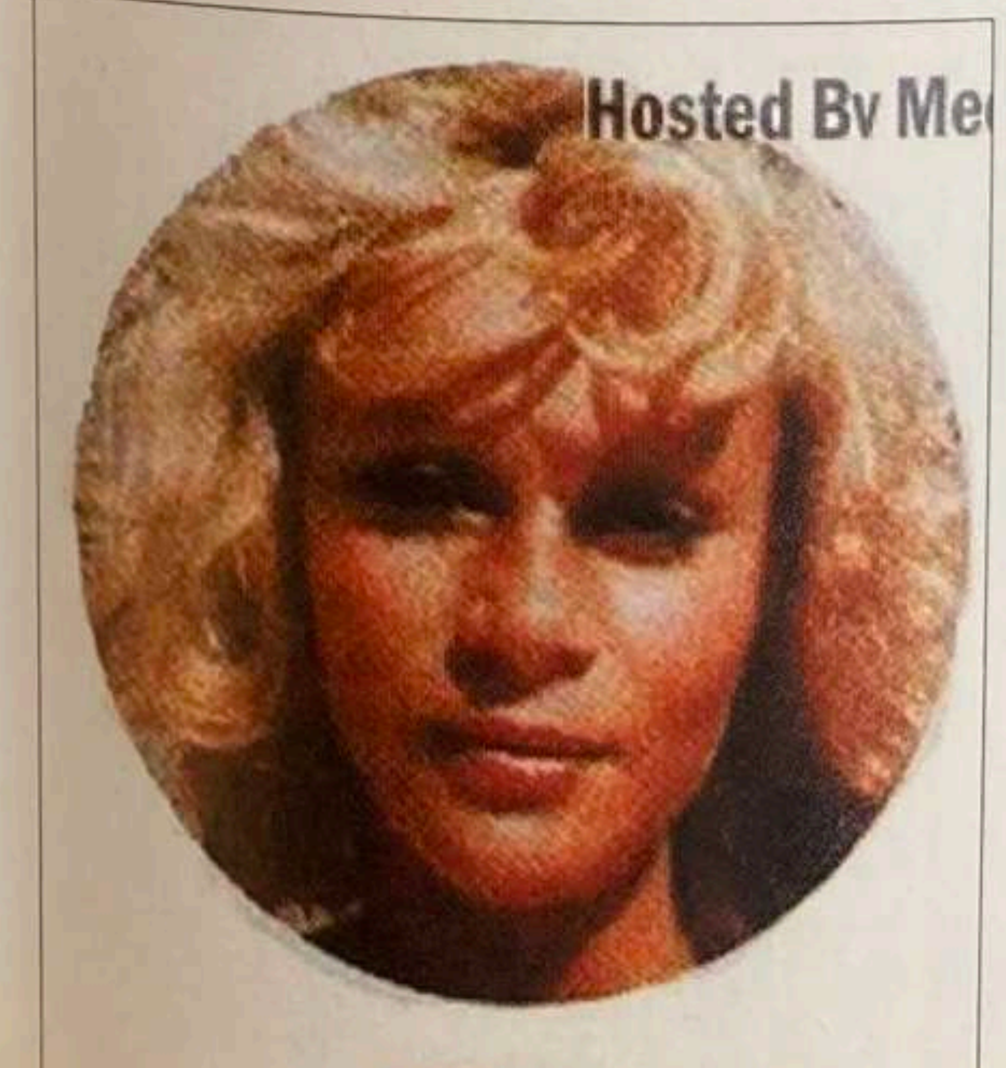


近ごろ、アメリカの一部の女性たちの間で、過激な行為が流行し始めている。なんと、自らの胸元にナックル（指にはめて使う鉄製の武器）を手術で埋め込むのだ。この手術を行うのは、自らの腕や腹部をカッターで切り刻む、いわゆる“リストカッター”たち。自称癖の一環として、胸元を改造するのだとか。

# 整形セレブ、ウィルデンシュタイン夫人




◀整形にハマる前の夫人

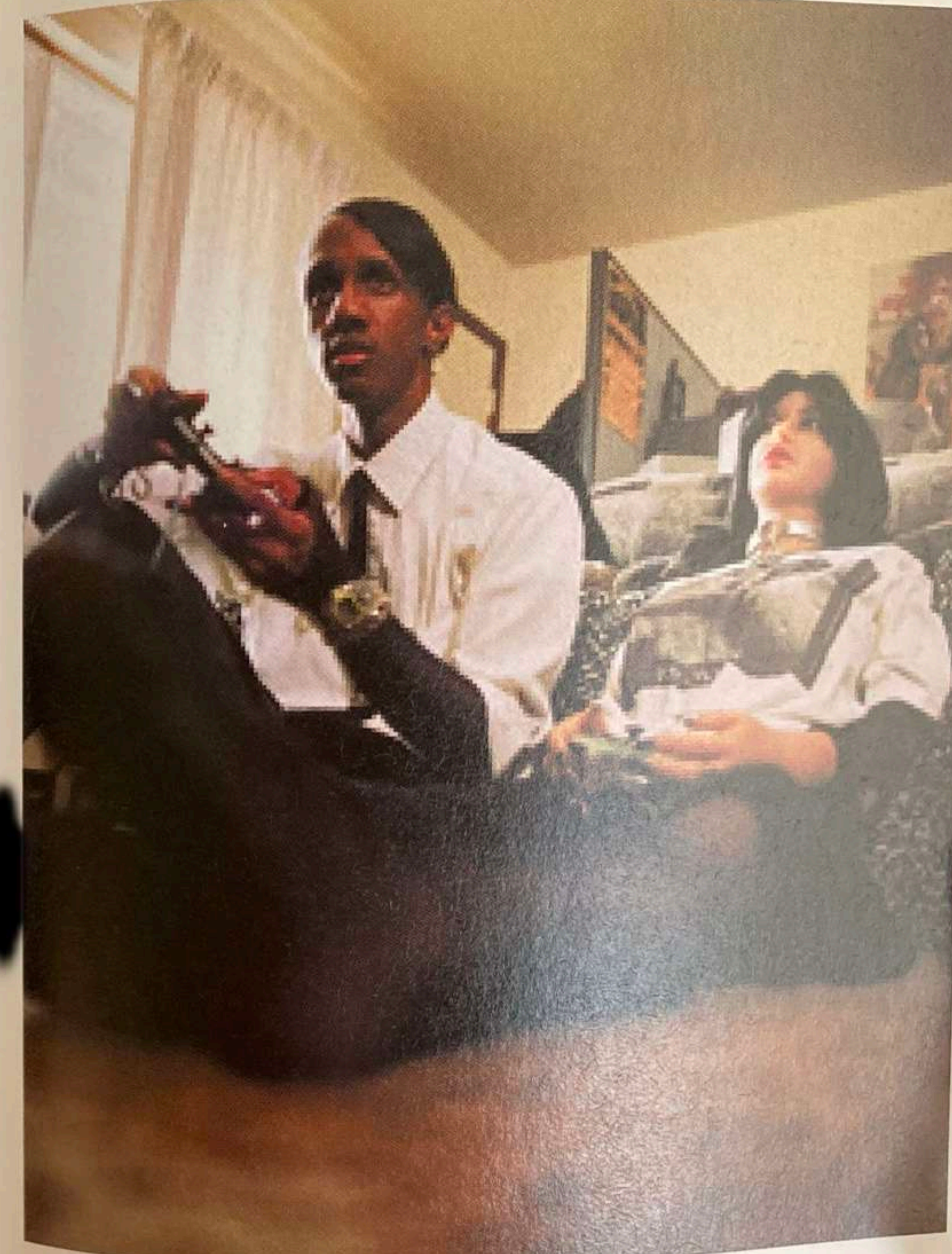
ジョセリン・ウィルデンシュタイン(58才)は、21才の時に億万長者の画商と結婚。その後、夫の心を自分につなぎとめようと、整形手術を何度も繰り返した。が、整形のたびに顔が恐ろしくなっていくため、周囲の人間は「ウィルデンシュタインの花嫁」なるニックネームをつけた。現在までに彼女が整形にかけた金は、約3億円である。






▲夫人の顔の変遷

# ラブドールと結婚したイギリス人



寂しい男性のために、日本の企業が開発した女性型の人形、ラブドール。あまりの完成度の高さに、世界中の男性が輸入するほど人気が高い商品だが、ついにラブドールと国際結婚をする人間まで現れた。

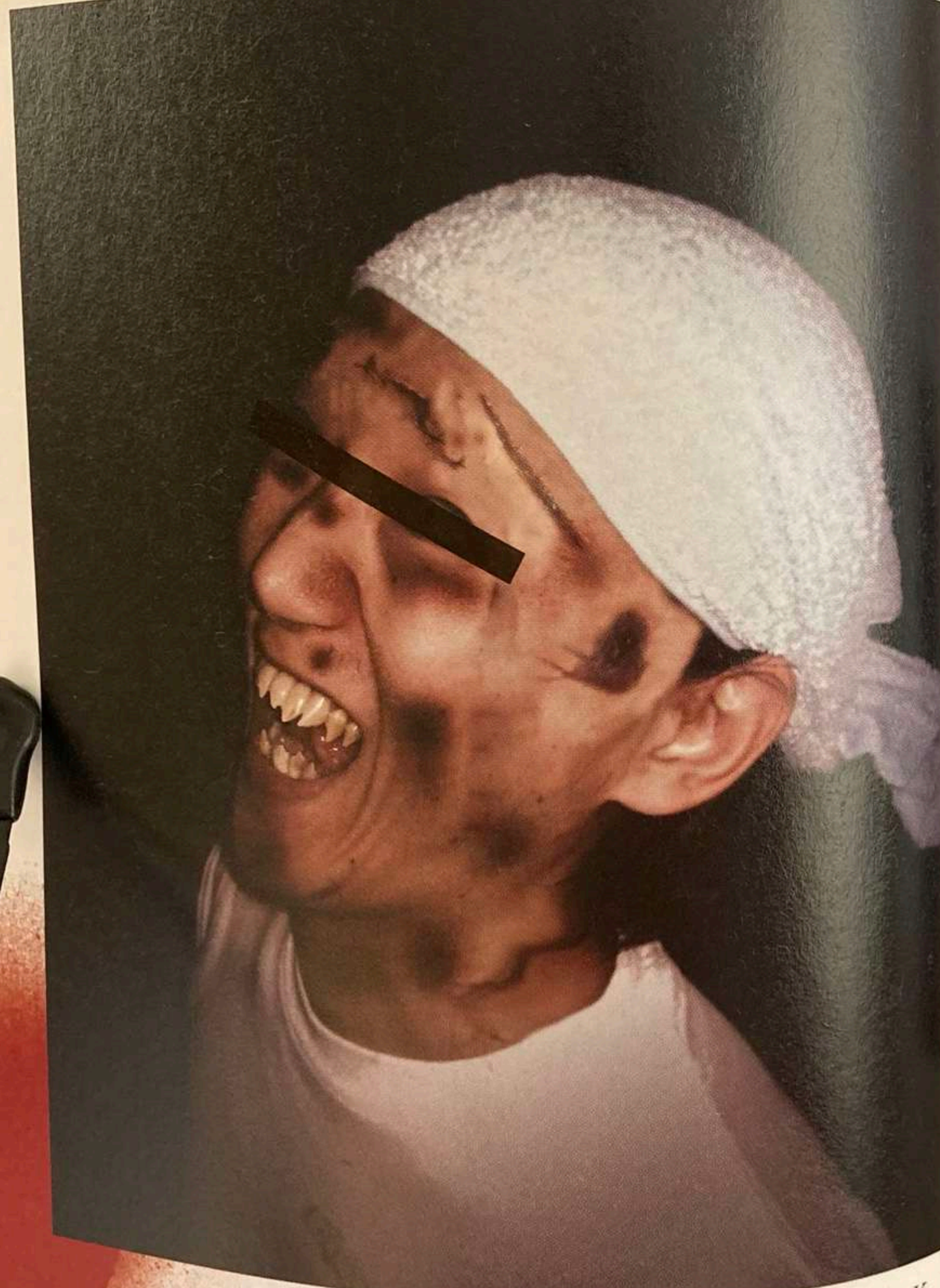
イギリスに住むデイブキャット君は、日本から輸入したラブドールにシードライなる名前を付け、正式な妻として扱っている。財布にはいつもシードライの写真を入れ、映画にも外食にも常に連れて行くのだという。残念ながら婚姻届は受理されなかったが、本人は全く気にしていない。

写真は、ラブドールとテレビゲームで遊ぶデイブキャット君。一応、ラブドールもコントローラーを握っている





# 吸血鬼になりたい男



神奈川に住むK氏は、幼少期から「吸血鬼になりたい」との思いに取り憑かれ、20代を超えたころに、自分の歯を削り、皮膚を白くするために劇薬を塗りたくって、吸血鬼の外見を手に入れようとした。肌のアザは、劇薬のせいでできたシミだ。幸い、まだ他人の血をすすりたいという欲望まではないそうだ。

# ニュースの生放送中に元妻を撃ち殺した男



◀犯人のエミリオ・ヌメツと、被害者の女性



▲射殺の瞬間

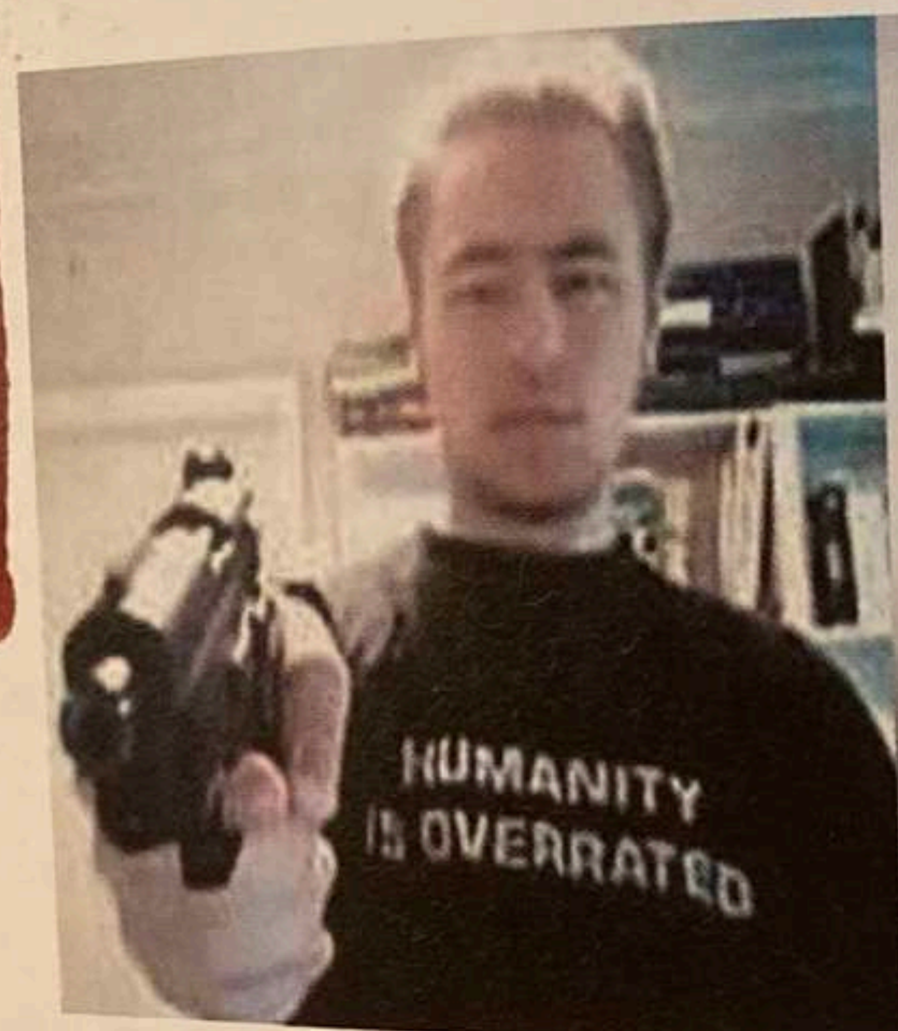
1993年、アメリカ・フロリダ州のテレビ局が、地元女性にインタビューを行っている最中、いきなり男がカメラ前に現れ、女性に6発の銃弾を撃ち込んで殺した。

男の名はエミリオ・ヌメツ。被害者の女性とは元夫の関係で、子供の親権をめぐって争っていたらしい。射殺の模様は、生放送で全米に流れ、犯罪史に残る事件となった。

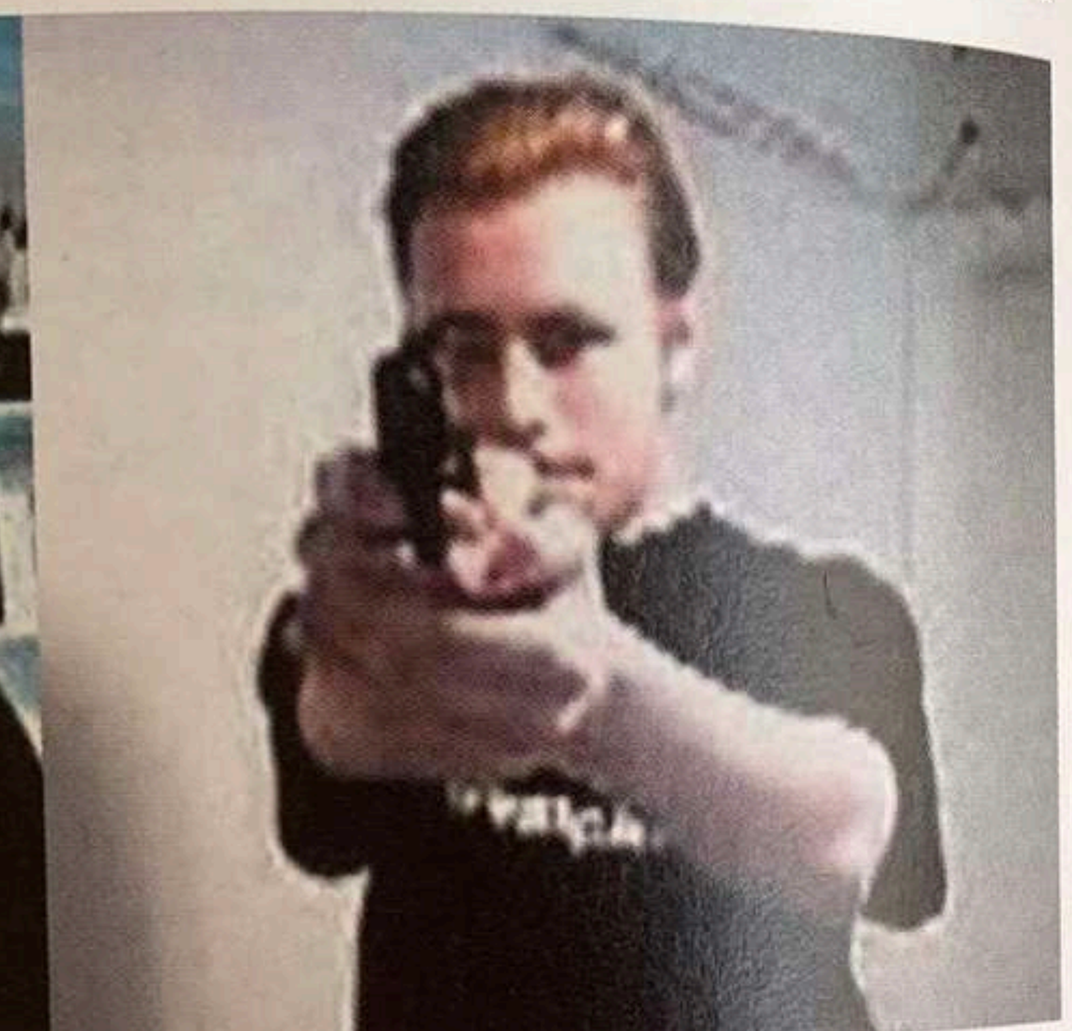




# 高校銃乱射事件の犯人がアップした虐殺予告動画



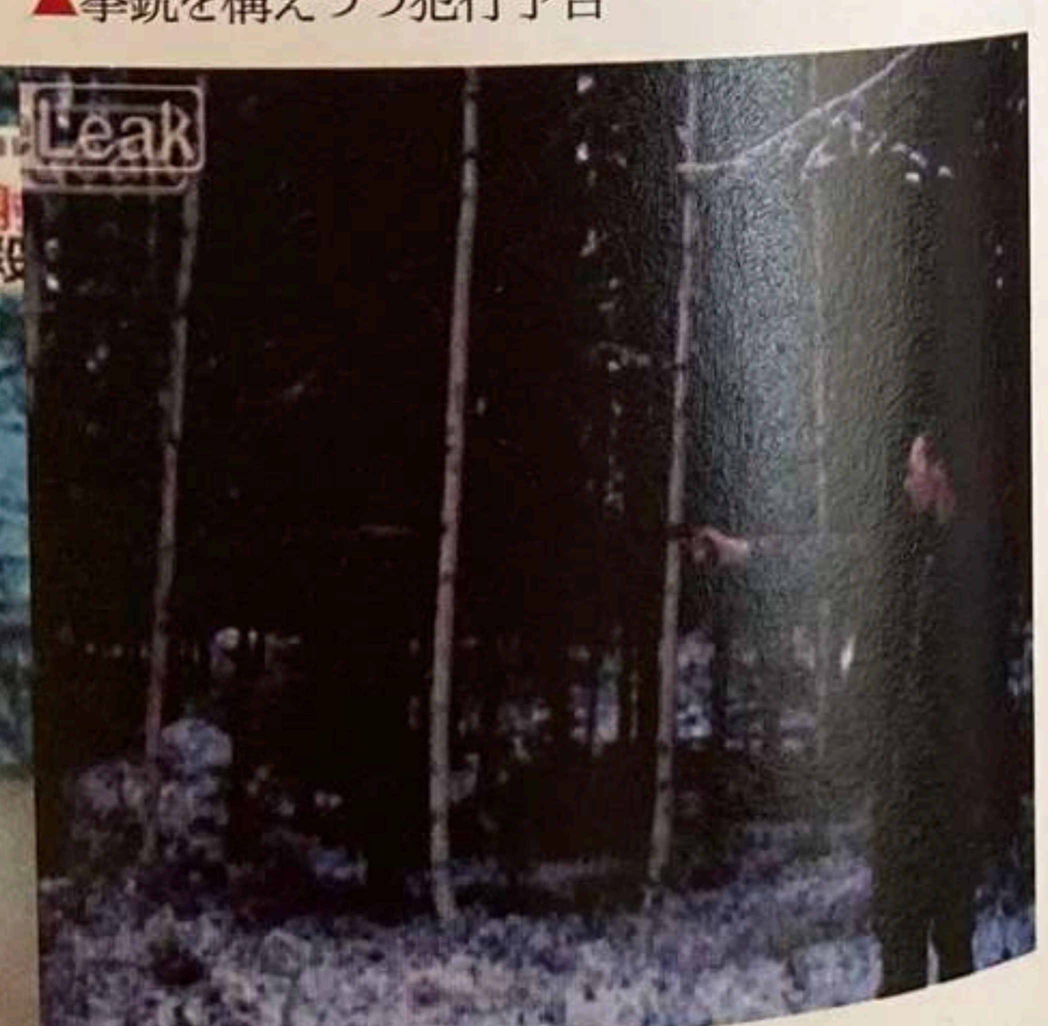

▲「私はクズどもを皆殺しにする」



▲拳銃を構えつつ犯行予告




▲リンゴを撃ちまくる犯人

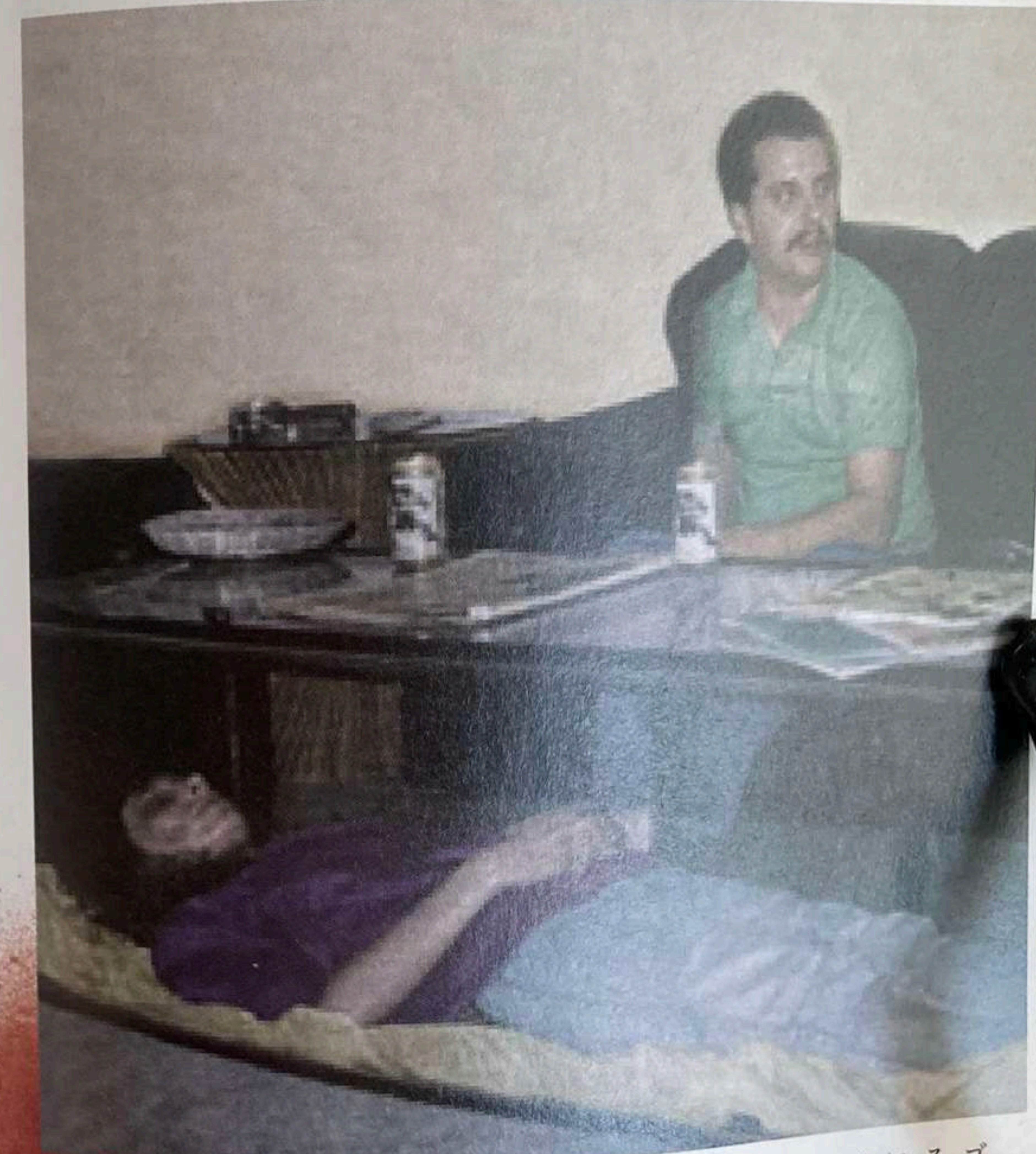



▲銃の訓練をする風景もアップされた

2007年にフィンランドで起きた銃乱射事件の犯人が、犯行前にネットにアップした予告画像である。事件は、ヘルシンキ北方のヨケラ高校で起きた。同校に通う男子生徒(18才)が、授業中の生徒らに向けて銃を発砲。8人を殺した後で自殺した。

男子生徒は、犯行前に動画投稿サイト「YouTube」に「ヨケラ高校虐殺」なるファイルをアップ。「私は大義のために戦い死ぬ用意がある。私は選ばれた者として、不適格者を抹殺する」などと表明し、高校での虐殺を予告していた。

# 死んだ妻のミイラをテーブルにした男



ブラジルに住むロドリゴ・タフトは、23のころに結婚した妻を50才になった夏に失った。悲嘆に暮れた彼は、妻の葬式も上げず、死体に死蝋化させるための防腐処置をほどこしてミイラに。そのまま自宅のガラスボックスの中へ安置し、テーブルとして使っている。友人たちの反応は、さほど悪くないそうだ。

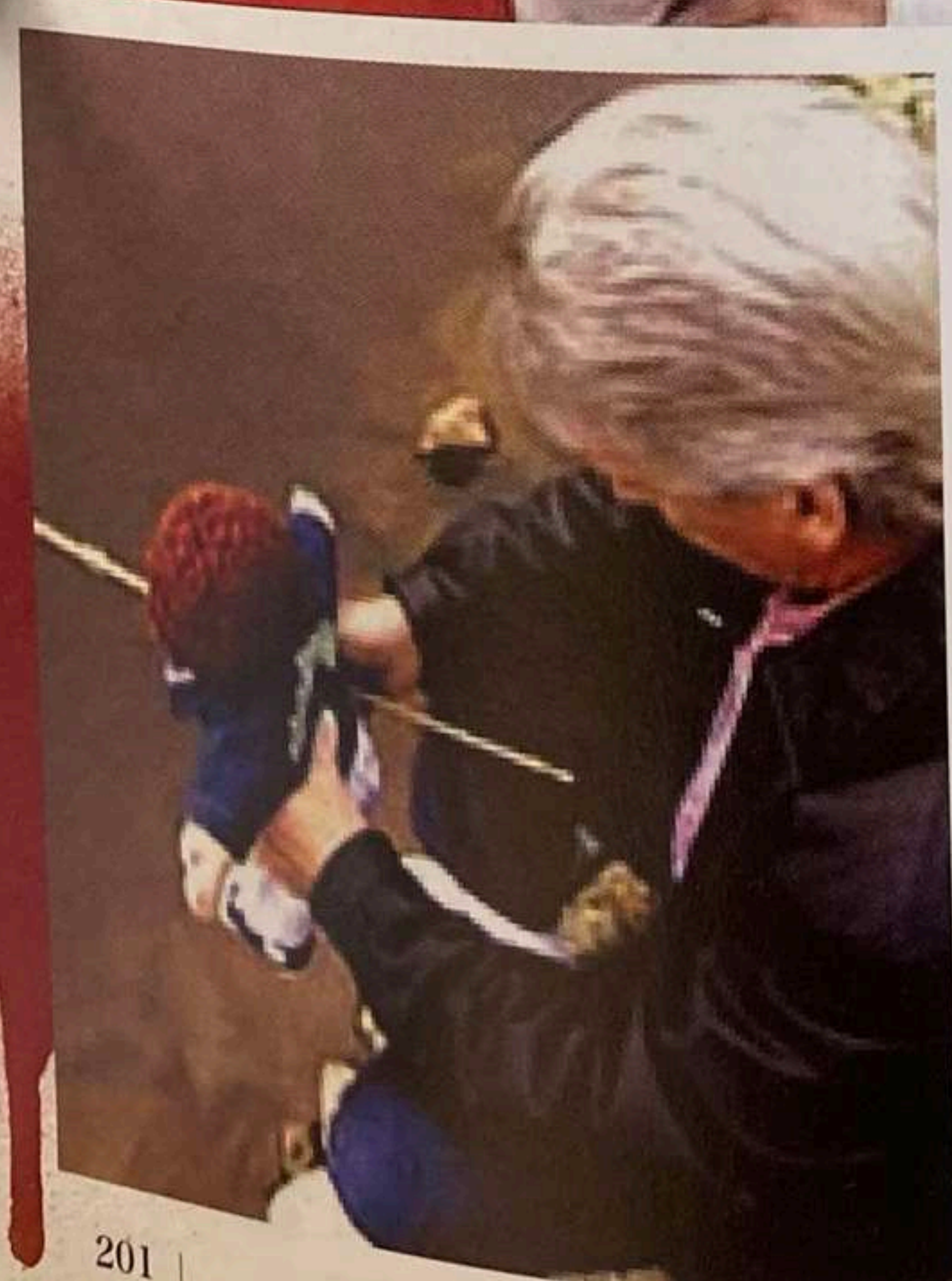




# 我が子はキャベツ人形



アメリカ・メリーランド州に住むボジー夫妻は、キャベツ人形（本物の子供をかたどった人形）をケビンと名付け、本物の我が子として19年間にわたって育てている。人形ごっこではない。大学に行くための資金まで貯金し、定期的に近所の池へ釣りに連れて行くほど、夫婦は「本気」である。ちなみに、ケビンは普段、妻のジョーの口を借りて「しゃべる」のだという。



◀週末はケビンを連れて釣りに行くのが日課になっている

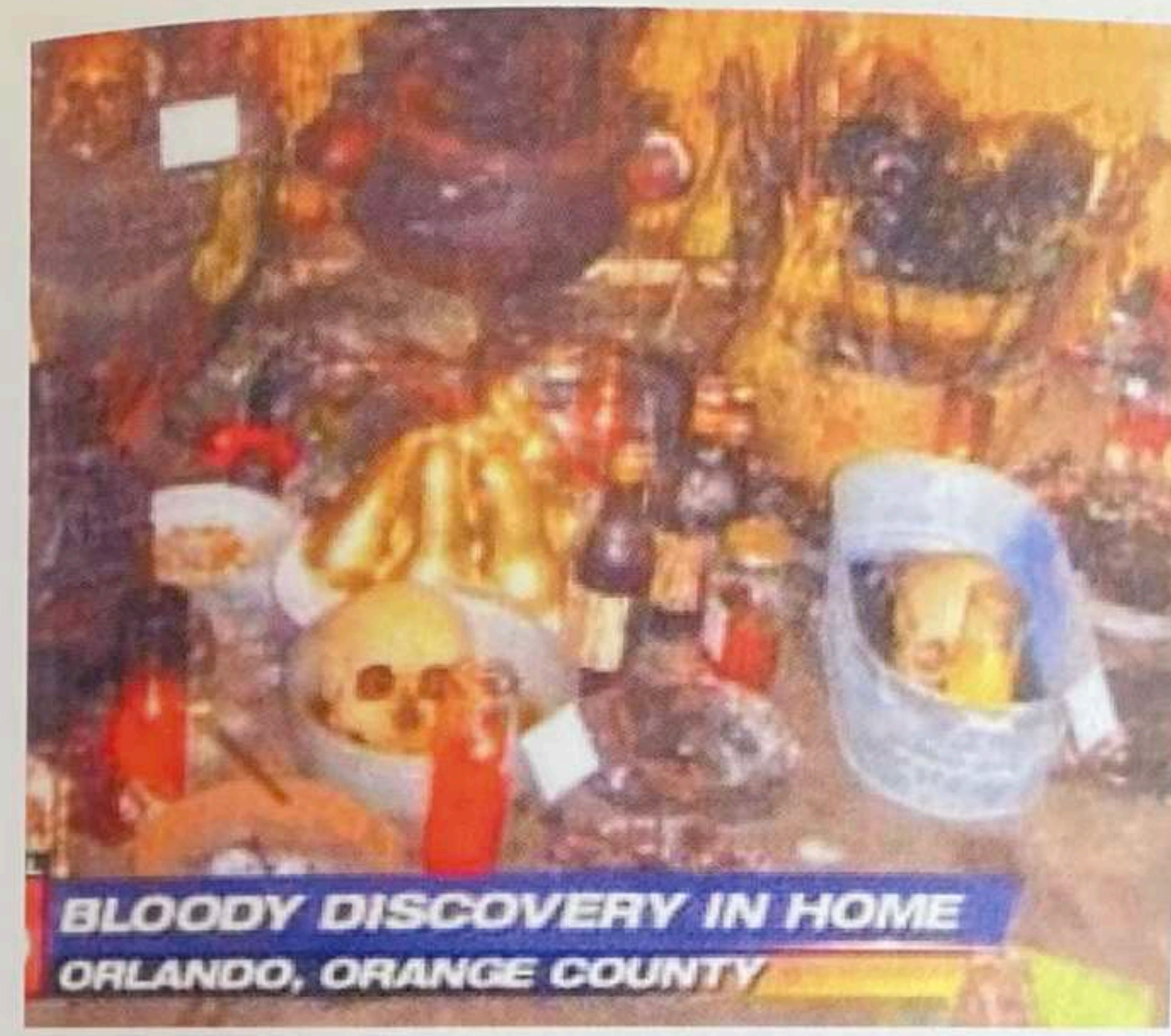
実録サイコ恐怖画像

# 第四章

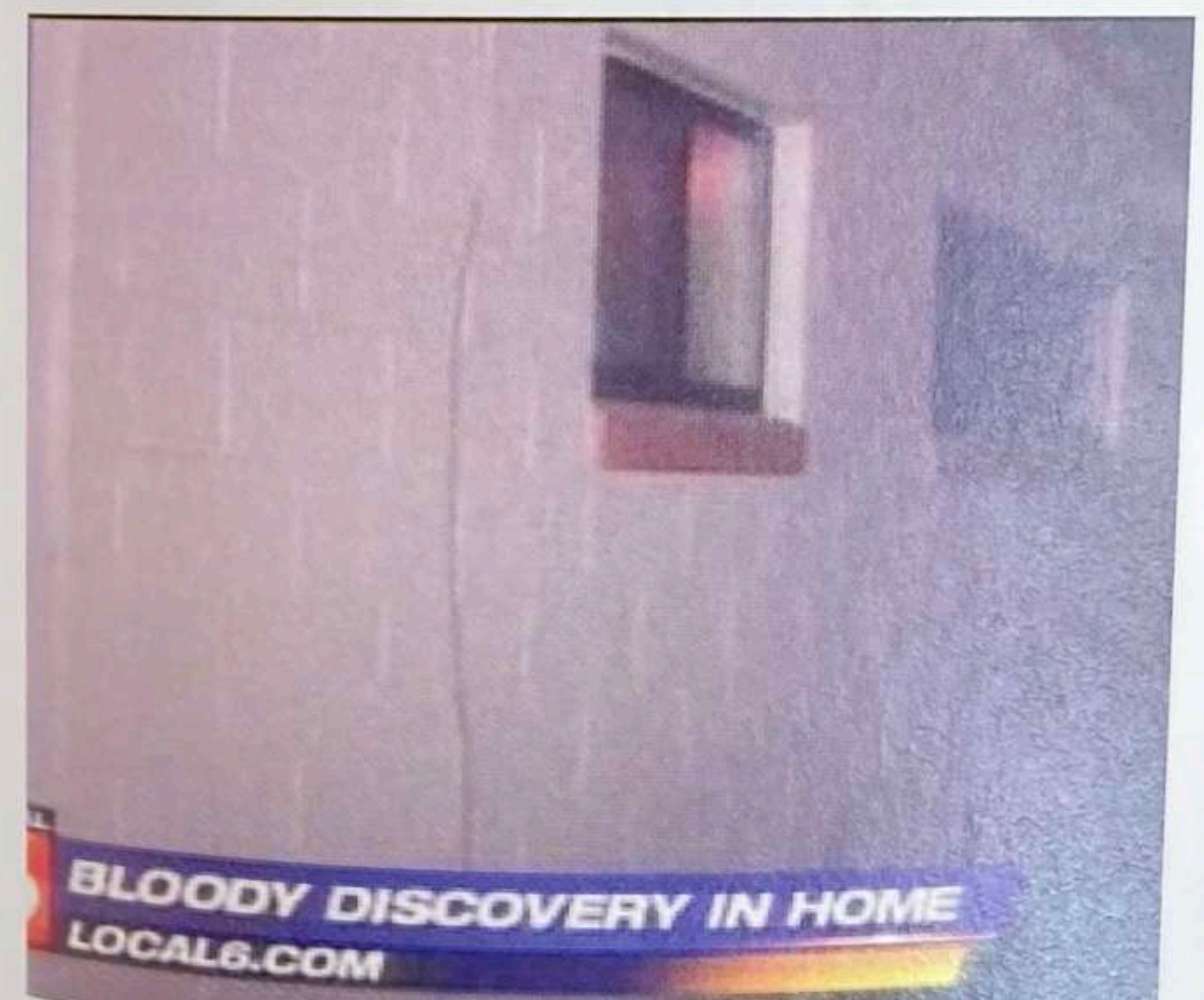
# 謎

# enigma

# 悪魔を崇拝するカルト宗教がいけにえを捧げた部屋




▲外出時は、いつもミイラを持ち歩く




▲外出時は、いつもミイラを持ち歩く

05年、アメリカ・フロリダ州のあるアパートで、大量の人間の頭蓋骨や骨が発見された。警官が踏み込んだ時、室内の壁は血まみれで、床には銃器やコカインが散らばっていた。

報道によれば、この頭蓋骨がどこから入手されたのかは不明（インターネットで購入したとの噂）だが、彼らはこの部屋の中でカルト的な宗教儀式を行っていたとのこと。また、床にあふれた血液は、羊やニワトリをいけにえとして殺したせいだという。





# 死者の皮膚と髪で作られた日本人形



なんとも哀しげなこの人形、なんと表面に人間の皮膚が使われ、頭部にはこれまた人間の髪の毛が使われているという恐ろしいシロモノである。その由来は全くわかっておらず、制作者も不明だ。

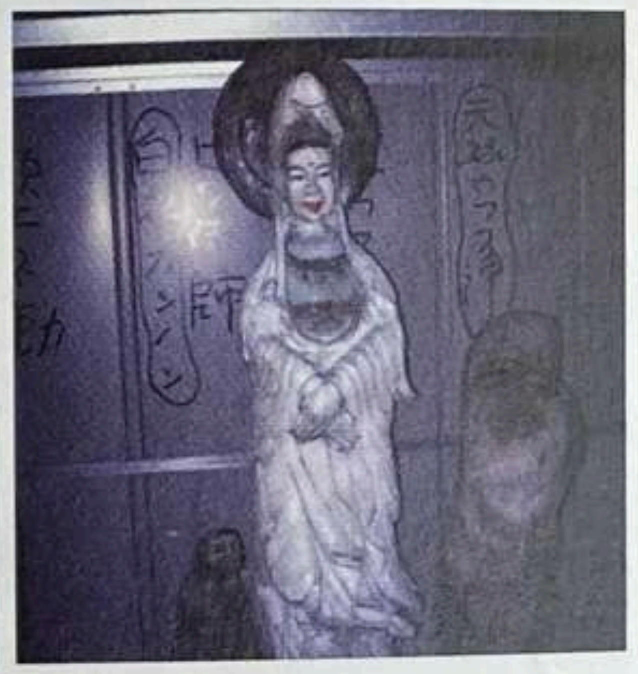
# 神秘珍々ニコニコ園


▲謎オブジェ1


▲「モナリザ」の模造品らしい


▲入り口付近の弁天様


▲血まみれ観音


▲弁天様2


▲謎オブジェ2


▲謎オブジェ5


▲謎オブジェ4


▲謎オブジェ3

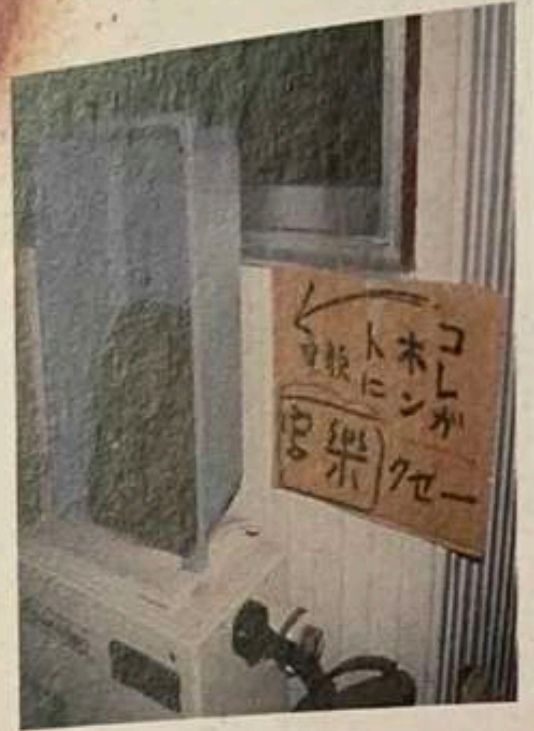
「神秘珍々ニコニコ園」（しんぴちんちんニコニコえん）とは、埼玉県東松山市に存在していたテーマパークである。といっても本格的なものではなく、現地に住む老人が、独力で適当なオブジェなどを自宅に置きまくり、一般に公開したものだ。園長の老人いわく、「ニコニコ園は老若男女憩いの場」とのこと。入園料は大人1200円、高校生850円に設定されていた。

園内の展示物は、大半がは老人自ら製作した木彫りの像や、謎の短歌、ポエムなど。また、その彫像についての説明書きには「ウフフ」や「アハハ」、「アレモコレモ」などなど、よくわからない文言が書かれていた。

同テーマパークは2004年1月、園長の死去により閉園。多くのファンから惜しまれた。






▲室外機にもオブジェが

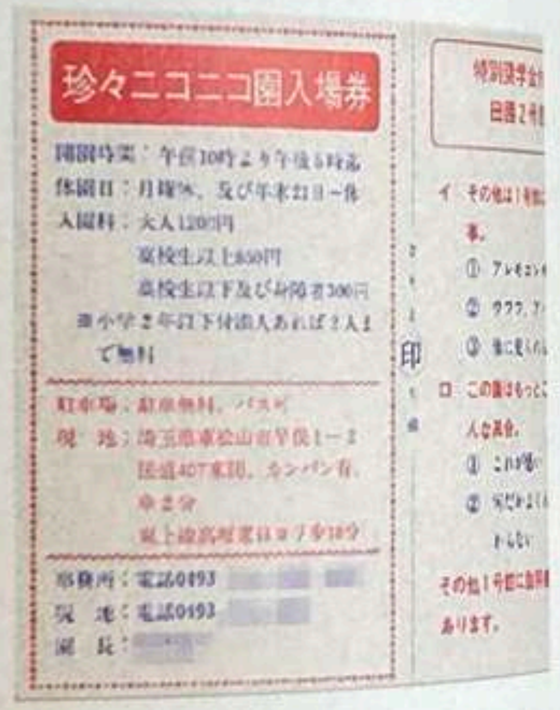

▲ハワイの踊り子


▲謎オブジェ6


▲謎オブジェ7



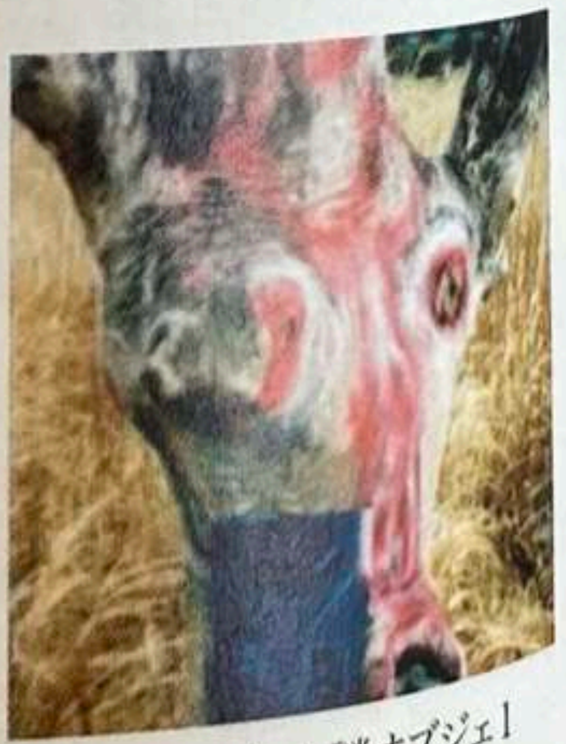
▲モネの模写らしい



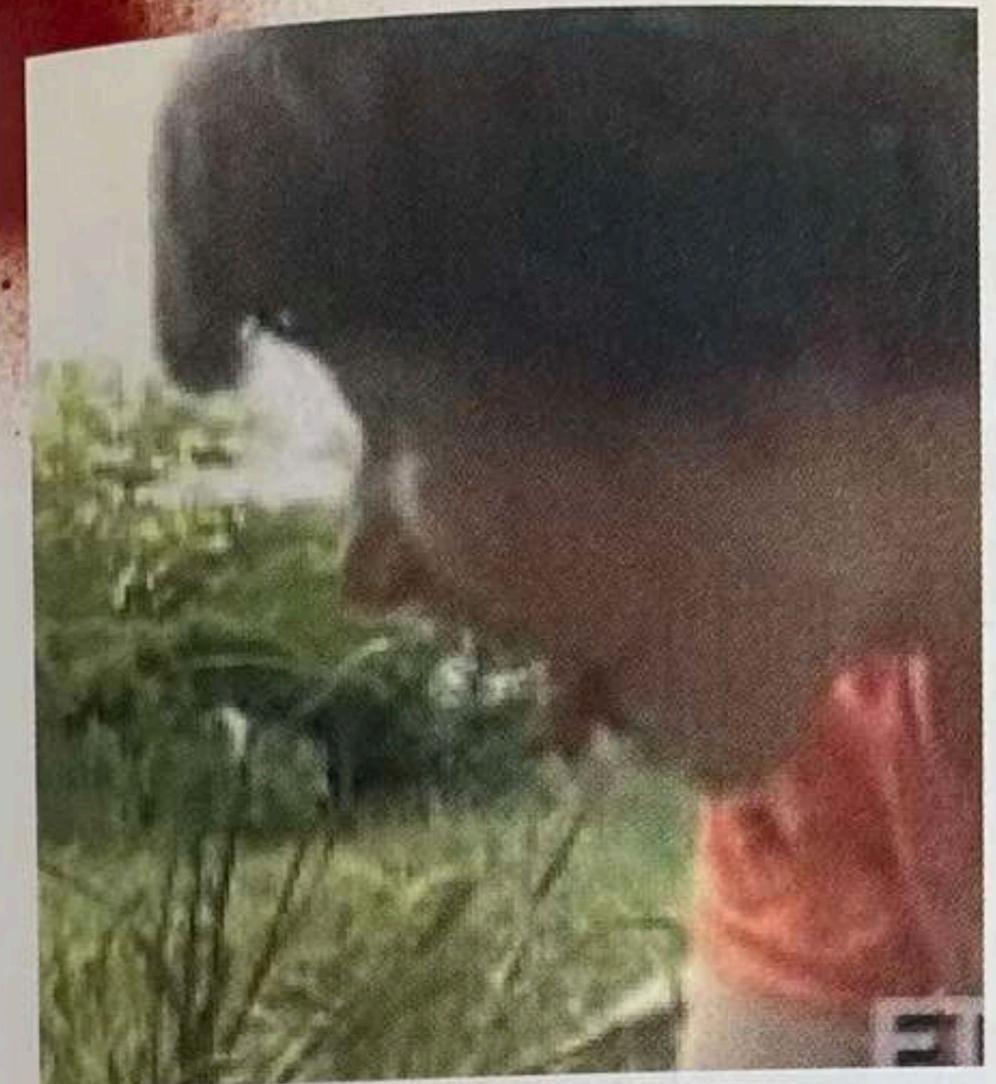
▲入園券

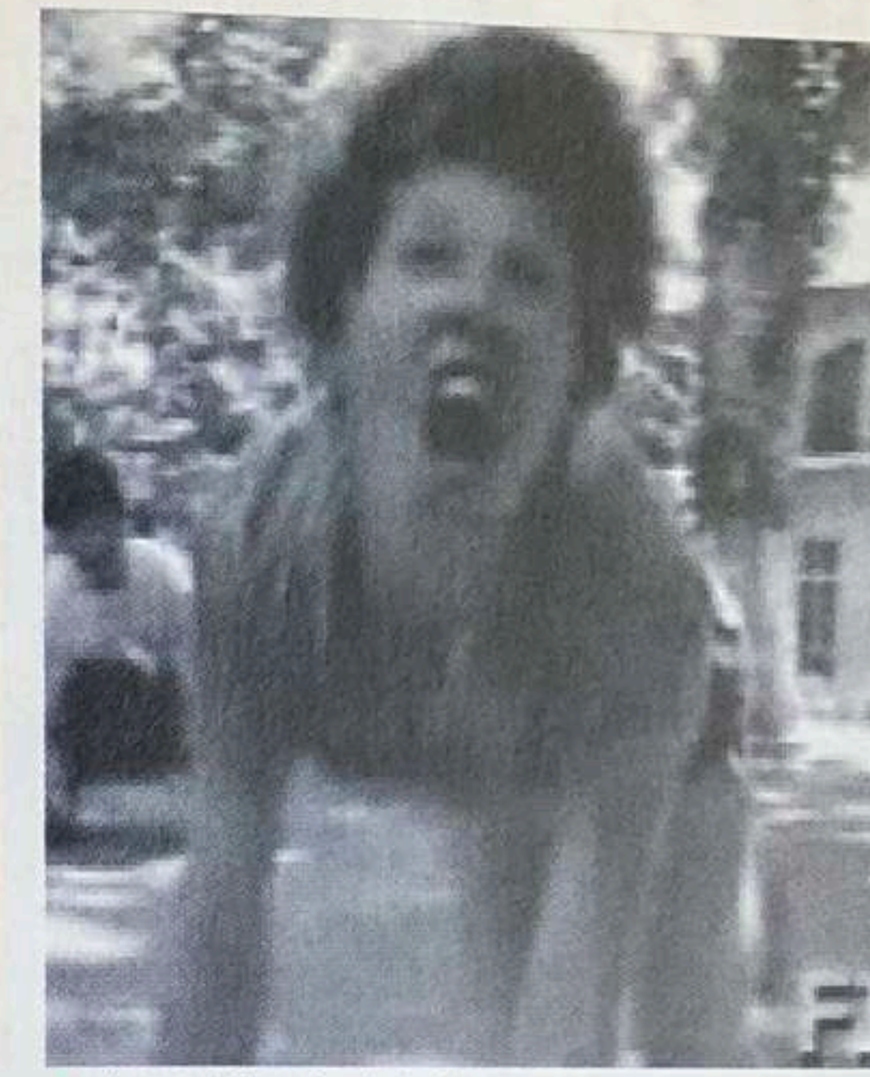

▲なぜか後頭部が血まみれの像


▲庭に置かれた謎オブジェ2


▲庭に置かれた謎オブジェ1

# 犬に育てられた女


▲エサを見つけるとつい舌が出る


▲人が近寄ると吠え立てる


▲水飲みの風景

ウクライナに住む、オクサナ・マラヤ（23才）は、3才で両親に捨てられ、以後5年間を犬の群れと共に暮らしてきた。8才で保護された彼女は、犬のようにうなりを上げ、四本足で周囲を走り回った。現在は精神病院で暮らしているが、どうにか言葉をしゃべれるようになった。しかし、今でも時折、四本足で施設内を駆け回る彼女の姿が、施設の管理者たちに目撃されている。


▲施設の人間を威嚇するオクサナ


▲草原では必ず四足歩行



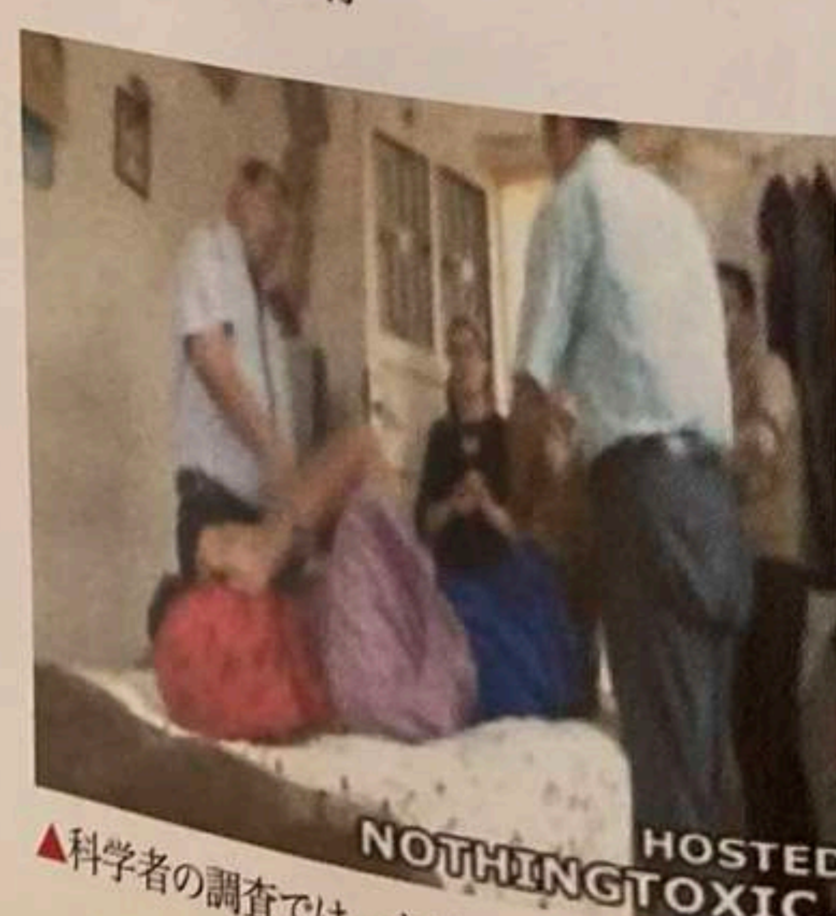


# 四足歩行で歩き始めた人々



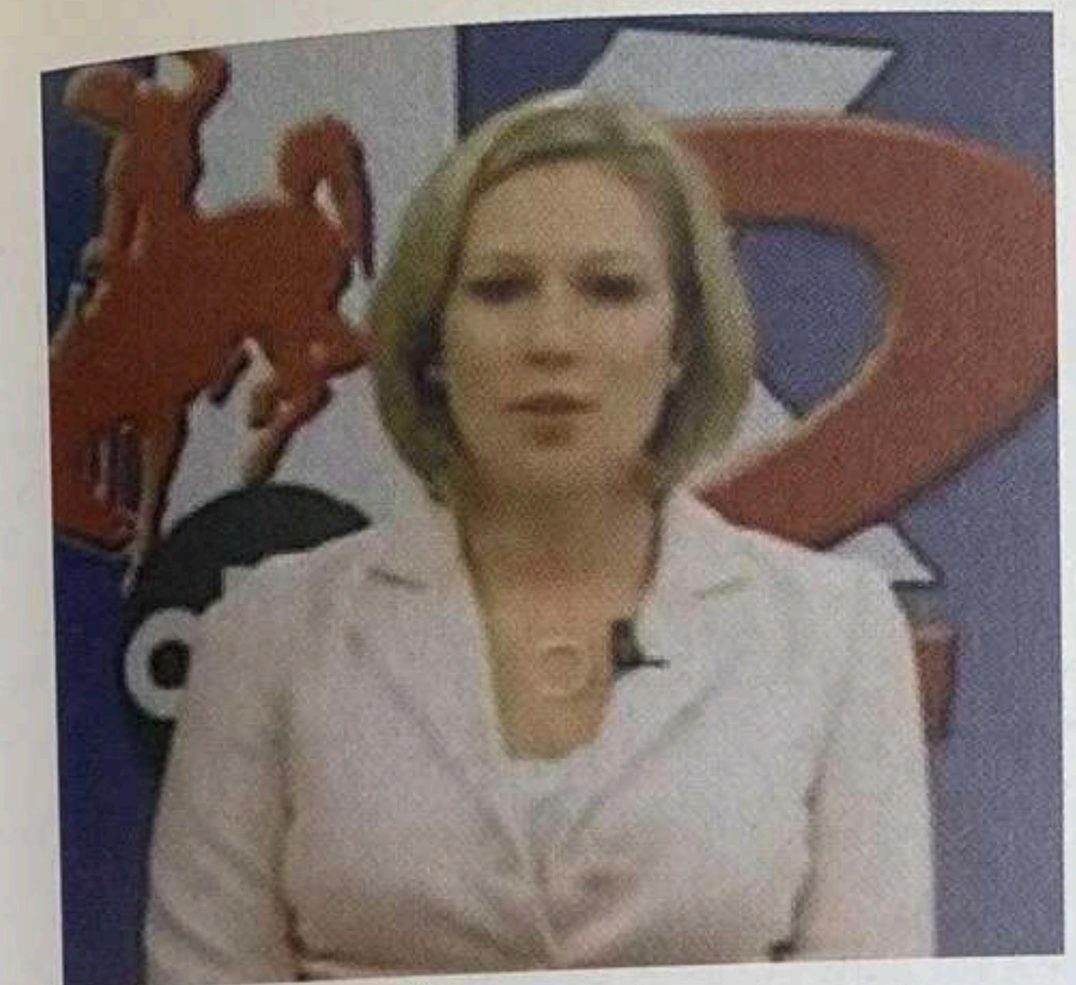

▲村人はみな四足歩行


▲日常生活はすべて四足


▲科学者の調査では、まだ理由は不明らしい

2003年、トルコのある寒村に異変が起きた。なぜか、そこに住む住人たちがみな四本足で歩き始めたのだ。村人たちの知能は正常だが、ただ「四本足で歩かなければいけない」という衝動にかられるのだという。精神の病か、はたまた新手の伝染病か。現在、彼らは「ハンドウォーカー」と呼ばれ、世界中の科学者たちの研究の対象になっている。

# ワイオミングの電波ジャック

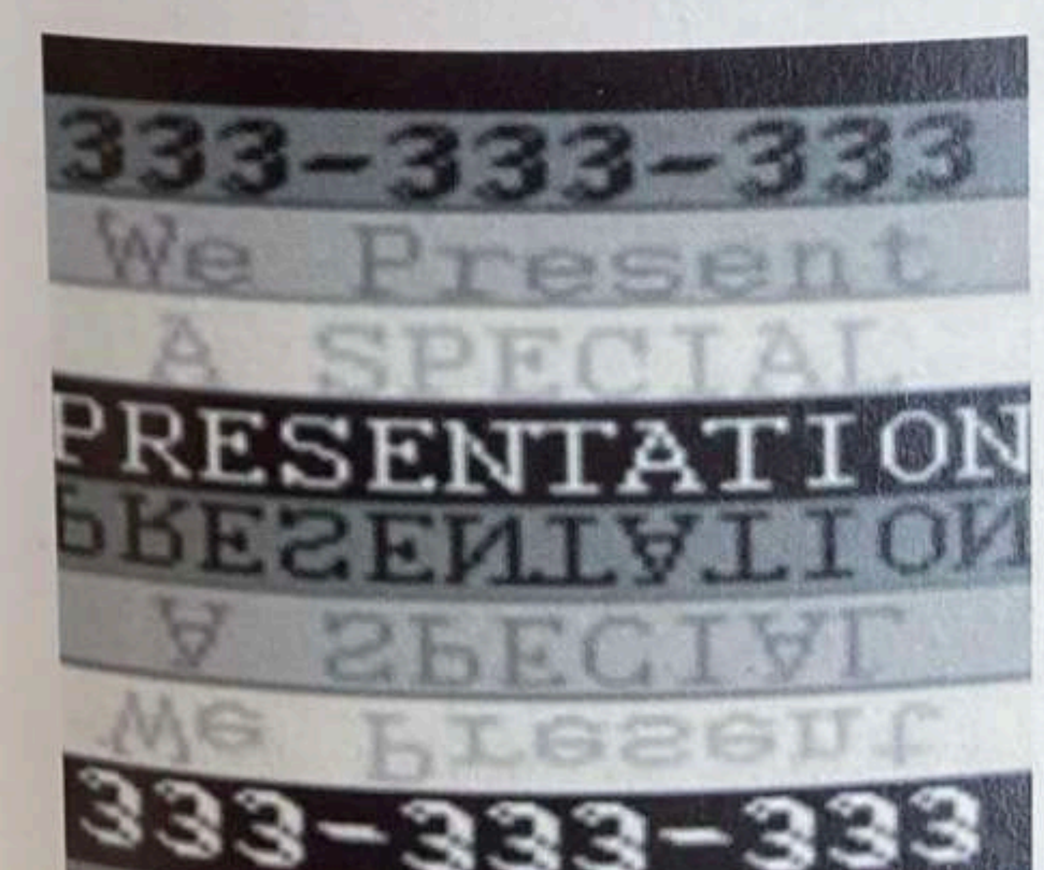


▲普通のニュースに

1995年、アメリカ・ワイオミング州のケーブルテレビがニュースを放映中、急に画面にノイズが走り、「お前らは病気だ」や「何を憎む?」といった不可解なメッセージと、謎の画像が連続して表示された。その後、特にこの電波ジャックに関する事件は起きていない。犯人も捕まっていないため、目的もわからないままだ。



▲急にノイズが走る



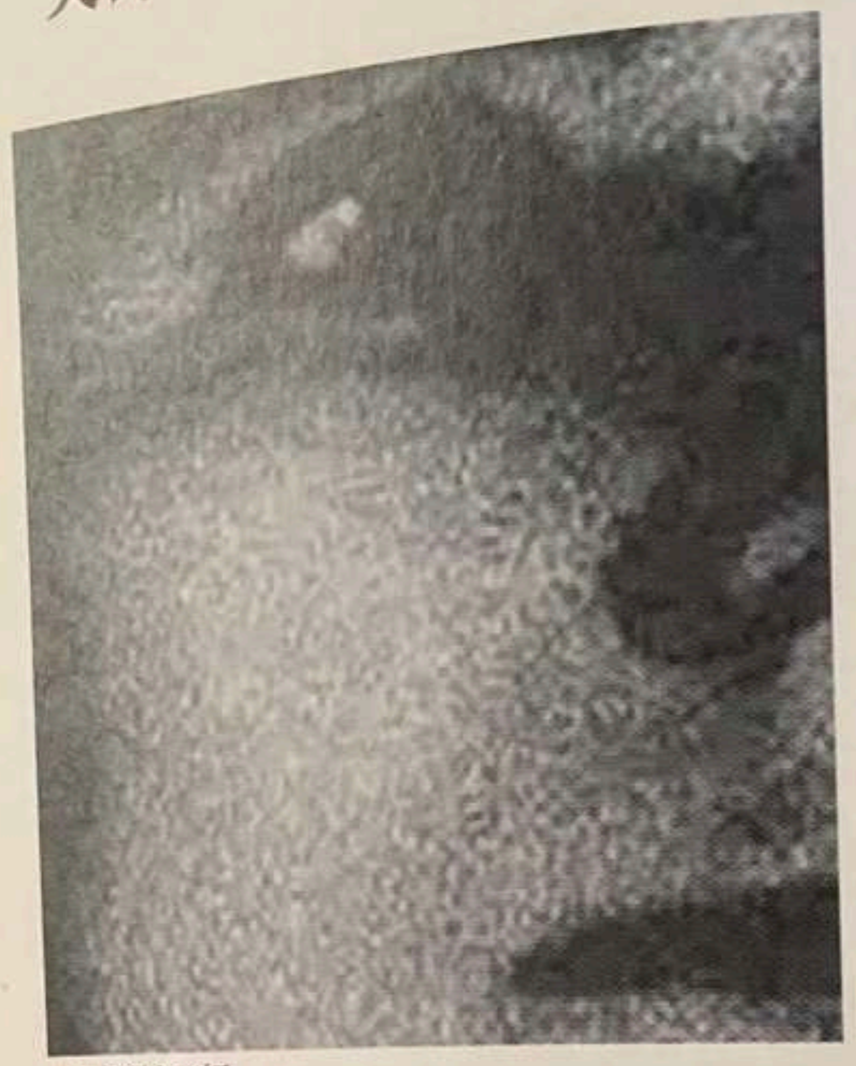

▲「我々は特別な発表を行う 333-333-333」



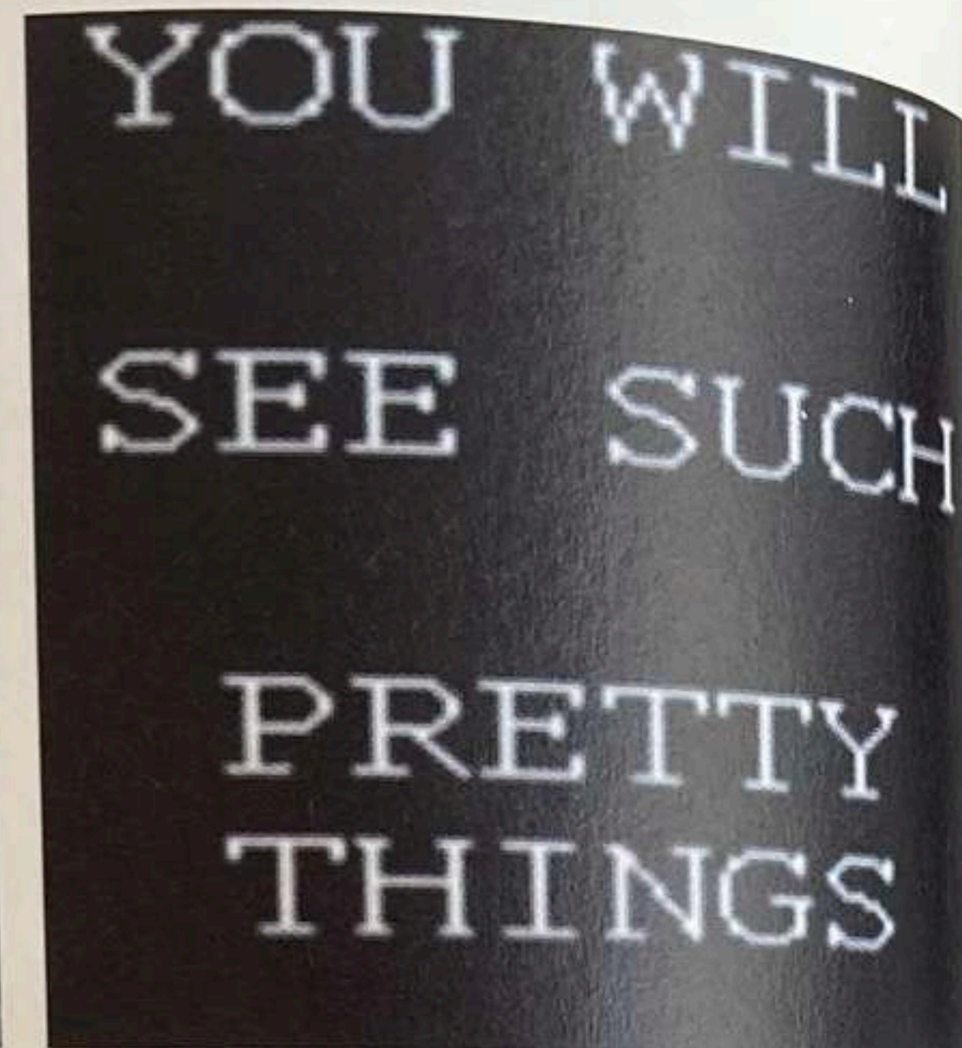
▲謎の顔が表示される



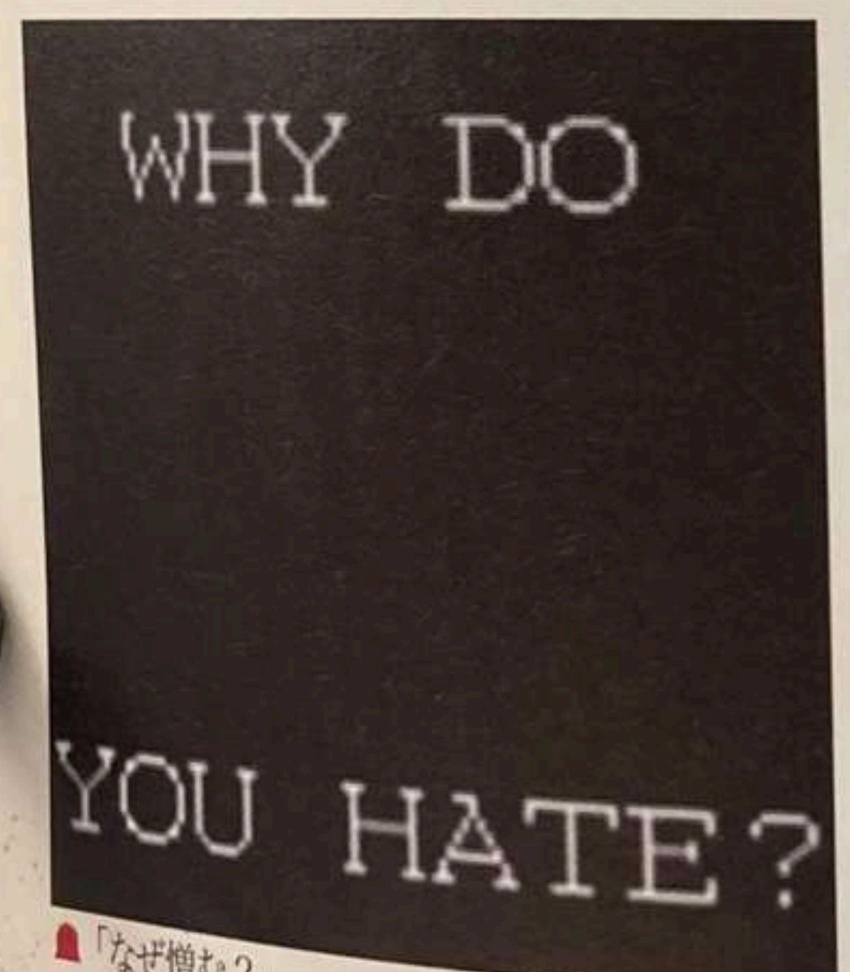




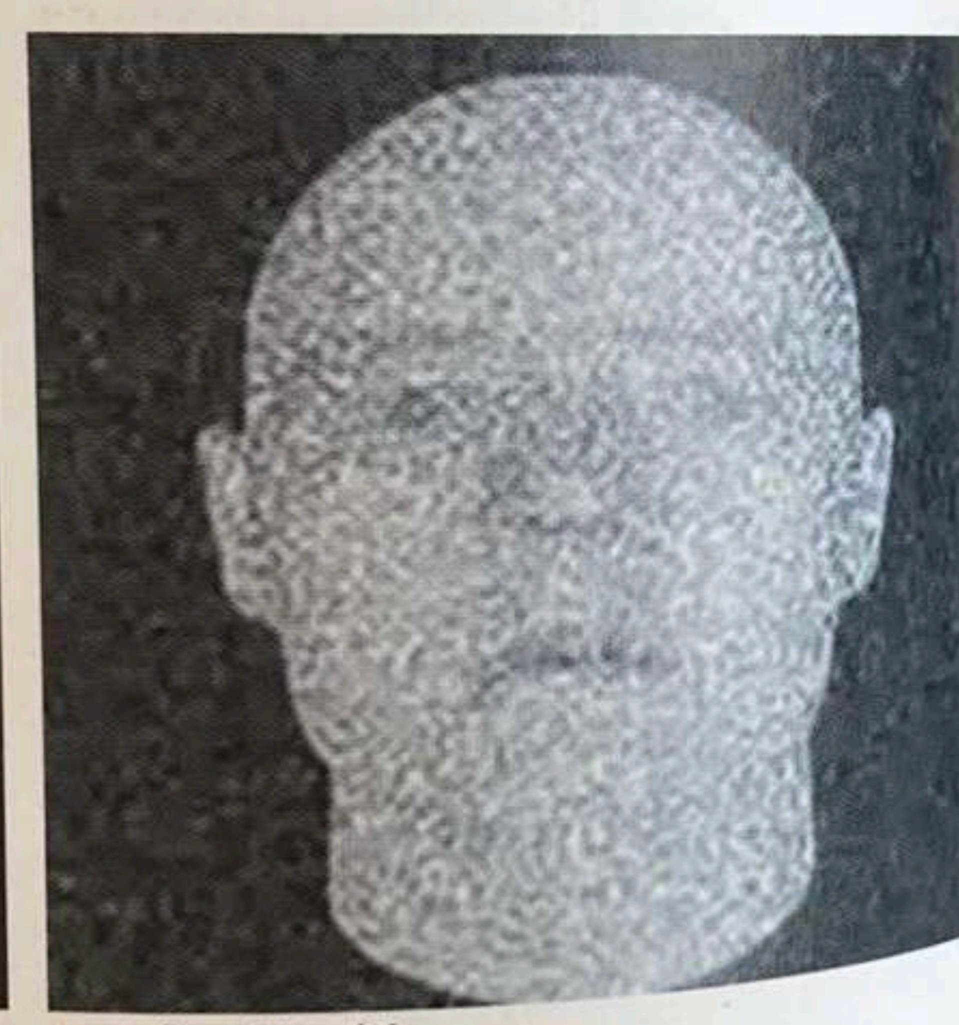
▲再び謎の顔



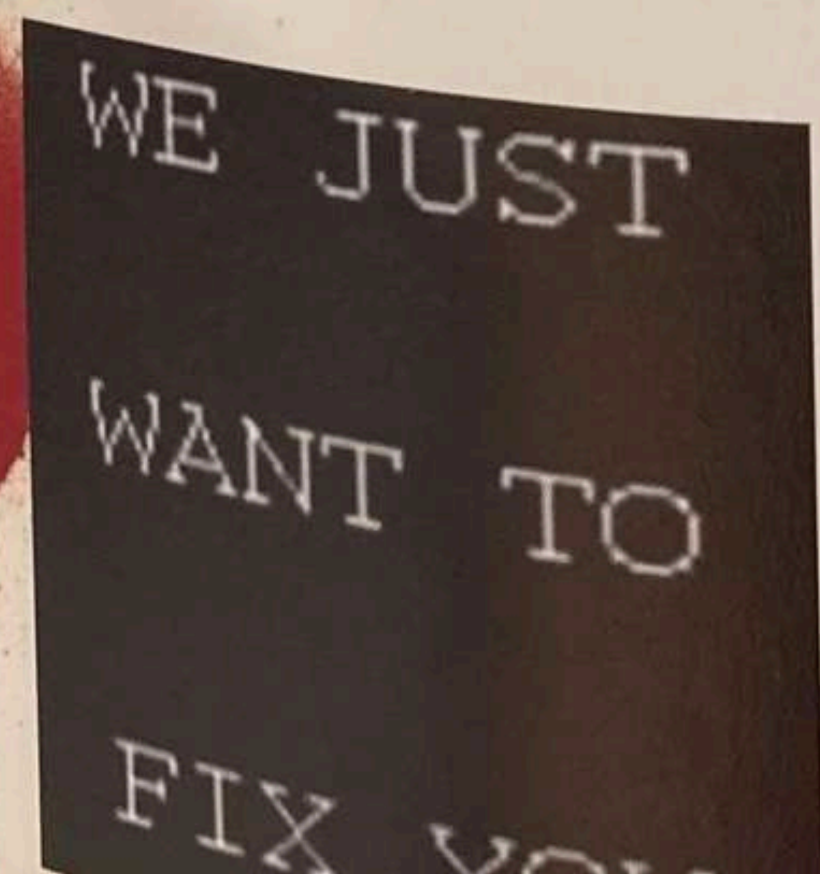

▲「お前らはとんでもないものを見るだろう」



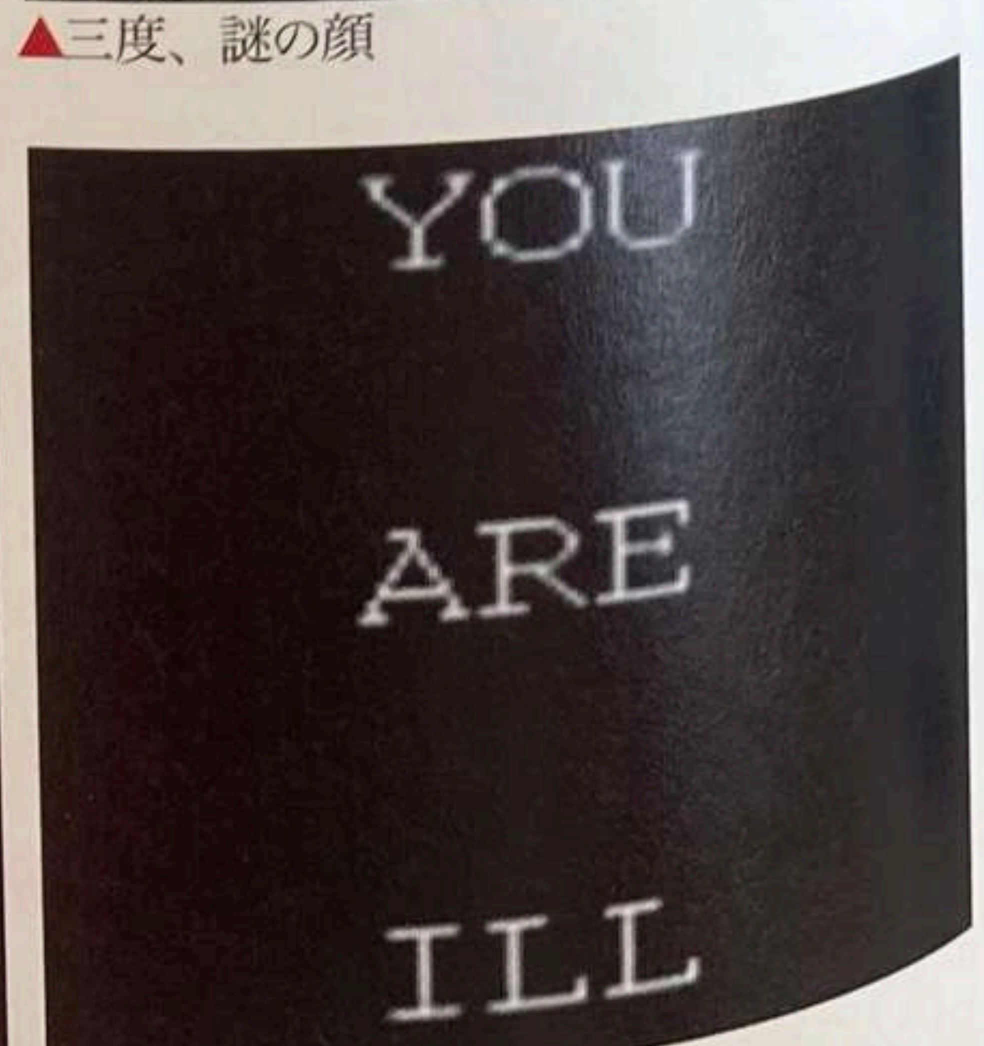

▲「なぜ憎む?」



▲三度、謎の顔

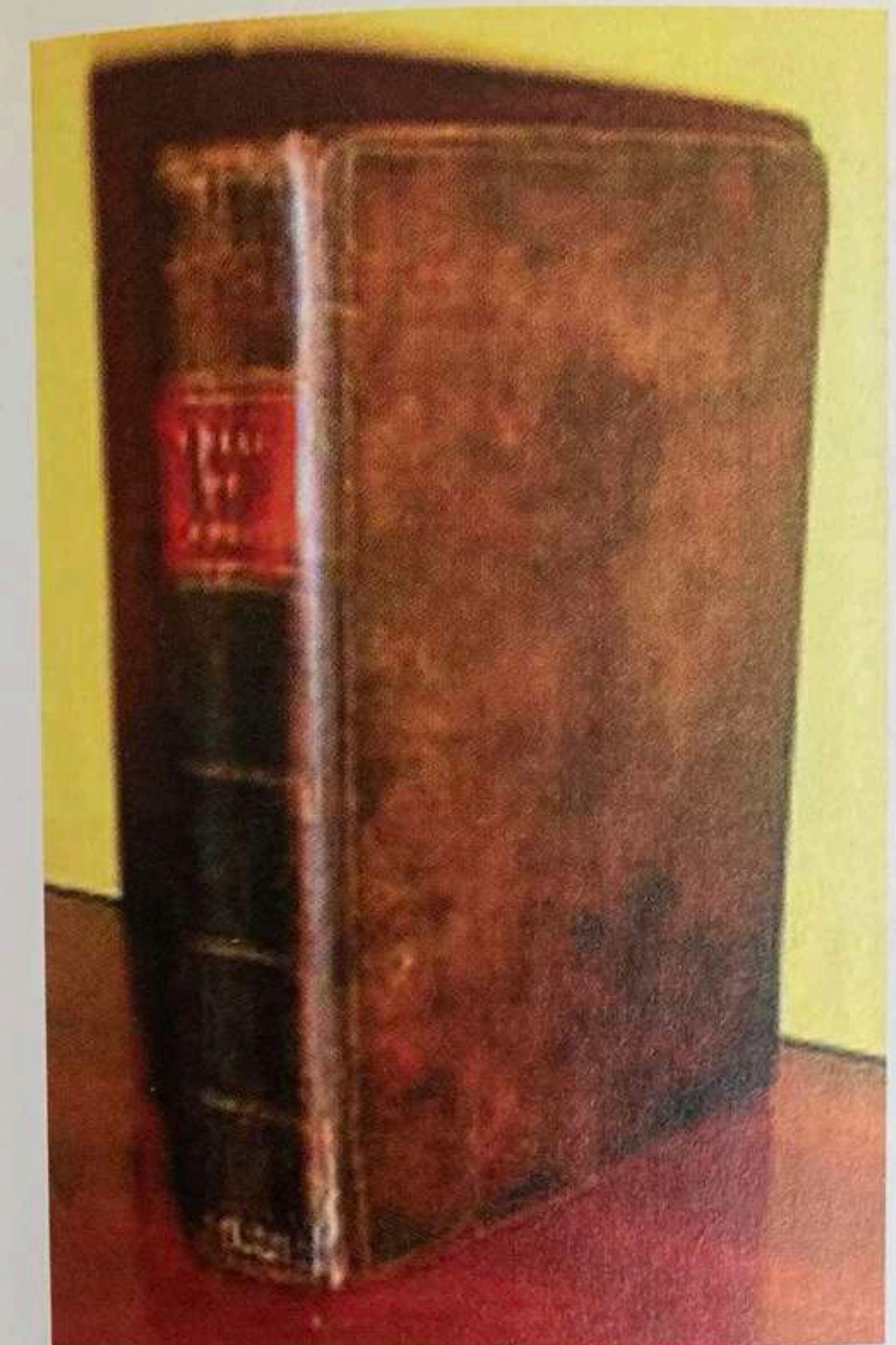



▲「我々はお前らを修復したいだけだ」

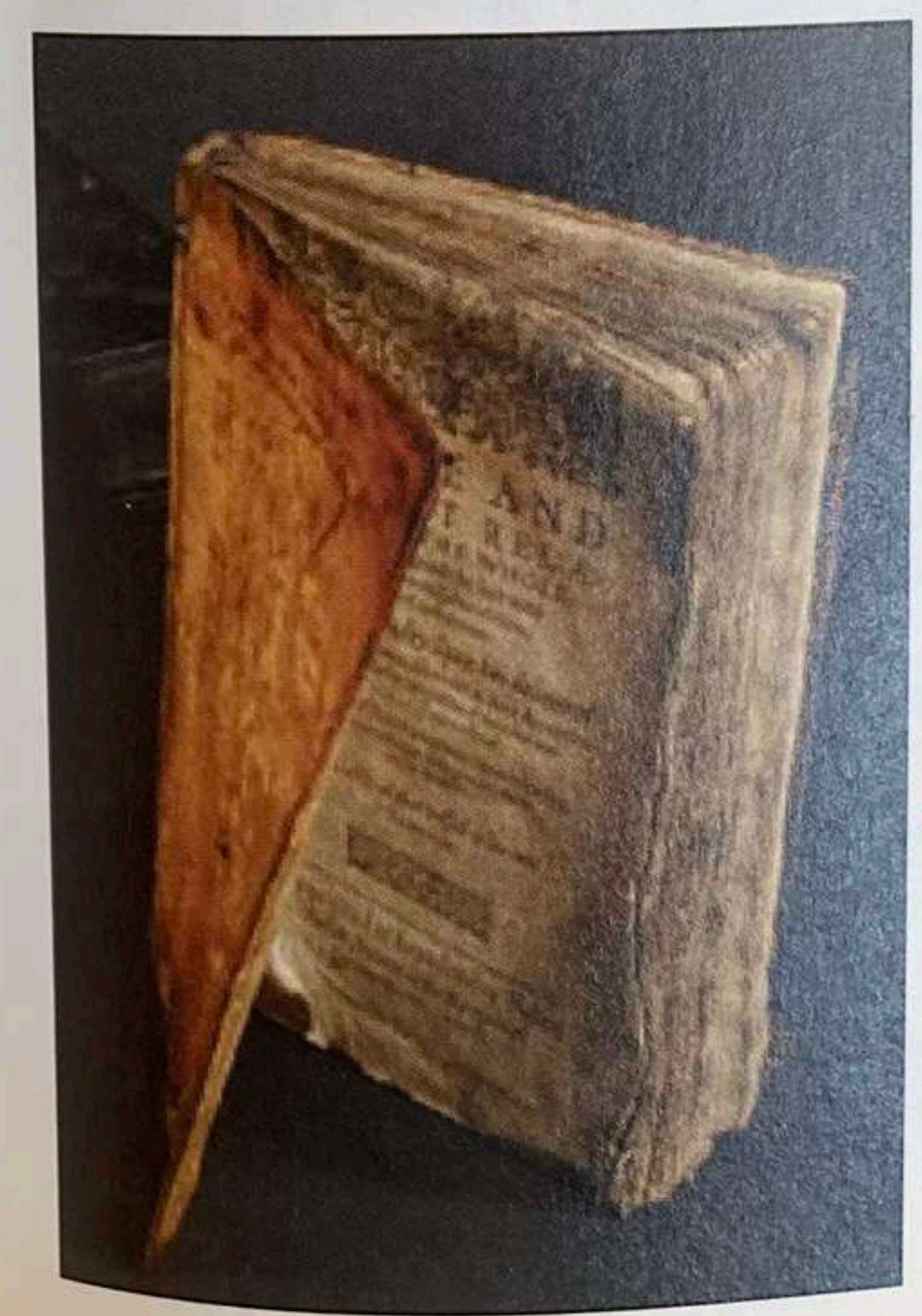



▲「お前らは病気だ」

# 人間の皮で作られた本



◀かの名門、アメリカ・ブラウン大学には、背表紙に人間の皮を使った本が収蔵されている。もっとも、この本が製作された19世紀前半は、人間の皮を使って本を作るのが普通のことだった。人の皮は耐久性が高いからだ。

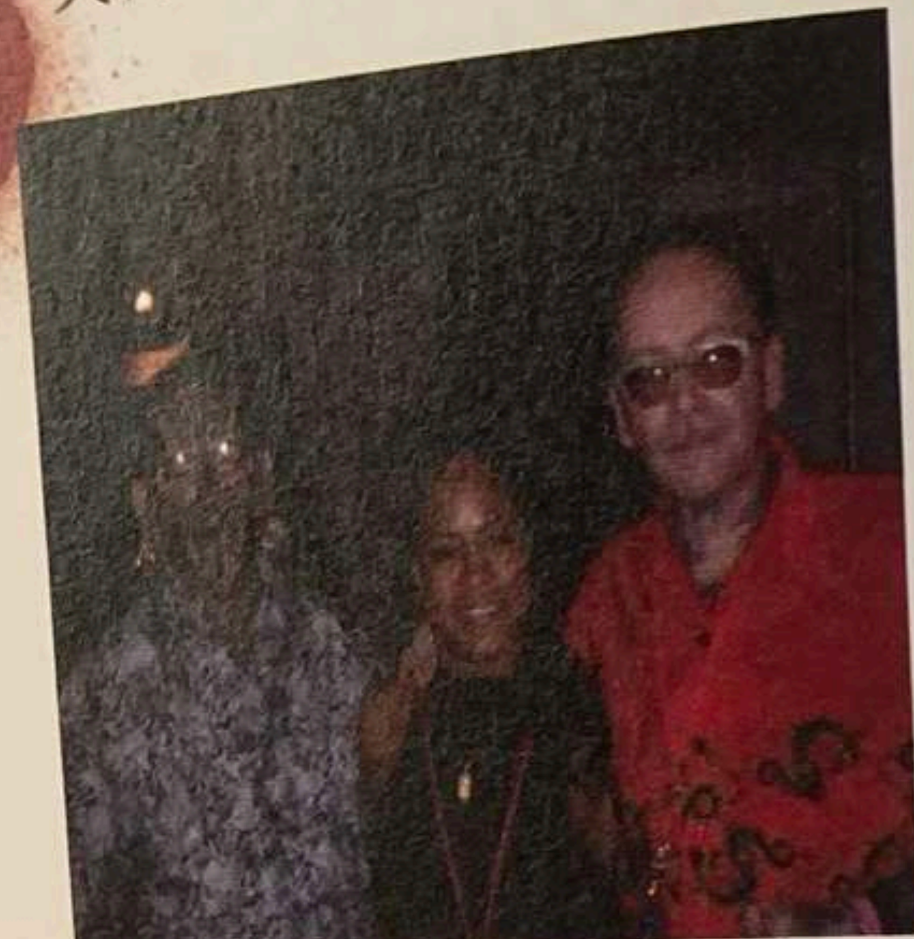


◀こちらも人の皮で作られた本だが、上に比べて成り立ちはやや猟奇的だ。1965年、イギリスで5人を殺した連続殺人犯が逮捕された際、怒り狂った民衆が犯人をリンチにかけて生皮をはいで、なめし皮へ加工。事件が風化しないように、本の装丁に使ったそうだ。



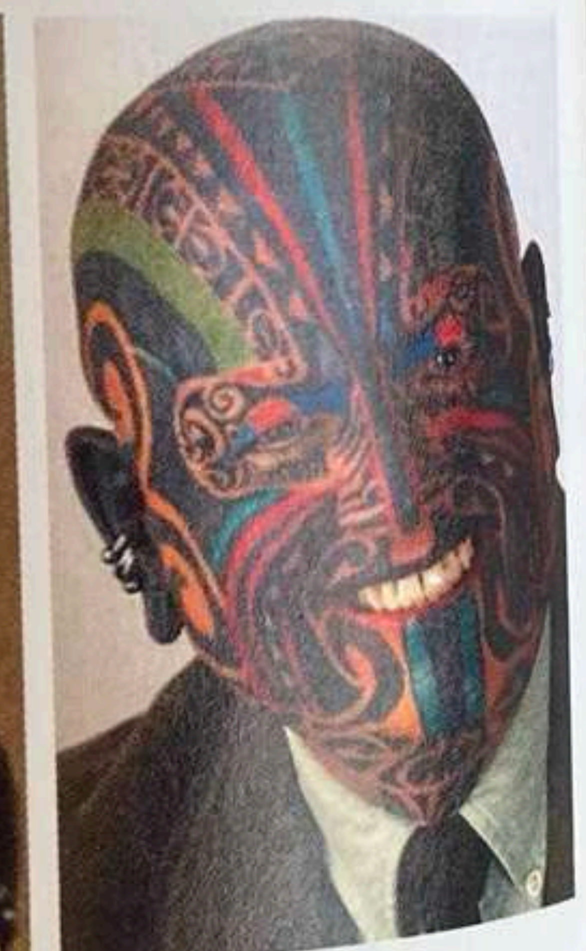


# 全身入れ墨教師



▲同僚たちとのオフショット





アメリカのニューメキシコ大学で「弁論術」を教えるブルース・ポッツは、全身に民族調の入れ墨を彫り込んでいる。12才のころから全身タトゥーにあこがれ、3年半をかけてようやくここまで完成したものだ。お陰で生徒からはビビりまくられているが、本人は「入れ墨のせいで力が湧いてくる」と主張している。

# 自殺のために電気椅子を作った男

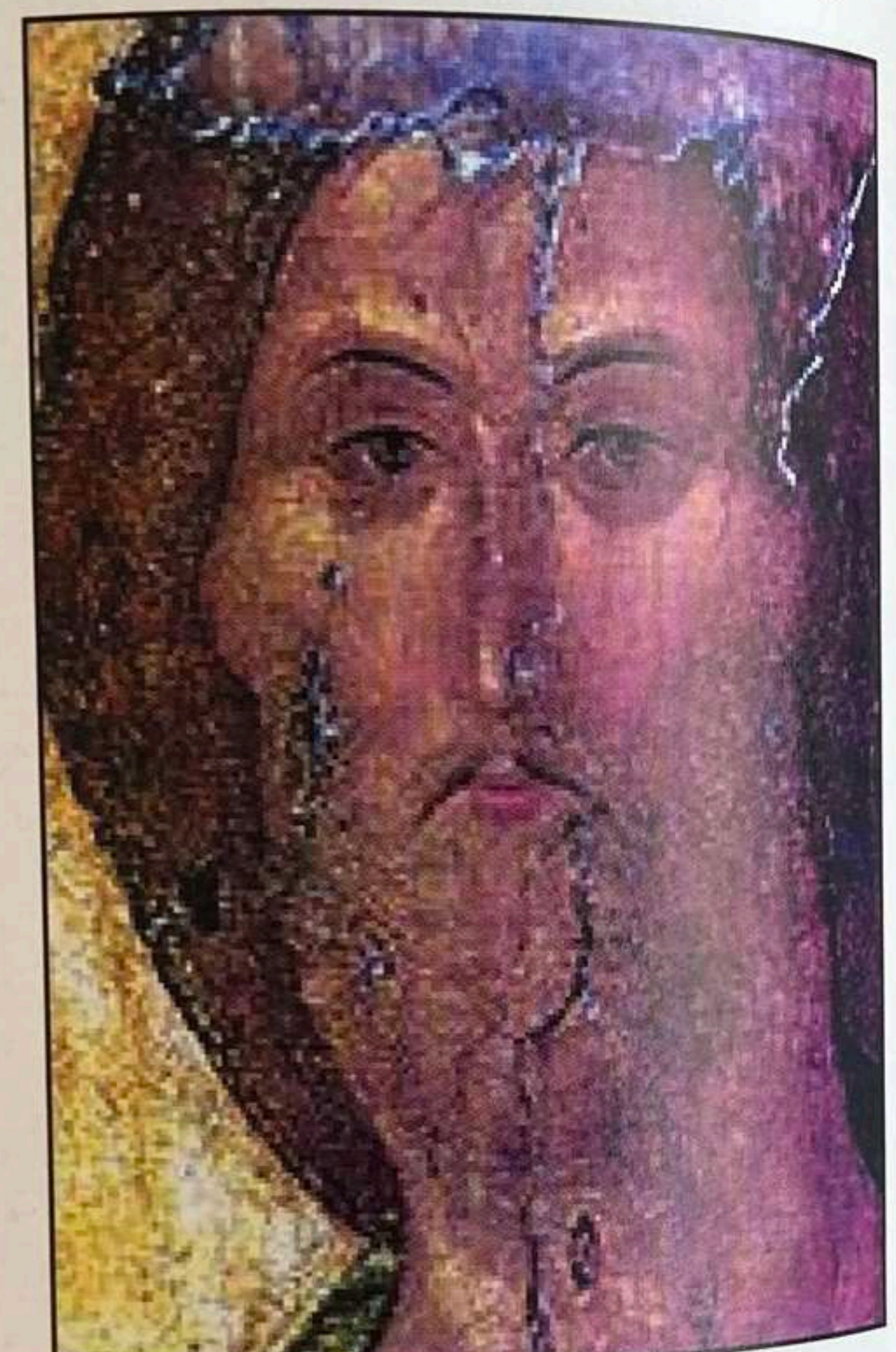


ご覧の椅子は、04年、アメリカ・シアトルに住む43才男性が、自殺をするために制作した電気椅子である。男は地元の電気技師で、この椅子を使い、全身に数千ボルトを流して死んだ。この椅子は、現在ワシントンの犯罪博物館に収蔵されている。



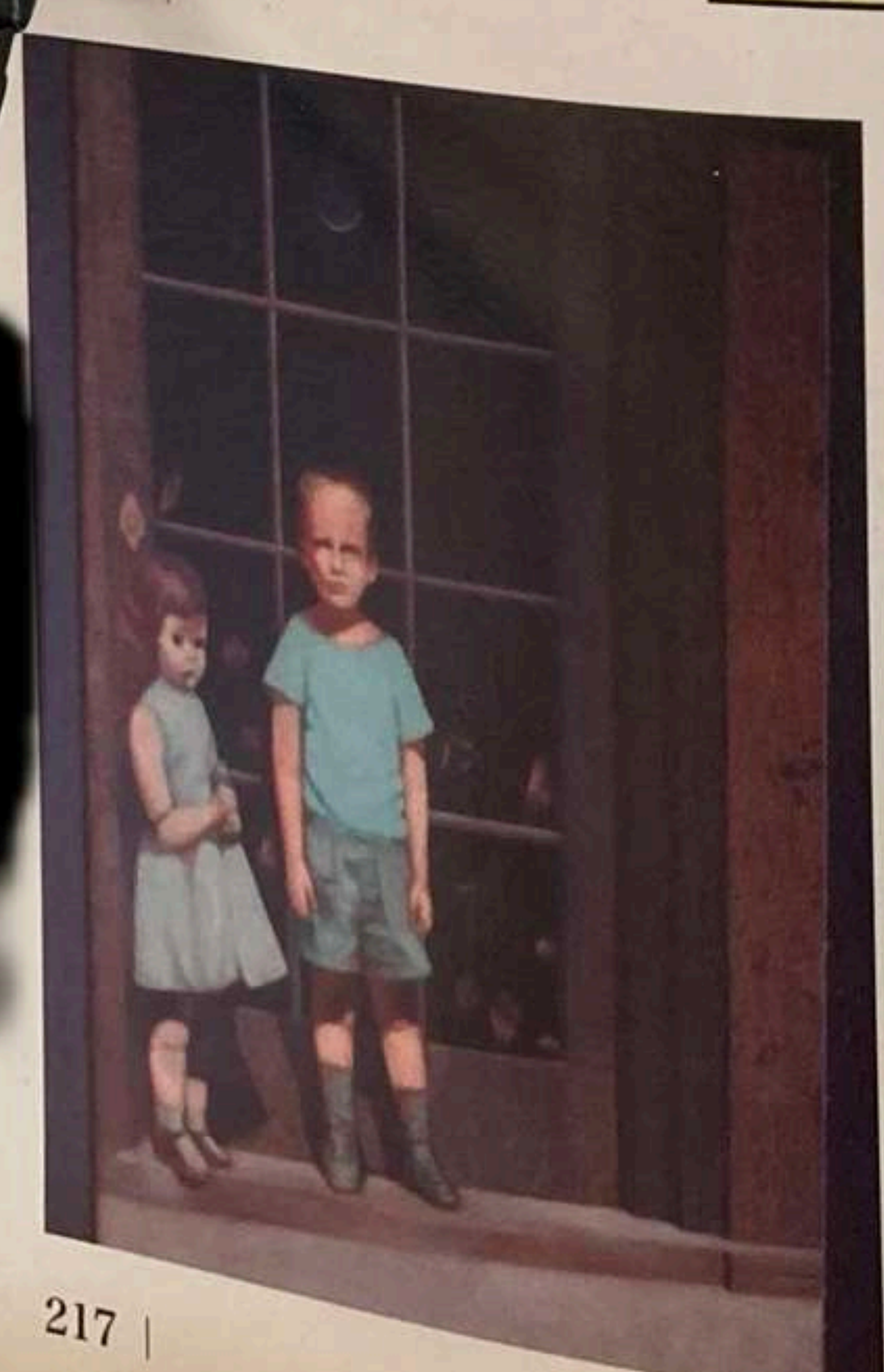


# 呪いのイコン



かつてロシアのエルミタージュ美術館にあった「呪いのイコン」と呼ばれる作品だ。「呪い」と呼ばれる理由は他でもない。美術館がこの絵を調査した際、キャンバス地の奥に幼児のものと思われる無数の人骨が埋め込まれていることが判明したからだ。絵の制作年代は1980年代。作者は不明だ。

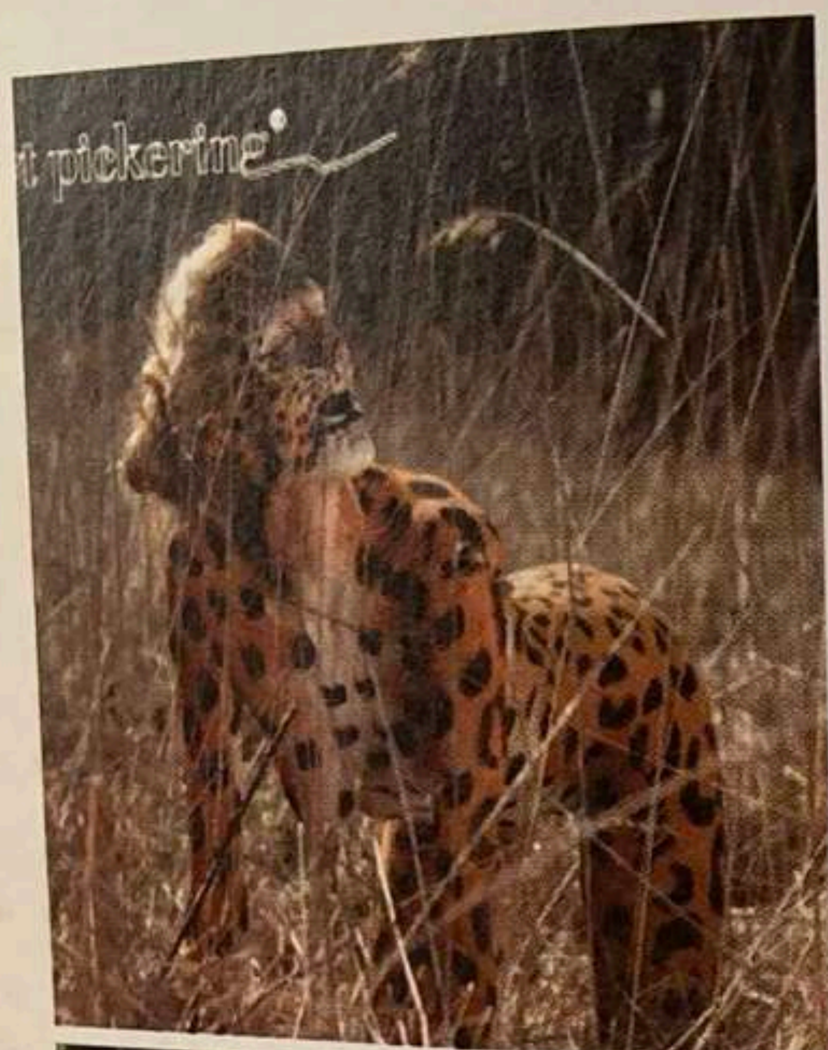
# 呪われた絵画



アメリカの画家ビル・ストーンハムが1972年に制作した絵画である。少年と人形の少女を描いたこの絵は、有名俳優や起業家などに転売されていったが、なぜか所持者の自殺が相次いだ上、その中の1人が「絵の子供が抜け出た」と証言したため、「呪われた絵」として有名になった。この絵は2000年に某ギャラリーが10万ドルで落札。しかし、なぜか展示場には飾られず、倉庫に置かれたままだという。

# 猫の姿専門のモデル

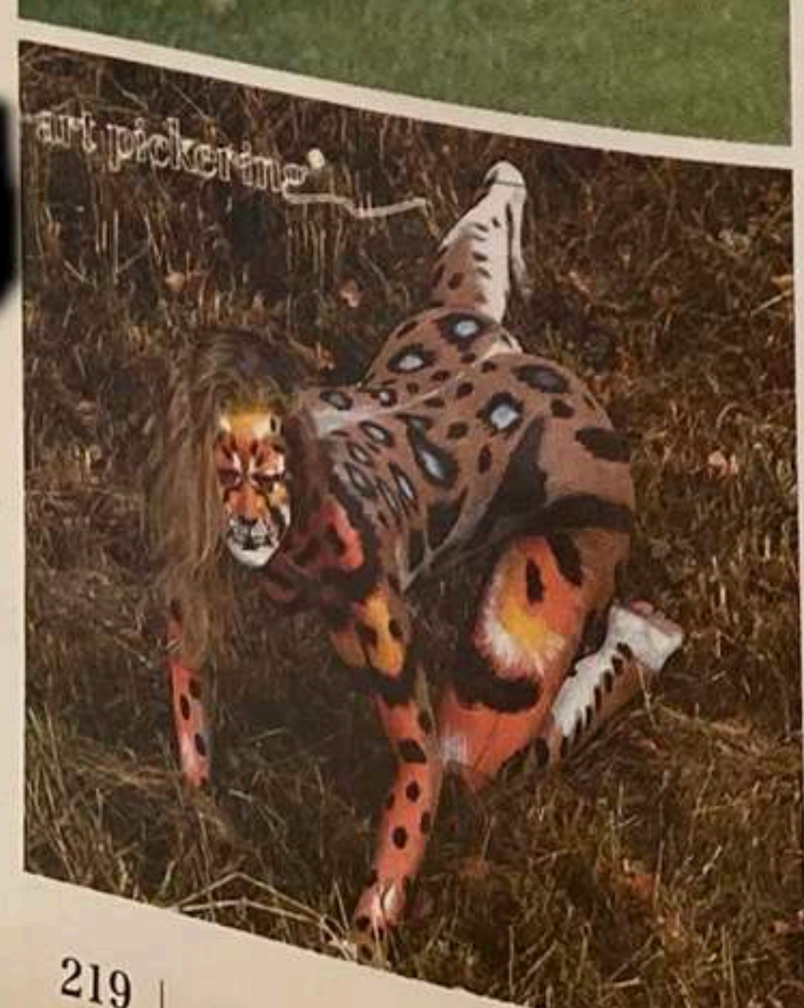
イギリスに住むファッションモデルのジョセフィン・モーラは、06年、いきなり自分の体に猫模様のペイントをほどこし、「今後の仕事は、この格好でしか受けない」と宣言した。理由は単に猫が好きだから。もちろん、仕事は激減したが、一部に熱狂的なファンを得て、食うには困っていないらしい。











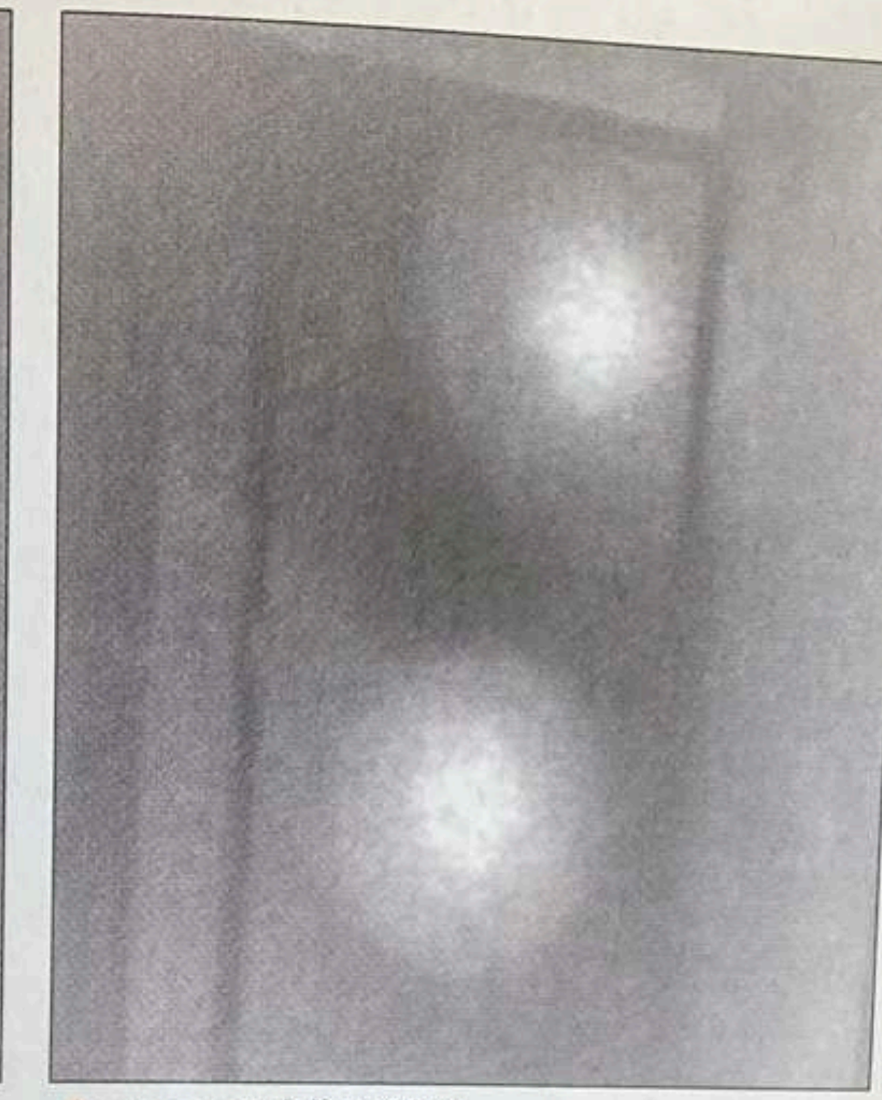




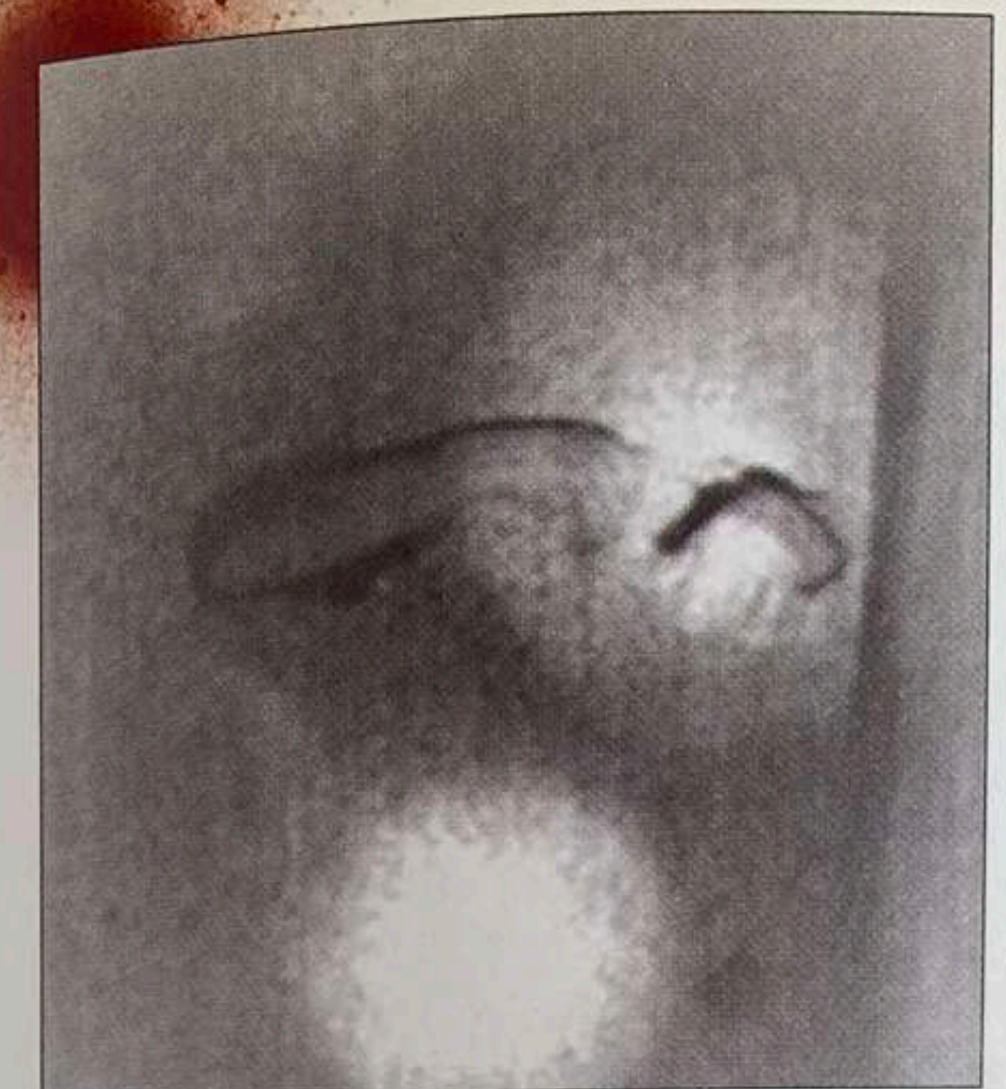


# 祖父の家で見つけたビデオ

青森県に住むLさんが、地元の祖父の家を漁った際、押し入れの奥から見つかった謎のビデオである。動画は、古い民家の障子を映したシーンから始まり、ほどなくそこを突き破って手が出現。さらに障子が破られ続け、中から白塗りの男が現れる。後は、この一連のシーンがひたすら繰り返されるだけのものだった。祖父もビデオの記憶はなく、なんのための映像なのかはわかっていない。



▲フスマの映像が続き



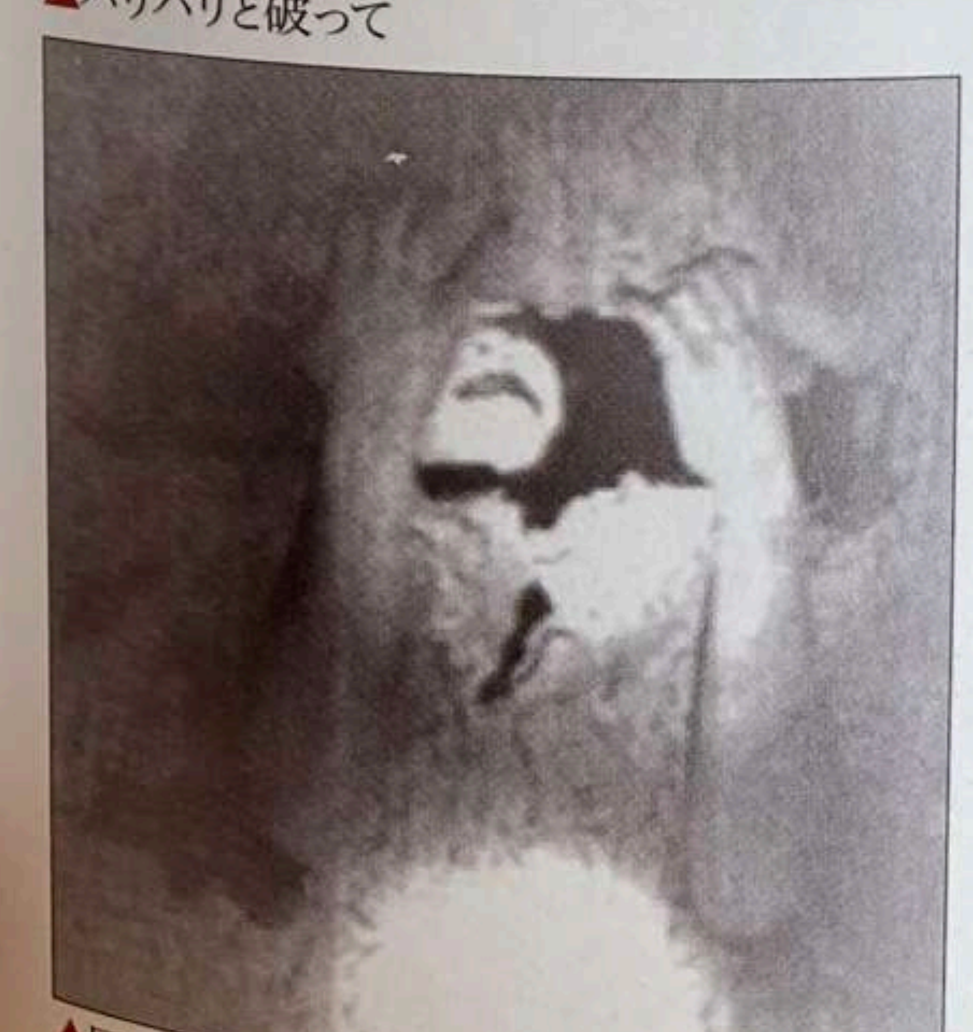
▲突き破って腕が出現



▲バリバリと破って

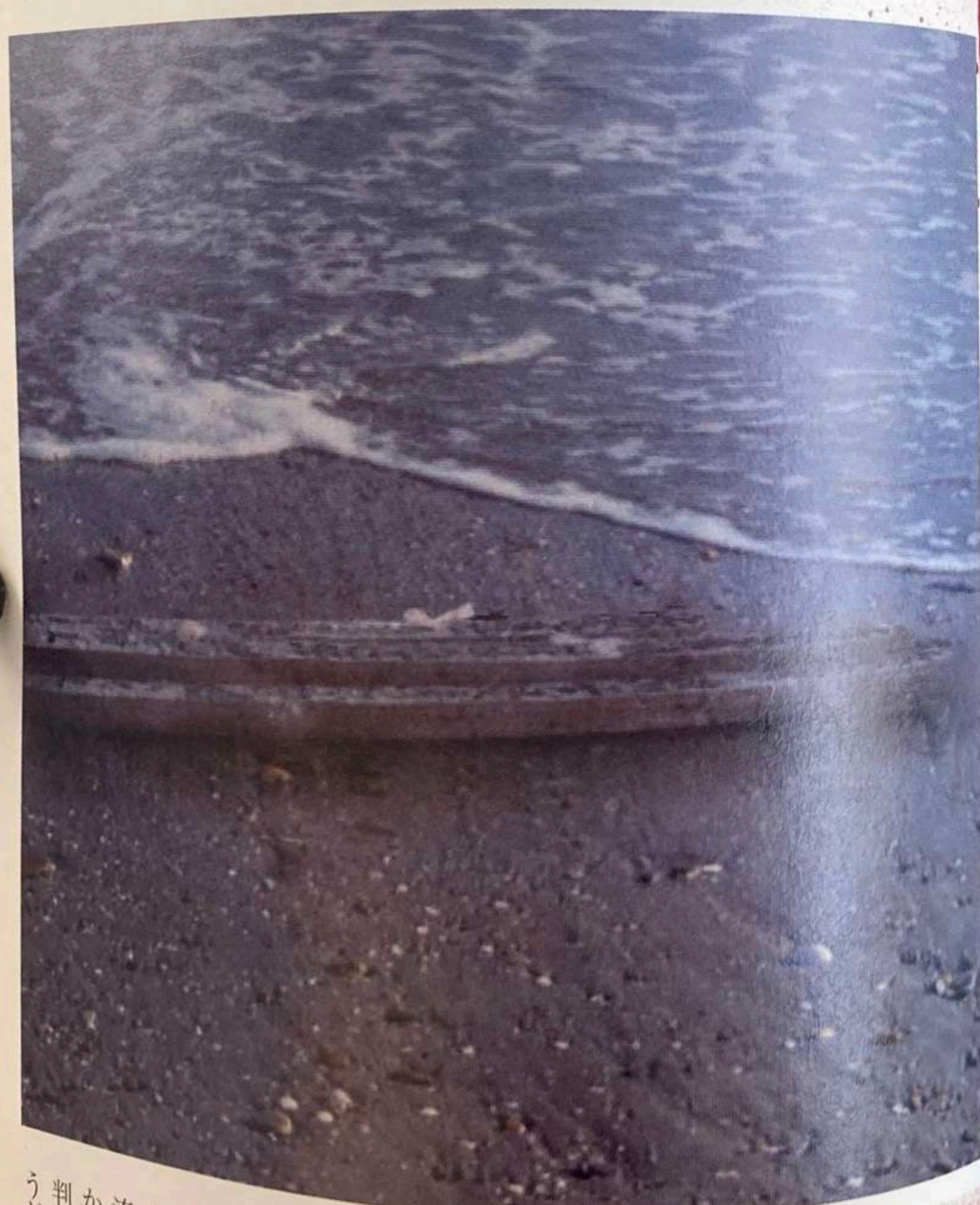


▲白い顔の男が



▲同じシーンが繰り返される

# 卒塔婆が流れ着く海岸



日本の某県に存在する海岸には、なぜか定期的にひとまとめの卒塔婆が打ちあがる。卒塔婆はかなり使い古されたもので、素性はさっぱりわからない。

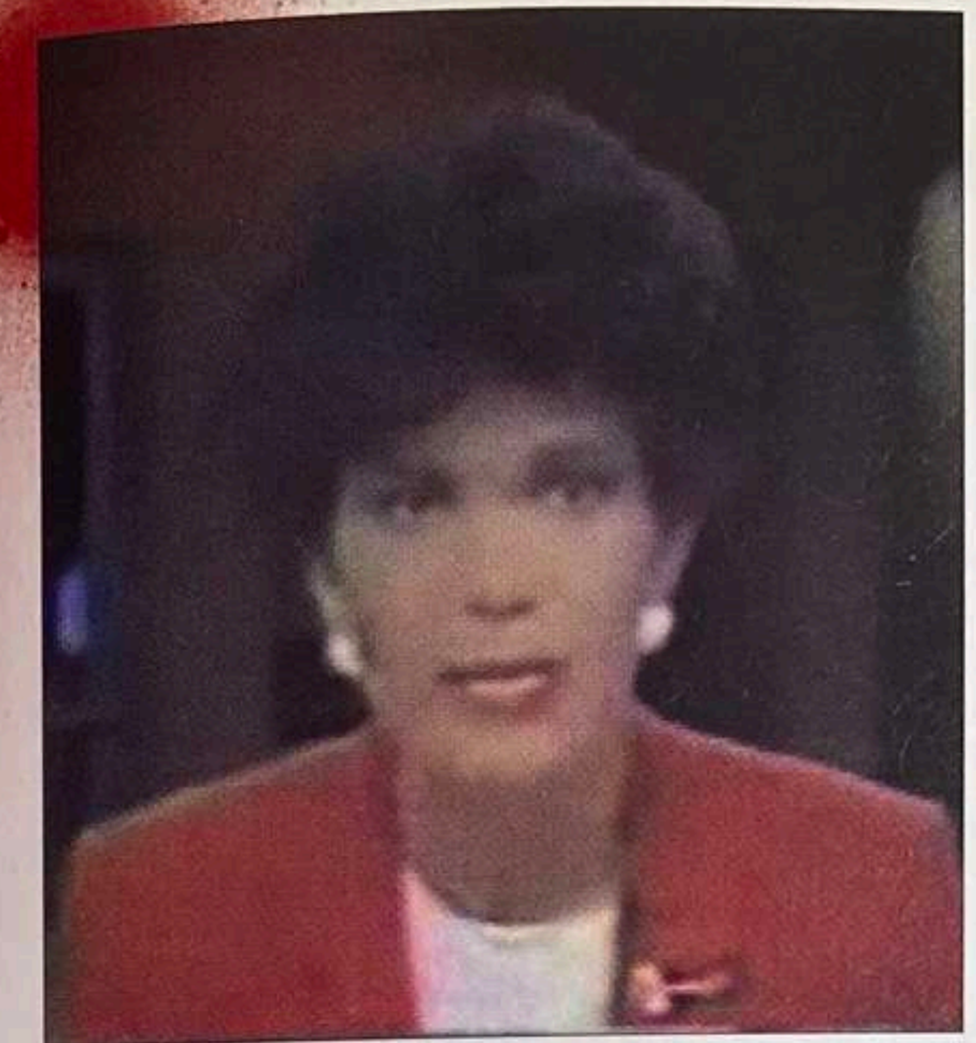
海流が複雑なため、どこから流れてきているのかも、まったく判別できないそうだ。



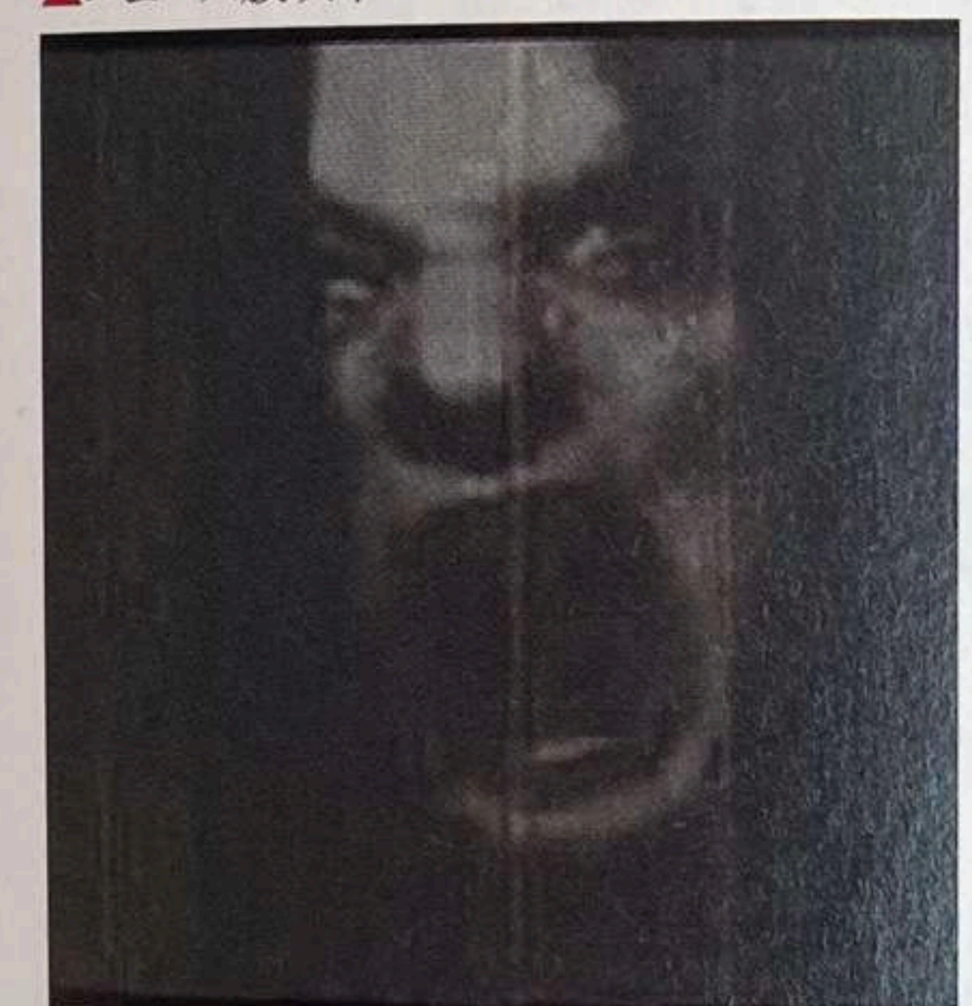
# コロラドの電波ジャック

1998年、アメリカ・コロラド州のケーブルテレビがニュースを放映中に画面にノイズが走り、数秒にわたってホラー映画のような顔の画像が、数秒にわたって連続して表示された。

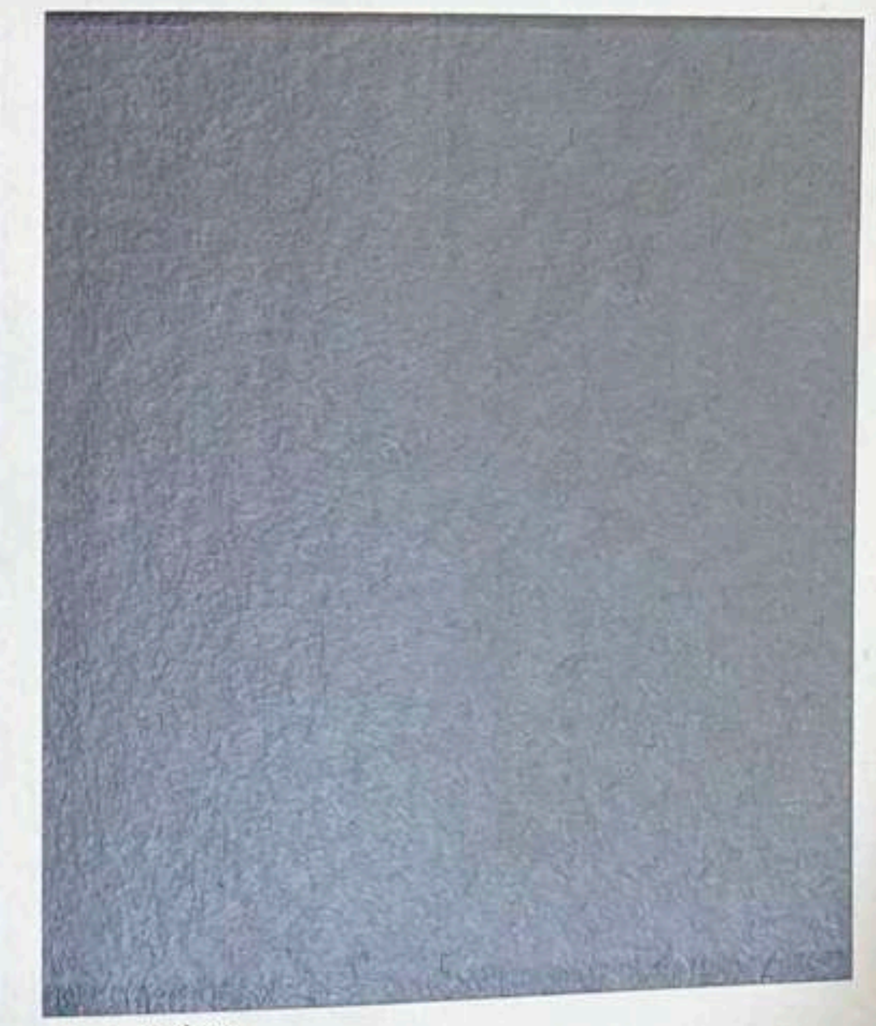
こちらも、先のワイオミング事件と同じく、その後で関連する事件は起きていない。犯人も捕まっていないため、目的もわからないままだ。



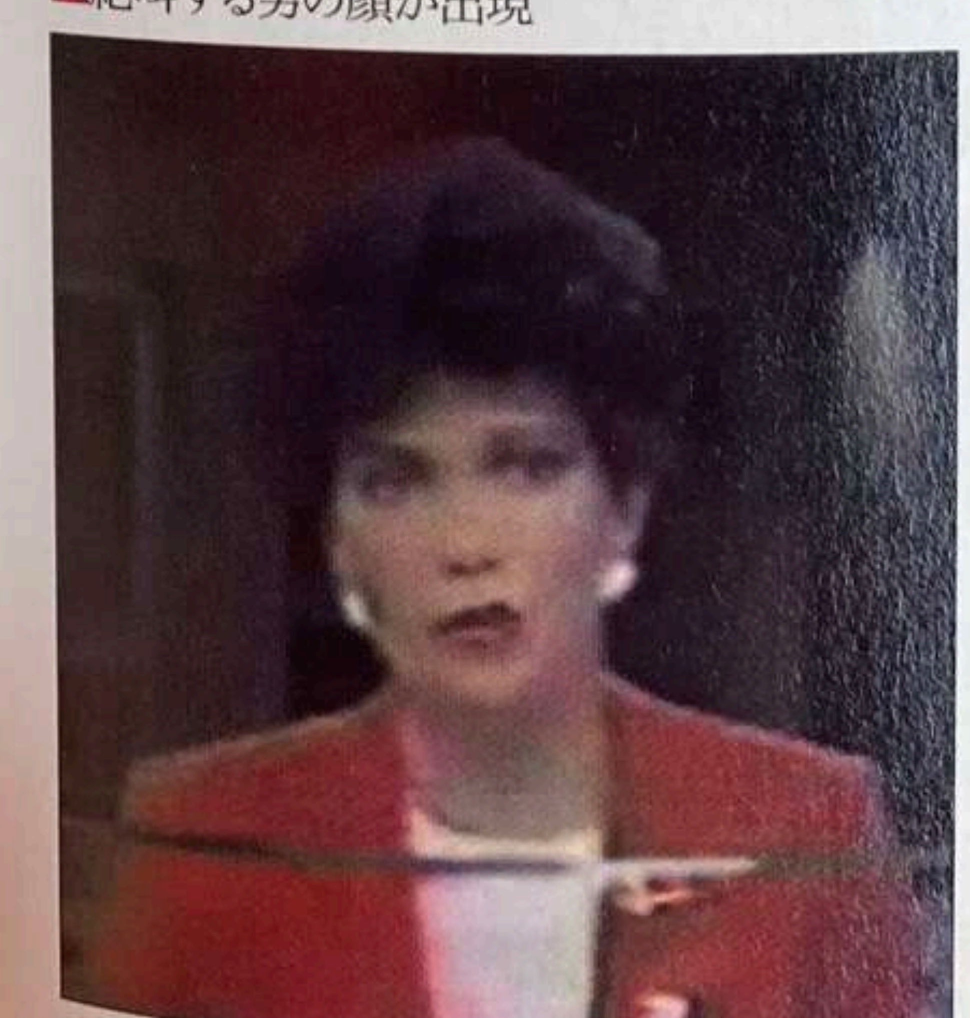
▲ニュース放映中



▲絶叫する男の顔が出現



▲ノイズが



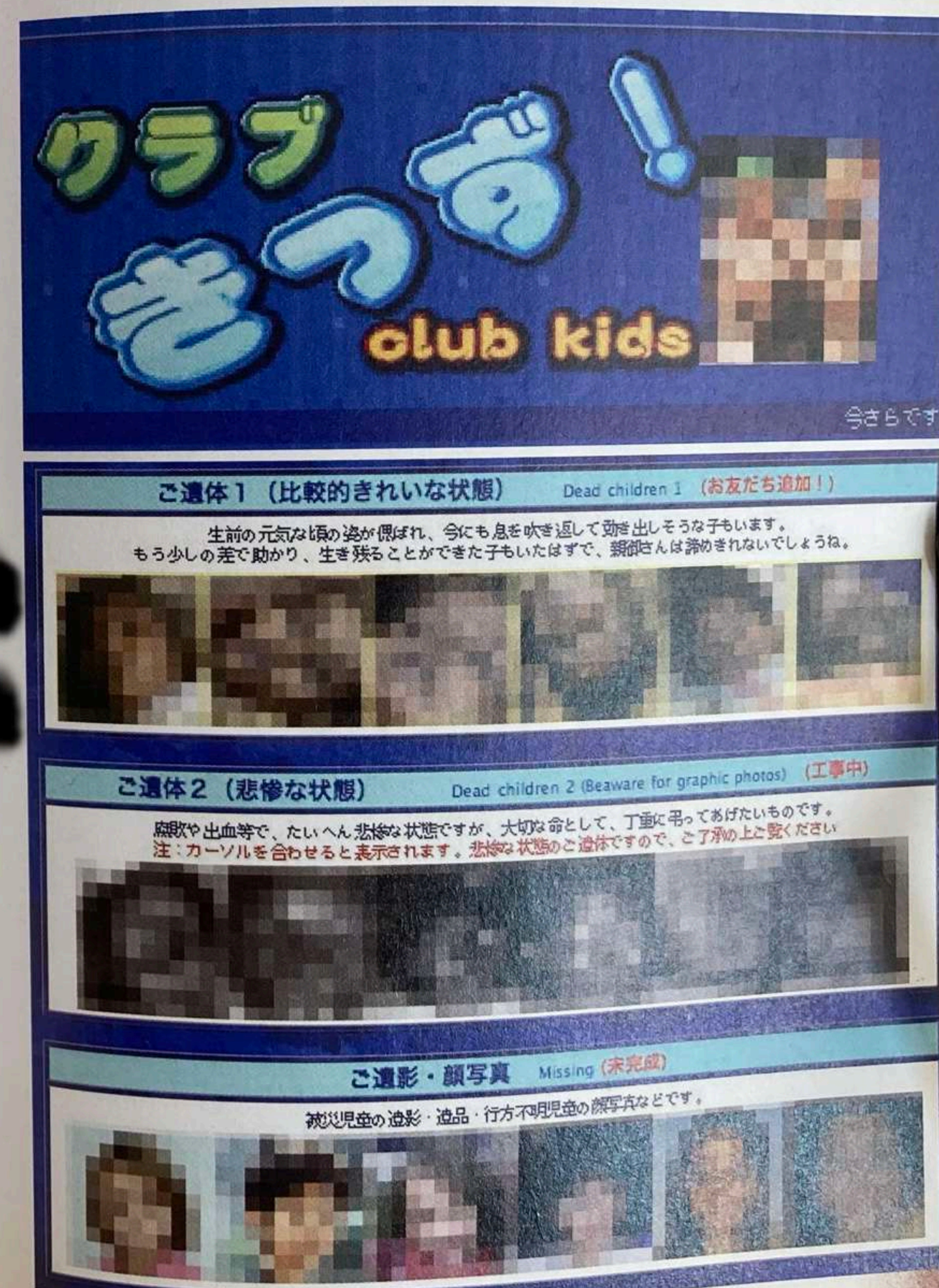
▲混乱するキャスター



▲こちらをニラむ女の子の顔

# 小学校教師が作った鬼畜サイト

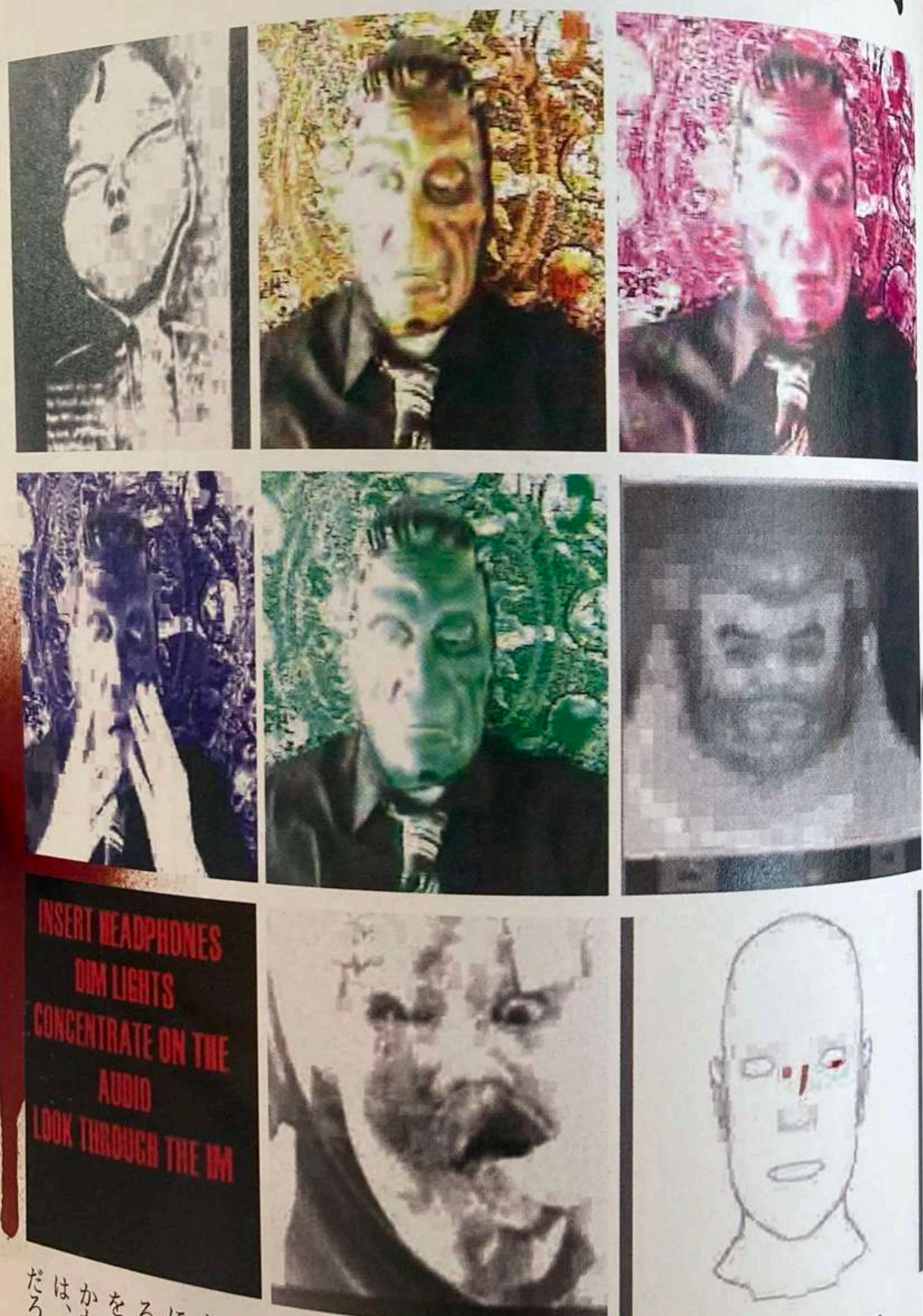
2006年、ある小学校に勤める教師が、ネット上に小学校児童の写真や交通事故で死んだ児童の写真を掲載した「クラブきっず」と題するサイトを開設。写真には、いちいち「こんな若さで滅茶苦茶な体になっちゃって、本人も恥ずかしいですね」といった鬼畜なコメントをつけていた。この教師は、現在、児童買春と、ポルノ禁止法違反容疑などで告訴されている。





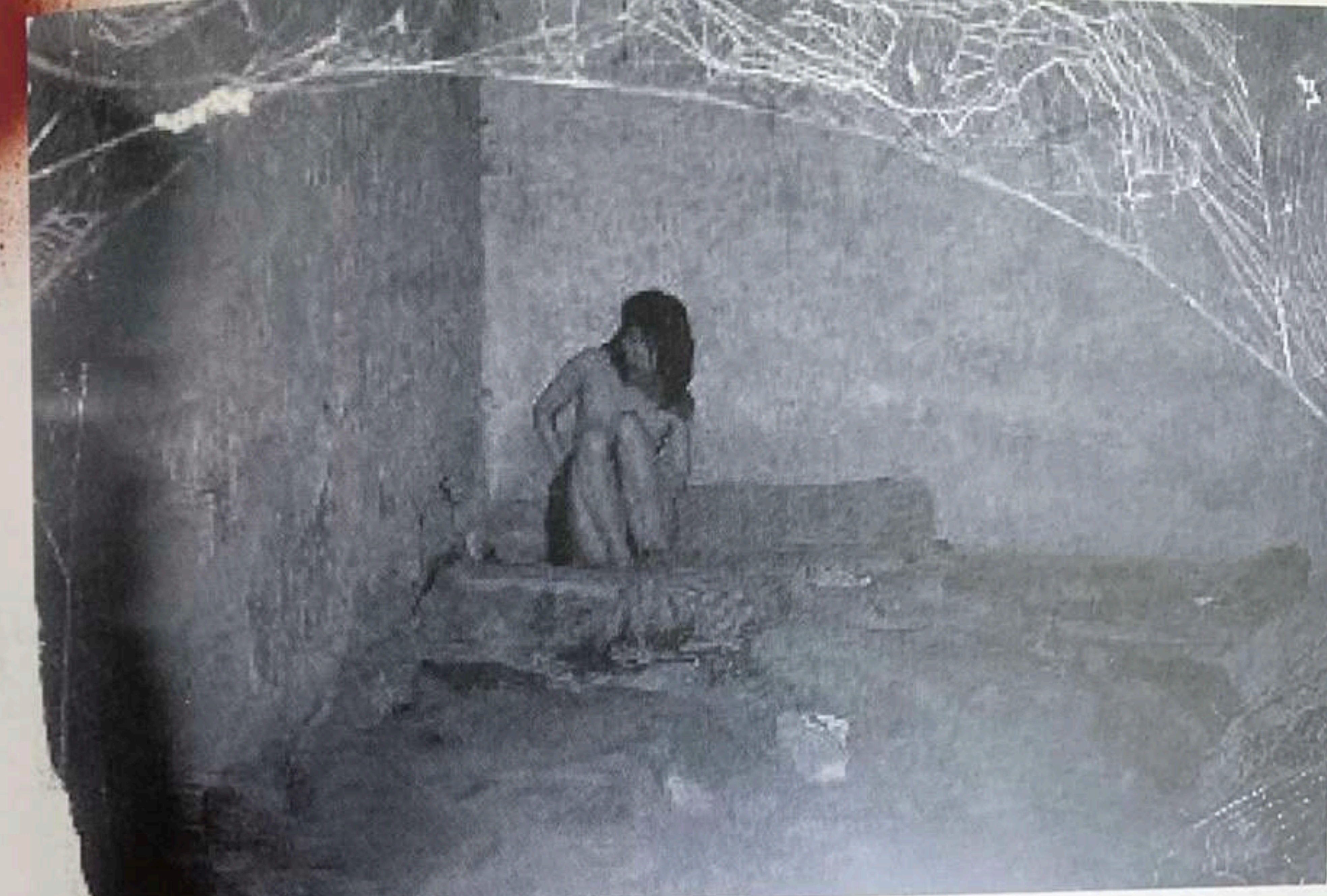


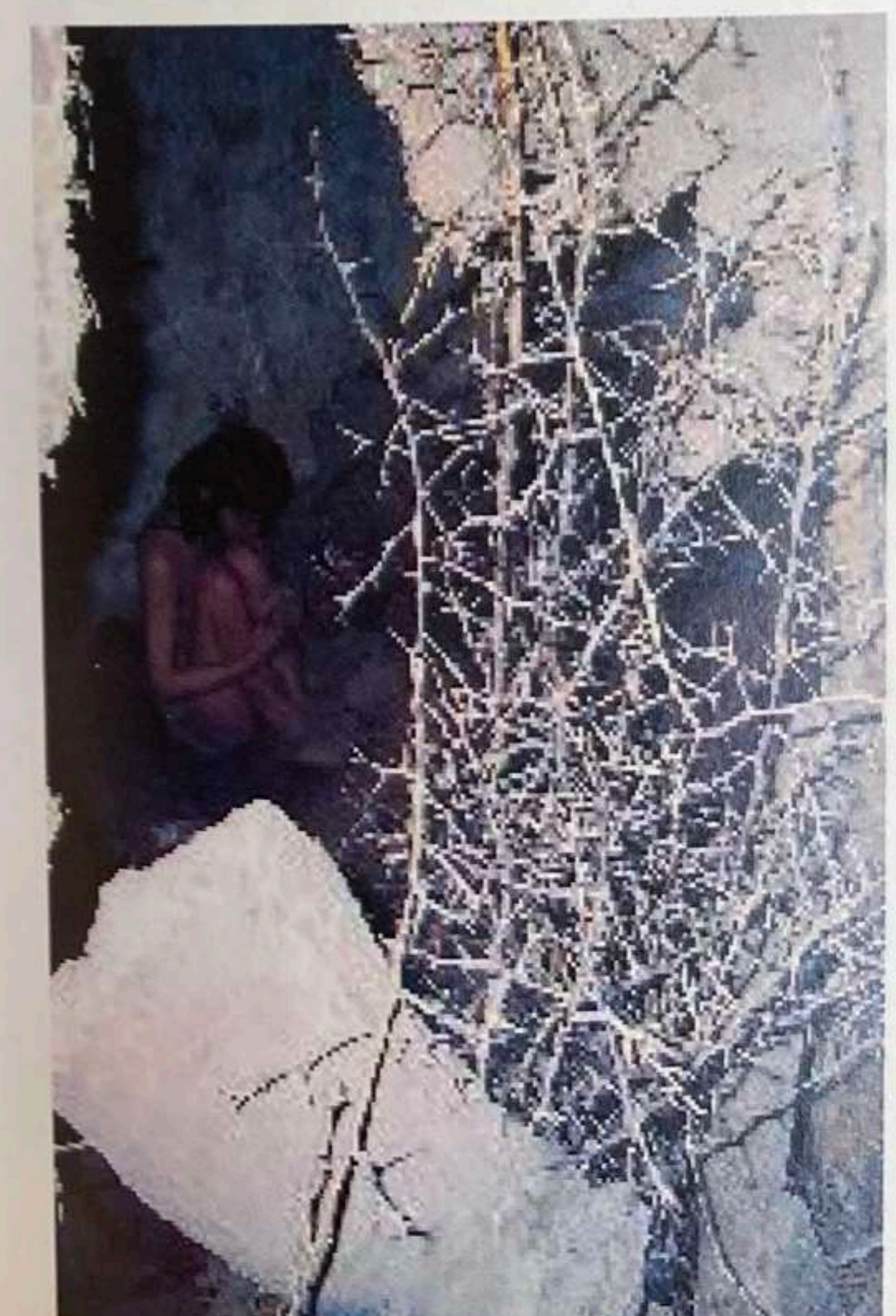

# ヒトラーの洗脳ビデオ




ナチスが、人間を操るために様々な実験を試みたのは有名な話。この映像は、ドイツ人の科学者が。ナチスが開発した洗脳実験の成果を応用して作った狂気のムービーである。動画は、謎のマスクを被った男がブツブツとつぶやくだけの映像に、謎のサブリミナルカットが挿入されるというもの。バックには低い周波のノイズが流れており、薄暗い部屋でヘッドホンを着けながら見ると、確かに妙な気分にさせられる。ネットでこの動画を見つけても、催眠にかかりやすいような方は、見ないほうがよいだろう。

# 13年間岩倉で暮らす女性





中国某所。簡素な煉瓦で覆われた、廃墟のような部屋。壁はところどころが崩れ落ち、そのスキ間には、中から出られないようにイバラが敷き詰められている。この環境で、写真の女性はすでに13年も暮らし続けている。

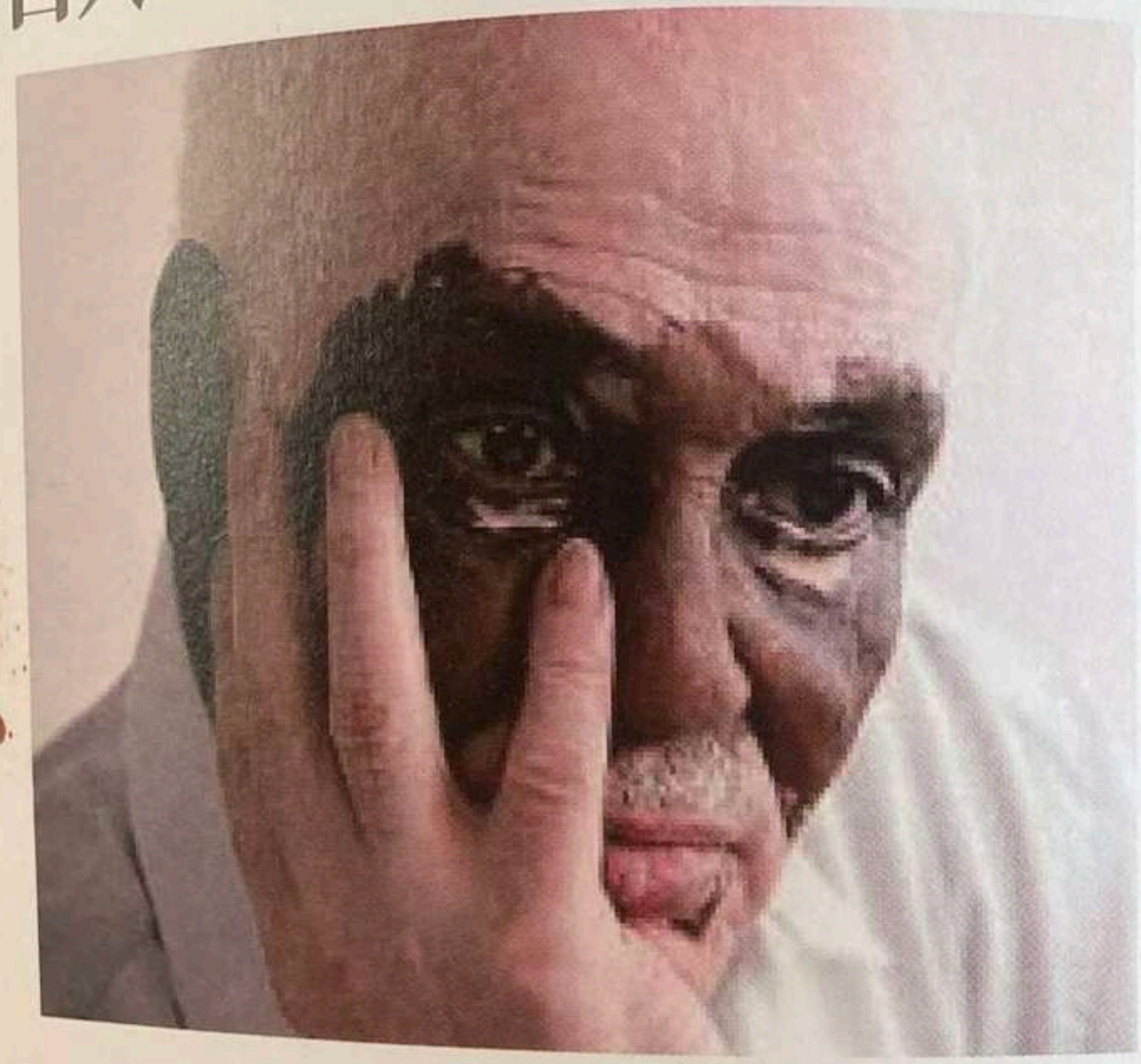
女性は現在36才。23才のころに最愛の夫が家から蒸発して以降、すべてを捨ててこの岩倉で暮らすことを決意。着の身着のままで生活し始めたのだ。

女性は1年を通して全裸。満足な食事もとらないため、長年の栄養不良で全身の皮膚は亀裂で覆われ、ただボンヤリと空中を眺めて暮らす毎日だという。





# 白人になりたかった男



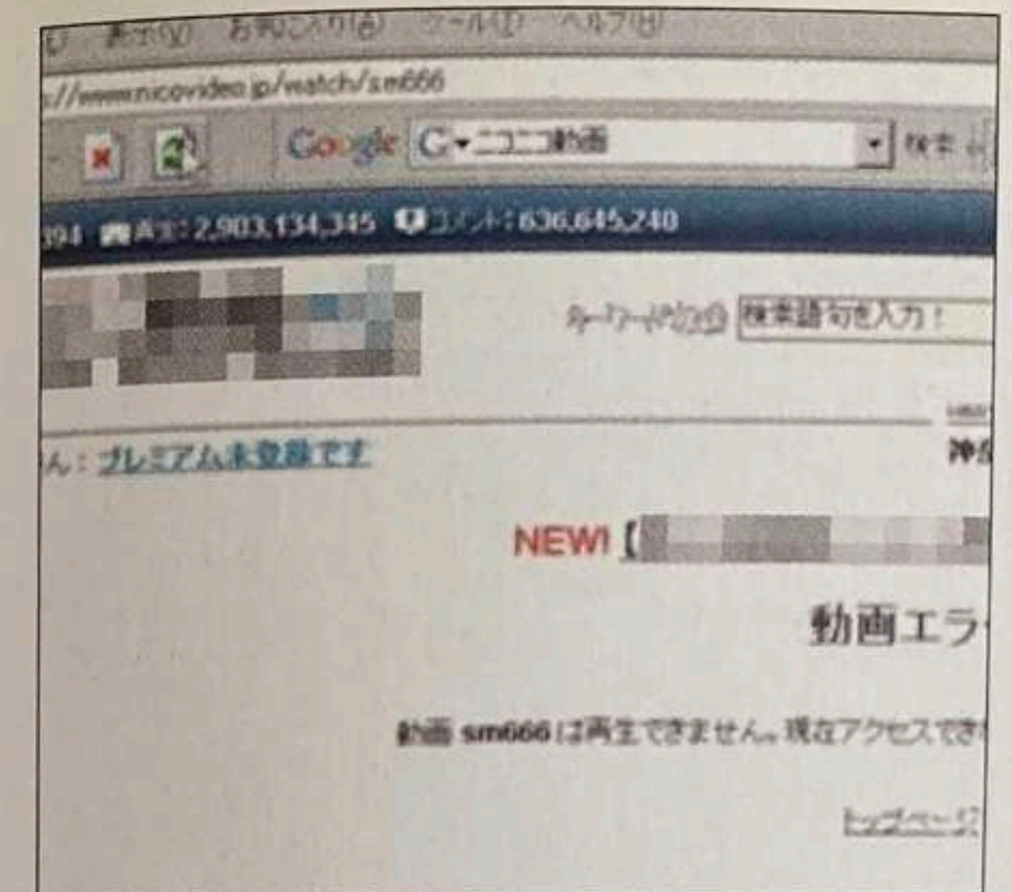
◀アメリカに住むこの男性、元は黒人だったが、白人にあこがれて肌の漂白手術を決意。しかし、金が無いため、肌を白くする副作用を持つ強力な肝臓薬を大量に飲んだところ、目の回りだけが黒く残ってしまったそうだ。

# 急激なダイエットの代償

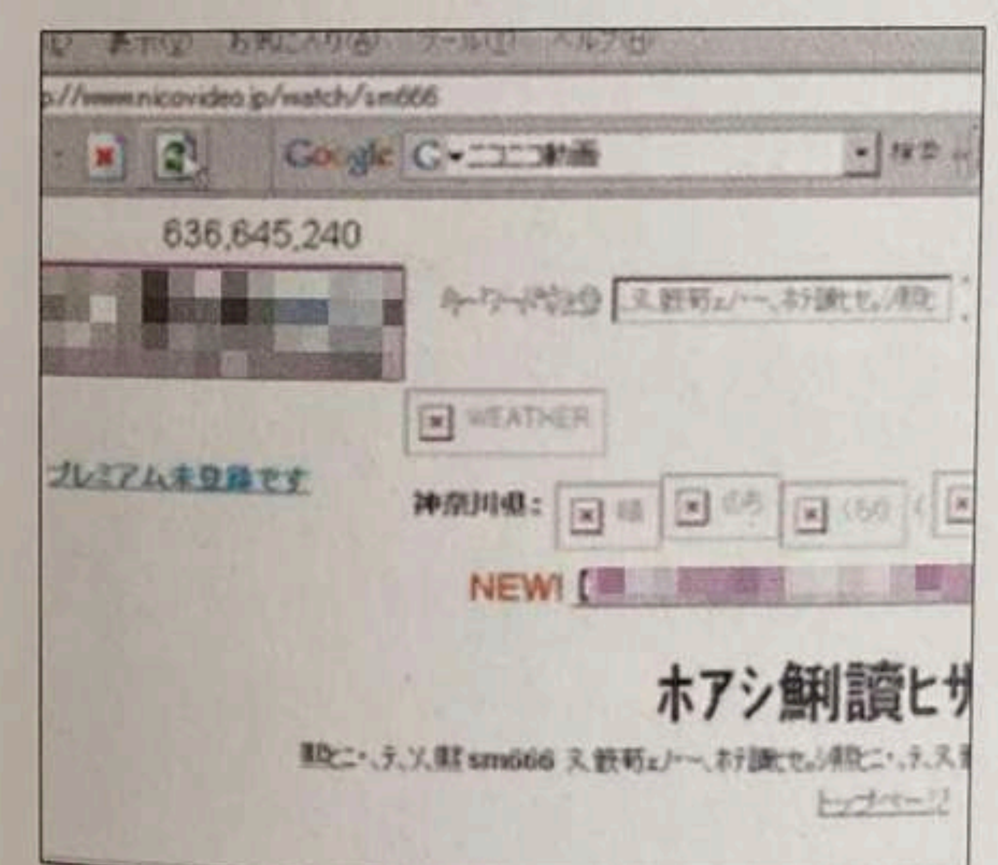


実に謎の1枚だ▶が、実はこれ、過激なダイエットの被害者である。数百キロあった体重を減らすべく、ドラッグを使った過激なダイエットに挑んだところ、大量に皮膚があまり、歩行すら困難になってしまったのだ。にしても、なぜ全裸で倒れているのかはよくわからないが。

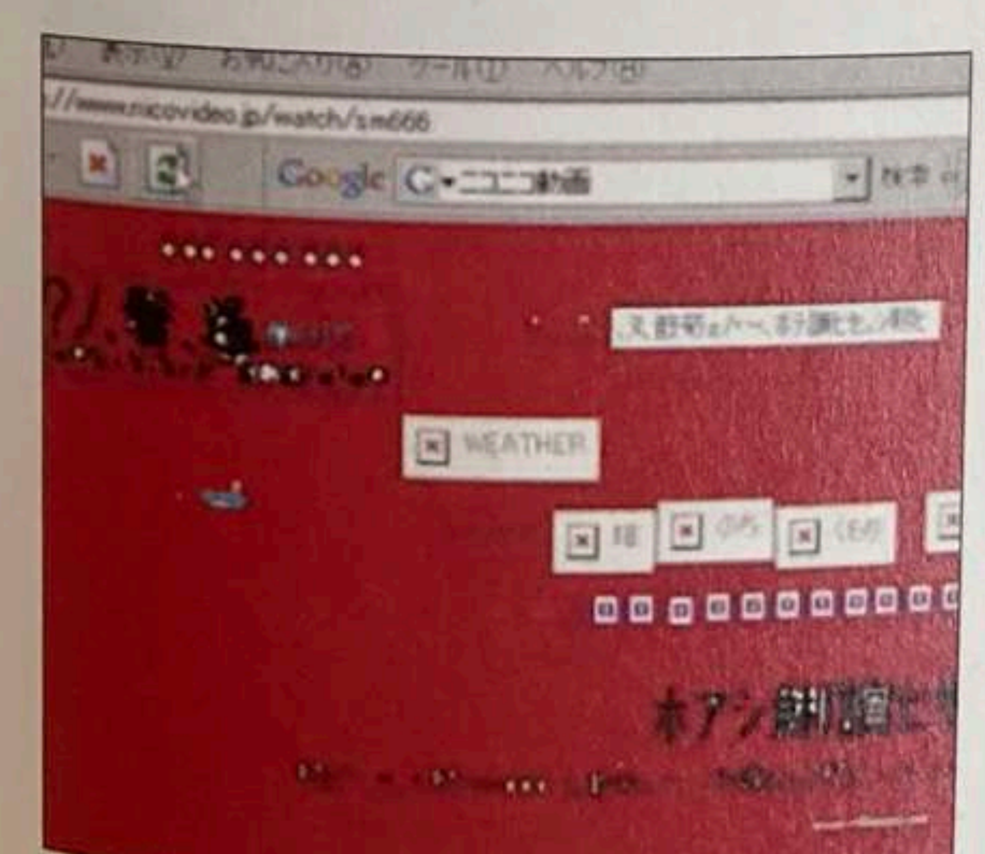
# ハッカーが作った呪いの動画



▲動画サイトのリンクを押し続けると



▲文字化けが起きて



▲真っ赤に

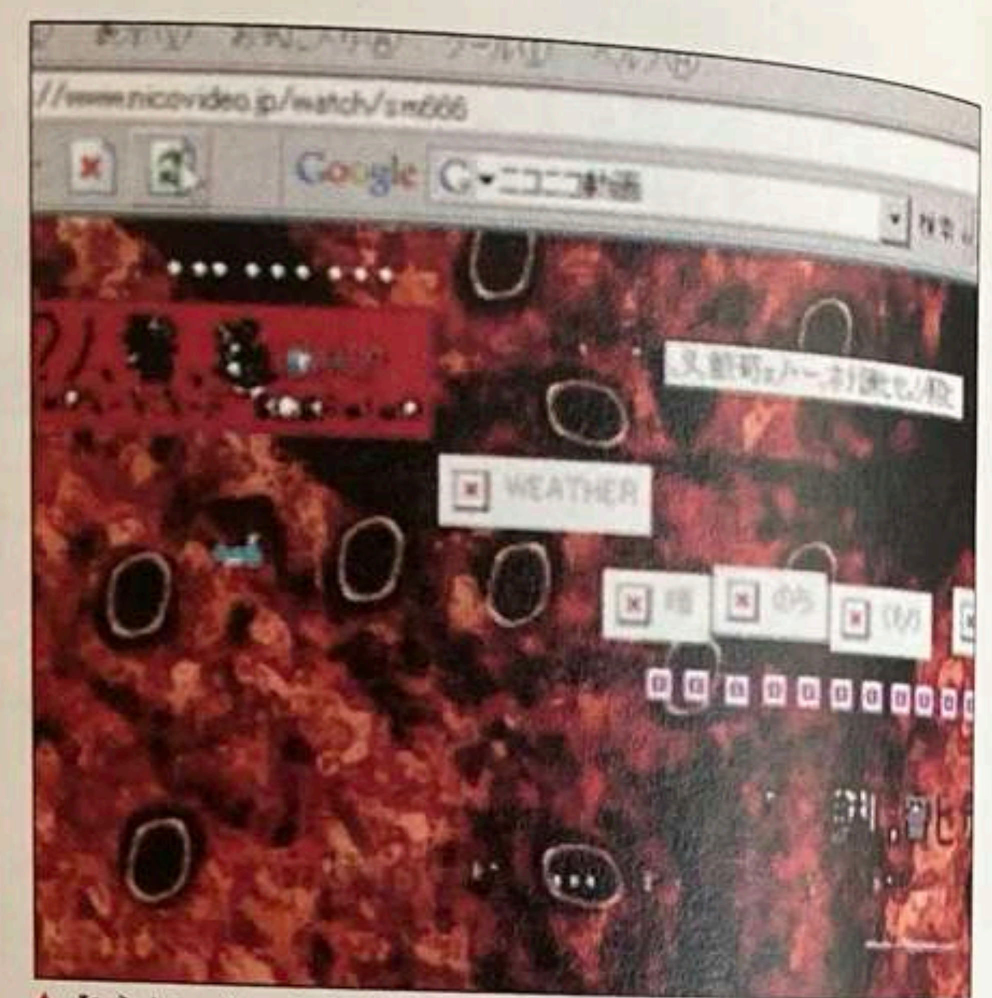
2006年、国内の動画サイトに「呪われた動画」とされるファイルがアップされた。この動画をクリックすると、モニタの画面が崩れて赤一色に染まっていき、「おねえちゃん」なる文字に続けて、最後は「逃ゲナサイ」のメッセージが連打される。現実的な被害は特にないのだが、ネットの一部では「動画の作者が発狂した」や「見た者が事故死した」などの書き込みが相次ぎ、完全に都市伝説の1つと化した。ちなみに、現在、この動画を閲覧するのは、ほぼ不可能になっている。



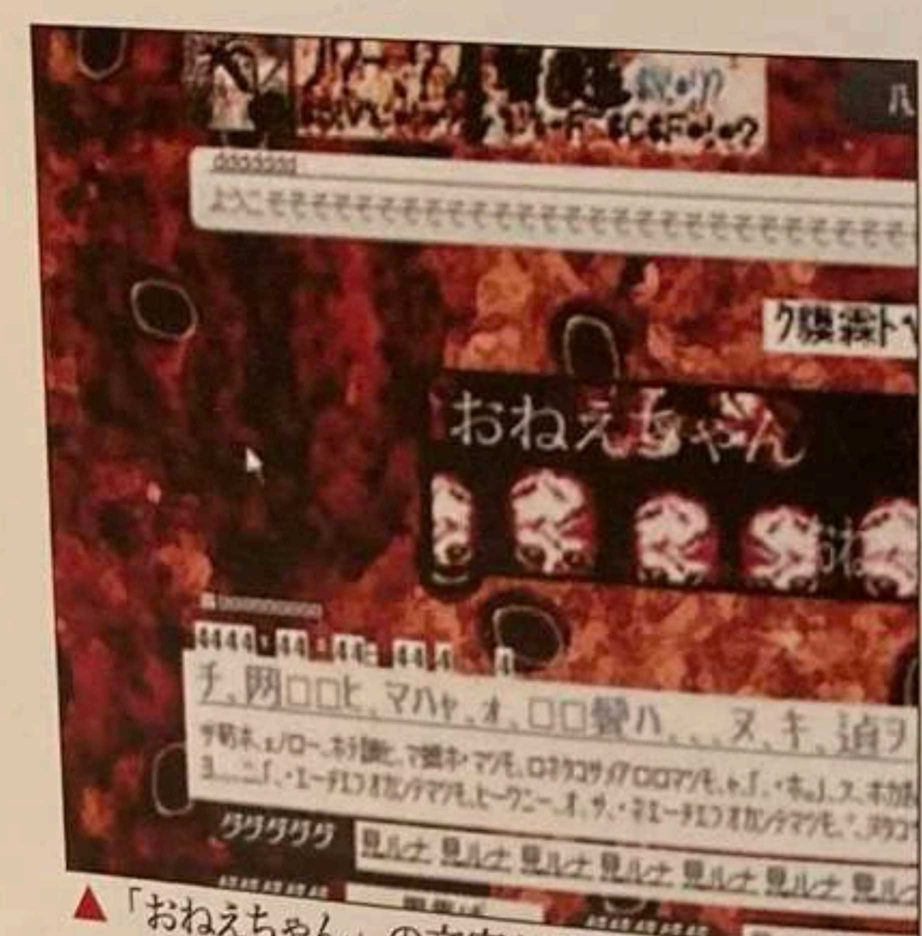




▲さらにバナーまで変化

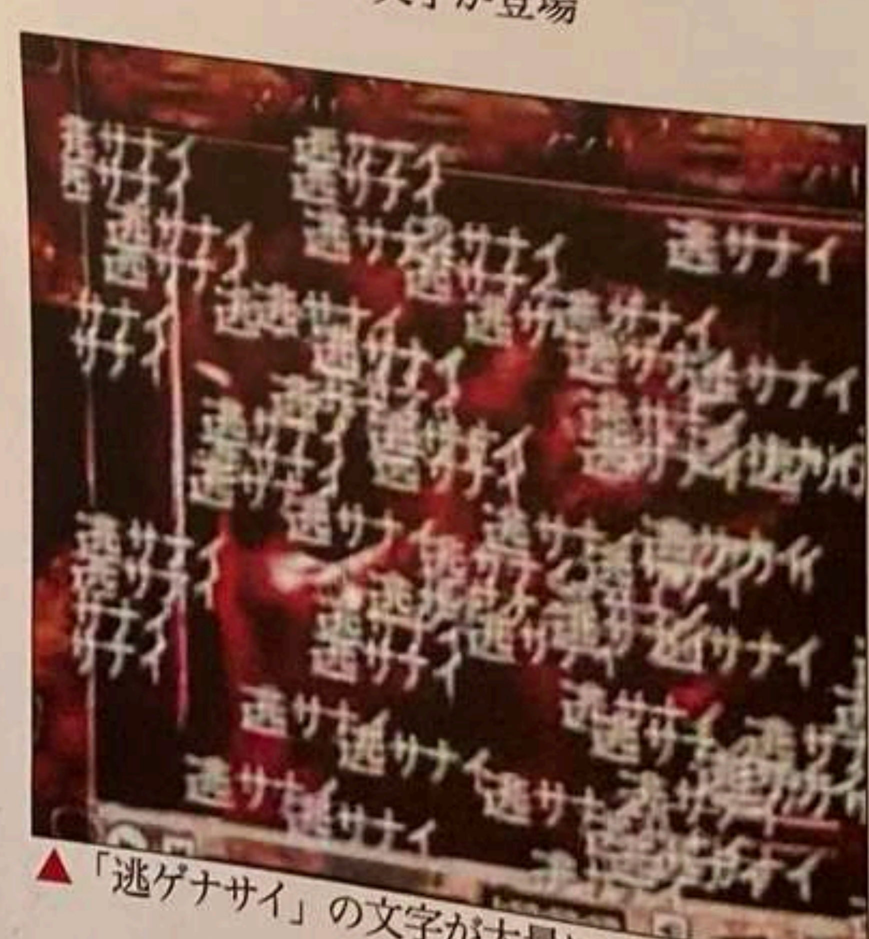


▲さらにバックが禍々しい画像に変わり



▲「おねえちゃん」の文字が登場


▲画面中央には謎のクリーチャーが



▲「逃ゲナサイ」の文字が大量に


▲クリーチャーが手をかざすと

# エイズワクチン完成のお知らせ

『エイズワクチン完成のお知らせ』
北海道「利尻山」マサ　青森「岩木山」三橋　山形「月山」笹　石川「白山」岡崎　和歌山「那智の滝」セイト　鳥取「大山」渡辺　長崎「普賢岳」石橋　鹿児島「屋久島」村西　以上八山の八犬士の遺伝子に依りエイズワクチン完成
[illegible]
[illegible]（月山の神像所持）３２歳　政情不安定な国にお住まいで、基本生活設備さえ施設して戴く事なく、不自由な生活をされてる方が多数おられます。年中行事自体、お金が掛かるばかりで、国際的立場から見ても人助けには成りません。先進国主導体制の行き過ぎを改革し、全世界の人々に文化的生活を営んで頂き、風俗産業の必要性を問いただし（例えば贅沢品の購入や、高級飲食を控える）、違法薬物の取り締り（運動選手ではステロイド投与、一般人では薬物注射等の覚醒剤）、環境保全対策（飲食店や家庭で出る残飯を魚介類の飼料として有効利用）等、全国民の皆様で社会活動をされる事が必要です。（皇室及び各省庁からも御支援頂いております。）

２０００年ごろ、都内の民家へ投げ込まれたチラシ。「エイズワクチン完成」という凄まじいニュースから始まっているのに、中盤から先進国の批判に話が変わり、最後はボランティア運動の必要性を訴えるという謎の展開になっている。

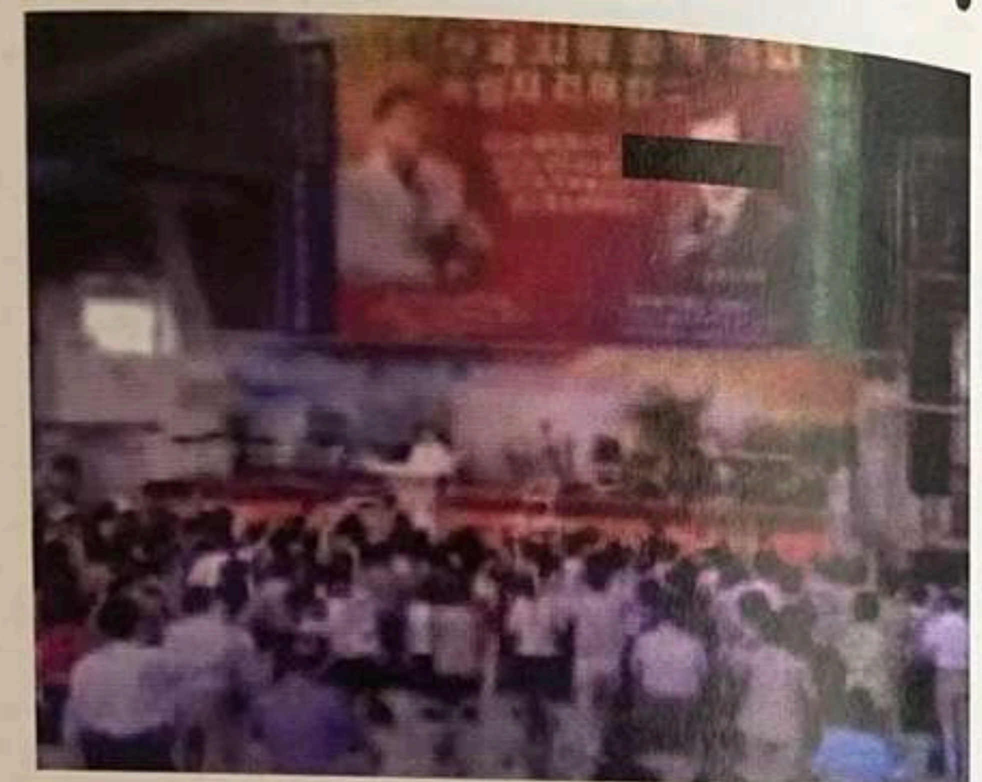
出だしの「八犬士の遺伝子でエイズワクチン完成」のインパクトがすばらしいだけに、後半の失速ぶりが惜しまれる。



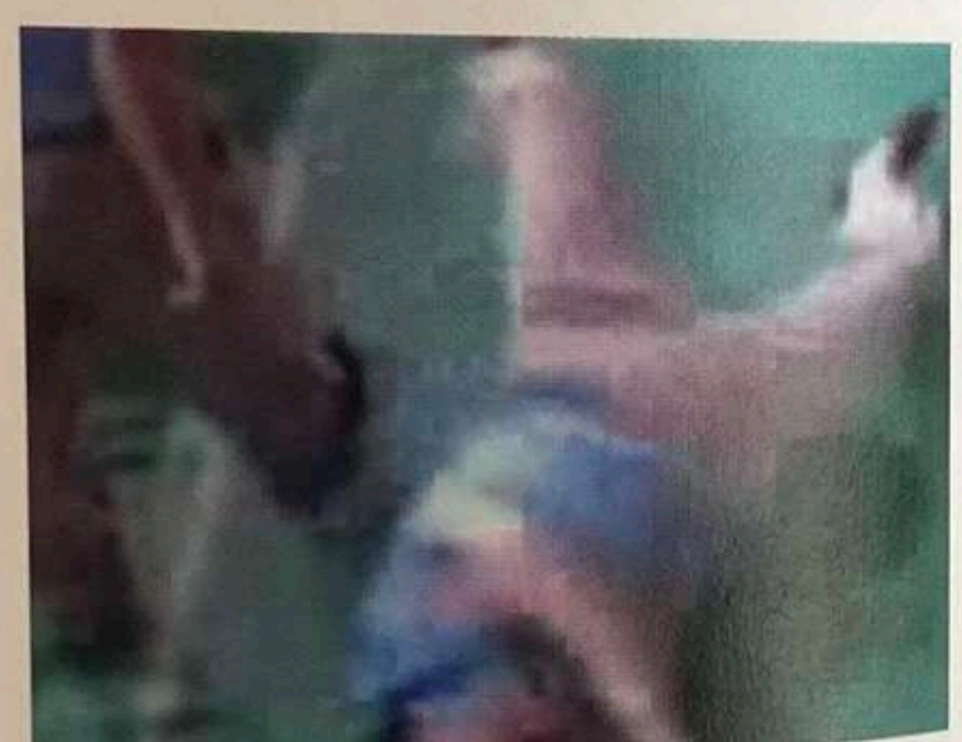


# 大騒ぎの新興宗教集会


▲教祖様が歌い出すと


▲大集会で


▲負けじと他の参加者もゴロゴロ


▲１人がゴロゴロと転がり出す


▲教祖の後ろでもゴロゴロゴロ


▲みんなでゴロゴロゴロ

韓国で名高いとある教団の、大集会の模様を収録した動画である。なぜか教祖がカラオケを始めると、方々から叫びや泣き声が上がり、次々と信者たちが地面を転がりだしていく。

地面の回転と教祖様への信仰にどんな関係があるのかはよくわからない。

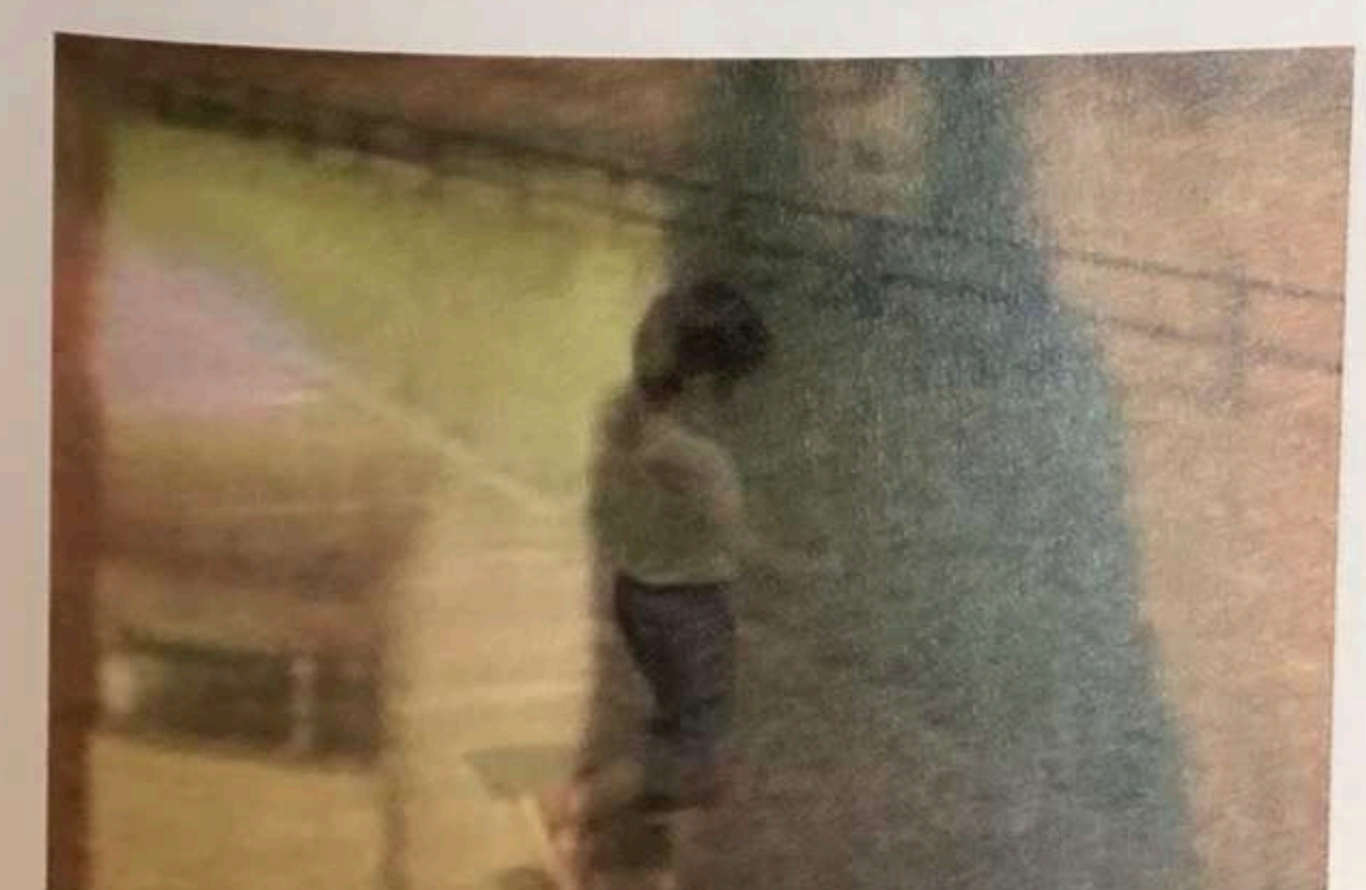
# 謎の二重写し映像



▲平凡な光景が



▲いきなり人の顔らしき物が二重写しに



▲さらに髪の長い女らしきシーンが

神奈川県に住むYさんが、近ごろ撮影したホームビデオに写り込んだ、謎のシーンである。動画は、平凡な一家団らんの光景から始まるが、しばらくすると画像が微妙にブレ、人影のような映像が二重写しになって表示される。確かに、テープ自体は何度も重ね撮りを繰り返した中古品だが、Yさんがこのような映像を撮影した記憶はなし。映り込んでいる人物にも全く心当たりはないそうだ。





# 肉体ドーピングマニアの悲劇





ハードコアな筋肉を持つこの男女、実はまっとうなトレーニングで鍛え上げた体ではない。筋肉の上にシリコンを埋め込み、ムリヤリ全身のボリュームを上げているのだ。当然、体に良いわけがなく、上の男性は近ごろ腕の皮膚が破れてヘロヘロな肉体に、左の女性は血管が破裂して心停止の一歩手前までダメージを負ったそうだ。

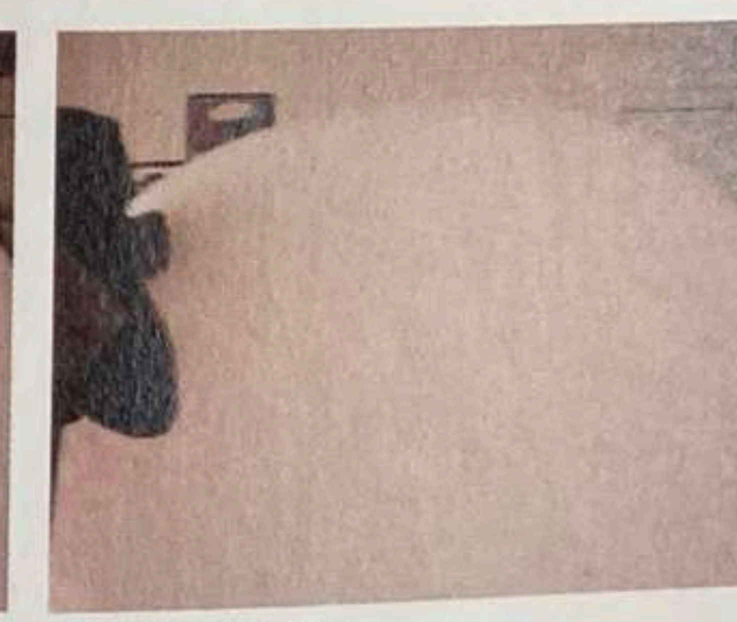
## 某大学地下の謎の瓶詰め

都内某大学の地下室▶には、研究員ですらまともに入ったことのない研究資材置き場が存在する。そこには、右写真のような謎の瓶詰めが置いてあるが、誰もこれが何をホルマリン漬けしたものなのか、サッパリわからないのだという。なお、見た目が妙に生々しいので、画像にはモザイクをかけさせていただいた。



## 風船フェチの楽しい日常


▲頭を入れて


▲デカい風船に


▲ご満悦

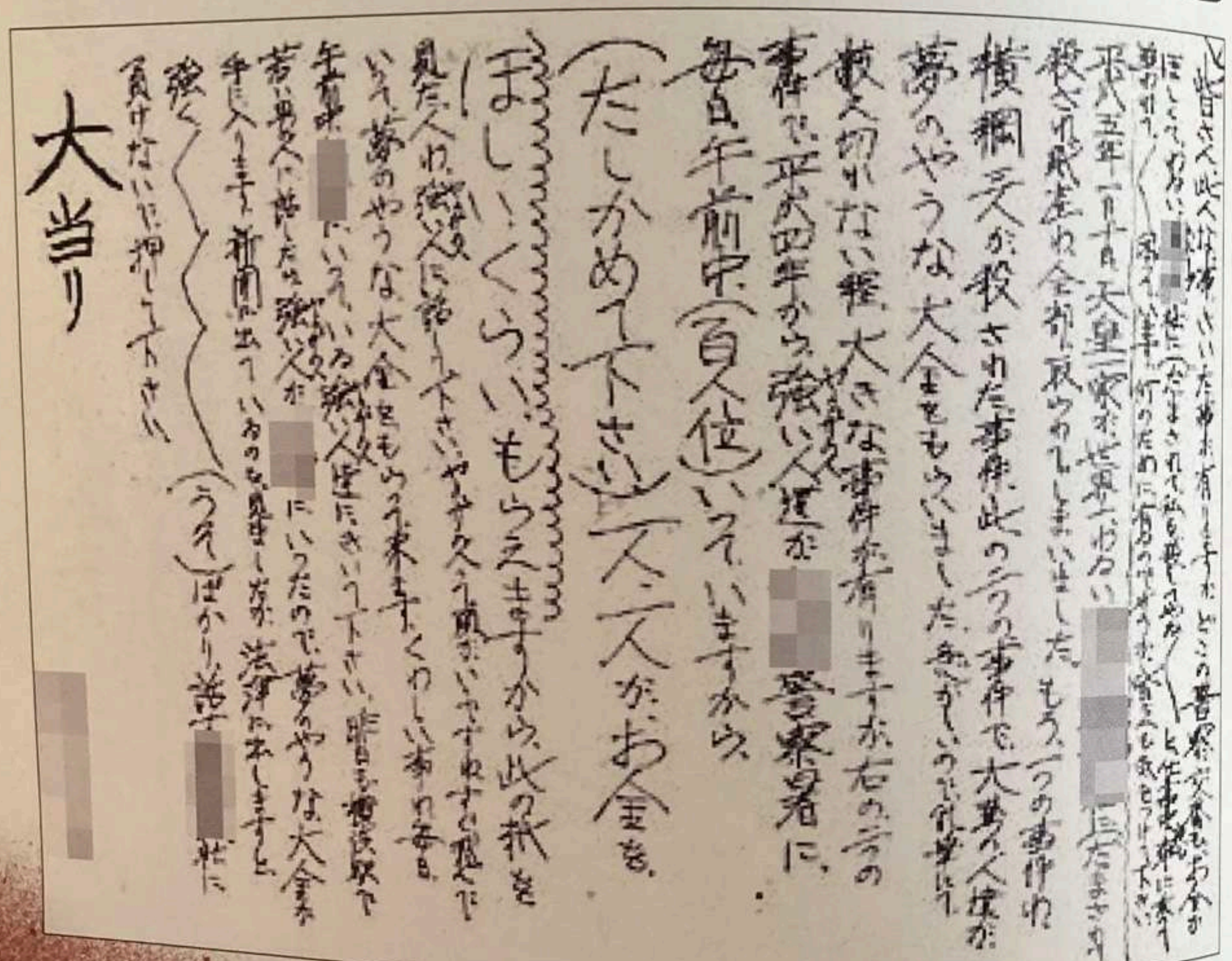

▲全身スッポリ

左の写真は、女性には全く興味がわかず、風船のゴム臭と弾力を味わうことでしか興奮を得られない男の、日常のワンシーンだ。巨大な風船に潜り込み、内部でしばしマスターベーションにふけるのが、彼のお気に入りの過ごし方だ。





## 私を、殺してやる、殺してやると

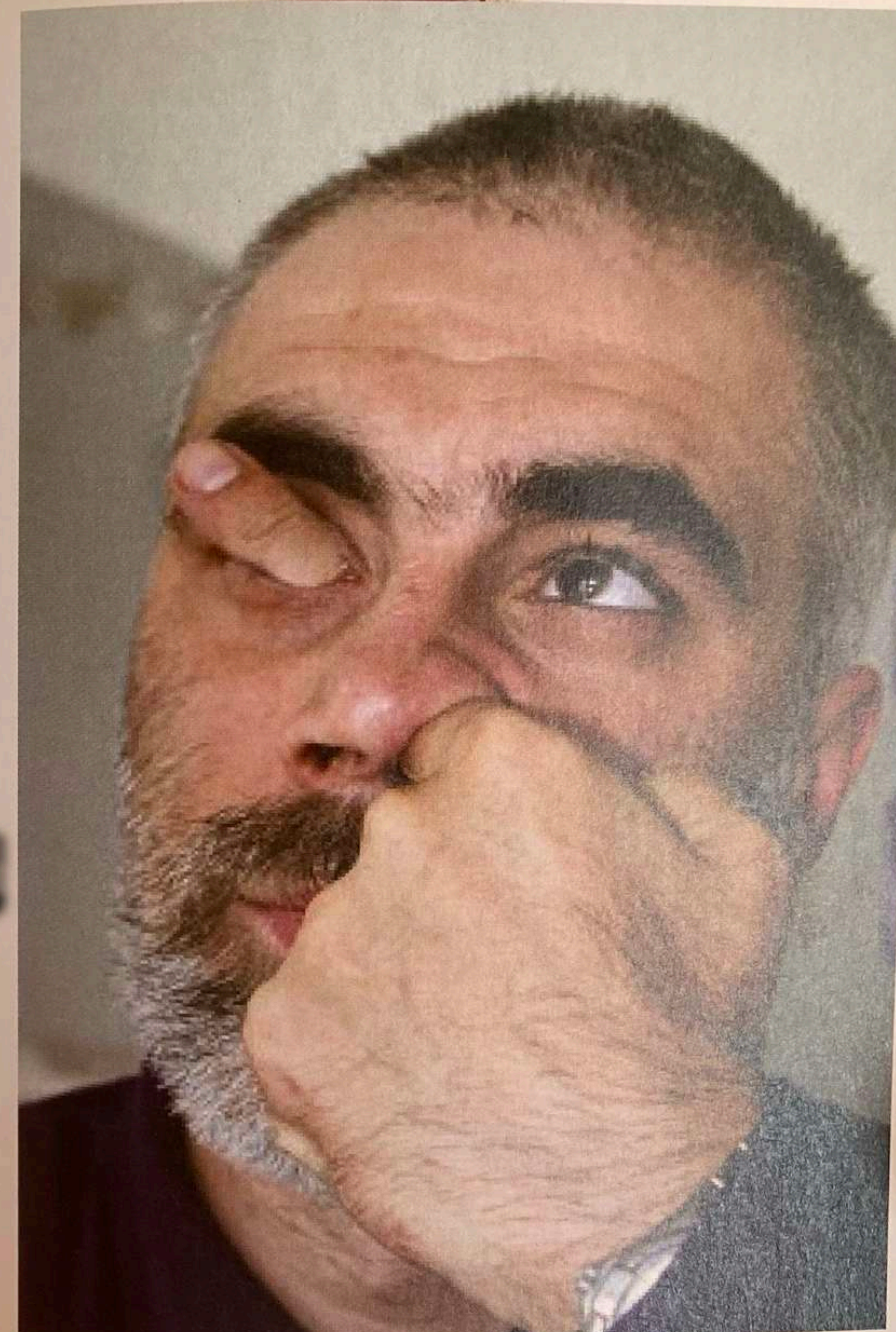



98年ごろ、都内に貼られていたチラシ。

「皆さん、此んな、事、きいた事が、有りますか、どこの、警察、交番も、お金がほしくて、わるい、●●社（グループ）に、（だまされて、私を、殺してやる、殺してやると、仕事中、夜も車に乗って追われて、追われて困っています**（中略）**財産わ、全部、取られてしまいました、もう、一つの事件わ、横綱三人が、殺された、事件、此の二つの、事件で、大勢の、人たちが、夢の、ような、大金をもらいました、**（中略）**ヤクザの人って頭がいゝですね、すぐ飛んでいって、夢の、ような、大金を、もらって、来ます」

ということで、どうも某大手出版社が、ヤクザを雇って自分を殺そうとしているという妄想の持ち主らしい。最後に強調される「大当たり」が何を指しているのかは不明。

# 人差し指、貫通男

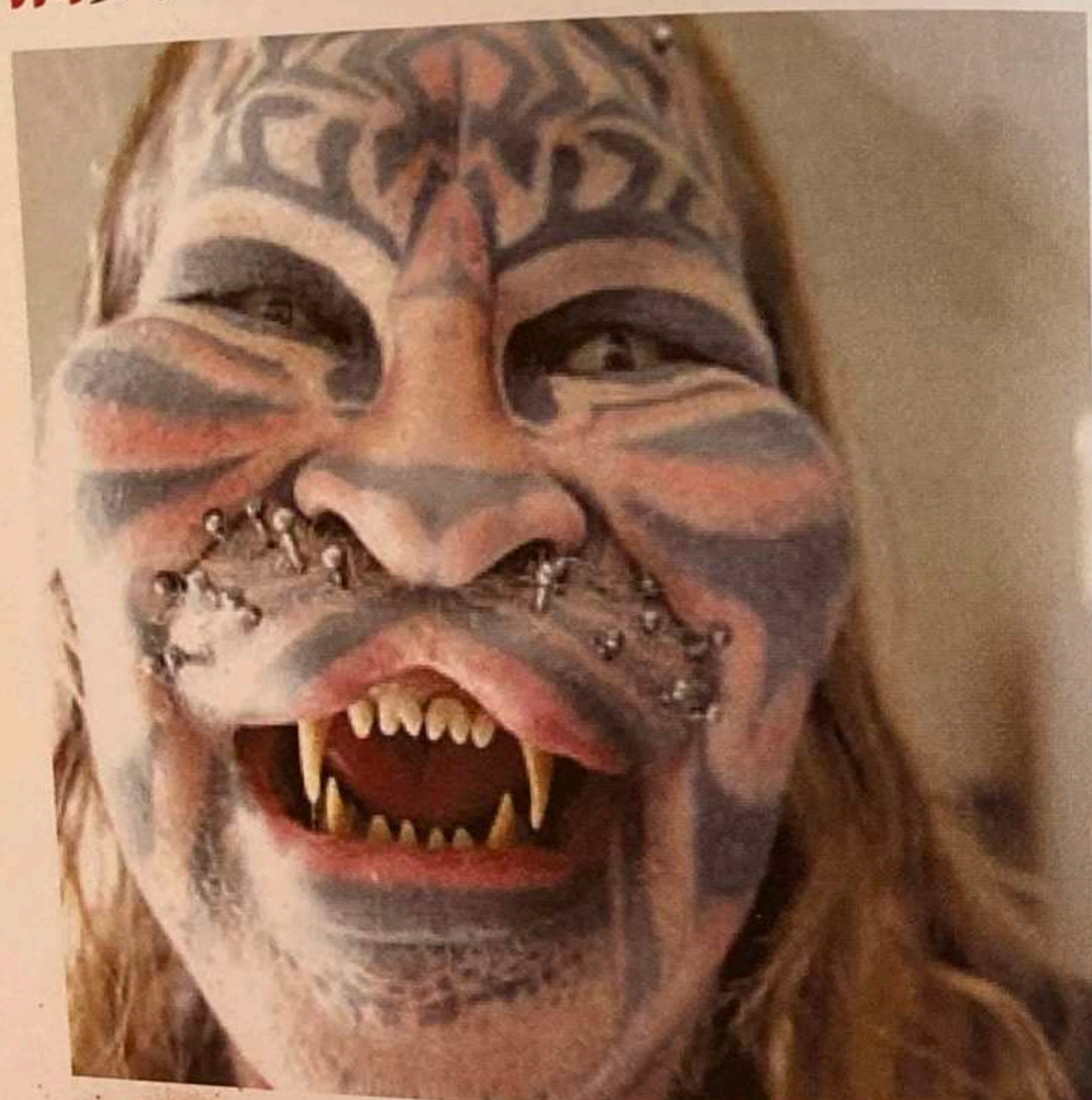


写真は、アメリカに住む56才の男性。少年時代に、鼻からロープを入れて口から出すという特技を持っていたが、次第にエスカレートして、次に鼻から入れた水を目から出すテクニックを会得。さらにタバコの煙を目から出す技も学び、最後にはご覧のように指を貫通させる段階に至ったそうだ。





# 猫女



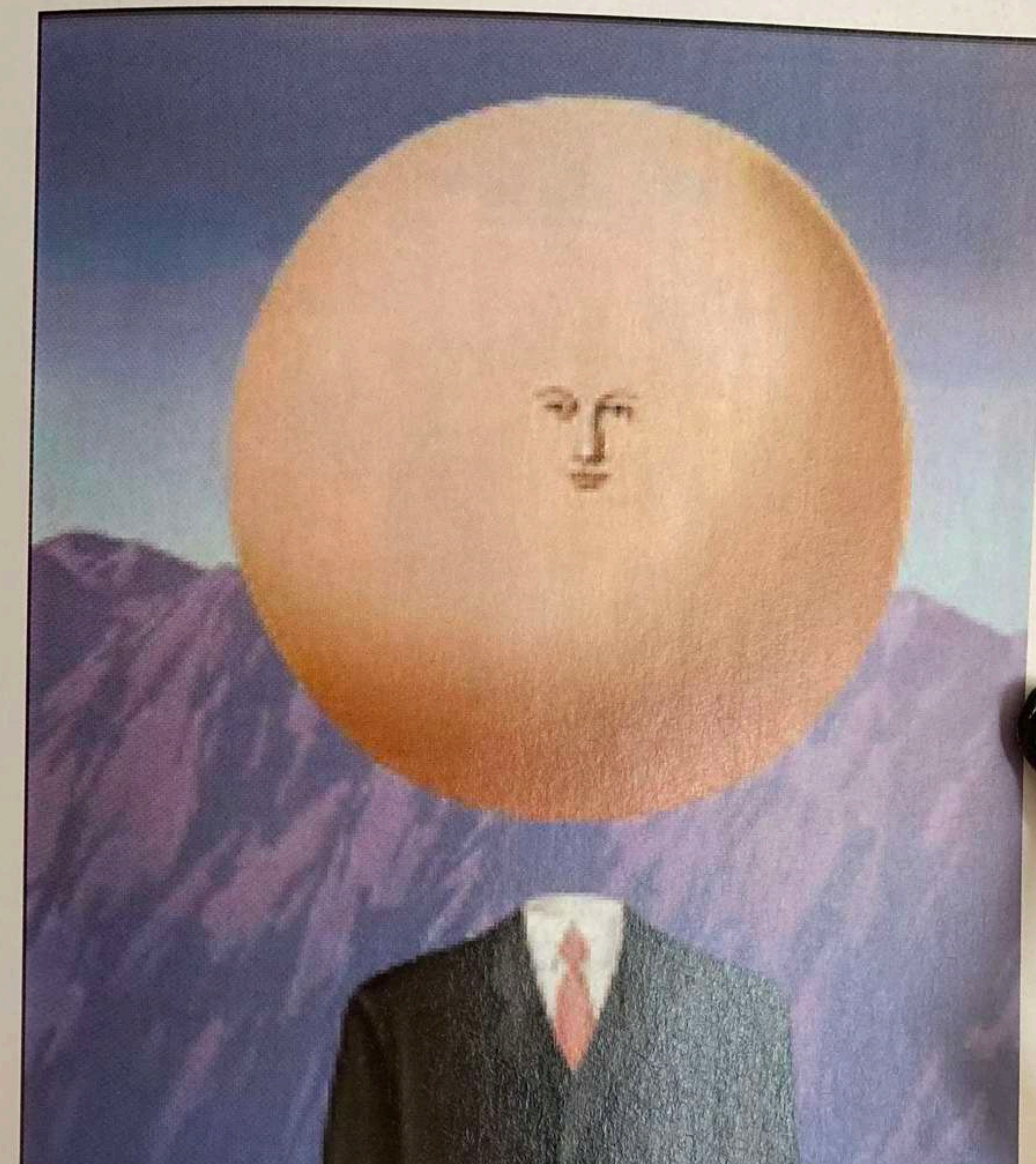
アメリカのタトゥー業界では超有名人の彼女は、昔からの猫好きが高じて、自らを猫にすることを思い立った。全身の模様は入れ墨、頬のふくらみはシリコン、ヒゲはピンのボディピアスで表現している。

# トカゲ男



こちらもタトゥー業界では知らぬ者のない、通称「トカゲ男」である。といってもトカゲに憧れたわけではなく、体中にタトゥーを入れているうちに、自然とトカゲっぽい外見になっただけらしい。

# 自分のルックスを苦にして死んだ画家のセルフイメージ画



イタリアに住む画家が、自ら命を絶つ直前に描いた作品だ。

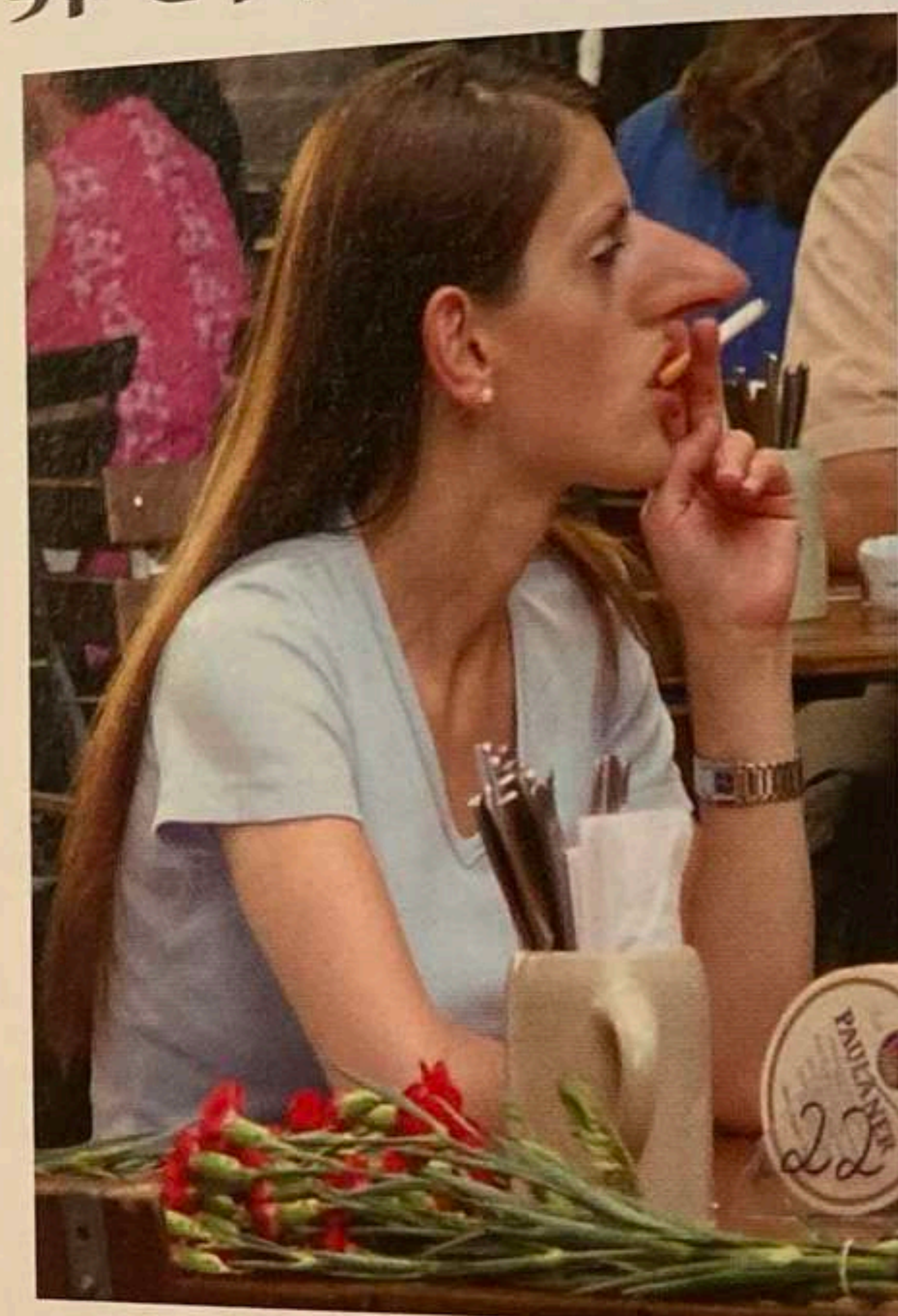
この画家は、死ぬ間際まで「自分の顔は人間の顔ではない」という思いに囚われており、いくら周囲に「普通の顔だ」と諭されても納得しなかった。そこで、彼が周りの人間を納得させるべく描いたのが、この自画像である。

彼にとっては、この絵こそが自分のイメージに忠実なものだったらしい。

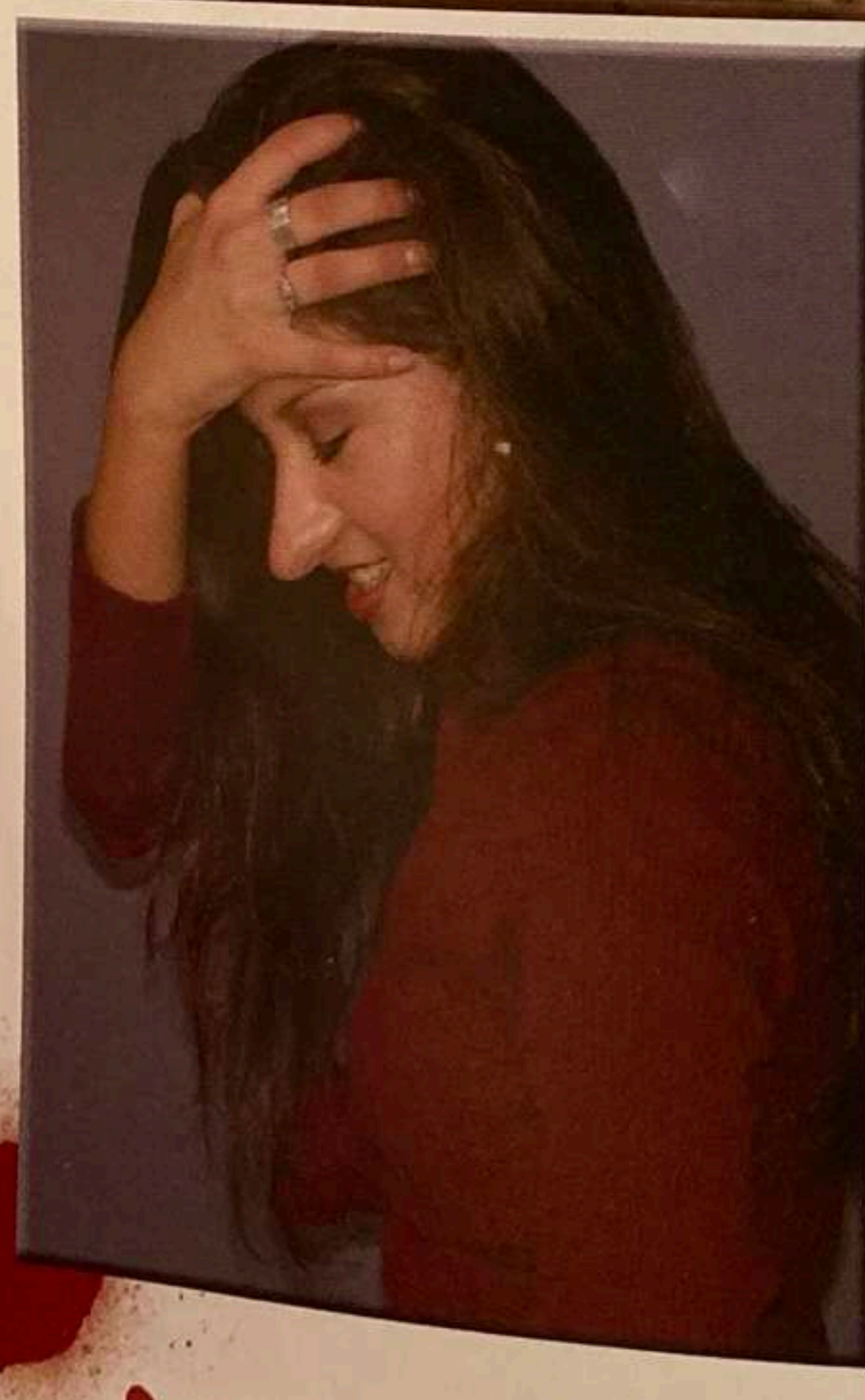




# 鼻を高くしすぎた女たち



高い鼻はいつでも女性の憧れだが、近ごろは整形技術の発達により、ここに取り上げた女性たちのように、度を超して鼻を高くすることが可能となっている。大半の女性は、最初はそこそこの高さに鼻をいじるのだが、少しずつエスカレートしていき、やがて平均値を大きく上回る高さまでメスを入れてしまうらしい。



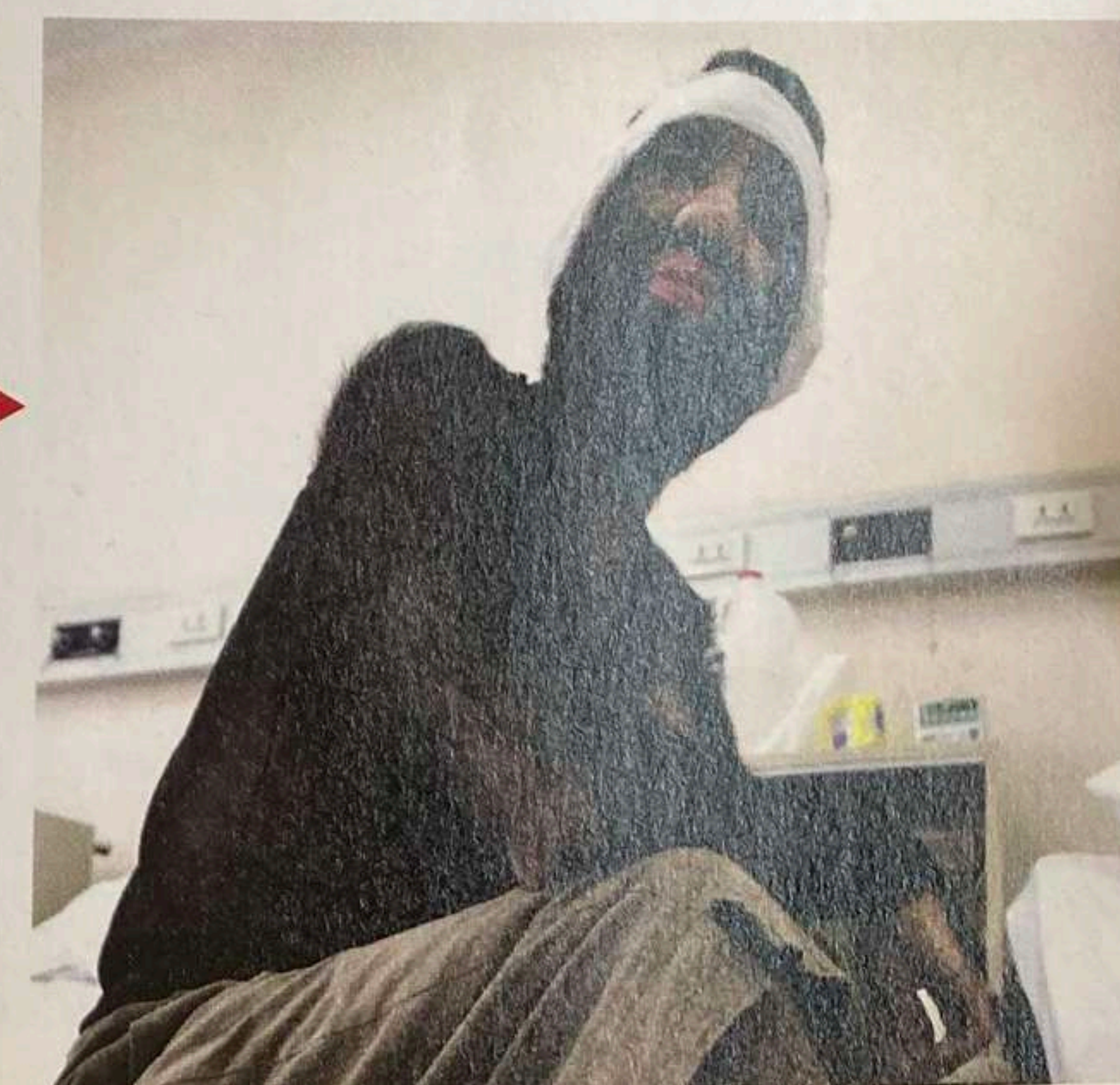


## 自動車が好きすぎる男



◀マヌケな画像で恐縮だが、本人はいたってマジメ。「自動車性愛症候群」という名の、本気で自動車しか愛せない病気なのだ。写真の彼は、ペニスを車のどこかに差し込まねば、オーガズムにも達することができない。

## 増毛をしすぎた男



▶全身毛だらけのこの中国人男性、かねてより毛髪の薄さに悩んでいたが、そのノイローゼが高じて全身への植毛を決意。数百万をかけてご覧の剛毛に生まれ変わった。この状態に、本人は大喜びだそうだ。





## ウエストを細くしすぎた女



◀幼いころからくびれたウエストに憧れ続けた彼女は、つねに細いコルセットを身につけ続け、ついに全周30センチの腰を手に入れた。しかし、締め付けすぎて食事が消化できず、医者からは「寿命が20年ちぢまっている」と宣告されている。

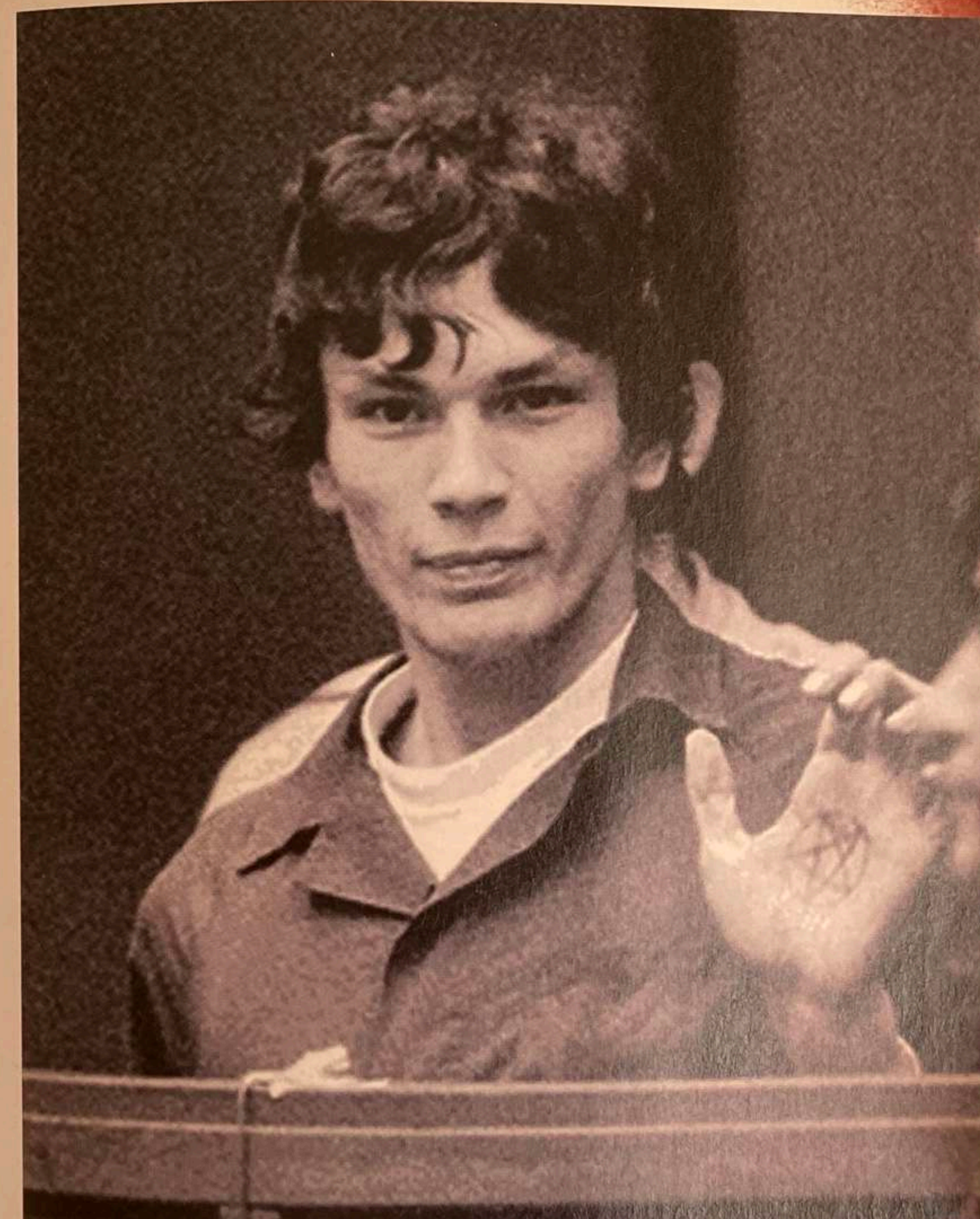
## 亀が好きすぎる老婆




アメリカ・カリフォルニアに住む84才の老婆の冷蔵庫には、食料は全く入っておらず、代わりにつねに十数匹の亀が冬眠している。遊びに来た友人たちは、みなビールを取りに来て絶句するそうだ。▶

## 笑う殺人鬼6

# リチャード・ラミレス



1984年6月から翌8月にかけ、ロサンゼルスの民家に端から押し入り、老婆を殺して金品を奪い、若い女がいれば陵辱しまくった、無差別強盗殺人犯である。

逮捕時、シャブ中だったラミレスは、歯がすべて抜け落ちていたが、弁護士が義歯をはめさせたところ急に「男前だ」と言われてブレイク。全米の若者たちのアイドルとなった。上の写真は、自分が「悪魔崇拝者」だということを示すアピールだが、これも責任無能力に持ち込むための、弁護士の入れ知恵だという。

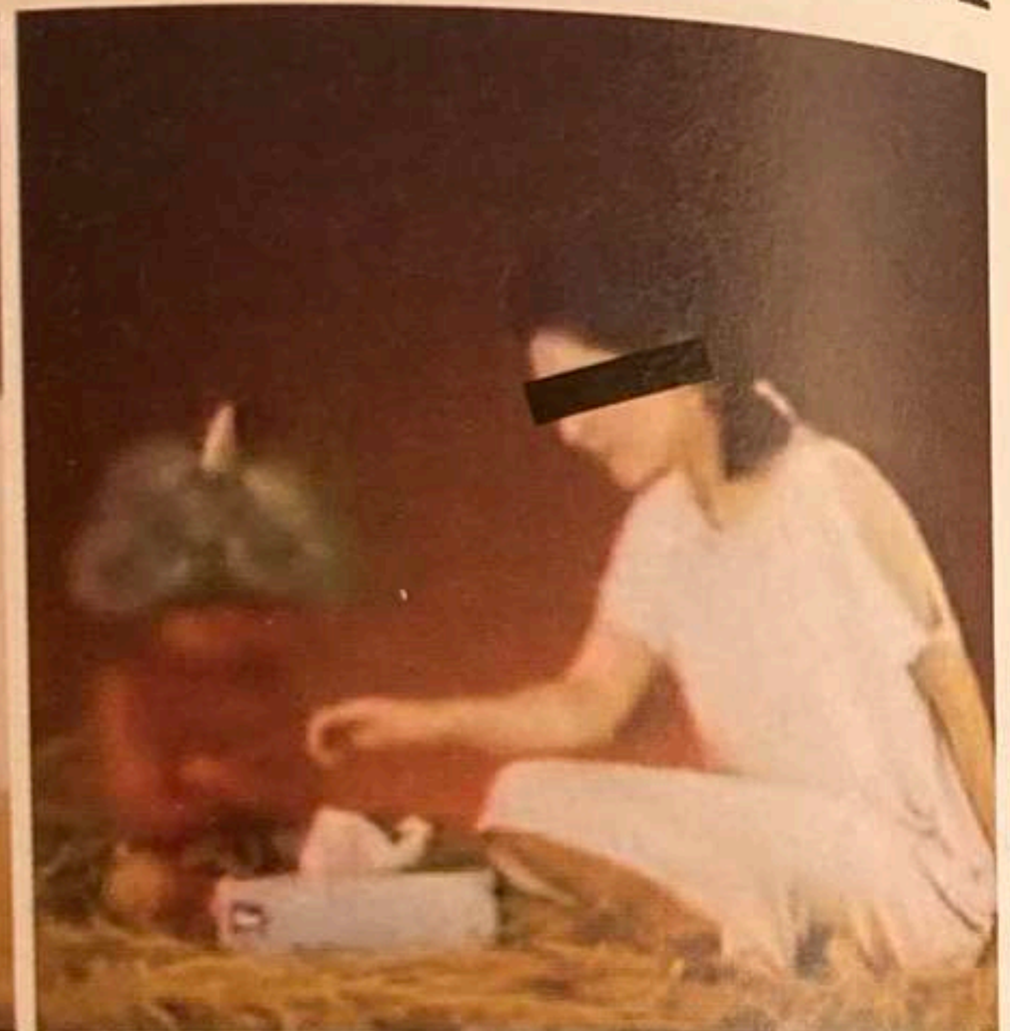




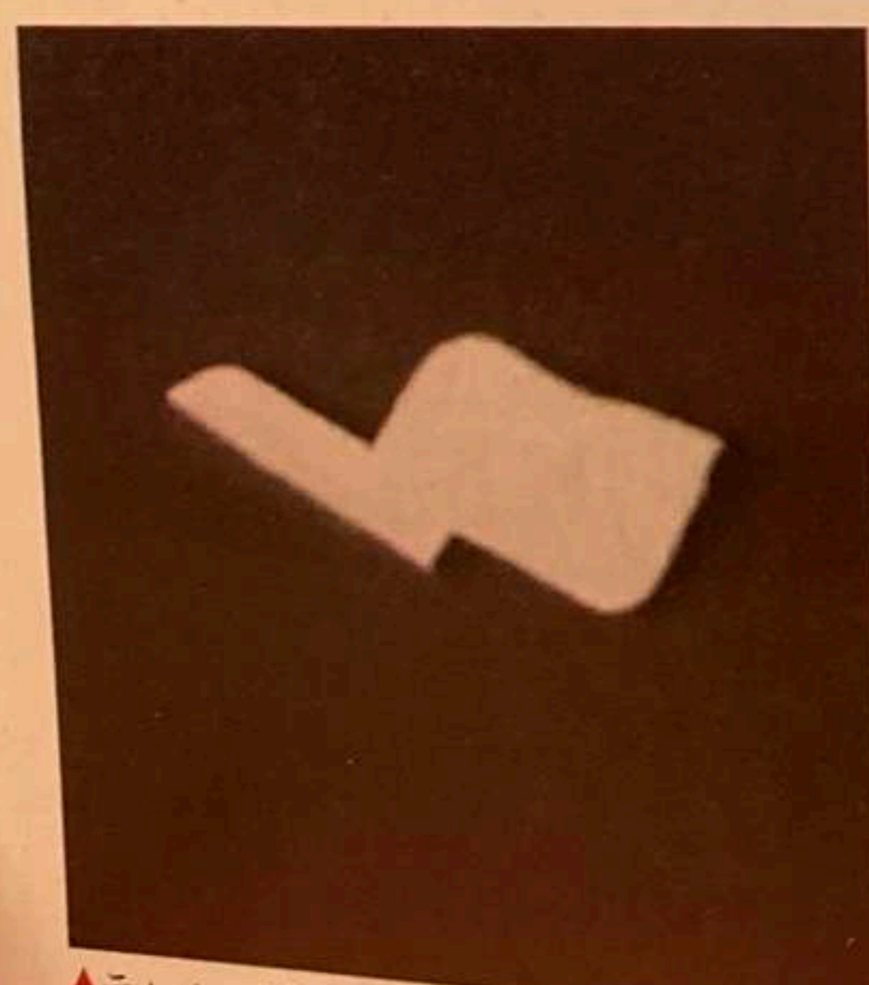
# 呪いのCM



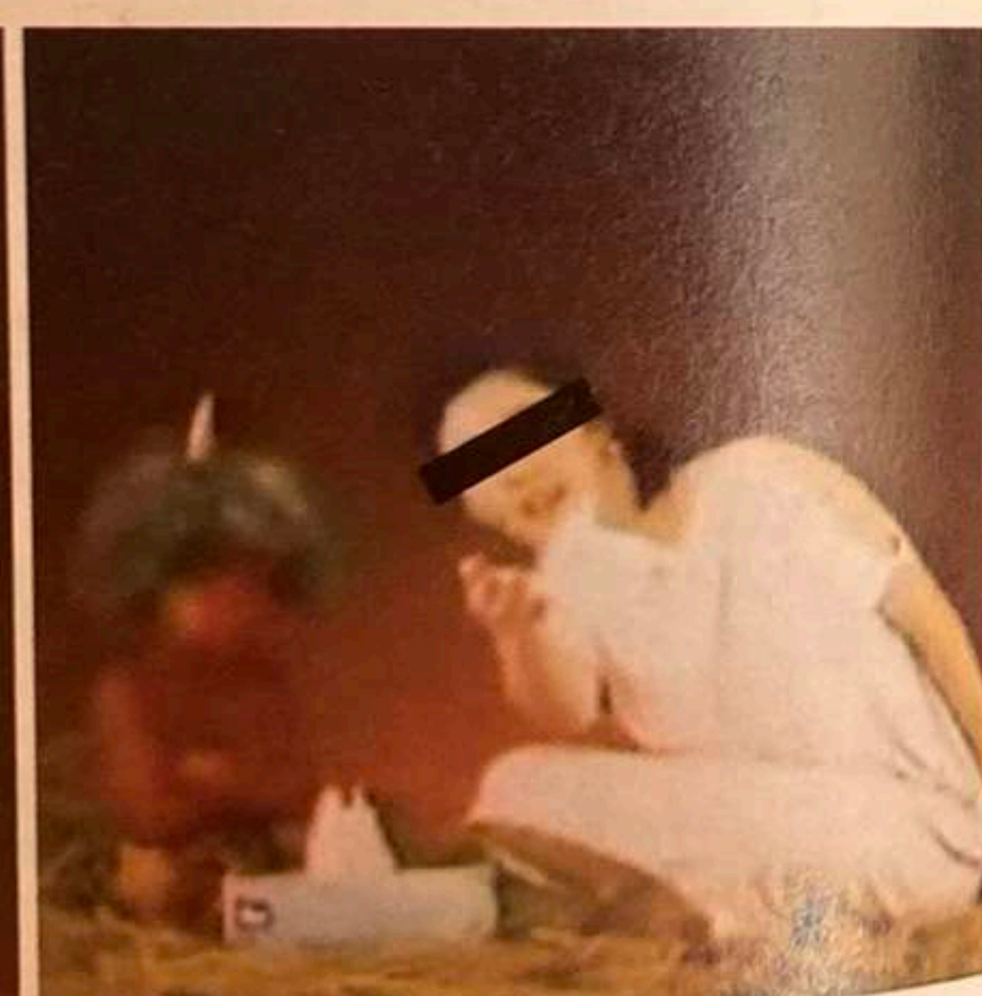
▲女性と小鬼が近づき



▲小鬼のそばで、女性がティッシュを取り出す



▲ティッシュが漂ってCM終了



▲ティッシュを放る女性

1985年ごろ、クリネックスが放映していたCMである。一見、少々変わったぐらいの映像だが、このCMの放映後、制作スタッフに怪我人や病人が続出。カメラマンがサウナの機械の故障で焼け死に、共演の子役の少年も交通事故で死亡したとして「呪いのCM」と呼ばれることとなった。

その後、このCMは完全に都市伝説と化し、使われている曲がドイツ語で「死ね、死ね、みんな一人ずつ呪い殺してやる」という意味だという説が流れ、現在では見た者が必ず死ぬとまで言われている。

# 携帯電話を憎む女










ご覧の画像は、「携帯を憎む」というタイトルのサイトで、左写真の女性が掲載したものだ。この女性、「携帯の電波が人類を滅ぼす」と信じ込んでおり、世界中の携帯をすべて踏みつぶして消すのが目的なのだという。





# 七人の小人を憎む男





▲「白雪姫はドワーフたちにだまされている！」と主張する男が、七人の小人たちの人形をメチャクチャに破壊し、その写真をネットに公開したもの。白雪姫がどうダマされているのかは不明。

# 洗濯ばさみフェチの男

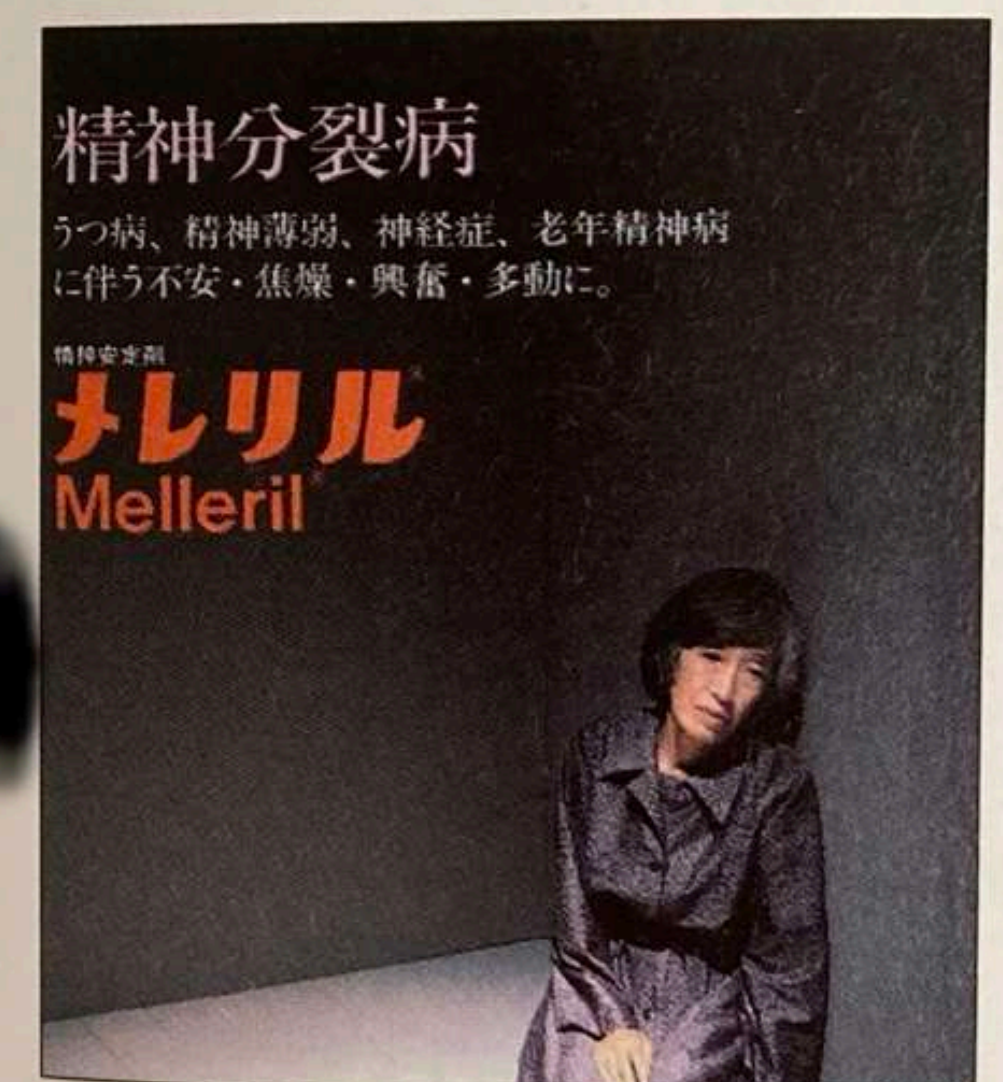


◀洗濯ばさみを数百個ほど顔につけた男性。この状態でいるときが、一番安心するのだという。「他のものなら痛いけど、洗濯ばさみがはさんでくれるなら痛くない」とのこと。

# 昔の精神薬広告

現在とはだいぶモラルが異なっていた、60～70年代。精神病治療薬の広告は、いまでは考えられないような恐ろしげなデザインをしていた。その一部を紹介しよう。













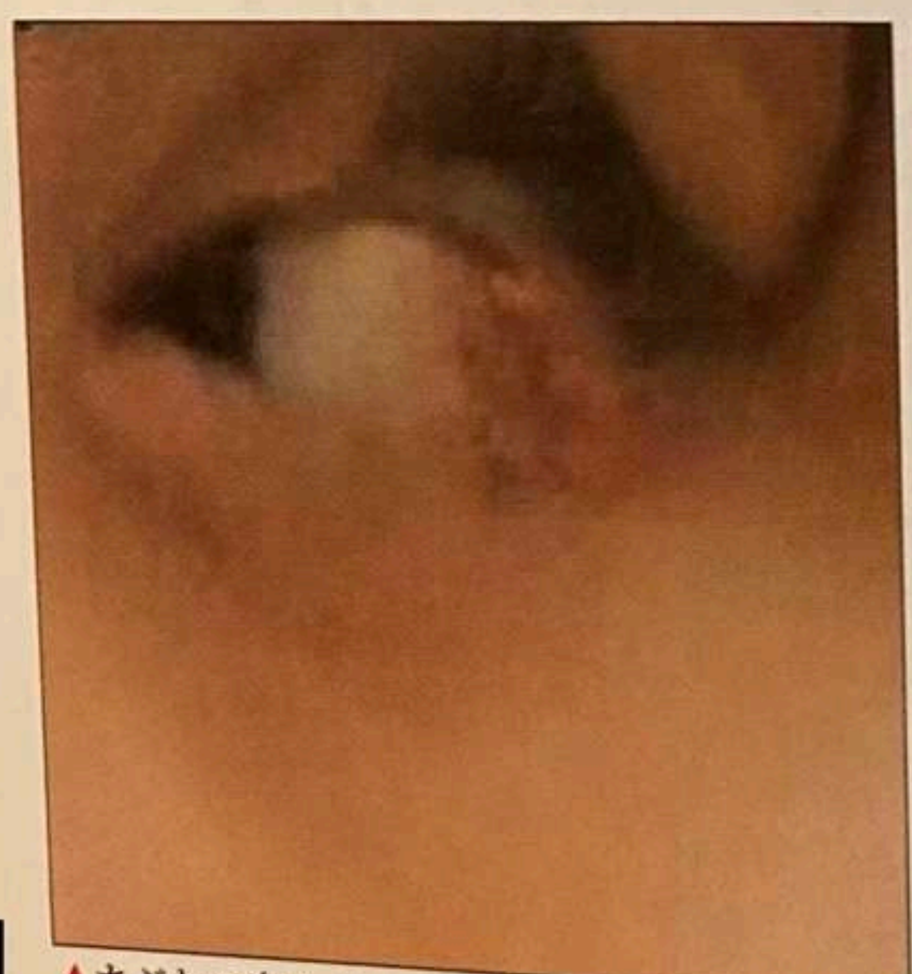


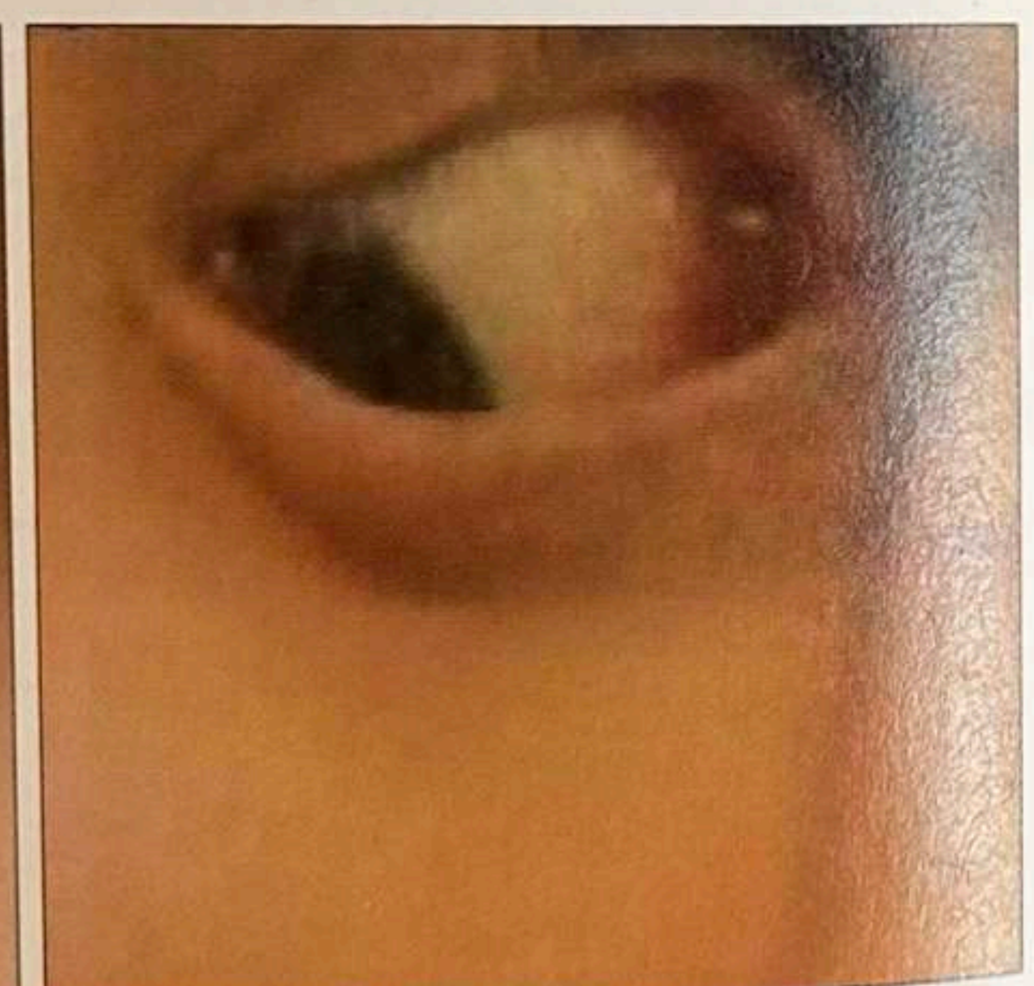


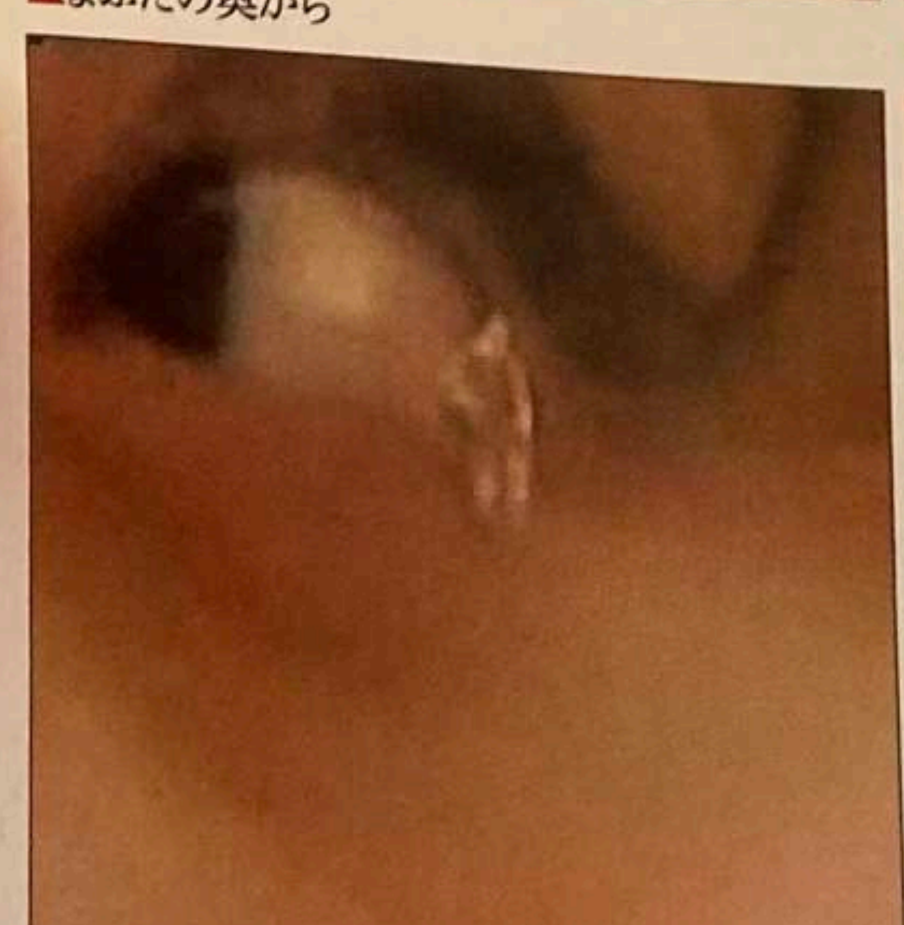
# 目から水晶を出す少女

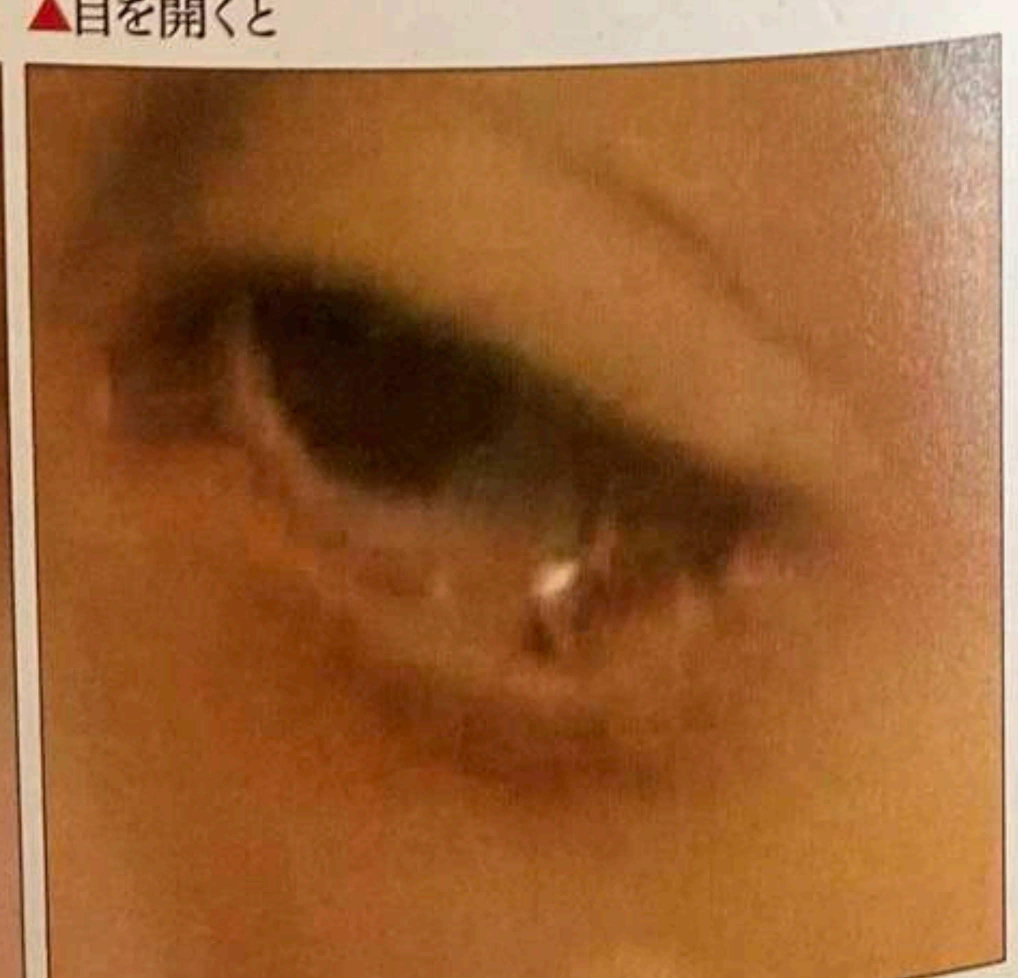
1990年、中東に住む10才の少女が、「目から水晶を出す奇跡を起こした」として話題になり、日本のテレビでも取り上げられる騒ぎとなった。が、その後、実は両親が金目当てで少女の目に無理矢理ガラス片を入れていたことが判明。両親に批難が集中した。

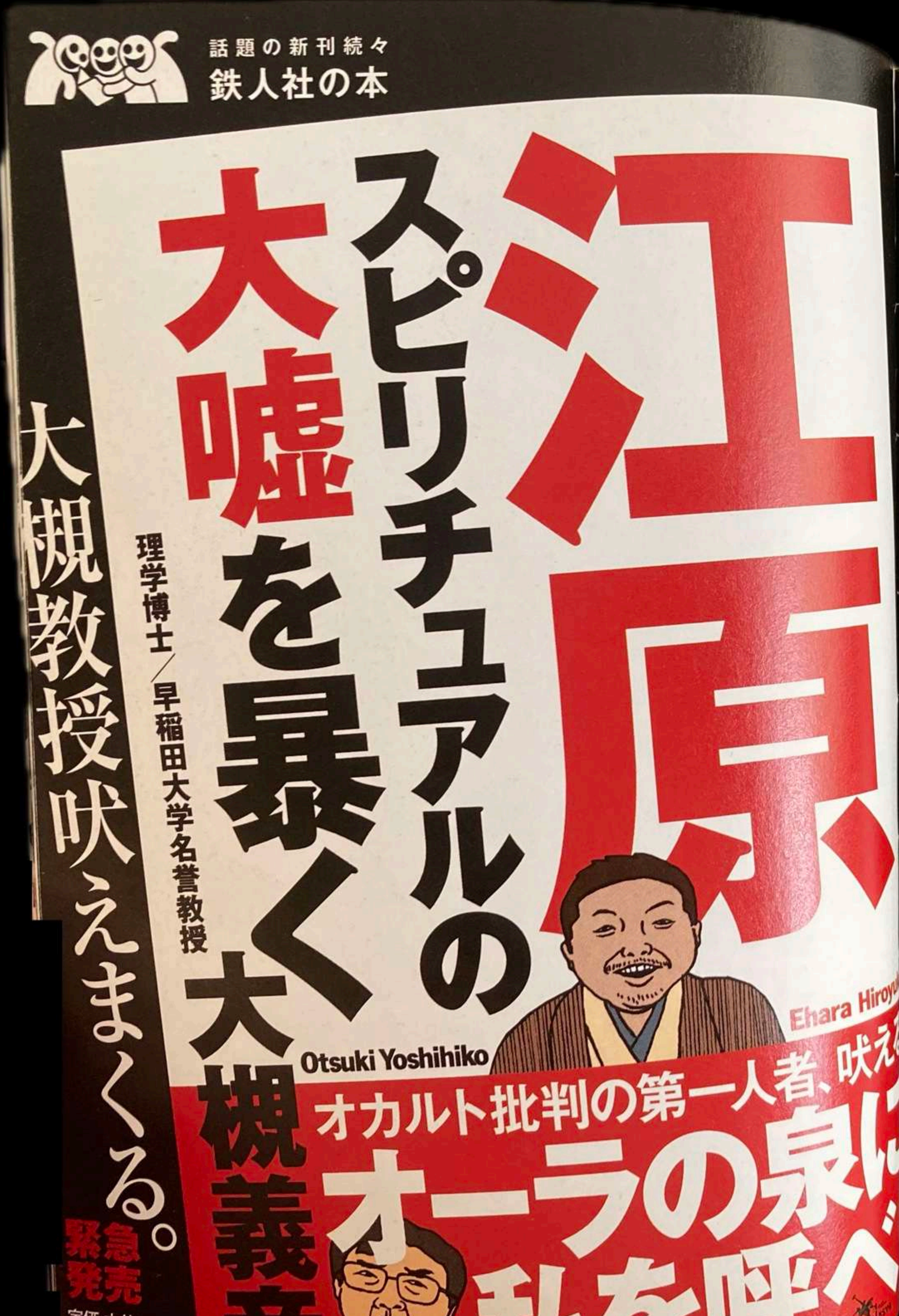

▲普通の少女だが


▲まぶたの奥から


▲目を開くと


▲水晶がポロリ


▲輝く物体が





裏モノJAPAN5月号別冊

# 実録サイコ恐怖画像 第2刷

2008年5月1日発行

定価　500円（本体価格476円）

発行所　株式会社　鉄人社
〒102-0074
東京都千代田区九段南3-4-5　フタバ九段ビル4F



発行人　稲村　貴

編集人　鈴木　祐一郎

表紙デザイン　（有）細工場

本文デザイン　鈴木うどん

印刷・製本　大日本印刷（株）